

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第459集

# 古氷条里制水田跡 二の宮遺跡

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2009

東日本高速道路株式会社  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第459集

# 古氷条里制水田跡 二の宮遺跡

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2009

東日本高速道路株式会社  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

## 序

『古水条里制水田跡』・『二の宮遺跡』は、北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設工事に伴い、東日本高速道路株式会社の委託を受け、群馬県教育委員会の調整のもと、平成15年11月から平成18年8月にかけて、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施した遺跡です。

本遺跡は太田市金山丘陵の北東麓に立地し、発掘調査の結果、『古水条里制水田跡』では溝・畦畔等を伴った古代の水田、多くの遺物が出土した古墳時代の溝等が発見されました。また、『古水条里制水田跡』に隣接する『二の宮遺跡』では54軒の住居が検出され、平安時代の集落が確認されました。『古水条里制水田跡』で発掘された水田に伴う溝・畦畔は、平安時代末に浅間山の噴火に伴い降下した軽石（浅間B軽石）に覆われており、古代にこの地域に施行されていたと考えられている条里制の区画に関連するものと考えられます。また、『二の宮遺跡』で発掘された集落は、水田という生産域を支える居住域であると想定されます。両遺跡で検出された古代条里制水田・集落に関わる資料は、山田郡衙にも比定されている遺跡周辺の、古代における地域社会の様相を明らかにするために重要な情報を提供することとなるでしょう。

遺跡の発掘調査から本報告書刊行に至るまでは、東日本高速道路株式会社、群馬県教育委員会、太田市教育委員会をはじめとする諸機関、並びに地元関係者の皆様に大変なご尽力を賜りました。ここに心から感謝の意を表すとともに、本報告書や調査資料が広く歴史の究明に活用されますことを念願し、序といたします。

平成21年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 高橋 勇 夫

## 例 言

1. 本書は北関東自動車道建設に伴い実施された、埋蔵文化財発掘調査の発掘調査報告書である。本書における報告は、古水条里制水田跡、二の宮遺跡から検出された遺構・遺物を対象とする。
2. 古水条里制水田跡は、群馬県太田市緑町452、453、454、甲455、456-1、456-2、458、甲459、甲460、乙460、465、466、467、468、469-1、470、471、540-1、540-2、541、543、546、547、550、556、557、558、1840-1、1840-3、1841-1、1841-2、1842-1に所在する。  
二の宮遺跡は、群馬県太田市緑町481、486、487、488、489、498、499-2、500、501、502、517、518、520、521、522、523、524-2、524-3、525に所在する。
3. 事業主体 東日本高速道路株式会社関東支社（旧日本道路公団）
4. 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査・整理体制及び期間は下記の通りである。

### ○発掘調査

平成15年度（古水条里制水田跡 平成15年11月1日～平成16年3月31日）

（二の宮遺跡 平成15年12月1日～平成16年3月31日）

事務担当 小野宇三郎・神保侑史・平野進一・真下高幸・住谷永市・萩原利通・右島和夫・相京建史・植原恒夫・佐藤明人・下城正・井川達雄・中澤悟・笠原秀樹・柳岡良宏・北野勝美・竹内宏・高橋房雄・須田朋子・吉田有光・阿久澤玄洋・田中賢一

調査担当 古水条里制水田跡 新井仁・柿沼弘之・高島英之・増田慎次  
二の宮遺跡 庭山邦幸・金井武

平成16年度（古水条里制水田跡 平成17年1月1日～平成17年3月31日）

（二の宮遺跡 平成16年4月1日～平成17年3月31日）

事務担当 小野宇三郎・神保侑史・平野進一・真下高幸・住谷永市・矢崎俊夫・右島和夫・相京建史・丸岡道夫・藤巻幸男・井川達雄・中澤悟・笠原秀樹・柳岡良宏・今泉大作・清水秀紀・竹内宏・高橋房雄・須田朋子・吉田有光・佐藤聖行・阿久澤玄洋・栗原幸代

調査担当 古水条里制水田跡 金井武・山田精一  
二の宮遺跡 坪川雅彦・金井武・田村邦宏

平成18年度（古水条里制水田跡 平成18年7月1日～平成18年8月31日）

事務担当 高橋勇夫・木村祐紀・津金沢吉茂・萩原勉・西田健彦・中東耕志・関晴彦・笠原秀樹・石井清・須田朋子・齊藤恵利子・今泉大作・栗原幸代・柳岡良宏・佐藤聖行

調査担当 西田健彦・新井仁・小林徹・関口博幸・深澤敦仁・笹澤泰史

### ○整理事業

平成19年度 平成19年10月1日～平成20年3月31日

事務担当 高橋勇夫・木村裕紀・津金沢吉茂・萩原勉・西田健彦・中東耕志・佐藤明人・笠原秀樹・石井清・須田朋子・齊藤恵利子・柳岡良宏・矢島一美・齊藤陽子

整理担当 山田精一

整理補助員 田中富子・木原幸子・富所恵子・大森よしみ・小嶋八重子



平成20年度 平成20年4月1日～平成21年3月31日

事務担当 高橋勇夫・木村裕紀・津金沢吉茂・飯島義雄・中東耕志・相京建史・笠原秀樹、  
佐嶋芳明・須田朋子・齊藤恵利子・柳岡良宏・矢島一美・齊藤陽子

整理担当 橋本淳・山田精一

整理補助員 田中富子・木原幸子・富所恵子・大森よしみ・小久保トシ子・阿部幸恵、  
小林恵美子・増田志津子

- 遺物写真 佐藤元彦
- 遺構写真 新井仁・柿沼弘之・高島英之・増田眞次・庭山邦幸・金井武・山田精一・坪川雅彦、  
田村邦宏・西田健彦・小林徹・関口博幸・深澤敦仁・笹澤泰史
- 保存処理 関邦一  
保存処理補助員 小村浩一・津久井桂一・多田ひさ子・小池緑・伊東博子・笛木広美・森田智子・  
生方茂美・野沢健
- 遺物実測 田所順子・伊東博子・岸弘子・小池益美
- デジタル写真図版作成 牧野裕美・市田武子・安藤美奈子・酒井史恵・廣津真希子・荒木絵美、  
高梨由美子・矢端真観・横塚由香・下川陽子

6. 本遺跡の図面・写真・出土遺物は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が管理し、群馬県埋蔵文化財調査センターが保管している。

7. 本書作成の担当は以下の通りである。

(1)本文執筆

第3章第6節(出土獣骨) 植崎修一郎

遺物観察表 埴輪 石塚久則  
中近世遺物 大西雅弘  
縄文時代土器 橋本淳  
製鉄関連遺物 笹澤泰史

前記以外 山田精一

(2)整理指導助言

- ①土器・特殊遺物 綿貫邦男・木津博明・新井仁
- ②墨書土器 高島英之
- ③石器 関口博幸
- ④製鉄関連遺物 笹澤泰史
- ⑤石材鑑定 飯島静男

(3)本書編集 山田精一

8. 発掘調査及び報告書作成に際しては、下記の関係各機関にご助言・ご協力を戴いた。記して感謝の意を表する次第である。(順不同、敬称略)

東日本高速道路株式会社・群馬県教育委員会・太田市教育委員会・地元関係者各位

## 凡 例

- ・本書の遺構図中にある + 印とそれに付記される数値は、国家座標値X・Y値を表す。なお、遺構図中に標記したグリッド名称は、国家座標値の下3桁のみを用いて標記している場合がある。
- ・遺構図の中で使用した北方位は、すべて座標北を使用している。
- ・本書における遺構図版中の断面水平基準は標高値でこれを表した。
- ・遺構の方位は、北を基準に傾きを計測した。東に傾いた場合 $N-\circ^{\circ}-E$ というように表記した。
- ・各遺構の記述にあたっては、以下の点に留意して記述した。

すべての遺構重複については、重複する遺構とその新旧関係が確認できれば、「先行」「後出」と表記した。平面図上の  $\bullet$  は遺物出土地点を表しており、表示されている数字は遺物実測図並びに遺物観察表に対応する。

**住居** 面積は床面積とし、周溝を有する住居においては周溝を含まない範囲を計測した。方位に関しては、竈を有する住居に関しては、竈を敷設する壁に直交するラインを計測した。また竈を敷設しない住居に関しては、長軸を計測した。また遺構平面図に示した網は、焼土・灰・炭化物の範囲を表している。本文中、出土遺物の( )内の数字は、観察表・平面図上の遺物番号に対応している。

**溝** 走向方位の計測にあたっては、出来る限り直線部分について、その両端で上端または下端の条件の良い部分の中心を求め、その2点間を結んだ直線の基準線からの角度を計測した。したがって蛇行するような溝については、計測できなかったものもある。また、傾斜における計測値は底部の海拔を表しており、それぞれの数値の差を比高として記述した。

**ピット・土坑・掘り込み** 計測値については、(長軸×短軸×深さ)の順に表記した。

- ・遺構図及び遺物図にはスケールを掲載した。原則は下記の通りである。また、遺物写真と遺物実測図は同縮率を原則とした。

**遺構** 住居1/60 掘立柱建物1/60 溝1/150 土坑1/40 ピット1/40 井戸1/40 池1/60

**遺物** 土器類・石器類1/3 土器類の大型品1/4 土器類・陶磁器類・土製品・金属器の小型品1/2 古銭・石織1/1

- ・遺物観察表の計測値の( )の数値は推定値である。なお、貨幣計測値の直径と内輪については、それぞれ直交する2箇所を計測した。
- ・基本層序の各土層にはI～Xの番号を付したが、各遺構断面図においても、基本層序と同様の土層が確認された場合には、I～Xの番号で記した。
- ・土層及び土器の色調名は『標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修に基本的に準じた。
- ・本書で使用する浅間山及び榛名山噴火による降下火砕物の呼称については以下のように表記する。  
As-B：浅間山噴火の火砕物 1108(天仁元)年 Hr-FP：榛名山二ッ岳噴出の火砕物 6世紀中葉  
Hr-FA：榛名山二ッ岳噴出火砕物 6世紀初頭 As-C：浅間山噴出の火砕物 3世紀終末～4世紀初頭
- ・遺物実測図中に使用したトーンは以下のとおりである。

摩耗痕		摩滅痕		擦痕		敲打痕	
ガジリ痕		研磨痕		施軸			

# 目 次

序

例言

凡例

目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

## 第1章 発掘調査の概要

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 事前の発掘調査	3

## 第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 立地	6
第2節 歴史的環境	8

## 第3章 古水条里制水田跡

第1節 調査の方法	12
第2節 発掘調査の経過	13
第3節 基本層序	15
第4節 1面の調査	16
第5節 2面の調査	40
第6節 古水条里制水田跡出土骸骨	67
第7節 自然科学分析	68

## 第4章 二の宮遺跡

第1節 調査の方法	90
第2節 発掘調査の経過	91
第3節 基本層序	93
第4節 1面の調査	94
第5節 2面の調査	277
第6節 自然科学分析	283

## 第5章 まとめ

第1節 古水地区の条里研究	288
第2節 調査の成果	289
第3節 考察	289

報告書抄録

## 挿目次

第1図	古水条里制水田跡・二の宮遺跡 位置図	1
第2図	北関東自動車道関連遺跡	2
第3図	事前調査トレンチ設定図	4・5
第4図	周辺地形分類図	7
第5図	周辺の遺跡	10

### 古水条里制水田跡

第6図	調査区設定図	13
第7図	基本土層	15
第8図	1面遺構全体図	16・17
第9図	1号溝平・断面図	18
第10図	2・3号溝平・断面図	19
第11図	4・5号溝平・断面図	19
第12図	6号溝平・断面図	20
第13図	7号溝平・断面図	21
第14図	8・9号溝平・断面図・出土遺物	22
第15図	10・11号溝平・断面図	23
第16図	12号溝平・断面図	24
第17図	13号溝平断面図・出土遺物	24
第18図	14号溝平断面図	25
第19図	15号溝平断面図	25
第20図	16号溝平断面図・出土遺物	26
第21図	16号溝平・断面図	27
第22図	16号溝平断面図・出土遺物	27
第23図	16号溝平断面図・出土遺物	28
第24図	17・18号溝平断面図	29
第25図	1号土坑平・断面図	30
第26図	2号土坑平・断面図	30
第27図	2号土坑出土遺物	31
第28図	3号土坑平・断面図	31
第29図	1号ピット平・断面図	32
第30図	1号井戸平・断面図	32
第31図	1号井戸出土遺物	32
第32図	2号井戸平・断面図	33
第33図	2号井戸出土遺物	33
第34図	2・3区水田平面図	34
第35図	4区水田平面図	34
第36図	6区水田平面図	35
第37図	2・3区水田出土遺物	36
第38図	6区水田出土遺物	37
第39図	1号落ち込み平・断面図	38
第40図	1号落ち込み出土遺物	38
第41図	断層平面図	39
第42図	2面遺構全体図	40
第43図	19号溝平断面図・エレベーション図	41
第44図	20・21号溝平・断面図	42
第45図	22号溝平断面図	43
第46図	22号溝断面図	44
第47図	22号溝出土遺物	44
第48図	22号溝出土遺物	45
第49図	22号溝出土遺物	46
第50図	22号溝出土遺物	47
第51図	23号溝平・断面図	47
第52図	23号溝出土遺物	48

第53図	24～26号溝平・断面図	49
第54図	27・28号溝平・断面図	51
第55図	27号溝出土遺物	52
第56図	28号溝出土遺物	52
第57図	4・5号土坑平・断面図	53
第58図	6号土坑平断面図・エレベーション図	53
第59図	7号土坑平・断面図	53
第60図	8号土坑平・断面図	54
第61図	9号土坑平・断面図	54
第62図	10号土坑平・断面図	54
第63図	11・12号土坑平断面図・エレベーション図	55
第64図	13・14号土坑平断面図・エレベーション図	55
第65図	15・16号土坑平断面図・エレベーション図	56
第66図	17号土坑平・断面図	56
第67図	18号土坑平・断面図	56
第68図	19号土坑平断面図・エレベーション図	57
第69図	20号土坑平断面図・エレベーション図	57
第70図	21号土坑平断面図・エレベーション図	57
第71図	22号土坑平・断面図	57
第72図	23号土坑平・断面図	58
第73図	2号ピット平・断面図	58
第74図	3号ピット平・断面図	58
第75図	4・5号ピット平断面図・エレベーション図	59
第76図	1区遺構外出土遺物	59
第77図	1区遺構外出土遺物	60
第78図	1区遺構外出土遺物	61
第79図	2・3区遺構外出土遺物	61
第80図	2・3区遺構外出土遺物	62
第81図	4区遺構外出土遺物	62
第82図	4区遺構外出土遺物	63
第83図	5区遺構外出土遺物	64
第84図	6区遺構外出土遺物	65
第85図	6区遺構外出土遺物	66
第86図	出土位置不明遺物	66

### 二の宮遺跡

第87図	調査区設定図	91
第88図	基本土層	93
第89図	1区1号住居平・断面図	95
第90図	1区1号住居出土遺物	96
第91図	1区1号住居出土遺物	97
第92図	1区2・3・4号住居平・断面図	98
第93図	1区2・3・4号住居掘方平面図	99
第94図	1区2号住居出土遺物	99
第95図	1区2号住居出土遺物	100
第96図	1区3号住居出土遺物	101
第97図	1区4号住居出土遺物	101
第98図	1区5号住居掘方平・断面図	102
第99図	1区5号住居出土遺物	103
第100図	1区6号住居掘方平・断面図・エレベーション図	103
第101図	1区6号住居出土遺物	103
第102図	1区7号住居掘方平・断面図・エレベーション図	104
第103図	2区8・9号住居平・断面図	105
第104図	2区8号住居出土遺物	106
第105図	2区9号住居出土遺物	107
第106図	2区10号住居平・断面図	108

第107図	2区10号住居出土遺物	108	第164図	3区36号住居出土遺物	152
第108図	2区11号住居平・断面図	109	第165図	3区37号住居平・断面図	153
第109図	2区11号住居出土遺物	109	第166図	3区37号住居出土遺物	153
第110図	2区11号住居出土遺物	110	第167図	3区38号住居出土遺物	153
第111図	2区12号住居平・断面図	111	第168図	3区38号住居平・断面図	154
第112図	2区12号住居出土遺物	111	第169図	3区39号住居掘方平・断面図	155
第113図	2区12号住居出土遺物	112	第170図	3区39号住居出土遺物	155
第114図	2区13号住居断面・掘方平・断面図・エレベーション図	113	第171図	3区40号住居出土遺物	155
第115図	2区13号住居出土遺物	113	第172図	3区40号住居掘方平・断面図	156
第116図	2区14号住居平・断面図	114	第173図	3区41号住居掘方平・断面図・エレベーション図	157
第117図	2区14号住居出土遺物	115	第174図	3区41号住居出土遺物	157
第118図	2区15号住居掘方平面図・エレベーション図	116	第175図	3区42号住居平・断面図	158
第119図	2区15号住居出土遺物	116	第176図	3区42号住居出土遺物	158
第120図	2区16号住居掘方平・断面図	117	第177図	3区42号住居出土遺物	159
第121図	2区16号住居出土遺物	117	第178図	3区43号住居掘方平・断面図	159
第122図	2区17号住居平・断面図	118	第179図	3区43号住居出土遺物	160
第123図	2区17号住居掘方平面図	119	第180図	3区44号住居平・断面図	161
第124図	2区17号住居出土遺物	119	第181図	3区44号住居出土遺物	161
第125図	2区17号住居出土遺物	120	第182図	3区45号住居平・断面図	162
第126図	2区18・19号住居掘方平・断面図	121	第183図	3区45号住居出土遺物	163
第127図	2区18号住居出土遺物	122	第184図	3区46号住居平・断面図	164
第128図	2区19号住居出土遺物	122	第185図	3区46号住居出土遺物	164
第129図	2区20・21号住居掘方平・断面図	123	第186図	3区47号住居平・断面図	165
第130図	2区20号住居出土遺物	124	第187図	3区47号住居出土遺物	166
第131図	2区22・23号住居掘方平・断面図	125	第188図	3区48・49号住居掘方平・断面図	167
第132図	2区22号住居出土遺物	126	第189図	3区48号住居出土遺物	167
第133図	2区23号住居出土遺物	127	第190図	3区49号住居出土遺物	168
第134図	2区24号住居掘方平・断面図	127	第191図	4区50号住居平・断面図	169
第135図	2区24号住居出土遺物	128	第192図	4区50号住居出土遺物	169
第136図	3区25号住居平・断面図	129	第193図	4区50号住居出土遺物	170
第137図	3区25号住居出土遺物	129	第194図	4区51号住居平・断面図・エレベーション図	171
第138図	3区25号住居出土遺物	130	第195図	4区51号住居出土遺物	172
第139図	3区26号住居平・断面図	131	第196図	5区52号住居出土遺物	173
第140図	3区26号住居出土遺物	132	第197図	5区52号住居掘方平・断面図	173
第141図	3区27号住居平・断面図	133	第198図	5区53号住居平・断面図	174
第142図	3区27号住居出土遺物	133	第199図	5区53号住居出土遺物	174
第143図	3区28号住居平・断面図	134	第200図	2区1号掘立柱建物平面図・エレベーション図	175
第144図	3区28号住居出土遺物	135	第201図	2区2号掘立柱建物平面図・エレベーション図	177
第145図	3区28号住居出土遺物	136	第202図	2区3号掘立柱建物平面図・エレベーション図	178
第146図	3区29号住居平・断面図	137	第203図	2区4号掘立柱建物平・断面図・エレベーション図	179
第147図	3区29号住居出土遺物	138	第204図	2区5号掘立柱建物平・断面図・エレベーション図	180
第148図	3区29号住居出土遺物	139	第205図	2区6号掘立柱建物平面図・エレベーション図	182
第149図	3区30号住居平・断面図・エレベーション図	140	第206図	3区7号掘立柱建物平・断面図・エレベーション図	183
第150図	3区30号住居出土遺物	141	第207図	3区7号掘立柱建物出土遺物	184
第151図	3区30号住居出土遺物	142	第208図	3区8号掘立柱建物平・断面図・エレベーション図	185
第152図	3区31号住居平・断面図	143	第209図	3区8号掘立柱建物出土遺物	185
第153図	3区31号住居出土遺物	144	第210図	3区9号掘立柱建物平・断面図・エレベーション図	186
第154図	3区32号住居平・断面図	145	第211図	4区10号掘立柱建物平面図・エレベーション図	187
第155図	3区32号住居出土遺物	146	第212図	1区1・2・3号溝平・断面図	189
第156図	3区32号住居出土遺物	147	第213図	2区4号溝平・断面図・出土遺物	190
第157図	3区33号住居平・断面図	148	第214図	2区4号溝出土遺物	191
第158図	3区33号住居出土遺物	149	第215図	2区5号溝平・断面図	192
第159図	3区34号住居平・断面図	150	第216図	2区5号溝出土遺物	192
第160図	3区34号住居出土遺物	150	第217図	2区5号溝出土遺物	193
第161図	3区35号住居平面図	151	第218図	2区6号溝平・断面図	194
第162図	3区35号住居出土遺物	151	第219図	2区7～9号溝平面図	194
第163図	3区36号住居平・断面図	152	第220図	2区10号溝平面図	195

第221図	2区10号溝出土遺物	195	第278図	4・5区割付図 土坑・ピット全体図	254
第222図	2区10号溝出土遺物	196	第279図	割図 4区-1	255
第223図	3区11号溝平・断面図・出土遺物	197	第280図	割図 4区-2	256
第224図	3区12号溝平・断面図	198	第281図	割図 4区-3	257
第225図	3区12号溝出土遺物	198	第282図	割図 4区-4	258
第226図	3区13号溝出土遺物	198	第283図	割図 4区-5	259
第227図	3区13号溝出土遺物	199	第284図	割図 4区-6	260
第228図	3区13～15号溝平・断面図	199	第285図	割図 4区-7	261
第229図	4区16～18号溝平・断面図	201	第286図	割図 4区-8	262
第230図	4区19・20号溝平・断面図	202	第287図	割図 4区-9	263
第231図	4区21号溝平・断面図	203	第288図	割図 4区-10	264
第232図	4区21号溝出土遺物	204	第289図	割図 4区-11	265
第233図	4区22号溝平・断面図	204	第290図	割図 5区-1	266
第234図	1区土坑平・断面図	206	第291図	2区1号井戸平面図	267
第235図	2区土坑平・断面図・出土遺物	206	第292図	2区2号井戸平・断面図	268
第236図	2区土坑平・断面図	207	第293図	2区2号井戸出土遺物	269
第237図	2区46号土坑出土遺物	207	第294図	2区3号井戸平面図・エレベーション図・出土遺物	270
第238図	2区土坑平・断面図	208	第295図	3区4号井戸平・断面図	271
第239図	2区68・74号土坑出土遺物	208	第296図	3区5号井戸平・断面図	272
第240図	2区土坑平・断面図・出土遺物	209	第297図	3区6号井戸平・断面図・出土遺物	272
第241図	2区88号土坑出土遺物	209	第298図	3区1号池平・断面図	273
第242図	2・3区土坑平・断面図・出土遺物	210	第299図	3区1号池出土遺物	274
第243図	3区土坑平・断面図・出土遺物	211	第300図	1区遺構外出土遺物	274
第244図	3区土坑平・断面図	212	第301図	2区遺構外出土遺物	274
第245図	3区31号土坑出土遺物	212	第302図	2区遺構外出土遺物	275
第246図	3区土坑平・断面図	213	第303図	3区遺構外出土遺物	275
第247図	4区土坑平・断面図・出土遺物	213	第304図	3区遺構外出土遺物	276
第248図	4区土坑平・断面図	214	第305図	4区遺構外出土遺物	276
第249図	2区4号ピット平・断面図・出土遺物	218	第306図	2面2区遺構全体図	277
第250図	2区21号ピット平・断面図・出土遺物	218	第307図	2面3区遺構全体図	277
第251図	2区ピット平・断面図・出土遺物	219	第308図	2面4区遺構全体図	278
第252図	2区865号ピット出土遺物	220	第309図	4区2面54号住居層方平・断面図・エレベーション図	278
第253図	3区ピット平・断面図・出土遺物	220	第310図	4区2面54号住居出土遺物	279
第254図	4区19号ピット平・断面図・出土遺物	221	第311図	2～4区2面土坑平・断面図	279
第255図	5区5号ピット平・断面図・出土遺物	221	第312図	4区2面土坑平・断面図	280
第256図	2区割付図 土坑・ピット全体図	232	第313図	2面ピット平・断面図・出土遺物	280
第257図	割図 2区-1	233	第314図	2面2区遺構外出土遺物	281
第258図	割図 2区-2	234	第315図	2面3区遺構外出土遺物	281
第259図	割図 2区-3	235	第316図	2面4区遺構外出土遺物	281
第260図	割図 2区-4	236	第317図	縄文時代の遺物	282
第261図	割図 2区-5	237	第318図	復元奈良方眼との関係	290
第262図	割図 2区-6	238	第319図	現代の地割と条里地割	293
第263図	割図 2区-7	239			
第264図	割図 2区-8	240			
第265図	割図 2区-9	241			
第266図	割図 2区-10	242			
第267図	割図 2区-11	243			
第268図	割図 2区-12	244			
第269図	3区割付図 土坑・ピット全体図	245			
第270図	割図 3区-1	246			
第271図	割図 3区-2	247			
第272図	割図 3区-3	248			
第273図	割図 3区-4	249			
第274図	割図 3区-5	250			
第275図	割図 3区-6	251			
第276図	割図 3区-7	252			
第277図	割図 3区-8	253			

## 表目次

第1表	周辺遺跡一覧表	11
第2表	古水奈良朝水田跡遺物観察表	78～89
第3表	二の宮遺跡土坑一覧表	215～217
第4表	二の宮遺跡ピット一覧表	221～231
第5表	二の宮遺跡遺物観察表	294～321

## 写真図版目次

### 古永条里制水田跡

- PL. 1 1. 6区より遺跡全体を望む(南東から)  
2. 3区より遺跡全体を望む(北西から)
- PL. 2 1. 2・3区より西小丸山・小丸山・丸山方面(南から)  
2. 2・3区より太田金山方面(北から)
- PL. 3 1. 2・3区全景  
2. 4区1面全景  
3. 5区1面全景  
4. 6区1面全景  
5. 1区1号溝全景(南から)  
6. 2区2号溝全景(西から)  
7. 2区3号溝全景(南から)  
8. 3区4号溝全景(南から)
- PL. 4 1. 3区5号溝土層断面(南から)  
2. 3区6号溝全景(東から)  
3. 3区7号溝全景(西から)  
4. 3区8号溝全景(南から)  
5. 3区9号溝全景(東から)  
6. 3区10号溝全景(南から)  
7. 4区12号溝全景(西から)  
8. 4区13号溝全景(東から)
- PL. 5 1. 4区14号溝全景(西から)  
2. 4区15号溝全景(東から)  
3. 5区16号溝全景(北から)  
4. 6区1号土坑全景(西から)  
5. 6区2号土坑全景(東から)  
6. 6区3号土坑全景(北から)  
7. 4区1号ピット全景(東から)  
8. 2区1号井戸全景(東から)
- PL. 6 1. 6区2号井戸全景(東から)  
2. 2区水田南北方向畦(南から)  
3. 3区水田東西方向畦(西から)  
4. 4区水田東側  
5. 6区水田中央部  
6. 6区水田南側  
7. 6区西側水田畦(東から)  
8. 6区中央部北側微高地遺物出土状況
- PL. 7 1. 2区1号落ち込み全景(東から)  
2. 2区断層平面全景【白線部】  
3. 2区断層土層断面(南から)  
4. 4区20号溝全景(西から)  
5. 4区21号溝全景(北から)  
6. 4区22号溝西側全景(北から)  
7. 4区22号溝東側全景(南から)  
8. 4区22号溝北側屈曲部全景(南から)
- PL. 8 1. 4区22号溝遺物出土状況(東から)  
2. 4区22号溝遺物出土状況  
3. 4区23号溝全景(南から)  
4. 4区24号溝全景(南から)  
5. 4区25号溝全景(南から)  
6. 4区26号溝全景(北西から)  
7. 5区27号溝全景(北から)  
8. 5区27号溝全景(南から)
- PL. 9 1. 5区27号溝遺物出土状況(北から)  
2. 5区27号溝遺物出土状況  
3. 5区27号溝遺物出土状況(北から)  
4. 5区28号溝全景(北から)  
5. 4区4号土坑全景(南から)  
6. 4区5号土坑全景(西から)  
7. 4区6号土坑全景(南から)  
8. 4区7号土坑全景(南西から)
- PL. 10 1. 4区10号土坑全景(南から)  
2. 4区11号土坑全景(南から)  
3. 4区12号土坑全景(南から)  
4. 4区13号土坑全景(南から)  
5. 4区14号土坑全景(南から)  
6. 4区15号土坑全景(南から)  
7. 4区16号土坑全景(東から)  
8. 4区17号土坑全景(南から)
- PL. 11 1. 4区18号土坑全景(北から)  
2. 4区19号土坑全景(南から)  
3. 4区20号土坑全景(南から)  
4. 4区21号土坑全景(南から)  
5. 4区22号土坑全景(南から)  
6. 5区23号土坑全景(南から)  
7. 5区4号ピット全景(西から)  
8. 5区5号ピット全景(西から)
- PL. 12 3区9号溝、4区13号溝、5区16号溝、6区2号土坑、2区1号井戸出土遺物
- PL. 13 6区2号井戸、2・3区水田、6区水田、2区1号落ち込み出土遺物
- PL. 14 4区22号溝出土遺物
- PL. 15 4区22号溝出土遺物
- PL. 16 4区22号溝・23号溝、5区27号溝・28号溝、1区遺構外出土遺物
- PL. 17 1区遺構外、2・3区遺構外出土遺物
- PL. 18 2・3区遺構外、4区遺構外出土遺物
- PL. 19 4区遺構外、5区遺構外出土遺物
- PL. 20 6区遺構外出土遺物・出土位置不明遺物

### 二の宮遺跡

- PL. 21 1. 1区1号住居全景(南から)  
2. 1区2号住居全景(西から)  
3. 1区3号住居全景(西から)  
4. 1区4号住居全景(西から)  
5. 1区5号住居全景(西から)  
6. 1区6号住居全景(西から)  
7. 1区7号住居全景(西から)  
8. 2区8号住居全景(西から)
- PL. 22 1. 2区9号住居全景(南から)  
2. 2区9号住居遺物出土状況(南から)  
3. 2区10号住居全景(西から)  
4. 2区11号住居全景(南から)  
5. 2区12号住居全景(南から)  
6. 2区12号住居遺物出土状況(南東から)  
7. 2区13号住居全景(南から)  
8. 2区14号住居全景(南から)
- PL. 23 1. 2区15号住居全景(西から)  
2. 2区16号住居全景(南から)  
3. 2区17号住居全景(西から)  
4. 2区18号住居全景(東から)

5. 2区19号住居全景 (東から)  
 6. 2区20号住居・21号住居全景 (南から)  
 7. 2区23号住居全景 (西から)  
 8. 2区24号住居全景 (南から)
- PL.24 1. 3区25号住居全景 (西から)  
 2. 3区26号住居全景 (西から)  
 3. 3区27号住居全景 (南から)  
 4. 3区27号住居竈全景 (南から)  
 5. 3区28号住居全景 (西から)  
 6. 3区29号住居全景 (西から)  
 7. 3区29号住居貯蔵穴遺物出土状況 (西から)  
 8. 3区30号住居全景 (西から)
- PL.25 1. 3区30号住居貯蔵穴遺物出土状況 (北西から)  
 2. 3区31号住居全景 (西から)  
 3. 3区32号住居全景 (西から)  
 4. 3区32号住居遺物出土状況 (北から)  
 5. 3区33号住居全景 (西から)  
 6. 3区34号住居全景 (南から)  
 7. 3区35号住居全景 (南から)  
 8. 3区36号住居全景 (西から)
- PL.26 1. 3区37号住居全景 (西から)  
 2. 3区38号住居全景 (西から)  
 3. 3区39号住居全景 (南東から)  
 4. 3区40号住居全景 (北西から)  
 5. 3区41号住居全景 (西から)  
 6. 3区42号住居全景 (西から)  
 7. 3区43号住居全景 (南から)  
 8. 3区44号住居全景 (南から)
- PL.27 1. 3区44号住居遺物出土状況 (西から)  
 2. 3区45号住居全景 (西から)  
 3. 3区46号住居全景 (南から)  
 4. 3区47号住居全景 (西から)  
 5. 3区48号住居・49号住居全景 (西から)  
 6. 4区50号住居全景 (西から)  
 7. 4区51号住居全景 (西から)  
 8. 5区52号住居全景 (西から)
- PL.28 1. 5区53号住居全景 (北から)  
 2. 2区1号掘立柱建物全景 (南から)  
 3. 2区2号掘立柱建物全景 (西から)  
 4. 3区7号掘立柱建物全景 (南から)  
 5. 1区1号・2号・3号溝全景 (南から)  
 6. 3区11号溝全景 (南から)  
 7. 3区12号溝全景 (南から)  
 8. 3区13号溝全景 (南から)
- PL.29 1. 3区14号溝全景 (東から)  
 2. 3区15号溝全景 (西から)  
 3. 4区16号溝全景 (西から)  
 4. 4区17号溝全景 (西から)  
 5. 4区18号溝全景 (西から)  
 6. 4区19号・20号溝全景 (東から)  
 7. 4区21号溝全景 (北から)  
 8. 4区22号溝全景 (西から)
- PL.30 1. 1区2号土坑全景 (南から)  
 2. 1区3号土坑全景 (南から)  
 3. 2区11号土坑全景 (南から)  
 4. 2区16号土坑全景 (西から)  
 5. 2区18号土坑全景 (北から)
6. 2区21号土坑全景 (南から)  
 7. 2区22号土坑全景 (南から)  
 8. 2区25号土坑全景 (南から)
- PL.31 1. 2区26号土坑全景 (南から)  
 2. 2区29号土坑全景 (南から)  
 3. 2区44号土坑全景 (南から)  
 4. 2区46号土坑全景 (南から)  
 5. 2区52号土坑全景 (南から)  
 6. 2区53号土坑全景 (南から)  
 7. 2区55号土坑全景 (西から)  
 8. 2区58号土坑・459号ピット全景 (南から)
- PL.32 1. 2区64号土坑全景 (南から)  
 2. 2区65号土坑全景 (南から)  
 3. 2区67号土坑全景 (南から)  
 4. 2区68号土坑全景 (南から)  
 5. 2区74号土坑全景 (東から)  
 6. 2区75号土坑全景 (西から)  
 7. 2区78号土坑全景 (東から)  
 8. 2区79号土坑全景 (東から)
- PL.33 1. 2区81号・82号土坑全景 (北から)  
 2. 2区84号土坑全景 (南から)  
 3. 2区88号土坑全景 (南から)  
 4. 3区1号土坑全景 (南から)  
 5. 3区2号土坑全景 (南東から)  
 6. 3区4号土坑全景 (西から)  
 7. 3区7号土坑全景 (南から)  
 8. 3区16号土坑全景 (南から)
- PL.34 1. 3区17号土坑全景 (南から)  
 2. 3区18号土坑全景 (東から)  
 3. 3区19号土坑全景 (南西から)  
 4. 3区20号土坑全景 (北東から)  
 5. 3区22号土坑全景 (西から)  
 6. 3区25号土坑全景 (南から)  
 7. 3区27号土坑全景 (南から)  
 8. 3区28号土坑全景 (南から)
- PL.35 1. 3区29号土坑全景 (南から)  
 2. 3区30号土坑全景 (南から)  
 3. 3区31号土坑全景 (南東から)  
 4. 3区32号土坑全景 (南から)  
 5. 3区37号土坑全景 (東から)  
 6. 3区39号土坑全景 (北から)  
 7. 3区40号土坑全景 (南から)  
 8. 3区42号土坑全景 (西から)
- PL.36 1. 3区42号・43号土坑全景 (西から)  
 2. 3区44号土坑全景 (南から)  
 3. 3区45号土坑全景 (西から)  
 4. 3区48号土坑全景 (東から)  
 5. 4区5号土坑全景 (東から)  
 6. 4区7号土坑全景 (北から)  
 7. 4区8号土坑全景 (南から)  
 8. 4区9号土坑全景 (南から)
- PL.37 1. 4区10号土坑全景 (南から)  
 2. 4区11号土坑全景 (南から)  
 3. 4区13号土坑全景 (南から)  
 4. 4区14号土坑全景 (南から)  
 5. 2区4号ピット全景 (南から)  
 6. 2区21号ピット全景 (南から)



	7. 2区201号ビット全景 (北から)	PL.58	3区42号～46号住居出土遺物
	8. 2区342号・343号ビット全景 (南から)	PL.59	3区47号～49号・4区50号住居出土遺物
PL.38	1. 2区552号ビット全景 (南から)	PL.60	4区50号・51号、5区52号・53号、3区8号掘立柱建物出土遺物
	2. 2区608号ビット全景 (南から)	PL.61	3区7号掘立柱建物、2区4号・5号溝出土遺物
	3. 2区628号・629号ビット全景 (西から)	PL.62	2・3区10号～13号溝、4区21号溝、2区16号・46号・68号・74号・81号・82号・88号土坑、3区4号・16号・22号・31号土坑出土遺物
	4. 2区760号ビット全景 (西から)	PL.63	4区5号・7号土坑、2区4号・21号・201号・343号・552号・608号・629号・774号・760号・865号ビット、3区26号・64号・134号ビット出土遺物
	5. 2区774号ビット全景 (南から)	PL.64	4区19号ビット、5区5号ビット、2区2号・3号井戸、3区6号井戸、3区1号池、1面1・2区遺構外出土遺物
	6. 2区865号ビット全景 (南から)	PL.65	1面3・4区遺構外、2面54号住居、2面2区767号ビット、3区35号・172号ビット、2面2区～4区遺構外出土遺物
	7. 3区26号ビット全景 (南から)	PL.66	2面4区遺構外出土遺物、縄文時代の遺物
	8. 3区64号ビット全景 (南東から)		
PL.39	1. 3区133号・134号ビット全景 (北から)		
	2. 4区18号ビット・19号ビット全景 (西から)		
	3. 4区254号ビット全景 (南から)		
	4. 4区256号ビット全景 (南から)		
	5. 4区260号ビット全景 (南から)		
	6. 5区5号ビット全景 (南から)		
	7. 2区1号井戸全景 (南西から)		
	8. 2区2号井戸全景 (北から)		
PL.40	1. 2区3号井戸全景 (北から)		
	2. 3区4号井戸全景 (東から)		
	3. 3区5号井戸全景 (南から)		
	4. 3区6号井戸全景 (南から)		
	5. 3区1号池全景 (南から)		
	6. 4区54号住居全景 (東から)		
	7. 2区97号土坑全景 (南から)		
	8. 3区26号土坑全景 (南から)		
PL.41	1. 4区19号土坑全景 (南西から)		
	2. 4区20号土坑全景 (南から)		
	3. 4区21号土坑全景 (東から)		
	4. 4区23号土坑全景 (南から)		
	5. 4区24号土坑全景 (南から)		
	6. 4区25号土坑全景 (南から)		
	7. 2区767号ビット全景 (南から)		
	8. 2区854号ビット全景 (南から)		
PL.42	1. 3区35号ビット全景 (南から)		
	2. 3区49号ビット全景 (南から)		
	3. 3区172号ビット全景 (南から)		
	4. 4区184号ビット全景 (南から)		
	5. 4区202号ビット全景 (南から)		
	6. 4区314号ビット全景 (南から)		
	7. 4区322号ビット全景 (南から)		
	8. 4区339号ビット全景 (南から)		
PL.43	1区1号住居出土遺物		
PL.44	1区2号～6号・2区8号住居出土遺物		
PL.45	2区8号～11号住居出土遺物		
PL.46	2区11号～14号住居出土遺物		
PL.47	2区14号～17号住居出土遺物		
PL.48	2区17号～20号・22号住居出土遺物		
PL.49	2区22号・23号・24号・3区25号住居出土遺物		
PL.50	3区25～27号住居出土遺物		
PL.51	3区28号住居出土遺物		
PL.52	3区28号・29号住居出土遺物		
PL.53	3区29号・30号住居出土遺物		
PL.54	3区30号・31号住居出土遺物		
PL.55	3区32号住居出土遺物		
PL.56	3区32号・33号住居出土遺物		
PL.57	3区33号～42号住居出土遺物		

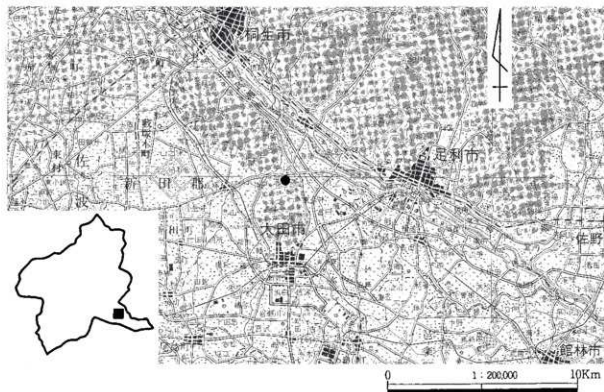
## 第1章 発掘調査の概要

### 第1節 調査に至る経緯

当事業団で北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設に伴う伊勢崎インターチェンジから栃木県境までの17.7kmについて発掘調査が開始されたのは平成12年度である。平成12年6月12日、日本道路公団東京建設局高崎工事事務所において公団・群馬県土木部道路建設課高速道路対策室・群馬県教育委員会文化財保護課・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の4者で打合せ会議を行った。公団からは用地買収等の状況、工事工程についての説明があり、その中でカルバートボックスや橋梁下部工事等の工事優先区間の一部において、平成12年度に一部の遺跡について急遽8月から発掘調査の要請があった。当事業団は、用地解決状況、残土処理場確保、側道と本線の調査地区分の検討等について問題点を出し合い、調査への基礎固めを行うこととした。各所属で検討が進み文化財保護課の調整により日本道路公団東京建

設局・群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の3者は「北関東自動車道(伊勢崎～県境)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」を平成12年8月1日に締結し、この協定に基づき日本道路公団東京建設局と当事業団が「平成12年度北関東自動車道(伊勢崎～県境)埋蔵文化財発掘調査委託契約書」を結び、調査は同年10月から開始することとなった。

古米条里制水田跡・二の宮遺跡は平成14年2月1日付け変更協定書により平成15年度以降、発掘調査を行うこととし、用地買収の進捗によって16年度以降順次進める計画とした。整理期間については平成19年3月28日付け変更協定書に基づき、平成19年10月より平成20年度までとし、報告書刊行については平成21年度内の出版計画とした。高、古米条里制水田跡においては、当初、関係機関によって遺跡名が統一されていなかったことから、平成20年8月13日に群馬県教育委員会文化財保護課、太田市教育委員会等で協議した結果、「古米条里制水田跡」に決定された。



第1図 古米条里制水田跡・二の宮遺跡 位置図（国土地理院 1/200000「宇都宮」）



26	640	藤原遺跡	太田市藤原町
27	650	古水米里新水田跡	太田市藤原町
28	660	の宮遺跡	太田市藤原町
29	670	八ヶ人遺跡	太田市藤原町・東今泉町
30	680	大道西遺跡	太田市東今泉町
31	690	大道東遺跡	太田市東今泉町
32	700	家前遺跡	太田市只上町
33	710	鹿島遺跡	太田市東今泉町
34	720	原次郎遺跡	太田市只上町
35	730	久保遺跡	太田市只上町
36	740	只上深町遺跡	太田市只上町
37	750	新島遺跡	太田市只上町
38	760	道原遺跡	太田市只上町

13	510	大原石遺跡	新田郡東城本町大原
14	520	山ノ神野田遺跡	新田郡東城本町山ノ神
15	530	山ノ神南原遺跡	新田郡東城本町山ノ神
16	540	鹿塚内野原遺跡	新田郡東城本町鹿塚
17	550	西長岡縄張り遺跡	太田市西長岡町
18	560	高谷戸遺跡	太田市西長岡町
19	570	西長岡遺跡	太田市西長岡町
20	580	菅沼遺跡	太田市菅沼町
21	590	岩塚遺跡	太田市岩塚町
22	600	波島山土墳群	太田市波島・北念村
23	610	大塚遺跡	太田市大塚町
24	620	土御戸遺跡	太田市土御戸町
25	630	堀田遺跡	太田市堀田町字薬山

番号	KT	遺跡名	所在地 (遺跡時)
1	340	藤上遺跡	伊勢崎市三和町
2	350	天ヶ原遺跡	伊勢崎市三和町
3	360	大上遺跡	佐賀郡東村小保方・上田
4	370	前道下遺跡	佐賀郡東村1田
5	380	塚下遺跡	佐賀郡東村1田
6	390	上柳西遺跡	佐賀郡東村小保方
7	400	渡西遺跡	佐賀郡東村田部井
8	410	下仁敷遺跡	佐賀郡東村田部井
9	420	下田遺跡	佐賀郡東村田部井
10	430	柳原遺跡	佐賀郡東村田部井
11	440	下久保遺跡	佐賀郡東村田部井
12	450	大久保前遺跡	新田郡東城本町大久保

第2図 北関東自動車道開通遺跡 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『天ヶ原遺跡(1)』を転載

## 第2節 事前の発掘調査

### 1 渡良瀬川流域遺跡群発掘調査

古水条里制水田跡・二の宮遺跡が位置する太田市緑町周辺においては、本書で報告する発掘調査以前に、「渡良瀬川流域遺跡群発掘調査」として群馬県教育委員会・太田市教育委員会により発掘調査が実施されている。これは、渡良瀬川上流に所在する足尾銅山から流れ出た有害特定物質である銅・カドミウムにより土壌汚染された水田地帯の、土壌入れ替え工事を中心とした改良事業である「群馬県営渡良瀬川流域地区公害防除特別土地改良事業」内に点在する遺跡の発掘調査である。昭和57年度から改良事業が本格的に実施され、それにあわせ文化財発掘調査も実施された。当事業に伴う発掘調査対象地域は広範囲に及び、毛里田地区で行われる事業区内に点在する遺跡調査は、太田市教育委員会社会教育課が行った。

まず昭和56年3月に駒澤大学考古学研究室により行われた遺跡分布調査の結果、大道西遺跡をはじめ周辺4遺跡が確認された。これを受け、本報告書に該当する古水条里制水田跡・二の宮遺跡も、昭和59年9月25日～昭和60年2月25日（第1次）・昭和61年8月19日～昭和62年3月31日（第2次）に発掘調査が行われている。

一連の「渡良瀬川流域遺跡群発掘調査」では、土地改良工事による遺構破壊の危険性が少ないことから、道路・水路建設予定地の約7,060㎡について実施された。その結果、古墳時代中期(住居4軒・土坑2基・特殊遺構1基)・平安時代(住居70軒・掘立柱建物1軒・井戸3基・溝1条・集石遺構1基)・中世(溝1条)・水田関連(畦畔・水路・人足跡)の遺構が確認されている。遺物は須恵器環、蓋の占める割合が多く、土師器甕は比較的少ない。土器の他にも刀子をはじめとする鉄製品、鉄滓、砥石等が多数出土している。43号住居から出土した須恵器環には「山」と墨書されており、周辺に想定されている山田郡衛に關係すると思われる遺物もみられる。

また大量の鉄滓も出土しており、古水地区の条里制遺構で使用する鉄製品を生産する機能を集落内に有する、農業集団の存在が想定されている。

この調査においては集落は古水地区に営まれた条里制経営、しかも遺物から8世紀末から9世紀初頭にかけて成立し9世紀前半に盛期を迎え、後半以後衰退することから、条里制の開始期に関連する計画村落との所見を得ている。更に平安時代の遺構の中に堅穴住居が70軒であるのに対し、掘立柱建物が1軒しか検出されていないのは、収穫物を貯蔵する掘立柱建物群は、山田郡衛が存在していたと想定される金山丘陵麓側に位置していたものと考えている。

### 2 毛里田地区範囲確認調査

「渡良瀬川流域遺跡群発掘調査」後、古水条里制水田跡・二の宮遺跡の本調査が実施されるのに先立ち、「毛里田地区範囲確認調査」として発掘調査が実施されている。実施期間は平成15年5月12日～5月19日である。該当する遺跡は、古水条里制水田跡・二の宮遺跡・ハケ入遺跡である。方法はバックホーを用いて、幅1メートルのトレンチを掘削し、遺構の有無・種別・広がりを確認したものである。

古水条里制水田跡における範囲確認調査は5月14日～5月16日に実施された。遺跡周辺における現代の土地利用はその多くが水田となっており、調査当時は既に水稲作期となっていることから、「既存の畦畔を壊さない」「既に水が入っている水田の近傍にはトレンチを入れない」などの制約のなかで発掘調査が実施された。そうした事情から、古水条里制水田跡西側は当時、既には水田全面に水が入っていたため、試掘が不可能であった。また、それに伴い地下水位が上がっているため、下位の遺構を確認するために深く掘り下げるができなかった。諸々の事情を考慮した上での発掘調査だったため、トレンチ配置はかなり変則的となっている。

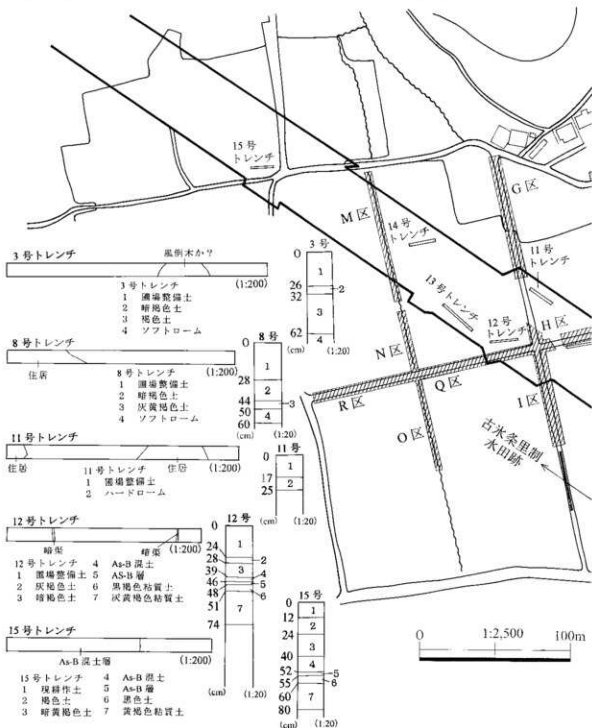
4区に1本、6区に3本の合計4本のトレンチを入れて範囲確認調査を実施した。この結果、遺構は検出できなかったものの、遺物片を数点確認してい

第1章 発掘調査の概要

る。また、いずれのトレンチでも50cm程度でAs-B層の純層が確認され、かなり薄いものの広く存在しており、その直下には水田耕作土と思われる黒色粘質土がみられ、水田がかなり良好な状態で遺存しているとの所見を得ている。更にその下位については、地下水が上昇してきてしまうため調査することが出

来ず、下位に水田があるか否かは確認されていない。

二の宮遺跡での範囲確認調査は5月12日～5月14日に実施された。1区に1本、2区に3本、3区に4本、4区に3本の合計11本のトレンチを、遺跡のほぼ全域に入れた。この結果、堅穴住居・土坑・ピットを検出し、遺物も数点確認している。また、い



第3図 事前調査トレンチ設定図

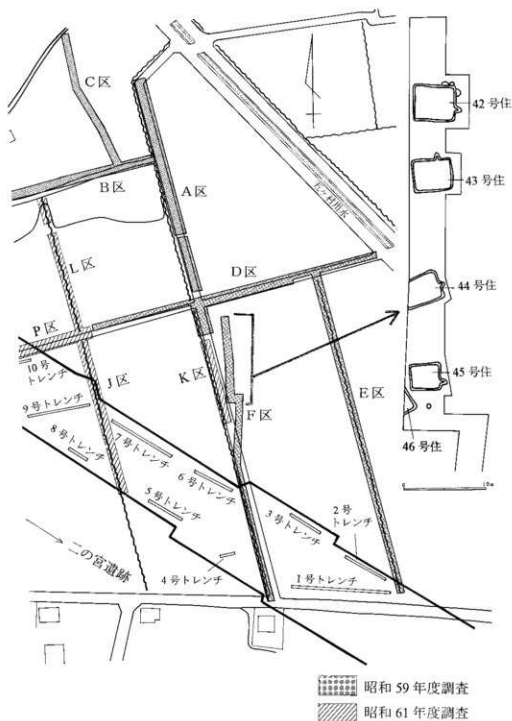
ずれのトレンチでも下位にローム層を確認しており、二の宮遺跡の範囲はかなり広い微高地上に立地しているとの所見を得ている。

尚、二の宮遺跡の11号トレンチと、古水条里制水田跡の12号トレンチとは、わずかに道路（市道渡良瀬土地改良106号線）1本を隔てているだけである

が、その様相は劇的に異なり、二の宮遺跡が微高地・集落であるのに対し、古水条里制水田跡は低地・水田となっていることが確認されている。

引用・参考文献

太田市教育委員会 1986・1989『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』



第3図 事前調査トレンチ設定図

## 第2章 遺跡の立地と歴史的環境

### 第1節 立地

古水条里制水田跡・二の宮遺跡は、群馬県太田市緑町に所在する。太田市は関東平野の北西部にあり、群馬県のみならず、いわゆる東毛地区に位置している。その北側は栃木県足利市と渡良瀬川を介して、また南側は埼玉県熊谷市と利根川を介して、それぞれ県境となっている。

太田市域の地形は大局的にみて、丘陵地・台地・低地に区分される。市域の中心に金山丘陵があり、その北に八王子丘陵の南半分が連なっている。この太田市域において最も顕著な地形といえる2つの丘陵地は、現在は古水条里制水田跡の北西にあたる太田市吉沢字萩原のごく低い鞍部を境としてそれぞれが独立しているが、かつては一続きのものであったと考えられている。この付近は海拔100m以下に、極めてなだらかな緩斜面があり、また丸山・小丸山など独立した小さな丘も存在している。金山丘陵、八王子丘陵ともその高さや起伏のおどやかさから丘陵性山地の様相を呈し、その周辺の麓や大間々扇状地の大部分を占めている地形は台地となっている。また、丘陵地の東側では渡良瀬川が、南側では利根川が氾濫を繰り返しながら砂礫を積もらせ、現在は、広く沖積低地が形成されている。太田市北部にみられる扇状地は2つある。丘陵西側に、谷口の大間々町から南方へ発達し、旧新田町、旧境町を経て伊勢崎市東部に至る大間々扇状地と、桐生市付近から太田市東部の下小林町、さらに足利市の御野地区付近に至る、金山・八王子丘陵と足尾山地との間の平野を形成している渡良瀬扇状地である。

現在の渡良瀬川の流域が八王子丘陵に沿って流れ、丘陵の基部と氾濫原との間に細い沖積低地を形成しており、その沖積低地上に本遺跡は立地している。本遺跡の東には、渡良瀬扇状地Ⅰ面上に残る旧河道が、帯状の凹地形となって比較的明瞭に残存していたが、昭和50年代の圃場整備によりその地形の

大半は消失してしまった。旧河道は、丸山の西麓から小丸山の南東へ抜ける長さ1km弱、幅20～30m、周囲より1～2m低い凹地である。平時は河道を流れているが、洪水時にはそこから溢れて周囲へ氾濫する。氾濫した洪水が浸水して一時的に湛水する場所が後背低地となる。洪水はシルト等の泥質の細粒物質を含むので、洪水の減水後にはそこにシルトや粘土などの泥を堆積する。古水条里制水田跡でみられる水田は、このような地形の上に開かれている。また周辺の一部は、2次ローム層を完全に浸食せずに残し、またAs-B軽石層が残存しているという特徴を有する。

古水条里制水田跡周辺の沖積低地では、表土下に水田土壌である古水統が形成されている。古水統は金山丘陵北端部と孤立丘である小丸山との間の低地およそ50%に分布しており、黒泥層とグライ斑によって形成されている。黒泥層は植物組織が分解した黒色有機物と無機物が混合したもので、泥炭より有機物は少なく、泥炭層を形成するほど恒常的な洪水のない低湿地の生成物である。またグライ斑は、グライ層が斑紋状に発達したもので、常時地下水位下にある部分または地下水の上昇、下降によって酸化・還元状態が交互に起こる部分に生成される。そのため、還元状態が続くことにより、土壌に含まれている鉄化合物が還元されて第一鉄化合物（二価鉄・亜酸化鉄）となり、青灰・緑灰・灰白色を帯びることとなる。特に古水条里制水田跡においては、ほぼ全域にわたり、古水統の形成を観察することができ、粘土質の非常に硬質な土壌となっている。こうした土壌統の形成は、古水条里制水田跡周辺が、浅皿状の袋状凹地形を呈する排水不良の土地であることを意味している。

一方の二の宮遺跡は、小丸山東南の平地、金山丘陵の主軸線から北側に延びる支尾根の延長線上に立地する。この平地は、渡良瀬扇状地Ⅰ面の最西端部にあたり、扇状地Ⅰ面は、小丸山の南へ舌状に張り出している。この面の東側には旧河道が丸山西麓から金山丘陵北東端に向かって走っている。また

遺跡の西には、古水条里制水田跡の立地する後背低地が開けていることから、扇状地Ⅰ面上に立地する二の宮遺跡の地盤は、周囲より若干高いことがわかる。すぐ北西側に隣接する古水条里制水田跡と比較し、遺跡の内容がまったく異なるのは、こうした地形上の相違が大きいかからと考えられる。

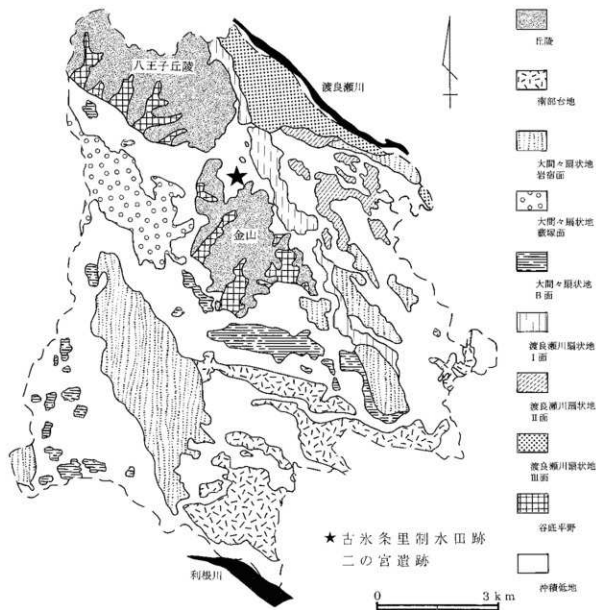
二の宮遺跡の東には旧河道が確認されているが、この旧河道は渡良瀬川から氾濫した洪水流の排水路として機能しており、渡良瀬川の洪水氾濫時にはかなりの水量があるが、平素は細流であったと思われる。よって二の宮遺跡の位置は、砂やシルトを堆積

するような洪水流でも浸水することはなかったと考えられ、当時の旧河道底と扇状地Ⅰ面との比高は現在より大きかったこともあり、水害に対しては安全な立地環境であったと想定される。

## 引用・参考文献

太田市教育委員会社会教育課 1989「遺跡の位置と地理的・歴史的環境」『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』

太田市 1996「地形と地質」『太田市史通史編 自然』





## 第2節 歴史的環境

古水条里制水田跡・二の宮遺跡は、古代から中近世に至る複合遺跡である。よって検出された遺構は住居跡・水田跡・溝跡など種々にわたり、これらに伴う遺物もまた様々である。近年、当遺跡周辺では、北関東自動車道建設事業に伴って発掘調査された諸遺跡の報告書刊行が続いている。また、周辺は昭和50年代に実施された「渡良瀬川流域遺跡群発掘調査」の該当地域となっており、この際に広範囲にわたり発掘調査が実施されている。そうしたことから、歴史的環境は充実の度を増しており、周辺一帯の様相が理解されつつある。ここでは、本書の扱う古水条里制水田跡及び二の宮遺跡周辺域の歴史の様相を述べる。

### 旧石器時代

古水条里制水田跡・二の宮遺跡が位置する八王子丘陵・金山丘陵と、渡良瀬川に挟まれた平地とその周辺は、旧石器時代から人間の生活が営まれた遺跡として確認されている。旧石器時代の遺物は、太田市教育委員会の調査で、小丸山遺跡、金山丘陵東と南東に位置している金井口遺跡・焼山遺跡から発見されており、特に大丸口遺跡からは刃器状剥片、八幡山遺跡からは茂呂型のナイフ型石器が発見されている。また、埋文事業団が調査した八ヶ入遺跡からは、細石刃約370点を含む、約2000点以上の石器が、峯山遺跡からは多くの石器が発見されている。

### 縄文時代

草創期・早期の遺跡は八王子丘陵・金山丘陵周辺や平野部の台地部分に位置するものが多く、堂原遺跡では貝殻文系の土器を出土している。また、東今泉鹿島遺跡からは、早期の押型文土器が出土している。前期の遺跡は竜舞台地をはじめ平野部の台地部分で遺跡が増加しており、周辺では由良台地上に堂原遺跡がみられ、三枚橋駅西方の大間々扇状地末端に舌状に南下する低台地の南端付近で、諸磯式土器類が広く分布している。東今泉鹿島遺跡からも黒浜式・諸磯式・浮島式など各時期の土器が出土して

いる。中期の遺跡は、前半では竜舞・大泉・由良台地などで遺物類が希薄分布を示すが、後半の加曾利E式期の遺跡は急激に増加している。加曾利E式土器を出土する遺跡は由良台地では太田市立宝泉小学校南方の台地縁辺や新屋町堂原地区、さらに大道東遺跡、楽前遺跡、成塚町成塚住宅団地遺跡や鳥山・三枚橋駅西方に濃厚な分布がみられる。当時の集落は低地に面した台地の縁辺、あるいはそれに連続する微高地形を選地しており、その地は河川や湧水池などに近いところでもある。後期には、竜舞台地や大泉台地・由良台地・大間々扇状地末端台地などに分布する遺跡に充実したものが認められる。周辺では堂原遺跡において後期前半の遺物が多く発見されている。晩期には市域における遺跡は極端に減少・衰退しており、周辺には遺跡の分布は認められない。

### 弥生時代

金山丘陵北東部の小丸山遺跡・高林地区の丘陵性台地付近に遺跡が分布しているが、市域における弥生時代の遺跡は極めて少ない。太田西部から南部の広大な平野地域にこの文化は進出することはなかったと考えられる。そうしたなか、金山丘陵や八王子丘陵周辺や沖積地内の低台地上において、中期の資料が散見され、西野原遺跡・成塚向山古墳群・西長岡東山古墳群では中期後半の良好な資料が出土している。

### 古墳時代

古墳時代になると、前期から周辺の遺跡において集落が多くみられる。石田川式土器を出土する遺跡としては屋敷内B遺跡・成塚住宅団地遺跡・堂原遺跡・脇屋深町遺跡・唐桶田遺跡等があり、石田川期の集落は低湿な沖積地内の微高地上に立地する傾向がある。和泉式土器の分布は成塚町や鳥山地区、また由良台地では新野堂原から脇屋にみられ、中期以降には周辺の高乾地へと集落は移動している。後期の集落遺跡の多くは広々とした沖積地内の小規模微高地を避けて、その周辺に広がる大間々扇状地の末端の台地や金山・八王子丘陵の台地、利根川左岸の

高林台地などの周辺部に分布する傾向があり、太田市教育委員会が調査した扇状地Ⅰ面の丘陵沿いに位置する丸山北遺跡、埋文事業団調査の八ヶ入遺跡・大道西遺跡・大道東遺跡・栗前遺跡・東今泉鹿島遺跡などがみられる。本地域は県内でも有数の古墳が築造された地域として知られる。周辺には、市域で最も古い様相を持つ前方後円墳である八幡山古墳、金山丘陵の西に延びる尾根を利用して占地する、太田市で唯一の前方後方墳である寺山古墳など、4世紀代の築造とされる古墳が出現している。5世紀から6世紀前半にかけては良好な中冑の出土で知られる鶴山古墳、帆立貝型の亀山古墳、市域で唯一一周堀内に一对の中島をもつ鳥崇神社古墳が築かれていく。さらに6世紀代になると、八王子丘陵の南西方から金山丘陵の西方大間々扇状地末端に開けた沖積地を中心に成塚古墳群、長手口古墳群等の群集墳が発展した。矢田堀古墳群に属する巖穴山古墳は巨石石室をもつ、東毛唯一の方墳である。生産跡としても、古墳時代後期から古代の窯跡などが発見されている。亀山窯跡・金井口埴輪窯跡・母衣窯跡・菅ノ沢須恵器窯跡・諏訪ヶ入須恵器窯跡・強戸口須恵器窯跡・丸山北窯跡・萩原窯跡など須恵器・瓦・埴輪生産の窯跡が点在する。特に八王子丘陵麓に位置する6世紀末の胸形神社埴輪窯跡からは、昭和62年度の調査により約150基の円筒埴輪が検出され、この窯跡群を背景としてこの地区周辺に非常に多くの古墳群・群集墳が築造されていた様相をうかがい知ることができる。また製鉄遺構では、駒澤大学が調査した菅ノ沢遺跡や埋文事業団調査による峯山遺跡がある。また東今泉鹿島遺跡では古墳時代後半から飛鳥時代と推定される水田が発見できた。

#### 奈良・平安時代

この時期になると、本遺跡周辺の集落は爆発的に増える。八ヶ入遺跡・大道東遺跡・栗前遺跡・鹿島浦遺跡・向矢部遺跡・東今泉鹿島遺跡など、すべて大きな集落遺跡である。太田市域における奈良・平安時代の村落社会は、基本的には前代の古墳時代を発展的に受け継いでいるが、集落分布の在り方は多

様に展開している。太田市史では7区域に区分できるとしているが、大間々扇状地末端地域では、八幡遺跡・久保遺跡などの広範な範囲を占めて分布する集落遺跡があり、寺井町から鳥山にかけての広範な地域に、地方官衙とも関係する村落が形成されていたことが推定される。官衙関連遺跡としては、天良七堂遺跡は礎石建物跡が検出されている。小金井入谷で発見された礎石や瓦屋根構造をもつ奈良朝の建物跡は奈良時代の官衙の性格をもつ建築群の一つと考えられている。また、境ヶ谷戸は地方官衙の遺跡であったと推定されており、釣堂遺跡は瓦類が発見され、寺院跡と考えられている。金山西北方の大間々扇状地末端の寺井・天良地域から新田町小金井・市野井にかけてこのような遺跡が分布し、7世紀後半から10世紀にかけて存続しており、しかも地方官衙の性格を示すものである。また八ヶ入遺跡・大道西遺跡・大道東遺跡・鹿島浦遺跡からは、古代の主要道路である東山道と推定される遺構も確認されている。

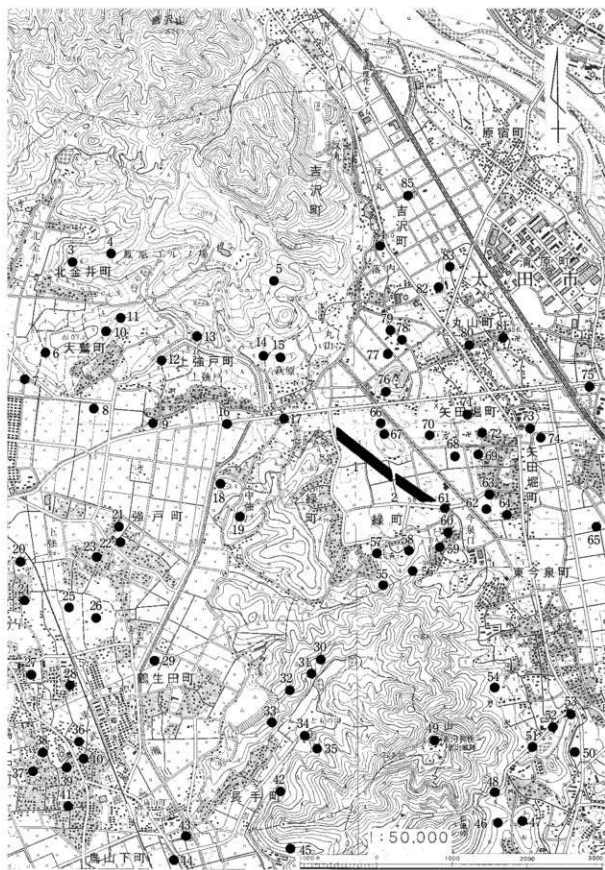
#### 中世

所謂中世山城館跡をみると典型的な山城である金山城をはじめ、大鳥城・大鳥館・鳥山環濠遺構群は、鳥山中・下町に位置している。なお、15・16世紀に存続したとされる鳥山城は、鳥山氏の居館と考えられている。

#### 近世

近世の遺構は確認されていないが、各遺跡から陶磁器や軟質陶器の破片が出土しており、遺跡があったことが窺える。また、東今泉町の祥寿山曹源寺観音堂は、通称「さざえ堂」として著名で、2階建の外観を呈しているが、内部は3層で、各層に百体の観音像が安置されており、同じ場所を通らずに拝観できるように工夫されている。寺伝によれば、堂の建築は天明元年(1781)に始まり、寛政5年(1793)に竣工した大工事で、大工棟梁は竜舞(現太田市)の町田兵部栄清と伝えられている。

このように古水条里制水田跡・二の宮遺跡周辺は、旧石器時代から近世に至る遺跡が密集している地域である。



第5図 周辺の遺跡（国土地理院 1/50,000「深谷」「桐生及び足利」1999年を使用）

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	遺跡の概要	参考文献
1	古水東原新水田跡	本遺跡	本報告書
2	二の宮遺跡	本遺跡	本報告書
3	御嶽山古墳	古墳時代。墳墓。墳丘(径30m)、横穴式石室両相型4.2m、新石器使用切石。	日本考古学全集197
4	北金子 東浦古墳群	古墳時代後期。墳墓。円形石室、横穴式石室、両相型。	太田市史交史編原初古代 太田市史交史編原初古代 田：報告書第165集
5	萩原遺跡	古墳時代後期。須恵器、瓦葺跡。	田：15年度実績報告 田：報告書第419集
6	成塚 向山古墳群	古墳時代。墳墓、円墳(径18m)、横穴式石室、方墳(1辺21m)、集落。	田：16年度実績報告 太田市史交史編原初古代 太田市史交史編原初古代
7	成塚遺跡群	平安時代。水田跡。	太田市史交史編原初古代 文化財情報
8	大鷲遺跡	古墳時代。擬石柱建物、井戸。平安時代。水田。中近世。擬石柱建物。	文化財情報
9	上張戸遺跡	奈良時代。溝。	田：「年報」24
10	大鷲 横穴古墳群	古墳時代。墳墓。	太田市史交史編原初古代 長手古遺跡発掘調査報告書 文化財情報
11	大鷲 大平古墳群	古墳時代。墳墓。	田：「年報」24
12	大鷲 向山古墳群	古墳時代。前方後円墳(長30m、高3.5m)、石室(長さ2.1m、短辺0.7m)、円筒埴輪、埴輪。	太田市史交史編原初古代 長手古遺跡発掘調査報告書 文化財情報
13	武吉古墳群	古墳時代。墳墓。	田：「年報」24
14	萩原城	15・16世紀。堀、土居、烽火台。	太田市史交史編原初古代 長手古遺跡発掘調査報告書 文化財情報
15	萩原瓦葺跡	奈良時代。	渡良瀬川調査概要 田：「年報」24
16	泰山山跡	旧石器時代。黒曜石石器群。縄文時代。土塊。奈良・平安時代。住居。銅鉄器。鍛冶遺構。灰窯。	太田市史交史編原初古代 長手古遺跡発掘調査報告書 文化財情報
17	萩原遺跡	古墳時代。水田。平安時代。土坑群。	田：「年報」24
18	守山古墳	4世紀代。前方後方墳(全長35m)。	太田市史交史編原初古代 長手古遺跡発掘調査報告書 文化財情報
19	須戸口墓山遺跡	旧石器時代遺物包含地。彫刻刀形石器。	太田市史交史編原初古代 長手古遺跡発掘調査報告書 文化財情報
20	寺東遺跡	古墳時代後期。集落。	文化財情報
21	須戸口の茶屋	16世紀。集。	文化財情報
22	須戸宮西遺跡	縄文時代。集落。古墳時代。集落。	文化財情報
23	中道遺跡	古墳時代。集落。	文化財情報
24	高岸遺跡	古墳時代。墳墓。埴輪。奈良・平安時代。水田。集落。中・近世の集落。溝。	田：報告書第333集 田：報告書第333集 田：報告書第333集
25	藤五郎城	古墳時代後期～奈良時代。須恵器窯。生産遺跡。	太田市史交史編原初古代 文化財情報
26	鶴生石室・下張戸古墳群	6世紀。円墳(墳丘20m)、横穴式石室。	太田市史交史編原初古代 文化財情報
27	上風原戸遺跡	古墳時代。散布地。	文化財情報
28	中道遺跡	古墳時代。散布地。	文化財情報
29	中妻遺跡	古墳時代。墳墓。集落。	文化財情報
30	高太郎遺跡	古墳時代後期～奈良時代。須恵器窯。生産遺跡。	長手古遺跡発掘調査報告書 長手古遺跡発掘調査報告書 長手古遺跡発掘調査報告書 長手古遺跡発掘調査報告書
31	鍛冶ヶ谷古墳群	縄文時代。古墳時代。平安時代。鍛冶遺構。中世の集落・生産遺跡。	文化財情報
32	高太郎1遺跡	古墳時代後期～奈良時代。須恵器窯。工務跡。	文化財情報
33	高太郎2遺跡	10世紀前半。鍛冶窯。灰窯。	文化財情報
34	山古・十八曲遺跡	金山城跡関連大塚切り。縄文時代。住居。古墳時代前期。住居。五輪埴輪。	文化財情報
35	長手古墳群	縄文時代。住居。	文化財情報
36	鹿籠遺跡	古墳時代。散布地。	文化財情報
37	鳥ヶ谷戸遺跡	古墳時代。散布地。	文化財情報
38	鳥山城	15・16世紀。堀、土居、戸口。	城跡跡
39	鳥山館	集。	城跡跡
40	鳥山神社古墳	6世紀末～6世紀前半。前方後円墳(全長推定66m)、くびれ左右石群、円形中島。	太田市史交史編原初古代 城跡跡
41	鳥山館敷跡	古墳時代後期～飛鳥時代。円墳。	太田市史交史編原初古代 太田市史交史編原初古代 城跡跡
42	式反田古墳群	6世紀後半。前方後円墳。埴輪。鉄器。玉璽。金銅製。用具。	太田市史交史編原初古代 太田市史交史編原初古代 城跡跡
43	長手口古墳群	縄文時代前期～後期。弥生時代後期。墳墓。	太田市史交史編原初古代 城跡跡
44	貫之塚古墳群	6世紀後半。円墳。埴輪。	太田市史交史編原初古代 文化財情報
45	寺ヶ入古墳群	古墳時代後期～飛鳥時代。墳墓。	文化財情報
46	内並木古墳群	古墳時代後期～飛鳥時代。墳墓。	文化財情報
47	東金井城跡	中世。	文化財情報
48	金山城	15・16世紀	城跡跡
49	亀山跡	古墳時代後期～古代。須恵器生産窯。	太田市史交史編原初古代 太田市史交史編原初古代
50	赤土埴輪窯跡	古墳時代後期。埴輪。	太田市史交史編原初古代 太田市史交史編原初古代
51	金井埴輪窯跡	古墳時代後期。埴輪。製作跡。	太田市史交史編原初古代 太田市史交史編原初古代
52	金井口遺跡	旧石器。縄文時代前期。遺物包含地。古墳～平安時代。生産遺跡。埴輪窯跡。製作遺跡。	太田市史交史編原初古代 城跡跡
53	獲ヶ八割	堀、土居、戸口。	渡良瀬川調査概要 太田市史交史編原初古代
54	菅刈跡	古墳時代後期。	太田市史交史編原初古代 文化財情報
55	菅刈跡	古墳時代後期。須恵器窯跡。	太田市史交史編原初古代 文化財情報
56	今泉口八幡山内墳	古墳時代。家型石棺。墳丘長33m、石室復元全長54.5m。	太田市史交史編原初古代 文化財情報
57	溝詰ヶ入須恵器窯跡	古墳時代後期～古代。窯跡。	太田市史交史編原初古代 文化財情報
58	菅刈跡	古墳時代。円墳。家型石棺。横穴式石室。	太田市史交史編原初古代 文化財情報
59	八ヶ入遺跡	古墳時代前半。奈良・平安時代。集落。	太田市史交史編原初古代 文化財情報
60	大道東遺跡	旧石器～歴史時代。複合遺跡。縄文時代。石環。弥生時代後期。赤井戸式土器。	太田市史交史編原初古代 文化財情報
61	破穴古墳群	古墳時代後期～7世紀中頃。方墳(1辺36.5m、高さ6m)、周溝。横穴式石室。	太田市史交史編原初古代 文化財情報
62	大道西遺跡	古墳中期～後期。住居。	文化財情報
63	鹿島遺跡	奈良・平安時代。集落。	文化財情報
64	小丸山西遺跡	旧石器時代。遺物包含地。縄文時代～平安時代。遺物散布地。	太田市史交史編原初古代 文化財情報
65	小丸山遺跡	旧石器時代。縄文時代。埴輪。瓦葺。	文化財情報
66	矢田原前田遺跡	古墳時代。溝、井戸。	渡良瀬川調査概要 太田市史交史編原初古代
67	矢田原古墳群	古墳時代後期～飛鳥時代。墳墓。	太田市史交史編原初古代 文化財情報
68	守中遺跡	古墳時代。住居、井戸、溝。	太田市史交史編原初古代 文化財情報
69	矢田原城	16世紀。堀、土居、戸口。	城跡跡
70	赤前遺跡	古墳時代後期。集落。奈良・平安時代。集落。窯跡群。	太田市史交史編原初古代 今泉口八幡山古墳群報告書 太田市史交史編原初古代 城跡跡
71	東田遺跡	16世紀。	文化財情報
72	須家古墳群	古墳時代後期。埴輪群。奈良・平安時代。擬石柱建物。住居。	太田市史交史編原初古代 今泉口八幡山古墳群報告書 太田市史交史編原初古代 城跡跡
73	丸山の宮	16世紀。堀。烽火台。	文化財情報
74	丸山北東跡	古墳時代後期。	文化財情報
75	丸山北西跡	古墳時代前半。住居。	渡良瀬川調査概要 渡良瀬川調査概要
76	宮の上道跡	古墳時代。	渡良瀬川調査概要
77	丸山遺跡群	古墳時代。	太田市史交史編原初古代 今泉口八幡山古墳群報告書 渡良瀬川調査概要
78	七日岳古墳群	古墳時代後期～飛鳥時代。家型石棺。	太田市史交史編原初古代 文化財情報
79	吉祥寺遺跡	古墳時代。	渡良瀬川調査概要
80	流作輪遺跡	古墳時代後期。集落。埴輪群。	太田市史交史編原初古代 文化財情報
81	落内遺跡	古墳時代後期。集落。平安時代。集落。	太田市史交史編原初古代 文化財情報
82	反丸遺跡	古墳時代後期。集落。平安時代。集落。	太田市史交史編原初古代 文化財情報

\* 市：太田市教育委員会。 研：財団法人群馬県歴史文化財調査事業団。 渡良瀬川調査概要：渡良瀬川流域遺跡群調査概要  
文化財情報：「群馬県文化財情報システム」城跡跡：「群馬県の中世城跡跡」

## 第3章 古氷条里制水田跡

### 第1節 調査の方法

#### 1 調査区の設定

調査にあたり国家座標IX系を基準に5mグリッドを設定した。調査区は、萩原遺跡に隣接する北関東自動車道建設予定地西側より、順次、算用数字の1区～6区を設定した。それぞれの調査面積は以下のとおりである。1区2,798m<sup>2</sup>・2区1,494m<sup>2</sup>・3区3,126m<sup>2</sup>・4区4,669m<sup>2</sup>・5区2,969m<sup>2</sup>・6区5,004m<sup>2</sup>の合計20,060m<sup>2</sup>。

調査区は現有の道路・水路を境界として設定した。1区は丸山・強戸線から雷・小丸山1号線までとし、2区は道路から西側の水路までとした。3区は東西の水路に挟まれた範囲とし、4区の東端は渡良瀬土地改良104号線までである。5区は道路より東側の用悪水路までとし、6区の東端は渡良瀬土地改良106号線までとした。

#### 2 調査方法

本遺跡の表土除去には、調査の効率化を図るために、掘削機械(0.7バックフォアと0.45バックフォアを併用)を使用した。また遺構の確認作業及び埋土除去作業は発掘作業員の手によって行った。

遺構名称は各調査区単位で、種別ごとに通し番号を付した。遺物の取り上げに際しては、遺構単位を基本として原位置をとどめるものについてはその都度番号を付し、図面上に記録した。また、出土遺物の取り上げに際しては完形・大型破片については図化等を行ったが、小破片については一括して取り上げた。

遺構などの記録は、測量と写真撮影によった。このうち測量は、調査区全体図等の平面図作成については委託による航空写真測量を、溝・水田等の大規模な平面図作成に関しては機械実測による地上測量(委託)を、小規模な遺構の平面図作成に関しては作業員による平板を用いた平面実測を併用した。尚、

実測図には遺跡名・図名称・縮率・実測者・レベル高等を併記した。

写真撮影には35mm版の黑白フィルムとカラースライドフィルム、6×7版黑白フィルム、35mmデジタルカメラを使用した。また撮影対象によって高所作業車の使用並びに、空中写真撮影を委託により実施した。

1面調査は、平成15年10月より2区、3区、6区、1区の順に、平成17年1月より4区、5区を、そして平成18年7月に4区残存部を実施し、全調査区の発掘調査を終了した。

まず1面調査は、掘削機械でAs-B層(IV層)上面またはAs-B混土層(III層)上面を検出し、その後作業員の手(一部、掘削機械を使用)によってAs-B層またはAs-B混土層を掘り下げることで、主に水田面と考えられる面の検出、及びこれより上層から掘り込まれた遺構の確認を行った。なお、1区最東端にあたる一部(2,041m<sup>2</sup>)と、6区最西端(216m<sup>2</sup>)に関しては、現耕作土を構成する土壌の入れ替え等、後世の攪乱が深部にまで及んでいたため、調査対象外とした。

続く2面の調査は、平成17年3月より4区、5区で実施した。2面はHr-FA層(VI層・VII層)を掘り下げていき、VII層上面で主にHr-FA混土が埋土となっている遺構を検出していった。2・3・6区においては、第1面調査終了後、全面的に2面確認面まで掘り下げたところ、遺構は検出されなかった。また4・5区においては、期間的に許される範囲内で2面調査を実施するという方針を立て、1面調査終了後、それぞれ4区で7本、5区で8本のトレンチを東西方向に設定して、遺構の有無を確認した。その結果4区のはほぼ全面及び5区西側で遺構を確認することができたため、掘削機械で2面確認面まで掘削し、以後は作業員の手により遺構確認・掘り下げを行った。

2面で検出した遺構については、調査期間等の関係より、その多くの平面図作成は機械実測による地上測量で対応した。

## 第2節 発掘調査の経過

発掘調査は第1期～第3期の3次にわたり実施された。第1期が平成15年10月20日～平成16年3月31日、第2期が平成17年1月5日～平成17年3月31日、第3期が平成18年7月26日～平成18年8月19日である。

以下、その概要を記す。

## （第1期 平成15年・平成16年）

1区(2,798m<sup>2</sup>)・2区(1,494m<sup>2</sup>)・3区(3,126m<sup>2</sup>)・6区(5,004m<sup>2</sup>)の調査を実施した。調査最終盤の3月に入り、掘削機械を使用しての発掘調査が出来ない状況となる。そのため、このおよそ1ヶ月間、調査の停滞がみられた。また、調査区周辺の現在の土地利用は主に水田となっており、平素より地下水位が高いことから、恒常的に湧水対策が施された。そのため、各調査区における発掘調査に先だち、掘削機械で調査区外形に沿って水抜きのための溝を掘削し、常時、水中ポンプを設置して排水を行った。

10月27日 担当2名着任。

現地打ち合わせ。

30日 現場事務所設置。

11月12日 2区遺構確認作業開始。

13日 2区水田面検出作業開始。

12月2日 3区水田面検出作業開始。

8日 6区表土掘削開始。

16日 2区遺構掘り下げ開始。

17日 2区遺構記録（断面図作図・写真撮影）開始。

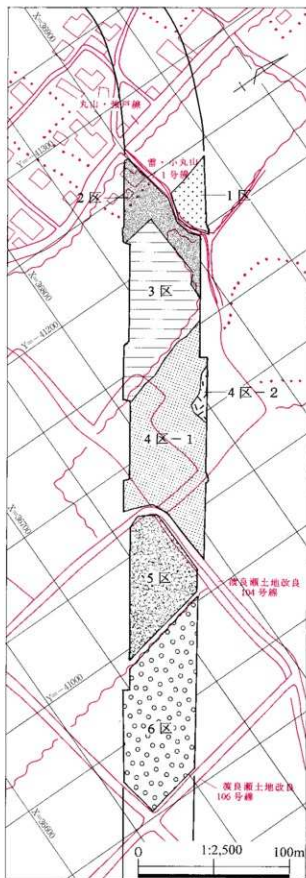
18日 6区仮設電源設置。

19日 2区・3区航空撮影。遺構全景写真撮影。

22日 2区・3区遺構記録（平面図作図）開始。  
2区・3区・6区テフラ分析・プラント  
オパール分析資料採取。

24日 6区水田面検出作業開始。

3区遺構記録（断面図作図・写真撮影）開始。遺構全景写真撮影。



第6図 調査区設定図

### 第3章 古水条里制水田跡

- 1月7日 担当2名交替。  
28日 2区As-B下水田下遺構確認作業開始。  
30日 6区航空撮影・写真実測。  
2月6日 3区As-B下水田下遺構確認作業開始。  
24日 6区As-B下水田下遺構確認作業開始。  
25日 2区・3区埋め戻し開始。  
3月1日 1区表土掘削開始。  
4日 1区遺構確認作業開始。  
6区調査終了。  
11日 1区遺構掘り下げ開始。  
24日 1区遺構記録(平面図作図・写真撮影)。  
1区調査終了。  
6区埋め戻し開始。  
26日 平成16年作業終了。

#### (第2期 平成17年)

4区(4,454m<sup>2</sup>)・5区(2,969m<sup>2</sup>)の調査を実施した。4区北側の一部(215m<sup>2</sup>)は平成17年度に発掘調査できず、次年度以降に見送られた。担当者1名は、多くの時間を地元対策に要することとなった。2月より二の宮遺跡から担当者2名と作業員の応援が加わり、発掘調査の迅速化・効率化が図られた。また、冬期での発掘調査となったため、遺構面の凍結を防ぐための対策が、常時必要となった。特に第1面・第2面とも、その遺構確認面が粘質土主体となっており、調査面の凍結、降霜による支障が甚大なため、連日、凍結防止・防霜対策として、ロールマット・ブルーシートによる被覆が必要とされた。また第1期同様、湧水対策も施された。

- 1月4日 担当2名着任。二の宮遺跡事務所業務開始。  
7日 5区表土掘削開始。  
12日 5区遺構確認作業開始。  
13日 4区表土掘削開始。  
14日 4区遺構確認作業開始。  
2月9日 遺構掘り下げ開始。  
21日 二の宮遺跡より担当2名・作業員が合流し、調査の迅速化をはかる。

- 3月8日 4区・5区航空撮影・写真実測。  
4区・5区第2面着手。  
9日 4区・5区トレンチ掘削開始。  
10日 5区遺構確認作業・遺構掘り下げ開始。  
14日 4区遺構確認作業開始・遺構掘り下げ開始。  
18日 4区全景写真撮影。  
22日 5区全景写真撮影。  
31日 平成17年作業終了。

#### (第3期 平成18年)

第2期に調査できずに残っていた4区北側215m<sup>2</sup>を調査した。残土搬出の都合、東西を2区画に分けて実施した。ほぼ連日、東日本道路株式会社担当者、地権者が来跡。常駐の担当者2名に加え、発掘調査の応援として1名が支援し、実質6名の担当が今期の調査に関わることとなり、速やかに調査が遂行された。

- 7月24日 担当者2名着任。  
27日 調査区東側表土掘削、遺構確認作業開始。  
28日 調査区東側遺構掘り下げ開始。  
8月4日 調査区西側表土掘削、遺構確認作業開始。  
8日 遺構記録開始(平面図・断面図作図、写真撮影)。  
10日 調査区全景撮影。  
14日 現場撤収作業開始。  
17日 埋め戻し開始。  
18日 平成18年作業終了。

整理作業は群馬県埋蔵文化財調査事業団資料整理部(担当:資料整理第1グループ)が担当し、当事業団本部において、平成19年10月1日から平成20年1月31日まで4ヶ月間実施された。その後、引き続き北関東自動車道建設に伴う二の宮遺跡の整理作業が実施され、終了後に古水条里制水田跡と二の宮遺跡合本の上、発掘調査報告書を刊行した。

## 第3節 基本層序

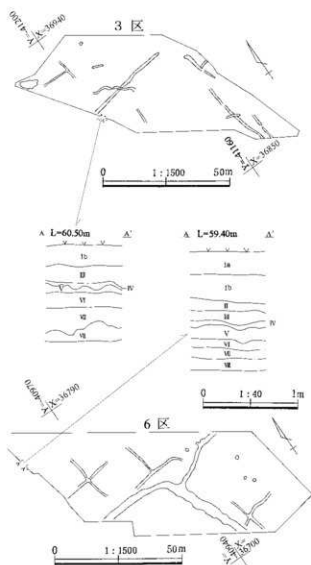
本遺跡の基本層序としては、上層における攪拌の影響が少なく、より残存状態の良い地点を選んだ。また、本遺跡は東西方向に長く位置することから、西側寄りの3区と、最東調査区である6区より、それぞれ基本層序を選ぶことにより、本遺跡全体の土層の状況を確認できるよう配慮した。ここでは本文中の多数の断面図相互間の関連を理解しやすくすることを目的に、以下の8層に土層を分け、基本層序とする。

各層の特徴を列記すると以下のとおりである。

- I層：暗褐色。表土（現耕作土）。
- II層：黄褐色。粘質土層。
- III層：褐灰色。As-B混土。
- IV層：As-B純堆積層。
- V層：黒色。粘質土層。
- VI層：褐灰色。Hr-FA混土。粘質土層。
- VII層：黒褐色。Hr-FA混土。粘質土層。
- VIII層：粘質土層。

I層に関してはこれを2分し、圃場整備において入れ替えられた土をIa層とした。これは本遺跡東側の6区において確認されている。I b層は現表土・耕作土であり、耕作に伴う鉄分の沈着が認められる。II層は粘質土で、洪水による堆積土層と考えられる。鉄分の沈着や、斑状に砂質土が混入しており、3区では南側で、6区ではほぼ全面にわたり確認されている。III層はAs-B（浅間Bテフラ）が含まれる粘質土層である。部分的に鉄分の沈着が見られる。厚さは3区においては約20cm、6区では約15cmである。IV層はAs-Bの一次堆積層である。1区・5区では、近年の土地改良により完全に削平されており、堆積の状況を確認することはできなかった。また2・3・4・6区においても、場所によりその残存状況は一様ではない。本遺跡で検出された水田は、IV層直下で確認されている。V層はAs-B降下時における、耕作土層と考えられ、本遺跡における第1面の確認面となっている。VI層はHr-FAを含む粘質

土で、鉄分・砂質土を筋状もしくは斑状に含む部分が多いことから、洪水による堆積土層と考えられる。VII層も上層と同様にHr-FAを含む粘質土で、Hr-FAはVI層よりもやや大粒である。VIII層は粘質土で、色調は多くは黒色だが、灰黄褐色、オリーブ黄色、褐灰色等もみられる。また、色調が乱れた地点では部分的に砂層が確認されることから、洪水などの作用によって形成されたと想定される。VIII層は本遺跡における第2面の確認面でもある。なお3区において、VI・VII層内にAs-C（浅間C軽石）が確認されたが、層位として認識することができなかったため、VI・VII層に含むこととした。



第7図 基本土層



## 第4節 1面の調査

## 1 概要

古水条里制水田跡の1面の調査では、1区から6区にいたるすべての調査区において遺構を確認することができた。本遺跡は調査区が広く、また後世の擾乱等によって土層の堆積状況は均一でない。そのため、基本的にAs-B層（基本土層Ⅳ層）に覆われている黒色粘質土層（基本土層Ⅴ層）を1面の確認面としたが、As-B層が確認できない場所においてはAs-Bを多く含むいわゆる「As-B混土層」上面まで掘削機械で掘り下げ、その後作業員の手により掘り下げ、As-B混土層下面の遺構の検出、また上層より掘り込まれている遺構を確認した。また1区・5区のはほぼ全域では、土地改良に伴う土入れ替えによって、上層に堆積しているはずのAs-B層・As-B混土層共に削平されていた。そのため、直接、黒色粘質土（Ⅴ層）を鍵層とし、第1面の検出を行った。このように調査区によって1面の検出方法が変動的にならざるを得なかった。

1面の主たる遺構はAs-B層直下の水田であり、1区・4区西側・5区を除き、ほぼ全域で水田を確認することが出来た。古水条里制水田跡の地形は、北西より南東に向かって緩やかに傾斜している。標高の高い2区及び最も標高の低い6区の両端において水田が確認されていることから、その中間に位置する4区・5区においても、発掘調査では確認することが出来なかったが、同様に水田による耕作が行われていたことが想定される。水田耕作に関連する遺構としては、畦畔や溝等が確認されている。その他の遺構として、1区では溝、2区では溝・落ち込み状遺構・井戸、3区で溝、4区で溝・ピット、5区で溝、6区では溝・土坑・井戸を確認することができた。

なお、自然科学分析のテフラ検出分析の結果、古水条里制水田跡における水田遺構の層位は、As-B直下にあることが確認されている。また、2区・3区・6区で採取された試料に基づくプラントオパール分析においては、すべての試料よりイネが検出さ



第8図 1面遺構全体図

れ、As-B直下層で船作が行われていた事が検証されている。

## 2 溝

### 1号溝 (1区)【第9図 PL.3】

位置 X=36940~36962 Y=-41217~-41226

重複 無し

走向 N-15°-W

調査長 21.3m

幅 最大3.87m 最小2.55m

深さ 最深部0.45m 最浅部0.37m

傾斜 北端60.69m 南端60.51m (北高0.18m)

形状 底面はわずかに丸みをおび、法面は緩やかに立ち上がる。法面上部に1号溝と平行して小規模の溝状の凹みが見られる。この凹みは溝の西側では、ほぼ全域にわたり断続的に確認できるが、東側では一部で確認されている。性格については不明である。

調査所見 1区より唯一確認できた遺構である。埋土は主に川砂を含む砂質土よりなっており、最下層にIV層主体土が堆積しているため、As-B降下後の近い時期に埋没し始めたと考えられる。また断面をみると、1号溝が掘り込まれた以前に、ほぼ同じ位置に、5層・6層を覆土とする溝が流れていたことがわかる(第9図)。この古い時期の溝の深さは、約1.1mである。

1号溝はほぼ直線的に走行しており、更に調査区外北側から流れ込んできていることが想定できる。また南側は、走向からみると隣接する2区へと続いてもよいはずであるが、2区では検出することができなかった。しかし、2区1号落ち込みの西側の調査区外に1号溝と走向を同じくする現代の溝があり、1号溝を利用して後世に現代の溝が掘り込まれた可能性が考えられる。遺物は出土していない。

### 2号溝 (2区)【第10図 PL.3】

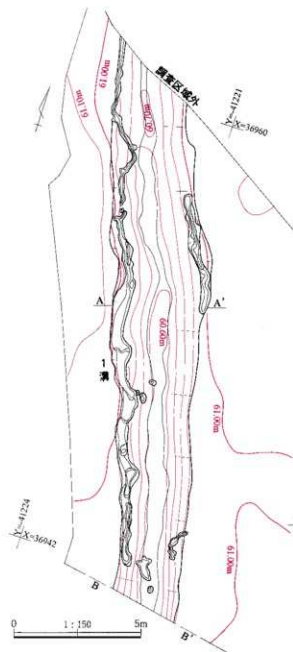
位置 X=36923~36924 Y=-41197~-41208

重複 3号溝と重複

走向 N-90°-W



第8図 1面遺構全体図



調査長 10.8m

幅 最大0.57m 最小0.20m

深さ 最深部0.12m 最浅部0.05m

傾斜 西端60.28m 東端60.37m (比高0.09m)

形状 底面はほぼ平坦。緩やかな逆台形状。

調査所見 2号溝は3号溝と重複しており、形状・埋土などから判断し、両溝は一連の遺構と考えられ、時期差はなく同時期に掘り込まれたものと思われる。埋土はⅢ層主体土のみで、As-B混土層形成後に掘り込まれている。2号溝は3号溝と分岐した後、西側へ延び、最終的に現代の溝に切れ途絶えている。2号溝は走向から判断すると、この現代の溝の西側にも継続していることが想定されるが、その続きと思われる遺構は検出されていない。遺物は出土していない。

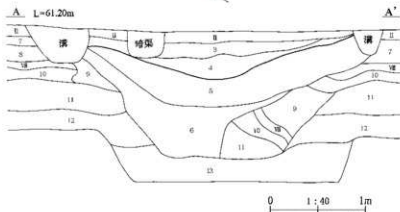
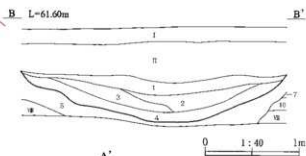
3号溝 (2区) 【第10図 PL.3】

位置 X=36920~36927 Y=-41197

重複 2号溝と重複

走向 N-6° -W

調査長 7.15m



- 1 暗褐色土：粘質土。
- 2 褐灰色土：砂質土。川砂を多量に含む。
- 3 褐灰色土：2層に近似で、やや暗い。
- 4 IV層主体土。
- 5 褐色土：粘質土。
- 6 灰白色土：粘質土。
- 7 褐灰色土：粘質土。鉄分の沈着がみられる。
- 8 黄褐色土：砂質土。鉄分の沈着がみられる。
- 9 灰白色土：5層に近似で、やや明るい。
- 10 灰白色土：褐色粘質土を帯状に含む。
- 11 黒褐色土：粘質土。
- 12 明緑灰色土：粘質土。
- 13 暗褐色土：1層に近似で、より暗い。

第9図 1号溝平・断面図

幅 最大0.25m 最小0.15m

深さ 最深部0.11m 最浅部0.05m

傾斜 北端60.50m 南端60.34m (比高0.16m)

形状 底面は丸みをおび、緩やかに立ち上がる。

調査所見 2号溝と重複している3号溝は、2号溝とその走向はほぼ直交している。埋土も2号溝と同様であり、規模にも大きな差がみられないことから、2号溝と一連の遺構と判断した。3号溝は北より南へ延び、2号溝を分岐した後、2号溝と平行に走る現代の溝に切れ、途絶えている。現代の溝の南側では、3号溝の続きは確認されていない。底面の標高最高値である北端部底部には、約20cm×10cmの石が据えられている。3号溝内からはその他に遺物は

一切確認されていない。底面最北端部で出土していることと、本遺構からは他に遺物が一切出土していないことから考えると、この石は偶然に混入したものとは考えられず、人為的に設置されたことが想定される。その性格については不明である。

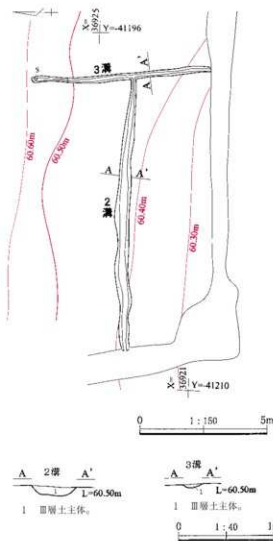
4号溝 (2区) 【第11図 PL.3】

位置 X=36903~36910 Y=-41210~-41215

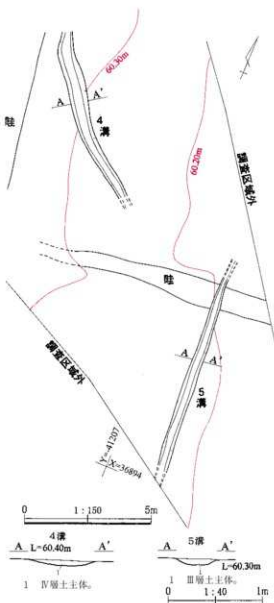
重複 無し

走向 N-40° -W

調査長 8.12m



第10図 2・3号溝平・断面図



第11図 4・5号溝平・断面図

幅 最大0.72m 最小0.35m

深さ 最深部0.05m 最浅部0.01m

傾斜 北端60.34m 南端60.19m (比高0.15m)

形状 北側の法面は緩やかに立ち上がる。

調査所見 2区に展開している水田の中に位置しており、埋土はⅣ層主体土のみで、As-B降下以前に掘り込まれたと考えられる。周囲の水田と同時期に使用されていた可能性がある。両端とも緩やかに上昇し自然に消滅していることから、周囲よりも深く掘り下げてあったために残存したと思われる。

#### 5号溝(2区)【第11図 PL.4】

位置 X=36894~36903 Y=-41204~-41205

重複 水田畦畔に後出

走向 N-3°-W

調査長 9.25m

幅 最大0.50m 最小0.22m

深さ 最深部0.09m 最浅部0.03m

傾斜 北端60.13m 南端60.13m

形状 底面はほぼ平坦で、角度の変換点を有し緩やかに立ち上がる逆台形状である。

調査所見 両端部における比高はほとんど認められず、平坦な底面を形成している。北端の底面は徐々に上がり自然に消滅しているが、南へは調査区外へ続くと考えられる。埋土はⅢ層主体土のみであり、また、古代の水田の畦畔を切っていることから、5号溝はAs-B混土形成後に掘り込まれたと考えられる。5号溝内から遺物は出土していない。なお、走向、形状、埋土等が類似していることなどから、2・3号溝と性格を共にする遺構の可能性がある。

#### 6号溝(3区)【第12図 PL.4】

位置 X=36917~36918 Y=-41185~-41188

重複 無し

走向 N-75°-W

調査長 3.35m

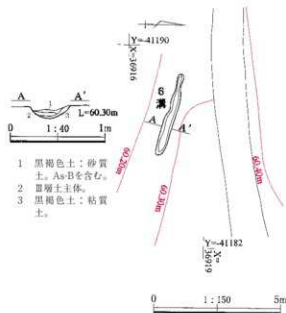
幅 最大0.45m 最小0.17m

深さ 最深部0.15m 最浅部0.03m

傾斜 東端60.22m 西端60.21m (比高0.01m)

形状 法面は湾曲しながら立ち上がる。

調査所見 溝の中程は深く、両端に向かって徐々に浅くなっている。底面には凹凸が目立つ。埋土は、最下部は白色粘土・褐色粘土をわずかにブロック状に含む黒褐色粘質土となっており、その直上にⅢ層主体土が堆積している。最上層はAs-Bを含む砂質土となっている。As-B混土層形成後に掘り込まれている。遺物は出土していない。



第12図 6号溝平・断面図

#### 7号溝(3区)【第13図 PL.4】

位置 X=36901~36910 Y=-41180~-41194

重複 水田畦畔に後出

走向 N-56°-W

調査長 17.30m

幅 最大1.15m 最小0.50m

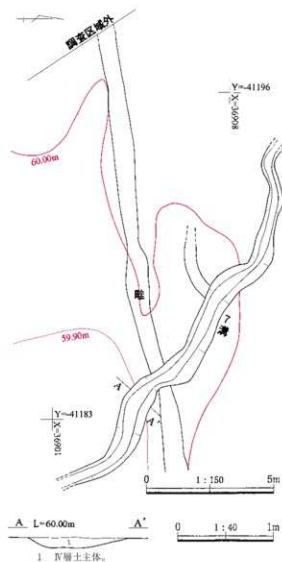
深さ 最深部0.10m 最浅部0.01m

傾斜 北端60.02m 南端59.77m (比高0.25m)

形状 底面は平坦で、南側は角度をつけて立ち上がり、北側は緩やかに傾斜して立ち上がる。

調査所見 東西の方向に蛇行しながら位置しており、両端は水田面に乗り上げ、自然に消滅している。西側より傾斜を持ちつつ東側へ延びているが、7号

溝の途中より、西側へ小規模な畦畔が派生している。その辺りから7号溝の傾斜も緩やかになり、以後、東端まではほぼ平坦を保つ。埋土はIV層主体土のみで、As-Bで覆われている水田の畦畔を切っていることから水田形成後に掘り込まれ、As-B降下時に埋没したと考えられる。遺物は出土していない。



第13図 7号溝平・断面図

#### 8号溝(3区)【第14図 PL.4】

位置 X=36887~36901 Y=-41151~-41157  
 重複 9号溝に先行  
 走向 N-20°-W  
 調査長 15.20m

幅 最大1.35m 最小0.45m

深さ 最深部0.19m 最浅部0.01m

傾斜 北端59.78m 南端59.65m (比高0.13m)

形状 底面は丸みをおび、法面は湾曲しながら緩やかに立ち上がる。

調査所見 水田面から微高地に立ち上がる縁辺にそって、北側より南側に向かって延びている。南端は現代の暗渠に切られ、自然に消滅している。その後も水田・微高地共、更に南側に続いているため、本来であれば8号溝も継続していると思われる。また、中央付近で9号溝と直交するが、埋土が異なることなどから、9号溝とは時期差がある。8号溝の埋土はIV層主体土のみとなっており、As-B降下以前に掘り込まれたと考えられる。微高地と水田との境界上に沿うように位置していることから、水田耕作に伴う溝であると想定される。遺物は出土していない。

#### 9号溝(3区)【第14図 PL.4】

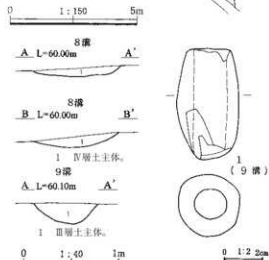
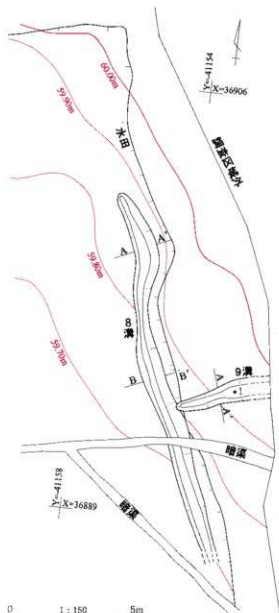
位置 X=36893~36895 Y=-41150~-41153  
 重複 8号溝に後出  
 走向 N-70°-E  
 調査長 3.8m  
 幅 最大0.90m 最小0.37m

深さ 最深部0.18m 最浅部0.03m

傾斜 東端59.77m 西端59.77m

形状 底面に平坦部はほとんどみられず、北側に向かって緩やかに直線的に立ち上がる。

調査所見 調査区東側の微高地上に東西方向に位置している。西側は微高地が途切れる同じ位置で、消滅する。底面に凹凸はみられず、しっかりと掘られている。埋土はIII層主体土のみで、As-B混土形成後に掘り込まれている。遺物は埋土中より、土錘が出土している。なお、9号溝の走向から、隣接する4区にも継続してもいいはずだが、明確に同一の遺構と判断できる溝は確認されていない。ただ、4区で確認されている12号溝は、9号溝と埋土・走向共に近似しており、同一の遺構、もしくは性格を同じくする遺構の可能性が有る。



第14図 8・9号溝平・断面図・出土遺物

10号溝 (3区)【第15図 PL.4】

位置 X=36856~36884 Y=-41149~-41156

重複 11号溝に先行

走向 N-16°-W

調査長 28.7m

幅 最大0.70m 最小0.35m

深さ 最深部0.10m 最浅部0.01m

傾斜 北端59.56m 南端59.47m (比高0.09m)

形状 底面は皿底状で緩やかに立ち上がり、凹凸がみられる。

調査所見 埋土はIV層主体土のみとなっていることから、As-B降下以前に掘り込まれたと考えられる。標高は北端が高く南端が低い。走向より10号溝は調査区外へとさらに継続していることが想定される。また、走向・規模等、8号溝と近似しているが、8号溝は溝の東側の微高地にほぼ近接して位置しているのに対し、10号溝は北側は微高地から間隔が空いており、南流するに従い徐々に微高地へと近接していく。一方の北端は自然に消滅している。なお、溝の途中で11号溝に切られていることから、11号溝に先行して掘り込まれていることがわかる。遺物は出土していない。

11号溝 (3区)【第15図】

位置 X=36869~36871 Y=-41152~-41156

重複 10号溝に後出

走向 N-68°-W

調査長 5.0m

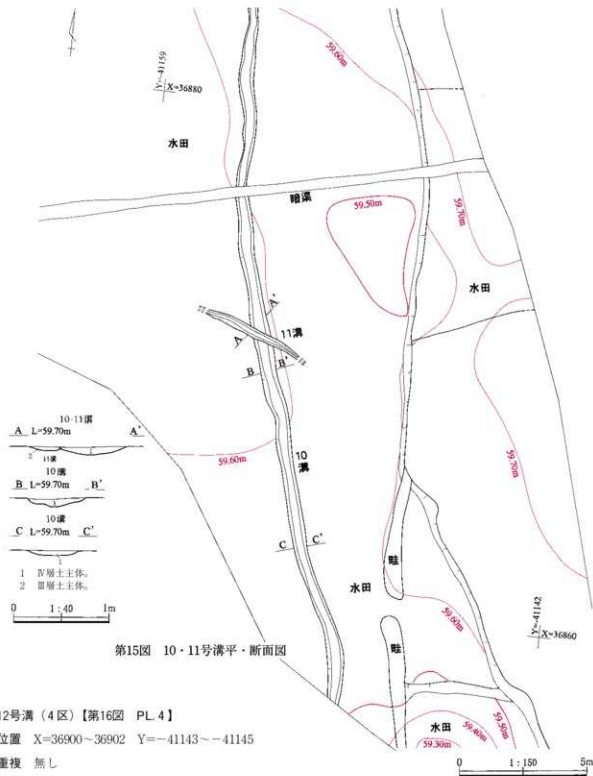
幅 最大0.35m 最小0.20m

深さ 最深部0.04m 最浅部0.01m

傾斜 東端59.59m 西端59.57m (比高0.02m)

形状 底面は丸みをおび、緩やかに立ち上がる。

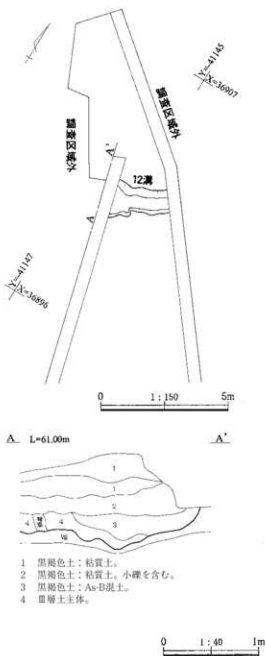
調査所見 10号溝の途中で重複している11号溝は、両端が徐々に立ち上がり自然に消滅しており、残存状態はよくない。埋土はIII層主体土のみとなり、As-B混土形成後に掘り込まれている。断面観察からも10号溝に後出していることがわかる。遺物は出土していない。





第3章 古水条里制水田跡

幅が広がり、調査区西壁に達する。下層にⅢ層主体土が充填していることから、As-B混土形成後に掘り込まれたと考えられる。形状は9号溝に近似し、しっかりと掘られている。検出された範囲はわずかであり、調査区外東と西へ継続していると思われる。流水によって摩耗した土師器・須恵器の小破片が出土している。



第16図 12号溝平・断面図

13号溝 (4区)【第17図 PL.4】

位置 X=36858~36864 Y=-41112~-41132

重複 無し

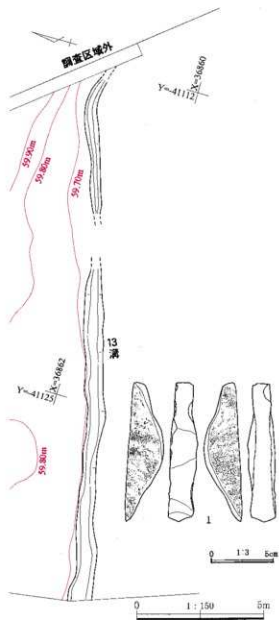
走向 N-75°-E

調査長 21.15m

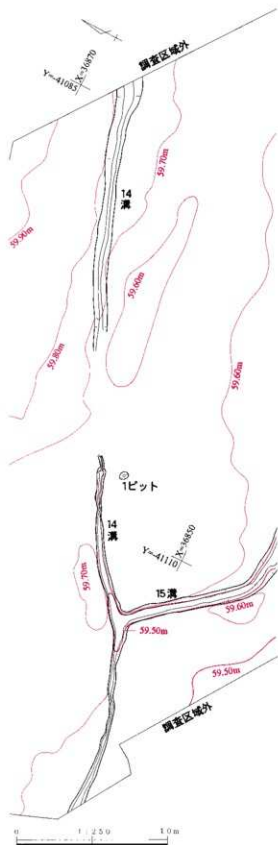
幅 最大0.95m 最小0.30m

深さ・傾斜 不明

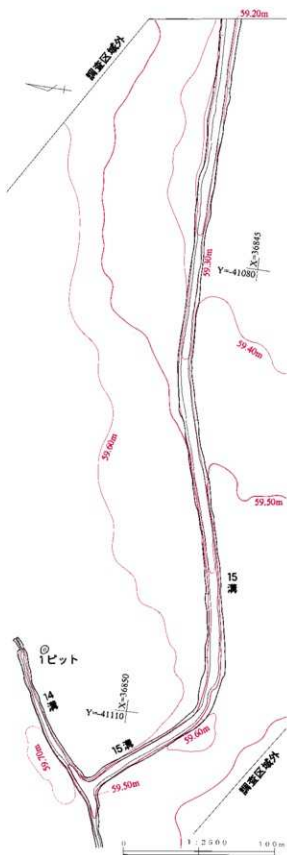
形状 底面はわずかに丸みを帯び、法面は緩やかに



第17図 13号溝平面図・出土遺物



第18図 14号溝平面図



第19図 15号溝平面図

立ち上がる。底面に穴状の凹みが多くみられる。

**調査所見** 13号溝は、調査区をほぼ東西方向に位置している。調査区中央付近で緩やかに上昇し、部分的に消滅している場所がある。砥石・土師器片・須恵器片が出土しているが、13号溝の使用時期を推定するための判断資料としては適切ではなく、また埋土も不明なため、掘り込まれた時期、埋没時期共に不明である。

**14号溝 (4区) 【第18図 PL.5】**

**位置** X=36848~36857 Y=-41106~-41128

**重複** 15号溝と重複

**走向** N-61°-E

**調査長** 24m

**幅** 最大1.00m 最小0.20m

**深さ** 最深部0.45m 最浅部0.10m

**傾斜** 東端59.55m 西端59.50m (比高0.05m)

**形状** 底面はわずかに丸みをおび、法面は緩やかに立ち上がる。

**調査所見** 14号溝は13号溝とほぼ平行しており、同様に東西方向に位置している。調査区中央付近で一度寸断されており、その後、再び調査区北壁まで継続している。西側では直角に15号溝が分岐している。重複しているこれら2本の溝は、遺構検出時、ほぼ同様の覆土で明確な新旧関係がみられなかったことから同時期に使用されていたと考えられる。また、底部北側の立ち上がり付近に、木杭が列状に検出されている。掘方が比較的しっかりしており、木杭による何らかの構築物が備わっていたと考えられることから、14号溝は人為的に掘り込まれたものと想定される。土師器片・須恵器片が出土しているが、14号溝の使用時期を推定するための判断資料としては適切ではなく、また埋土も不明なため、掘り込まれた時期、埋没時期共に判然としにくい。

**15号溝 (4区) 【第19図 PL.5】**

**位置** X=36843~36851 Y=-41063~-41115

**重複** 14号溝と重複

**走向** 計測不可能

**調査長** 54.85m

**幅** 最大1.30m 最小0.80m

**深さ** 最深部0.20m 最浅部0.10m

**傾斜** 東端59.15m 西端59.45m (比高0.30m)

**形状** 底面は平坦で、南側は角度をつけて立ち上がる。北側の法面は緩やかに立ち上がる。

**調査所見** 15号溝は西端で14号溝より分岐し、途中、ほぼ直角に走向を変え、東に延びている。底面は一貫して平坦面が形成されており、しっかりと掘られていることが見受けられ、14号溝同様、人為的に掘り込まれたものと想定される。出土遺物はなく、また埋土も不明なため、掘り込まれた時期、埋没時期共に判然としにくい。

**16号溝 (5区) 【第20~23図 PL.5】**

**位置** X=36755~36795 Y=-40990~-41003

**重複** 無し

**走向** N-10°-W

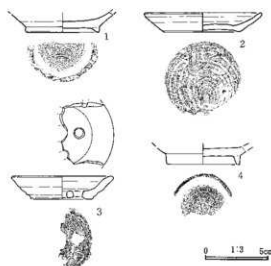
**調査長** 43m

**幅** 最大2.50m 最小1.00m

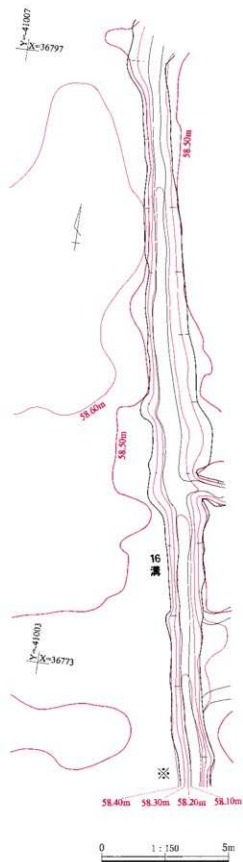
**深さ** 最深部0.30m 最浅部0.15m

**傾斜** 北端58.30m 南端57.95m (比高0.35m)

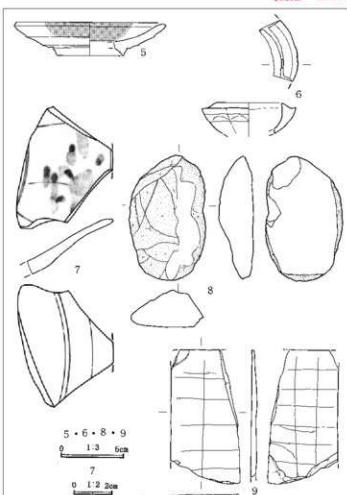
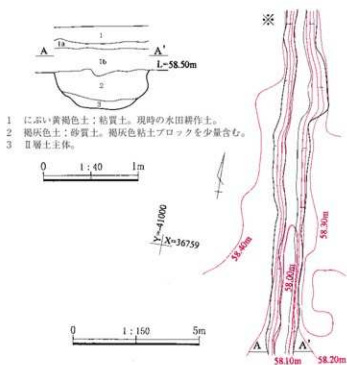
**形状** 底面はほぼ平坦で、立ち上がり部に丸みをおび、ほぼ逆台形状に立ち上がる。



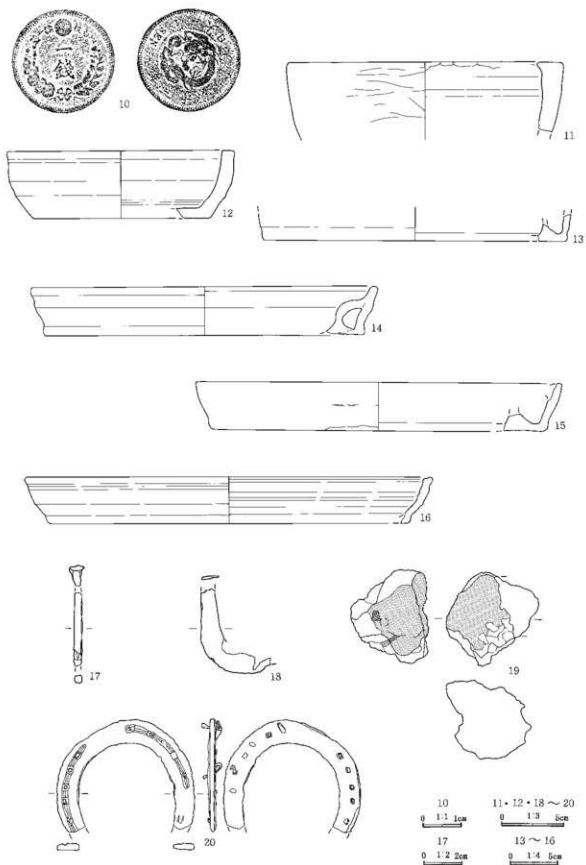
第20図 16号溝出土遺物



第21図 16号溝平・断面図



第22図 16号溝出土遺物



第23図 16号溝出土遺物

**調査所見** 5区の1面で唯一確認できた遺構である。16号溝の東に隣接して、現在使用されている用水路が設置されており、それと平行して走向している。埋土は砂質土が主体で、最下層には小礫も含むため、使用時はある程度の水流があったと考えられる。遺物として、中近世の灰釉陶器・内耳鍋・陶磁器片を中心に多数出土している。出土遺物より掘り込まれた時期は中世と想定され、現代に近い時期まで継続して使用されていたと考えられる。

**17号溝 (6区) 【第24図】**

**位置** X=36707~36743 Y=-41932~-41975

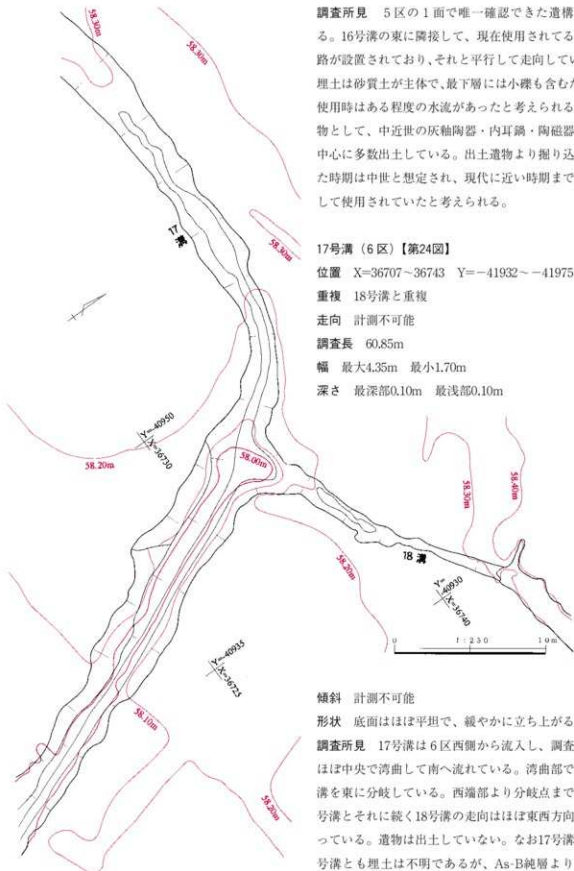
**重複** 18号溝と重複

**走向** 計測不可能

**調査長** 60.85m

**幅** 最大4.35m 最小1.70m

**深さ** 最深部0.10m 最浅部0.10m



第24図 17・18号溝平面図

**傾斜** 計測不可能

**形状** 底面はほぼ平坦で、緩やかに立ち上がる。

**調査所見** 17号溝は6区西側から流入し、調査区のはほぼ中央で湾曲して南へ流れている。湾曲部で18号溝を東に分岐している。西端部より分岐点までの17号溝とそれに続く18号溝の走向はほぼ東西方向となっている。遺物は出土していない。なお17号溝・18号溝とも埋土は不明であるが、As-B純層より上面で確認しているため、As-B降下以降に掘り込まれ

たと考えられる。

18号溝 (6区) 【第24図】

位置 X=36735~36746 Y=-41922~-41944

重複 17号溝と重複

走向 N-61°-E

調査長 23.85m

幅 最大2.10m 最小0.40m

深さ 最深部0.20m 最浅部0.20m

3 土坑

1号土坑 (6区) 【第25図 PL.5】

位置 X=36745~36747 Y=-40933~-40934

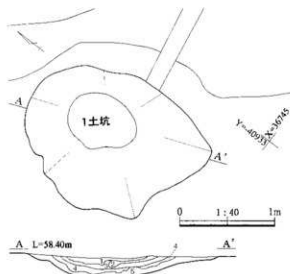
重複 無し

規模 長軸長2.00m 短軸長1.42m 最深部0.26m

平面形状 不整形な楕円形状で、西側に張り出す。

断面形状 底部に平坦部はほとんどなく、皿底状に緩やかに立ち上がる。埋土は上層に粘質土が堆積。

調査所見 底部は中心より西側に凹みが多くみられる。埋土は最下層にIV層主体土が堆積していることから、As-B降下以前に掘り込まれたと考えられる。遺物は出土していない。



- 1 暗褐色土：粘質土。鉄分の沈着がみられる。
- 2 暗褐色土：粘質土。
- 3 黒色土：粘質土。
- 4 Ⅲ層土主体。
- 5 Ⅳ層土主体。

第25図 1号土坑平・断面図

傾斜 計測不可能

形状 底面はほぼ平坦で、緩やかに立ち上がる。

調査所見 18号溝は6区東側の微高地より西側へ延び、調査区のはほぼ中央で17号溝と合流する。17号溝に比較し小規模で、形状も整っていない様子がみられるが、同様にAs-B純層より上面で確認しているため17号溝と一連の遺構と考えられる。なお遺物は出土していない。掘り込まれた時期は17号溝と同時期と想定される。

2号土坑 (6区) 【第26・27図 PL.5】

位置 X=36723~36724 Y=-40920~-40921

重複 無し

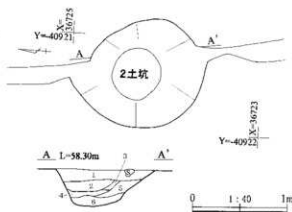
規模 長軸長1.46m 短軸長1.13m 最深部0.42m

平面形状 ほぼ円形

断面形状 底部は平坦で、逆台形状に立ち上がる。

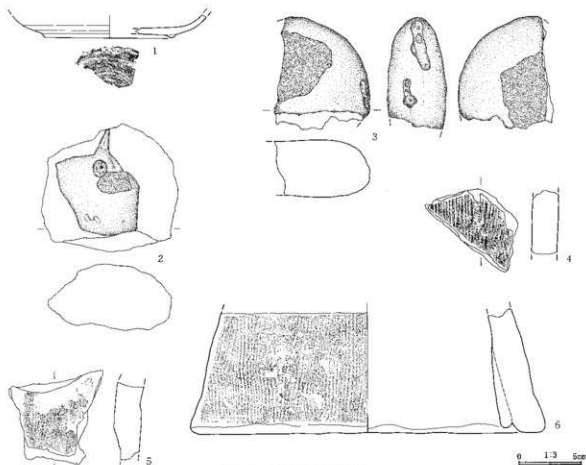
南壁途中で傾斜が変化し、広がりながら立ち上がる。

調査所見 底部はほぼ平坦である。底部、壁面共にしっかりと掘られていることから、人為的に掘り込まれた可能性が高い。埋土は上層に粘質土が堆積している。また中層にIV層主体土の堆積がみられることから、2号土坑はAs-B降下以前に掘り込まれたと考えられる。遺物として円筒埴輪片、須恵器片、磨り石が出土している。



- 1 暗褐色土：粘質土。鉄分の沈着がみられる。
- 2 暗褐色土：粘質土。粘性弱い。As-Bを多く含む。
- 3 暗褐色土：砂質土。As-Bを多く含む。
- 4 Ⅳ層土主体。
- 5 灰色：砂質土。
- 6 暗灰色土：粘質土。鉄分の沈着がみられる。

第26図 2号土坑平・断面図



第27図 2号土坑出土遺物

3号土坑（6区）【第28図 PL.5】

位置 X=36720~36722 Y=-40918~-40919

重複 無し

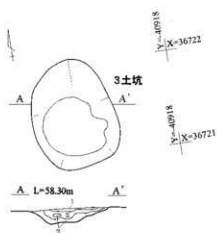
規模 長軸長1.14m 短軸長0.86m 最深部0.19m

平面形状 不整形な方形形状で、北側にやや張り出す。

断面形 底部に平坦部は見られず、中心より南側は

凹みが目立つ。また全体的に底面の起伏が激しい。

調査所見 埋土は中層にIV層主体土の堆積がみられることから、As-B降下以前に掘り込まれたと考えられる。埋土や堆積の状況等より、6区で確認された他の1号・2号土坑とはほぼ同時期の所産であると考えられる。3号土坑より遺物は出土していない。



- 1 暗褐色土：粘質土。鉄分の沈着がみられる。
- 2 IV層土主体。
- 3 黒色土：粘質土。

第28図 3号土坑平・断面図

4 ビット

1号ビット（4区）【第29図 PL.5】

位置 X=36855 Y=-41106~-41107

重複 無し

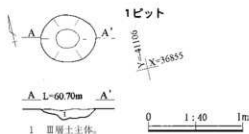
規模 長軸長0.59m 短軸長0.48m 最深部0.13m

平面形状 ほほ12円形



**断面形状** 底部に平坦部はほとんどなく、凹みが多くみられる。東壁は角度を付けて立ち上がり、西壁は緩やかに立ち上がる。

**調査所見** 埋土はⅢ層主体土の堆積がみられることから、As-B混土形成後に掘り込まれたと考えられる。遺物は出土していない。



第29図 1号ビット平・断面図

## 5 井戸

1号井戸（2区）【第30・31図 PL.5】

**位置** X=36928～36929 Y=-41186～-41187

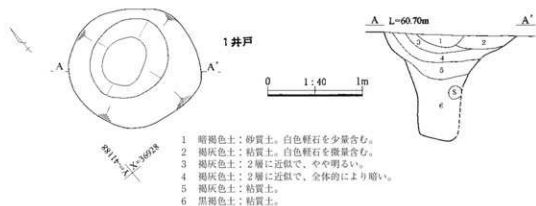
**重複** 無し

**規模** 長軸長1.40m 短軸長1.26m 最深度1.14m

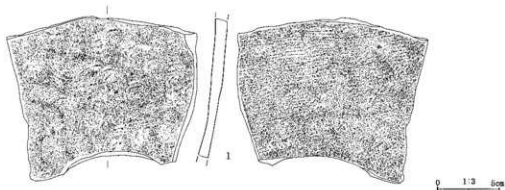
**平面形状** 不整形な円形状

**断面形状** 上部は逆台形状に広がり、中位より下部は円筒形状。底部は平坦。

**調査所見** 開口部より緩やかに傾斜して漏斗状に掘り下がっている。中位より下部の南東壁はえぐり込まれている。埋土は下層に粘質土が堆積しており、上層では白色軽石粒の混入が観察されている。遺物として須恵器が出土しているが、当井戸の使用時期を推定するための判断資料としては適切ではなく、掘り込まれた時期、埋没時期共に判然としない。



第30図 1号井戸平・断面図



第31図 1号井戸出土遺物

## 2号井戸（6区）【第32・33図 PL.6】

位置 X=36731~36733 Y=-40919~-40920

重複 無し

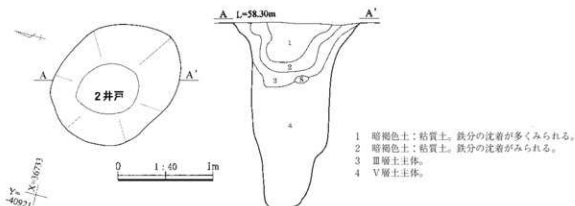
規模 長軸長1.44m 短軸長1.13m 最深部1.96m

平面形状 不整形な円形状

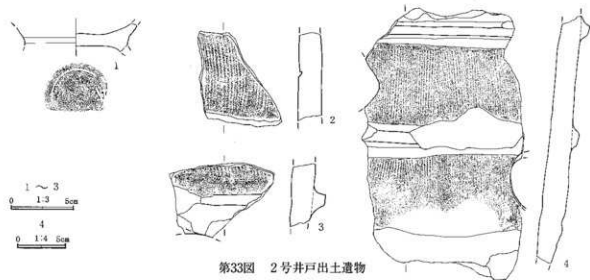
断面形状 円筒形状であるが、中位より下部はその幅が狭くなり、以下、直線的に掘り下がる。底部は

ほぼ平坦である。

調査所見 埋土は最下層にV層主体土が、その直上にIII層主体土が堆積していることから、As-B混土層形成後に掘り込まれたと考えられる。開口部は漏斗状に開き、以下、底部に向かって直線的に掘り下がっている。遺物は円筒埴輪片、土師器片、須恵器片が出土している。



第32図 2号井戸平・断面図



第33図 2号井戸出土遺物

## 6 水田

本遺跡最西端の1区、並びに5区においては、後世の土壌入れ替え事業により、1108年（天仁元年）降下の浅間山B軽石（As-B）の堆積を確認することが出来なかった。一方、As-B層が確認された2区の一部、3区のはほぼ全域、4区の一部、6区のはほぼ全域より、As-Bに埋没する水田面が検出された。

なお、2区・3区・4区・6区で確認されたAs-

B層は他の構造物を含んでおらず、一次堆積の状態が認められる。

## 2・3区で検出された水田【第34・37図 PL.6】

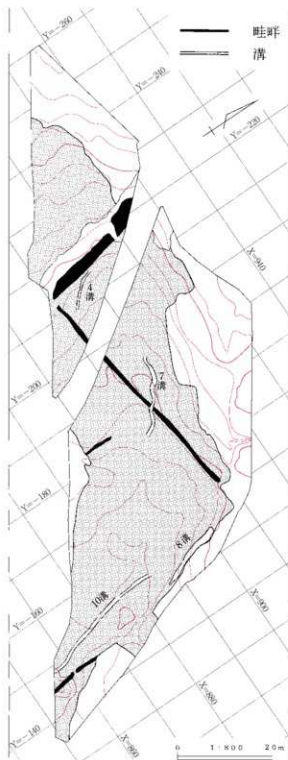
互いに隣接する2区と3区は、両区にわたり継続する遺構がみられることから、一連の水田として取り上げることとする。

### 第3章 古水条里制水田跡

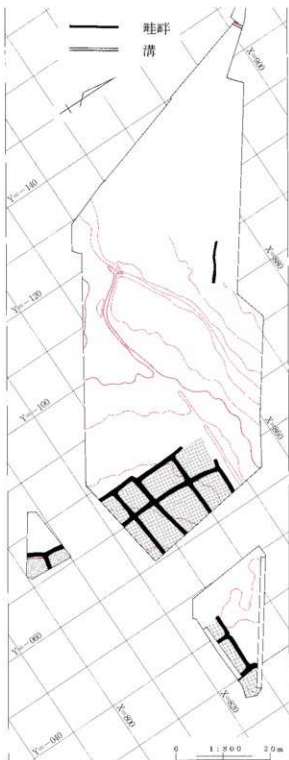
2・3区ではほぼ全域を覆っているAs-B層の残存状況は、7cm～2cm程度の堆積がみられる。

地形は北西から南東へ緩やかに傾斜している。2区・3区に形成されている水田の標高最高点は西端

部の61.2m付近で、標高最低点は南東端部の59.5m付近である。3区北側と東側に標高がわずかに高い微高地が形成されており、この微高地に囲まれた南西部に広がる低地に水田が形成されている。

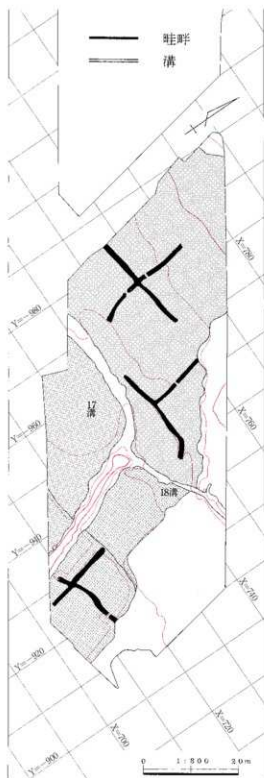


第34図 2・3区水田平面図



第35図 4区水田平面図

遺構として南北方向の畦畔が3条、東西方向の畦畔が1条確認されている。確認された畦畔はほぼ東西南北方向に走向を持つことから、古水周辺で推定されている古代条里区画に沿ったものと想定され



第36図 6区水田平面図

る。しかし畦畔は水田面全域にわたり確認されておらず、特に中心部における残存状況が悪い。検出することができた畦畔も、恐らく後世の耕作による削平や土圧等の影響を受け、その状況は良好ではなく、どれも扁平状にわずかな高まりとして認識出来る程度である。形状はほぼ直線状である。2区にみられる最西部の畦畔 ( $X=36901\sim 36926$   $Y=-41214\sim -41223$ ) は、他の畦畔に比較し規模が大きい(最大幅3.4m)ことから、おそらく小畦畔に通じる作業道を兼ねたものと思われるが詳細は不明である。また南東端部で検出された畦畔には、水口が伴っている。

埋土がAs-Bの一次堆積層となっており、水田と同時期に使用されていたと考えられる8・10号溝(第14・15図)は、南北方向の畦畔とほぼ平行している。特に8号溝は東に隣接する微高地の縁辺部を流れることから、水田耕作に伴う溝であると想定できる。一方の4・7号溝(第11・13図)は水田区画を無視した走向となっていることから、水田耕作との関係、機能的な詳細については不明である。

As-B直下の水田耕作土は黒色粘質土(V層)となっている。なお遺物として耕作土中より土師器片、須恵器片、火鉢破片、砥石が出土し、また混入したと思われる高坏脚部が出土している。

#### 4区で検出された水田【第35図 PL.6】

4区においてAs-B層の残存が確認されたのは西側の一部のみで、厚さ7cm～2cmの堆積がみられる。

地形は北西から南東へ緩やかに傾斜している。4区で形成されている水田の標高最高点は北西端部の59.30m付近で、標高最低点は南東端部の58.95m付近である。水田は南東部の低地を中心に形成されている。なお、4区中央付近( $X=36867\sim 36872$   $Y=-41101\sim -41108$ )に畦畔が検出されているが、それに伴う水田面は確認されていない。

遺構として南北方向の畦畔が5条、東西方向の畦畔が6条確認されている。確認された畦畔は調査区中央付近( $X=36867\sim 36872$   $Y=-41101\sim$

41108) の1条を除き、ほぼ東西方向及び南北方向に走向を持つことから、2区・3区同様、古水周辺で推定されている古代条里区画に沿ったものと想定される。

畦畔の残存状況は、後世の耕作による削平や土圧等の影響を受けており、どれも扁平状にわずかな高まりとして認識出来る程度である。形状はほぼ直線状である。畦畔の残存状況より、水田の平面形状は不定形ながら方形を呈していたと思われる。4区では南東部の低地を中心に水田面が確認されているが、調査区中央付近に畦畔が検出されていることか

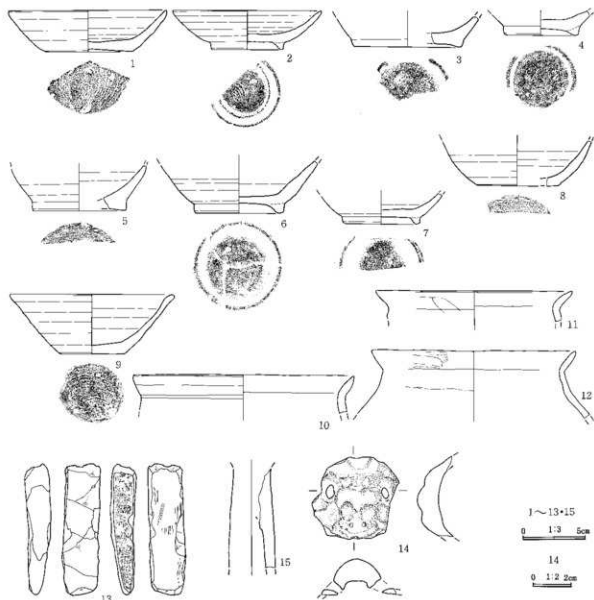
ら、北西部へも広がっていた可能性がある。

As-B直下の水田耕作土は黒色粘質土(V層)となっている。遺物は出土していない。

6区で検出された水田【第36・38図 PL.6】

6区は北西端の標高が58.60m、南東端が58.10mとなっており、北から南へ向かって緩やかに傾斜している。As-B層の残存が確認されたのは、中央部北側微高地を除いた、ほぼ全域で、約19cm～3cm程度の堆積がみられる。

地形は北側水田面が収束する標高58.25mライン



第37図 2・3区水田出土遺物

近辺で傾斜角度の変化がみられ、以後、南へ向かい緩やかに傾斜している。また調査区北西側に微高地が張り出している。6区の地形は、南側より標高58.10mまでの平坦地、そこから58.25mまでの平坦地、更に北端までの微傾斜地の主に3区画に分けることが出来る。水田面は、微高地を除いたほぼ全域に形成されている。

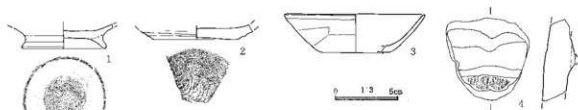
水田の標高最高点は北西端部の58.45m付近で、標高最低点は南東端部の58.10m付近である。

遺構として南北方向の畦畔が3条、東西方向の畦畔が3条確認されている。確認された畦畔はほぼ東西方向及び南北方向に走向を持つことから、2区～4区同様、古水周辺で推定されている古代条里区画に基づくものと想定される。

畦畔の残存状況は、後世の耕作による削平や土圧

等の影響を受けており、どれも扁平状にわずかな高まりとして認識出来る程度である。形状はほぼ直線状であるが、調査区中央付近の東西方向に位置する畦畔( $X=36743\sim 36746$   $Y=-40938\sim -40958$ )のみ、途中で走向に変化がみられる。畦畔の残存状況より、水田の形状はほぼ方形を呈していたと思われる。また、同様にほぼ方形の水田が検出された4区の水田と比較し、1区画あたりの水田面積に相違がみられる。6区の水田の方が面積が広いことがわかる。

As-B直下の水田耕作土は黒色粘質土(V層)となっている。なお遺物は微高地より須恵器片、円筒埴輪片、石器が、水田耕作土中より土師器片、須恵器片、円筒埴輪片が出土している。



第38図 6区水田出土遺物

## 7 その他の遺構

古水条里制水田跡第1面では、その他の遺構として2区北側で溜まり状の遺構が確認されており、1号落ち込みとした。

### 1号落ち込み(2区)【第39・40図 PL.7】

位置  $X=36925\sim 36930$   $Y=-41209\sim -41216$

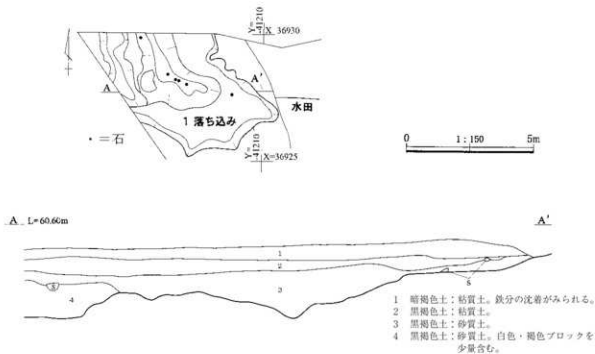
重複 無し

規模 長軸長7.90m 短軸長3.45m 最深部0.81m

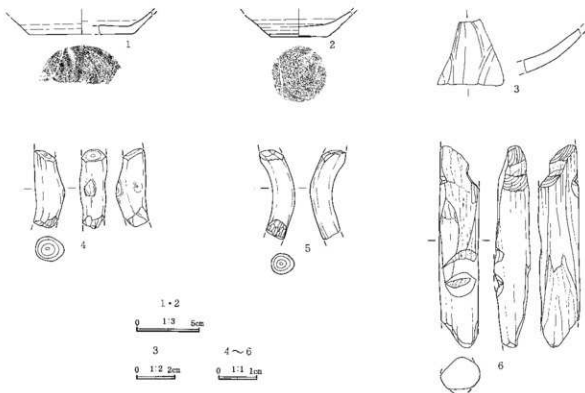
平面形状 不整形

断面形状 西側付近の底部に平坦部がみられるものの、中心部に向かって起伏が激しい。東壁の立ち上がり部付近で底部が一段深くなり、その後緩やかに立ち上がる。中位でテラス状となり、その後は再び緩やかに立ち上がる。

調査所見 1号落ち込みは2区北側で確認されており、市道を挟んで隣接する1区に継続している様子はみられない。落ち込みは一段下がった所で広いテラスを形成しており、この一段目テラスの主な埋土は粘質土となっている。テラス中程では径15cm程の石が出土している。一段目テラスからさらに下層に向かって落ち込みが形成されており、ここでも底部において同様に径15cm程の石が5点出土している。その他の遺物は出土していない。この下層の埋土は砂質土が堆積していることから、ある程度の流れを持って対流していた時期があったと想定できる。特に最下層では、白色・褐色ブロックなどの混入が観察されている。出土している遺物・遺構の性格・掘り込まれた時期・埋没時期等の詳細は不明である。



第39図 1号落ち込み平・断面図



第40図 1号落ち込み出土遺物

## 断層 (2区)【第41図 PL.7】

位置 X=36920 Y=-41170~-41180

重複 無し

走向 N-89°-W

規模 長さ16.5m

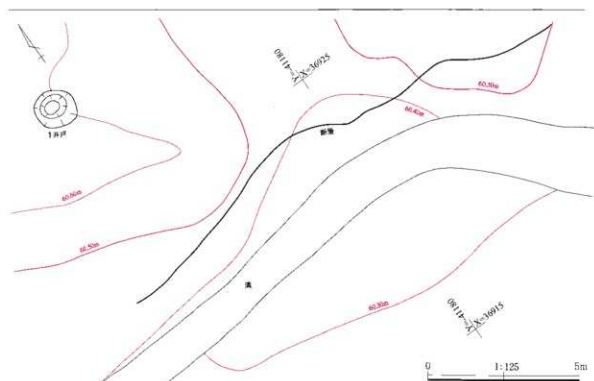
傾斜 東端60.49m 西端60.45m (比高0.04m)

形状 曲線が連続し、全体的に緩やかに蛇行を繰り返す。

調査所見 2区東側のAs-B直下において地層のズレを確認したため、断層として調査した。断層は、2区北側に位置し、比較的平坦な面を有する区画から、微高地へと徐々に立ち上がる緩斜面上にある。ほぼ東西方向に走向しており、東側は調査区外側に継続していると想定される。周辺には北に1号井戸、南に6号溝が確認されており、断層のすぐ南側を現代の溝が走行している。断層は緩斜面を形成する法面にはほぼ平行している。調査方法としては、その範

囲を確認するために作業員の手により、平面を精査した。次にトレンチを設定して断面観察を行った。

調査時、平面精査で断層が確認された当初、歴史書「類聚国史」(892年、菅原道真撰修)に記されている、上野国に甚大な被害をもたらした大地震(弘仁9年:818年)で生じた断層ではないかとの推察を得た。そうした可能性を含めて、トレンチ調査等、詳細な観察を行った。これは、本県における従来の発掘調査で、特に赤城山南西斜面に展開する旧新里村・旧大胡町・前橋市などを中心に、この大地震に伴う土石なだれ・洪水・地割れ・断層の痕跡が多く確認されていることから、本遺跡の断層もそれに該当するものではないかと考えたからである。しかし断面観察による土層の堆積状況を検討した結果、「類聚国史」に記録されている大地震よりもかなり古く、縄文時代頃にできた断層との所見を得ている。なお、周辺より遺物の出土は確認されていない。



第41図 断層平面図



## 第5節 2面の調査

## 1 概要

古水条里制水田跡の1区・2区・3区・6区においては、1面調査終了後、順次、As-Bで埋没した水田の耕作土下を掘削して下層の遺構を確認した。またAs-Bで埋没した水田が確認されていない調査区においては、V層を掘り下げ、同様に下層の遺構を確認した。その結果、1区・2区・3区・6区においては1面下層における文化層を確認することができなかった。

また、4区南側においてはN-80°-Eの方向に幅0.8m~1.4m、長さ18.5m~48.7mのトレンチを約7.0m間隔で設定し、断面観察により下層の遺構の広がりを確認した。また5区ではその全域において、N-77°-Eの方向に幅0.7m~1.0m、長さ6.3m~39.5mのトレンチを約6.0m間隔で計8本設定し、同様に下層の遺構の広がりを確認した。その結果、部分的にHr-FA混土層(VII層)下において遺構を確認することができたため、VII層直下を第2面として調査対象とした。なお、4区と5区に挟まれている2箇所の小区画調査区でもトレンチを設定したが、ここでは遺構を確認することができなかった。トレンチの掘削、並びに遺構確認面の上面までは掘削機械を使用し、遺構の確認作業及び埋土除去作業は発掘作業員の手によって行った。

このように、平成17年度に実施された第2期調査にあたる4区・5区においては、調査期間等の関係から、より効率的な発掘調査を求められたため、該当する調査区全面を掘り下げるのではなく、事前のトレンチ調査により遺構の広がりを確認した上で、部分的に第2面の発掘調査を実施することとした。結果、4区の一部と、5区においては北西部の一部を調査することとなった。

第2面では黒色粘質土(VII層)に掘り込まれた遺構の調査となり、その埋土の多くは、Hr-FAを含む、暗褐色・黒褐色の粘質土(VI・VII層)である。4区では北端で大きく屈曲している溝と、それに隣接す



第42図 2面遺構全体図

る同規模の溝を確認している。両溝とも遺物を多く含んでおり、22号溝は本遺跡で最も多く遺物を検出している。その他の溝はいずれも小規模な溝である。また、土坑も複数検出しており、本遺跡で最も集中して分布している。5区では蛇行した規模の大きな溝と、そこから派生する小規模な溝、また土坑・ピットを確認することができた。

## 2 溝

### 19号溝 (4区) 【第43図】

位置 X=36899 Y=-41143 ~ -41145

重複 無し

走向 N-60°-E

調査長 1.92m

幅 最大0.50m 最小0.17m

深さ 最深部0.21m 最浅部0.15m

傾斜 東端60.00m 西端60.00m

形状 底面は凹凸が目立ち、角度を付けて立ち上がる。

調査所見 遺構確認の段階では、ほぼ東西の位置に並んだ2個体のピットとして検出されたため、それぞれ別個のピットとして調査していたところ、掘り上がりの状態で双方のピットが連結し、溝状になったため、19号溝として扱った。埋土はⅢ層主体土にローム粒、焼土粒が混入していることから、Hr-FA混土形成後に掘り込まれたと考えられる。溝の東端は角度を付けて急に立ち上がり唐突に終結しているため、人工的に掘り込まれた可能性がある。19号溝は調査区外西側へさらに継続している。溝内の流水作用によって摩耗した土師器の小破片が出土している。

### 20号溝 (4区) 【第44図 PL.7】

位置 X=36891 Y=-41138 ~ -41142

重複 21号溝と重複

走向 N-88°-E

調査長 4.95m

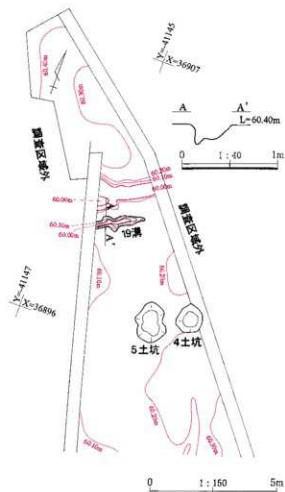
幅 最大0.40m 最小0.25m

深さ 最深部0.10m 最浅部0.05m

傾斜 東端60.05m 西端60.10m (比高0.05m)

形状 底面は丸みをおび、湾曲しながら立ち上がる。

調査所見 走向はほぼ東西の軸に乗っており、東端付近で21号溝と直交している。溝の規模、形状、埋土などから判断し、21号溝との間に時期差は考えられず、同時期に存在していたと思われる。両溝とも19号溝と同様、溝末端部はほぼ垂直に立ち上がって終結していることから、19号溝~21号溝の3本は、同様の目的で掘り込まれたことも想定される。20号溝は調査区外西側へ継続すると思われるが、隣接する3区では確認されていない。埋土はⅢ層主体土で、最下層はⅢ層主体土が堆積していることから、Hr-FA混土形成後に掘り込まれたと考えられる。遺物は出土していない。



第43図 19号溝平面図・エレベーション図

## 21号溝(4区)【第44図 PL.7】

位置 X=36890~36894 Y=-41138~-41139

重複 20号溝と重複 走向 N-10°-W

調査長 4.6m 幅 最大0.45m 最小0.25m

深さ 最深部0.13m 最浅部0.05m

傾斜 北端60.20m 南端60.15m (比高0.05m)

形状 底面は丸みをおび、湾曲しながら立ち上がる。

調査所見 わずかにS字状に湾曲しており、南端付近で20号溝と重複している。両端はそれぞれ唐突に途切れており、徐々に立ち上がりながら自然に消滅するという形状ではないことから、人工的に掘り込まれたと考えられる。埋土は下層がⅡ層主体土で、上層はⅠ層主体土となっている。掘り込まれた時期は20号溝と同様、Hr-FA混土層形成後と考えられる。遺物は出土していない。

## 22号溝(4区)【第45~50図 PL.7・8】

位置 X=36865~36892 Y=-41126~-41139

重複 無し 走向 屈曲しているため計測不能。

調査長 42.75m 幅 最大4.50m 最小2.55m

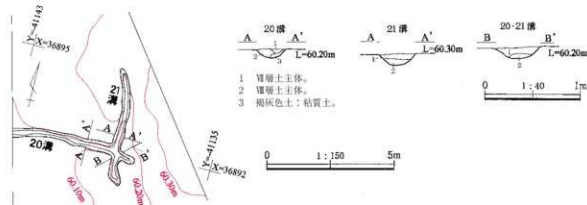
深さ 最深部0.85m 最浅部0.45m

傾斜 北端59.50m 南端59.10m (比高0.40m)

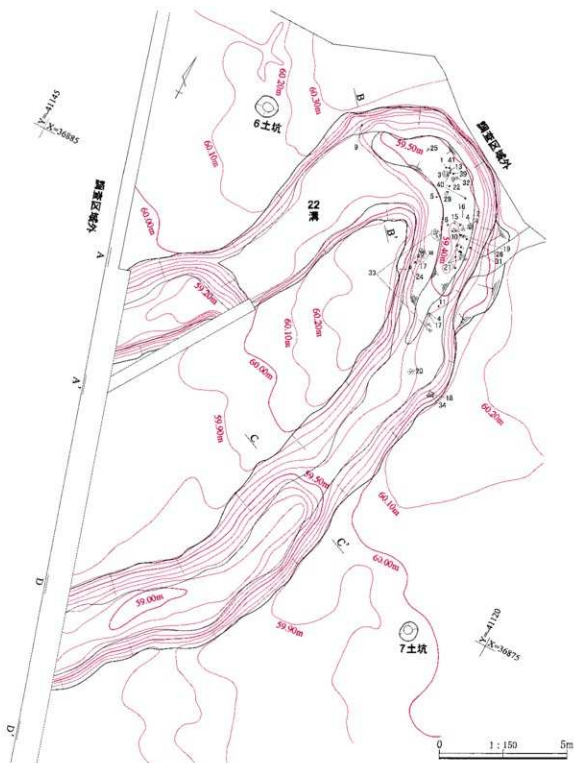
形状 底面は部分的に平坦面があるが、全体的に起伏が多くみられ、逆台形状に立ち上がる。

調査所見 22号溝はU字状で、北端の屈曲部を頂点とし、ほぼ平行して南へ延びている。南側を平成17年度、屈曲部を含む北側を平成18年度と、異なる年

度にそれぞれ調査している。そのため、平成17年度に調査した際は、平行する溝をそれぞれ別の溝として理解していたが、翌18年度の調査により、これらの溝が大きく湾曲し、一体のものであることが判明した。埋土は最下層に砂質土が堆積しており、その上に黒色粘質土を中心とした粘性の強い土が重なっている。底面の高低差より西から東へ走向していると推定できるが、埋土の堆積状況を観察してみると粘質土が主体となっていることから、時間をかけて徐々に堆積していった傾向がみられ、使用時は、流れが大変緩やかな状態であったと思われる。調査区外南側へ継続すると思われるが、隣接する3区では確認されていない。22号溝は北西端底面で、約50cm程の段差が認められる。この周囲の凹んだ場所で、木片を含めた木質の痕跡が数点出土しているが、全体形の判然としなものであった。また土器類は、北側屈曲部に集中して出土している。器面の摩滅が甚だしく、またその多くが完形ではないことから考えると、他の場所から緩やかな水流によって流され、屈曲部の溜まり部に止まったと考えることもできる。その一方で、わずかではあるが残存状況が良好な土器もあり、また出土している器種が比較的限られていることから、投棄原位置であることも想定される。平成18年度の調査時では、22号溝の他の場所ではほとんど遺物は確認されておらず、屈曲部に集中して出土していることから、この場所で祭祀等が行われた可能性がある、との所見を得ている。出土



第44図 20・21号溝平・断面図

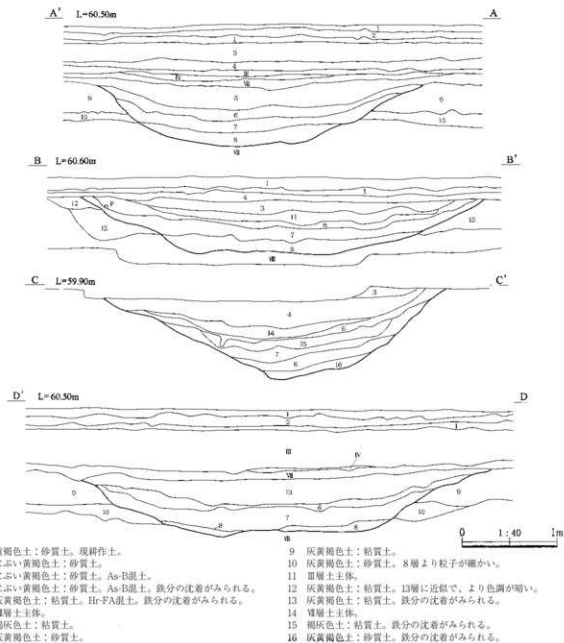


第45図 22号溝平面図

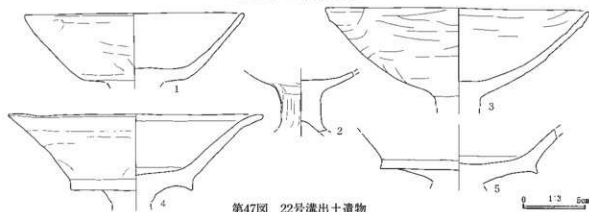
遺物は概ね4・5世紀代の資料と考えられる。南側の土層では溝埋没後、Hr-FA混土により覆われている様子が観察できることから、22号溝は出土遺物、また、埋土の堆積状態より、Hr-FA降下以前に掘り

込まれ、南側の一部はⅦ層生成以前には溝としての機能が失われていたと考えられる。また土層観察より、22号溝におけるⅦ層(Hr-FA混土層)は、As-B降下直前に覆土として生成されたと思われる。

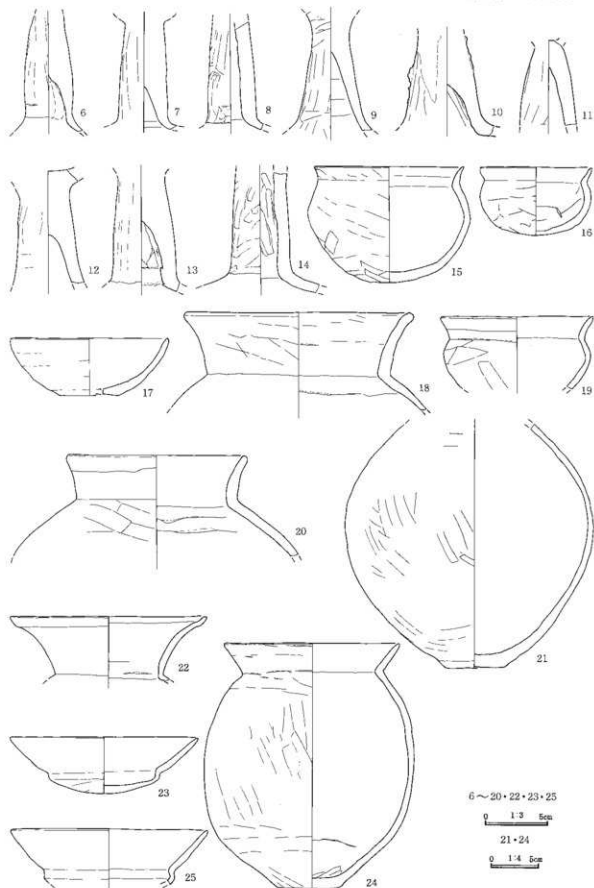
第3章 古水条里制水田跡



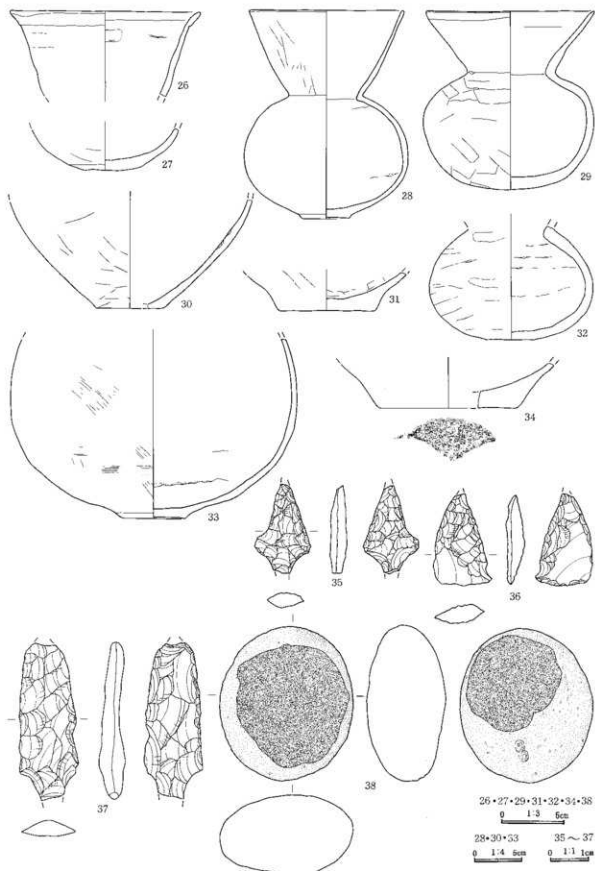
第46図 22号溝断面図



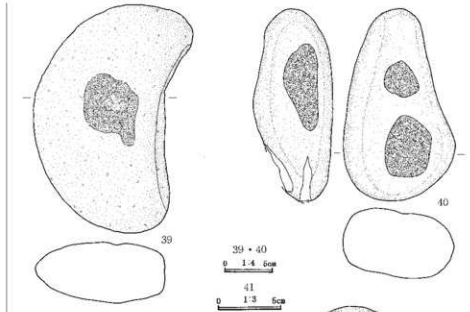
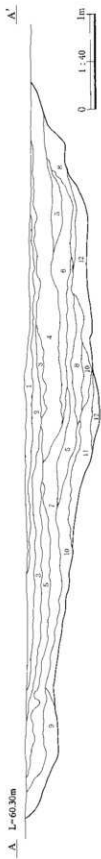
第47図 22号溝出土遺物



第48図 22号溝出土遺物

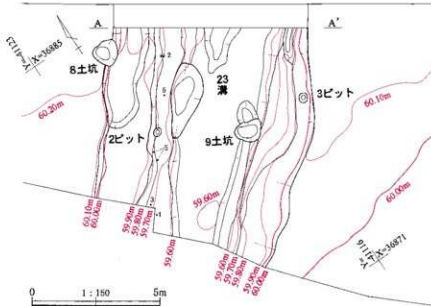
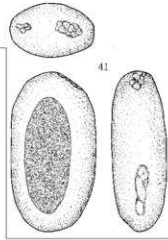


第49図 22号溝出土遺物



第50図 22号溝出土遺物

- 1 黒褐色土主体。
- 2 黒褐色土；粘質土。As-Bを微量含む。
- 3 黒褐色土主体。
- 4 灰黄褐色土；粘質土。鉄分の沈着が多くみられる。Hr-FA混土。
- 5 灰黄褐色土；粘質土。鉄分の沈着が少量みられる。
- 6 灰黄褐色土；粘質土。鉄分の沈着が多くみられる。
- 7 灰黄褐色土；粘質土。鉄分の沈着がみられる。砂粒を含む。
- 8 灰黄褐色土；粘質土。鉄分の沈着がみられる。
- 9 褐色土；粘質土。鉄分の沈着がみられる。
- 10 灰黄褐色土；砂質土。鉄分の沈着が少量みられる。
- 11 褐色土；砂質土。鉄分の沈着がみられる。
- 12 暗灰色土；粘質土。鉄分の沈着がみられる。



第51図 23号溝平・断面図



23号溝 (4区) 【第51・52図 PL. 8】

位置 X=36873~36884 Y=-41113~-41123

重複 8号土坑、9号土坑、2号ピット、3号ピット

走向 N-39° -E

調査長 8.62m

幅 最大8.50m 最小7.55m

深さ 最深部0.78m 最浅部0.50m

傾斜 北端59.55m 南端59.55m

形状 底面は部分的に平坦部がみられる。法面はテラス状となっており、特に西側のテラスでは広範囲に平坦部がみられる。底面からの立ち上がり部には、東西両端にそれぞれ溝状の凹みがみられる。

調査所見 23号溝は本遺跡で最も広い幅を持つ溝で、最大幅はおよそ8.50mである。底面は中心部周辺の一部で平坦部が見られるものの、全体的に起伏がみられる。埋土は粘質土が主体だが、上層にはHr-FA混土、As-B混土が堆積している。出土遺物は器面の摩滅が多く見られるが、概ね4世紀代の資料が多数出土している。また、底面の凹んでいる場所より、木片を含む木質の痕跡が少数出土しているが、摩滅が甚だしく、全体形の判然としないうであった。23号溝は調査区外北側と南側にも継続していると考えられるが、南側調査時には検出することが出来なかった。出土遺物、また充填されている土層の観察より、Hr-FA降下前に掘り込まれ、Hr-FA降下後に埋没したと想定される。

24号溝 (4区) 【第53図 PL. 8】

位置 X=36834~36839 Y=-41922~-41944

重複 無し

走向 N-0°

調査長 5.65m

幅 最大0.47m 最小0.15m

深さ 最深部0.12m 最浅部0.06m

傾斜 北端59.11m 南端59.13m (比高0.02m)

形状 底面はほぼ平坦で、逆台形状に立ち上がる。

調査所見 4区のはほぼ中央部分に位置し、南北に直線上に延びている。北側に規模を同じくする25号溝が位置しているが、軸がずれているため、同一の遺構とは考えにくい。埋土はⅦ層主体土のみで、Hr-FA混土層形成後に掘り込まれたと想定される。遺物は出土していない。

25号溝 (4区) 【第53図 PL. 8】

位置 X=36842~36848 Y=-41085~-41086

重複 無し

走向 N-6° -E

調査長 5.95m

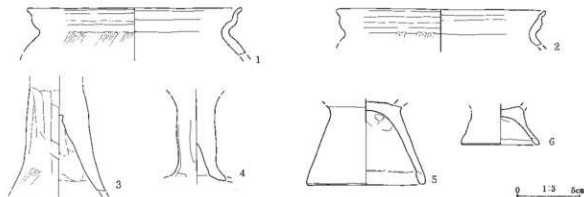
幅 最大0.35m 最小0.15m

深さ 最深部0.18m 最浅部0.04m

傾斜 北端59.23m 南端59.15m (比高0.08m)

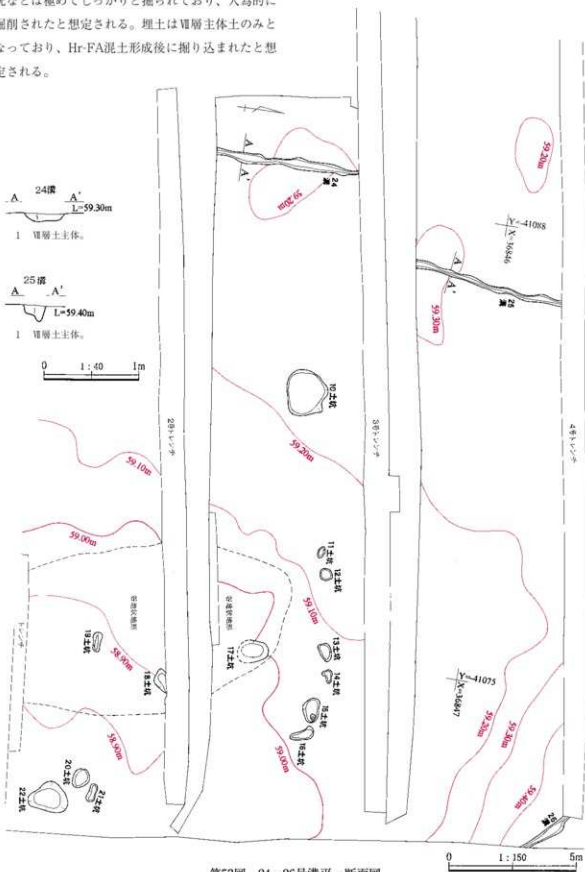
形状 底面は丸みをおび、西側はテラス状。

調査所見 底面には部分的に凹みがみられる。幅は狭く、規模は決して大きくないが、立ち上がり部の状



第52図 23号溝出土遺物

況などは極めてしっかりと掘られており、人為的に掘削されたと想定される。埋土はⅡ層主体土のみとなっており、Hr-FA混土形成後に掘り込まれたと想定される。



第53図 24~26号溝平・断面図

26号溝 (4区) 【第53図 PL.8】

位置 X=36850~36852 Y=-41063~-41065

重複 無し

走向 N-46° -W

調査長 2.05m

幅 最大0.40m 最小0.20m

深さ 最深部0.08m 最浅部0.06m

傾斜 北端59.45m 南端59.43m (比高0.02m)

形状 底面はわずかに丸みをおびている。

調査所見 4区北東端に位置し、東側は調査区外へと継続している。埋土は確認されていないため、掘り込まれた時期、埋没時期の詳細については不明であるが、As-B層直下で検出された遺構である。遺物は出土していない。

27号溝 (5区) 【第54・55図 PL.8・9】

位置 X=36786~36812 Y=-41042~-41085

重複 28号溝と重複

走向 N-28° -W

調査長 22.6m

幅 最大6.35m 最小2.70m

深さ 最深部0.67m 最浅部0.09m

傾斜 北端58.29m 南端58.02m (比高0.27m)

形状 底面はほぼ平坦だが、南側で溝状の凹みが27号溝を横断するように掘られている。法面はほぼ逆台形状だが、北西壁 (X=36806 Y=-41058付近) にテラス状の段差がみられる。

調査所見 5区西端に位置しており、湾曲しながら南へ流れている。南に流れていくに従い、幅・深さ共に規模が拡大していく傾向がみられる。28号溝との合流付近 (X=36805付近) で、走向が南東方向に変化し、その辺りから幅が開き始める。この屈曲点周辺では木質の痕跡が集中的に複数出土している。この木質の痕跡は溝に直交し、溝の底面付近をふさぐ様な形で出土もみられるが、原型をとどめておらず、また全体形も判然としなため詳細は不明である。また、28号溝との合流付近で、西壁がテラス状に立ち上がっており、そこから主に4世紀代の土

師器が多数出土している。埋土は下層に粘質土、上層にⅦ層主体土が堆積していることから、Hr-FA混土形成後に掘り込まれたと考えられる。底面からの立ち上がりは、角度を持ち逆台形状にしっかりと掘削された様子がうかがえることから、人為的に掘られた遺構と想定される。特に南側にいくほどその傾向は顕著である。

28号溝 (5区) 【第54・56図 PL.9】

位置 X=36803~36807 Y=-41057~-41060

重複 27号溝・4号ピット・5号ピットと重複

走向 N-64° -W

調査長 3.0m

幅 最大2.60m 最小2.05m

深さ 最深部0.17m 最浅部0.05m

傾斜 東端58.50m 西端58.55m (比高0.05m)

形状 底面はほぼ平坦で、皿底状に立ち上がる。

調査所見 27号溝同様、5区西端に位置し、27号溝に合流する。溝の形状、規模等から、27号溝とは別の遺構と判断した。また出土遺物はわずかで、埋土も観察されていないため、掘り込まれた時期、埋没時期、28号溝との新旧関係は判然としませんが、As-B層直下で検出された遺構である。

3 土坑

4号土坑 (4区) 【第57図 PL.9】

位置 X=36897~36898 Y=-41140

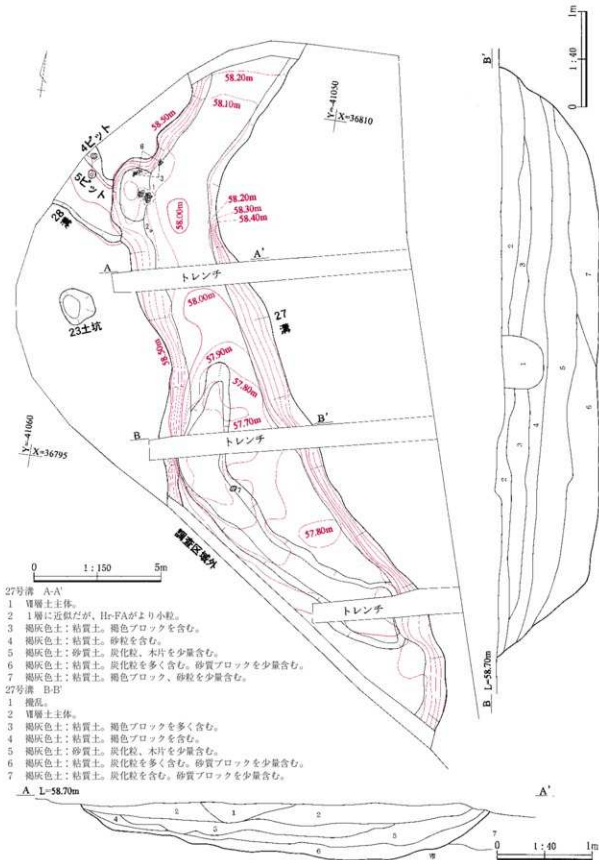
重複 無し

規模 長軸長1.15m 短軸長0.98m 最深部0.20m

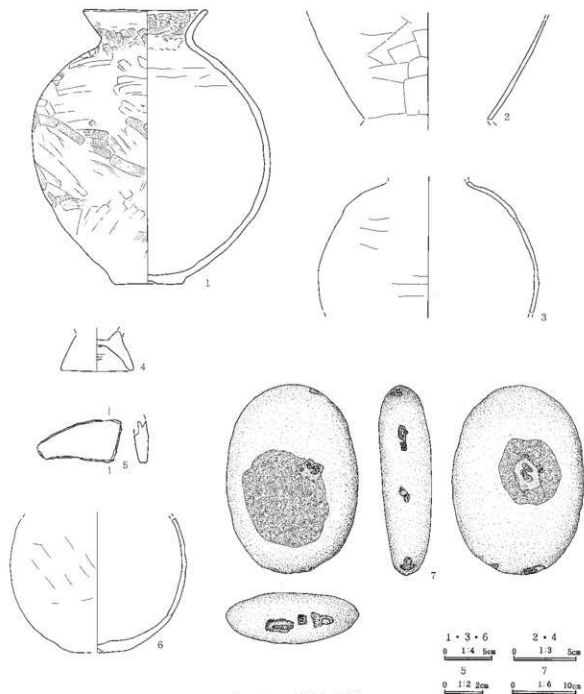
平面形状 ほぼ円形

断面形状 底部に平坦部はみられない。北東壁はほぼ直角に立ち上がり、南西壁は緩やかに傾斜しつつ立ち上がる。

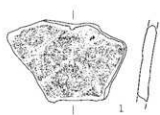
調査所見 底部に凹みを多数確認することができる。埋土はⅦ層主体土となっており、Hr-FA混土形成後に掘り込まれたと考えられる。4号土坑からは土師器片が出土している。



第54図 27・28号溝平・断面図



第55図 27号溝出土遺物



第56図 28号溝出土遺物

0 1.2 2cm

5号土坑(4区)【第57図 PL.9】

位置 X=36896~36897 Y=-41141~-41142

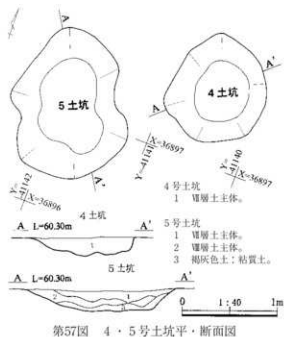
重複 無し

規模 長軸長1.60m 短軸長1.01m 最深部0.21m

平面形状 不整形な楕円形状

断面形状 底部にわずかな平坦部がみられる。南東壁は角度をつけてほぼ直線的に立ち上がり、北西壁は緩やかに立ち上がる。

調査所見 底部は部分的に凹みを確認することができる。埋土は下層に粘質土、上層にⅡ層主体土が堆積していることから、Hr-FA混土形成後に掘り込まれたと考えられる。西側に隣接する4号土坑とはほぼ同時期の所産と考えられる。5号土坑からは土師器片がわずかに出土している。



第57図 4・5号土坑平・断面図

6号土坑(4区)【第58図 PL.9】

位置 X=36889~36890 Y=-41137~-41138

重複 無し

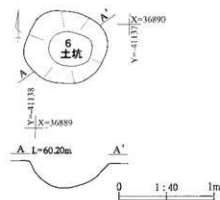
規模 長軸長0.83m 短軸長0.76m 最深部0.27m

平面形状 ほぼ円形

断面形状 底部に丸みをおび、緩やかに立ち上がる。

調査所見 底部は比較的丁寧に掘削されている。埋土は下層に粘質土、上層にⅡ層主体土と思われる層

が堆積していることから、Hr-FA混土形成後に掘り込まれたと考えられる。6号土坑からは土師器片がわずかに出土している。



第58図 6号土坑平面図・エレベーション図

7号土坑(4区)【第59図 PL.9】

位置 X=36873~36874 Y=-41122~-41123

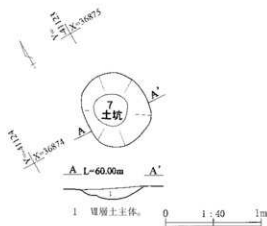
重複 無し

規模 長軸長0.78m 短軸長0.67m 最深部0.12m

平面形状 ほぼ円形

断面形状 底部はわずかに丸みをおび、緩やかに立ち上がる。

調査所見 底部はわずかに凹みがみられるが、比較的丁寧に掘削されている。埋土はⅡ層主体土と思われる層が堆積していることから、Hr-FA混土形成後に掘り込まれたと考えられる。7号土坑からは遺物は出土していない。



第59図 7号土坑平・断面図

8号土坑(4区)【第60図】

位置 X=36883~36884 Y=-41119~-41120

重複 23溝に先行

規模 長軸長1.00m 短軸長0.89m 最深部0.38m

平面形状 不整形な方形で、東側に張り出す。

断面形状 底部に平坦部はみられない。底面積は狭く、漏斗状に立ち上がる。

調査所見 底部は中央付近が凹んでいる。埋土は色調の異なる2層の粘質土よりなる。8号土坑の南側は23溝によって削平されていることから、23号溝よりも古い時期に掘り込まれたと考えられる。8号土坑からは遺物は出土していない。



第60図 8号土坑平・断面図

9号土坑(4区)【第61図】

位置 X=36877~36878 Y=-41116~-41117

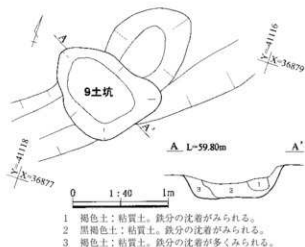
重複 23溝と重複

規模 長軸長1.08m 短軸長0.79m 最深部0.30m

平面形状 不整形な楕円形状で、東側に張り出す。

断面形状 底部は平坦で、逆台形状に立ち上がる。

調査所見 底部はほぼ平坦であるが、中央部周辺がわずかに凹んでいる。埋土は色調の異なる粘質土よりなる。23号溝底部より東壁が立ち上がる場所に位置しているが、23号溝との新旧関係は不明である。9号土坑からは遺物は出土していない。



第61図 9号土坑平・断面図

10号土坑(4区)【第62図 PL.10】

位置 X=36838~36839 Y=-41079~-41081

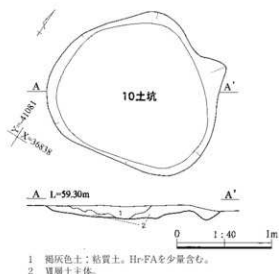
重複 無し

規模 長軸長1.92m 短軸長1.50m 最深部0.14m

平面形状 不整形な方形

断面形状 底部はほぼ平坦である。南西壁は皿底状に緩やかに立ち上がる。

調査所見 底部は広く平坦面で占められている。埋土はHr-FA主体土が堆積していることから、Hr-FA混土形成後に掘り込まれたと考えられる。遺物は出土していない。



第62図 10号土坑平・断面図

## 11号土坑(4区)【第63図 PL.10】

位置 X=36840 Y=-41073~41074

重複 無し

規模 長軸長0.45m 短軸長0.25m 最深部0.04m

平面形状 不整形な楕円形状

断面形状 底部は平坦で、逆台形状に立ち上がる。

調査所見 4区東側の谷地状地形の北側縁辺に位置する土坑群の一つである。11号土坑を含め、6基の土坑が東西に並んでいる。複数の土坑がこのように集中している様相は他ではみられないこともあり、谷地状地形と何らかの関係があると想定されるが、詳細は不明である。また、埋土は不明で、遺物も出土していない。第1面では確認されていないことから、As-B降下前に埋没したと考えられる。

## 12号土坑(4区)【第63図 PL.10】

位置 X=36840~36841 Y=-41073

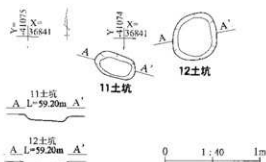
重複 無し

規模 長軸長0.54m 短軸長0.46m 最深部0.05m

平面形状 不整形な円形状

断面形状 底部はほぼ平坦で、中央付近がわずかに凹む。皿底状に緩やかに立ち上がる。

調査所見 11号土坑と隣接し、同様に谷地状地形の北側縁辺に位置する土坑群の一つである。平面形状は異なるが、深さはほぼ同様であり隣接することから、11号土坑と同じ性格の遺構と想定される。また、埋土は不明で、遺物も出土していない。第1面では確認されていないことから、As-B降下前に埋没したと考えられる。



第63図 11・12号土坑平面図・エレベーション図

## 13号土坑(4区)【第64図 PL.10】

位置 X=36841 Y=-41069~41070

重複 無し

規模 長軸長0.73m 短軸長0.42m 最深部0.08m

平面形状 不整形な方形形状

断面形状 底部はほぼ平坦で、皿底状に緩やかに立ち上がる。

調査所見 11号土坑・12号土坑より少し東に離れたところに、13号土坑から16号土坑までの4基の土坑の一群が位置している。同様に谷地状地形の北側の縁辺に沿うように並んでいる。埋土に関する記録はなく、遺物も出土していない。第1面では確認されていないことから、As-B降下前に埋没したと考えられる。

## 14号土坑(4区)【第64図 PL.10】

位置 X=36841 Y=-41069

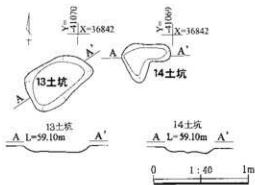
重複 無し

規模 長軸長0.53m 短軸長0.19m 最深部0.06m

平面形状 不整形な楕円形状

断面形状 底部は中央部が盛り上がり、両端に向かって凹みが見られる。

調査所見 谷地状地形北側縁辺に位置する土坑群の一つである。底面は中央部で立ち上がり、両端に向かって下がっていることから、2基の土坑が繋がった可能性が考えられる。埋土は不明で、遺物も出土していない。第1面では確認されていないことから、As-B降下前に埋没したと考えられる。



第64図 13・14号土坑平面図・エレベーション図



15号土坑 (4区) 【第65図 PL.10】

位置 X=36840~36841 Y=-41067~-41068

重複 無し

規模 長軸長0.98m 短軸長0.63m 最深部0.21m

平面形状 不整形な楕円形状

断面形状 底部はほぼ平坦で、東側にピット状の凹みが見られる。

調査所見 谷地状地形北側縁辺に位置する土坑群の一つである。底部は皿底状に立ち上がるが、東側にピット状の凹みが見られる。15号土坑との新旧関係等の詳細については不明である。埋土は不明で、遺物も出土していない。第1面では確認されていないことから、おそらくAs-B降下前に埋没したと考えられる。

16号土坑 (4区) 【第65図 PL.10】

位置 X=36840~36841 Y=-41066~-41067

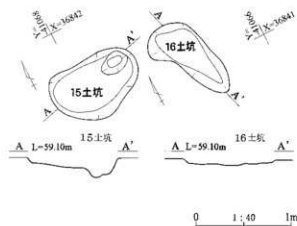
重複 無し

規模 長軸長0.97m 短軸長0.35m 最深部0.06m

平面形状 不整形な楕円形状

断面形状 底部はわずかに起伏が見られるが、ほぼ平坦である。

調査所見 谷地状地形北側縁辺に並ぶ土坑群の最も東側に位置する。埋土は不明で、遺物も出土していない。第1面では確認されていないことから、As-B降下前に埋没したと考えられる。



第65図 15・16号土坑平面図・エレベーション図

17号土坑 (4区) 【第66図 PL.10】

位置 X=36838~36839 Y=-41069~-41070

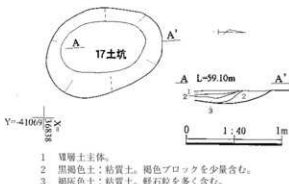
重複 無し

規模 長軸長0.94m 短軸長0.78m 最深部0.14m

平面形状 不整形な楕円形状

断面形状 底部は皿底状に緩やかに立ち上がる。

調査所見 谷地状地形の中に位置する。埋土は上層にⅢ層が堆積していることから、Hr-FA混土形成後に掘り込まれたと考えられる。17号土坑より遺物は出土していない。



第66図 17号土坑平・断面図

18号土坑 (4区) 【第67図 PL.11】

位置 X=36834~36835 Y=-41067~-41068

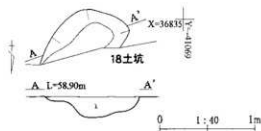
重複 無し

規模 長軸長1.00m 短軸長0.68m 最深部0.22m

平面形状 不整形な方形形状

断面形状 底部に平坦部はみられず、凹凸が激しい。

調査所見 谷地状地形の中に位置する。埋土の観察より、Hr-FA混土形成前に埋没したと考えられる。遺物は出土していない。



1 黒褐色土: 粘質土, 褐色ブロックを少量含む。

第67図 18号土坑平・断面図

## 19号土坑(4区)【第68図 PL.11】

位置 X=36832 Y=-41068~-41069

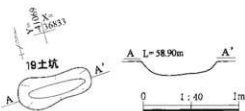
重複 無し

規模 長軸長0.79m 短軸長0.28m 最深部0.15m

平面形状 不整形な楕円形状

断面形状 底部はほぼ平坦で、逆台形状に緩やかに立ち上がる。

調査所見 谷地状地形の中に位置する。埋土は不明で、遺物も出土していない。第1面では確認されていないことから、As-B降下前に埋没したと考えられる。



第68図 19号土坑平面図・エレベーション図

## 20号土坑(4区)【第69図 PL.11】

位置 X=36832 Y=-41063

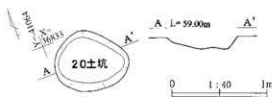
重複 無し

規模 長軸長0.77m 短軸長0.60m 最深部0.13m

平面形状 不整形な円形状

断面形状 底部はほぼ平坦だが、東側に凹みがみられ、角度を付けて立ち上がる。一方、西側は緩やかに立ち上がる。

調査所見 4区東端に21号土坑・22号土坑と共に形成されている土坑群の一基である。底部東側に小規模ピット状に凹みがみられる。21号土坑と一体の遺構と思われるが、詳細については不明である。埋土は不明で、遺物も出土していない。第1面では確認されていないことから、As-B降下前に埋没したと考えられる。



第69図 20号土坑平面図・エレベーション図

## 21号土坑(4区)【第70図 PL.11】

位置 X=36833 Y=-41062~-41063

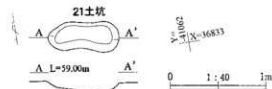
重複 無し

規模 長軸長0.75m 短軸長0.27m 最深部0.09m

平面形状 不整形な楕円形状

断面形状 底部はほぼ平坦で皿底状を呈しており、西側は緩やかに立ち上がるが、東側は角度を付けて立ち上がる。

調査所見 4区東端に位置する土坑群の一基である。埋土は不明で、遺物も出土していない。第1面では確認されていないことから、As-B降下前に埋没したと考えられる。



第70図 21号土坑平面図・エレベーション図

## 22号土坑(4区)【第71図 PL.11】

位置 X=36830~36832 Y=-41062~-41063

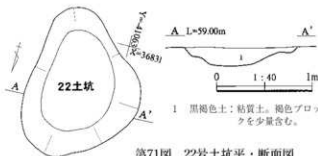
重複 無し

規模 長軸長1.60m 短軸長1.15m 最深部0.22m

平面形状 不整形な台形状

断面形状 底部には凹凸がみられ、すり鉢状に緩やかに立ち上がる。中位に小規模なテラスを有する。

調査所見 4区東端に位置する土坑群の中では規模的に最大である。埋土は黒褐色粘質土で、ローム粒と思われる褐色ブロックを含んでいる。なお、遺物は出土していない。隣接する20号・21号土坑と同様、第1面では確認されていないことから、As-B降下前に埋没したと考えられる。



第71図 22号土坑平・断面図

23号土坑 (5区) 【第72図 PL.11】

位置 X=36790~36791 Y=-41058~-41059

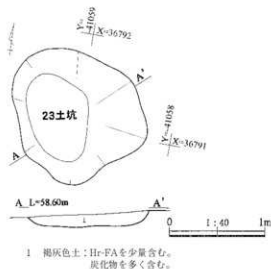
重複 無し

規模 長軸長1.52m 短軸長1.25m 最深部0.07m

平面形状 不整形な円形状

断面形状 底部はほぼ平坦で皿底状を呈しており、緩やかに立ち上がる。底部西側にわずかな凹みが見られる。深さはほぼ一定である。

調査所見 5区2面で唯一検出された土坑である。27号溝の中央付近西側に位置する。埋土にHr-FAを少量含むことから、Hr-FA混土形成後に掘り込まれたと考えられる。また炭化物を多く含んでいる。遺物は出土していない。



第72図 23号土坑平・断面図

4 ビット

2号ビット (4区) 【第73図】

位置 X=36880 Y=-41120

重複 23号溝と重複

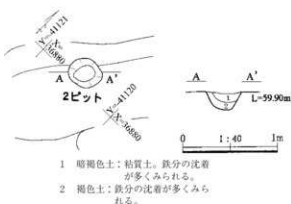
規模 長軸長0.36m 短軸長0.30m 最深部0.20m

平面形状 ほぼ円形

断面形状 底部は部分的に平坦部がみられる。北東壁は角度を付けて立ち上がるが、南西壁は丸みを帯びて緩やかに立ち上がる。

調査所見 埋土は色調の異なる2層の粘質土である。鉄分を多く含んでいることが観察されている。

23号溝の西壁に位置しているが、溝との新旧関係は不明である。遺物は出土していない。



第73図 2号ビット平・断面図

3号ビット (4区) 【第74図】

位置 X=36877~36878 Y=-41114~-41115

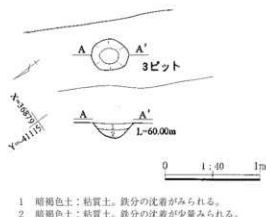
重複 23号溝と重複

規模 長軸長0.40m 短軸長0.32m 最深部0.16m

平面形状 ほぼ円形

断面形状 底部に平坦部はみられず、丸みをおびて緩やかに立ち上がる。

調査所見 埋土は粘質土が中心となっている。23号溝の東壁に位置している。2号ビットと規模、色調、混合物等埋土の様相が近似しており、また23号溝を挟みほぼ向き合う位置に掘削されていることから、2号ビットと何らかの関係があると想定されるが詳細は不明である。



第74図 3号ビット平・断面図

## 4号ピット (5区) 【第75図 PL.11】

位置 X=36807 Y=-41059

重複 28号溝と重複

規模 長軸長0.21m 短軸長0.21m 最深部0.21m

平面形状 不整形な方形状

断面形状 底部は平坦部がみられ、逆台形状に立ち上がる。

調査所見 28号溝の北壁法面に、5号ピットと並んで位置する。5区2面で確認された4号ピットと5号ピットに関しては、両ピットとも底部が平坦で角度を付けて立ち上がり、明瞭に掘削されていることから、人為的な遺構と想定される。埋土は不明であり、28号溝との新旧関係も判然としない。遺物は出土していない。

## 5号ピット (5区) 【第75図 PL.11】

位置 X=36806 Y=-41059

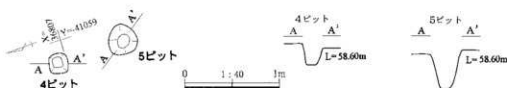
重複 28号溝と重複

規模 長軸長0.32m 短軸長0.31m 最深部0.40m

平面形状 ほぼ円形

断面形状 底部は平坦部がみられ、逆台形状に立ち上がる。

調査所見 28号溝の北壁法面上に、4号ピットと隣接して位置する。4号ピット同様、しっかりと掘削されていることから、人為的な遺構と想定される。位置や形状、規模等より、4号ピットと関係が深いと思われるが、性格等、詳細については不明である。埋土は不明で、28号溝との新旧関係も判然としない。遺物は出土していない。

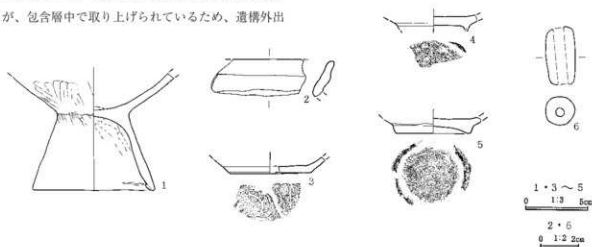


第75図 4・5号ピット平面図・エレベーション図

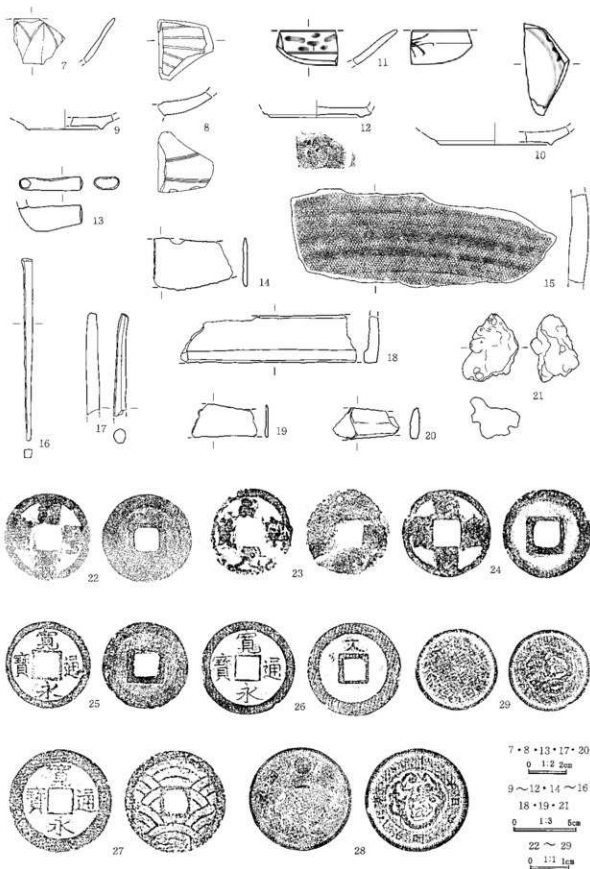
## 5 遺構外の出土遺物

遺構外出土遺物は、溝や土坑、ピットなどの遺構以外の包含層出土品、出土地点不明のもの、表土掘削時に出土したものを一括して取り扱う。出土位置としてのグリッドを記録して取り上げた遺物もあるが、包含層中で取り上げられているため、遺構外出

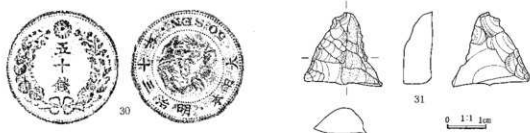
土遺物に含めた。ここでは、1区より順次、各区ごとに掲載した。なお、個々の遺物に関する詳細は出土遺物観察表(第2表)に記してある。



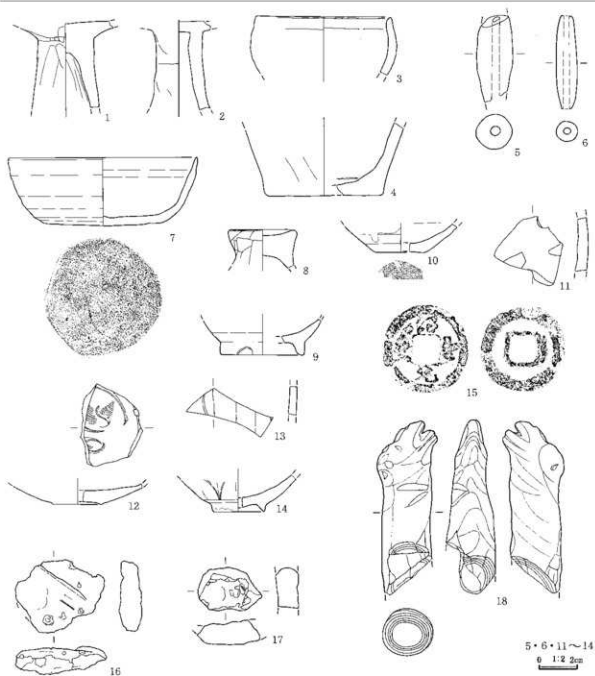
第76図 1区遺構外出土遺物



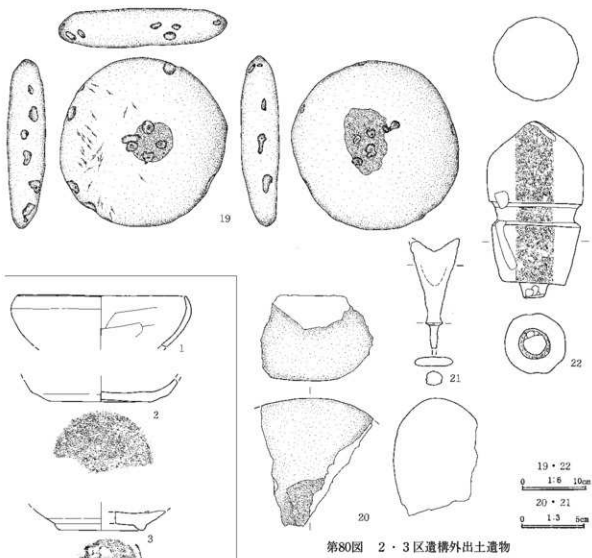
第77図 1区遺構外出土遺物



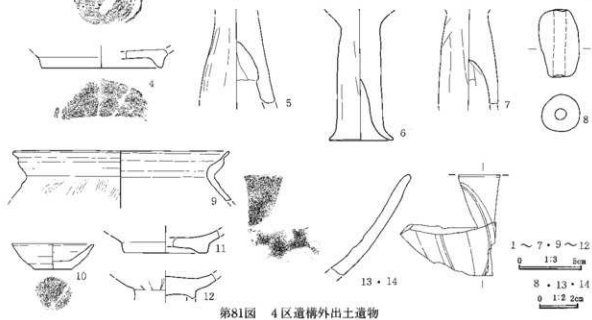
第78図 1区遺構外出土遺物



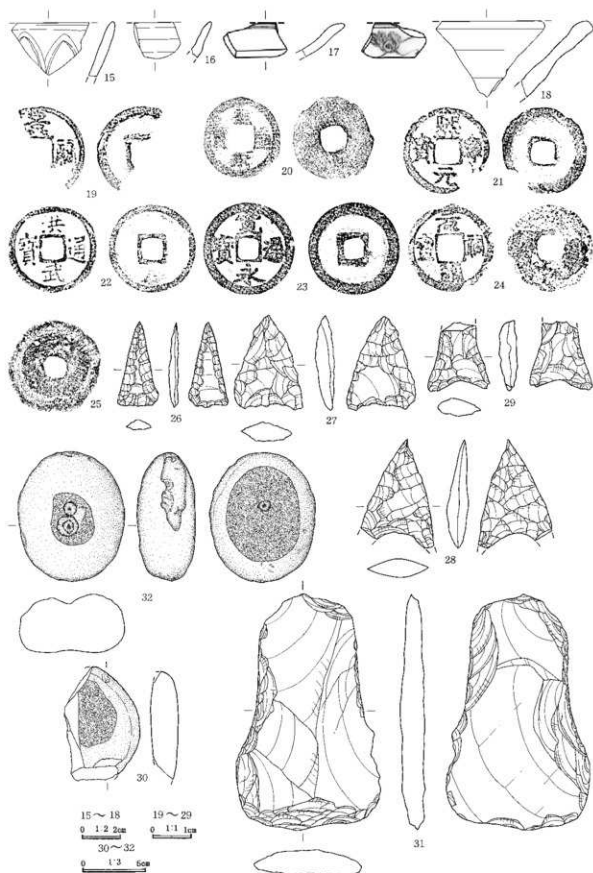
第79図 2・3区遺構外出土遺物



第80图 2・3区遺構外出土遺物

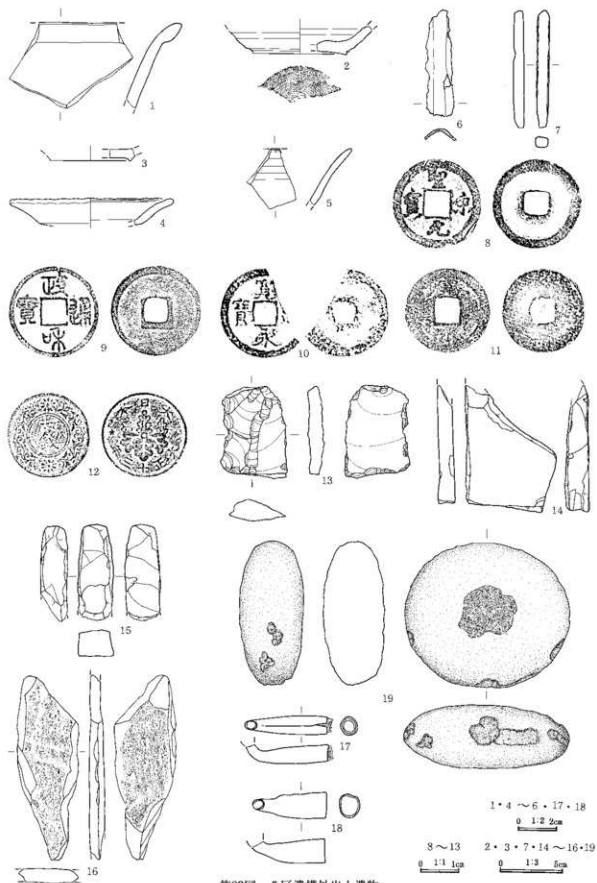


第81图 4区遺構外出土遺物

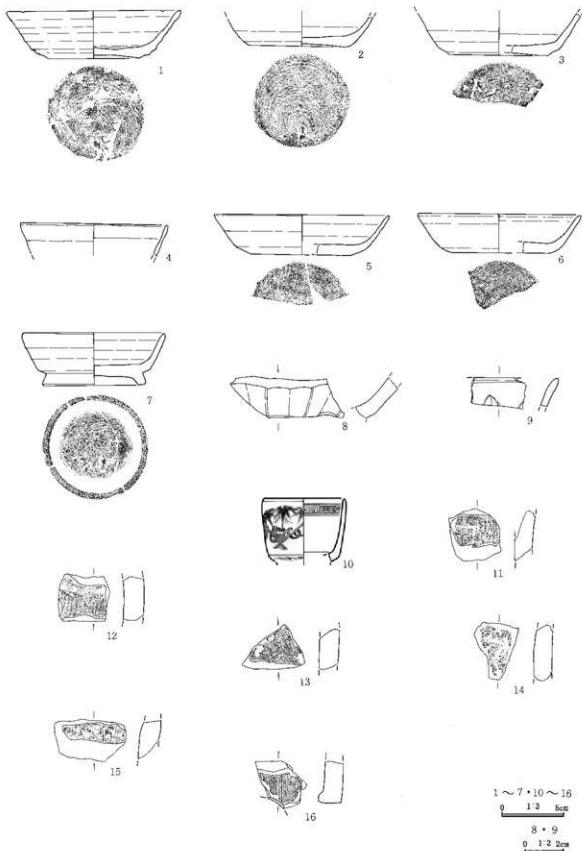


第82図 4区遺構外出土遺物

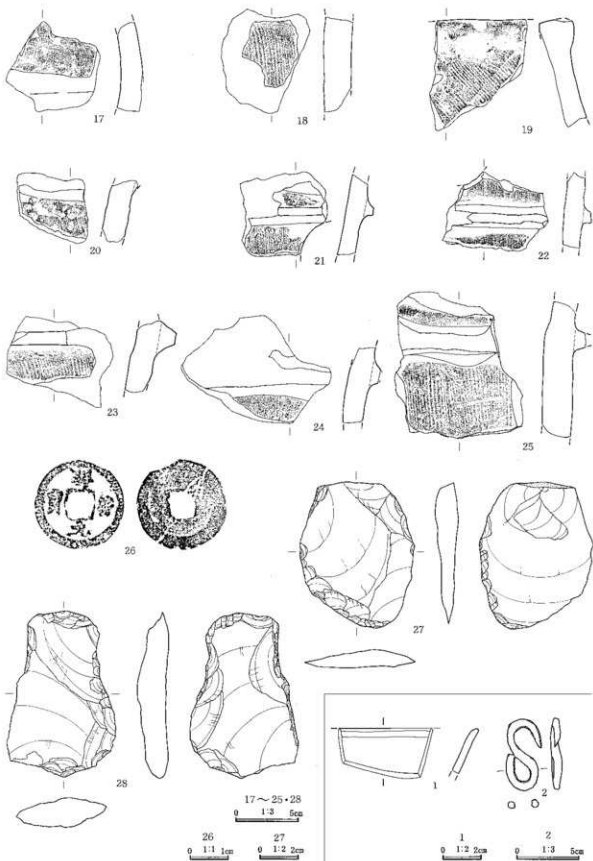




第83图 5区遺構外出土遺物



第84図 6区遺構外出土遺物



第85图 6区遺構外出土遺物

第86图 出土位置不明遺物

## 第6節 古水条里制水田跡出土獣骨

植崎 修一郎

## はじめに

古水条里制水田跡は、群馬県太田市緑町に所在する。(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が、平成15(2003)年10月～同18(2006)年8月まで3期にわたって実施された。本遺跡の1区～4区より、馬歯が検出されたので以下に報告する。しかしながら、全般的に保存状態が悪いためにまともに報告できるのは、4区第1面出土の馬歯のみである。

## 出土獣骨

## (1) 1区1号溝

馬歯片が出土しているが、破片のみであるため歯種の同定は不可能である。しかしながら、下顎臼歯(P2～M3)のどれかであると推定される。左右は不明である。

## (2) 1区表土

下顎骨片か四肢骨片が出土しているが、破片のみであるため種の同定及び部位同定は不可能である。しかしながら、人骨で無いことは確かである。

## (3) 2・3区グリッド

歯の破片が出土しているが、破片のみであるため種の同定及び部位同定は不可能である。しかしながら、恐らく、馬か牛の臼歯片であると推定される。

## (4) 3区表土

馬歯片が出土しているが、破片のみであるため歯種の同定は不可能である。しかしながら、上顎臼歯(P2～M3)のどれかであると推定される。左右は不明である。

## (5) 4区第1面

馬歯の、上顎左第3大白歯(M3)片が出土している。遠心面は破損している。歯冠高は、約34mmであるため、死亡年齢は約11歳であると推定される。性別は、馬の場合、犬歯の有無及び寛骨の形態で推定が可能であるが、今回、このどちらも出土していないため、不明である。



写真1. 4区第1面出土馬歯(上顎左M3)  
[左:頬側面観、右:舌側面観]

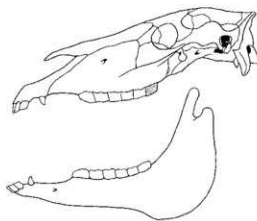


図1. 4区第1面出土馬歯出土部位図

## まとめ

古水条里制水田跡の1区～4区より、馬歯を中心とした獣骨が出土した。ほとんどの獣骨は、破片であるため種の同定及び部位同定が不可能であった。しかしながら、4区第1面出土馬歯は、破損した上顎左第3大白歯であり、性別不明で約11歳の馬であることが判明した。

本遺跡出土獣骨は、当遺跡の担当者である山田耕一氏からの依頼を受け報告するものである。

## 第7節 自然科学分析

- I. 古水条里制水田跡の土層とテフラ
- II. 古水条里制水田跡におけるプラント・オパール分析

### I. 古水条里制水田跡の土層とテフラ

#### 1. はじめに

群馬県城平野部に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、浅間や榛名など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物（さいせつぶつ）、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代などを知ることができるようになっている。

そこで、層位や年代が不明な土層や遺構が検出された古水条里制水田跡においても、地質調査を行って土層層序を記載するとともに、採取された試料を対象にテフラ分析を行って指標テフラの検出同定を行い、土層や遺構の層位や年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象地点は、2区東壁、3区7号溝、3区水田跡断面、6区南東地点の4地点である。

#### 2. 土層の層序

##### (1) 2区東壁

2区東壁では、下位より黒泥層（層厚20cm以上）、白色細粒火山灰層（層厚6cm）、暗灰色泥層（層厚1cm）、灰白色粗粒火山灰層（層厚7cm）、黒泥層（層厚1cm）、白色細粒火山灰層（層厚0.8cm）、黒泥層（層厚3cm）、灰白色砂質土（層厚14cm）、桃灰色砂層（層厚13cm以上）、灰色砂混じりシルト層（層厚7cm）、灰白色シルト層（層厚17cm）、灰色粘質土（層厚10cm）、黒褐色粘質土（層厚5cm）、灰褐色粗粒火山灰層（層厚5cm）、褐色砂質土（層厚4cm以上）が認められる（図1）。

##### (2) 3区7号溝

3区7号溝の覆土は、黄灰色粗粒火山灰層（層厚10cm）である。

##### (3) 3区水田跡断面

3区水田跡断面では、下位より白色粗粒火山灰混じり灰色粘質土（層厚12cm以上）、黒灰色泥層（層厚4cm）、灰色粗粒火山灰層（層厚5cm）、砂混じり灰色土（層厚5cm以上）が認められる（図2）。水田跡は、灰色粗粒火山灰層により覆われている。

##### (4) 6区南東地点

6区南東地点では、下位より灰色粘質土（層厚10cm以上）、黄色粘質土（層厚5cm）、白色軽石混じり暗灰色粘質土（層厚12cm、軽石の最大径4mm）、黒灰褐色粘質土（層厚3cm）、成層したテフラ層（層厚7.6cm）、青灰色砂質細粒火山灰層（層厚0.8cm）、暗灰色砂質土（層厚15cm）、灰色土（層厚22cm）、黄褐色土（層厚5

cm以上、盛土)が認められる(図3)。これらのうち、成層したテフラ層は、下位よりかすかに成層した灰灰色粗粒火山灰層(層厚5cm)、暗灰色粗粒火山灰層(層厚0.6cm)、桃色細粒火山灰層(層厚2cm)からなる。

### 3. テフラ検出分析

#### (1) 分析試料と分析方法

指標テフラの層位を明らかにするために、上述4地点において、テフラ層から、または厚さ約5cmごとに採取された試料のうち、23点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

#### (2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。2区東壁では、試料15にとくに多くの無色透明のバブル型ガラスが含まれている。試料11から試料9にかけては、斜方輝石や単斜輝石が多く含まれる傾向にある。試料8には、繊維束状に良く発泡した白色軽石(最大径1.4mm)が少量含まれている。試料3には、スポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石(最大径1.3mm, 斑晶:斜方輝石および単斜輝石)や、発泡がさほど良くない白色軽石(最大径1.5mm, 斑晶:角閃石および斜方輝石)が少量含まれている。さらに試料1には、比較的よく発泡した淡褐色軽石(最大径1.4mm, 斑晶:斜方輝石および単斜輝石)が多く含まれている。

3区7号溝の試料1には、比較的よく発泡した淡褐色軽石(最大径2.1mm, 斑晶:斜方輝石および単斜輝石)が多く含まれている。3区水田跡断面の試料4には、発泡がさほど良くない白色軽石(最大径2.0mm, 斑晶:角閃石および斜方輝石)が比較的よく含まれている。試料2では、スポンジ状に比較的よく発泡した灰白色軽石(最大径1.4mm, 斑晶:斜方輝石および単斜輝石)が少量認められる。試料1には、比較的よく発泡した淡褐色軽石(最大径2.3mm, 斑晶:斜方輝石および単斜輝石)が多く含まれている。

6区南東地点では、試料4や試料2に、スポンジ状に比較的よく発泡した灰白色軽石(最大径2.2mm, 斑晶:斜方輝石および単斜輝石)や、発泡がさほど良くない白色軽石(最大径1.4mm, 斑晶:角閃石および斜方輝石)、さらにそれらの細粒物である軽石型火山ガラスが少量含まれている。試料1には、比較的よく発泡した淡褐色軽石(最大径1.9mm, 斑晶:斜方輝石および単斜輝石)が多く含まれている。

### 4. 考察

テフラ検出分析で検出された火山ガラスのうち、無色透明のバブル型ガラスについては、その特徴から約2.4~2.5万年前<sup>\*)</sup>に南九州の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 松本ほか, 1987, 村山ほか, 1993, 池田ほか, 1995)に由来すると考えられる。その産状から、試料15が採取された土層がATと考えられる。また試料13の灰白色粗粒火山灰層については、その層位や層相から、約1.9~2.4万年前<sup>\*)</sup>に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 新井, 1962, 町田・新井, 1992, 早田, 未公表資料)のうちの下部に相当する室田軽石(MP, 早田, 1990)と思われる。

試料11から試料9にかけては、斜方輝石や単斜輝石が多く含まれていることや、その層位などから、As-BP Groupの中・上部が多く含まれていると考えられる。試料8'に含まれるテフラ粒子は、軽石の特徴などから、約1.3~1.4万年前\*1に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992)に由来すると考えられる。試料8'が採取された土層については、層相からAs-YPの再堆積層と考えられる。

それより上位の土層からは、3種類の軽石が検出された。軽石は、下位よりスポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石(斑晶:斜方輝石および単斜輝石)、発泡がさほど良くない白色軽石(斑晶:角閃石および斜方輝石)、比較的よく発泡した淡褐色軽石(斑晶:斜方輝石および単斜輝石)である。これらの軽石は、その特徴から、順に3世紀終末~4世紀初頭に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 友廣, 1988, 若狭, 2000)、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋谷テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)または6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)、1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979)に由来すると考えられる。榛名火山起源のテフラについては、テフラの分布と本遺跡の位置関係から、Hr-FAに由来する可能性がより高いと思われる。

以上のことから、2区東壁では、試料3付近にAs-CとHr-FAの降灰層があると考えられる。また試料1が採取されたテフラ層は、As-Bに同定される。3区7号溝を覆うテフラ層は、軽石の特徴からAs-Bと考えられる。したがって、この溝の層位はAs-B直下にある。3区水田跡断面では、試料4以下にHr-FAの降灰層があると考えられる。また試料1が採取されたテフラ層は、As-Bに同定される。したがって、水田跡はAs-Bの直下にあると考えられる。6区南東地点では、試料4付近にHr-FAの降灰層にある可能性が考えられる。また試料1が採取された成層したテフラ層は、層相や軽石の特徴からAs-Bに同定される。さらに、その直上に認められた青灰色砂質細粒火山灰層については、層相から1128(大治3)年に浅間火山から噴出した浅間柏川テフラ(As-Kk, 早田, 1991, 1995, 1996)に同定される。

## 5. 小結

古水条里制水田跡において、地質調査とテフラ検出分析を行った。その結果、下位より始良Tn火山灰(AT, 約2.4~2.5万年前\*1)、浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 約1.9~2.4万年前\*1)、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3~1.4万年前\*1)、浅間C軽石(As-C, 3世紀終末~4世紀初頭)、榛名二ツ岳渋谷テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)あるいは榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 6世紀中葉)、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)、浅間柏川テフラ(As-Kk, 1128年)などのテフラ層やそれらに由来するテフラ粒子を検出できた。本遺跡で検出された水田遺構や7号溝の層位は、As-Bの直下にあると考えられる。

\*1 放射性炭素(<sup>14</sup>C)年代。

## 文献

新井房夫(1962)関東盆地北西部の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.

新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル, no.157, p.41-52.

- 荒牧重雄(1968) 浅間火山の地質, 地研専報, no.45, 65p.
- 池田晃子・奥野 充・中村俊夫・筒井正明・小林哲夫(1995) 南九州, 始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器質量分析法による<sup>14</sup>C年代, 第四紀研究, 34, p.377-379.
- 町田 洋・新井房夫(1976) 広域に分布する火山灰-始良Tn火山灰の発見とその意義一, 科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫(1992) 火山灰アトラス, 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫(2003) 新編火山灰アトラス, 東京大学出版会, 336p.
- 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗(1987) 始良Tn火山灰(AT)の<sup>14</sup>C年代, 第四紀研究, 26, p.79-83.
- 村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田高登・平 朝彦(1993) 四国沖ピストンコア試料を用いたAT火山灰噴出年代の再検討-タンデロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の<sup>14</sup>C年代, 地質雑, 99, p.787-798.
- 中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦(1984) 浅間火山, 黒斑-前掛期のテフラ層序, 第四紀学会講演要旨集, no.14, p.69-70.
- 坂口 一(1986) 榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器, 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
- 早田 勉(1989) 6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害, 第四紀研究, 27, p.297-312.
- 早田 勉(1990) 群馬県の自然と風土, 群馬県史通史編, 1, p.37-129.
- 早田 勉(1991) 浅間火山の生い立ち, 佐久考古通信, no.53, p.2-7.
- 早田 勉(1995) テフラからさぐる浅間山の活動史, 御代田町誌自然編, p.22-43.
- 早田 勉(1996) 関東地方-東北地方南部の示標テフラの諸特徴-とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて-, 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.
- 友廣哲也(1988) 古式土師器出現期の様相と浅間山C軽石, 群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」, p.325-336.
- 若狭 徹(2000) 群馬の弥生土器が終わるとき, かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く-古墳が成立する頃の土器の交流」, p.41-43.



表1 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			
		量	色調	最大径	量	形態	色調	
2区東壁	1	+++	淡褐	1.4	++++	pm	淡褐	
	3	+	灰白, 白	1.3, 1.5	+	pm	灰白, 白	
	5	-	-	-	-	-	-	
	7	-	-	-	+	pm	透明	
	8	-	-	-	+	pm	透明	
	8'	-	-	-	+	pm	透明	
	9	+	白	1.4	+	pm	透明	
	11	-	-	-	+	pm	透明	
	12	-	-	-	+	pm	白	
	13	-	-	-	+	pm>bw	白, 透明	
	14	-	-	-	++	bw>pm	透明	
	15	-	-	-	++++	bw>pm	透明	
	17	-	-	-	-	-	-	
	19	-	-	-	+	pm	透明	
	-----							
	3区7号溝	1	+++	淡褐	2.1	++++	pm	淡褐
	-----							
	3区水田跡	1	+++	淡褐	2.3	++++	pm	淡褐
		2	+	灰白	1.4	+	pm	灰白
4		++	白	2.0	++	pm	白	
-----								
6区南東地点	1	+++	淡褐	1.9	++++	pm	淡褐	
	2	+	灰白, 白	2.2, 1.3	+	pm	灰白, 白	
	4	+	白	1.4	+	pm	白, 灰白	
	5	-	-	-	-	-	-	
	6	-	-	-	-	-	-	

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない.  
 最大径の単位は, mm. bw: バブル型, pm: 軽石型.

## II. 古水糸里制水田跡におけるプラント・オパール分析

### 1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 ( $\text{SiO}_2$ ) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとに微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である (杉山, 2000)。

### 2. 試料

試料は、2区東壁、3区水田跡断面、6区南東地点から採取された計10点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

### 3. 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法 (藤原, 1976) を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約1gに対し直径約40 $\mu\text{m}$ のガラスビーズを約0.02g添加 (電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550℃・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- 5) 沈底法による20 $\mu\text{m}$ 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:  $10^{-1}\text{g}$ ) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ (赤米) の換算係数は2.94 (種実重は1.03)、ヒエ属 (ヒエ) は8.40、ヨシ属 (ヨシ) は6.31、ススキ属 (ススキ) は1.24、タケ亜科 (ネザサ節) は0.48である。

### 4. 分析結果

水田跡 (稲作跡) の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

### 5. 考察

水田跡 (稲作跡) の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以

上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山，2000）。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

#### (1) 2区東壁

As-B直下層（試料1）からAT直下層（試料5）までの層準について分析を行った。その結果、As-B直下層（試料1）とAs-C・Hr-FA混層（試料2）からイネが検出された。このうち、As-B直下層（試料1）では密度が3,800個/gと比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

As-C・Hr-FA混層（試料2）では、密度が800個/gと低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

#### (2) 3区水田跡断面

As-B直下層（試料1）とその下層（試料2）について分析を行った。その結果、両試料からイネが検出された。このうち、As-B直下層（試料1）では密度が1,500個/gと比較的低い値である。ただし、同層は直上をテフラ層で覆われていることから、上層から後代のものが混入した可能性は考えにくい。したがって、同層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

試料2では、密度が800個/gと低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

#### (3) 6区南東地点

As-B直下層（試料1）からHr-FAの下層（試料3）までの層準について分析を行った。その結果、各試料からイネが検出された。このうち、As-B直下層（試料1）では密度が3,800個/gと比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

Hr-FA混層（試料2）とHr-FAの下層（試料3）では、密度が700～1,500個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

### 6. まとめ

プラント・オパール分析の結果、水田跡が検出された浅間Bテフラ（As-B，1108年）直下層では、すべての試料からイネが検出され、同層で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また、標名二ツ岳洗川テフラ（Hr-FA，6世紀初頭）混層などでも稲作が行われていた可能性が認められた。

### 文献

- 杉山真二（2000）植物硅酸体（プラント・オパール）、考古学と植物学、同成社、p.189-213。  
藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科栽培植物の硅酸体標本と定量分析法—、考古

学と自然科学, 9, p.15-29.

藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)―プラント・オパール分析による水田址の調査―, 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

(株式会社 古環境研究所)

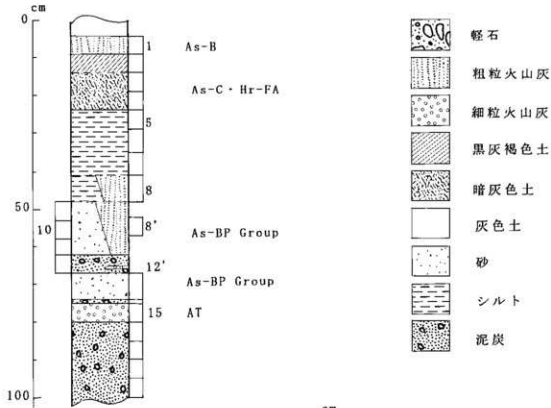


図1 2区東壁の土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

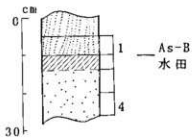


図2 3区水田跡断面の土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

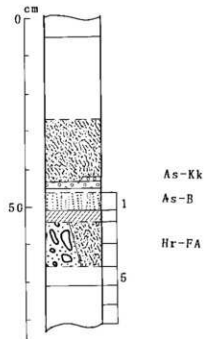


図3 6区南東地点の土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

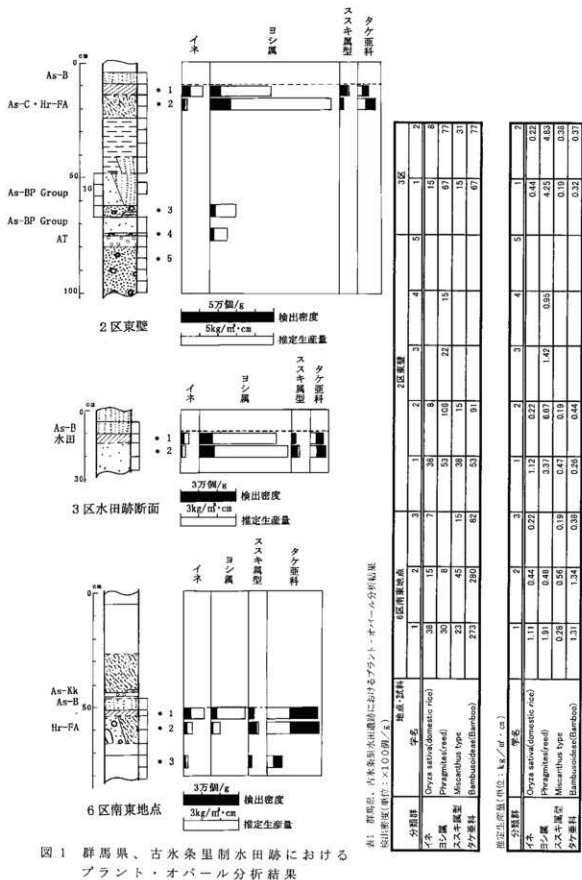
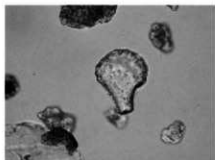
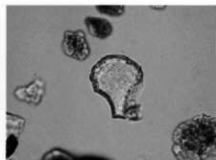


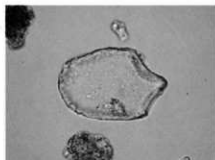
図1 群馬県、古水条里制水田跡におけるプラント・オパール分析結果



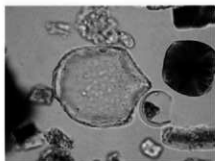
イネ  
6区南東 2



イネ  
6区南東 2



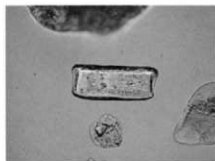
ヨシ属  
3区水田跡 2



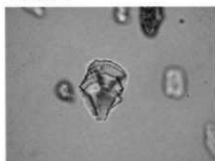
ヨシ属  
2区東壁 1



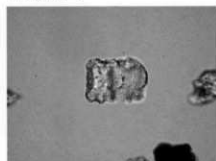
ススキ属型  
3区水田跡 1



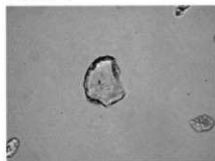
イネ科Hタイプ  
2区東壁 5



ネザサ節型  
6区南東 2



ネザサ節型  
2区東壁 1



ミヤコザサ節型  
3区水田跡 2

植物珪酸体(プラント・オパール)の顕微鏡写真 ——— 50  $\mu$ m

第2表 古水条里制水田跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種類 図種	出土位置	残存状況	①材質 ②成層 ③高さ (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・彫形等の特徴
2308-1 PL12	9号溝	土製土器	3区1面 底面直上	一部欠損	①長559 ②幅323 ③厚533	①白色粒含む ②酸化腐 ③灰黄緑10YR6/4	器面平滑。彫形は縁で表面に凹凸がある。重さ520g。
1708-1 PL12	13号溝	石製品 砥石	4区1面 埋土	完形	①長さ109 ②幅23 ③厚530	①- ②- ③-	主に刃面を使用し、層部はかなり薄くなる。砥石目。重さ66g。
2008-1 PL12	16号溝	須恵器 埴	5区1面 埋土	体部~底部 2/3	①- ② (58) ③ (15)	①細密・硬質 ②還元焼 ③灰白N6-0	回転糸切り。貼付け高台。高台に貫眼の痕有り。
2008-2 PL12	16号溝	カワラケ	5区1面 埋土	口縁~底部 2/3	①93 ②62 ③15	①小確・赤色粒含む ②酸化 ③灰黄緑10YR6/4	右回転糸切り。体部に胎土の一部が附いている。口縁部に油痕か。
2308-3 PL12	16号溝	カワラケ	5区1面 埋土	口縁~底部	① (80) ② (48) ③ 18	①- ②- ③灰黄緑10YR6/3	器面磨製しており糸切り痕不明。底部と体部下位に発成部の穿孔5ヶ所残存。底部中央の穿孔のみ径が大きい。略形不詳。
2008-4 PL12	16号溝	陶器 器種不詳	5区1面 埋土	底部のみ 1/2	①- ② (57) ③ (14)	①- ②- ③灰白5Y7/2	残存部無地。貼付け高台。瀬戸・美濃。口径。
2208-5 PL12	16号溝	陶器	5区1面 埋土	口縁~底部 1/4	① (120) ② (54) ③ (27)	①- ②- ③灰白5Y7/2	内面から体部外面中間位。内面裏ね地あり。美濃。17c。
2208-6 PL12	16号溝	青白磁 合子	5区1面 表土	口縁部片	① (35) ②- ③ (1.6)	①- ②- ③明緑灰7.5GY7/1	外面受け部から下8mmの間のみ無地。内面受け部から下に薄く輪かかると。中国。15c。
2208-7 PL12	16号溝	磁器 皿	5区1面 埋土	口縁部片	①- ②- ③ (29)	①- ②- ③灰白10Y7/1	皿口縁部片。粗製厚手器か。肥前。17c。
2208-8 PL12	16号溝	石製品 砥石	5区1面 埋土	一部欠損	①長598 ②幅60 ③厚528	①- ②- ③-	軽石製。平坦面を主に使用する。軽石。重さ72g。
2208-9 PL12	16号溝	石製品 石版	5区1面 埋土	一部欠損	①長さ105 ②幅56 ③厚504	①- ②- ③-	両面製。両面を使用。磨縁が削まれているが、その磨縁は表裏で異なる。外縁部は薄くなる。重さ41g。
2308-10 PL12	16号溝	貨幣	5区1面 埋土	完形	表径12.92±2.80 内輪径①-②- 厚5.0±0.13 ~ 0.14	①- ②- ③-	一銭。重さ65g。
2308-11 PL12	16号溝	内耳堂土器	5区1面 埋土	破片	①- ② (21.8) ③ (5.5)	①細密 ②ふし焼成 ③黒灰10YR6/1	器面平滑。口縁部上面は平坦で内傾する。
2308-12 PL12	16号溝	埴	5区1面 埋土	破片	① (17.9) ② (13.9) ③ 5.4	①黒色粒含む ②ふし焼成 ③黒灰7.5Y5/1	口縁部上面は平坦で、外面側にわずかに突出する。
2308-13 PL12	16号溝	内耳堂土器	5区1面 埋土	破片	①- ② (31.8) ③ (2.9)	①黒色粒含む ②ふし焼成 ③黒灰2.5YR4/1	耳貼付け部付近。器厚がやや薄い。外面凹凸が目立つ。
2308-14 PL12	16号溝	埴	5区1面 埋土	破片	① (36.3) ② (33.5) ③ (5.2)	①細密 ②ふし焼成 ③ふし焼成10YR4/3	口縁部上面は平坦で、体部中程が最も広がる。外面の潤滑面著。
2308-15 PL12	16号溝	埴	5区1面 埋土	破片	① (38.6) ② (35.0) ③ (5.1)	①白色粒含む ②ふし焼成 ③黒灰N3-0	内面の潤滑面著。外面凹凸しい。
2308-16 PL12	16号溝	埴	5区1面 埋土	破片	① (38.0) ②- ③ (5.3)	①白色粒含む ②ふし焼成 ③黒灰10YR3/1	口縁部上面はわずかに凹む。層部内面突出する。外面はわずかに突出する。
2308-17 PL12	16号溝	鉄製品	5区1面 埋土	一部欠損	①長さ50 ②幅0.8 ③厚50.3	①- ②- ③-	断面は方形を呈する。先端部欠損。
2308-18 PL12	16号溝	鉄製品 鏝	5区1面 埋土	一部欠損	①長さ47 ②幅1.8 ③厚50.2	①- ②- ③-	潤滑が著しく。残存状況は悪い。
2308-19 PL12	16号溝	鉄製品 鉄片	5区1面 埋土	1/2	①長さ73 ②幅0.7 ③厚55.8	①重量2520g ②組織硬 ③メタル変なし	鏡形鏡治片。厚手。上半は粘土質溶解物主体で、下半は酸化した青鉄主体。下部には酸化土砂付着。
2308-20 PL12	16号溝	鉄製品 蹄鉄	5区1面 埋土	14ヶ所完形	①長さ (8.9) ②幅1.8 ③厚50.5	①- ②- ③-	打ち込み釘3本残存。前方上方に反る。

古水条里制水田跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種別 器種	出土位置	残存状況	①材質 ②口径 ③高さ (cm)	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調	器形・彫形等の特徴
2700-1 PL12	2号土坑	須恵器 壺	6区1面 裡土	底部～底部	①- ② (100) ③ (18)	①織書 ②黄元焰 ③灰白10YR5/1	回転糸切り。貼付け高台。
2700-2 PL12	2号土坑	石器 磨り石	6区1面 裡土	破片	①長さ (100) ②幅 (108) ③厚さ (50)	①- ②- ③-	1面に凹みを有する。粗粒輝石安山岩、重さ602g。
2700-3 PL12	2号土坑	石器 磨り石	6区1面 裡土	破片	①長さ (88) ②幅 (75) ③厚さ4.5	①- ②- ③-	両面平坦面に磨り面を有する。粗粒輝石安山岩、重さ456g。
2700-4 PL12	2号土坑	埴輪 円筒埴輪	6区1面 裡土中層	破片	①- ②- ③縦 (6.2) 横 (5.1)	①赤色・白色泥物粒含む ②良好 ③明赤褐7.5YR3/4	外面斜めハケ目。内面斜めのナデ。
2700-5 PL12	2号土坑	埴輪 円筒埴輪	6区1面 裡土下層	破片	①- ②- ③縦 (6.9) 横 (7.0)	①赤色・白色泥物粒多量含む ②良好 ③明赤褐2.5YR5-6	外面・内面とも同じハケ目。6区遺構外-11・6区遺構外-17と同一か?
2700-6 PL12	2号土坑	埴輪 円筒埴輪	6区1面 裡土中層	破片	①- ② (26.8) ③ (11.1)	①赤色・白色泥物粒多量含む ②良好 ③明赤褐5YR3-2	底面が平らになりとなる。外面縦位ハケ目。内面斜めのナデ。
3100-1 PL12	1号井戸	須恵器 壺	2区1面 裡土	胴部片	①- ②- ③ (120)	①黒色粒・白色粒含む ②黄元焰 ③灰白6Y6-1	外面平ら磨き目有り。内面青海敢文。
3300-1 PL13	2号井戸	須恵器 壺	6区1面 裡土	高台部のみ	①- ②- ③ (22)	①赤色粒多量含む ②黄元焰 ③にぶい黄橙10YR7/3	器面常成。回転糸切り。貼付け高台。
3300-2 PL13	2号井戸	埴輪 円筒埴輪	6区1面 裡土	破片	①- ②- ③縦 (7.1) 横 (5.8)	①赤色泥物粒含む ②不良 ③明赤褐5YR5-6	外面縦位ハケ目。内面斜めのヘラナデ。
3300-3 PL13	2号井戸	埴輪 円筒埴輪	6区1面 裡土	破片	①- ②- ③縦 (5.5) 横 (8.2)	①白色泥物粒含む ②不良 ③灰褐7.5YR4/2	内外面磨付着 (2次的)。凸帯形良好。透し穴有り。
3300-4 PL13	2号井戸	埴輪 円筒埴輪	6区1面 裡土	胴部片	①- ②- ③縦 (28.2) 横 (15.5)	①赤色・白色泥物粒多量含む ②不良 ③黄7.5YR4-6	各段に透し穴あり。外面縦位ハケ目。内面斜めハケ目。
3700-1 PL13	2・3区水田	須恵器 壺	3区1面 裡土	口縁～底部 1/4	① (125) ② (70) ③3.3	①白色粒含む ②黄元焰 ③灰白10Y6-1	器面常成。回転糸切り。
3700-2 PL13	2・3区水田	須恵器 壺	3区1面 裡土	口縁～底部 1/3	① (118) ②5.7 ③3.1	①織書・白色粒含む ②黄元焰 ③灰白3N6-0	器面常成。回転糸切り。貼付け高台。
3700-3 PL13	2・3区水田	須恵器 壺	3区1面 裡土	高台部のみ	① (85) ② (23)	①織書 ②黄元焰 ③灰白5Y8-2	器面常成。貼付け高台。
3700-4 PL13	2・3区水田	須恵器 壺	3区1面 裡土	底部～底部	①- ② (58) ③ (19)	①織書 ②黄元焰 ③灰白10YR7/1	器面常成。器面彫形不明瞭。貼付け高台。
3700-5 PL13	2・3区水田	須恵器 壺	3区1面 裡土	口縁～底部	①- ② (74) ③ (38)	①織書・白色粒含む ②黄元焰 ③灰白3N6-0	器面常成。貼付け高台。
3700-6 PL13	2・3区水田	須恵器 壺	2区1面 裡土	底部～底部 2/3	①- ②6.8 ③ (41)	①砂粒 (やや径大きい) 含む ②黄元焰 ③黄7.5YR7-6	器面常成。貼付け高台。回転糸切り。胴部やや厚みをあげて張る。
3700-7 PL13	2・3区水田	須恵器 壺	3区1面 裡土	底部～底部	①- ② (60) ③ (24)	①白色粒含む ②黄元焰 ③灰白5Y5-1	回転糸切り。貼付け高台。体部下位斜めの磨り有り。
3700-8 PL13	2・3区水田	須恵器 杯	2区1面 裡土	底部～底部	①- ② (64) ③ (35)	①小礫含む ②黄元焰 ③灰白3N7-0	回転糸切り。表面は胎土に含む小礫のため凹凸しい。
3700-9 PL13	2・3区水田	須恵器 壺	2区1面 裡土	口縁～底部 1/2	① (129) ②5.0 ③4.2	①粗砂粒・石英粒含む ②黄元焰 ③灰白7.5Y7/1	器面常成。右回転糸切り。口縁部やや外傾する。
3700-10 PL13	2・3区水田	土器 壺	3区1面 裡土	口縁部片	① (174) ②- ③ (29)	①赤色粒多量含む ②黄元焰 ③赤褐5YR4-6	器面常成。外面横ナデ。口唇部強く外傾。2・3区水田-12と同一個体か?
3700-11 PL13	2・3区水田	土器 壺	3区1面 裡土	口縁部片	① (154) ②- ③ (24)	①赤色粒多量含む ②黄元焰 ③赤褐5YR4-6	器面常成。
3700-12 PL13	2・3区水田	土器 壺	3区1面 裡土	口縁部片	① (160) ②- ③ (5.3)	①赤色粒多量含む ②黄元焰 ③赤褐5YR4-6	器面常成。外面横ナデ。口唇部強く外傾。



古水条里制水田跡遺物観察表

発掘番号 探検番号	遺構名	種類 跡種	出土位置	残存状況	①材質 ②成様 ③高さ (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形等の特徴
3708-13 PL13	2・3区水田	石製品 砥石	2区1面 埋土	完形	①長さ103 ②幅30 ③厚さ20	①- ②- ③-	砥石。重さ89g。
3708-14 PL13	2・3区水田	大跡	2区1面	取っ手部の 残り	①長さ44 ②幅41 ③厚さ11	①黒色粒を含む ②いぶし焼成 ③オリーブ黒5Y2/2	器面半減。取っ手のくぼり。2ヶ所、外側より 穿孔。動物の歯面を磨いている。
3708-15 PL13	2・3区水田	土師器 高坏	2区1面 埋土	脚部	①- ②- ③ (83)	①白色粒・赤色粒を含む ②酸化焙 ③橙5Y37/6	器面半減。脚身の脚柱部。
3808-1 PL13	6区水田	須恵器 埴	6区1面 表土	高台部のみ	①- ②67 ③ (18)	①赤色粒を含む ②酸化焙 ③明黄緑10YR7/6	器面半減。器面整形不明瞭。底部内面噴 灰がみられる。足付け高台。
3808-2 PL13	6区水田	須恵器 坏	6区1面 埋土	底部片	①- ② (66) ③ (11)	①黒漆・黒色粒を含む ②還元焙 ③灰NK/	底部回転未切り。
3808-3 PL13	6区水田	土師器 坏	6区1面 埋土	口縁~底部	① (110) ② (55) ③30	①赤色粒多量を含む ②酸化焙 ③橙5Y37/6	器面半減。器面整形不明瞭。
3808-4 PL13	6区水田	埴輪 四脚埴輪	6区1面 表土	破片	①- ②- ③縦 (6.4) 横 (6.0)	①白色底物粒を含む ②良好 ③明赤紅5YR5/8	外面縦位ハケ目。内面斜めのハケ目。磨滅 している。
4008-1 PL13	1号落ち 込み	須恵器 坏	3区1面 埋土	体部~底部 1/3	①- ② (82) ③ (17)	①黒色粒・赤色粒を含む ②酸化焙 ③にぶい橙7.5Y37/4	器面半減。底部回転未切り。
4008-2 PL13	1号落ち 込み	須恵器 坏	3区1面 埋土	体部~底部	①- ② (46) ③ (28)	①黒色粒を含む ②酸化焙 ③にぶい橙5Y37/4	底部左回転未切り。底部内面微ナズ。
4008-3 PL13	1号落ち 込み	青磁 碗	3区1面 埋土	破片	①- ②- ③ (22)	①- ②- ③オリーブ灰5GY6/1	横溝や文様の体部片。他に貫入するが釉 の発色はやや良好。龍泉産系。Dc中一 枚。
4008-4 PL13	1号落ち 込み	木製品	3区1面 埋土	破片	①長さ (41) ②幅 (15) ③厚さ (1.3)	①- ②- ③-	下縁には明らかに加工痕がみられる。1 号落ち込み-5と同一個体か?断面形状 は円形。用途不明。
4008-5 PL13	1号落ち 込み	木製品	3区1面 埋土	破片	①長さ (47) ②幅 (12) ③厚さ (1.1)	①- ②- ③-	両端部とも加工痕がみられる。わずかに 湾曲する。断面にはほぼ正円形。用途 不明。
4008-6 PL13	1号落ち 込み	木製品	3区1面 埋土	破片	①長さ (107) ②幅 (21) ③厚さ (1.9)	①- ②- ③-	上縁は段を有しており、明らかに加工痕 がみられる。両側にも加工痕がみられ る。用途不明。弓の頭に類似。
4708-1 PL14	22号溝	土師器 高坏	4区1面 埋土下層	坏部のみ 1/4	① (174) ②- ③ (54)	①赤色粒を含む ②酸化焙 ③にぶい橙7.5Y37/4	器面半減。口縁部内面微ナズ。器部へウ 張り。体部直線的に開く。底部盤状に平 ら。
4708-2 PL14	22号溝	土師器 高坏	4区1面 埋土中層	脚部のみ	①- ②- ③ (47)	①赤色粒多量を含む ②酸化焙 ③橙5Y36/6	器面半減。外面へウ張り。近い脚柱部で 坏部は大きく開く。
4708-3 PL14	22号溝	土師器 高坏	4区1面 埋土中層	坏部のみ 一部欠損	①208 ②- ③ (78)	①赤色粒多量を含む ②酸化焙 ③明赤紅2.5YR5/8	器面半減。器面整形不明瞭。器部縦位へウ 張り。体部内湾して開く。体部はへウ ナズ。体部中央は弱く段をもつ。
4708-4 PL14	22号溝	土師器 高坏	4区1面 埋土中層	坏部のみ 4/5	①102 ②- ③ (69)	①石灰粒・赤色粒多量を含む ②酸化焙 ③橙2.5Y36/8	器面半減。口縁部微ナズ。坏部縦位に 横を持つ。体部直線的に開く。口縁小さ く外縁。
4708-5 PL14	22号溝	土師器 高坏	4区1面 埋土下層	坏部のみ 1/4	①- ②- ③ (43)	①赤色粒多量を含む ②酸化焙 ③橙5Y36/6	器面半減。体部微ナズ。坏部底辺に横を 持つ。坏底部は盤状で、縁辺は鋭い横を 作る。
4808-6 PL14	22号溝	土師器 高坏	4区1面 埋土下層	脚部のみ	①- ②- ③ (90)	①赤色粒・石灰粒を含む ②酸化焙 ③赤橙10R6/6	器面半減。内面へウ調整。やや粗身の寸 割型の脚柱部で、上段はすばます。
4808-7 PL14	22号溝	土師器 高坏	4区1面 埋土	脚部のみ	①- ②- ③ (87)	①粗砂粒を含む ②酸化焙 ③浅黄緑10YR8/3	器面半減。内面へウ張り。外面へウ張り。 粗身の脚柱部で坏部は大きく開く。
4808-8 PL14	22号溝	土師器 高坏	4区1面 埋土	脚部のみ	①- ②- ③ (85)	①赤色粒を含む ②酸化焙 ③橙5Y37/6	器面半減。内面へウ調整。外面縦位ハケ 目有り。粗身の脚柱部。
4808-9 PL14	22号溝	土師器 高坏	4区1面 埋土下層	脚部のみ	①- ② (68) ③ (94)	①赤色粒多量を含む ②酸化焙 ③浅黄緑7.5Y38/6	器面半減。外面縦位へウ張り。内面微ナ ズ。細身で開きの小さい脚柱部。

## 古水条里制水田跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種類 器種	出土位置	残存状況	①材質 ②口径 ③高さ (cm)	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調	器形・整形等の特徴
48R-10 PL14	22号溝	土師器 高坏	4区1面 埋土中層	胴部のみ	①- ② (74) ③ (84)	①赤色粒多量含む ②酸化焙 ③橙25YR6/8	内面へう調整。器面滑。厚く太身の脚柱。
48R-11 PL14	22号溝	土師器 高坏	4区1面 埋土中層	胴部のみ	①- ② (45) ③ (66)	①小礫・石高粒含む ②酸化焙 ③浅黄橙10YR8/4	器面滑。器面整形不明。内面へう調整。短い脚柱部と上位はすまはる。
48R-12 PL14	22号溝	土師器 高坏	4区1面	胴部のみ	①- ②- ③ (89)	①赤色粒多量含む ②酸化焙 ③橙25YR6-6	器面滑。器面整形不明。寸割な脚柱部。
48R-13 PL14	22号溝	土師器 高坏	4区1面 埋土中層	胴部のみ	①- ②- ③ (96)	①赤色粒・白色粒含む ②酸化焙 ③橙25YR6-6	器面滑。内面へう調整。寸割心の脚柱部で外に面取状の擬定へう割り。
48R-14 PL14	22号溝	土師器 高坏	4区1面	胴部のみ	①- ②- ③ (84)	①細者・白色粒少量含む ②酸化焙 ③赤10YR5-6	器面滑。器面整形不明。寸割心の脚柱に短く内湾気味に開く。面取状の擬定へう割りあり。
48R-15 PL14	22号溝	土師器 小笠壺	4区1面 埋土中層	ほぼ完形	①117 ②- ③91	①赤色粒多量含む ②酸化焙 ③橙25YR6-8	器面滑。丸底。器面整形不明。口縁部短く外展。口縁部横ナテ。底の体部は丸く張り。体部外面へう割り。
48R-16 PL14	22号溝	土師器 小笠壺	4区1面	完形	①88 ②- ③54	①石高粒少量・赤色粒多量含む ②酸化焙 ③明赤橙25YR5-8	器面滑。丸底。口縁部横ナテ。口縁部短く内湾気味に開く。体部へう割り。
48R-17 PL14	22号溝	土師器 鉢	4区1面 埋土中層	口縁～底部 1/3	① (124) ② (46) ③ (45)	①赤色粒含む ②酸化焙 ③橙25YR6-6	器面滑。器面整形不明。体部上位傾位整形。
48R-18 PL14	22号溝	土師器 壺	4区1面 底面直上	口縁～胴部	① (181) ②- ③ (76)	①赤色粒多量含む ②酸化焙 ③明黄10YR7/6	器面滑。口縁部横ナテ。口縁部横く外展し。口唇部は短く。体部上位内面接合部に指痕あり。
48R-19 PL14	22号溝	土師器 小笠壺	4区1面 埋土中層	口縁～胴部	① (120) ②- ③ (57)	①赤色粒多量含む ②酸化焙 ③橙25YR6-6	器面滑。器面整形不明。口縁部外面横ナテ。肩部にわずかに段を有する。
48R-20 PL14	22号溝	土師器 壺	4区1面 埋土中層	口縁～胴部	① (142) ②- ③ (79)	①赤色粒・白色粒含む ②酸化焙 ③にふい黄橙10YR6/4	器面滑。口縁部直立気味。肩部斜めへう割り。内面接合部に指痕あり。
48R-21 PL14	22号溝	土師器 壺	4区1面 埋土中層	胴部～底部	①- ②60 ③ (257)	①赤色粒多量含む ②酸化焙 ③橙25YR6-6	器面滑。器面整形不明。外面へう割り。
48R-22 PL14	22号溝	土師器 壺	4区1面 埋土中層	口縁～胴部	① (156) ②- ③ (50)	①小礫含む ②酸化焙 ③浅黄橙10YR8/4	器面滑。口縁部外面横ナテ。口縁部強く外反して開き。口縁部折れて小さく立ち。口唇部短。
48R-23 PL14	22号溝	土師器 坏	4区1面	口縁～底部	① (149) ②- ③45	①白色粒微量含む ②酸化焙 ③にふい黄橙10YR7/3	器面滑。丸底。器面整形不明。腰部へう割り。扁平な体・底部。口縁部大きく開く。
48R-24 PL15	22号溝	土師器 壺	4区1面 埋土中層	ほぼ完形	①185 ②66 ③258	①赤色粒・白色粒含む ②酸化焙 ③黄橙10YR7/8	器面滑。口縁部横ナテ。口縁部くの字状。肩部の筋が弱く。最大径胴部中に有り。底部外面横ナテ。体部外面肩部～腰部。横位。胴中位擬定へう割り。
48R-25 PL15	22号溝	土師器 埴	4区1面 埋土中層	口縁～胴部	① (156) ②- ③ (43)	①白色粒含む ②酸化焙 ③にふい黄橙10YR7/3	器面滑。器面整形不明。口縁部やや内湾大きく開く。
48R-26 PL15	22号溝	土師器 壺	4区1面 埋土中層	口縁部のみ	① (150) ②- ③ (67)	①赤色粒・白色粒多量含む ②酸化焙 ③明赤橙10YR7/6	器面滑。口唇外側に折り返す。器口は薄い。器面整形不明。
48R-27 PL15	22号溝	土師器 壺	4区1面 埋土	胴部～底部	①- ②- ③ (33)	①砂粒含む ②酸化焙 ③明赤橙25YR5-8	器面滑。丸底。底部外面中央わずかに凹み有り。体部下位わずかに段を有する。
48R-28 PL15	22号溝	土師器 壺	4区1面 埋土	口縁～底部 1/2	① (164) ② (50) ③ (220)	①赤色粒・白色粒含む ②酸化焙 ③にふい黄橙5YR7/4	器面滑。底部凸状に平坦。口縁部へう割り気味に開く。口唇部横く内湾する。体部外部強く張り。胴部扁平。外面横位へう割り。
48R-29 PL15	22号溝	土師器 壺	4区1面 埋土中層	ほぼ完形	①133 ②- ③141	①赤色粒多量含む ②酸化焙 ③にふい黄橙5YR7/4	器面滑。丸底。器面整形不明。口縁部大きく開く。口唇部横く内湾する。体部外部強く張り。胴部扁平。外面横位へう割り。
48R-30 PL15	22号溝	土師器 壺	4区1面	胴部～底部	①- ② (70) ③115	①赤色粒多量含む ②酸化焙 ③明黄橙10YR7/6	器面滑。体部外面にハケ目有り。

## 古水条里制水田跡遺物観察表

発掘番号 探検番号	遺構名	種類 器種	出土位置	残存状況	①口径 ②口径 ③高さ (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・彫形等の特徴
4908-31 PL15	22号溝	土師器 壺	4区1面 雑土中層	胴部～底部	①- ②74 ③30	①粗砂・赤色粒含む ②酸化腐 ③黒25YR6/8	器面磨滅。器面彫形不明瞭。
4908-32 PL15	22号溝	土師器 壺	4区1面 雑土中層	胴部～底部	①- ②(20) ③(89)	①赤色粒多量含む ②酸化腐 ③黒5Y7/6	器面磨滅。小径な丸底丸唇。器面彫形不明瞭。胴部強く張り扁平。胴部中位縦位ヘケ張り。
4908-33 PL16	22号溝	土師器 壺	4区1面 雑土中層	胴部～底部	①- ②68 ③189	①赤色粒多量含む ②酸化腐 ③浅黄緑10YR8/4	器面磨滅。体部外面にハケ目有り。胴部強く張り下半に最大径を持つ。下張れ形状。胴下半部のハケ目洗直整。腰部横位ヘケ張り。
4908-34 PL15	22号溝	土師器 壺	4区1面 雑土上層	胴部～底部	①- ②(108) ③(35)	①赤色粒・砂粒多量含む ②酸化腐 ③黄925YR4/1	器面磨滅。器面彫形不明瞭。底部より強く洗直的に立ち上がる。
4908-35 PL15	22号溝	石器 石鏝	4区1面 雑土	一部欠損	①長さ420 ②幅330 ③厚2080	①- ②- ③-	チャート。重さ139g。
4908-36 PL15	22号溝	石器 石鏝	4区1面 雑土	一部欠損	①長さ480 ②幅300 ③厚2090	①- ②- ③-	チャート。重さ129g。
4908-37 PL15	22号溝	石器 有舌尖頭器	4区1面 雑土	一部欠損	①長さ620 ②幅330 ③厚2090	①- ②- ③-	チャート。重さ414g。
4908-38 PL15	22号溝	石器 磨り石	4区1面 雑土	定形	①長さ133 ②幅105 ③厚2625	①- ②- ③-	両面に磨り面を有する。火山岩。重さ1077g。
5008-39 PL15	22号溝	石器 白石	4区1面 雑土中層	定形	①長さ247 ②幅168 ③厚263	①- ②- ③-	一面平坦面に浅い凹みを有する。凹みの周辺に磨り面を有する。粗粒輝石火山岩。重さ2910g。
5008-40 PL15	22号溝	石器 白石	4区1面 雑土中層	定形	①長さ204 ②幅119 ③厚270	①- ②- ③-	一面平坦面に浅い凹みを有する。粗粒輝石火山岩。重さ2640g。
5008-41 PL15	22号溝	石器 磨り石	4区1面 雑土下層	定形	①長さ126 ②幅67 ③厚243	①- ②- ③-	両面に磨り面を有する。粗粒輝石火山岩。重さ507g。
5208-1 PL16	23号溝	土師器 S字釜	4区1面 雑土中層	口縁部片	①(170) ②- ③(35)	①砂粒含む ②酸化腐 ③に赤い黄緑10YR4/3	器面磨滅。体部外面ハケ目有り。口縁部横ナデ。
5208-2 PL16	23号溝	土師器 S字釜	4区1面 雑土中層	口縁部片	①(185) ②- ③(27)	①砂粒含む ②酸化腐 ③に赤い黄緑10YR4/3	器面磨滅。外面縦位ハケ目有り。口縁部横ナデ。
5208-3 PL16	23号溝	土師器 高坏	4区1面 雑土上層	胴部のみ	①- ②- ③(84)	①赤色粒多量含む ②酸化腐 ③黒72YR7/6	器面磨滅。外面ヘケ張り。内面しぼり込み。寸割な脚柱部。
5208-4 PL16	23号溝	土師器 高坏	4区1面 雑土上層	胴部のみ	①- ②- ③(67)	①砂粒含む ②酸化腐 ③明緑7.5YR5/6	器面磨滅。器面彫形不明瞭。細身の脚柱部で、面取状の扁状な縦位ヘケ張り。
5208-5 PL16	23号溝	土師器 S字台付釜	4区1面 雑土中層	台部のみ	①- ②94 ③(65)	①白色粒含む ②酸化腐 ③に赤い黄緑10YR4/3	器面磨滅。台底部に砂土塗布。
5208-6 PL16	23号溝	土師器 小型台付釜	4区1面 雑土中層	台部のみ	①- ②62 ③(30)	①白色粒含む ②酸化腐 ③黒5Y7/4	器面磨滅。器面彫形不明瞭。底部内側に張り返す。
5508-1 PL16	27号溝	土師器 壺	5区2面 底面直上	口縁～底部 5.6	①(132) ②72 ③290	①小礫含む ②酸化腐 ③浅黄2.5YR/3	外周ヘケ張り後、ハケ目。口縁部外面縦位～斜めハケ目後、横ナデ。内面接合部指痕あり。球刺状で、中位～肩部が最も張る。ゆがみ有り。腰部、肩部に深い段を持つ。
5508-2 PL16	27号溝	土師器 埴	5区2面 雑土下層	胴部片	①- ②- ③(77)	①白色粒含む ②酸化腐 ③赤黒10R6/6	器面磨滅。器面彫形不明瞭。口縁部に向かい洗直的に開く。内外面に赤彩を施す。
5508-3 PL16	27号溝	土師器 壺	5区2面 底面直上	胴部～胴部	①- ②- ③(138)	①粗砂粒含む ②酸化腐 ③に赤い黄緑10YR7/3	器面磨滅。器面彫形不明瞭。器厚薄い。肩部に段を持つ。外面ヘケ張り。2溝6と同一個体か？
5508-4 PL16	27号溝	土師器 小型台付釜	5区2面 底面直上	台部のみ	①- ②58 ③(30)	①赤色粒多量含む ②酸化腐 ③浅緑5YR8/4	器面磨滅。器面彫形不明瞭。内面ヘケ調整。

古水条里制水田跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種別 器種	出土位置	残存状況	①材質 ②口径 ③高さ (mm)	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調	器形・彫形等の特徴
5508-5 PL16	27号溝	鉄器 不明	5区2面 裡土	一部欠損	①長さ345 ②幅23 ③厚さ67	①- ②- ③-	内端部欠損。錆化顕著。用途不明。
5508-6 PL16	27号溝	土器器 土師器	5区2面 底面直土	胴部～底部	①- ②73 ③(141)	①細砂粒多量含む ②酸化焙 ③灰白7.5YR7/3	器面半滅。器面彫形不明瞭。器厚は薄い。外面へう高装。腹部に段を持つ。平底。
5508-7 PL16	27号溝	石器 台石	5区2面 底面直土	完形	①長さ302 ②幅212 ③厚さ82	①- ②- ③-	内面に浅い凹みを有する。粗粒輝石雲石質。重さ7050g。
5608-1 PL16	28号溝	埴土器 深鉢	5区2面	破片	①- ②- ③(42)	①粗砂粒多量含む ②酸化焙 ③黄灰2.5YR4/1	器面半滅。
7608-1 PL16	1区遺構 外	土器器 S字釜	1区1面 表土	胴部～腹部	①- ②(96) ③(92)	①砂粒・白色粒多量含む ②酸化焙 ③赤褐色10YR6/6	器面半滅。各部外面下位ハケ目。
7608-2 PL16	1区遺構 外	土器器 S字釜	1区1面 表土	口縁部片	①- ②- ③(24)	①砂粒多量含む ②酸化焙 ③黄褐色10YR5/6	器面半滅。器面彫形不明瞭。
7608-3 PL16	1区遺構 外	須恵器 坏	1区1面 表土	底部のみ 1/2	①- ②(64) ③(12)	①赤色粒多量含む ②酸化焙 ③緑7.5YR7/6	底部回転軸未切り。
7608-4 PL16	1区遺構 外	須恵器 埴	1区1面 表土	底部のみ	①- ②(54) ③(12)	①緑青 ②黄灰焙 ③灰白7.5YR7/1	貼付け高台。底部未切り。
7608-5 PL16	1区遺構 外	須恵器 埴	1区1面 表土	底部のみ	①- ②58 ③(13)	①緑青・白色粒含む ②酸化焙 ③灰白7.5YR7/1	器面半滅。貼付け高台。底部回転軸未切り。
7608-6 PL16	1区遺構 外	土器 土鉢	1区1面 表土	完形	①長さ330 ②幅15 ③厚さ15	①砂粒 ②酸化焙 ③黄10YR4/4	器面半滅。丈は短く、やや寸胴型。重さ9g。
7708-7 PL16	1区遺構 外	青磁 碗	1区1面 表土	口縁片	①(130) ②- ③(35)	①- ②- ③キリアープ灰2.5GY5/1	鍋蓋弁文の口縁部片。釉の発色はあまり良くない。龍泉窯系。13c中～後。
7708-8 PL16	1区遺構 外	青磁 碗	1区1面 表土	破片	①- ②- ③(13)	①- ②- ③灰白10Y7/2	青磁菊蓋の体部下位片。貫入入る。肥前か。13c時代。
7708-9 PL16	1区遺構 外	陶器 皿	1区1面 表土	底部片	①- ②(60) ③(10)	①- ②- ③キリアープ灰10Y6/2	大塚期灰釉皿の底部。内面から高台外周貫入の入る区域。瀬戸・美濃。17c前～中。
7708-10 PL16	1区遺構 外	陶器 皿	1区1面 表土	底部片	①- ②(89) ③(14)	①- ②- ③灰白5Y8/1	鉄胎皿。内面から高台貫入の入る区域。瀬戸・美濃。17c前～中。
7708-11 PL16	1区遺構 外	磁器 皿	1区1面 表土	口縁片	①- ②- ③(27)	①- ②- ③灰白10Y8/1	狭口縁部小片。粗製美骨手皿か。肥前。17c。
7708-12 PL16	1区遺構 外	陶器 皿	1区1面 表土	底部片	①- ②(73) ③(68)	①- ②- ③灰白5Y8/2	長石釉大部の底部片と考えられる。内面から高台部発露。高台内部分的に発露。瀬戸・美濃。17c前。
7708-13 PL17	1区遺構 外	鉄製品 喫煙具	1区1面 表土	一部欠損	①長さ539 ②幅14 ③厚さ68	①- ②- ③-	鑊首。錆化が顕著で、部分的に脱落欠損している。
7708-14 PL17	1区遺構 外	鉄製品 鎌小	1区1面 表土	破片	①長さ41 ②幅63 ③厚さ64	①- ②- ③-	内端部欠損。錆化顕著で残存状態は良好でない。
7708-15 PL17	1区遺構 外	大鉢か	1区1面 表土	胴部片	①長さ(79) ②幅(210) ③厚さ15	①白色粒含む ②いぶし焼成 ③-	胎土の色調は、中央から灰白、淡黄、灰、淡黄で器表は暗灰色。外面は磨かれていない。
7708-16 PL17	1区遺構 外	鉄製品 釘	1区1面 表土	ほぼ完形	①長さ143 ②幅19 ③厚さ66	①- ②- ③-	先端部欠損。断面は正方形を呈する。
7708-17 PL17	1区遺構 外	鉄製品 喫煙具	1区1面 表土	一部欠損	①長さ54 ②幅7 ③厚さ66	①- ②- ③-	吸口か？片側欠損。
7708-18 PL17	1区遺構 外	鉄製品 不明	1区1面 表土	破片	①長さ38 ②幅139 ③厚さ11	①- ②- ③-	板状の鉄片。片側は厚みを増し段を有する。用途不明。
7708-19 PL17	1区遺構 外	鉄製品 不明	1区1面 表土	破片	①長さ52 ②幅26 ③厚さ63	①- ②- ③-	板状の鉄片。用途不明。

## 第3章 古水条里制水田跡

## 古水条里制水田跡遺物観察表

発掘番号 探検番号	遺構名	種類 器種	出土位置	残存状況	①材質 ②成様 ③高さ (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・彫形等の特徴
7704-20 PL17	1区遺構 外	鉄製品 不明	1区1面 表土	一部欠損	①長534 ②幅16 ③厚さ6.5	①- ②- ③-	内部は空洞。用途不明。
7704-21 PL17	1区遺構 外	鉄片	1区1面 表土	ほぼ完整	①長549 ②幅37 ③厚さ27	①重量745g ②細者段3 ③メタル皮なし	砥石磨治済。厚手。粘土質溶融物が主体。 下面に小型の木炭痕あり。
7704-22 PL17	1区遺構 外	貨物	1区1面 表土	ほぼ完整	直径12.37②239 内輪30.66①067 厚さ30.11～0.12	①- ②- ③-	滑り元家。重さ25g。
7704-23 PL17	1区遺構 外	貨物	1区1面 表土	ほぼ完整	直径12.23②226 内輪30.71①072 厚さ30.10～0.11	①- ②- ③-	鉄類不明。重さ17g。
7704-24 PL17	1区遺構 外	貨物	1区1面 表土	ほぼ完整	直径12.20②237 内輪30.71①069 厚さ30.09～0.10	①- ②- ③-	鉄類不明。重さ19g。
7704-25 PL17	1区遺構 外	貨物	1区1面 表土	ほぼ完整	直径12.25②230 内輪30.65①065 厚さ30.11	①- ②- ③-	寛永通寶。重さ23g。
7704-26 PL17	1区遺構 外	貨物	1区1面 表土	ほぼ完整	直径12.52②252 内輪30.59①060 厚さ30.10～0.13	①- ②- ③-	寛永通寶。重さ30g。
7704-27 PL17	1区遺構 外	貨物	1区1面 表土	ほぼ完整	直径12.75②274 内輪30.60①060 厚さ30.12～0.13	①- ②- ③-	寛永通寶。重さ44g。
7704-28 PL17	1区遺構 外	貨物	1区1面 表土	ほぼ完整	直径12.79②278 内輪30.71①- 厚さ30.13～0.15	①- ②- ③-	一銭。重さ65g。
7704-29 PL17	1区遺構 外	貨物	1区1面 表土	ほぼ完整	直径12.19②220 内輪30.71①- 厚さ30.10～0.20	①- ②- ③-	手銭銅貨。重さ31g。
7804-30 PL17	1区遺構 外	貨物	1区1面 表土	ほぼ完整	直径13.11②316 内輪30.71①- 厚さ30.20	①- ②- ③-	五十銭。重さ126g。
7804-31 PL17	1区遺構 外	石器 石錐	1区1面 表土	1/2	①長さ190 ②幅200 ③厚さ20	①- ②- ③-	磨石。重さ245g。
7904-1 PL17	2・3区 遺構外	土師器 高坏	3区1面 表土	胴部のみ	①- ②- ③(68)	①石夾灰・黒色粒含む ②酸化品 ③明青釉①0YR7.6	器面準焼。外面へう崩れ。胴部はけり 込み。才割製の胴柱部。
7904-2 PL17	2・3区 遺構外	須恵器 高坏	2区1面 表土	胴部のみ	①- ②- ③(70)	①小礫・白色粒含む ②還元品 ③灰①5Y7.7	器面準焼。内面へう調整。細目の脚柱部。 縁やかに顔に向かつて開く。
7904-3 PL17	2・3区 遺構外	土師器 小笠笠	3区1面 表土	口縁～底部	①(106) ②- ③(43)	①細部 ②酸化品 ③赤①0R5.6	器面準焼。口縁部外面焼ナア。
7904-4 PL17	2・3区 遺構外	土師器 罌	3区1面 表土	胴部～底部	①- ②(90) ③(56)	①小礫多量含む ②酸化品 ③赤②.5YR6.6	器面準焼。外面へう崩れ。底部より角段 をつけて直線的に立ち上がる。
7904-5 PL17	2・3区 遺構外	土製品 土埴	2区1面 表土	一部欠損	①長さ(45) ②幅20 ③厚さ18	①砂粒含む ②酸化品 ③明青釉①0YR6.6	器面準焼。才割製で彫形は丁字。重さ18 g。
7904-6 PL17	2・3区 遺構外	土製品 土埴	2区1面 表土	ほぼ完整	①長さ550 ②幅12 ③厚さ11	①細部 ②酸化品 ③明青釉①0YR7.6	器面準焼。細身で体部へう崩れ。重さ7 g。
7904-7 PL17	2・3区 遺構外	須恵器 坏	3区1面 表土	口縁～底部 3/4	①(150) ②94 ③53	①小礫・白色粒含む ②還元品 ③灰①N7.0	器面準焼。回糸糸切り。底部中央付近白 ずかに凹む。
7904-8 PL17	2・3区 遺構外	古式土師 罌の蓋	3区 表土	胴部部分	①- ②幅4部54 ③(31)	①白色粒多量含む ②還元品 ③にぶい①0YR7.4	器面準焼。下部縦方向にへう調整。
7904-9 PL17	2・3区 遺構外	須恵器 罌	3区1面 埋土	体部～底部	①- ②66 ③(28)	①黒い砂粒・赤色粒含む ②酸化品 ③灰①5YR8.6	器面準焼。貼付け高台。
7904-10 PL17	2・3区 遺構外	陶器 圓か	2区1面 表土	体部～底部	①- ②(40) ③(23)	①- ②- ③明オリープ①625GY/7	胎土・焼成の特徴から古瀬戸と考えられ る。内外面上位共に灰粒。底部右回糸 痕無調整。古瀬戸。中座。
7904-11 PL17	2・3区 遺構外	白磁 瓶	3区1面 表土	破片	①- ②- ③(28)	①- ②- ③灰①2.5GY/1	内面上位に薄く粘が粘り。瓶頸の体部 土質片と考えられる。中国。12～13c。

古水条里制水田跡遺物観察表

発見番号 図版番号	遺構名	種別 器種	出土位置	残存状況	①材質 ②風様 ③高さ (cm)	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調	器形・彫形等の特徴
7908-12 PL17	2・3区 遺構外	青磁 皿	3区1面 表土	破断片	①- ② (40) ③ (17)	①- ②- ③オリーブ灰10Y6/2	内面ケシとヘラによる施文。高台内輪を 削り取る。口縁部に当たる部分で欠損。釉 の発色はやや良好。龍泉系赤。12～13c。
7908-13 PL17	2・3区 遺構外	青磁 碗	3区1面 表土	破片	①- ②- ③ (15)	①- ②- ③オリーブ灰10Y6/2	龍泉系文様の体部削。釉の発色はやや不 良。龍泉系赤。13c中～後。
7908-14 PL17	2・3区 遺構外	青磁 碗	3区1面 表土	破断片	①- ② (40) ③ (28)	①- ②- ③細灰5G6/1	釉の発色は良く、高台輪部を除き厚く全 面施釉する。高台は幅狭く、先端ががる。 龍泉系赤。13c中～後
7908-15 PL18	2・3区 遺構外	貨幣	2区1面	一部欠損	直径12.34×2.24 内輪3.068×0.71 厚さ3.009～0.12	①- ②- ③-	銅製元金。重さ20g。
7908-16 PL18	2・3区 遺構外	鉄洋	2区1面 表土	ほぼ完形	①長さ87.3 ②幅5.8 ③厚さ5.19	①重さ935g ②磁器度4 ③メタル皮漬化	鋼製鉄洋。上面にシャープな稜線。工 具痕の可能性。下面に小型の木炭痕あり。 粘土質滑石主体。
7908-17 PL18	2・3区 遺構外	鉄洋	2区1面 表土	上面と下面 のみ残存	①長さ55.6 ②幅6.9 ③厚さ5.17	①重さ500g ②磁器度2 ③メタル皮なし	鋼製鉄洋。側面は全面施釉。粘土質滑 石が主体。表面は、下面に酸化土砂 付着。
7908-18 PL18	2・3区 遺構外	木製品	3区1面 表土	破片	①長さ(92) ②幅(28) ③厚さ(2.6)	①- ②- ③-	下面には明らかに加工痕がみられるが、 上面については不明。断面はほぼ円形で ある。
8008-19 PL18	2・3区 遺構外	石器 台石	3区1面 表土	ほぼ完形	①長さ270 ②幅26.6 ③厚さ6.2	①- ②- ③-	西面に複数の凹みを有する。側面に鋸打 痕を有する。粗粒輝石安山岩。重さ6300 g。
8008-20 PL18	2・3区 遺構外	石器 台石	3区1面 表土	破片	①長さ(10.0) ②幅8.9 ③厚さ(6.6)	①- ②- ③-	一面平端部に磨り面を有する。滑石質 灰岩。重さ629g。
8008-21 PL18	2・3区 遺構外	鉄製品 鉄錐	3区1面 表土	ほぼ完形	①長さ(87) ②幅(3.9) ③厚さ20.7	①- ②- ③-	錐の断面は正方形を呈す。穂の先端が2 つに分かれる層状。
8008-22 PL18	2・3区 遺構外	五輪塔 空風輪	2区1面 表土	一部欠損	①長さ28.3 ②幅15.5 ③厚さ13.3	①- ②- ③-	空輪はやや扁長で、くびれは下面に向 って内湾する。風輪も下面に向いて内湾する。 粗粒輝石安山岩。7450g
8108-1 PL18	4区遺構 外	土器器 杯	4区1面 表土	口縁～体部	① (132) ②- ③ (40)	①赤色粒含む ②酸化焙 ③相2SYR6-6	器面半減。口縁部積ナテ。体部上位外輪 に張る。
8108-2 PL18	4区遺構 外	須恵器 杯	4区1面 表土	体部～底部	①- ② (80) ③ (1.8)	①赤書 ②還元焙 ③灰白10Y8/1	器面半減。底部回転糸取り。
8108-3 PL18	4区遺構 外	須恵器 碗	4区1面 表土	体部～底部	①- ② (6.7) ③ (1.5)	①赤書 ②還元焙 ③灰白5Y7/1	器面半減。底部回転糸取り。貼付け高台。
8108-4 PL18	4区遺構 外	須恵器 碗	4区2面 トレンチ	高台のみ 1/2	①- ② (9.5) ③ (1.4)	①赤書・赤色粒含む ②酸化焙 ③相2YR7-6	器面半減。底部回転糸取り。貼付け高台。
8108-5 PL18	4区遺構 外	土器器 高杯	4区1面 表土	脚部のみ	①- ②- ③ (6.5)	①赤色粒多量含む ②酸化焙 ③明赤相5YR5-6	器面半減。器面彫形不明瞭。内面ヘラ調 整。短かめの脚柱部で直線的に開く。
8108-6 PL18	4区遺構 外	土器器 高杯	4区1面 表土	脚部のみ	①- ②51 ③ (106)	①赤色粒多量含む ②酸化焙 ③オリーブ黒10Y3/1	器面半減。器面彫形不明瞭。文高で脚部 の脚柱部。外面縦位ヘラ整形。
8108-7 PL18	4区遺構 外	土器器 高杯	4区1面 表土	脚部のみ	①- ②- ③ (70)	①赤色粒含む ②酸化焙 ③相2YR7-6	器面半減。内面ヘラ調整。外面縦位ヘラ 削り。短かめの脚柱部。
8108-8 PL18	4区遺構 外	土製品 土牌	4区1面 表土	完形	①長さ33.6 ②幅2.1 ③厚さ5.19	①赤書・石英粒含む ②酸化焙 ③相2SYR6-6	器面半減。寸割型で短く彫形にゆがみが みられ、表面に凹凸がある。
8108-9 PL18	4区遺構 外	土器器 S字美	4区1面 表土	口縁部片	① (171) ②- ③ (39)	①石英粒・白色粒含む ②酸化焙 ③明赤相10YR7/6	器面半減。口縁部積ナテ。体部上部外面 斜めハケ目有り。
8108-10 PL18	4区遺構 外	カワラケ	4区1面 表土	口縁～底部 1/2	① (66) ② (30) ③ (20)	①- ②- ③浅黄相10YR8-3	器面半減。
8108-11 PL18	4区遺構 外	白磁 碗	4区1面 表土	破断片	①- ② (6.6) ③ (1.8)	①- ②- ③明オリーブ灰2.5GY7/1	残存部外面無釉。高台内輪の削りは浅く、 高台内輪は斜めに張る。大形分銅瓦葺。 甲図。12c。

## 第3章 古水条里制水田跡

## 古水条里制水田跡遺物観察表

発掘番号 探検番号	遺構名	種類 図様	出土位置	残存状況	①材質 ②形状 ③高さ (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・彫形等の特徴
819-12 PL18	4区遺構 外	青磁 碗	4区1面 表土	底破片	①- ②- ③ (20)	①- ②- ③オリーブR10Y6/2	外面黒褐色文。高台内無胎。底部厚い。 龍泉窯系。13c中-後。
819-13 PL18	4区遺構 外	青磁	4区1面 表土	破片	①- ②- ③ (53)	①- ②- ③オリーブR10Y6/2	内面無胎だが、上部から粘られる。外面 黒褐色文。胎はうすい。器種不詳。龍泉 窯系。中世。
819-14 PL18	4区遺構 外	青磁	4区1面 表土	口縁片	①- ②- ③53	①- ②- ③オリーブR10Y6/2	胎は薄く、貫入入る。黒褐色文。体部内 面下部は無胎。不良品である。接合部内 面は滑らかであり、外面は粗面のみであ るが、胎土・胎質から考えて4区遺構外 13と関係すると考えられる。龍泉窯系。 13c中-後。
829-15 PL18	4区遺構 外	青磁 碗	4区1面 表土	口縁片	①- ②- ③ (28)	①- ②- ③灰オリーブ7Y5/3	外面無胎の黒褐色文。
829-16 PL18	4区遺構 外	器種不詳	4区2面 トレンチ 裡土	口縁片	①- ②- ③ (18)	①- ②- ③灰オリーブ7Y5/2	灰胎。胎土・英濃。中世-江戸。
829-17 PL18	4区遺構 外	亀付 鉢	4区1面 裡土	口縁片	①- ②- ③厚さ (18)	①- ②- ③-	外面宝珠部分の定付残る。口縁部内面2 重縁線。中皿。中世。
829-18 PL18	4区遺構 外	陶器 鉢	4区1面 表土	口縁部片	①- ②- ③ (40)	①- ②- ③灰黄緑10YR5/2	口縁部がわずかに平皿面を有する。 食器。中世。
829-19 PL18	4区遺構 外	貨幣	4区1面 表土	破片	直径① 0.90 ② 0.88 内輪③- ④- 厚さ③0.13 ~ 0.14 ⑤-	①- ②- ③-	銭形元宝。重さ1.6g。
829-20 PL18	4区遺構 外	貨幣	4区1面 表土	一部欠損	直径①2.25 ② (2.15) 内輪③0.65④0.69 厚さ③0.09 ~ 0.10 ⑤-	①- ②- ③-	泉貨通宝。重さ2.0g。
829-21 PL18	4区遺構 外	貨幣	4区1面 表土	一部欠損	直径①2.31 ②2.31 内輪③0.60④0.63 厚さ③0.11 ~ 0.14 ⑤-	①- ②- ③-	銭形不明。重さ1.8g。
829-22 PL19	4区遺構 外	貨幣	4区1面 表土	一部欠損	直径①2.33 ②2.33 内輪③0.56④0.56 厚さ③0.14 ~ 0.16 ⑤-	①- ②- ③-	洪武通宝。重さ2.1g。
829-23 PL19	4区遺構 外	貨幣	4区1面 表土	変形	直径①2.46 ②2.42 内輪③0.51④0.49 厚さ③0.15 ~ 0.17 ⑤-	①- ②- ③-	寛永通寶。重さ4.7g。
829-24 PL19	4区遺構 外	貨幣	4区1面 表土	一部欠損	直径①2.32 ②2.33 内輪③0.65④0.67 厚さ③0.10 ~ 0.14 ⑤-	①- ②- ③-	銭形不明。重さ2.0g。
829-25 PL19	4区遺構 外	瓦	4区1面 17号溝	ほぼ完形	直径①2.52 ②2.48 内輪③0.51④0.51 厚さ③0.31 ~ 0.46 ⑤-	①- ②- ③-	用途不明。表面に捺印あり。重さ157g。
829-26 PL19	4区遺構 外	石部 石皿	4区1面 表土	ほぼ完形	①長5.40 ②幅2.9 ③厚さ0.50 ④-	①- ②- ③-	チャート。重さ0.52g。
829-27 PL19	4区遺構 外	石部 石皿	4区1面 表土	変形	①長5.00 ②幅3.69 ③厚さ1.00 ④-	①- ②- ③-	チャート。重さ1.86g。
829-28 PL19	4区遺構 外	石部 石皿	4区1面 表土	一部欠損	①長5.29 ②幅3.16 ③厚さ0.50 ④-	①- ②- ③-	チャート。重さ2.11g。
829-29 PL19	4区遺構 外	石部 石皿	4区1面 表土	破片	①長5.60 ②幅3.29 ③厚さ0.90 ④-	①- ②- ③-	チャート。重さ1.25g。
829-30 PL19	4区遺構 外	石部 磨り石	4区1面 表土	破片	①長さ (89) ②幅11.2 ③厚さ (22) ④-	①- ②- ③-	1面の平皿面に磨り面を有する。粗粒安 山岩。重さ192g。
829-31 PL19	4区遺構 外	石部 石筥	4区1面 表土	ほぼ完形	①長さ18.5 ②幅11.3 ③厚さ2.0 ④-	①- ②- ③-	ホルンフェルス。重さ498g。
829-32 PL19	4区遺構 外	石部 四石	4区1面 表土	変形	①長さ10.2 ②幅11.2 ③厚さ4.5 ④-	①- ②- ③-	両面に凹みを有する。凹みは中央部が深 い。粗粒輝石安山岩。重さ531g。
839-1 PL19	5区遺構 外	土器器 壺	5区 表土	口縁部のみ	①- ②- ③ (45)	①小樽・石英粒含む ②酸化器 ③成黄緑10YR8/4	器面等焼。器形器態不明瞭。

古水条里制水田跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種類 器種	出土位置	残存状況	①材質 ②風様 ③高さ (cm)	④胎土 ⑤焼色 ⑥色調	器形・彫形等の特徴
83R-2 PL19	5区遺構 外	須恵器 坏	5区1面 表土	底部～底部 1/2	①- ② (74) ③ (22)	①緑青・白色粒含む ②還元焰 ③灰白N7-0	底部回転糸切り。
83R-3 PL19	5区遺構 外	陶器 片	5区1面 表土	破片	①- ② (64) ③ (09)	①- ②- ③浅黄7.5R7/3	大黒陶。灰地肌。瀬戸・美濃。16c。
83R-4 PL19	5区遺構 外	青磁 種花皿	5区1面 表土	口縁～底部	① (126) ②- ③ (21)	①- ②- ③紺灰7.5GY5/1	貫入入る。口縁部内面に沈線認められるが、底部には文様が認められない。産泉濃系。15c。
83R-5 PL19	5区遺構 外	白磁 皿	5区1面 表土	口縁片	①- ②- ③ (20)	①- ②- ③灰10Y8/1	口縁部外反。口縁部部の輪取り取る。口縁部外面に浅い凹線三条。中国。13c中～14c前。
83R-6 PL19	5区遺構 外	鉄器 不明	5区1面 表土	破片	①長さ25.6 ②幅1.5 ③厚2.02	①- ②- ③-	断面はU字状を呈す。潤滑面等で、残存状態は悪い。
83R-7 PL19	5区遺構 外	鉄器 盤	5区1面 表土	一部欠損	①長さ58.2 ②幅1.0 ③厚2.08	①- ②- ③-	断面は長方形を呈す。先端部欠損。
83R-8 PL19	5区遺構 外	貨幣	5区1面 表土	ほぼ完形	直径①2.42②2.41 内輪③0.77④0.64 厚さ⑤0.13～0.15	①- ②- ③-	聖徳天皇。重さ35g。
83R-9 PL19	5区遺構 外	貨幣	5区1面 表土	ほぼ完形	直径①2.41②2.42 内輪③0.63④0.62 厚さ⑤0.11～0.13	①- ②- ③-	政治遺産。重さ26g。
83R-10 PL19	5区遺構 外	貨幣	5区1面 表土	一部欠損	直径①2.41② (187) 内輪③0.55④0.55 厚さ⑤0.12～0.15	①- ②- ③-	聖徳天皇。重さ22g。
83R-11 PL19	5区遺構 外	貨幣	5区1面 表土	ほぼ完形	直径①2.26②2.28 内輪③0.66④0.63 厚さ⑤0.09～0.11	①- ②- ③-	聖徳天皇。重さ22g。
83R-12 PL19	5区遺構 外	貨幣	5区1面 表土	完形	直径①2.29②2.29 内輪③④- 厚さ⑤0.10～0.13	①- ②- ③-	一銭。大正十三年。重さ34g。
83R-13 PL19	5区遺構 外	石器 片	5区1面 表土	破片	①長さ54.90 ②幅3.60 ③厚51.20	①- ②- ③-	燧石。重さ2.93g。
83R-14 PL19	5区遺構 外	石器 砥石	5区1面 表土	破片	①長さ100 ②幅7.2 ③厚51.9	①- ②- ③-	幅の広い面に、斜め方向に多数の條状の線が入る。混岩。重さ153g。
83R-15 PL19	5区遺構 外	石器 砥石	5区1面 表土	完形	①長さ77.6 ②幅2.9 ③厚52.1	①- ②- ③-	4面を使用しているが、幅の広い2面を主に使用する。幅の狭い2面に斜め方向の條状の線が入る。砥石。重さ42g。
83R-16 PL19	5区遺構 外	石器 片	5区1面 表土	破片	①長さ314.5 ②幅4.9 ③厚51.4	①- ②- ③-	用途不明。緑色片岩。重さ122g。
83R-17 PL19	5区遺構 外	鉄製品 鋳物具	5区1面 表土	一部欠損	①長さ (46) ②幅1.0 ③厚2.09	①- ②- ③-	鑊首。内部に種物織造の部材が残る。
83R-18 PL19	5区遺構 外	鉄製品 鋳物具	5区1面 表土	一部欠損	①長さ (39) ②幅1.2 ③厚51.2	①- ②- ③-	鑊首。右側面、割れている。
83R-19 PL19	5区遺構 外	石器 磨り石	5区2面	ほぼ完形	①長さ131.1 ②幅11.4 ③厚54.8	①- ②- ③-	細粒に磨り出。磨粒輝石安山岩。重さ899g。
84R-1 PL20	6区遺構 外	須恵器 坏	6区1面	口縁～底部 4/5	① (138) ② (70) ③38	①赤色磁粉粒染発含有り・白色粒含む②還元焰 ③灰白N6/1	器面磨滅。底部左回転糸切り。
84R-2 PL20	6区遺構 外	須恵器 坏	6区1面	底部～底部	①- ②7 ③ (23)	①小粒含む②還元焰 ③灰白N8-0	器面磨滅。底部右回転糸切り。
84R-3 PL20	6区遺構 外	須恵器 坏	6区1面	底部～底部	①- ② (80) ③ (33)	①赤色磁粉粒染発多数含有り②還元焰 ③灰白N8-0	器面磨滅。器面彫形不明瞭。
84R-4 PL20	6区遺構 外	須恵器 坏	6区1面 表土	口縁部片	① (116) ②- ③ (25)	①赤色粒含む②還元焰 ③明オリープ灰2.5GY7/1	口縁部磨滅。貼付け高台。



## 第3章 古水条里制水田跡

古水条里制水田跡遺物観察表

探検番号 図版番号	遺構名	種類 図種	出土位置	残存状況	①材質 ②成様 ③高さ (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・彫形等の特徴
8405-5 PL20	6区遺構 外	須恵器 環	6区1面	口縁～底部 1/2	① (138) ② (78) ③32	①白色粒含む ②還元焼 ③灰白N8-0	器面磨滅、底部回転糸切り。
8405-6 PL20	6区遺構 外	須恵器 環	6区1面	口縁～底部 表土	① (128) ② (78) ③30	①白色粒含む ②還元焼 ③灰白N7-0	器面磨滅、底部回転糸切り。
8405-7 PL20	6区遺構 外	須恵器 環	6区1面	口縁～底部 表土	①118 ②83 ③41	①小礫含む ②還元焼 ③灰白N7-0	回転糸切り。底部より、やや内湾気味に直線的に立ち上がる。胎付1枚有。
8405-8 PL20	6区遺構 外	青磁 碗	6区1面	破片	①- ②- ③ (21)	①- ②- ③オリーブ黄R10Y5-2	高麗青文様。発色は良い。磁器系。13c中～後。
8405-9 PL20	6区遺構 外	青磁 碗	6区1面	口縁片	①- ②- ③ (15)	①- ②- ③オリーブ黄R5GY7/1	細い輪書文。貫入はないが発色は不良。高台内まで施釉するタイプであろう。
8405-10 PL20	6区遺構 外	須恵器 碗	6区1面	口縁～底部 表土	① (64) ②- ③ (49)	①- ②- ③灰白N8-0	外面腹目に細い点状片上に竹葉文を配し、右に松葉文を描く。口縁部内面は雷文帯。焼色、黄赤。19c前～中。
8405-11 PL20	6区遺構 外	埴輪 円筒埴輪	6区1面	破片	①- ②- ③縦 (4.0) 横 (3.8)	①白色泥物粒含む ②良好 ③縦7.5YR4-6	ターム(2次的)付着。外面縦位ハケ目。
8405-12 PL20	6区遺構 外	埴輪 円筒埴輪	6区1面	破片	①- ②- ③縦 (3.7) 横 (4.0)	①白色泥物粒含む ②良好 ③縦7.5YR4-6	ターム(2次的)付着。磨滅している。外面縦位ハケ目。
8405-13 PL20	6区遺構 外	埴輪 円筒埴輪	6区1面	破片	①- ②- ③縦 (3.4) 横 (4.9)	①黒色泥物粒含む ②良好 ③明赤焼2.5YR5-6	外面縦位ハケ目。内面縦位ハケ目。
8405-14 PL20	6区遺構 外	埴輪 円筒埴輪	6区1面	破片	①- ②- ③縦 (4.4) 横 (3.4)	①白色泥物粒含む ②良好 ③赤焼5YR4-6	ターム(2次的)付着。内外面残れている。外面縦位ハケ目。
8405-15 PL20	6区遺構 外	埴輪 円筒埴輪	6区1面	破片	①- ②- ③縦 (3.2) 横 (5.5)	①白色泥物粒含む ②良好 ③明赤焼5YR3-6	ターム(2次的)付着。凸帯脱落。
8405-16 PL20	6区遺構 外	埴輪 円筒埴輪	6区1面	破片	①- ②- ③縦 (3.5) 横 (3.4)	①白色泥物粒含む ②良好 ③明赤焼5YR3-6	赤色色強い。透かし穴有り。外面縦位ハケ目。内面斜めハケ目。内面ターム付着。
8505-17 PL20	6区遺構 外	埴輪 円筒埴輪	6区1面	破片	①- ②- ③縦 (7.0) 横 (7.1)	①赤色・白色泥物粒含む ②良好 ③明赤焼2.5YR5-8	縦方向の凸帯脱落。外面縦位ハケ目。内面斜めハケ目。
8505-18 PL20	6区遺構 外	埴輪 円筒埴輪	6区1面	破片	①- ②- ③縦 (7.5) 横 (6.4)	①白色泥物粒含む ②良好 ③焼7.5YR4/4	磨滅している。外面縦位ハケ目。内面ナシ。
8505-19 PL20	6区遺構 外	埴輪 円筒埴輪	6区1面	破片	①- ②- ③縦 (8.6) 横 (7.1)	①赤色・白色泥物粒含む ②良好 ③赤焼5YR4-6	外面脱落。内面斜めハケ目。底部内側に肥字する。
8505-20 PL20	6区遺構 外	埴輪 円筒埴輪	6区1面	破片	①- ②- ③縦 (5.0) 横 (5.3)	①赤色泥物粒含む ②良好 ③赤焼5YR4-6	内外面赤色強い。外面縦位ハケ目。内面斜めハケ目。
8505-21 PL20	6区遺構 外	埴輪 円筒埴輪	6区1面	破片	①- ②- ③縦 (6.3) 横 (6.5)	①白色泥物粒含む ②良好 ③赤焼2.5YR4/6	ターム(2次的)付着。凸帯良好。外面2次縦位ハケ目有り。内面斜めナシ。
8505-22 PL20	6区遺構 外	埴輪 円筒埴輪	6区1面	破片	①- ②- ③縦 (6.0) 横 (8.0)	①内四石・赤色・白色泥物粒含む ②良好 ③赤焼5YR4-5	内外面赤色強い。透かし穴有り。外面2次縦位ハケ目。内面斜めハケ目。ターム付着。
8505-23 PL20	6区遺構 外	埴輪 円筒埴輪	6区1面	割断片	①- ②- ③縦 (6.0) 横 (8.2)	①赤色・白色泥物粒含む ②良好 ③赤焼5YR4-6	外面縦位ハケ目。内面ナシ。
8505-24 PL20	6区遺構 外	埴輪 円筒埴輪	6区1面	破片	①- ②- ③縦 (8.3) 横 (11.6)	①赤色・白色泥物粒含む ②良好 ③赤焼5YR4-8	胎分多く赤く発色している。外面縦位ハケ目。内面斜めハケ目。凸帯形状良好。
8505-25 PL20	6区遺構 外	埴輪 円筒埴輪	6区1面	破片	①- ②- ③縦 (11.1) 横 (9.8)	①赤色泥物粒含む ②良好 ③焼5YR6-8	透かし穴有り。外面縦位ハケ目。内面上方斜めハケ目。内面下方ナシ。
8505-26 PL20	6区遺構 外	貨幣	6区1面	一部欠損	直径12.42±0.42 内径3.67±0.28 厚さ0.10～0.11	①- ②- ③-	拜啓元家。重さ24g。

古水条里制水田跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種別 器種	出土位置	残存状況	①口径 ②底径 ③高さ (mm)	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・彫形等の特徴
85図-27 PL.20	6区遺構 外	石器 スクレイパー	6区1面	ほぼ完形	①長557 ②幅45 ③厚269	①- ②- ③-	黒色頁岩。重さ2729g。
85図-28 PL.20	6区遺構 外	石器 石削	6区1面 表土		①長さ131 ②幅84 ③厚223	①- ②- ③-	ホルンフェルス。重さ302g。
86図-1 PL.20	出土位置不 明	青磁 甕	1面 表土	口縁部片	①- ②- ③(26)	①- ②- ③オリーブ黄5Y6/3	口縁部内面2条の沈線。分脚線と体部の 文様は観察できない。胎の発色悪い。龍 泉窯系。12c後～13c中。
86図-2 PL.20	出土位置不 明	鉄製品 不明	1面 表土	電形	①長557 ②幅29 ③厚306	①- ②- ③-	断面は円形。片方の先端は鋭る。用途不 明。

## 第4章 二の宮遺跡

### 第1節 調査の方法

#### 1 調査区の設定

調査にあたり国家座標Ⅹ系を基準に5mグリッドを設定した。調査区は、古水条里制水田跡同様、北関東自動車道建設予定地西側より、順次、算用数字の1～5区を設定した。それぞれの調査面積は1区826m<sup>2</sup>・2区4,241m<sup>2</sup>・3区5,217m<sup>2</sup>・4区3,681m<sup>2</sup>・5区172m<sup>2</sup>の合計14,137m<sup>2</sup>である。調査区は現有の道路（一部用水路）を境界として設定した。1区は渡良瀬土地改良106号線から渡良瀬土地改良105号線までとし、2区は渡良瀬土地改良105号線から東側の用悪水路までとした。3区は用悪水路から渡良瀬土地改良108号線までとし、4区は渡良瀬土地改良108号線から東側の用悪水路までであり、5区の東端は市道富若・古水線となっている。

二の宮遺跡では最初に発掘に着手したのが3区となっており、平成15年12月より3区最東端（422m<sup>2</sup>）を調査している。その後、順次、3区西側の1,027m<sup>2</sup>、1,551m<sup>2</sup>へと段階的に西側へ調査範囲を広げている。そうした経緯より、調査時、3区においては各段階ごとに3区-①～3区-③と分割して調査区を設定しているが、報告時にはこれらをまとめて3区とした。

#### 2 調査方法

本遺跡の表土除去には、調査の効率化を図るために、部分的に掘削機械（0.7バックフォアと0.45バックフォアを併用）を使用した。また遺構の確認作業及び精査、埋土除去作業等は発掘作業員の手で行った。

遺構名称は種別ごと・調査区ごとに通し番号を付し、遺物の取り上げに際しては、遺構単位を基本として原位置をとどめるものについてはその都度番号を付し、図面上に記録した。また、出土遺物の取り上げに際しては完形・大型破片については図化等を行ったが、小破片については一括して取り上げた。

遺構などの記録は、測量と写真撮影によった。このうち測量は、調査区全体図等の平面図作成と住居・溝・土坑・ピット・井戸等の遺構平面図作成に関しては機械実測による地上測量を用い、打ち出す図面の縮尺は1/10、1/20、1/40等、遺構の性格に合わせて適宜使用した。遺構セクション図・エレベーション図については、作業員の手による実測とした。尚、実測図には遺跡名・図名称・縮率・実測者・レベル高等を併記した。

写真撮影には35mm版の白黒フィルムとカラースライドフィルム、6×7版白黒フィルムを使用した。また撮影対象によって高所作業車の使用、空中写真撮影を委託により実施した。

二の宮遺跡は1面を近世～古墳時代面とし、2面を縄文包含層、3面を旧石器試掘として3面に区分して調査を行っている。

1面調査は、掘削機械でⅠ層からⅣ層までの表土及び客土を除去しAs-B混土層であるⅤ層を検出した上で、その後作業員の手によってⅤ層を掘り下げた。こうして1面はローム漸移層であるⅥ層を鍵層として、それより上層から掘り込まれている遺構を確認した。その結果、1面では古代・中世・近世以降の遺構が同一面において検出されることとなったが、その多くは古代の遺構であり、中世の遺構も若干確認することが出来た。

2面調査は縄文時代の包含層調査である。Ⅵ層を作業員の手により徐々に掘り下げることにより、遺物の出土状況と遺構の広がり捉えたい。2面は、全調査区において全面を調査したのではなく、遺構と遺物が確認された段階で、調査範囲を周囲に広げていく方法をとった。その結果、4区では全面調査に至ったが、それ以外の調査区では、一部のみの調査に止まっている。

3面調査は旧石器試掘調査である。1区・2区・4区・5区は2m×2m、3区は2m×4mの試掘グリッドを設定して調査を行ったが、すべての調査区において遺構・遺物を確認することはできなかった。

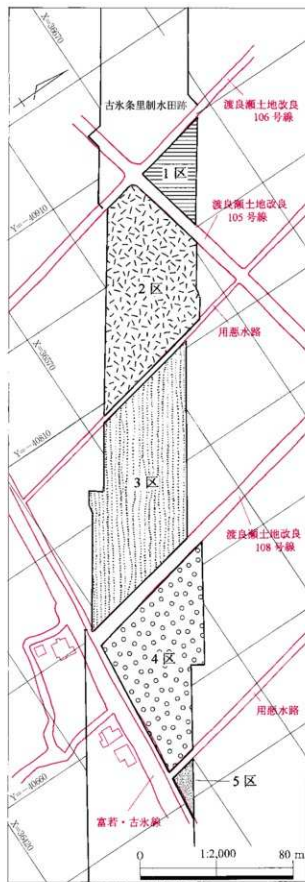
## 第2節 発掘調査の経過

発掘調査は途中、調査員構成の変更を伴いながら、平成15年12月1日より開始され、平成17年3月31日までの15ヶ月間実施された。以下、その概要を記す。

## (第1期 平成15年度)

導入期となる平成15年度は冬季の12月より用地の買収済地点から開始され、3区(5,217㎡)の東半分(3,000㎡)と5区(172㎡)の調査を実施した。遺跡周辺は、特に冬季における北西からの強風が著しく、風対策等で度々発掘調査にも影響が生じた。同時に、気温低下に伴う凍結防止・防霜対策としてブルーシート・ロールマット等による養生作業が必要とされた。また年度末頃より、調査区周辺の環境変化に伴う地元住民との事前協議に時間を費やしたため、その対応で調査が大幅に停滞気味になる傾向が現れ始めた。

- 12月1日 担当者2名着任。  
 2日 表土掘削開始。  
 8日 現場事務所設置。  
 9日 3区遺構確認作業開始。  
 10日 3区遺構掘り下げ開始。  
 18日 3区遺構記録(全景・断面図作図・写真撮影)開始。  
 1月8日 3区遺構記録(遺構平面図作図)開始。  
 2月3日 縄文包含層グリッド設定。  
 4日 3区縄文包含層調査開始。  
 6日 3区全景写真撮影。  
 13日 3区旧石器試掘調査開始。  
 3月2日 3区縄文包含層調査終了。  
 18日 3区旧石器試掘調査終了。  
 3区一部、埋め戻し開始。  
 22日 5区表土掘削開始。  
 23日 5区遺構確認作業開始。  
 31日 平成15年度作業終了。



第87図 調査区設定図

第4章 二の宮遺跡

(第2期 平成16年度)

第2期となる平成16年度は、1区(826㎡)・2区(4,241㎡)・3区西半分(1,027㎡)・4区(3,681㎡)と、前年度に着手した5区(172㎡)の残地の調査を実施した。

前年度からの環境変化に伴う地元住民との事前協議が継続しており、その対応で、年度当初よりおよそ1ヶ月間、やむなく作業中止状態が続いた。調査再開後も、調査担当者1名は、多くの時間を地元対策に要することとなる。特に11月以降はほぼ連日、地権者や工事関係者が来跡し、その対応に従事することとなる。2月より隣接する古水条里制水田跡へ担当者2名が支援に出向き、古水条里制水田跡の調査の迅速化が図られた。

- 4月6日 担当者2名着任。
- 5月6日 3区遺構確認作業開始。
- 7日 3区遺構掘り下げ開始。
- 11日 3区遺構記録(断面図作図・写真撮影)開始。
- 19日 3区東側(平成15年度調査分)埋め戻し開始。
- 3区西側縄文包含層調査開始。旧石器試掘調査開始。
- 28日 1区遺構確認作業開始。
- 6月3日 2区表土掘削開始。遺構確認作業開始。
- 4日 3区東側全景写真撮影。
- 7日 3区埋め戻し開始。
- 9日 2区遺構掘り下げ開始。
- 11日 2区遺構記録(平面図作図)開始。
- 14日 1区遺構掘り下げ開始。
- 30日 4区表土掘削開始。
- 7月20日 事務所移転。
- 8月10日 1区・2区航空撮影。
- 11日 1区・2区遺構記録(平面図作図)開始。
- 2区縄文包含層調査開始。
- 27日 2区縄文包含層調査終了。

- 1区・2区旧石器試掘調査開始。
- 9月9日 1区旧石器試掘調査終了。
- 10月15日 1区・2区全景写真撮影。
- 1区・2区埋め戻し開始。
- 28日 4区・5区遺構確認作業開始。
- 29日 4区遺構掘り下げ開始。
- 11月2日 5区遺構掘り下げ開始。
- 12日 4区・5区遺構記録(平面図作図)開始。
- 25日 4区・5区航空撮影。
- 29日 4区・5区縄文包含層調査開始。
- 1月4日 担当者1名交替。
- 17日 4区・5区縄文包含層調査終了。旧石器試掘調査開始。
- 24日 5区旧石器試掘調査終了。
- 2月7日 4区・5区全景写真撮影。
- 17日 4区旧石器試掘調査終了。
- 18日 遺跡周辺整備。
- 21日 以後、担当2名は古水条里制水田跡へ合流。
- 3月15日 埋め戻し終了
- 31日 平成16年度作業終了。

整理作業は群馬県埋蔵文化財調査事業団資料整理部(担当:資料整理第1グループ)が実施し、当事業団本部において、平成20年2月から平成21年2月まで13ヶ月間実施され、平成21年3月に発掘調査報告書を刊行した。なお発掘調査報告書は古水条里制水田跡との合冊としてまとめた。

## 第3節 基本層序

本遺跡の基本層序としては、発掘調査時に現地表を含めて観察できる土層断面の記録をとっていないため、本調査に先だって実施された範囲確認調査時における土層観察記録と、旧石器試掘調査時における土層観察記録とを合わせて検討することとした。3区北側中央 (X=36630 Y=-40750) 付近の土層を模式図で表した。

調査区のほぼ全域にわたり、昭和50年代に「群馬県菅渡良瀬川流域地区公害防除特別土地改良事業」が実施されており、各調査区とも上層はこの時に入れ替えられた客土となっている。

各層の特徴を列記すると以下のとおりである。

I層：暗褐色。現耕作土。

II層：暗褐色。粘質土層。現耕作土。鉄分の沈着がみられる。

III層：暗褐色。ロームブロックを含む。

IV層：褐灰色。ロームブロックを少量含む。

V層：暗褐色。As-B混土。白色軽石 (Hr-FA) を少量含む。

VI層：暗褐色。ローム漸移層。

VII層：黄褐色。ソフトローム層。鉄分を含む。

VIII層：にぶい黄褐色。鉄分を含む。

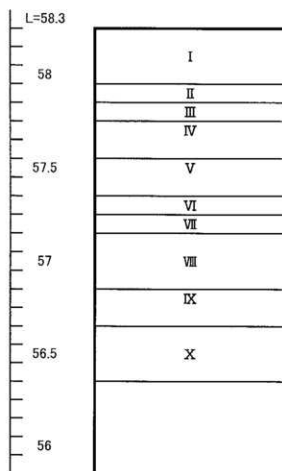
IX層：にぶい黄褐色。砂質土。鉄分を含む。

X層：にぶい黄褐色。粘質土。

I層は粘性が弱く、粒子の粗い現代の耕作土である。II層は粘性が強く鉄分の沈着がみられ、現耕作に伴う床土となっている。III層・IV層ともロームをブロック状に含んでいるが、III層の方がその密度が高い。ここまで上層を占めているI層～IV層は、昭和50年代に実施された土地改良に伴って入れ替えられた土壌である。この入れ替えは全調査区にわたり実施されており、調査区によってその深さは異なるが、概ね17cmから最も深い所では70cmもの堆積がみられる。V層はAs-B混土主体の層で、部分的にHr-FA軽石や焼土粒の混入が観察できる。3区において最も残りが良く、最西端の1区においてはまった

く残っていない。またV層直下は、Hr-FAを含む黒色粘質土の堆積が部分的に確認できたが、層位として認識することができなかったため、V層に含むこととした。VI層はローム粒を含む、ローム漸移層である。4区において最も残りが良く、V層同様、1区においてはまったく残っていない。VII層以下はローム層となる。

範囲確認調査時は、VII層を鍵層として、それより上層から掘り込まれている遺構の確認を行っている。土地改良事業に伴う土壌入れ替えは、部分的にVII層まで及んでいることが範囲確認調査時のトレンチで確認されている。特に調査区西側の1区・2区に設定されたトレンチでは、土地改良時の客土直下がVII層となっており、そこで住居跡等の遺構が確認されている。



第88図 基本土層

## 第4節 1面の調査

## 1 概要

二の宮遺跡の1面の調査では、1区から5区にいたるすべての調査区において遺構を確認することができた。発掘作業は、まず掘削機械でV層上面まで掘り下げた後、作業員の手によりAs-B混土層を掘り下げた。こうして、As-B混土層下のVI層を鍵層とし、それより上層から掘り込まれている遺構を検出していったことから、1面では近世から古代までの遺構が確認された。検出された遺構は住居・掘立柱建物・溝・土坑・ピット・井戸・池である。

本遺跡は全体的に北西を高位とした緩斜面地上に立地しており、古水条里制水田跡に隣接している1区から5区の方角に向かって、徐々に標高が下がっていく。こうしたことから、住居の分布は高地である西側に多く、東側に向かって徐々に減少していくという傾向がみられる。住居が使用された時期は、そのほとんどが8世紀～10世紀である。

掘立柱建物は2区～4区で確認された。若干の例外を除き、その多くは正方位に位置しており、棟方向が南北軸と平行になっている遺構が多い。総柱建物が2区で1棟確認されている他は、すべて側柱建物である。検出された柱穴で柱痕跡が確認されたのはわずかである。また深さ、形状とも一定していない。柱穴からはほとんど遺物は出土していないが、7号掘立柱建物からは、比較的まとまって遺物が確認されている。この出土遺物から7号掘立柱建物は周囲の住居とはほぼ同時期の所産であると考えられる。

溝は1区～4区で確認された。出土遺物から中世の所産と考えられる4号溝・10号溝をはじめ、1区～3区で検出された溝の多くは中世に使用されていたと考えられる。特に2区では、古代に集落が形成されていなかった調査区西側を中心に、中世になり溝が掘り込まれている。いずれも溝の端部に円形土坑状の水溜らしき構造を有し、直線的に掘り込まれていることから、水利を目的に使用されていたことが想定される。一方、東に位置する4区で確認され

た7本の溝は、いずれも古代の所産である。このように、4区においてはわずかに確認されている住居も含め、検出されたすべて遺構が古代の所産であることから、中世以降は開発が衰退していったことが想定される。

土坑は全調査区で総計155基が確認された。いずれも明確な共存遺物が少なく、時期、性格共に不明なものがほとんどである。よって、遺物の出土、埋土の特徴等から時期が確認できる遺構や、顕著な性格を有する遺構に関しては平面図・断面図・写真等を掲載したが、それ以外の遺構に関しては、全体図上で個々の遺構を記した上で、計測値に関しては一覧表での報告に止めた。大きさ、形状等は様々であり、2区75号・81号・82号土坑にいたっては、その規模から土坑として分類するのに躊躇する遺構であるが、混乱を避けるために特に言い換えなかった。2区西側では長方形の土坑が多く確認され、その長軸方向が正方位に位置しているのが注目される。おそらく区画方向に沿って掘削されたものと思われる。また3区22号土坑からは碗形鍛冶滓が出土している。東に隣接する33号住居からは金床石・鉄滓・碗形鍛冶滓等の鍛冶関連遺物が出土していることから、33号住居は鍛冶工房の可能性があり、3区22号土坑はそれに伴う排滓坑であると想定される。

ピットに関しては多量の記録がなされているが、いずれも時期、性格とも不明なものが多い。よって土坑と同様に、出土遺物等から時期が確認できる遺構や、顕著な性格を有する遺構に関しては個別に平面図・断面図・写真等を掲載したが、それ以外の遺構に関しては、全体図上で個々の遺構を記した上で、計測値に関しては一覧表での報告に止めた。

井戸と思われる遺構は2区・3区よりそれぞれ3基ずつ確認された。2区の井戸はいずれも中世以降の所産であると想定される。3区で確認された井戸は、いずれも調査時は土坑として扱っていたが、その形状等より判断し、井戸として報告した。

3区南側からは古代の所産と思われる、溜まり状の遺構（1号池）が確認されている。

## 2 住居

## 1号住居 (1区)【第89~91図 PL.21】

位置 X=36728~36734 Y=-40889~-40894

1号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地している。二の宮遺跡で検出された住居のなかでは、最も標高の高い位置に立地している。また1区では計7軒の住居が検出されているが、1号住居は他の住居から最も離れた場所に位置している。

平面形状 正方形を呈する。

規模 長軸5.0m 短軸4.8m 壁高0.06m

面積19.4㎡

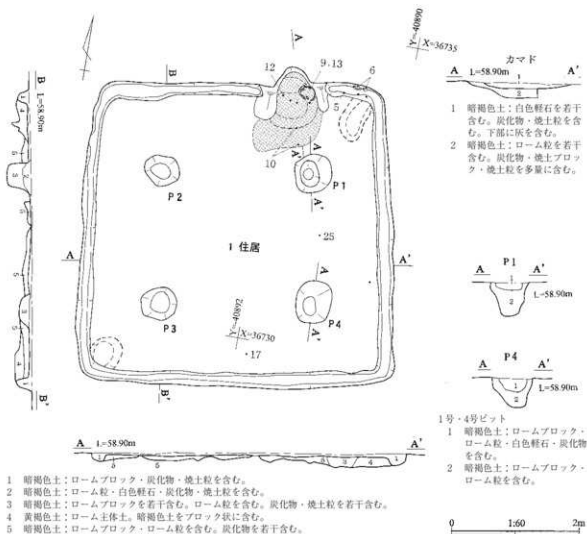
方位 N-79°-E

床面 平坦である。埋土はロームブロック・炭化物・焼土粒を含んだ暗褐色土の単層となっている。

竈 住居北壁東寄りには竈が構築されている。確認長0.76m、焼土・灰・炭化物流出範囲は0.8㎡。袖の残存長は向かって右側が0.47m、左側が0.53m。掘方において、焼土・灰・炭化物流出範囲下部に不整形の掘り込み(0.82m×0.81m×0.1m)がみられる(その範囲は平面図に破線で記した)。また、焼土・灰・炭化物流出範囲のそれぞれ北寄りと南寄りから土師器甕(9・10・12・13)が出土している。

柱穴 住居の各壁より約1.07mの位置に、柱穴と思われるP1・P2・P3・P4を検出した。それぞれの規模はP1(0.66m×0.62m×0.53m)、P2(0.58m×0.5m×0.5m)、P3(0.57m×0.54m×0.34m)、P4(0.58m×0.57m×0.43m)となっている。

周溝 全周しており、幅は0.14m~0.28mで深さは



第89図 1区1号住居平・断面図



第4章 二の宮遺跡

0.11m~0.21mである。なお、周溝内北東隅部付近より、土師器坏（5・6）が出土している。

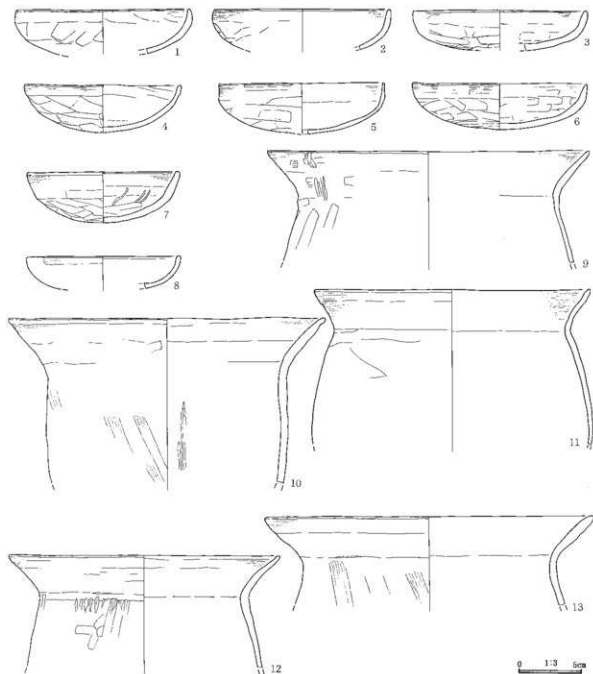
**貯蔵穴** 確認されていない。

**出土遺物** 前述以外には1号住居より遺物として、須恵器坏・須恵器蓋・須恵器皿・須恵器甕等が出土している。また多数の土師器片・須恵器片が出土している。

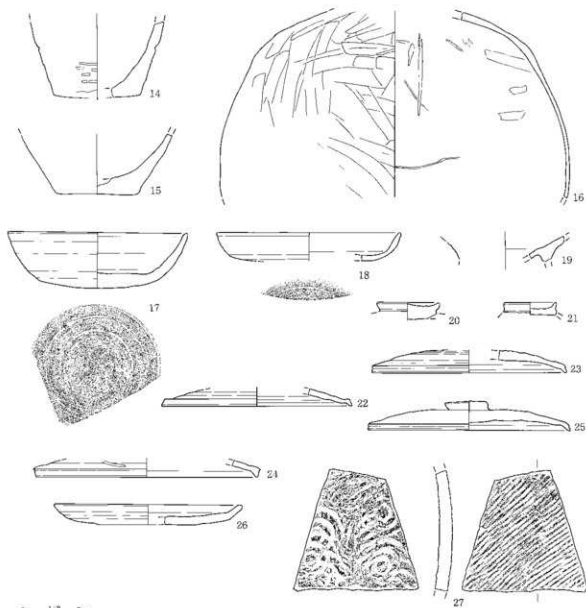
**掘方** 底面は、ほぼ柱穴の内側の範囲となる住居中

央部付近は高く、一方の周辺部は低く掘り込まれている。北東隅付近に浅く掘り込まれた土坑状の掘り込み（0.77m×0.37m×0.15m）がみられ、同様に南西隅に土坑状の掘り込み（0.53m×0.5m×0.19m）がみられる（それぞれの遺構の範囲は、平面図に破線で記した）。

**所見** 出土した遺物から、1号住居の時期は奈良時代と思われる。



第90図 1区1号住居出土遺物



第91図 1区1号住居出土遺物

## 2号住居(1区)【第92~95図 PL.21】

**位置** X=36721~36725 Y=-40878~-40884  
 2号住居は北西を高位とする緩斜面地に、3号住居、4号住居と重複して占地している。1区においては計7軒の住居が検出されているが、2号住居から南西側に向かって、住居の立地密度が高くなる。2号住居の重複関係であるが、3号・4号住居に後出し、1号土坑に先行している。また3号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**平面形状** 東西にやや長い長方形を呈する。

**規模** 長軸4.87m 短軸3.44m 壁高0.17m  
 面積(14.1㎡)

**方位** N-74° -E

**床面** ほほ平坦である。埋土は、ロームブロック・ローム粒・白色軽石・炭化物を含んだ暗褐色土の単層となっている。

**竈** 住居東壁中央部やや南寄りに竈が構築されている。確認長は1.12mである。袖は確認されていない。



第92図 1区2・3・4号住居平・断面図

掘方において、竈中央部のやや西寄りに不整形の掘り込み (0.65m×0.46m×0.08m) がみられる。

**柱穴** 確認されていない。南東隅付近のP1 (0.34m×0.34m×0.09m) が検出されているが、柱穴か否かは断定できない。

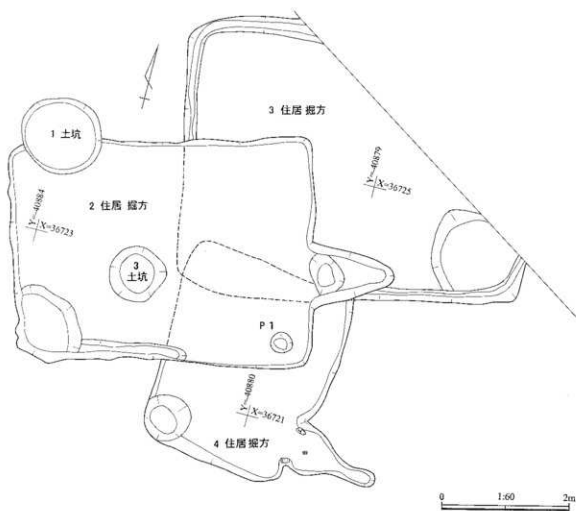
**周溝** 全周しており、幅は0.12m～0.36mで深さは0.11m～0.25mである。

**貯蔵穴** 竈に隣接する位置である住居南東隅部にP1が確認されているが、規模、出土遺物の有無等

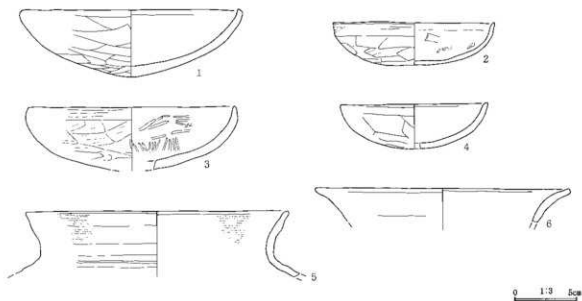
から、貯蔵穴か否かは断定できない。

**出土遺物** 2号住居より遺物として、土師器杯・土師器甕 (5)・須恵器杯 (8)・須恵器蓋・須恵器甕・須恵器塊・埴輪片が出土している。また多数の土師器片・須恵器片が出土している。

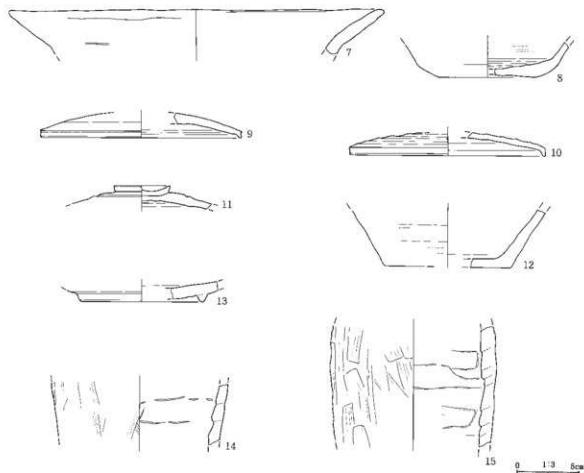
**掘方** 底面で南西隅付近に掘り込まれた土坑状の掘り込みがみられる。また、南東隅部にはP1が確認されている。周溝の一部が、南壁の中央より東側にみられる。なお住居床面中央部やや南寄りに検出さ



第93図 1区2・3・4号住居掘方平面図



第94図 1区2号住居出土遺物



第95図 1区2号住居出土遺物

れた3号土坑(0.86m×0.8m×0.21m)は、床面・掘方のいずれでも確認されており、2号住居に伴うものか否かは不明である。

**所見** 出土した遺物から、2号住居の時期は奈良時代と思われる。

### 3号住居(1区)【第92・93・96図 PL.21】

**位置** X=(36722~36727) Y=(-40876~-40882)

3号住居は2号住居と同様、北西を高位とする緩斜面地に占地している。2号・4号住居に先行しており、重複する3軒の住居のなかでは最も北に位置する。

**平面形状** 東西にやや長い長方形を呈する。

**規模** 長軸(5.79m) 短軸(4.32m) 壁高0.22m  
面積(14.6㎡)

**方位** N-80°-E

**床面** 重複している南西部を除き、ほぼ平坦である。埋土は、上層はロームブロック・ローム粒・白色軽石を含む暗褐色土、下層はロームブロック・ローム粒を含む暗褐色土となっている。

**竈** 3号住居の北東部のおよそ1/3が調査区外となっており、また、南西部の1/4程度が2号住居並びに4号住居に壊されているため、3号住居においては竈を検出することは出来なかった。

**柱穴** 確認されていない。

**周溝** 住居が残存している部分に限っては全周しており、幅は0.12m~0.30mで深さは0.20m~0.31mである。

**貯蔵穴** 確認されていない。

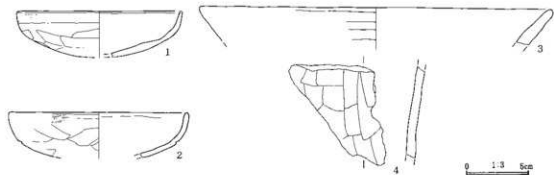
**出土遺物** 3号住居より遺物として、土師器坏・土師器甕が出土している。その他、多数の土師器片が

出土している。

**掘方** 底面に南東隅付近に掘り込まれた土坑状の掘り込みがみられる。この掘り込みは一部が調査区外となっているため、その全容は不明であるが、残存状態より想定される規模は、1.31m×1.29m×0.06

mである。また南壁中央部付近より、礫が3点まるとまって出土している。

**所見** 出土した遺物から、3号住居の時期は奈良時代と思われる。



第96図 1区3号住居出土遺物

#### 4号住居 (1区)【第92・93・97図 PL.21】

**位置** X=(36720~36723) Y=(-40878~-40881)

4号住居は北西を高位とする緩斜面地に、2号住居、3号住居と重複して占地している。2号・3号住居の長軸が東西軸なのに対して、4号住居のみが長軸を南北軸としている。なお重複関係は、4号住居は2号住居に先行しており、3号住居に後出している。

**平面形状** 南北にやや長い長方形を呈する。

**規模** 長軸(3.66m) 短軸2.75m 壁高0.15m

面積(8.5㎡)

**方位** N-1°-E

**床面** はほぼ平坦である。埋土は、上層はロームブロック・ローム粒・白色軽石を含む暗褐色土、下層はロームブロック・ローム粒を含む暗褐色土である。

**竈** 住居東壁南西隅やや北寄りに竈が構築されている。確認長1.38m、焼土・灰・炭化物流出範囲面積0.61㎡。袖はわずかに形成されており、残存長は向かって右側が0.13m、左側が0.17m。左右袖の先端には礫が1個ずつ、芯として埋められている。また、焼土・灰・炭化物流出範囲中央部付近に支脚の礫が埋められていた。その支脚の南側で土師器の壺(1)が出土している。

**柱穴** 確認されていない。

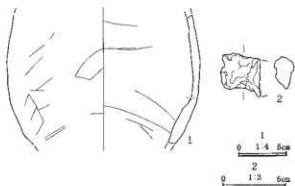
**周溝** 確認されていない。

**貯蔵穴** 確認されていない。

**出土遺物** 4号住居からは前述以外に鉄滓が出土している。

**掘方** 底面に南西隅付近に掘り込まれた土坑状の掘り込み(0.74m×0.74m×0.29m)がみられる。

**所見** 出土した遺物から、4号住居の時期は奈良時代と思われる。



第97図 1区4号住居出土遺物

5号住居（1区）【第98・99図 PL.21】

位置 X=36716~36719 Y=-40874~-40878

5号住居は1区のはほぼ中央やや西寄りの、北西を高位とする緩斜面地に占地している。5号住居はその緩斜面上で、南西方向にやや張り出している地形上に位置している。

平面形状 東西にわずかに長く、さらに西壁に比べて東壁がやや短い台形を呈する。

規模 長軸2.98m 短軸2.67m 壁高0.11m

面積 7.3m<sup>2</sup>

方位 N-71° -W

床面 使用面の記録が無いため、詳細は不明。

埋土はロームブロック・ローム粒・焼土粒を含んだ暗褐色土の単層となっている。

竈 住居東壁はほぼ中央に竈が構築されている。確認長は0.99mである。掘方において、竈北壁西寄りに、ピット状の掘り込みが3基確認されている。また、向かって右袖先端部あたりに、礎が検出されている。おそらく袖の芯として使用されていたと想定される。

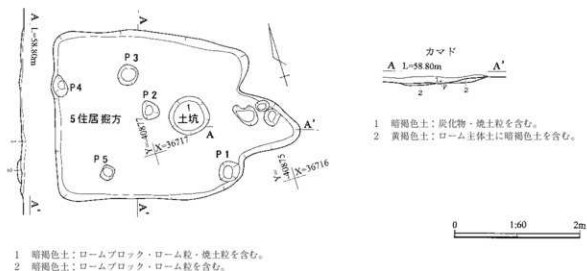
柱穴 掘方においてピット状の掘り込みが複数検出されているが、いずれも柱穴か否かは断定できない。周溝 確認されていない。

貯蔵穴 竈に隣接する南側に、P1が確認されているが、その規模、出土遺物の有無等から、貯蔵穴か否かを断定することはできない。

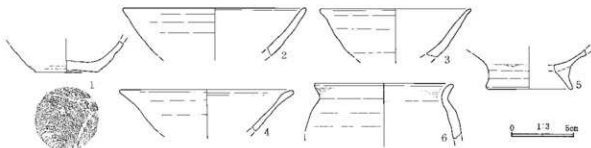
出土遺物 5号住居より遺物として、須恵器壺が、また床面より須恵器杯・須恵器壺・須恵器甕が出土している。その他、土師器片・須恵器片が複数出土している。

掘方 底面はほぼ平坦である。竈内部を除き、土坑状の掘り込みが1基（1号土坑）、ピット状の掘り込みが5基（P1~P5）検出されている。各掘り込みの規模は以下のとおりである。1号土坑（0.65m×0.6m×0.05m）・P1（0.29m×0.26m×0.05m）・P2（0.32m×0.30m×0.21m）・P3（0.34m×0.23m×0.20m）・P4（0.22m×0.18m×0.17m）・P5（0.32m×0.32m×0.17m）。

所見 出土した遺物から、5号住居の時期は平安時代中期と思われる。



第98図 1区5号住居掘方平・断面図



第99図 1区5号住居出土遺物

6号住居（1区）【第100-101図 PL.21】

位置 X=36708~36712 Y=-40873~-40878

6号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地しており、その立地は1号住居～5号住居と同様であるが、6号住居は1区において最も東側に位置している。

平面形状 ほぼ正方形を呈する。

規模 長軸3.76m 短軸3.42m 壁高0.18m

面積 11.7㎡

方位 N-83°-E

床面 床面北側の一部が攪乱で削平されている他

は、ほぼ平坦である。埋土に関しては、記録が無いため詳細は不明。

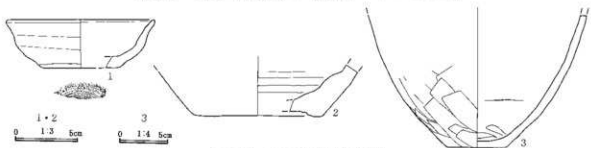
竈 住居東壁南寄りに竈が構築されている。確認長0.65m、焼土・灰・炭化物流出範囲面積は0.55㎡。袖の残存長は向かって右側が0.23m、左側が0.30m。掘方において、焼土・灰・炭化物流出範囲下部に掘り込みがみられ、その内部にピット状の凹みが2箇所確認されている。

柱穴 確認されていない。

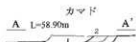
周溝 確認されていない。



第100図 1区6号住居掘方平・断面図・エレベーション図



第101図 1区6号住居出土遺物



- 1 暗褐色土：ロームブロックを若干含む。ローム粒・焼土ブロック・焼土粒を含む。下部に炭化物を含む。
- 2 黄褐色土：ローム主体土に暗褐色土を含む。焼土粒を若干含む。
- 3 暗褐色土：ローム粒を少量含む。炭化物を含む。焼土ブロックを少量含む。焼土粒を含む。



貯蔵穴 確認されていない。

出土遺物 6号住居より遺物として、須恵器環・土釜(2)(3)が出土している。また複数の土師器片・埴輪片も出土している。

掘方 底面で土坑状の掘り込みが東壁と西壁に接してそれぞれ検出されている。また中央部やや西寄りにピット状の掘り込みが確認されている。それぞれの規模は以下のとおりである。1号土坑(1.0m×0.7m×0.08m)・2号土坑(0.75m×0.75m×0.07m)・P1(0.46m×0.33m×0.13m)。

所見 出土した遺物から、6号住居の時期は平安時代中期と思われる。

### 7号住居(1区)【第102図 PL.21】

位置 X=(36711~36716) Y=-40883~-40887  
7号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地している。また、3号溝に先行している。

平面形状 南北にわずかに長く、さらに北壁に比べて南壁がやや短い台形と想定される。

規模 長軸(4.4m) 短軸(3.81m) 壁高0.03m  
面積(12.1㎡)

方位 N-2°-W

床面 3号溝と重複している南西部を除き、ほぼ平坦である。西壁中央やや北寄りに、外側にわずかに突出部が張り出す。埋土に関しては、記録が無いため詳細は不明。

竈 住居東壁南寄りに竈が構築されている。確認長は1.13mである。袖は確認されていない。掘方において、竈南壁中央部やや西寄りに不整形の掘り込み(0.27m×0.22m×0.06m)がみられる。

柱穴 確認されていない。

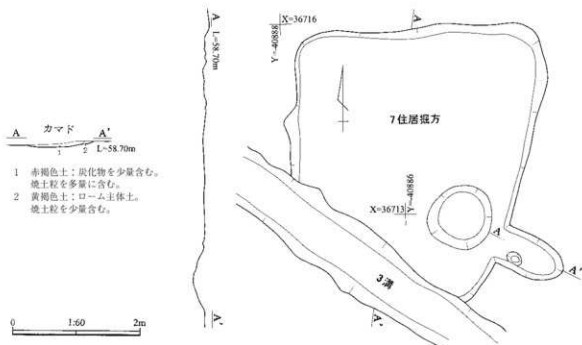
周溝 確認されていない。

貯蔵穴 竈の西側に隣接する位置に、土坑状の掘り込みがみられるが、位置、規模、出土遺物の有無等から、貯蔵穴か否かは断定できない。

掘方 底面に東壁中央部やや南寄りに、土坑状の浅い掘り込み(1.02m×0.99m×0.03m)がみられる。

出土遺物 7号住居からは、わずかに土師器片・須恵器片がそれぞれ1片ずつ、出土している。いずれも小片のため、詳細は不明である。

所見 出土した遺物がわずかで判然とせず、また、後出している3号溝の時期も不明なため、7号住居の時期に関する詳細は不明である。



第102図 1区7号住居掘方平・断面図・エレベーション図

## 8号住居(2区)【第103・104図 PL.21】

位置 X=36632~36636 Y=-40808~-40811

8号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地している。その位置する場所は、57.80mの等高線が南東に張り出している尾根状地形となっている。なお、8号住居は9号住居に後出している。

**平面形状** 南北にわずかに長く、さらに北壁に比べて南壁がやや短い台形を呈する。

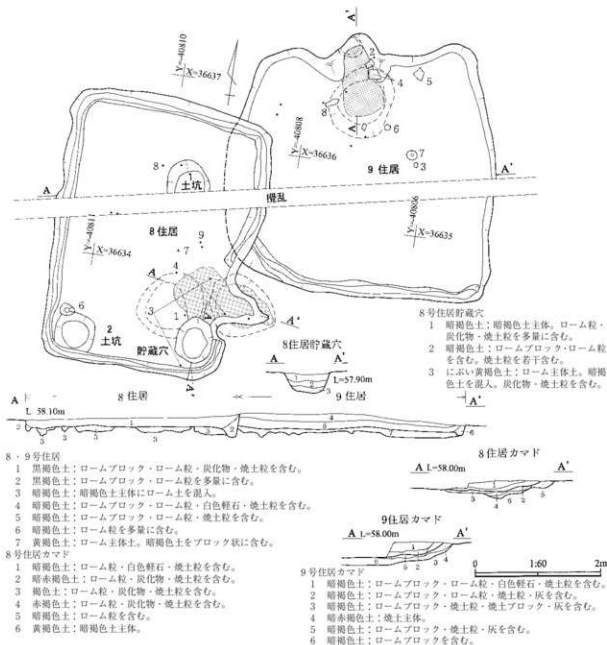
規模 長軸4.36m 短軸2.95m 壁高0.22m

面積 10.4㎡

方位 N-0° E

**床面** ほほ平坦である。住居中央部やや北寄りからは推定0.67m×0.50m×0.07mの1号土坑が、住居南西部隅より貯蔵穴とは同様の規模の2号土坑が検出されている。なお、1号土坑周辺からは羽釜片・土鍾(8)が出土している。埋土は、ロームブロック・ローム粒・炭化物・焼土粒を含む黒褐色土主体の単層となっている。

**竈** 東壁南寄りに竈が構築されている。確認長0.82m、焼土・灰・炭化物流出範囲面積0.95㎡。袖は確



第103図 2区8・9号住居平・断面図

第4章 二の宮遺跡

認められていない。掘方において下部全域に不整形形の掘り込み（1.15m×0.97m×0.07m）がみられる（その範囲は平面図に破線で記した）。焼土・灰・炭化物流出範囲内より、羽釜（3）が出土している。

柱穴 確認されていない。

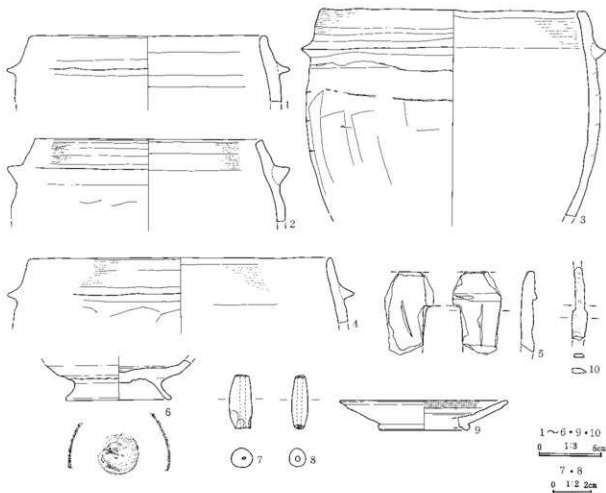
周溝 ほぼ全周しており、幅は0.12m～0.17mで深さは0.05m～0.29mである。

貯蔵穴 竈の南に楕円形の貯蔵穴（0.72m×0.57m×0.29m）を検出した。貯蔵穴内から遺物は出土していないが、周溝より羽釜片（1）が確認されている。

出土遺物 前述以外に遺物として、須恵器埴（6）・須恵器円面硯（5）・灰軸皿（9）が出土している。また、土師器片多数・須恵器片も複数出土している。

掘方 底面で北東隅付近に土坑状の掘り込みがみられる。また、貯蔵穴の北西部に同様に土坑状の掘り込み（1.01m×0.92m×0.12m）が確認された（その範囲は平面図に破線で記した）。

所見 出土した遺物から、8号住居の時期は平安時代中期と思われる。



第104図 2区8号住居出土遺物

9号住居（2区）【第103・105図 PL.22】

位置 X=36633~36638

Y=（-40804~-40809）

8号住居と重複しており、北西を高位とする緩斜面地に占地している。8号住居に先行している。

平面形状 南壁に比べて北壁がやや短い歪んだ台形を呈する。

規模 長軸3.96m 短軸3.86m 壁高0.25m

面積（12.5㎡）

方位 N-84°-E

**床面** ほぼ平坦である。

**埋土**は、暗褐色土が主体で、上層にはロームブロック・ローム粒・白色軽石・焼土粒を含み、下層にはロームブロック・ローム粒・焼土粒を含む。

**竈** 住居北壁のほぼ中央に竈が構築されている。確認長0.77m、焼土・灰・炭化物流出範囲面積0.55m<sup>2</sup>。袖の残存長は向かって右側が0.43m、左側が0.41m。掘方において、竈西壁中央部付近に円形の掘り込み(0.37m×0.35m×0.05m)がみられる(その範囲は平面図上に破線で記した)。右側袖部付近より土師器坏(2)と土師器甕(4)が出土している。

**柱穴** 確認されていない。

**周溝** 南壁のほぼ全域で確認されており、それに続

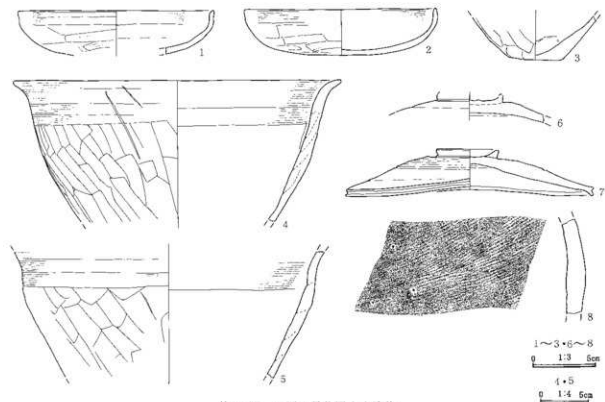
く西壁は8号住居に壊されているため周溝の有無は不明である。周溝の幅は0.16m～0.26mで深さは0.11m～0.21mである。

**貯蔵穴** 確認されていない。

**出土遺物** 9号住居より出土した遺物としては前述以外に、須恵器蓋(6)(7)・須恵器甕(8)が確認されている。また、土師器片多数と、須恵器片も若干出土している。

**掘方** 底面では、焼土・灰・炭化物流出範囲南端部付近に土坑状の掘り込み(1.14m×0.97m×0.14m)がみられる(その範囲を平面図上に破線で記した)。

**所見** 出土した遺物から、9号住居の時期は奈良時代と思われる。



第105図 2区9号住居出土遺物

#### 10号住居(2区)【第106・107図 PL.22】

**位置** X=(36625~36629) Y=(-40799~-40801)

10号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地している。2区の最南端に位置しており、調査区外形線にかかっていることから、10号住居の東西方向ともに

調査区外となっている。そのため、周辺の地形に関する詳細は不明である。

**平面形状** 住居の大半が調査区外となっており、調査できた部分はわずかである。そのため平面形状の全容は不明である。

第4章 二の宮遺跡

規模 長軸(3.84m) 短軸(1.02m) 壁高0.05m  
面積(2.8㎡)

方位 N-22° -W

床面 ほぼ平坦である。

埋土は、暗褐色土が主体で、ロームブロック・ローム粒・焼土粒を含んでいる。

竈 確認されていない。

柱穴 確認されていない。

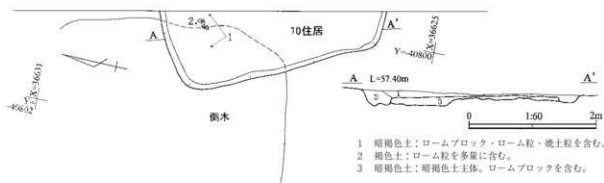
周溝 確認されていない。

貯蔵穴 確認されていない。

出土遺物 10号住居北壁付近より、土師器甕(1)・須恵器甕(2)がまとまって出土している。前述以外には、土師器片がわずかに出土している。

掘方 底面は北西隅部が倒木の影を受けている。

所見 出土した遺物から、10号住居の時期は平安時代中期と思われる。



第106図 2区10号住居平・断面図



第107図 2区10号住居出土遺物

11号住居(2区)【第108~110図 PL.22】

位置 X=36649~36654 Y=(-40804~40810)

11号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地している。

平面形状 東西にわずかに長い長方形を呈する。

規模 長軸5.04m 短軸4.1m 壁高0.24m  
面積(16.6㎡)

方位 N-68° -E

床面 西側へ傾斜しているがほぼ平坦である。

埋土は、暗褐色土が主体となっており、上層はロームブロック・ローム粒・白色軽石・焼土粒を含み、下層はロームブロック・ローム粒・炭化物・焼土粒

を含んでいる。

竈 住居北壁東寄り竈が構築されている。確認長1.0m、焼土・灰・炭化物流出範囲面積0.33㎡。袖の残存長は向かって右側が0.22m、左側が0.16mである。焼土・灰・炭化物流出範囲下部に不整形の掘り込み(0.79m×0.72m×0.09m)がみられる。左側袖先端部付近より、土師器片が出土している。

柱穴 北西隅部付近にP1(0.37m×0.29m×0.12m)が検出されているが、柱穴か否かについては断定できない。

周溝 周溝は、調査区外となっている東壁と北壁の一部を除き全周しており、幅は0.08m~0.39mで深

さは0.11mである。

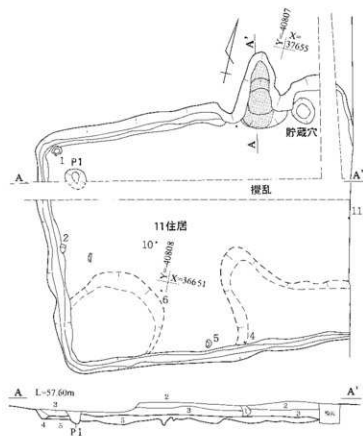
**貯蔵穴** 北東隅部に貯蔵穴(0.42m×0.35m×0.11m)が確認されている。

**出土遺物** 前述以外に11号住居より遺物として、土師器甕(7)・須恵器坏(5)(6)・須恵器埴(4)・須恵器蓋(8)(9)・須恵器甕(10)が出土している。また、土師器片・須恵器片も複数出土

している。

**掘方** 底面は南西隅部に土坑状の掘り込み(1.7m×1.52m×0.09m)が、また南東隅部付近に不整形の掘り込みがみられる。平面図にはそれぞれ破線で記した。

**所見** 出土した遺物から、11号住居の時期は奈良時代と思われる。

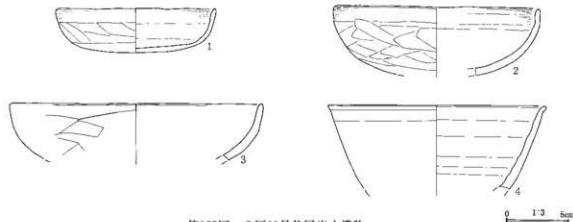


- 1 暗褐色土：ローム粒・白色軽石・焼土粒を含む。
- 2 にぶい黄褐色土：ローム主体。暗褐色土を少量含む。焼土ブロック・焼土粒を含む。
- 3 暗褐色土：ローム粒を含む。焼土ブロック・焼土粒を多量に含む。下部に灰を含む。天井部の崩落。
- 4 暗褐色土：ローム粒・焼土ブロック・焼土粒・灰を含む。

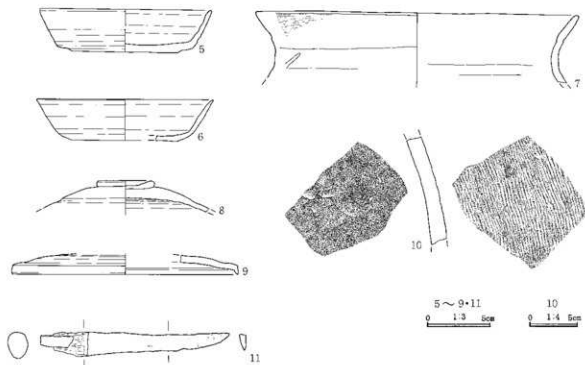
11号住居

- 1 にぶい黄褐色土：粘質土。暗褐色土・焼土粒を含む。
- 2 暗褐色土：ロームブロック・ローム粒・白色軽石・焼土粒を含む。
- 3 暗褐色土：ロームブロック・ローム粒・炭化物・焼土粒を含む。
- 4 暗褐色土：ローム粒を多量に含む。
- 5 暗褐色土：暗褐色土主体。ロームブロック・ローム粒を多量に含む。

第108図 2区11号住居平・断面図



第109図 2区11号住居出土遺物



第110図 2区11号住居出土遺物

12号住居（2区）【第111～113図 PL.22】

位置 X=36629～36634 Y=(-40800～-40805)

12号住居は2区南西端付近に北西を高位とする緩斜面地に占地している。また、98号土坑と重複しており、これに後出している。

平面形状 東西にわずかに長い、歪んだ長方形。

規模 長軸(3.95)m 短軸3.59m 壁高0.28m  
面積(10.68㎡)

方位 N-60° -E

床面 はほぼ平坦である。埋土は、暗褐色土が主体となっており、上層はロームブロック・ローム粒・白色軽石・焼土粒・炭化物を含み、下層はロームブロック・ローム粒・炭化物・焼土粒を含んだ2層によって形成されている。

竈 住居北壁やや東寄りに竈が構築されていると思われる。確認長は1.24m、焼土・灰・炭化物流出範囲面積は1.3㎡である。また袖の残存長は向かって右側が0.29m、左側が0.22mとなっている。焼土・灰・炭化物流出範囲下部に不整形の掘り込み(0.51m×0.4m×0.04m)がみられ、その周辺より

土師器坏(1)・土師器鉢(7)・須恵器埴(9)が出土している。

柱穴 西壁南寄りに、住居の外部に張り出すような形でピット状の掘り込み(0.32m×0.25m)が確認されているが、柱穴か否かは断定できない。

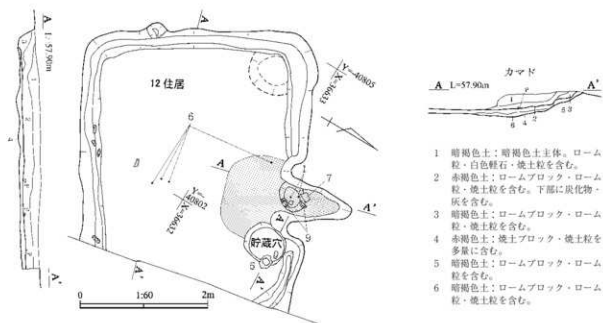
周溝 調査区外となっている東壁を除き全周していることが確認され、幅は0.33m～0.55mで深さは0.21m～0.36mとなっている。なお、南壁の周溝内からは、こも編み石と思われる礫が出土している。

貯蔵穴 北東隅部に貯蔵穴(0.67m×0.58m×0.21m)が確認され、土師器甕(5)・礫が出土している。

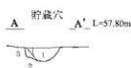
出土遺物 12号住居からは、前述以外に土師器片複数と、須恵器片がわずかに出土している。

掘方 底面は中央付近に平坦部が多くみられるが、周辺部は凹凸が激しい。特に北西隅部には、土坑状の掘り込み(0.89m×0.8m×0.12m)が確認できる。その範囲は平面図に破線で記した。

所見 出土した遺物から、12号住居の時期は奈良時代と思われる。



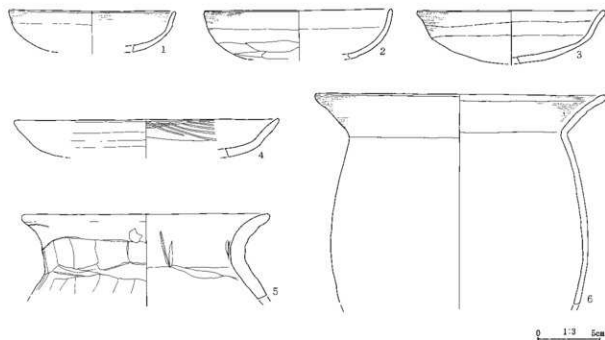
- 1 暗褐色土：ロームブロック・ローム粒・白色軽石を含む。炭化物・焼土粒を少量含む。
- 2 暗褐色土：ロームブロック・ローム粒・炭化物・焼土粒を含む。
- 3 暗褐色土：ロームブロックを含む。ローム粒を少量含む。
- 4 暗褐色土：暗褐色土主体。ロームブロックを含む。ローム粒を多量に含む。



貯蔵穴

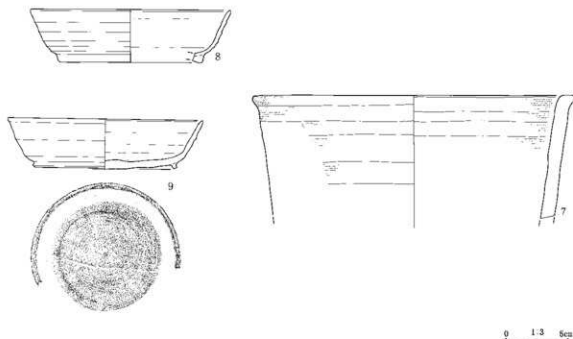
- 1 暗褐色土：ロームブロック・ローム粒・灰を含む。
- 2 暗褐色土：ローム粒を含む。
- 3 暗褐色土：ロームブロック・ローム粒を含む。

第111図 2区12号住居平・断面図



第112図 2区12号住居出土遺物





第113図 2区12号住居出土遺物

**13号住居（2区）【第114・115図 PL.22】**

**位置** X=36636~36642 Y=-40813~-40819

13号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地しており、11号住居とはほぼ同じ標高に位置している。

**平面形状** 南北にわずかに長い長方形を呈する。

**規模** 長軸5.3m 短軸4.9m 壁高0.11m  
面積 18.7㎡

**方位** N-17° -W

**床面** はほぼ平坦である。埋土は、暗褐色土が主体となっており、ロームブロック・ローム粒・白色軽石・焼土粒・炭化物を含んでいる。

**竈** 住居北壁東寄りに竈が構築されている。確認長は1.26m、焼土・灰・炭化物流出範囲面積1.2㎡である。袖の残存長は向かって右側が0.11m、左側が0.23m。掘方において、焼土・灰・炭化物流出範囲下部に不整形の掘り込み（0.97m×0.95m×0.05m）がみられる。また左袖下部にも半円形の掘り込みが確認されている。竈西壁付近から土師器坏（1）が、また、焼土・灰・炭化物流出範囲南端付近より須恵器甕（3）が出土している。

**柱穴** 住居壁より約0.66mの位置に、柱穴と思われるP1・P2・P3・P4を検出した。それぞれの規模はP1（0.63m×0.57m×0.65m）・P2（0.42m×0.38m×0.66m）・P3（0.54m×0.53m×0.7m）・P4（0.53m×0.48m×0.65m）である。

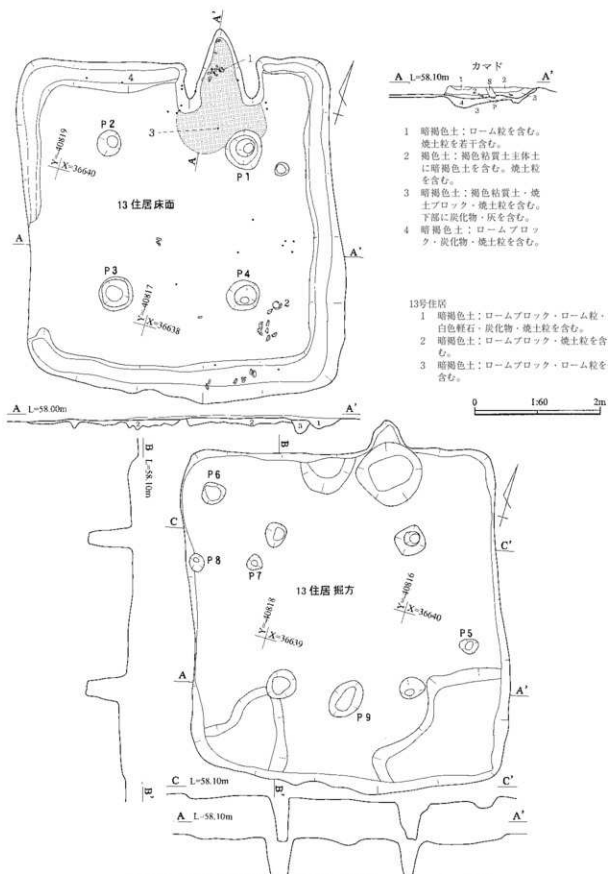
**周溝** 西壁南寄りの一部を除き全周しており、幅は0.23m~0.66mで深さは0.05m~0.24mである。

**貯蔵穴** 確認されていない。

**出土遺物** 13号住居からは多くの遺物が出土しているが、およそ半数はこも編み石などの礫である。特にこも編み石に関しては、南東隅部付近の床面・周溝内から多く出土している。その他の遺物としては、須恵器坏（2）・石斧（4）が出土している。また、土師器片・須恵器片も多量に出土している。

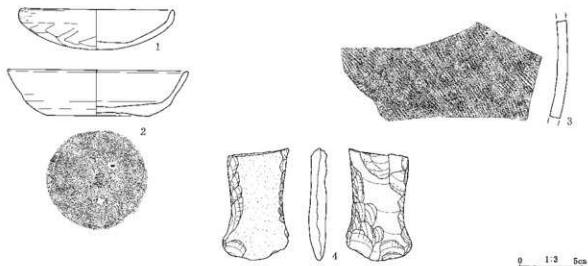
**掘方** 底面には柱穴（P1~P4）以外に、ビット状の掘り込み（P5~P9）がみられる。また、南西部、南東隅部にそれぞれ不整形の掘り込みが確認されている。

**所見** 出土した遺物から、13号住居の時期は奈良時代と思われる。



第114図 2区13号住居床面、掘方平・断面図・エレベーション図

第4章 二の宮遺跡



第115図 2区13号住居出土遺物

14号住居(2区)【第116・117図 PL.22】

位置 X=36642~36647 Y=-40815~-40820

14号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地している。なお、86号土坑に後出する。

平面形状 東西方向に長い長方形。

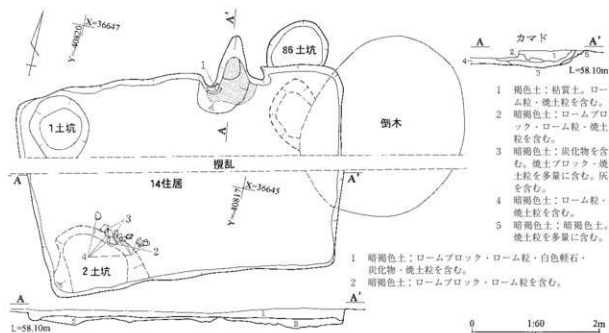
規模 長軸4.98m 短軸3.23m 壁高0.21m 面積14.6㎡

方位 N-75° -E

床面 ほほ平坦である。埋土は、暗褐色土が主体と

なっており、ロームブロック・ローム粒・白色軽石・焼土粒・炭化物を含む単層である。

竈 住居北壁東寄りに竈が構築されている。確認長は0.82m、焼土・灰・炭化物流出範囲面積は0.32㎡である。袖の残存長は向かって右側が0.11m、左側が0.11m。焼土・灰・炭化物流出範囲の底面には不整形の掘り込み(1.26m×0.88m×0.18m)がみられる。また、左袖先端部より土師器(1)が出土



第116図 2区14号住居平・断面図

している。

柱穴 確認されていない。

周溝 確認されていない。

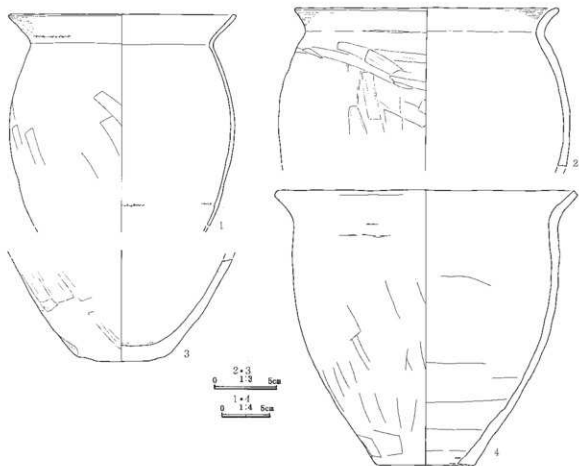
貯蔵穴 掘方において、竈東側に隣接する場所に土坑状の掘り込みがみられるが（平面図には破線で記す）、倒木に壊され全容を確認することができないことから、貯蔵穴か否か断定することはできない。

出土遺物 2号土坑周辺よりまとまって土師器壺

(2)(3)(4)が出土している。また前述以外に、土師器片が複数、須恵器片がわずかに出土している。

掘方 底面は平坦部の中央付近を除き、壁に沿って土坑状の掘り込みが連続してみられる。そのうち比較的規模が大きな掘り込み(1.45m×1.01m×0.1m)は、住居平面図上に破線で記述した2号土坑である。

所見 出土遺物等から、14号住居の時期は概ね平安時代中期頃と想定されるが、詳細については不明。



第117図 2区14号住居出土遺物

15号住居(2区)【第118・119図 PL.23】

位置 X=36662~36666 Y=-40822~-40825

15号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地している。

平面形状 南北にわずかに長く、さらに北壁に比べて南壁がやや短い台形を呈する。

規模 長軸3.98m 短軸2.89m 壁高0.1m

面積 10.8㎡

方位 N-6°-E

床面 記録が掘方底面のみのため、詳細は不明。

床面を構成する土層断面図の記録がないため、埋土は不明。

竈 住居東壁南寄りに竈が構築されている。確認長は1.03m、袖の残存長は向かって右側が0.46m、左側が0.38mである。左右袖の先端には約(0.36m×0.29m×0.12m)のビット状の掘り込みがそれぞれ

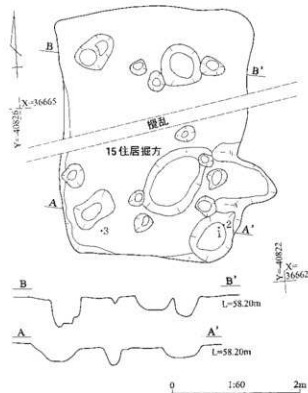
第4章 二の宮遺跡

確認されていることから、ここに礎など、袖の芯材が埋められていたことが考えられる。また左右両袖先端部の間には、(0.36m×0.29m×0.12m)の掘り込みを確認している。この場所は燃焼部中央付近と考えられることから、支脚の礎が埋められていたことが想定される。

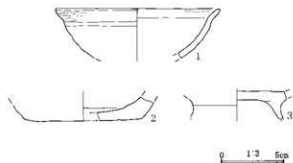
**柱穴** 掘方で複数のピット状の掘り込みが確認されているが、それらが柱穴か否かは断定できない。

**周溝** 確認されていない。

**貯蔵穴** 竈南側に隣接する位置に、貯蔵穴と思われる



第118図 2区15号住居掘方平面図・エレベーション図



第119図 2区15号住居出土遺物

不整形の掘り込みがみられる。その規模は、0.98m×0.65m×0.22mである。

**出土遺物** 15号住居より、土師器坏(1)・土師器甕(2)・須恵器埴(3)が出土している。また、土師器片が若干出土している。

**掘方** 底面には複数のピット状の掘り込みと土坑状の掘り込みが確認されている。そのうち最大規模の土坑状の掘り込み(1.35m×0.82m×0.06m)は、竈西側にみられる。

**所見** 出土した遺物から、15号住居の時期は平安時代中期と思われる。

16号住居(2区)【第120・121図 PL.23】

**位置** X=36662~36667 Y=-40815~-40820

16号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地している。複数の遺構と重複しており、150号ピットに先行、23号土坑・33号土坑にはそれぞれ後出している。

**平面形状** 東西にわずかに長く、さらに北壁に比べて南壁がやや短い台形を呈する。

**規模** 長軸4.46m 短軸3.66m 壁高0.14m

面積 14.0㎡

**方位** N-61°-W

**床面** 記録が掘方底面のみのため、詳細は不明。

埋土は、暗褐色土が主体となっており、ロームブロック・ローム粒・白色軽石を含む単層となっている。

**竈** 住居北壁東寄りに竈が構築されており、確認長は0.9mである。掘方において、複数の掘り込みがみられる。

**柱穴** 複数のピット状の掘り込みが確認されているが、いずれも柱穴と断定することはできない。

**周溝** 確認されていない。

**貯蔵穴** 確認されていない。

**出土遺物** 16号住居より、須恵器埴(3)(4)・須恵器坏(2)が出土している。前述以外に、土師器片がわずかに出土している。

**掘方** 底面には複数のピット状の掘り込みと土坑状の掘り込みが確認されている。そのうち最大規模の

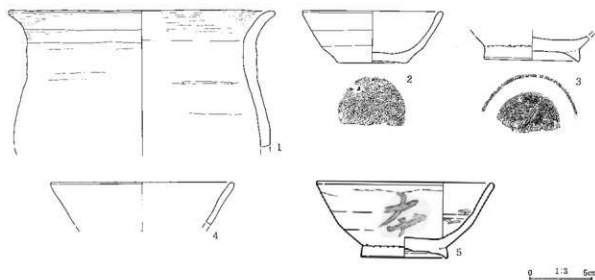
2号土坑 (1.62m×1.49m×0.06m) は、住居南西隅部にみられる。また、東壁南寄りに、住居外部に張り出して3号土坑 (0.92m×0.83m×0.48m) が確認されている。3号土坑からは、黒色処理を施し、墨

書がみられる須恵器壺(5)と、土師器甕(1)がそれぞれ出土している。

所見 出土した遺物から、16号住居の時期は平安時代中期と思われる。



第120図 2区16号住居掘方平・断面図



第121図 2区16号住居出土遺物

17号住居(2区)【第122~125図 PL.23】

位置 X=36655~36659 Y=-40813~-40818

17号住居は北西を高位とする緩斜面地に古地している。17号住居は住居密集地からは離れており、孤立した位置にある。838号ピットと重複しており、これに後出する。

平面形状 南北にわずかに長く、さらに西壁に比べて東壁がやや短い台形を呈する。

規模 長軸3.9m 短軸3.5m 壁高0.12m

面積 12.8m<sup>2</sup>

方位 N-8°-E

床面 ほぼ平坦である。

埋土は、暗褐色土が主体となっており、ロームブロック・ローム粒・白色軽石・焼土粒・炭化物を含む単層となっている。

竈 住居東壁南寄りに竈が構築されている。確認長は1.18m、焼土・灰・炭化物流出範囲面積は0.64m<sup>2</sup>である。袖の残存長は向かって右側が0.23m、左側が0.11m。掘方において、両袖先端付近下部に不整

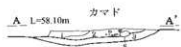
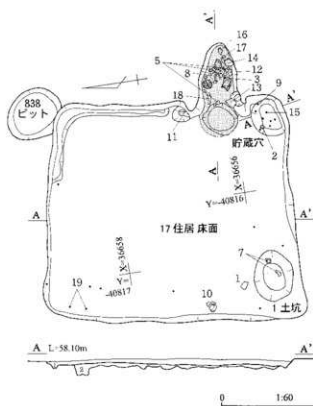
円形の掘り込み(0.56m×0.48m×0.23m)がみられる。また左右袖先端部の間にピット状の掘り込みが確認されており、礎石が袖の芯材として埋められていたことが想定される。竈からは多数の遺物が出土しており、土師器杯・土師器甕・須恵器杯・須恵器甕が確認されている。遺物は両袖端部より奥のほぼ全域で出土している。

柱穴 掘方底面で複数の掘り込みが確認されているが、いずれも柱穴と断定できるものはない。

周溝 東壁北寄りから北壁東よりにかけて部分的に確認された。規模は幅0.16m~0.28mで深さ0.05m~0.09mである。

出土遺物 南西隅部の1号土坑からは須恵器碗(7)が出土している。17号住居は他の住居に比較して出土遺物が多く、前述以外に土釜、灰桶等も確認されている。また、土師器片・須恵器片が複数出土している。

貯蔵穴 南東隅部には不整円形の貯蔵穴(0.6m×0.44m×0.32m)が検出され、須恵器碗(2)(9)・



- 1 暗褐色土：ロームブロック・ローム粒・白色軽石・焼土粒を含む。
- 2 暗褐色土：ローム粒・焼土ブロック・焼土粒を含む。下部に炭化物・灰を含む。
- 3 暗褐色土：ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒を含む。



- 1 暗褐色土：ロームブロック・ローム粒を含む。炭化物・焼土粒を多量に含む。

17号住居

- 1 暗褐色土：ロームブロック・ローム粒・白色軽石・炭化物・焼土粒を含む。
- 2 暗褐色土：暗褐色土にローム土を混入。

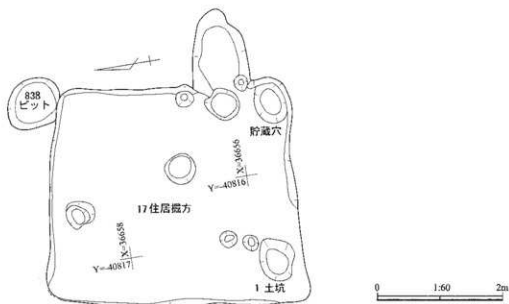
第122図 2区17号住居平・断面図

須恵器甕(15)が出土している。

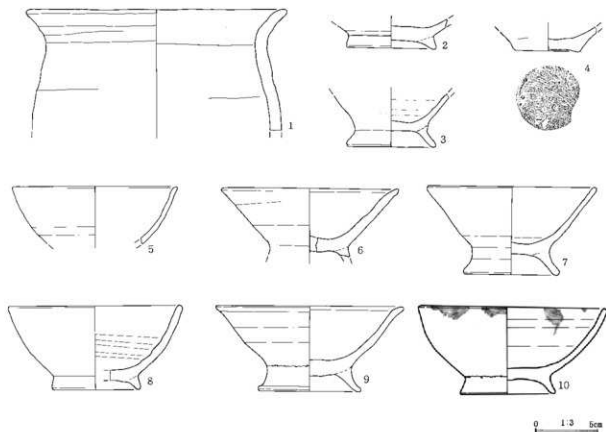
**掘方** 底面で土坑状の掘り込み・ピット状の掘り込みが確認された。中央部やや東寄りで確認された掘

り込みの規模は0.49m×0.46m×0.33mである。

**所見** 出土した遺物から、17号住居の時期は平安時代中期と思われる。

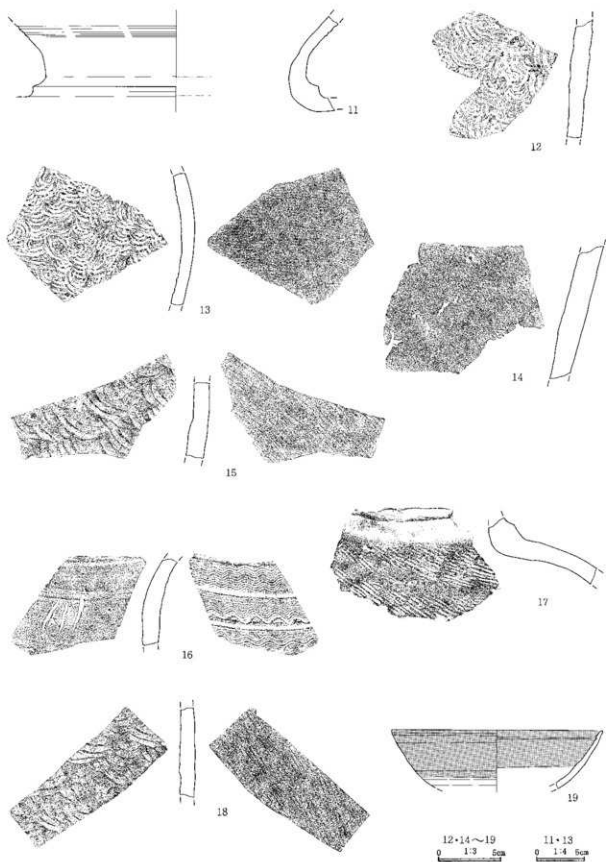


第123図 2区17号住居掘方平面図



第124図 2区17号住居出土遺物





第125図 2区17号住居出土遺物

## 18号住居(2区)【第126・127図 PL.23】

位置 X=(36637~36643) Y=(-40821~-40826)

18号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地しており、南側の一部は調査区外へと継続しているため、全容を調査することは出来なかった。また、19号住居と重複しており、これに後出している。

**平面形状** 南側の一部が調査区外となっているため、平面形状の全容は不明だが、ほぼ正方形と想定される。

規模 長軸5.27m 短軸4.95m 壁高0.11m

面積(17.8㎡)

方位 N-87°-E

床面 記録が掘方底面のみのため、詳細は不明。

埋土は、暗褐色土が主体となっており、ロームブロック・ローム粒・白色軽石・焼土粒・炭化物が含まれている単層となっている。

竈 住居北壁東寄りに竈が構築されており、確認長

は0.98mである。竈は向かって左側にわずかにその痕跡がみられる(残存長0.33m)が、右側は不明である。竈先端部付近より、土師器甕(4)が出土している。

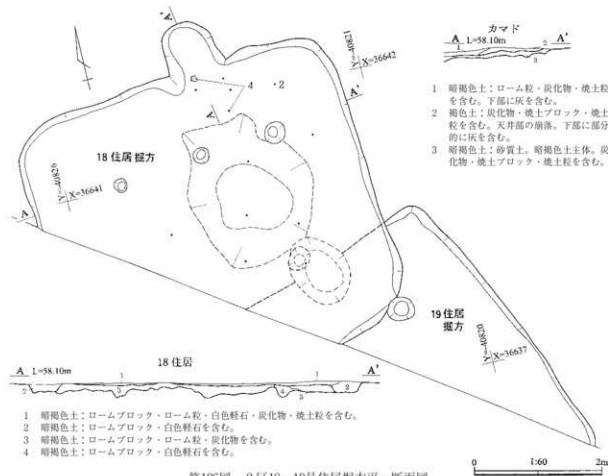
**柱穴** 中央部竈寄り、北壁に平行となる位置に3基のピット状の掘り込みが確認されているが、規模、形状等より、柱穴か否かについては断定できない。

**周溝** 確認されていない。

**出土遺物** 前述以外に18号住居より土師器坏・土師器甕が出土している。また、土師器片が複数、須恵器片がわずか出土している。

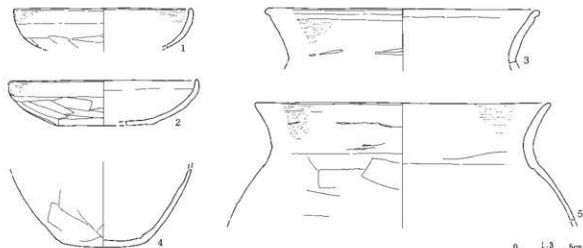
**掘方** 底面中央部やや東寄りに土坑状の掘り込み(2.5m×1.95m×0.19m)がみられる(その範囲は平面図に破線で記した)。

**所見** 出土した遺物から、18号住居の時期は奈良時代と思われる。



第126図 2区18・19号住居掘方平・断面図

第4章 二の宮遺跡



第127図 2区18号住居出土遺物

19号住居(2区)【第126-128図 PL.23】

位置 X=(36635~36639)

Y=(-40818~-40823)

19号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地している。竈が設置されている方向など、重複している18号住居と類似している。なお、19号住居は18号住居に先行している。

**平面形状** 南側の一部が調査区外となっているため、平面形状の全容は不明。

**規模** 長軸(4.37m) 短軸(2.82m) 壁高0.09m  
面積(7.2m<sup>2</sup>)

**方位** N-28°-W

**床面** 記録が掘方底面のみのため詳細は不明。埋土に関しては、土層断面の記録がないため詳細は不明。

**竈** 住居北壁東寄りに竈が構築されており、確認長は1.13mである。掘方の竈下部に楕円形状の掘り込み(1.13m×0.86m×0.14m)がみられる。

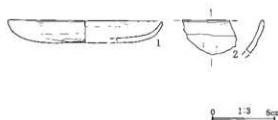
**柱穴** 竈南東側にビット状の掘り込み(0.42m×0.38m×0.44m)がみられるが、柱穴か否かについては断定できない。

**周溝** 確認されていない。

**出土遺物** 19号住居より土師器片(1)(2)が出土している。また、土師器片が数点、出土している。

**掘方** 底面には凹凸が多く見られる。

**所見** 出土した遺物から、19号住居の時期は奈良時代と思われる。



第128図 2区19号住居出土遺物

20号住居(2区)【第129-130図 PL.23】

位置 X=36670~36674 Y=-40837~-40840

20号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地している。集落の端部と考えられ、20号住居より西側には他の住居は確認されていない。なお、21号住居と重複しており、これに後出している。

**平面形状** 南北にわずかに長く、さらに北壁に比べて南壁がやや短い台形を呈する。

**規模** 長軸2.96m 短軸2.46m 壁高0.20m  
面積 6.5m<sup>2</sup>

**方位** N-22°-W

**床面** 記録が掘方底面のみのため、詳細は不明。埋土は、暗褐色土が主体となっており、ロームブロック・ローム粒・白色軽石・焼土粒を含んだ単層である。

**竈** 住居東壁南寄りに竈が構築されており、確認長は1.28mである。掘方において、焼土・灰・炭化物流出範囲と想定される下部に楕円形の掘り込み

(1.28m×0.75m×0.1m) がみられ、その内部にさらにピット状の掘り込みが確認されている。

**柱穴** 柱穴と断定できる遺構は確認できない。

**周溝** 確認されていない。

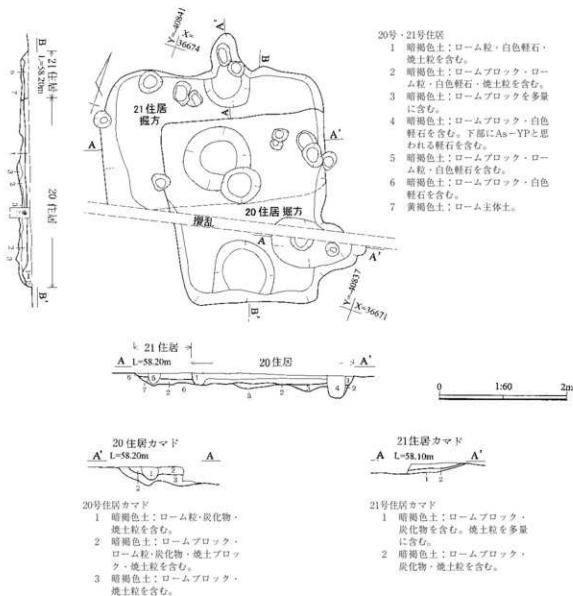
**貯蔵穴** 確認されていない。

**出土遺物** 20号住居より遺物として、土師器甕・坏・須恵器甕が出土している。しかしこれらの遺物は、出土位置が詳細に記録されていないことから、重複する21号住居からの出土も考えらる。また、土師器片が多量に、須恵器片・縄文土器片もわずか出

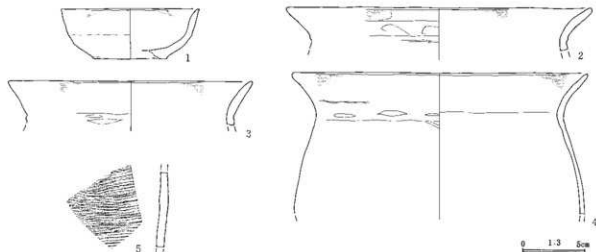
土している。

**掘方** 底面には土坑状・ピット状の掘り込みが多数みられるが、21号住居と重複している部分に関しては、いずれの住居に伴う遺構なのかは判断できない。南壁に接して土坑状の掘り込み(0.95m×0.77m×0.9m)が確認されており、これは20号住居に伴うものである。

**所見** 出土遺物等から、20号住居の時期は概ね平安時代中期頃と想定されるが、詳細については不明である。



第129図 2区20・21号住居掘方平・断面図



第130図 2区20号住居出土遺物

**21号住居（2区）【第129図 PL.23】**

**位置** X=36671~36674 Y=-40838~-40841

21号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地している。20号住居と重複しており、先行している。

**平面形状** 東西に長い長方形を呈する。

**規模** 長軸3.53m 短軸2.12m 壁高0.17m  
面積 (6.2m<sup>2</sup>)

**方位** N-66°-E

**床面** 記録が掘方底面のみのため、詳細は不明。埋土は、暗褐色土が主体となっており、ロームブロック・白色軽石を含む単層となっている。

**竈** 住居北壁やや東寄りに竈が構築されており、確認長は0.72mである。焼土・灰・炭化物流出範囲と想定される下部に不整形の掘り込み (0.71m×0.65m×0.03m) がみられる。

**柱穴** 北壁周辺にビット状の掘り込みが複数確認できるが、いずれも柱穴と断定することはできない。

**周溝** 確認されていない。

**貯蔵穴** 確認されていない。

**出土遺物** 21号住居からの出土遺物はわずかで、土師器片を3片、須恵器片を1片確認したのみである。その大部分が20号住居と重複していることから、それぞれの住居より出土した遺物が混在していることも想定される。

**掘方** 底面にはビット状の掘り込みが複数みられ

る。20号住居と重複する部分にも複数の掘り込みが確認されているが、いずれの住居に伴うものなのかは判然としない。

**所見** 時期を特定するのに適当な出土遺物が無いこと等から、21号住居の時期に関する詳細は不明である。

**22号住居（2区）【第131-132図】**

**位置** X=36662~36666 Y=-40829~-40834

22号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地している。23号住居と重複しており、後出している。

**平面形状** 南北に長い、歪んだ長方形を呈する。  
**規模** 長軸4.64m 短軸3.38m 壁高0.11m  
面積 14.4m<sup>2</sup>

**方位** N-1°-E

**床面** 記録が掘方のみのため、詳細は不明。また上部は削平されており、残存状況は良好ではない。埋土は暗褐色土が主体となっており、ロームブロック・ローム粒・炭化物・焼土粒を含む単層となっている。

**竈** 住居東壁やや北寄りに竈が構築されており、確認長は1.56mである。燃焼部中央部付近と想定される場所に支脚の礫が倒れた状態で出土しており、その礫に覆い被さるように羽釜(5)が出土している。

**柱穴** ビット状の掘り込みが複数確認されているが、いずれも柱穴と断定することはできない。

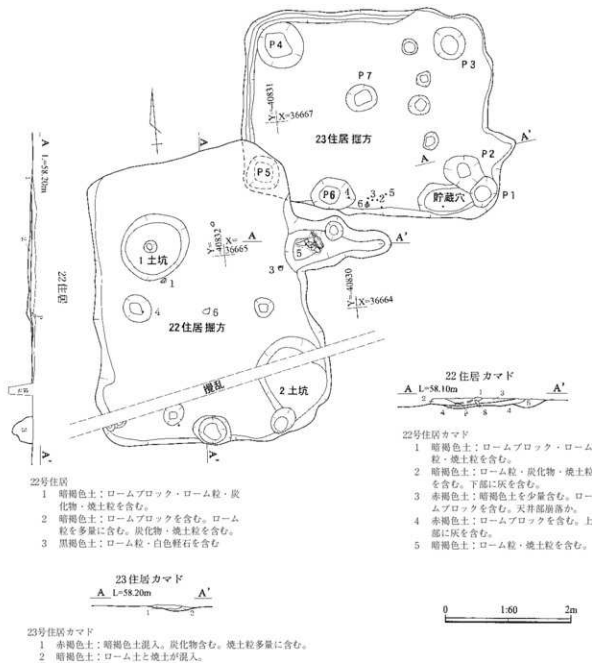
周溝 確認されていない。

貯蔵穴 南東隅部に2号土坑が確認されているが、貯蔵穴が否かについて断定することは出来ない。

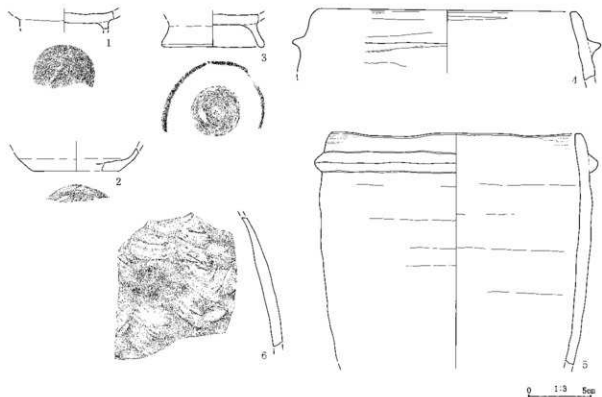
出土遺物 前述以外に22号住居より遺物として、土師器壺・須恵器杯・甕が出土している。また、土師器片を多量、須恵器片をわずか出土している。

掘方 底面では土坑状・ピット状の掘り込みが複数確認されている。なお、1号土坑(1.11m×1.0m×0.11m)の脇からは内面を黒色処理した土師器壺(1)が出土している。

所見 出土した遺物から、22号住居の時期は平安時代中期と思われる。



第131図 2区22・23号住居掘方平・断面図



第132図 2区22号住居出土遺物

23号住居（2区）【第131・133図 PL.23】

位置 X=36665~36668 Y=-40827~-40831

23号住居は22号住居と同様、北西を高位とする緩斜面地に占地している。22号住居と重複しており、これに先行している。

平面形状 東西がわずかに長い長方形を呈する。

規模 長軸3.9m 短軸3.24m 壁高0.06m

面積 10.8㎡

方位 N-73° -W

床面 記録が掘方底面のみのため、詳細は不明。また22号住居同様、上部は削平されており、残存状況は良好ではない。埋土は、土層断面の記録がないため、詳細については不明である。

竈 住居東壁南寄りに竈が構築されており、確認長は0.48mである。

柱穴 複数検出されたピットであるが、その規模は次の通りである。P1 (0.49m×0.36m×0.26m)、P2 (0.58m×0.53m×0.65m)、P3 (0.53m×0.49m×0.47m)、P4 (0.74m×0.72m×0.4m)、P5 (0.57m×

0.55m×0.19m)、P6 (0.7m×0.51m×0.12m)、P7 (0.49m×0.41m×0.06m)。規模、位置等からP1・P3・P4・P5は柱穴と想定できる。

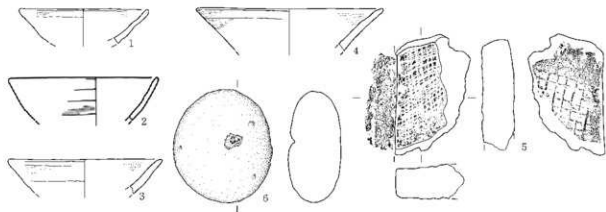
周溝 北壁の西側から西壁にかけて確認できる。西壁の一部は22号住居に壊されていることから、本来は周溝が継続していたと思われる。残存している周溝の幅は0.14m~0.20mで深さは0.02m~0.06mである。

貯蔵穴 南東隅部に貯蔵穴 (0.86m×0.5m×0.08m) が検出されている。

出土遺物 23号住居より遺物として、黒書土器を含めた土師器坏・土師器甕・瓦等が出土している。また、土師器片・須恵器片をわずかに出土している。

掘方 底面には複数の土坑状・ピット状の掘り込みがみられる。南壁中央付近より集中して遺物が出土している。

所見 出土遺物等から、23号住居の時期は平安時代中期頃と想定されるが、遺物の残存状況が良好でないためその詳細については不明である。



第133図 2区23号住居出土遺物

## 24号住居(2区)【第134・135図 PL.23】

位置 X=36682~36686 Y=-40837~-40839

24号住居は2区においては最北に位置し、北西を高位とする緩斜面地に占地している。24号住居より北側は、遺構の数も減少する。

平面形状 南北にわずかに長い、歪んだ長方形。

規模 長軸3.56m 短軸2.68m 壁高0.02m

面積 9.3㎡

方位 N-1°-E

床面 記録が掘方底面のみのため、詳細は不明。また、上部は大幅に削平されているため、残存状況は良好でない。埋土は、土層断面の記録がないため、詳細については不明である。

竈 住居北壁西寄りに竈が構築されており、確認長は1.06mである。掘方において、焼土・灰・炭化物流出範囲と想定される下部に、不整形の掘り込み

(1.06m×0.9m×0.07m) がみられる。

柱穴 住居壁よりそれぞれ約0.28mの位置に、柱穴と思われるP1・P2・P3を検出した。規模はP1(0.48m×0.4m×0.19m)・P2(0.31m×0.28m×0.13m)・P3(0.25m×0.24m×0.21m)である。P4に関しては、その位置が南北の柱軸とずれていることから、柱穴か否かについては断定できない。

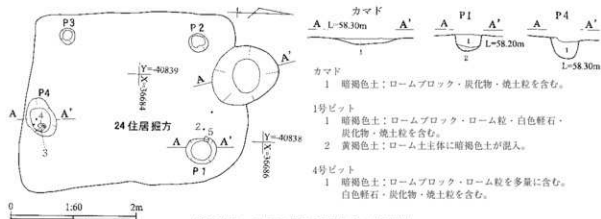
周溝 確認されていない。

出土遺物 南壁東寄り付近のP4(0.64m×0.42m×0.3m)からは土師器甕(3)・灰軸陶器碗(4)が出土している。

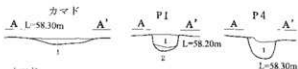
また、土師器片、須恵器片がわずかに出土している。

掘方 底面には、多少の凹凸がみられる。

所見 出土した遺物から、24号住居の時期は平安時代中期と思われる。



第134図 2区24号住居掘方平・断面図



カマド

1 暗褐色土；ロームブロック・炭化物・焼土粒を含む。

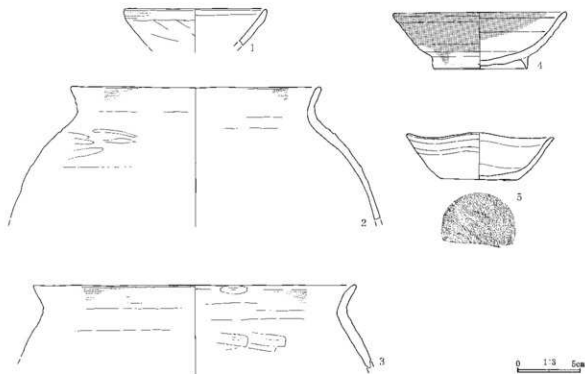
1号ビット

1 暗褐色土；ロームブロック・ローム粒・白色軽石・炭化物・焼土粒を含む。  
2 黄褐色土；ローム土主体に暗褐色土が混入。

4号ビット

1 暗褐色土；ロームブロック・ローム粒を多量に含む。  
白色軽石・炭化物・焼土粒を含む。





第135図 2区24号住居出土遺物

25号住居（3区）【第136～138図 PL.24】

位置 X=36607～36612 Y=-40725～-40730

25号住居は西を高位とする緩斜面が、平坦面に変化した場所に占地している。重複関係は、6号土坑に先行し、14号溝に後出している。

平面形状 南北にわずかに長く、さらに北壁に比べて南壁がやや短い台形を呈する。

規模 長軸5.34m 短軸3.98m 壁高0.31m

面積 17.7㎡

方位 N-2° -W

床面 ほは平坦である。埋土は上層が白色軽石・炭化物・焼土粒を含む褐色土で、下層がローム・白色軽石を含む黒褐色粘質土の2層が主体となっている。

竈 住居東壁南寄りに竈が構築されている。確認長は0.9m、焼土・灰・炭化物流出範囲面積1.18㎡である。袖の残存長は向かって右側が0.73m、左側が0.63m。右袖周辺部に不整形の掘り込み（0.72m×0.57m×0.15m）がみられる。焼土・灰・炭化物流出範囲内より、土師器甕（1）・須恵器甕（14）等

が出土している。

柱穴 ビット状の掘り込みが複数確認されているが、いずれも柱穴か否かは断定できない。

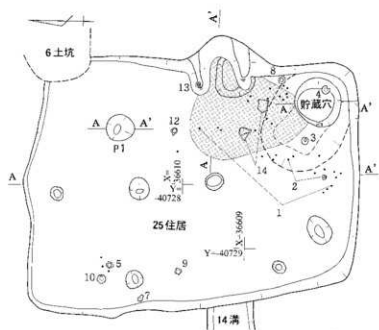
周溝 確認されていない。

貯蔵穴 南東隅部には楕円形の貯蔵穴（0.8m×0.7m×0.52m）が検出され、須恵器杯（4）が出土している。

出土遺物 25号住居からは、前述以外にも多数の遺物が出土している。特に焼土・灰・炭化物流出範囲とその南西部付近、ならびに西壁やや北寄り付近より集中して出土している。器種は須恵器皿、墨書土器である須恵器杯、須恵器埴等がみられ、甕左袖からは須恵器耳皿（13）が出土している。また、土師器片・須恵器片も多数出土している。

掘方 底面には北東隅部に位置する貯蔵穴周辺に土坑状の掘り込み（1.64m×1.31m×0.15m）がみられる。平面図には破線で記した。

所見 出土した遺物から、25号住居の時期は平安時代中期と思われる。



- 1 暗褐色土：ロームブロック・炭化物・焼土粒を含む。
- 2 暗褐色土：暗褐色土主体。ロームブロック粒・炭化物・焼土粒・灰層を含む。
- 3 暗褐色土：ロームブロック・炭化物・焼土粒を含む。上部に灰を含む。
- 4 暗褐色土：ロームブロック少量含む。焼土粒を含む。



- 1 暗褐色土：ロームブロック・白色軽石・炭化物・焼土粒を含む。
- 2 暗褐色土：ローム粒・焼土粒を含む。
- 3 暗褐色土：ロームブロック少量含む。



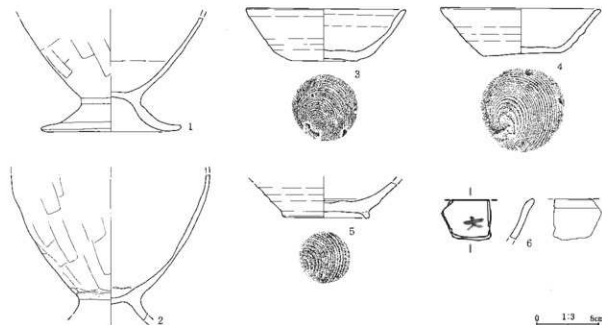
- 1 褐色土：白色軽石を少量含む。炭化物を含む。焼土粒を少量含む。
- 2 褐色土：1層とほぼ同じ。ローム粒を僅かに含む。土器片を少量含む。
- 3 黒褐色土：粘質土。ロームブロック・ローム粒を多量に含む。白色軽石少量含む。
- 4 黒褐色土：ローム粒・焼土粒を僅かに含む。
- 5 明黄褐色土：粘質土。白色軽石・焼土粒を僅かに含む。



- 1 暗褐色土：ローム粒を含む。白色軽石を若干含む。

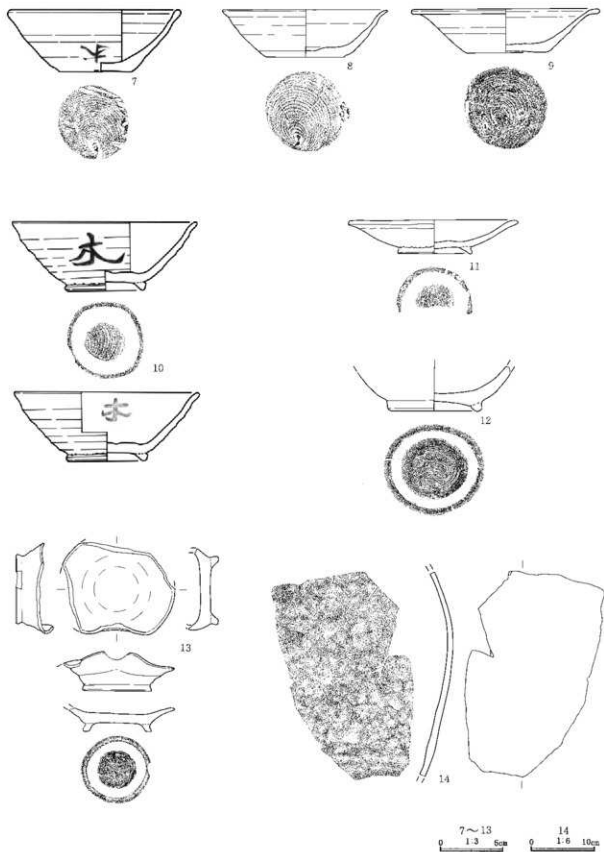


第136図 3区25号住居平・断面図



第137図 3区25号住居出土遺物

第4章 二の宮遺跡



第138図 3区25号住居出土遺物

## 26号住居 (3区) 【第139・140図 PL.24】

位置 X=36620~36624 Y=-40749~-40754

26号住居は、西側に接する谷地状地形の東斜面先端部付近に占地している。この谷地状地形は、3区の中央西寄りに位置しており、谷地状地形を境に遺構の傾度が異なっている。谷地状地形の西側が東側に比べ、住居・ピット・土坑等いずれの遺構もその個数が増加している。

平面形状 南北にわずかに長く、さらに東壁に比べて西壁がやや短い台形を呈する。

規模 長軸4.65m 短軸3.72m 壁高0.29m

面積 13.0 $\text{m}^2$ 

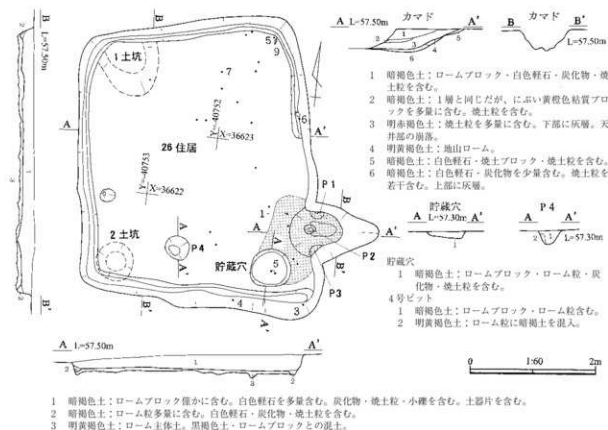
方位 N-10°-W

床面 ほぼ平坦である。厩土は、ロームブロック・白色軽石・炭化物・焼土粒・小礫を含む暗褐色土の単層である。

竈 住居東壁南寄りに竈が構築されている。確認長は1.1m、焼土・灰・炭化物流出範囲面積0.9 $\text{m}^2$ である。竈下部に不整形形の掘り込み(1.16m×0.62m×0.2m)がみられ、さらにその中に3つのピット状の掘り込みが確認されている。これら3つはほぼ直線上に並んでいる。そのうち両端のP1 (0.21m×0.19m×0.1m)・P3 (0.25m×0.18m×0.08m)は左右袖先端部付近に位置していることから、礫等が袖の芯材として埋められていたと想定される。また、中央のP2 (0.2m×0.16m×0.14m)は支脚としての礫等が設置されていたと思われる。なお竈周辺から、土師器甕(1)・須恵器坏が出土している。

柱穴 南壁中央付近より、P4が確認されているが、柱穴か否か断定することは出来ない。

周溝 周溝は東壁竈付近を除きほぼ全周しており、幅0.15m~0.48mで深さ0.18m~0.35mである。



第139図 3区26号住居平・断面図

第4章 二の宮遺跡

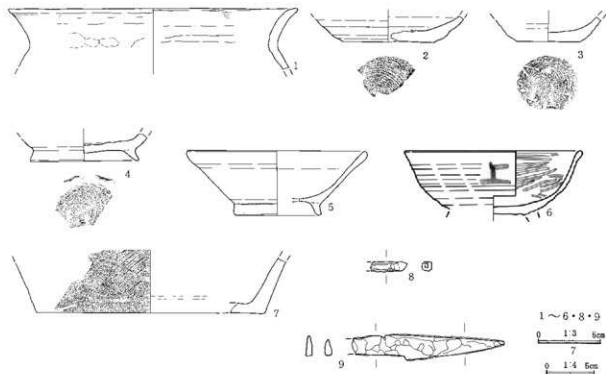
**貯蔵穴** 南東隅部に貯蔵穴(0.65m×0.65m×0.11m)が確認されており、内部からは須恵器壺(5)が出土している。

**出土遺物** 26号住居からは前述以外に、須恵器甕が出土している。また、多数の土師器片・須恵器片も確認されている。

**掘方** 底面には北西隅(1号土坑)と南西隅(2号

土坑)に土坑状の掘り込みがみられ、それらを平面図では破線で記した。それぞれの規模は、1号土坑[1.04m×(0.94m)×0.06m]・2号土坑(0.61m×0.56m×0.1m)である。

**所見** 出土した遺物から、26号住居の時期は平安時代中期と思われる。



第140図 3区26号住居出土遺物

**27号住居(3区)【第141・142図 PL.24】**

**位置** X=36608~36613 Y=-40734~-40738

27号住居は西を高位とする緩斜面地に占地している。重複関係であるが、27号住居は32号住居に先行し、14号溝に後出している。

**平面形状** 南北にわずかに長く、さらに東壁に比べて西壁がやや短い台形を呈する。

**規模** 長軸4.56m 短軸3.59m 壁高0.11m

面積 13.5㎡

**方位** N-1° -W

**床面** 南西に向かってやや傾斜がついているが、ほぼ平坦である。埋土は、ローム粒・白色軽石・炭化

物・焼土粒を含む暗褐色土の単層である。

**竈** 住居北壁東寄りに竈が構築されており、確認長は0.85mとなっている。袖の残存長は左右両袖とも0.31mである。竈周辺には複数の碟が出土しており、右袖の左端および左袖の右端で出土した碟は、袖の芯材と思われる。また両袖の中間部付近からも碟が確認され、これは支脚に使用されていた可能性が高い。また底面には楕円形状の掘り込み(0.89m×0.42m×0.11m)がみられる。

**柱穴** 掘方底面においてP1~P4を検出したが、いずれも柱穴と断定することはできない。

**周溝** 周溝は北壁を除いてほぼ全周しており、幅は

0.13m~0.23mで深さは0.09m~0.17mである。

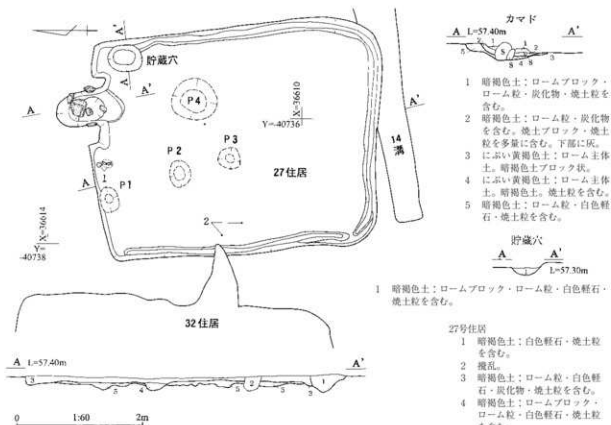
**貯蔵穴** 北東隅に楕円形状の貯蔵穴(0.55m×0.43m×0.13m)がみられる。

**出土遺物** 27号住居より須恵器埴(1)(2)が出土している。他に土師器片・須恵器片が出土している。

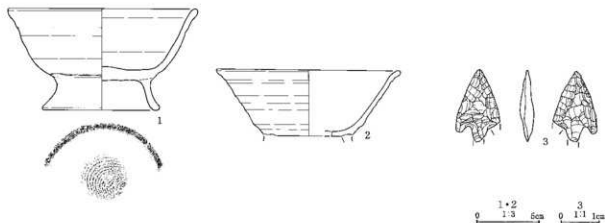
**掘方** 底面は、竈周辺部を含む北東部がわずかに高まっており、その縁辺部にP1~P4のピット状の掘

り込みがみられる。これらは平面図上に破線で記した。それぞれの規模は、P1(0.39m×0.3m×0.19m)・P2(0.38m×0.36m×0.14m)・P3(0.37m×0.34m×0.18m)・P4(0.73m×0.66m×0.12m)となっている。

**所見** 出土した遺物から、27号住居の時期は平安時代中期と思われる。



第141図 3区27号住居平・断面図



第142図 3区27号住居出土遺物

28号住居(3区)【第143~145図 PL.24】

位置 X=36603~36609 Y=-40743~-40748

28号住居は3区中央部やや西寄りを南北方向に位置する谷地状地形の東側斜面に占地する。28号住居の他に、40号住居・31号住居・39号住居が重複しているこの辺り一帯は、周辺よりも若干高まった地形となっている。重複関係であるが、28号住居は31号住居に先行し、39号住居・40号住居に後出している。

平面形状 南北にわずかに長い長方形を呈する。

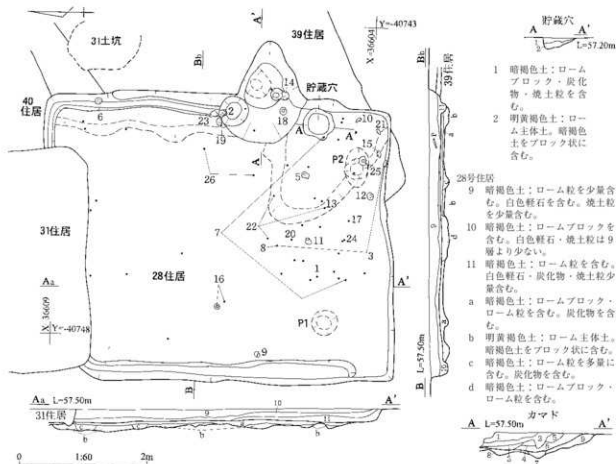
規模 長軸5.47m 短軸4.56m 壁高0.19m

面積(19.2m<sup>2</sup>)

方位 N-0° E

床面 ほぼ平坦である。埋土は、上層がローム粒・白色軽石・焼土粒を含む暗褐色土で、下層がロームブロック・白色軽石・焼土粒をわずかに含む暗褐色土の2層が主体となっている。

竈 住居東壁南寄りに竈が構築されており、確認長は1.11mとなっている。竈本体底面に掘り込み(1.6m×1.18m×0.12m)がみられる。また、左袖先



第143図 3区28号住居平・断面図

端部付近の下部にはピット状の掘り込みがみられ、その周辺からは土師器甕(2)・須恵器壺(19)などが出土している。

柱穴 確認されていない。

周溝 西壁の南端部を除いた全域、北壁の31号住居に壊されている部分を除いた全域、東壁の竈までの全域で検出されている。周溝の幅は0.18m~0.40mで深さは0.17m~0.29mである。

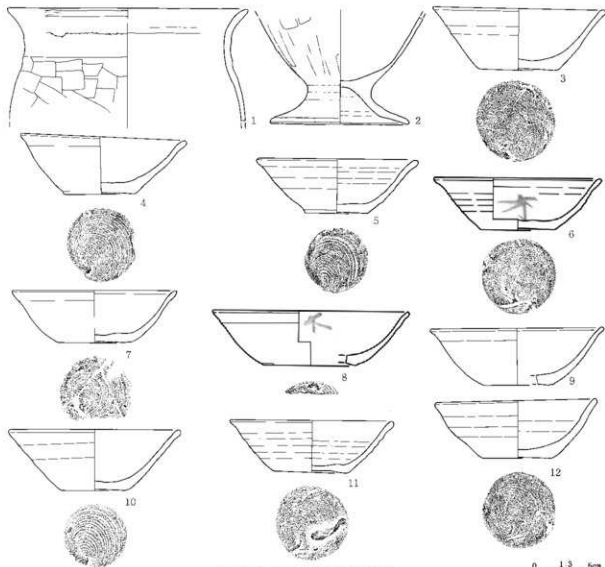
貯蔵穴 竈の南で確認され、規模は0.5m×0.45m×0.18mとなっている。貯蔵穴内より、須恵器坏(7)が出土している。

出土遺物 28号住居からは他の住居に比べ多くの遺物が出土しており、特に竈より南側の範囲に集中し

ている。須恵器坏・須恵器壺が多いが、そのうち墨書土器が3点出土している(6)(8)(20)。また、土師器片・須恵器片が多数出土しており、軟質陶器片も確認されている。

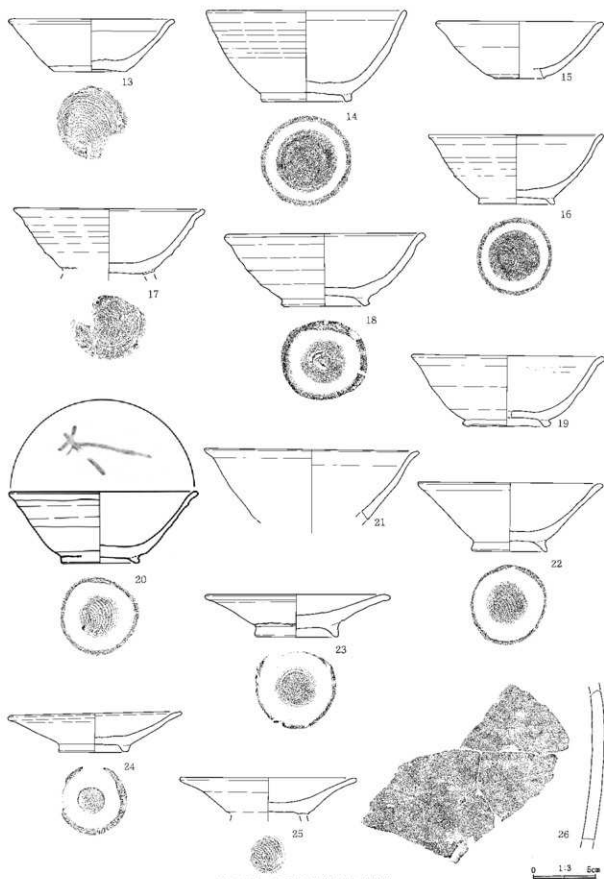
掘方 底面は住居中央部を残し、周囲が若干低めに掘られており、特に北東隅部と南東隅部には土坑状の掘り込みがみられる。明瞭に観察されたピット状の掘り込みP1(0.42m×0.38m×0.1m)・P2(0.62m×0.38m×0.36m)を平面図に破線で記した。P2の直上からは須恵器皿(25)が出土している。

所見 出土した遺物から、28号住居の時期は平安時代中期と思われる。



第144図 3区28号住居出土遺物





第145図 3区28号住居出土遺物

## 29号住居 (3区) 【第146~148図 PL.24】

位置 X=36612~36615 Y=-40745~-40751

29号住居は、3区中央部やや西寄りを南北方向に位置する谷地状地形の東側斜面に占地する。また、29号住居は33号土坑に後出している。

**平面形状** 東西方向に長い、わずかに歪んだ長方形を呈する。

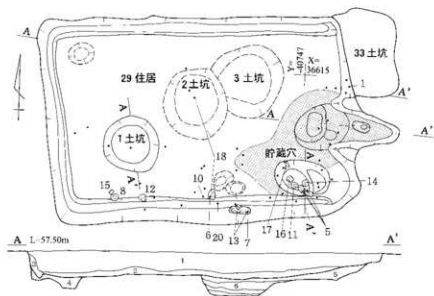
**規模** 長軸4.84m 短軸3.26m 壁高0.41m

面積 11.4m<sup>2</sup>

方位 N-83°-E

**床面** ほほ平坦である。埋土は、ロームブロック・ローム粒・白色軽石・焼土粒を含む暗褐色土となっており、床面直上付近は、白色軽石・焼土粒は少量となっている。

**竈** 住居東壁やや南寄りに竈が構築されている。確認長は1.11m、焼土・灰・炭化物流出範囲面積1.6m<sup>2</sup>である。袖の残存長は向かって右側が0.42m、左側が0.37mである。燃焼部中央部付近には、支脚の礎



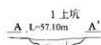
- 1 暗褐色土：ロームブロック・ローム粒・白色軽石・焼土粒を含む。
- 2 暗褐色土：ロームブロック・ローム粒を含む。白色軽石・焼土粒は1層より少ない。
- 3 暗褐色土：暗褐色土主体。ロームブロック・ローム粒を多量に含む。
- 4 にぶい黄褐色土：ローム主体土。暗褐色土を少量含む。
- 5 暗褐色土：暗褐色土主体。ロームブロックを含む。炭化物・焼土ブロック・焼土粒を多量に含む。
- 6 暗褐色土：暗褐色土主体。ロームブロックを含む。炭化物・焼土ブロック・焼土粒を若干含む。
- 7 明黄褐色土：明黄褐色ローム土と暗褐色土の混土。ロームブロックを含む。
- 8 暗褐色土：6層に近似。炭化物・焼土粒は6層より少量。



- 1 暗褐色土：ローム粒・白色軽石・炭化物・焼土粒を含む。
- 2 暗褐色土：暗褐色土主体。ロームブロック・ローム粒を多量に含む。白色軽石・焼土粒を含む。
- 3 にぶい黄褐色土：焼土ブロックを多量に含む。下部に灰層。天井部の崩落。
- 4 暗褐色土：ローム粒・焼土ブロック・焼土粒を含む。上部に灰層。
- 5 にぶい黄褐色土：焼土粒を含む。



- 1 暗褐色土：暗褐色土主体。ロームブロック・ローム粒・白色軽石・炭化物・焼土ブロック・焼土粒・灰を含む。
- 2 明黄褐色土：ローム主体土に暗褐色土を含む。



- 1 暗褐色土：ローム粒・白色軽石・炭化物・焼土粒を含む。

0 1:50 2m

第146図 3区29号住居平・断面図

第4章 二の宮遺跡

が埋められていたと思われるピット状の掘り込み(0.27m×0.18m×0.06m)がみられる。また竈手前の底面にも不整形形の掘り込み(0.63m×0.5m×0.28m)があり、周辺からは遺物も出土している。

**柱穴** 確認されていない。

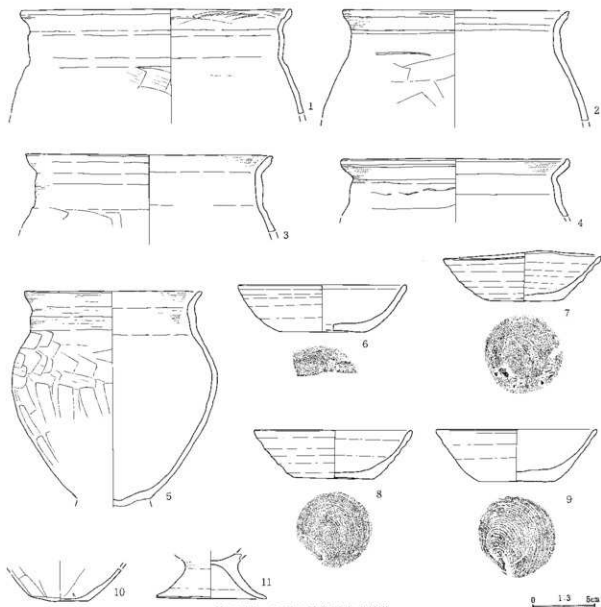
**周溝** 東壁を除きほぼ全周しており、幅は0.22m～0.44mで深さは0.41m～0.47mである。

**貯蔵穴** 住居南東隅にあたる、竈の南側からは貯蔵穴(0.86m×0.54m×0.32m)が検出され、土師器甕(5)(11)・須恵器坏(14)・須恵器埴(16)・灰釉長頸壺(17)が出土している。

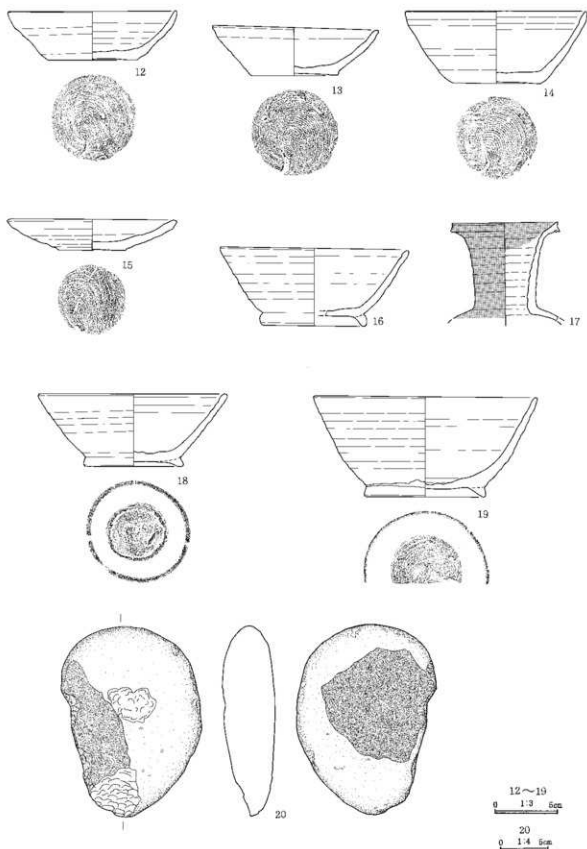
**出土遺物** 29号住居から出土した遺物は多く、主な出土地点は竈周辺部と南壁周辺部となっている。また、土師器片・須恵器片が多数、縄文土器片もわずかに出土している。

**掘方** 底面は起伏が激しい。住居中央部に比較的大きな2号土坑(1.18m×1.1m×0.3m)・3号土坑がみられ、他にもピット状の掘り込みが確認されている。これらは平面図上に破線で記した。

**所見** 出土した遺物から、29号住居の時期は平安時代前半と思われる。



第147図 3区29号住居出土遺物



第148図 3区29号住居出土遺物

30号住居 (3区) 【第149～151図 PL24・25】

位置 X=(36605-36609) Y=-40738~-40742

30号住居は西を高位とする緩斜面地に占地している。32号住居に先行、39号住居に後出している。

平面形状 北側を32号住居に壊されているため全容は明らかではないが、南北にわずかに長い長方形と想定される。

規模 長軸(3.84m) 短軸3.51m 壁高0.2m  
面積(12.4㎡)

方位 N-2° -W

床面 はほぼ平坦である。埴土は、暗褐色土主体の3層で形成されており、上層はロームブロック・白色軽石・炭化物・焼土粒を含み、中層は白色軽石・炭化物・焼土粒の含有量が少量となり、下層は、ロームブロックとの混土となっている。

竈 住居東壁に竈が構築されており、確認長は0.47mとなっている。竈底面は楕円形状に掘り込まれており、その規模は1.22m×0.55m×0.07mである。焼

土・灰・炭化物流出範囲と想定される位置から、須恵器塊(14)(15)が出土している。

柱穴 確認されていない。

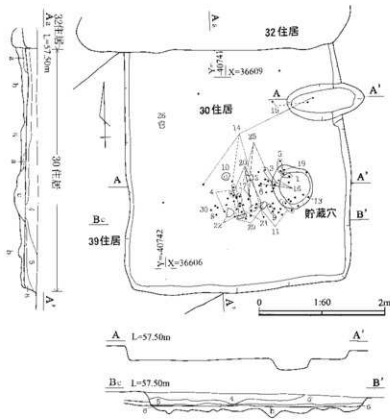
周溝 確認されていない。

貯蔵穴 竈の南側に不整形形の貯蔵穴(0.82m×0.8m×0.2m)が検出され、土師器壺・須恵器塊をはじめ、多くの遺物が出土している。

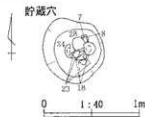
出土遺物 30号住居からは貯蔵穴以外からも多くの遺物が出土しており、その分布範囲は住居中央部のやや南より、貯蔵穴の西側に集中している。器種としては、須恵器杯・須恵器皿・灰釉長頸壺が出土しており、そのうち墨書土器が4点、確認されている。

掘方 底面は住居中央部付近に土坑状およびピット状の掘り込みが集中してみられるが、周辺部には顕著な起伏はみられない。

所見 出土した遺物から、30号住居の時期は平安時代中期と思われる。



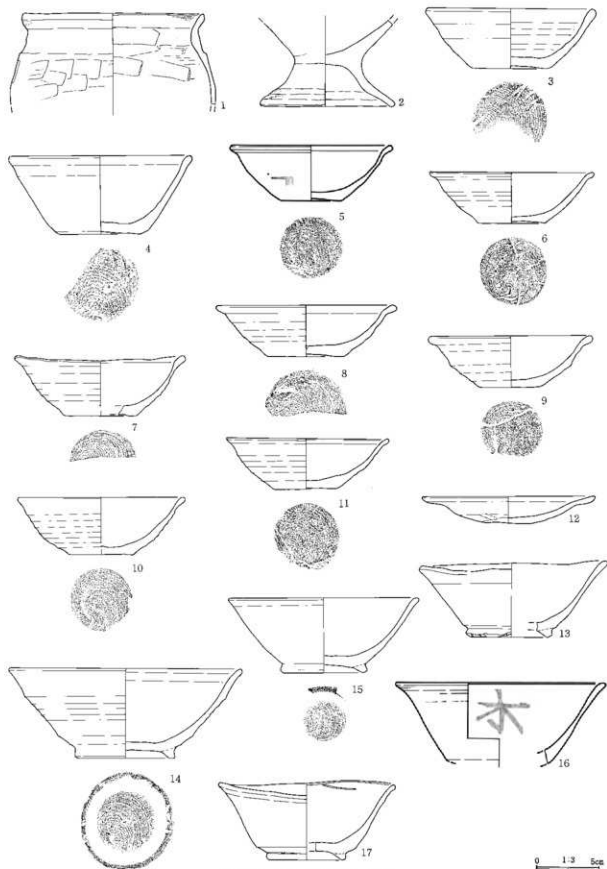
- 1 暗褐色土：ローム粒・白色軽石・炭化物を含む。
- 2 暗褐色土：ローム粒・炭化物・焼土粒を含む。下部に灰を含む。
- 3 暗褐色土：ローム粒・焼土粒を含む。
- 4 暗褐色土：ロームブロック・炭化物・焼土粒を含む。



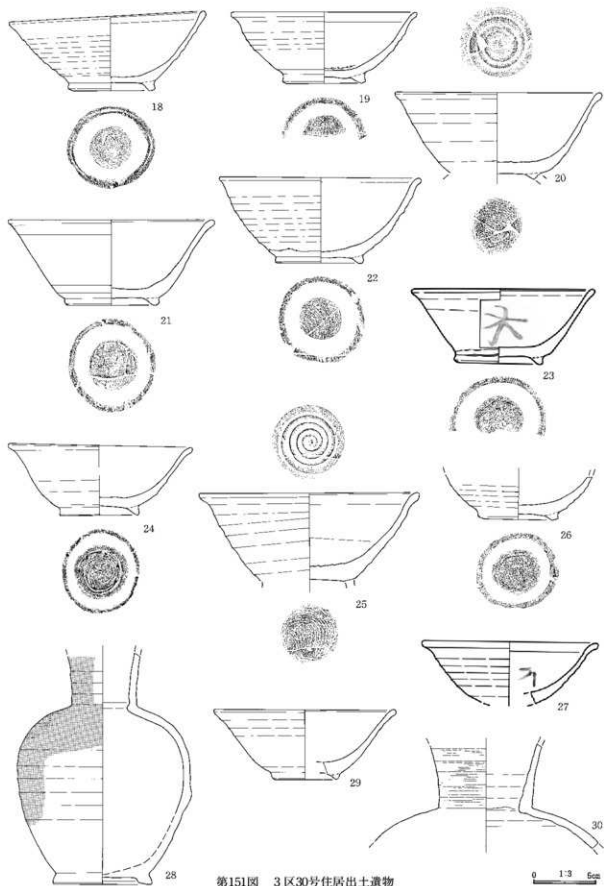
30号住居

- 4 暗褐色土：ロームブロック・白色軽石・炭化物・焼土粒を含む。
- 5 暗褐色土：4層に比べ、白色軽石・炭化物・焼土粒の量が少ない。
- 6 暗褐色土：暗褐色土とロームブロックの混土。
- a 暗褐色土：暗褐色土主体。ローム土をブロック状に含む。焼土粒を含む。
- b 明黄褐色土：ローム主体土。暗褐色土をブロック状に含む。
- c 暗褐色土：暗褐色土主体。ローム粒多量に含む。

第149図 3区30号住居平・断面図・エレベーション図



第150图 3区30号住居出土遺物



第151図 3区30号住居出土遺物

## 31号住居 (3区)【第152・153図 PL.25】

位置 X=36608~36611 Y=-40745~-40748

31号住居は3区中央部やや西寄りを南北方向に位置する谷地状地形の東側斜面に占地する。28号住居・32号住居・31号住居・39号住居等が位置するこの辺り一帯は、周辺よりも若干高まった地形となっている。なお、28号住居・40号住居と重複しており、いずれの住居にも後出している。

**平面形状** 西側にわずかに傾いた、歪んだ長方形を呈する。

**規模** 長軸3.34m 短軸3.06m 壁高0.29m

面積 9.0m<sup>2</sup>

**方位** N-89°-E

**床面** ほぼ平坦である。Ⅷ土は、上層は暗褐色土主体でロームブロック・白色軽石・焼土粒を含み、下層は黒褐色土主体でロームブロック・白色軽石・焼土粒を含む2層で形成されている。

**竈** 確認されていない。

**柱穴** 西壁南寄りにピット状の掘り込みを確認しているが、柱穴か否かを断定することはできない。

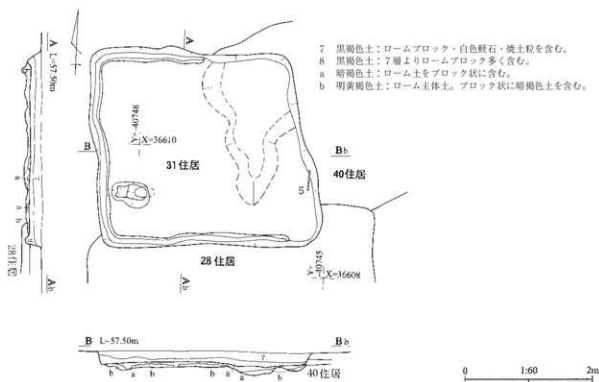
**周溝** 北壁の西側半分、西壁の全域、南壁のほぼ全域を廻っており、幅は0.14m~0.24mで深さは0.15m~0.28mである。

**貯蔵穴** 確認されていない。

**出土遺物** 31号住居より、須恵器坏・軟質陶器蓋・鉄製品(5)他が出土している。また、土師器片・須恵器片をわずかに出土している。

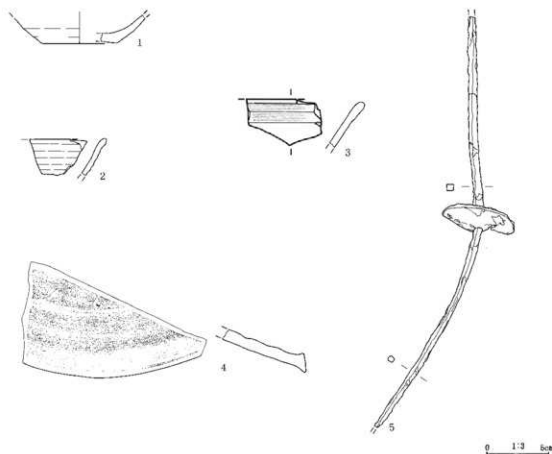
**掘方** 底面には北東部に不整形な土坑状の掘り込み(2.46m×1.18m×0.14m)がみられる(その範囲は平面図に破線で記した)。

**所見** 他の住居と異なり、竈が検出されておらず、また出土遺物に関しても鉄製品が出土していることから、特殊な性格を有する遺構であると想定できるが詳細については不明である。



第152図 3区31号住居平・断面図





第153図 3区31号住居出土遺物

32号住居（3区）【第154～156図 PL25】

位置 X=36609～36614 Y=-40738～-40743

32号住居は西を高位とする緩斜面地に占地している。複数の遺構と重複しており、32号住居は、27号住居・30号住居・39号住居・40号住居にそれぞれ後出している。

平面形状 南北にわずかに長く、さらに南壁に比べて北壁がやや短い台形を呈する。

規模 長軸5.2m 短軸4.13m 壁高0.25m

面積 18.4㎡

方位 N-1°-E

床面 はほぼ平坦である。埋土は、暗褐色土が主体となっており、上層はロームブロック・白色軽石・炭化物・焼土粒を含み、下層はロームブロック・ローム粒を多量を含む2層である。

竈 住居東壁やや南寄りに竈が構築されており、確

認長は1.16mとなっている。袖については検出されていないが、掘方の左袖先端部付近と想定される位置に、ビット状の掘り込み（0.28m×0.25m×0.16m）がみられることから、袖が構築されていた可能性もある。また、焼土・灰・炭化物流出範囲と想定される範囲内より、墨書の描かれた須恵器杯（4）が出土している。

柱穴 掘方底面より複数のビット状の掘り込みが確認されているが、いずれも柱穴と断定することはできない。

周溝 東壁の北寄り、北壁の全域、西壁の北側半分に廻っており、幅は0.16m～0.28mで深さは0.13m～0.29mである。

貯蔵穴 南東区隔には貯蔵穴（0.72m×0.63m×0.7m）がみられ、多数の遺物が出土している。

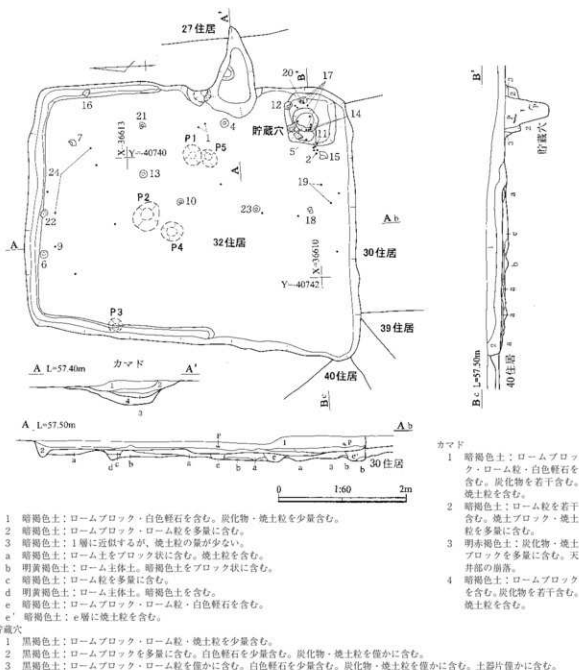
出土遺物 32号住居からは多くの遺物が出土して

り、器種は土師器甕・須恵器杯・須恵器壺・須恵器皿等となっている。中でも特筆すべき遺物として、須恵器耳皿(18)・灰釉陶器皿(16)がみられる。また他に、土師器片・須恵器片が多量に、縄文土器片もわずかに出土している。

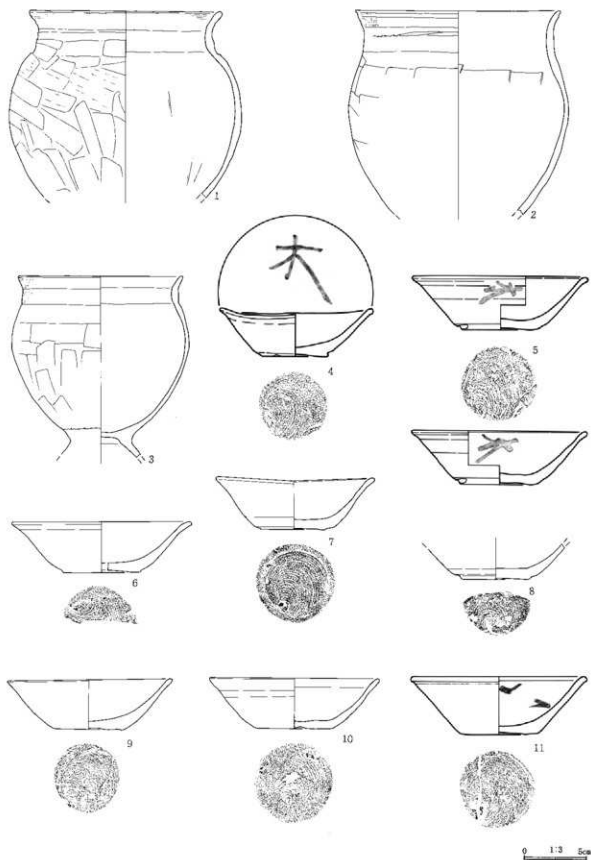
**掘方** 底面には複数のピット状の掘り込みがみられる。そのうちの顕著なP1～P5を平面図に破線で

記した。それぞれの規模は、P1(0.36m×0.26m×0.1m)・P2(0.46m×0.41m×0.41m)・P3(0.22m×0.18m×0.14m)・P4(0.34m×0.3m×0.22m)・P5(0.3m×0.23m×0.11m)である。

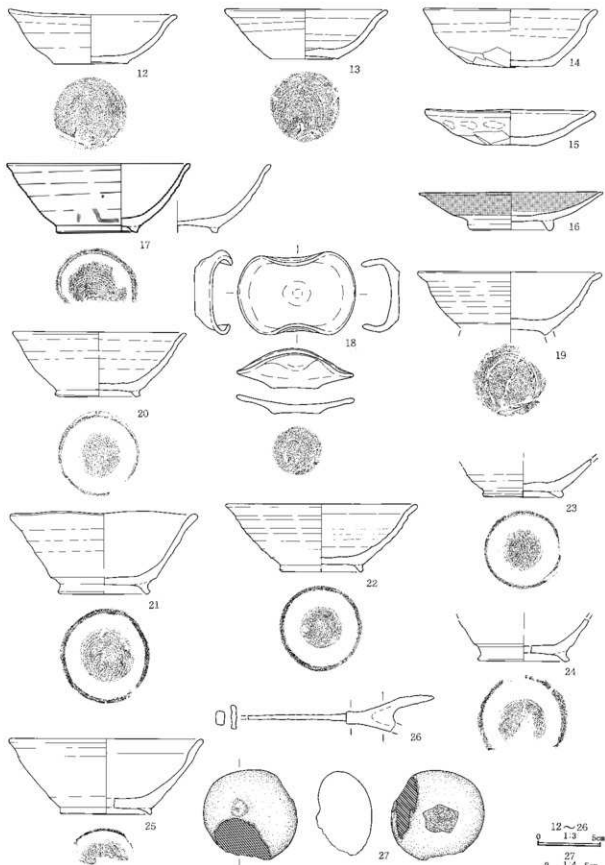
**所見** 出土した遺物から、32号住居の時期は平安時代中期と思われる。



第154図 3区32号住居平・断面図



第155図 3区32号住居出土遺物



第156図 3区32号住居出土遺物

33号住居 (3区) 【第157・158図 PL.25】

位置 X=36598~36602 Y=-40717~-40722

33号住居は西を高位とする緩斜面から平坦部に移行した位置に占地している。また、13号溝と重複している。

平面形状 ほぼ正方形を呈する。

規模 長軸4.04m 短軸3.42m 壁高0.24m

面積 11.3m<sup>2</sup>

方位 N-14° -W

床面 ほぼ平坦である。埴土は、暗褐色土が主体となっており、ローム粒・白色軽石・炭化物・焼土粒を含む単層である。

竈 住居東壁南寄りに竈が構築されており、確認長は1.02mとなっている。袖の残存長は向かって右側が0.5m、左側が0.23m。右袖の先端部には礫が、また左袖にも先端部に近い位置に礫が出土しており、いずれも袖の芯材として使用されていたと思われる。また竈内中央部付近にも礫がみられ、支脚として使用されていたと想定される。なお、この礫の直上からは、土師質土器の坏(1)が出土している。

また、竈内部からは羽釜(3)(4)も出土している。

柱穴 確認されていない。

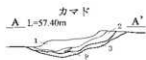
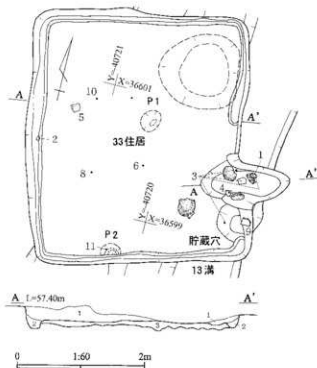
周溝 東壁の竈周辺を除き、ほぼ全周しており、幅は0.12m~0.29mで深さは0.04m~0.30mである。

貯蔵穴 南西部隅には貯蔵穴がみられ、羽釜(9)が出土している。

出土遺物 33号住居より遺物として、鍛冶関連遺物(11)・須恵器塊(2)・須恵器甕(7)(8)が出土している。また土師器片・須恵器片も複数出土している。

掘方 底面には北東隅部に土坑状の掘り込み(1.26m×1.2m×0.06m)、ピット状の掘り込みP1(0.37m×0.3m×0.43m)・P2(0.34m×0.28m×0.23m)が検出された(その範囲は平面図に破線で記した)。

所見 竈の南東には金床石が出土し、また住居埋土に複数の鉄滓等、鍛冶関連遺物が混入していることから、33号住居は鍛冶工房の可能性が高い。特に大型の碗形鍛冶滓(11)が確認されており、鍛冶炉内からの出土が想定される。また、出土した遺物から、33号住居の時期は平安時代中期と思われる。

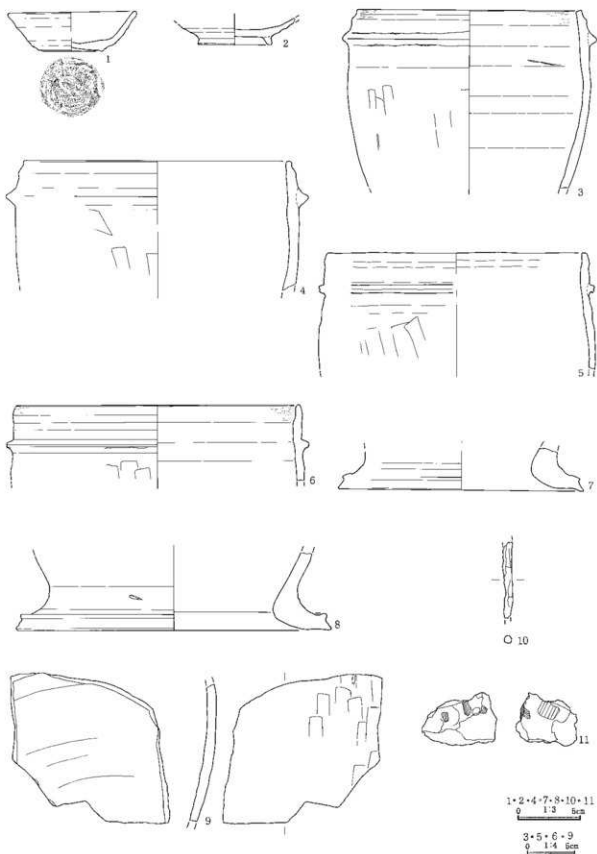


- 1 暗褐色土：ロームブロック・白色軽石・炭化物・焼土粒を含む。
- 2 暗褐色土：白色軽石を含む。炭化物・焼土ブロック・焼土粒を多量に含む。
- 3 暗褐色土：ロームブロック含む。焼土をブロック状に多量に含む。上部に炭化物・灰を含む。

33号住居

- 1 暗褐色土：ローム粒・白色軽石・炭化物・焼土粒を含む。
- 2 暗褐色土：ローム粒・白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土：ロームブロック・ローム粒を含む。

第157図 3区33号住居平・断面図



第158図 3区33号住居出土遺物

34号住居（3区）【第159・160図 PL.25】

位置 X=36627~36630 Y=-40755~-40758

34号住居は、3区中央部やや西寄りや南北方向に位置する谷地状地形の、北側の先端部付近に占地する。34号住居の東側は遺構が多く検出されているが、西側は疎らである。

平面形状 東西にわずかに長い長方形を呈する。

規模 長軸2.9m 短軸2.41m 壁高0.25m 面積6.0㎡

方位 N-90° - E

床面 床面として記録の残る住居南側は、ほぼ平坦である。埋土は、暗褐色土が主体となっており、上層はロームブロック・ローム粒・白色軽石・焼土粒を含み、下層はロームブロック・ローム粒・焼土粒を含む2層である。

竈 住居北壁東寄りに竈が構築されている。確認長は0.92m、焼土・灰・炭化物流出範囲面積0.43㎡である。焼土・灰・炭化物流出範囲に該当する竈底面には、わずかな掘り込みがみられる。

柱穴 確認されていない。

周溝 住居の南側半分を「コ」の字状に廻っている。北側半分に関する床面の記録がないため、周溝が継続するか否かは不明である。周溝の幅は0.14m~0.31mで深さは0.09m~0.20mである。

貯蔵穴 北西隅部に貯蔵穴（0.67m×0.6m×0.11m）

が確認されており、土師器壺(1)が出土している。

出土遺物 住居西側からの出土が多く、須恵器坏(4)・須恵器埴(5)がみられる。前述以外に、土師器片を多量、須恵器片を少量出土している。

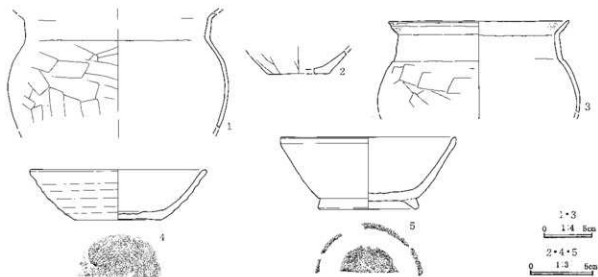
掘方 西壁中央付近にP1(0.22×0.2m×0.11m)が確認されている。(平面図では破線で記した。)

所見 出土した遺物から、34号住居の時期は平安時代前半と思われる。



- 1 暗褐色土：ロームブロックを少量含む。ローム粒・白色軽石・焼土粒を含む。
- 2 暗褐色土：ロームブロック・ローム粒・焼土粒を含む。
- 3 暗褐色土：ローム粒・炭化物を含む。焼土粒を多く含む。部分的に硬化面有り。

第159図 3区34号住居平・断面図



第160図 3区34号住居出土遺物

## 35号住居(3区)【第161・162図 PL.25】

位置 X=(36634~36637) Y=(-40758~-40761)

35号住居は北を高位とする緩斜面地に占地している。3区中央部やや西寄りを南北方向に位置する谷地状地形の中心線の延長線上に位置している。

**平面形状** 住居のおよそ半分が調査区外となっているため、平面形状の全容は不明。

**規模** 長軸(2.32m) 短軸(1.94m) 壁高0.48m  
面積(1.7m<sup>2</sup>)

方位 N-84°-E

**床面** 平坦である。埋土に関しては、土層断面の記録がないため、詳細は不明である。

竈 確認されていない。



第161図 3区35号住居平面図

柱穴 確認されていない。

**周溝** 周溝は、調査された範囲の全域で検出されている。幅は0.20m~0.49mで深さは0.20m~0.60mである。

貯蔵穴 確認されていない。

**出土遺物** 調査された範囲が小規模なため、出土遺物も少数にとどまっている。35号住居より遺物として、土師器甕(1)が出土しており、他に土師器片・須恵器片がわずかに出土している。

掘方 底面は、南東隅部に掘り込みがみられる。

**所見** 出土した遺物から、35号住居の時期は奈良時代と思われる。



第162図 3区35号住居出土遺物

## 36号住居(3区)【第163・164図 PL.25】

位置 X=36598~36604 Y=-40726~-40732

36号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地している。複数の遺構と重複しており、15号溝・79号ピット・80号ピット・81号ピットに先行している。

**平面形状** 西壁に比べて東壁がやや短い台形。

**規模** 長軸4.78m 短軸4.6m 壁高0.17m  
面積 20.1m<sup>2</sup>

方位 N-18°-W

**床面** はほぼ平坦である。埋土は、上層は黒褐色土主体となっており、白色軽石・炭化物・焼土粒を含み、下層は暗褐色土が主体となっており、ロームブロック・ローム粒・白色軽石を含む2層である。

竈 確認されていない。

柱穴 ピット状遺構(P1~P4)が確認されている

が、いずれも柱穴か否かを断定することはできない。

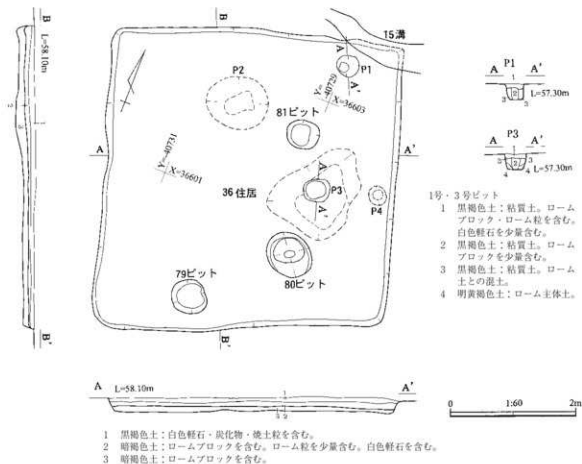
**周溝** セクションB-B'で確認すると、北壁にわずかに周溝らしい痕跡をみることができ、平面上では確認することができない。

貯蔵穴 確認されていない。

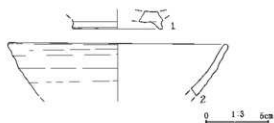
**出土遺物** 36号住居からは遺物として、須恵器壺(1)(2)が出土している。また、土師器片・須恵器片が少量出土している。

**掘方** 底面にはわずかにピット状の掘り込みがみられ、平面図には破線で記した。P2(1.0m×0.84m×0.19m)とP4(0.28m×0.28m×0.32m)である。またP3の周辺には、土坑状の掘り込みがみられる。  
**所見** 住居内にP79・P80・P81が検出されているが、いずれも住居に伴わない遺構である。出土した遺物から36号住居の時期は平安時代前半と思われる。





第163図 3区36号住居平・断面図



第164図 3区36号住居出土遺物

37号住居（3区）【第165-166図 PL.26】

位置 X=(36610~36615) Y=(-40719~-40724)

37号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地している。

平面形状 住居の南側・北側両端部が調査区外、およびトレンチで壊されているため、平面形状の全容は不明である。

規模 長軸 (4.3m) 短軸 (2.71m) 壁高0.25m

面積 (10.0<sup>2</sup>)

方位 N-89° -W

床面 平坦である。埋土は、暗褐色土が主体となっており、上層はロームブロック・白色軽石・炭化物・焼土粒を含み、下層はロームブロック・ローム粒・白色軽石を含む2層である。

竈 確認されていない。

柱穴 確認されていない。

周溝 確認されていない。

貯蔵穴 確認されていない。

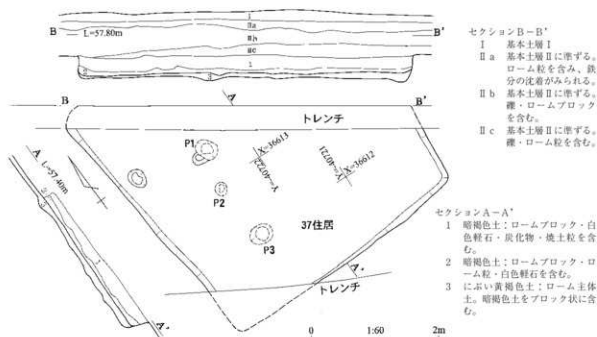
出土遺物 住居全域を調査することが出来なかったため、出土した遺物も限られている。37号住居からは須恵器片（1）が出土しており、他に土師器片・須恵器片がわずかに出土している。

掘方 底面には多少の凹凸がみられるが、ほぼ平坦

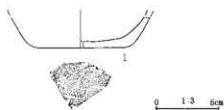
である。

所見 ビット状の掘り込みP1～P3が確認されてい

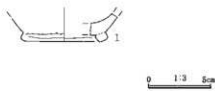
るが住居に伴う遺構ではない。出土した遺物より、37号住居の時期は平安時代前半以降と思われる。



第165図 3区37号住居平・断面図



第166図 3区37号住居出土遺物



第167図 3区38号住居出土遺物

### 38号住居 (3区) 【第167・168図 PL.26】

位置 X=36603～36607 Y=-40721～-40726

38号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地している。なお15号溝と重複しており、先行している。

平面形状 東西に長い長方形を呈する。

規模 長軸4.5m 短軸3.3m 壁高0.26m

面積 12.9㎡

方位 N-78°-E

床面 西側がわずかに高位となっているが、底面はほぼ平坦である。埋土は、上層は黒褐色土主体となっており、白色軽石・炭化物・焼土粒を含み、下層は暗褐色土主体で白色軽石を含む2層である。

竈 確認されていない。

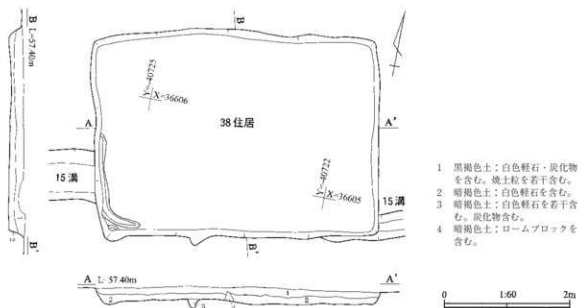
柱穴 確認されていない。

周溝 西壁南寄りから南壁の一部にかけてわずかにみられ、幅は0.14m～0.22mで深さは0.10m～0.11mである。

貯蔵穴 確認されていない。

出土遺物 38号住居より須恵器碗(1)が出土している。前述以外に鉄滓・土師器片・須恵器片が少量出土している。

所見 出土した遺物から、38号住居の時期は平安時代中期と思われる。



第168図 3区38号住居平・断面図

39号住居（3区）【第169-170図 PL.26】

位置 X=(36603~36609) Y=(-40741~-40745)

39号住居は3区中央部やや西寄り南北方向に位置する谷状地形の東側斜面に占地する。39号住居の他に、28号住居・30号住居・32号住居が重複しているこの辺り一帯は、周辺よりも若干高まった地形となっている。重複している遺構は複数あり、28号住居・30号住居・32号住居・31号土坑にそれぞれ先行している。

**平面形状** 住居の東西両端部が他の住居と重複しているため、平面形状の全容は不明。

**規模** 長軸(4.4m) 短軸(3.9m) 壁高0.18m  
面積(6.77㎡)

**方位** N-32°-E

**床面** はほぼ平坦である。埋土は、上層は暗褐色土が主体となっており、ローム粒・白色軽石・炭化物・焼土粒を含んでいる。また、下層には濃い黄褐色土が主体となっており、暗褐色ブロック・ロームブロッ

ク・ローム粒・炭化物・焼土粒を含む2層である。  
**竈** 確認されていない。

**柱穴** 複数のピット状の掘り込みが確認されているが、調査範囲が限られているため、いずれも柱穴と断定することはできない。

**周溝** 確認されていない。

**貯蔵穴** 複数の土坑状の掘り込みが確認されているが、いずれも貯蔵穴か否かを断定することはできない。

**出土遺物** 39号住居より遺物として、須恵器甕(1)が出土している。

**掘方** 底面には、複数のピット状および土坑状の掘り込みがみられる。

**所見** 北壁付近で検出された31号土坑は、39号住居に伴わない遺構である。また、両端を別の遺構で壊されていることから、調査された範囲が限られており、時期を特定できる遺物もないことから、時期に関する詳細については不明である。



- イ 黒褐色土：ローム粒を含む。白色軽石を多く含む。  
焼土粒を含む。
- ロ にふい黄褐色土：黒褐色土・ロームブロック・ローム粒・焼土粒を含む。

第169図 3区39号住居掘方平・断面図



第170図 3区39号住居出土遺物

## 40号住居(3区)【第171・172図 PL26】

位置 X=(36609~36612) Y=(-40743~-40746)

40号住居は39号住居同様、3区中央部やや西寄りを南北方向に位置する谷地状地形の東側斜面に占地する。複数の遺構と重複しており、28号住居・31号住居・32号住居に先行している。

**平面形状** 住居の西側が他の住居と重複しているため、平面形状の全容は不明。

**規模** 長軸3.34m 短軸(1.5m) 壁高0.15m  
面積(4.6㎡)

方位 N-32°-W

**床面** 平坦である。埋土は、上層は黒褐色土主体となっており、ローム粒・白色軽石・焼土粒を含み、下層にはふい黄褐色土が主体となっており、ロームブロック・ローム粒・焼土粒を含む2層である。

竈 確認されていない。

**柱穴** ビット状の掘り込みがみられるが、いずれも柱穴か否か断定することはできない。

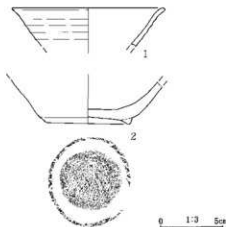
周溝 確認されていない。

**貯蔵穴** 土坑状の掘り込みを複数確認しているが、貯蔵穴と断定することはできない。

**出土遺物** 40号住居より、須恵器壺(1)(2)が出土している。他に須恵器片をわずか出土している。

掘方 底面にはビット状の掘り込みがみられる。

**所見** 出土した遺物から、40号住居の時期は平安時代中期と思われる。



第171図 3区40号住居出土遺物



第172図 3区40号住居掘方平・断面図

41号住居（3区）【第173・174図 PL.26】

位置 X=36611~36614 Y=-40962~-40967

41号住居は、3区中央部やや西寄りを南北方向に位置する谷状地形の西側斜面に占地する。隣接する遺構との空間は広く、周辺における遺構の密度は疎らである。

平面形状 東西に長い長方形を呈する。

規模 長軸4.19m 短軸3.07m 壁高0.13m

面積 11.4m<sup>2</sup>

方位 N-75° -W

床面 未記録のため、詳細は不明。

埋土は、土層断面の記録がないため、詳細については不明である。

竈 住居東壁南寄りに竈が構築されており、確認長は0.84mとなっている。左右袖の先端部と想定される付近に、ピット状の掘り込みが確認され、袖の芯材として礎等が埋められていたことが想定される。竈底面は中央に向けて掘り込まれており、土師器甕(1)(2)・須恵器埴(7)が出土している。

柱穴 掘方底面では複数のピット状の掘り込み(P1~P9)が確認されており、そのうち住居壁より約

0.64mの位置に、柱穴と思われるP2・P5・P6・P7・P9を検出した。それぞれの規模はP2(0.24m×0.2m×0.09m)・P5(0.28m×0.22m×0.14m)・P6(0.31m×0.21m×0.24m)・P7(0.32m×0.21m×0.25m)・P9(0.22m×0.18m×0.15m)である。

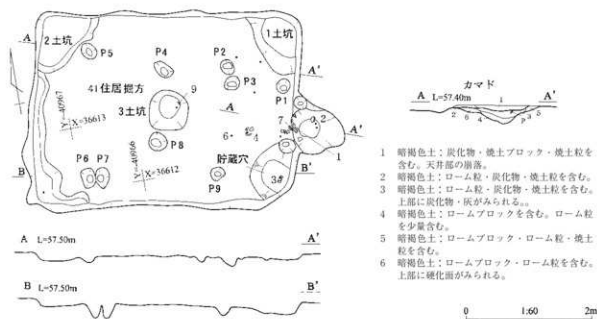
周溝 周溝と思われる痕跡が、西壁の北寄りを除く全域と、南壁の西隅に廻っており、幅は0.21m~0.70mで深さは0.09m~0.18mである。

貯蔵穴 貯蔵穴(0.78m×0.59m×0.09m)が南東隅にみられ、土師器甕(3)が出土している。

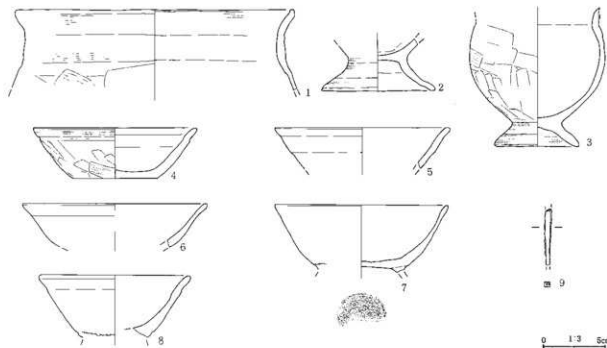
出土遺物 前述以外に、41号住居より遺物として、須恵器埴・鉄製品が出土している。また、土師器片・須恵器片が複数出土している。

掘方 底面には複数の土坑状・ピット状の掘り込みがみられる。北東隅部・北西隅部にそれぞれ1号土坑(1.07m×0.73m×0.07m)・2号土坑(1.24m×0.81m×0.09m)が、また住居中央付近にも3号土坑(0.69m×0.63m×0.12m)がみられる。このうち3号土坑からは鉄製品(9)が出土している。

所見 出土した遺物から、41号住居の時期は平安時代中期と思われる。



第173図 3区41号住居掘方平・断面図・エレベーション図



## 42号住居 (3区) 【第175~177図 PL26】

位置 X=36618~36622 Y=-40774~-40778

42号住居は3区中央部やや西寄りを南北方向に位置する谷地状地形の西側斜面に占地する。

平面形状 北壁に比べて南壁がやや短い台形。

規模 長軸3.44m 短軸3.17m 壁高0.24m

面積 8.4㎡

方位 N-89° -E

床面 ほほ平坦である。埋土は、黒褐色土主体となっており、上層はロームブロック・ローム粒・白色

軽石・炭化物・焼土粒を含み、下層はロームブロック・ローム粒・炭化物・焼土粒を含む2層である。

**竈** 住居東壁やや南寄りに竈が構築されている。確認長は1.08m、焼土・灰・炭化物流出範囲面積1.35㎡である。袖の残存長は向かって右側が0.16m、左側が0.20m。掘方における左右袖の先端部付近に、ピット状の掘り込みがみられ、袖の芯材として礫が埋められていたことが想定される。なお、このピットに関しては、平面図上に破線で記した。また竈内部中央付近には、支脚として使用されたとと思われる礫が出土している。竈からは遺物として羽釜が出土している。

**柱穴** 掘方底面より複数のピット状掘り込みが確認されているが、柱穴か否か断定することはできない。

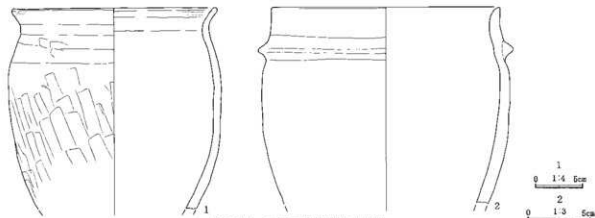
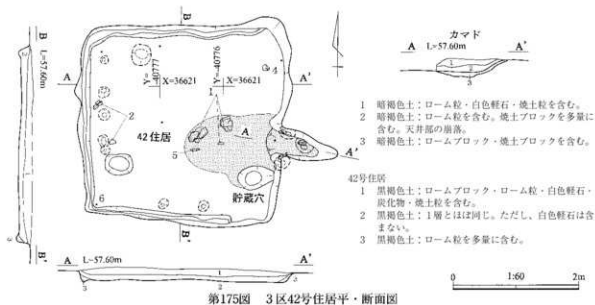
**周溝** 北壁のほぼ全域・西壁の全域・南壁の東寄りを除いたほぼ全域を廻っており、幅は0.08m～0.24mで深さは0.15m～0.21mである。

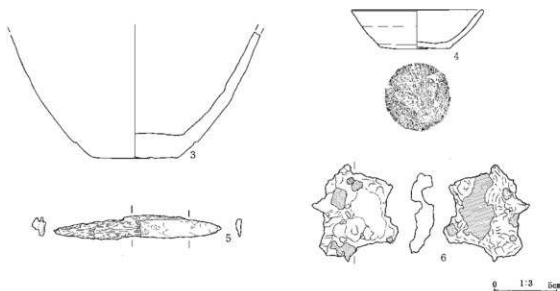
**貯蔵穴** 竈南側には貯蔵穴(0.57m×0.38m×0.13m)が確認されている。

**出土遺物** 42号住居より遺物として、土釜・須恵器坏が出土している。また、鍛冶関連遺物としての碗形鍛冶滓(6)も出土している。その他として、土師器片・須恵器片を複数と、縄文土器片をわずか出土している。

**掘方** 底面にはピット状の掘り込みが廻っている。その範囲は平面図に破線で記した。

**所見** 出土した遺物から、42号住居の時期は平安時代中期と思われる。





第177図 3区42号住居出土遺物

43号住居 (3区) 【第178・179図 PL.26】

位置 X=36624~36628 Y=-40783~-40787

43号住居は3区中央部やや西寄りを南北方向に位置する谷地状地形の西側斜面に占地する。11号溝に重複しており、これに先行する。

平面形状 東西にわずかに長い長方形を呈する。

規模 長軸3.56m 短軸2.96m 壁高0.23m 面積8.4m<sup>2</sup>

方位 N-48° -E

床面 ほぼ平坦である。埋土は、暗褐色土が主体となっており、ロームブロック・ローム粒・白色軽石を含む単層である。

竈 住居北東壁南西寄りに竈が構築されている。確認長は0.65mである。床検出面では、完全に11号溝に壊されており、焼土・灰・炭化物流出範囲他、構



第178図 3区43号住居掘方平・断面図



第4章 二の宮遺跡

造材等竈に関する情報は不明であるが、掘方底面は11号溝よりも深く掘りこまれていたため、その様相を確認することができた。

**柱穴** 竈東側にP1 (0.27m×0.18m×0.29m) が確認されているが、柱穴か否かについては断定できない。

**周溝** 確認されていない。

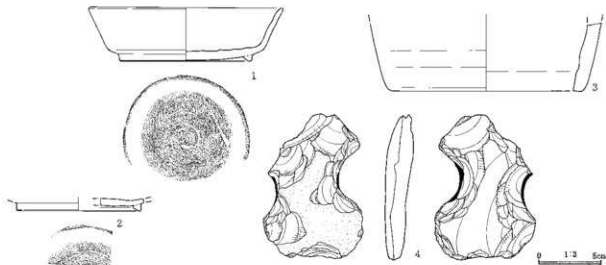
**貯蔵穴** 竈東側に隣接して土坑状の掘り込みがみられるが、11号溝に壊されていることから残存状態が

良好でないため、この遺構が貯蔵穴か否かについては断定できない。

**出土遺物** 43号住居より遺物として、土師器甕・須恵器埴・石斧が出土している。他に土師器片・須恵器片が少量出土している。

**掘方** 底面には、住居の4隅にそれぞれ土坑状の掘り込みがみられる。

**所見** 出土した遺物から、43号住居の時期は奈良時代と思われる。



第179図 3区43号住居出土遺物

44号住居 (3区) 【第180-181図 PL.26-27】

**位置** X=36632~36636 Y=-40772~-40777

44号住居は北を高位とする緩斜面に占地している。

**平面形状** 東西にわずかに長い長方形を呈する。

**規模** 長軸4.2m 短軸3.18m 壁高0.35m

面積 9.6㎡

**方位** N-74° -E

**床面** はほぼ平坦である。埋土は、暗褐色土が主体となっており、上層はロームブロック・炭化物・焼土粒を含み、下層はローム粒を含む2層である。

**竈** 住居北壁東寄りに竈が構築されている。確認長は0.86m、焼土・灰・炭化物流出範囲面積0.55㎡である。袖の残存長は向かって右側が0.40m、左側が0.51m。竈底部は不整形形状の掘り込み (1.16m×0.68m×0.08m) がみられ、右袖先端部と竈北壁付

近にはピット状の掘り込みが確認されている。

**柱穴** 確認されていない。

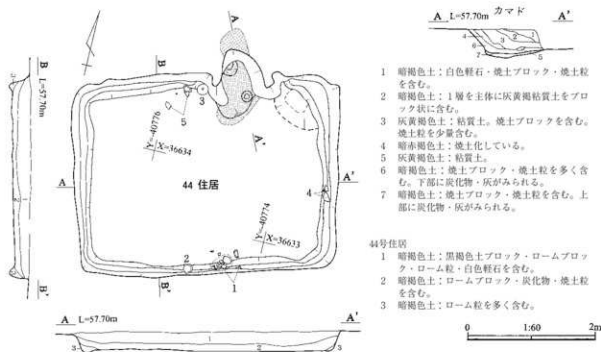
**周溝** 北壁竈付近を除き、ほぼ全周しており、幅は0.15m~0.57mで深さは0.23m~0.37mである。

**貯蔵穴** 確認されていない。

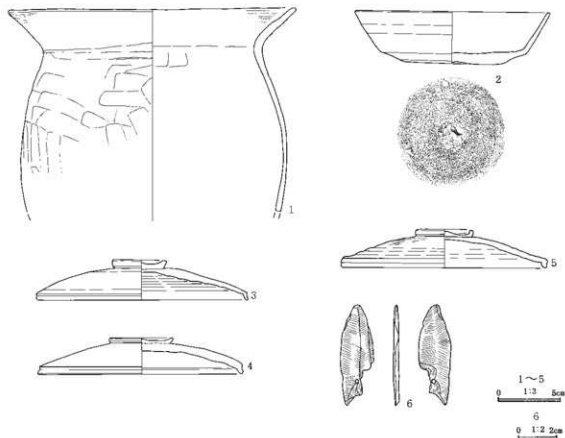
**出土遺物** 44号住居より遺物として、土師器甕・須恵器埴・須恵器蓋が出土している。その他、土師器片・須恵器片が多量に出土しており、縄文土器片もわずかに出土している。

**掘方** 底面は、周囲に比べ南西部が低く掘られている。また、北東隅部には土坑状の掘り込み (1.02m×0.88m×0.07m) がみられる。その範囲は平面図上に破線で記した。

**所見** 出土した遺物から、44号住居の時期は奈良時代と思われる。



第180図 3区44号住居平・断面図



第181図 3区44号住居出土遺物

45号住居（3区）【第182・183図 PL.27】

位置 X=36621~36624 Y=-40770~-40775

45号住居は3区中央部やや西寄りを南北方向に位置する谷地状地形の西側斜面に占地する。

平面形状 東西わずかに長い長方形を呈する。

規模 長軸3.0m 短軸2.63m 壁高0.1m

面積 6.8m<sup>2</sup>

方位 N-90° -E

床面 平坦である。埴土は、暗褐色土が主体となっており、上層はローム粒・白色軽石・炭化物を含み、下層は黒褐色土ブロック・ロームブロック・ローム粒を含む2層である。

竈 住居東壁やや南寄りに竈が構築されている。確認長は1.37m、焼土・灰・炭化物流出範囲面積0.8m<sup>2</sup>である。袖の残存長は向かって右側が0.28m、左側が0.24m。左袖部では襷が出土しており、袖の芯材として使用されていたと想定される。また焼土・灰・炭化物流出範囲のほぼ中央部からも襷が確認さ

れ、支脚として使用されていたと思われる。竈底部では不整形形の掘り込み（0.7m×0.33m×0.02m）がみられ、煙道部から須恵器埴（2）が出土している。

柱穴 確認されていない。

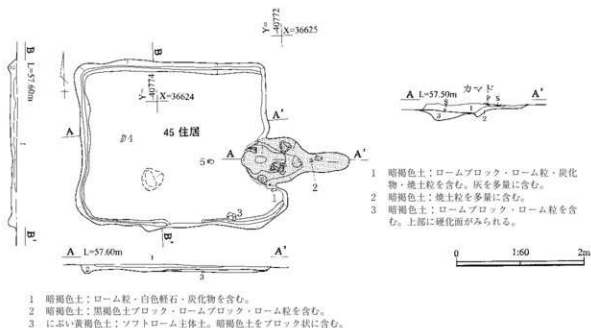
周溝 住居北東隅部より、北西隅、南西隅を廻り、南壁の中央部付近で途切れる。0.52mほど途切れた後再び廻り、竈南側で途絶える。周溝の幅は0.08m~0.20mで深さは0.05m~0.14mである。

貯蔵穴 確認されていない。

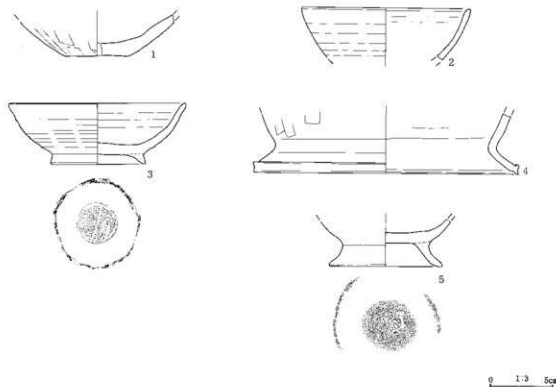
出土遺物 45号住居より遺物として、土師器甕・甌が出土している。前述以外に土師器片・須恵器片がわずかに出土している。

掘方 底面には、住居中央部南西寄りにピット状の掘り込み（0.36m×0.32m×0.09m）がみられる。平面図では破線で記した。

所見 出土した遺物から、45号住居の時期は平安時代中期と思われる。



第182図 3区45号住居平・断面図



第183図 3区45号住居出土遺物

## 46号住居 (3区)【第184・185図 PL.27】

位置 X=36626~36630 Y=-40778~-40782

46号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地している。なお47号土坑と重複している。

平面形状 東西にわずかに長く、さらに北壁に比べて南壁がやや短い台形を呈する。

規模 長軸3.6m 短軸3.07m 壁高0.32m  
面積 8.2㎡

方位 N-84° -E

床面 はほぼ平坦である。埋土は、暗褐色土が主体となっており、上層がロームブロック・ローム粒・白色軽石を含み、下層はロームブロック・ローム粒を含む2層である。

竈 住居北壁やや東寄りに竈が構築されている。確認長は0.95m、焼土・灰・炭化物流出範囲面積0.5㎡である。袖の残存長は向かって右側が0.39m、左側が0.36m。掘方において、両袖先端部付近にピット状の掘り込みがみられることから、袖の芯材として礫等が埋められていたと想定される。また竈底面に

は、焼土・灰・炭化物流出範囲の外側まで広がる掘り込みが確認され、土師器甕(1)(2)(3)・須恵器蓋(5)(6)が出土している。

柱穴 確認されていない。

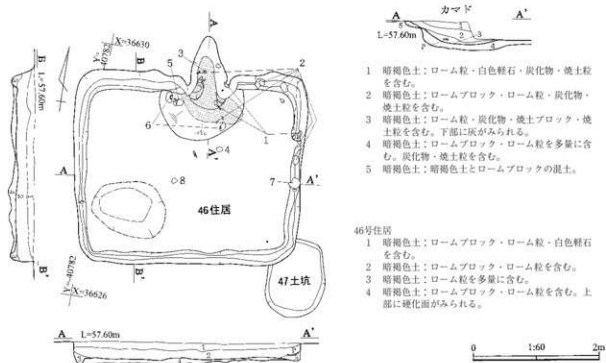
周溝 周溝は、東壁の一部で途切れているが、ほぼ全周しており、幅は0.12m~0.35mで深さは0.22m~0.36mである。

貯蔵穴 確認されていない。

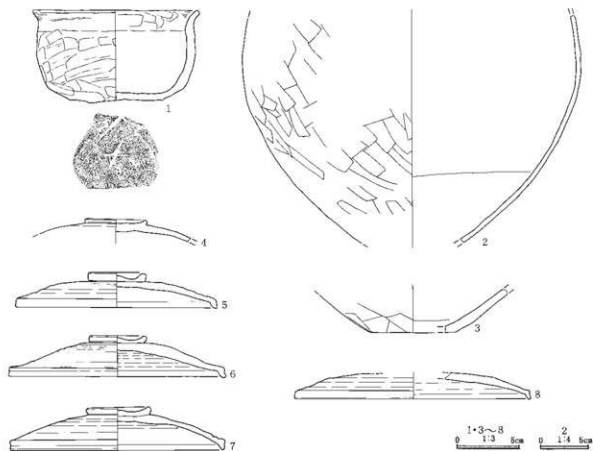
出土遺物 46号住居で確認された遺物の多くは、竈周辺及び周溝もしくはその周辺からの出土となっている。前述以外に、土師器片多数と、須恵器片をわずかに出土している。

掘方 底面には、土坑状の掘り込みが複数みられるが、そのうち住居南西部に位置するものが最も規模が大きい(1.16m×0.86m×0.16m)。平面図には破線で記した。

所見 出土した遺物から、46号住居の時期は奈良時代と思われる。なお、南西隅で重複している47号土坑との新旧関係は不明である。



第184図 3区46号住居平・断面図



第185図 3区46号住居出土遺物

## 47号住居（3区）【第186・187図 PL.27】

位置 X=36638~36641 Y=-40788~-40793

47号住居は北を高位とする緩斜面に占地している。

平面形状 東西にわずかに長い、歪んだ長方形。

規模 長軸4.64m 短軸3.68m 壁高0.13m

面積 15.3m<sup>2</sup>

方位 N-87°-W

床面 ほぼ平坦である。埴土は、暗褐色土が主体となっており、ロームブロック・ローム粒・焼土粒を含む単層である。

竈 住居東壁南寄りに竈が構築されている。確認長は1.14m、焼土・灰・炭化物流出範囲面積1.7m<sup>2</sup>である。

袖の残存長は向かって右側が0.27m、左側が0.31m。

竈底部および焼土・灰・炭化物流出範囲内から、土

師器甕（1）・須恵器甕（4）が出土している。

柱穴 確認されていない。

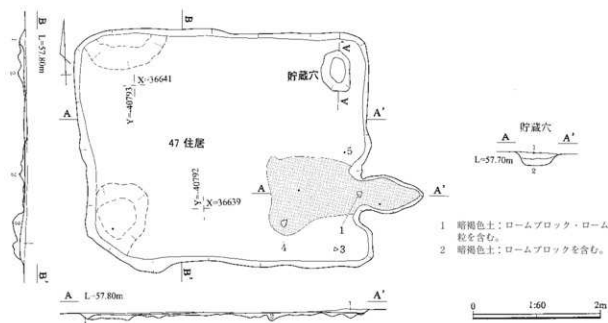
周溝 確認されていない。

貯蔵穴 住居北東隅には貯蔵穴（0.66m×0.46m×0.2m）が確認されている。

出土遺物 47号住居からは、須恵器埴・須恵器蓋・須恵器円面硯が遺物として出土している。前述以外に、土師器片・須恵器片・縄文土器片をわずかに出土している。

掘方 底面は、南壁付近が広い範囲で低く掘り込まれており、他に北西隅部・南西隅部にも土坑状の掘り込みがみられる。

所見 出土した遺物から、47号住居の時期は奈良時代と思われる。



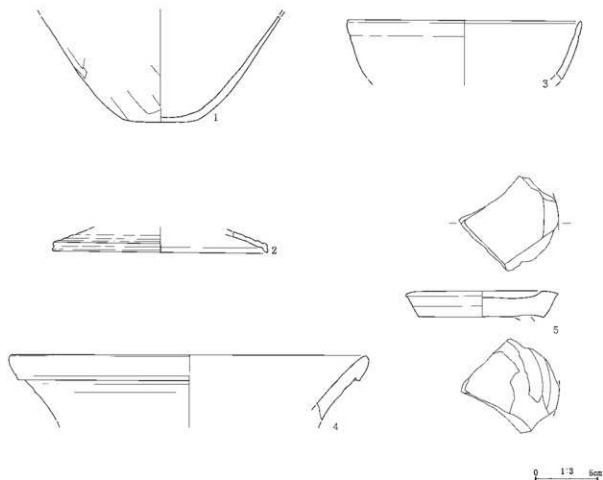
- 1 暗褐色土：ロームブロック・ローム粒・焼土粒を含む。
- 2 暗褐色土：暗褐色土主体。ロームブロックを多量に含む。上部に硬化面がみられる。



## カマド

- 1 暗褐色土：ローム粒・白色軽石・炭化物・焼土粒を含む。
- 2 褐色土：褐色粘質土をブロック状に含む。焼土ブロック・焼土粒を多量に含む。下部に灰・炭化物がみられる。天井部の崩落と思われる。
- 3 暗褐色土：炭化物・焼土粒を含む。

第186図 3区47号住居平・断面図



第187図 3区47号住居出土遺物

48号住居 (3区)【第188-189図 PL.27】

位置 X= (36628~36631)

Y= (-40749~-40752)

48号住居は北を高位とする緩斜面地に占地している。なお、複数の遺構と重複しており、48号土坑に先行、49号住居に後出している。

**平面形状** 住居のおよそ半分が調査区外となっているため、平面形状の全容は不明。

**規模** 長軸 (3.58m) 短軸 (2.46m) 壁高0.13m  
面積 (3.9m<sup>2</sup>)

**方位** N-9° -W

**床面** 床面は未記録のため、詳細は不明である。埋土は、暗褐色土が主体となっており、上層はロームブロック・白色軽石・炭化物・焼土粒を含み、下層はロームブロック・ローム粒・白色軽石・炭化物・焼土粒を含む2層である。

**竈** 確認されていない。

**柱穴** ビット状の掘り込み確認することができるが、いずれも柱穴か否かを断定することは出来ない。

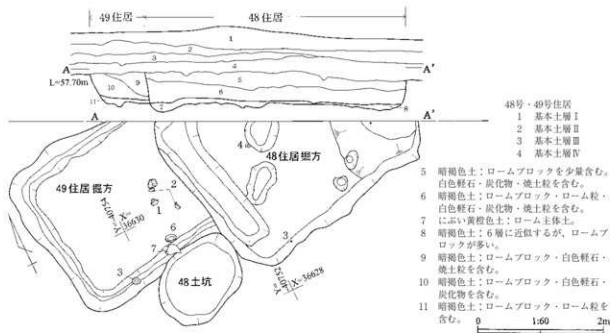
**周溝** 周溝は、東壁に廻っており、幅は0.59m~0.68mで深さは0.12m~0.20mである。二の宮遺跡で検出された住居の周溝に比べ、比較的規模が大きいのが特徴である。

**貯蔵穴** 確認されていない。

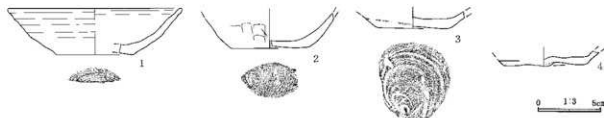
**出土遺物** 48号住居より遺物として、須恵器片が出土している。他に、土師器片・須恵器片をわずか出土している。

**掘方** 底面には、ビット状・土坑状を呈した複数の掘り込みがみられる。

**所見** 出土した遺物から、48号住居の時期は平安時代前半と思われる。



第188図 3区48・49号住居掘方平・断面図



第189図 3区48号住居出土遺物

## 49号住居 (3区)【第188-190図 PL.27】

位置 X=(36628~36631) Y=(-40752~-40755)

49号住居は北を高位とする緩斜面地に占地している。複数の遺構と重複しており、48号住居・48号土坑にそれぞれ先行している。

平面形状 住居の一部が48号住居に壊され、また調査区外となっているため、平面形状の全容については不明。

規模 長軸 (2.71m) 短軸 (2.61m) 壁高0.29m  
面積 (4.1m<sup>2</sup>)

方位 N-77°-E

床面 床面は未記録のため、詳細については不明である。埋土は、暗褐色土が主体となっており、上層がロームブロック・白色軽石・焼土粒を含み、下層がロームブロック・白色軽石・炭化物を含む2層で

ある。

竈 確認されていない。

柱穴 確認されていない。

周溝 壁が残存している範囲においては全周しており、幅は0.17m~0.42mで深さは0.06m~0.37mである。

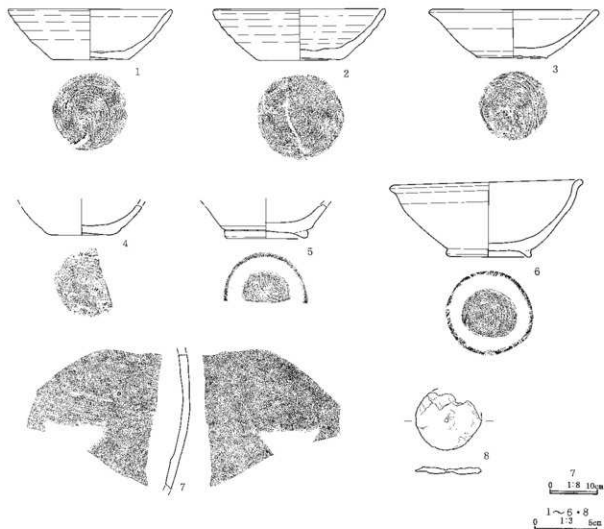
貯蔵穴 確認されていない。

出土遺物 49号住居より遺物として、須恵器甕・坏・壺が出土している。他に土師器片・須恵器片を多数、また縄文土器片をわずか出土している。

掘方 底面に大きな起伏はみられず、ほぼ平坦である。

所見 出土した遺物から、49号住居の時期は平安時代前半と思われる。





第190図 3区49号住居出土遺物

50号住居（4区）【第191～193図 PL.27】

位置 X=36548～36551 Y=-40637～-40641

50号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地している。17号土坑に重複しており、これに後出している。

平面形状 東西にわずかに長く、さらに北壁に比べて南壁がやや短い台形を呈する。

規模 長軸3.5m 短軸2.94m 壁高0.28m  
面積 7.1㎡

方位 N-79° -W

床面 はほぼ平坦である。埋土は、黒褐色土主体となっており、上層はローム粒・白色軽石・焼土粒を含み、下層はロームブロック・ローム粒・白色軽石・焼土粒を含む2層となっている。

竈 住居東壁ほぼ中央に竈が構築されている。確認長は0.93m、焼土・灰・炭化物流出範囲面積0.7㎡である。袖の残存長は向かって右側が0.30m、左側が0.44m。竈底面は楕円形状に掘り込まれており(1.5m×0.72m×0.2m)、また、竈底面中央部付近に支脚の礎が埋められている。竈内部および焼土・灰・炭化物流出範囲内より、土師器壺(1)・須恵器壺(14)・須恵器坏(8)が出土している。

柱穴 掘方よりP1・P2が確認されたが、柱穴が否かについては断定できない。

周溝 住居北東隅部より北壁・西壁・南壁を廻り、貯蔵穴まで確認されている。幅は0.16m～0.53mで深さは0.22m～0.31mである。

貯蔵穴 住居南東隅部より楕円形状の貯蔵穴(0.55m

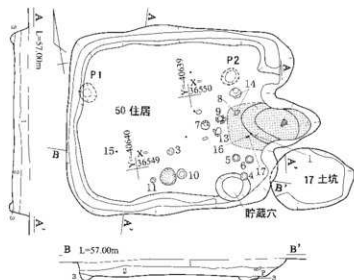
×0.46m×0.11m)が確認され、須恵器環(4)が出土している。

**出土遺物** 50号住居からは前述以外に遺物として、土師器片を多量、須恵器片を複数出土している。

**掘方** 底面は、住居西側が低く掘り込まれている部

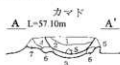
分が多く、ピット状の掘り込みもみられる。そのうちP1(0.29m×0.24m×0.12m)・P2(1.5m×0.72m×0.2m)を平面図に破線で記した。

**所見** 出土した遺物から、50号住居の時期は平安時代前半と思われる。



カマド

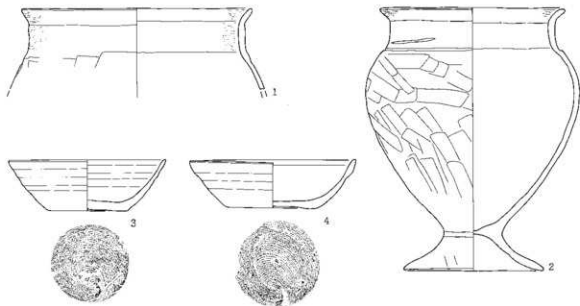
- 1 暗褐色土：ローム粒・白色軽石・炭化物・焼土粒を含む。
- 2 黒褐色土：ローム粒・焼土ブロック・焼土粒・小礫を含む。下部に炭化物・灰がみられる。
- 3 暗褐色土：ローム粒・焼土粒を含む。上部に炭化物・灰がみられる。
- 4 黒褐色土：ローム粒・白色軽石を含む。
- 5 黒褐色土：ローム粒・炭化物・焼土粒を含む。
- 6 褐色土：ロームブロック・ローム粒・炭化物・焼土粒を含む。
- 7 黒褐色土：ロームブロックを若干含む。ローム粒・白色軽石を含む。



- 1 黒褐色土：ローム粒・白色軽石・焼土粒を含む。
- 2 黒褐色土：ロームブロック・ローム粒を多く含む。白色軽石・焼土粒を含む。
- 3 黒褐色土：ロームブロックを含む。

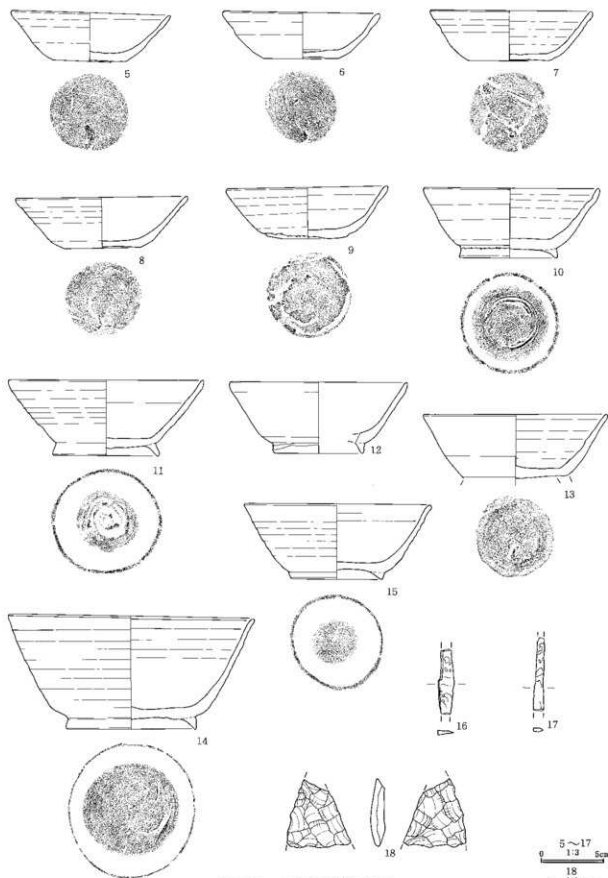
第191図 4区50号住居平・断面図

0 1.60 2m



0 1.3 5cm

第192図 4区50号住居出土遺物



第193図 4区50号住居出土遺物

## 51号住居 (4区)【第194・195図 PL.27】

位置 X=36549~36554 Y=-40634~-40640

51号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地している。

平面形状 東西にわずかに長い、長方形を呈する。

規模 長軸5.21m 短軸3.96m 壁高0.49m

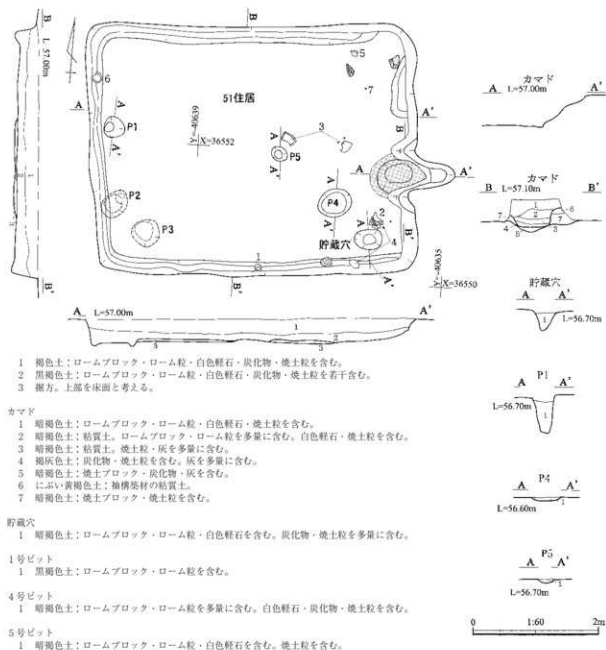
面積 16.2㎡

方位 N-85° -E

床面 ほぼ平坦である。埋土は、上層が褐色土主体

でロームブロック・ローム粒・白色軽石・炭化物・焼土粒を含み、下層が黒褐色土主体でロームブロック・ローム粒・白色軽石・炭化物・焼土粒を含む2層となっている。

竈 住居東壁や南寄り竈が構築されている。確認長は1.05m、焼土・灰・炭化物流出範囲面積0.37㎡である。袖の残存長は向かって右側が0.45m、左側が0.42m。竈底部には不整形の掘り込み(0.78m×0.46m×0.04m)がみられる。



第194図 4区51号住居平・断面図・エレベーション図

第4章 二の宮遺跡

**柱穴** 51号住居からはP1～P5が確認されているが、P1は柱穴の可能性も考えられるが、その他に関してはいずれも柱穴か否か断定できない。

**周溝** 北壁のほぼ全域、西壁の全域、南壁の全域と、北壁の北東部の一部に残存している。幅は0.17m～0.34mで深さは0.35m～0.50mである。

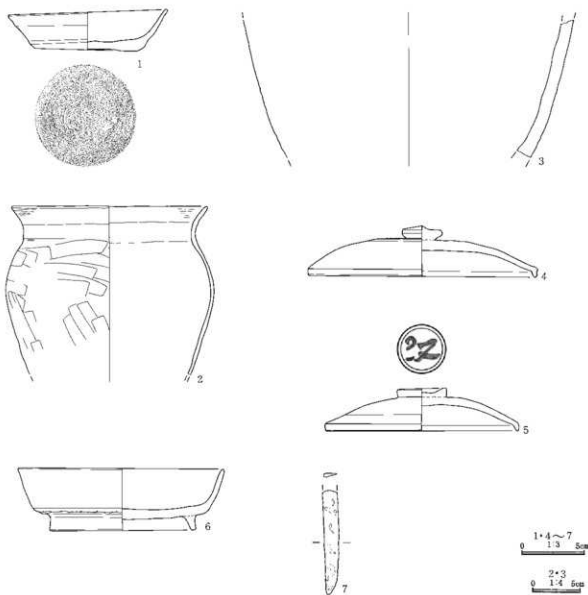
**貯蔵穴** 楕円形の貯蔵穴(0.45m×0.31m×0.23m)が南東隅部にみられる。

**出土遺物** 51号住居からは、土師器甕・須恵器坏・

須恵器盤・須恵器甕・須恵器皿等が出土しており、そのうち須恵器蓋(5)は墨書土器であることが確認された。他にも、土師器片・須恵器片を複数、縄文土器片もわずか出土している。

**掘方** 底面は住居の縁辺部が低く掘り込まれている。ピット状の掘り込みが複数みられるが、そのうち明瞭なP2(0.48m×0.31m×0.22m)・P3(0.44m×0.42m×0.11m)を平面図に破線で記した。

**所見** 51号住居の時期は奈良時代と思われる。



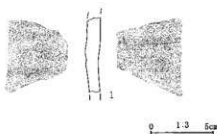
第195図 4区51号住居出土遺物

## 52号住居 (5区)【第196・197図 PL.27】

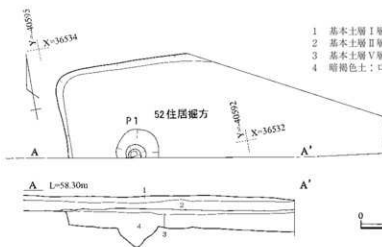
位置 X=(36531~36533) Y=(-40589~-40594)

52号住居は二の宮遺跡で確認された全遺構のうち、最も西で検出された住居である。調査区の外形が三角形状となっている5区の、鋭角の部分に挟まれて位置している。そうした立地的な制約の中での調査だったため、周囲の地形に関しては情報が得られず、詳細は不明である。

**平面形状** 住居のほとんどが調査区外となっているため、平面形状の全容については不明。



第196図 5区52号住居出土遺物



第197図 5区52号住居掘方平・断面図

## 53号住居 (5区)【第198・199図 PL.28】

位置 X=(36532~36533) Y=(-40598~-40601)

53号住居は北を高位とする緩斜面地に占地している。5区調査区の南壁に接しており、当初、竈の先端部のみが検出されたことから、床面方向を拡張し

規模 長軸(4.55m) 短軸(1.65m) 壁高0.21m

面積(6.1㎡)

方位 N-90°-E

**床面** はほぼ平坦である。埋土は、暗褐色土主体となっており、ローム粒・白色軽石・炭化物を含む単層である。

**竈** 確認されていない。

**柱穴** わずかにP1が確認されているが、柱穴か否かを断定することはできない。

**周溝** 確認されていない。

**貯蔵穴** 確認されていない。

**出土遺物** 住居の調査範囲が限られているため、出土遺物も少量にとどまっている。わずかに、土師器片・須恵器片・縄文土器片が出土している。

**掘方** 底面では、調査区南壁に接してP1が確認され、須恵器竈(1)が出土している。

**所見** 調査された範囲が小規模であり、時期を特定できるような遺物が出土していないため、52号住居の時期に関する詳細は不明である。

- 1 基本土層I層主体土。
- 2 基本土層II層主体土。
- 3 基本土層V層主体土。
- 4 暗褐色土；ローム粒・白色軽石・炭化物を含む。

て調査された模様である。そうした制約の中で発掘調査されたことから、住居の一部のみの調査となってしまう。

**平面形状** 53号住居の大部分は調査区外となっているため、平面形状の全容に関しては不明である。

規模 長軸 (3.27m) 短軸 (0.58m) 壁高0.24m  
面積 (1.2m<sup>2</sup>)

方位 N-88° -W

床面 ほぼ平坦である。埋土は、暗褐色土が主体となっており、上層はローム粒・白色軽石・炭化物・焼土粒・小礫を含み、下層はロームブロック・ローム粒・炭化物・焼土粒を含む2層である。

竈 住居北壁ほぼ中央に竈が構築されており、確認長は1.03mとなっている。袖の残存長は向かって右側が0.45m、左側が0.31m。竈内部からは、土師器堿(1)が出土している。

柱穴 確認されていない。

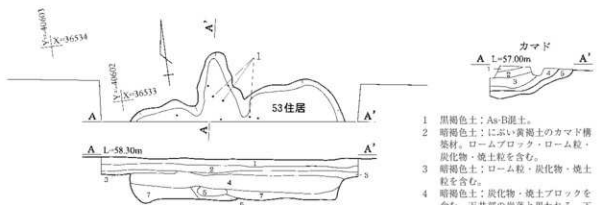
周溝 確認されていない。

貯蔵穴 確認されていない。

出土遺物 前述以外に53号住居より遺物として、須恵器杯・須恵器堿が出土している。また、土師器片を複数、須恵器片・縄文土器片もわずか出土している。

掘方 底面は、残存している部分に関してはほぼ平坦である。

所見 出土した遺物から、53号住居の時期は平安時代前半と思われる。

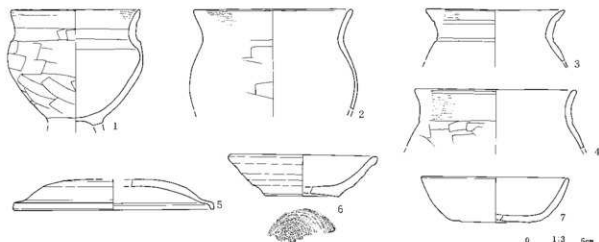


- 1 基本土層I層主体上。
- 2 基本土層II層主体上。
- 3 暗褐色土：As-B混土主体。白色軽石・炭化物・焼土粒・小石を含む。
- 4 暗褐色土：ローム粒・白色軽石・炭化物・焼土粒・小石を含む。
- 5 明黄褐色土：粘質土。暗褐色土混入。天井部の構築材と思われる。
- 6 暗褐色土：炭化物・焼土粒を多く含む。
- 7 暗褐色土：ロームブロック・ローム粒・炭化物・焼土粒を含む。  
4層より白色軽石・小石が少ない。

- 1 黒褐色土：As-B混土。
- 2 暗褐色土：にぶい黄褐色土のカマド構築材。ロームブロック・ローム粒・炭化物・焼土粒を含む。
- 3 暗褐色土：ローム粒・炭化物・焼土粒を含む。
- 4 暗褐色土：炭化物・焼土ブロックを含む。天井部の崩落と思われる。下部に灰がみられる。
- 5 暗褐色土：ロームブロック・ローム粒・炭化物・焼土粒・灰を含む。上部に灰がみられる。

0 1:60 2m

第198図 5区53号住居平・断面図



第199図 5区53号住居出土遺物

## 3 掘立柱建物

## 1号掘立柱建物(2区)【第200図 PL.28】

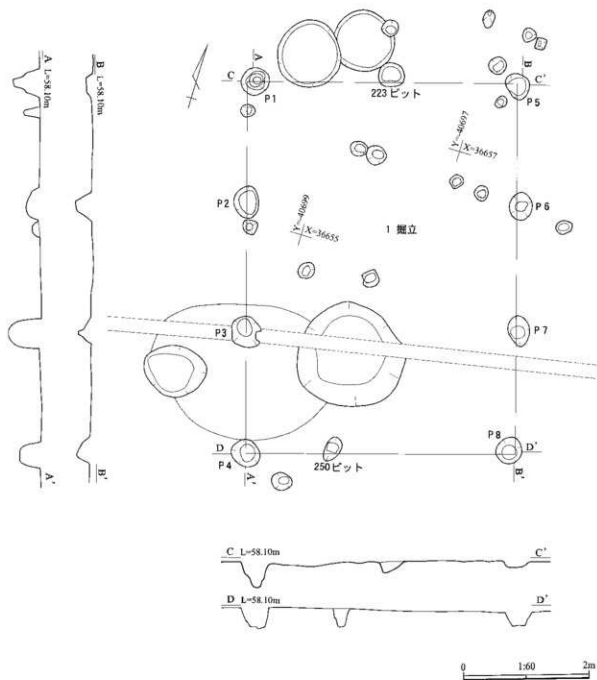
位置 X=36651~36658 Y=-40694~-40700

1号掘立柱建物は、北西を高位とする緩斜面地に占地している。

形状 柱筋はほぼ直角に交わり、南北に長い長方形

である。

北辺はほぼ柱軸にのる。P1・P5間のやや東寄りに223号ピットが柱軸上にのるが、断面形状・深さ等より、1号掘立柱建物に伴うものではないと判断した。東辺はいずれの柱穴も柱軸にのるが、南側のP8のみやや西にずれている。それぞれの柱穴の間



第200図 2区1号掘立柱建物平面図・エレベーション図



#### 第4章 二の宮遺跡

隔は一定である。南辺の柱穴は柱軸にのる。柱軸上のP4東側に250号ピットがみられるが、平面形状・規模等から、1号掘立柱建物に伴うものではないと判断した。西辺はいずれの柱穴も柱軸にのるが、北側のP1のみ、やや東にずれている。また、P2・P3間が他の柱穴間よりも若干長くなっている。いずれの柱穴でも、柱痕跡は検出出来なかった。

**規模** 各辺の長さは、隔柱穴の中心間距離で計測して、以下のとおりである。

北辺 (P1~P5)	4.28m
東辺 (P5~P8)	5.82m
南辺 (P8~P4)	4.27m
西辺 (P4~P1)	5.90m
面積	24.9m <sup>2</sup>

**方位** N-15° -W

**柱穴** いずれも不整形形で、径はほぼ一定であるが、深さは一定していない。また、底部の形状も一定していない。それぞれの規模は以下のとおりである。

P1	0.46m×0.43m×0.40m
P2	0.52m×0.40m×0.22m
P3	0.52m×0.48m×0.52m
P4	0.50m×0.42m×0.34m
P5	0.42m×0.36m×0.12m
P6	0.45m×0.38m×0.28m
P7	0.47m×0.34m×0.20m
P8	0.42m×0.40m×0.22m

**出土遺物** P7から土師器破片がわずかに1片、出土している。この土師器片は摩耗しており、器種等の詳細については不明である。他のピットから遺物は一切出土していない。

**所見** 2間×3間の側柱の建物である。棟方向は南北棟である。出土遺物が少なく、時期に関する詳細については不明であるが、概ね古代以降と考えられる。

#### 2号掘立柱建物 (2区)【第201図 PL.28】

**位置** X=36667~36674 Y=-40816~-40821

2号掘立柱建物は、北西を高位とする緩斜面地に占

地している。

**形状** 柱筋はほぼ直角に交わり、南北に長い長方形である。

北辺はいずれの柱穴も柱軸にのるが、P10のみやや北にずれている。東辺の柱穴はP8のみ、柱軸からやや西にずれている。東辺には他にも柱軸にのる複数のピットがみられるが、いずれも規模・断面形状等より、2号掘立柱建物に伴う遺構ではないと判断した。南辺の柱穴はいずれも柱軸にのる。両端のP5・P9に比べ、中央のP13は小規模である。西辺の柱穴はいずれも柱軸にのるが、P1・P4がそれぞれ東にずれている。いずれの柱穴間も、ほぼ一定である。P13のみ、柱痕跡を確認することができた。

**規模** 各辺の長さは、隔柱穴の中心間距離で計測して、以下のとおりである。

北辺 (P1~P6)	4.28m
東辺 (P6~P9)	7.00m
南辺 (P9~P5)	4.20m
西辺 (P5~P1)	7.00m
面積	29.3m <sup>2</sup>

**方位** N-4° -E

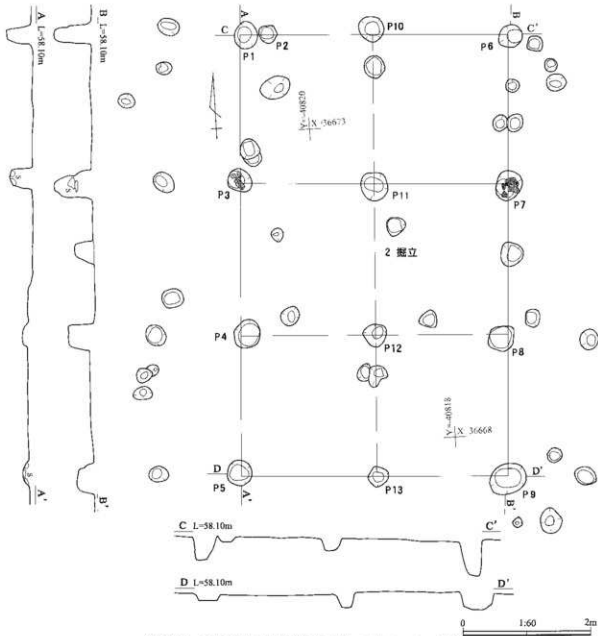
**柱穴** いずれも不整形形を呈しており、P13のみ小規模で、その他の柱穴の径はほぼ一定である。深さは一定していない。また、底部の形状も一定していない。それぞれの規模は以下のとおりである。

P1	0.44m×0.38m×0.38m
P2	0.30m×0.28m×0.40m
P3	0.41m×0.36m×0.36m
P4	0.44m×0.42m×0.09m
P5	0.40m×0.39m×0.10m
P6	0.40m×0.35m×0.58m
P7	0.49m×0.40m×0.60m
P8	0.55m×0.41m×0.38m
P9	0.60m×0.47m×0.27m
P10	0.47m×0.37m×0.22m
P11	0.46m×0.42m×0.21m
P12	0.36m×0.34m×0.31m
P13	0.35m×0.30m×0.20m

**出土遺物** P7から坏と思われる土師器破片がわずかに1片、出土しているのみである。また、P7では中層より、礫が出土しており、同様にP3では底部から礫が確認されている。他のピットからは遺

物・礫とも一切出土していない。

**所見** 2間×3間の竪柱の建物である。棟方向は南北棟である。出土遺物が少なく時期に関する詳細については不明であるが、概ね古代以降と考えられる。



第201図 2区2号掘立柱建物平面図・エレベーション図

**3号掘立柱建物（2区）【第202図】**

**位置** X=36664~36666 Y=-40836~-40840

3号掘立柱建物は、北西を高位とする緩斜面地に占地している。

**形状** 柱筋はほぼ直角に交わり、東西に長い長方形

である。

P4・P5で構成されている北辺は、それぞれ柱軸よりわずかにずれている。中間に676号ピットが柱軸上になるのが、断面形状・深さ等より3号掘立柱建物に

第4章 二の宮遺跡

伴う遺構ではないと判断した。東辺はいずれの柱穴も柱軸にのる。南辺の柱穴はほぼ柱軸にのるが、P1はやや北側にずれている。西辺の柱穴はいずれも柱軸にのる。P1に隣接するP2のみ、やや東にずれている。大きさも両端のP1・P4に比較して小規模である。

3号掘立柱建物構成する柱穴は、P2をのぞき、その規模はほぼ一定である。また、いずれの柱穴からも、柱痕跡は検出出来なかった。

**規模** 各辺の長さは、隅柱穴の中心間距離で計測して、以下のとおりである。

北辺 (P4~P5)	3.97m
東辺 (P5~P3)	2.3m
南辺 (P3~P1)	3.9m
西辺 (P1~P4)	2.38m
面積	9.8m <sup>2</sup>

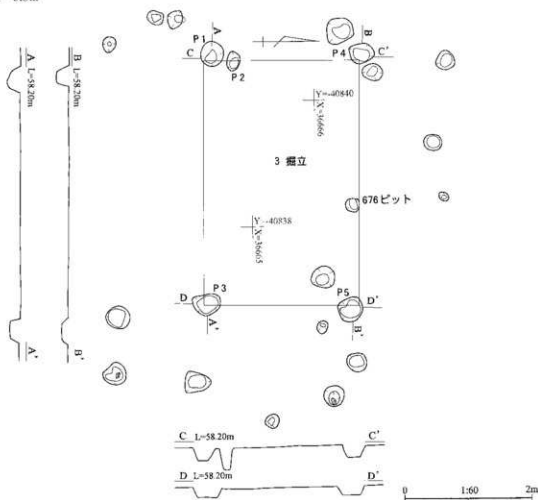
**方位** N-90° - E

**柱穴** いずれも不整形形を呈している。P2をのぞき、他の柱穴の径、深さともほぼ一定である。また、底部の形状は多くは、平坦面を有する逆台形状を呈する。それぞれの規模は以下のとおりである。

P1	0.38m×0.36m×0.20m
P2	0.30m×0.20m×0.34m
P3	0.42m×0.32m×0.16m
P4	0.36m×0.32m×0.20m
P5	0.40m×0.36m×0.15m

**出土遺物** 3号掘立柱建物構成するピットからは、いずれも遺物は出土していない。

**所見** 1間×1間の建物である。棟方向は東西棟である。出土遺物がないため、3号掘立柱建物に関する時期については不明である。



第202図 2区3号掘立柱建物平面図・エレベーション図

## 4号掘立柱建物(2区)【第203図】

位置 X=36669~36674 Y=-40811~-40815

4号掘立柱建物は、西を高位とする緩斜面地に占地している。

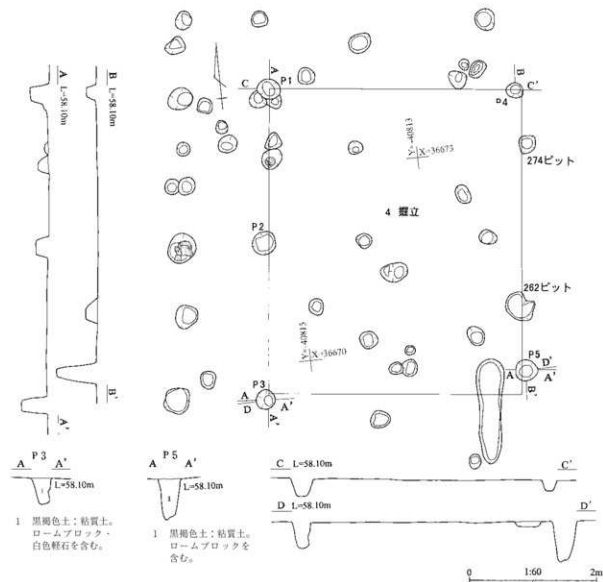
形状 柱筋は直角で交わらず、西辺が東辺に比べて短い台形状を呈する。

北辺の柱穴はいずれも柱軸にのる。P1の周辺には複数のピットが見られるが、いずれも4号掘立柱建物に伴う遺構ではないと判断した。東辺を構成するP4・P5は、わずかに柱軸からずれている。平面形状の規模はほぼ同じであるが、深さはP5の方がより深く掘り込まれている。中間にはそれぞれ北寄

りと南寄りに274号ピット・262号ピットが見られるが、いずれも4号掘立柱建物に伴う遺構ではないと判断した。南辺の柱穴はいずれも柱軸からずれている。西辺の柱穴はほぼ柱軸にのるが、P2のみ、やや西にずれている。各柱穴間はほぼ一定である。P1とP2の間に柱軸にのる他のピットが確認されているが、断面形状より、4号掘立柱建物を構成する遺構に該当しないと判断した。いずれの柱穴からも、柱痕跡を確認することはできなかった。

規模 各辺の長さは、隅柱穴の中心間距離で計測して、以下のとおりである。

北辺 (P1~P4) 4.05m



第203図 2区4号掘立柱建物平・断面図・エレベーション図

第4章 二の宮遺跡

東辺 (P4~P5) 4.44m

南辺 (P5~P3) 4.04m

西辺 (P3~P1) 4.84m

面積 18.7㎡

方位 N-4° -E

**柱穴** いずれも不整形を呈する。柱穴の径はほぼ一定であるが、深さには多少の開きがみられる。底部の形状は、ほとんどが平坦面を有する逆台形状を呈する。それぞれの規模は以下のとおりである。

P1 0.34m×0.30m×0.30m

P2 0.36m×0.34m×0.21m

P3 0.32m×0.30m×0.40m

P4 0.26m×0.24m×0.16m

P5 0.36m×0.35m×0.63m

**出土遺物** 4号掘立柱建物構成するピットからは、P1・P2より土師器破片がそれぞれ1片ずつ出

土している。小破片で摩擦も激しいため、時期等の詳細については不明である。他のピットからはいずれも遺物は出土していない。

**所見** 1間×1・2間の変則的な柱間の側柱建物である。棟方向は南北棟である。出土遺物が少なく、時期に関する詳細については不明であるが、概ね古代以降と考えられる。

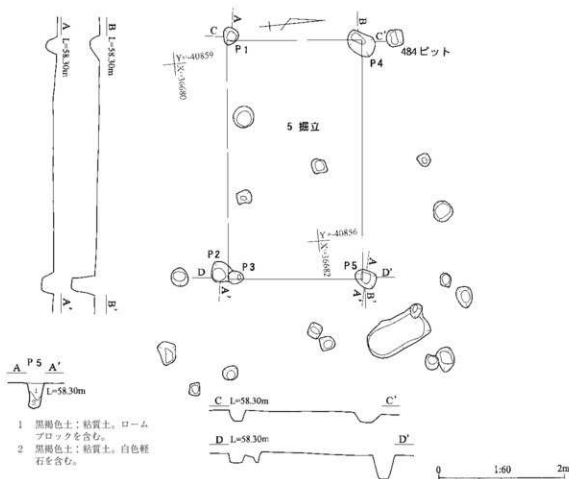
5号掘立柱建物 (2区) 【第204図】

**位置** X=36680~36683 Y=-40855~-40859

5号掘立柱建物は、北西を高位とする緩斜面地に占拠している。

**形状** 柱筋はほぼ直角に交わり、東西に長い長方形である。

北辺の柱穴はいずれも柱軸にのる。P4の北側に484号ピットが見られるが、柱筋から距離が離れて



第204図 2区5号掘立柱建物平・断面図・エレベーション図

いるため、5号掘立柱建物に伴う遺構ではないと判断した。東辺の柱穴はいずれも柱軸にのっているが、南端のP2のみ、やや西にずれている。南辺の柱穴はそれぞれ柱軸にのらず、P1は北側に、P2は南側に、P3は北側にずれている。西辺の柱穴もそれぞれわずかに柱軸からずれている。なお、いずれの柱穴からも、柱痕跡を確認することはできなかった。

**規模** 各辺の長さは、隅柱穴の中心間距離で計測して、以下のとおりである。

北辺 (P4-P5) 3.75m

東辺 (P5-P2) 2.30m

南辺 (P2-P1) 3.82m

西辺 (P1-P4) 2.00m

面積 8.0㎡

**方位** N-83° -W

**柱穴** いずれも不整形円形・不整形を呈する。柱穴の径は一定ではなく、深さも多少の開きがみられる。底部の形状は、平坦面を有するものと、丸みをおびているものの2種類が存在する。それぞれの規模は以下のとおりである。

P1 0.27m×0.26m×0.18m

P2 0.34m×0.32m×0.18m

P3 0.27m×0.21m×0.16m

P4 0.48m×0.33m×0.15m

P5 0.35m×0.27m×0.38m

**出土遺物** 5号掘立柱建物を構成するピットからは、いずれも遺物は出土していない。

**所見** 1間×1間の建物である。棟方向は東西棟である。出土遺物がないため、5号掘立柱建物に関する時期については不明である。

#### 6号掘立柱建物 (2区) 【第205図】

**位置** X=36677~36682 Y=-40815~-40818

6号掘立柱建物は、西を高位とする緩斜面地に占地している。

**形状** 柱筋はほぼ直角に交わり、南北に長い長方形。北辺の柱穴はいずれも柱軸にのる。東辺の柱穴は中間のP6のみ、わずかに西にずれている。柱間はP6

~P7間がわずかに短い。南辺の柱穴は、いずれも柱軸にのるが、P8のみわずかに南にずれている。南西隅 (P3・P4)・南東隅 (P7・P8) にそれぞれ2個のピットが確認されているが、いずれも6号掘立柱建物に伴う遺構であると判断した。西辺の柱穴はいずれも柱軸にのる。中間のP2は、わずかに南寄りに位置している。

平面規模はほぼ一定で、いずれの柱穴からも、柱痕跡を確認することはできなかった。

**規模** 各辺の長さは、隅柱穴の中心間距離で計測して、以下のとおりである。

北辺 (P1-P5) 2.34m

東辺 (P5-P7) 4.24m

南辺 (P7-P3) 2.31m

西辺 (P3-P1) 4.24m

面積 8.0㎡

**方位** N-4° -E

**柱穴** いずれも円形・方形を含む不整形を呈する。深さは一定ではない。底部の形状は、ほとんどが平坦面を有するものとなっている。それぞれの規模は以下のとおりである。

P1 0.50m×0.33m×0.22m

P2 0.34m×0.32m×0.30m

P3 0.28m×0.28m×0.12m

P4 0.34m×0.32m×0.38m

P5 0.34m×0.33m×0.12m

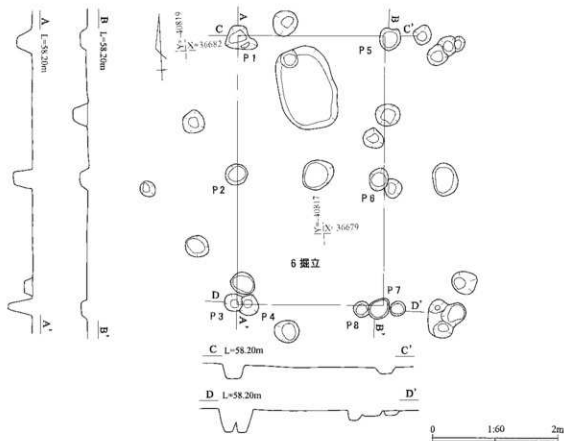
P6 0.33m×0.30m×0.23m

P7 0.36m×0.28m×0.14m

P8 0.25m×0.25m×0.10m

**出土遺物** 6号掘立柱建物を構成するピットからは、P3より須恵器杯の破片が出土している。

**所見** 2間×1間の側柱建物である。棟方向は南北棟である。出土遺物が少なく、時期に関する詳細については不明であるが、概ね古代以降と考えられる。



第205図 2区6号掘立柱建物平面図・エレベーション図

7号掘立柱建物（3区）【第206・207図 PL.28】

位置 X=36616~36625 Y=-40742~-40747

7号掘立柱建物は、北を高位とする緩斜面地に占地している。

形状 柱筋はほぼ直角に交わり、南北に長い長方形。

北辺は北西隅の柱穴のみ調査されており、北東隅の柱穴は調査区外となっているため、確認されていない。東辺はいずれも柱軸にのるが、P5・P6はやや西にずれている。また、P6の周辺には多くのピットが確認されており、南に隣接し、P6に後出している117号ピットは、7号掘立柱建物に伴う遺構の可能性があるが、その他のピットはいずれも断面形状・深さ等より、7号掘立柱建物に伴わない遺構であると判断した。南辺の柱穴はP7・P4とも、柱軸にのっている。西辺の柱穴は、南端のP4が東側に、北端のP1が西側にややずれている。柱穴間は、P2・P3間が最も広く、P3・P4間が最も狭くなって

おり、一定していない。

また、P3・P4・P7から柱痕跡が確認されている。

規模 各辺の長さは、隅柱穴の中心間距離で計測して、以下のとおりである。

北辺 不明

東辺 不明

南辺 (P7~P4) 4.30m

西辺 (P4~P1) 8.62m

面積 9.8㎡

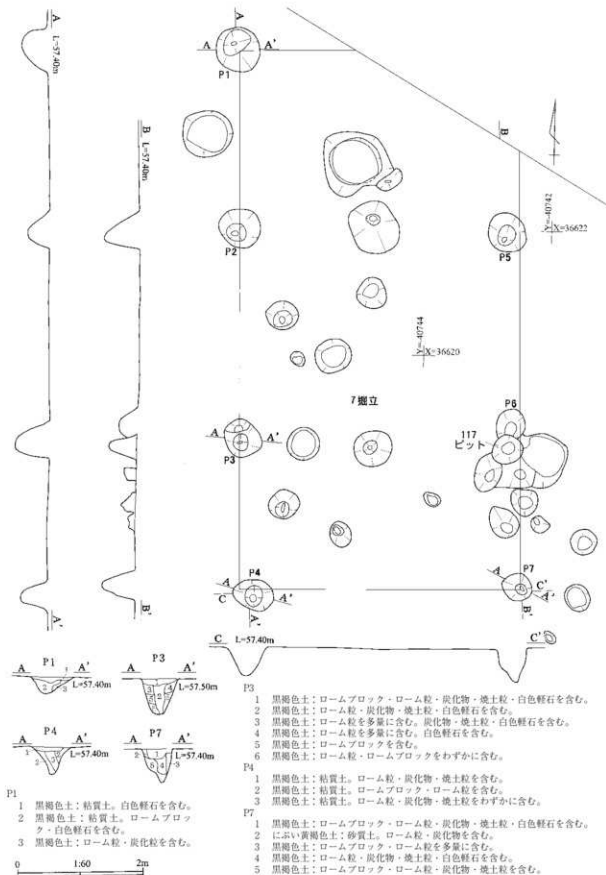
方位 N-3° -W

柱穴 いずれも不整形を呈している。柱穴の径、深さとも、ほぼ一定である。底面の形状は、平坦面が少なく、丸みをおびた形状が多い。それぞれの規模は以下のとおりである。

P1 0.74m×0.70m×0.40m

P2 0.67m×0.63m×0.35m

P3 0.62m×0.54m×0.56m



第206図 3区7号掘立柱建物平・断面図・エレベーション図





第207図 3区7号掘立柱建物出土遺物

- P4 0.63m×0.50m×0.42m  
 P5 0.67m×0.57m×0.58m  
 P6 0.49m×0.46m×0.30m  
 P7 0.43m×0.40m×0.52m

**出土遺物** 7号掘立柱建物を構成するピットからは、他の掘立柱建物と比較し、多くの遺物が出土している。P1からは須恵器壺(2)・土師器片・須恵器片が、P3からは外面に墨書された須恵器坏(1)が、P4からは須恵器破片が、P6からは土師器破片・須恵器破片が、P7からは縄文土器破片と土師器破片がそれぞれ出土している。

**所見** 1間×3間の欄柱の建物である。棟方向は南北棟である。出土遺物より、7号掘立柱建物は周囲の住居と同時期で古代の所産と考えられる。

#### 8号掘立柱建物(3区)【第208-209図】

**位置** X=36614~36617 Y=-40730~-40735

8号掘立柱建物は、北を高位とする緩斜面地に占地している。

**形状** 柱筋はほぼ直角に交わり、東西に長い長方形。

北辺の柱穴はいずれも柱軸にのる。北東隅のP4に隣接して、145号ピットが確認されているが、断面形状・深さ等から、8号掘立柱建物に伴わない遺構であると判断した。東辺の柱穴は柱軸にのる。中間に140号ピットが確認されているが、断面形状より、8号掘立柱建物に伴わない遺構であると判断した。南辺の柱穴はいずれも柱軸にのる。やや東寄りには137号ピットがみられるが、断面形状より8号掘

立柱建物に伴わない遺構であると判断した。西辺の柱穴はほぼ柱軸にのる。P1は他の柱穴よりも規模が大きいが、建て替えられたものと思われる。柱穴間は、ほぼ一定である。また、いずれの柱穴からも、柱痕跡は確認されていない。

**規模** 各辺の長さは、隅柱穴の中心間距離で計測して、以下のとおりである。

- 北辺(P3~P4) 3.70m  
 東辺(P4~P2) 2.24m  
 南辺(P2~P1) 3.78m  
 西辺(P1~P3) 2.46m  
 面積 8.7m<sup>2</sup>

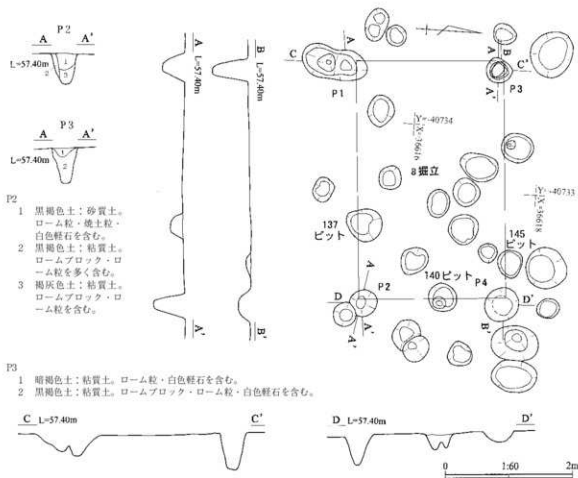
**方位** N-86°-E

**柱穴** P1は二つの柱穴が連結した形を呈しているため横長の不整形だが、その他の柱穴はいずれも円形を呈している。深さは、P4が若干浅いが、その他の柱穴はほぼ一定である。底面の形状は、わずかに平坦面を有する。それぞれの規模は以下のとおりである。

- P1 1.03m×0.45m×0.35m  
 P2 0.43m×0.40m×0.49m  
 P3 0.42m×0.39m×0.85m  
 P4 0.55m×0.52m×0.18m

**出土遺物** 8号掘立柱建物を構成するピットからは、P1より須恵器壺(1)・土師器破片・須恵器破片が出土している。

**所見** 1間×1間の建物である。棟方向は東西棟である。出土遺物より、8号掘立柱建物は古代の所産であると考えられる。



第208図 3区8号掘立柱建物平・断面図・エレベーション図

## 9号掘立柱建物（3区）【第210図】

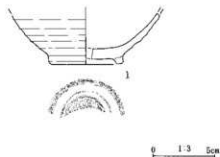
位置 X=36614~36619 Y=-40729~-40733

9号掘立柱建物は、北を高位とする緩斜面地に占地している。

形状 柱筋はほぼ直角に交わり、東西に長い長方形。

北辺の柱穴はP4・P5とも柱軸からずれている。中間に25号ピット・26号ピットがみられるが、いずれも断面形状・深さ等より9号掘立柱建物に伴わない遺構であると判断した。東辺の柱穴はいずれも柱軸にのる。南辺の柱穴はP1・P2とも柱軸よりずれている。P1・P2間には複数のピットが確認されているが、いずれも形状等から、9号掘立柱建物に伴う遺構であるか否かを断定することはできない。西辺の柱穴はいずれも柱軸にのる。柱穴間は、ほぼ一

定である。また、いずれの柱穴からも、柱痕跡は確認されていない。



第209図 3区8号掘立柱建物出土遺物

第4章 二の宮遺跡

**規模** 各辺の長さは、隅柱穴の中心間距離で計測して、以下のとおりである。

北辺 (P4~P5) 3.46m

東辺 (P5~P2) 1.80m

南辺 (P2~P1) 3.46m

西辺 (P1~P4) 1.68m

面積 5.6m<sup>2</sup>

**方位** N-53° -W

**柱穴** いずれも円形を呈している。柱穴の径はほぼ同じであるが、深さは一定ではない。底面の形状は、一部、丸みをおびた底部がみられるが、多くは平坦

面を有する。それぞれの規模は以下のとおりである。

P1 0.48m×0.46m×0.23m

P2 0.42m×0.42m×0.45m

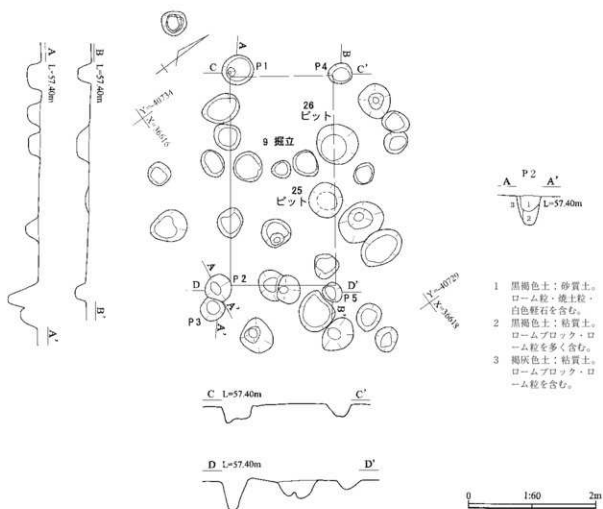
P3 0.38m×0.36m×0.25m

P4 0.36m×0.35m×0.22m

P5 0.32m×0.30m×0.17m

**出土遺物** 9号掘立柱建物構成するピットからは、いずれも遺物は出土していない。

**所見** 1間×1間の建物である。棟方向は東西棟である。出土遺物がないため、9号掘立柱建物に関する時期については不明である。



第210図 3区9号掘立柱建物平・断面図・エレベーション図

## 10号掘立柱建物（4区）【第211図】

位置 X=36563~36566 Y=-40658~-40663

10号掘立柱建物は、北西を高位とする緩斜面地に占地している。

形状 柱筋はほぼ直角に交わり、東西に長い長方形。

北辺の柱穴はいずれも柱軸にのる。P1・P3間に、やや東寄りにP2がみられる。東辺の柱穴はP1・P4とも柱軸からずれている。南辺の柱穴はいずれも柱軸にのる。西辺の柱穴も同様に柱軸にのる。また、いずれの柱穴からも、柱痕跡は確認されていない。

規模 各辺の長さは、隣柱穴の中心間距離で計測して、以下のとおりである。

北辺 (P4~P5) 4.24m

東辺 (P5~P3) 2.58m

南辺 (P3~P1) 4.23m

西辺 (P1~P4) 2.54m

面積 10.7㎡

方位 N-90° -E

柱穴 不整形円形と不整形で構成されている。柱穴の径も一定ではなく、P3・P5は他の柱穴に比較して大きい。深さは概ね一定である。底面の形状は底部に平坦面を有する、逆台形状が多い。それぞれの規模は以下のとおりである。

P1 0.39m×0.32m×0.17m

P2 0.35m×0.33m×0.16m

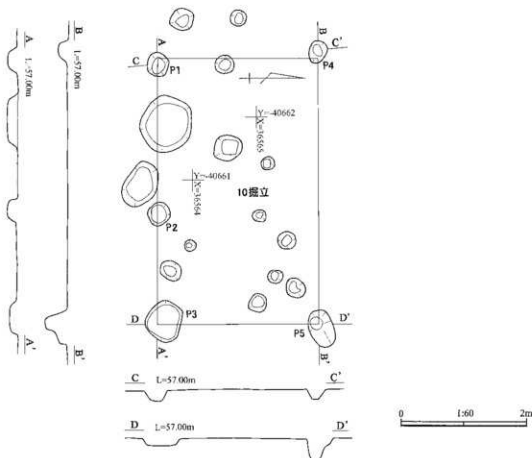
P3 0.61m×0.54m×0.12m

P4 0.36m×0.28m×0.15m

P5 0.61m×0.38m×0.33m

出土遺物 10号掘立柱建物を構成するピットからは、いずれも遺物は出土していない。

所見 1間×1・2間の変則的な柱間の建物である。棟方向は東西棟である。出土遺物がないため、10号掘立柱建物に関する時期については不明である。



第211図 4区10号掘立柱建物平面図・エレベーション図

## 4 溝

## 1号溝 (1区)【第212回 PL.28】

位置 X=36708~36712 Y=-40887~-40891

南西を高位とする緩斜面地に位置する。

重複 無し

走向 N-54° -W

調査長 4.9m

幅 最大0.7m 最小0.55m

深さ 最深部0.16m 最浅部0.03m

傾斜 北端58.57m 南端58.54m (比高0.03m)

形状 底面は中央部がわずかに高まり、両端が低く掘り込まれており、直線的に立ち上がる。

調査所見 1区では調査区南側で3本の溝が確認された。この3本はほぼ平行しており、1号溝は最も南側に位置している。1号溝は3本の中で最も残存状況が悪く、南側が欠落している。いずれも北を高位とする溝である。位置、形状、埋土等から、この3本の溝は同時期に存在していたと想定される。

また、埋土は上層が粘質土で、下層が砂質土となっていることから、使用時はある程度、流れを伴っていたと考えられる。

1号溝に関してはわずかに土師器片が1片、出土しているのみで、時期に関して詳細は不明であるが、概ね古代以降の所産と考えられる。

## 2号溝 (1区)【第212回 PL.28】

位置 X=36707~36715 Y=-40883~-40892

南西を高位とする緩斜面地に位置する。

重複 無し

走向 N-48° -W

調査長 11.6m

幅 最大1.22m 最小0.7m

深さ 最深部0.21m 最浅部0.05m

傾斜 北端58.48m 南端58.46m (比高0.02m)

形状 底面はわずかに凹凸があるが、東壁は緩やかに立ち上がり、西壁は角度を付けて立ち上がる。

調査所見 1区南側で確認された3本の溝のうち、真ん中に位置している。2号溝は南側でわずかに角度を変えて南流する。この角度が変わった地点の周辺では、溝の北側を中心に複数の礫が集中して出土している。この集石群は、溝の底面を掘り込んで埋められており、流水が認められる使用時にあえて掘り込まれていることから、何らかの意味があるとと思われるが、その性格について詳細は不明である。

埋土は上層が粘質土、下層が砂質土であることから、使用時には流れを伴っていたと想定される。

2号溝に関してはわずかに土師器片・須恵器片・軟質陶器片・陶磁器片が少量出土していることから、概ね中近世以降の所産と考えられる。

## 3号溝 (1区)【第212回 PL.28】

位置 X=36707~36717 Y=-40881~-40892

南西を高位とする緩斜面地に位置する。

重複 7号住居に後出

走向 N-48° -W

調査長 14.8m

幅 最大1.06m 最小0.62m

深さ 最深部0.18m 最浅部0.07m

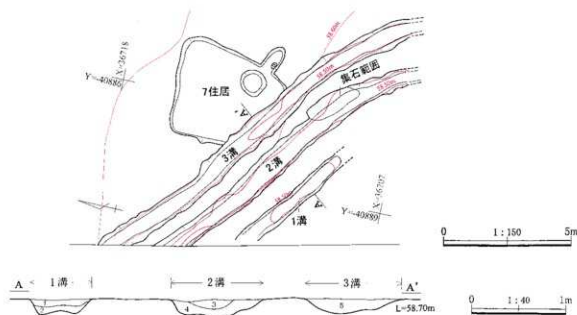
傾斜 北端58.57m 南端58.47m (比高0.1m)

形状 底面はわずかに丸みをおび、両端は緩やかに傾斜をつけて立ち上がる。

調査所見 1区南側で確認された3本の溝のうち、最も北側に位置している。終始、2号溝と平行しており、同様に南側でわずかに角度を変えて南流する。この地点周辺で、平行している2号溝では集石が確認されたが、3号溝では確認されていない。

埋土は粘質土のみの一層で、使用時は土砂の堆積を伴う緩やかな流れであったと想定される。

3号溝に関してはわずかに土師器片・須恵器片・軟質陶器片が少量出土している。また、7号住居に後出しており、2号溝と形状、位置等が近似していることから、概ね中世以降の所産と考えられる。



## 1号溝・2号溝・3号溝

- 1 灰黄褐色土：粘質土。ロームブロックを少量含む。
- 2 灰黄褐色土：砂質土。粒子は粗い。
- 3 褐灰色土：粘質土。
- 4 灰黄褐色土：砂質土。3層より粒子は細かい。
- 5 灰黄褐色土：粘質土。1層に近似。ロームブロックを少量含む。白色軽石をわずかに含む。

第212図 1区1・2・3号溝平・断面図

## 4号溝(2区)【第213・214図】

位置 X=36663~36693 Y=-40856~-40880

南西を高位とする緩斜面に位置する。

重複 1号井戸に先行

走向 N-36° -W

調査長 36.8m

幅 最大2.43m 最小0.76m

深さ 最深部0.4m 最浅部0.05m

傾斜 北端58.07m 南端57.82m (比高0.25m)

形状 底面は起伏が激しく、西壁付近が最も低く掘り込まれている。東壁に比べ、西壁の方が緩やかに傾斜角をつけて立ち上がる。

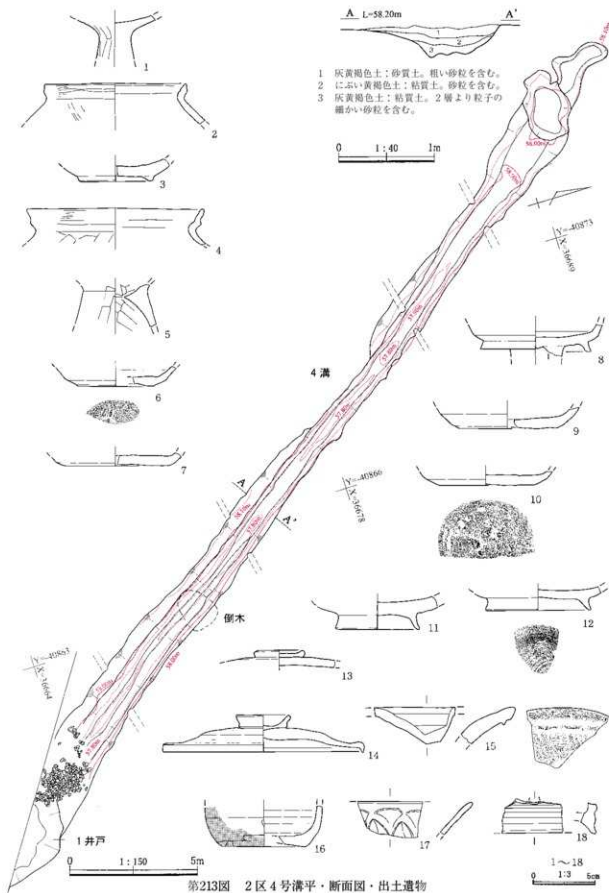
調査所見 2区で確認されている溝は、計7条であるが、すべて調査区北西端付近にまとまって検出されている。そのうち4号溝は最大の規模を有する。

北西端で土坑状の掘り込み(2.7m×1.7m×0.27m)がみられ、そこからほぼ直線的に南東へ向けて流れている。一方の南東端には1号井戸によって壊されているため、以後、継続しているか否かについては不明である。なお南東部付近で、4号溝並びに、重複する1号井戸の上部に礫が集中して出土しているが、いずれの遺構にも伴わないと考えられる。

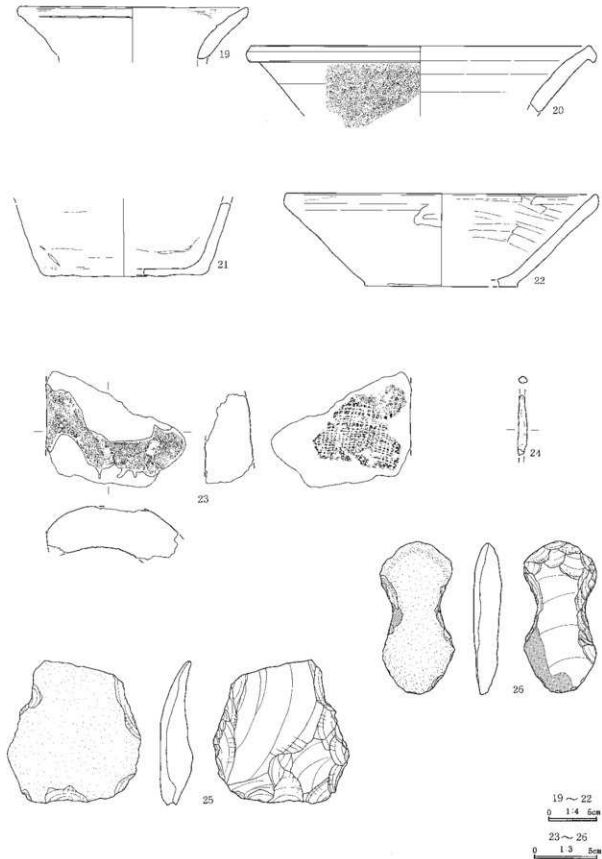
埋土は、上層に砂質土、中層と下層に粘質土が堆積している3層となっており、使用時は土砂の堆積を伴う、緩やかな流れであったと想定される。

4号溝に関しては、土師器高坏・土師器壺・土師器埴・須恵器坏・須恵器蓋・須恵器高坏・須恵器碗・須恵器壺・須恵器埴・陶磁器片・地輪片・軟質陶器片等、多くの遺物が出土している。4号溝は出土遺物より、概ね中世以降の所産と考えられる。

第4章 二の宮遺跡



第213図 2区4号溝平・断面図・出土遺物



第214図 2区4号溝出土遺物



5号溝(2区)【第215~217図】

位置 X=36660~36666 Y=-40852~-40856

南西を高位とする緩斜面地に位置する。

重複 4号溝に先行

走向 N-26° -W

調査長 7.0m

幅 最大2.0m 最小0.4m

深さ 最深部0.45m 最浅部0.04m

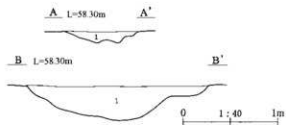
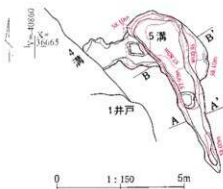
傾斜 北端57.72m 南端57.9m (比高0.18m)

形状 北側の幅広部分の底面は、丸みをおびて底面より緩やかに湾曲して立ち上がる。一方、南側の幅が狭くなっている部分の底面は、起伏が激しい。

調査所見 5号溝の平面形状は、L字状を呈している。その屈曲部付近が最も深くっており、また幅も最も広く、長辺は先端に向けて幅も狭くなっていく。一方の短辺は、深さは比較的一定で、4号溝に切られて途絶えている。また底面に、ビット状の掘り込みがみられる。

埋土は、小石・礫・砂粒を含んだ砂質土の単層となっており、使用時は流水があったことが想定される。

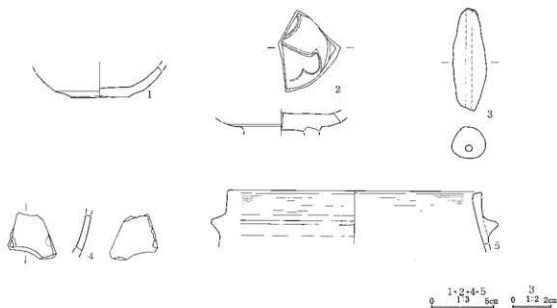
5号溝からは、須恵器坏・軟質陶器鉢・羽釜・陶磁器片・青磁片・須恵器片などが出土している。これらの出土遺物より、概ね中世以降の所産と考えられる。



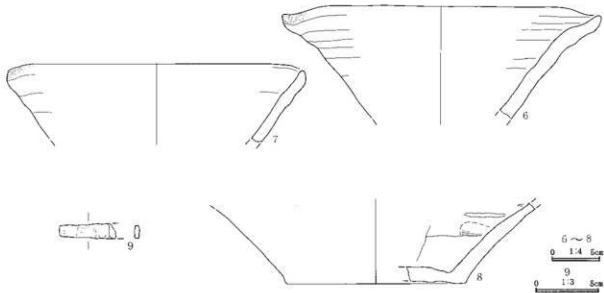
セクション A-A' B-B'

1 灰黄褐色土：砂質土。ロームブロック・小石・礫・砂粒を含む。

第215図 2区5号溝平・断面図



第216図 2区5号溝出土遺物



第217図 2区5号溝出土遺物

**6号溝（2区）【第218図】**

位置 X=36691~36701 Y=-40846~-40873

南西を高位とする緩斜面地に位置する。

重複 無し

走向 N-69°-E

調査長 29.1m

幅 最大0.95m 最小0.55m

深さ 最深部0.21m 最浅部0.01m

傾斜 東端57.94m 西端58.16m (比高0.22m)

形状 底面は丸みをおびて緩やかに立ち上がる。ほぼ左右対称の底面を呈する。

調査所見 6号溝の平面形状は蛇行することなく、直線を呈している。

6号溝は2区北端に、東西方向を軸として位置している。2区で検出された他の溝はすべて北西-南東方向を軸としているのに対し、6号溝のみそれらの溝とはほぼ直交する形で立地している。東端は調査区外へと継続しているが、西端は徐々に底面が立ち上がり、自然消滅している。しかしその延長線上には4号溝北西端で確認されている土坑状の掘り込みがあり、これと何らかの関係がありそうである。

埋土は暗褐色土主体となっており、いずれも粘質土で、上層にはローム粒を含んだ2層となっている。

6号溝に関しては、土師器片がわずかに1片出土しているのみで、詳細については不明な点も多いが、概ね古代以降の所産と考えられる。

**7号溝（2区）【第219図】**

位置 X=36675~36678 Y=-40876~-40880

南西を高位とする緩斜面地に位置する。

重複 8号溝と重複

走向 N-61°-W

調査長 5.3m

幅 最大0.45m 最小0.2m

深さ 最深部0.31m 最浅部0.04m

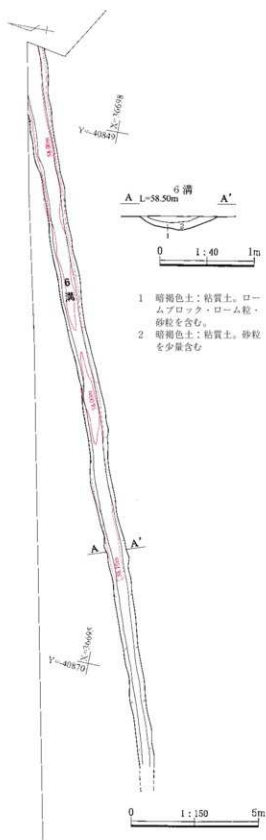
傾斜 東端57.81m 西端58.08m (比高0.27m)

形状 断面の記録がないため、底面および壁の形状等、詳細については不明である。

調査所見 7号溝の西端部は調査区西壁と接しており、更に西側に継続していることが想定される。途中、8号溝と合流し、その付近で流れを南寄りに変え、調査区南壁へと流れ込んでいる。

埋土は、断面記録がないため、詳細については不明である。

7号溝に関しては、出土遺物が確認されていないため、使用された時期に関する詳細は不明である。



第218図 2区6号溝平・断面図

8号溝 (2区) 【第219図】

位置 X=36673~36679 Y=-40875~-40878

南西を高位とする緩斜面地に位置する。

重複 7号溝と重複

走向 N-29° -W

調査長 6.5m

幅 最大0.70m 最小0.22m

深さ 最深部0.34m 最浅部0.04m

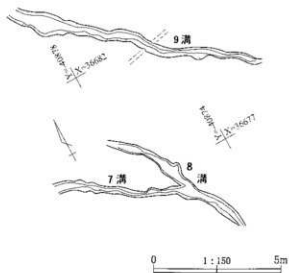
傾斜 北端57.96m 南端57.95m (比高0.01m)

形状 断面の記録がないため、底面および壁の形状等、詳細については不明である。

調査所見 8号溝の北端は緩斜面地の等高線にほぼ直交する形で発生しており、7号溝と合流の後、調査区南壁へと流れ込んでいる。いずれも小規模な溝である。

埋土は、断面記録がないため、詳細については不明である。

8号溝に関しては出土遺物が確認されていないため、使用された時期に関する詳細は不明である。



第219図 2区7~9号溝平面図

## 9号溝(2区)【第219図】

位置 X=36679~36685 Y=-40871~-40879

南西を高位とする緩斜面地に位置する。

重複 無し

走向 N-50°-W

調査長 10.1m

幅 最大0.95m 最小0.22m

深さ 最深部0.50m 最浅部0.12m

傾斜 北端58.09m 南端57.75m (比高0.34m)

形状 断面の記録がないため、底面および壁の形状等、詳細については不明である。

調査所見 9号溝は2区西側に、4号溝と7・8号溝に挟まれて位置している。平面形状は小規模な蛇行を繰り返しており、両端部とも徐々に底面が立ち上がり自然に消滅している。残存部分はわずかであり、それぞれ両端とも更に継続すると想定される。

埋土は、断面記録がないため、詳細については不明である。

9号溝に関しては、出土遺物が確認されていないため、使用された時期に関する詳細は不明である。

## 10号溝(2区)【第220~222図】

位置 X=36670~36684 Y=-40854~-40864

南西を高位とする緩斜面地に位置する。

重複 無し

走向 N-34°-W

調査長 16.9m

幅 最大1.5m 最小0.24m

深さ 最深部0.16m 最浅部0.01m

傾斜 北端58.15m 南端58.1m (比高0.05m)

形状 断面の記録がないため、底面および壁の形状等、詳細については不明である。

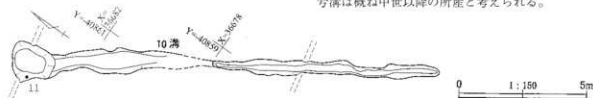
調査所見 平面形状は直線を呈している。

10号溝は、4号溝の東側に平行して位置しており、10号溝を境に、東側はピット・土坑などの遺構が増加する傾向がみられる。

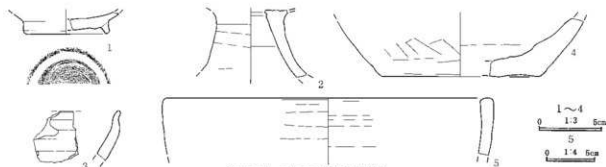
北端に土坑状の掘り込み(1.78m×1.25m×0.25m)がみられ、そこから南の方向へ溝が延びている。一方の南端部は、底面が自然に立ち上がり消滅している。溝の中程も浅くなり、一部消滅している。北端部に掘り込みが見られるのは、西側に平行して走行する4号溝と同様であることから、4号溝と同じ性格を有する遺構であることが想定できる。

埋土は、断面記録がないため、詳細については不明である。

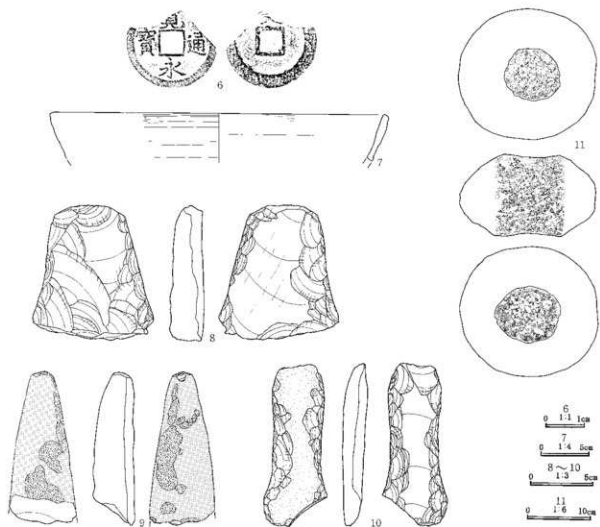
10号溝に関しては、須恵器盤状高坏・須恵器甕・須恵器埴・内耳型土器・五輪塔が、また、土師器片・須恵器片・軟質陶器片が複数出土しており、10号溝は概ね中世以降の所産と考えられる。



第220図 2区10号溝平面図



第221図 2区10号溝出土遺物



第222図 2区10号溝出土遺物

11号溝(3区)【第223図 PL.28】

位置 X=36613~36651 Y=-40781~-40786

南西を高位とする緩斜面地から、平坦地にまたがって位置する。

重複 43号住居に後出する

走向 N-6°-E

調査長 37.4m

幅 最大1.28m 最小0.6m

深さ 最深部0.28m 最浅部0.06m

傾斜 北端57.44m 南端57.44m

形状 底部中央部が高まり、両端部は落ち込んでいる。法面は丸みをおびて、緩やかに立ち上がる。

調査所見 平面形状は、幅は一定で直線状を呈して

いる。

11号溝は3区で最も西側に位置している溝である。北端は調査区外へ継続していることが想定され、南端は1号池の手前で途切れる。傾斜がほとんどないため、水が流れた形跡は少ない。

埋土は、上層が暗褐色土で下層が黒褐色土の2層となっている。

11号溝に関しては、須恵器坏(1)・須恵器碗(2)・縄文深鉢が、また多量の土師器片・須恵器片が出土している。11号溝は43号住居に後出しており、また出土している遺物より、古代以降の所産と考えられる。

12号溝（3区）【第224・225図 PL.28】

位置 X=36551~36562 Y=-40711~-40714

西を高位とする緩斜面地に位置する。

重複 無し

走向 N-11° -E

調査長 10.7m

幅 最大1.8m 最小0.5m

深さ 最深部0.26m 最浅部0.04m

傾斜 北端56.81m 南端56.76m (比高0.05m)

形状 底面中央部付近が深く掘り込まれており、法面中程でわずかにテラスを形成し、角度を付けて立ち上がる。

調査所見 平面形状はわずかに蛇行し、幅も一定ではない。

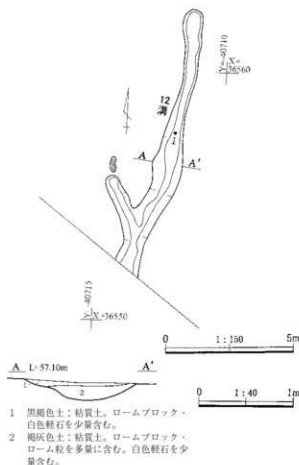
12号溝は、3つの区画に分割されている3区のうち、最も西側の区画より確認された、唯一の遺構である。北端は東西方向を軸とする緩斜面地より発し、調査区南壁に接している。以後、南へ継続していると想定される。また、南端のわずかに北寄り、北西方向からの小さな溝と合流する。

埋土は、上層が黒褐色土で下層が褐灰色土の粘性をおびた2層となっている。

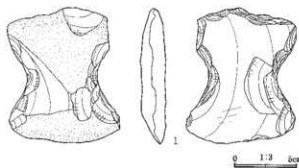
遺物として、石斧（1）が1点、また土師器片がわずかに出土していることから、12号溝は古代以降の所産と考えられる。



第223図 3区11号溝平・断面図・出土遺物



第224図 3区12号溝平・断面図



第225図 3区12号溝出土遺物

13号溝（3区）【第226～228図 PL.28】

位置 X=36596～36609 Y=-40717～-40721

北西を高位とする緩斜面地が平坦になった場所に位置する。

重複 14号溝に後出しており、33号住居・15号溝と重複している。

走向 N-5°-E

調査長 12.1m

幅 最大3.3m 最小3.0m

深さ 最深部0.3m 最浅部0.19m

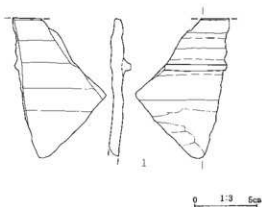
傾斜 北端57.12m 南端57.12m

形状 底面中央部のみ深く掘り込まれており、以後は凹凸を含む平坦面を有する、幅広い断面を呈する。  
調査所見 平面形状は南北方向を軸とした長方形を呈している。

13号溝は、北側の一部と南側は調査区外へと継続しているためその全容については不明であるが、形状や流水の形跡が判然としないこと等から、溝ではない別の遺構の可能性も考えられる。また遺物として羽釜・鉄滓などが出土しているが、出土位置が確認されていないため、重複している33号住居に伴う遺物の可能性もある。また、西側に位置する14号溝・15号溝がそれぞれ、13号溝とほぼ直角に交わっている。13号溝は、それぞれの溝と重複する住居の新旧関係から14号溝には後出しているが、15号溝に関しては、その新旧関係は不明である。

埋土は、灰黄褐色土が主体となっており、上層と下層では混合物が異なっている。

遺物として、羽釜・軟質陶器・鉄滓の他、土師器片・須恵器片が複数出土している。13号溝は33号住居に後出していることから、古代以降の所産と考えられる。



第226図 3区13号溝出土遺物



第227図 3区13号溝出土遺物

14号溝 (3区)【第228図 PL.29】

調査長 17.6m

位置 X=36608~36609 Y=-40720~-40737

幅 最大0.75m 最小0.42m

西を高位とする緩斜面地に位置する。

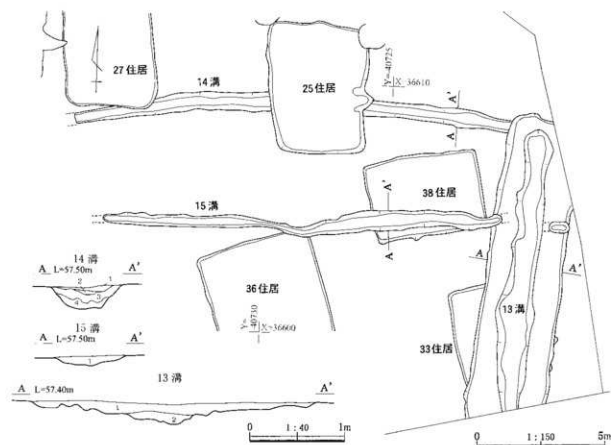
深さ 最深部0.27m 最浅部0.07m

重複 25号住居・27号住居・13号溝に先行する。走

傾斜 東端57.12m 西端57.20m (比高0.08m)

向 N-88° -E

形状 底面は一部平坦部がみられ、直線上に立ち上



13号溝

- 1 灰黄褐色土：砂質土。白色軽石を多量に含む。焼土粒をわずかに含む。
- 2 灰黄褐色土：白色軽石をわずかに含む。

14号溝

- 1 褐灰色土：砂質土。白色軽石を少量含む。焼土粒をわずかに含む。
- 2 褐灰色土：砂質土。1層と同じであるが、やや明るい。白色軽石・焼土粒をわずかに含む。
- 3 黒褐色土：粘質土。白色軽石を少量含む。焼土粒をわずかに含む。
- 4 暗褐色土：粘質土。ロームブロック・白色軽石を少量含む。

15号溝

- 1 暗褐色土：砂質土。As-B混土。白色軽石を多量に含む。焼土粒をわずかに含む。

第228図 3区13~15号溝平・断面図



がる。逆台形状の断面を呈する。

**調査所見** 平面形状はほぼ直線だが、わずかに北側に張り出す弓状を呈する。

14号溝は、西より27号住居・25号住居・13号溝に壊されている。また、南に位置する15号溝とはほぼ平行している。

埋土は、上層は褐色土で砂質土、下層が黒褐色・暗褐色土の粘質土となっており、使用時のある時期より水の流れが速くなったことが想定される。

なお、14号溝から遺物は出土していない。

重複している25号住居・27号住居よりも古い時代の遺構であるが、時期に関する詳細については不明である。

#### 15号溝（3区）【第228図 PL.29】

**位置** X=36604~36605 Y=-40720~-40736

西を高位とする緩斜面地が、平坦地に変換した場所に位置する。

**重複** 36号住居・38号住居に後出し、13号溝と重複する。

**走向** N-88°-E

**調査長** 15.8m

**幅** 最大0.8m 最小0.2m

**深さ** 最深部0.14m 最浅部0.01m

**傾斜** 東端57.24m 西端57.24m

**形状** 底面はわずかに凹凸がみられ、緩やかに立ち上がる。

**調査所見** 平面形状はほぼ直線だが、中央付近で南側に屈曲する。幅は不均一である。

15号溝は両端底部の標高が同値であり、傾斜を確認することが出来ない。西を高位とする緩斜面地が平坦地に変換した場所に位置しており、わずかな高まりを持つ尾根上に乗っている。

埋土は、暗褐色土が主体となっており、As-B混土の単層である。なお、15号溝からは、土師器片が1片、出土している。埋土の状況より、15号溝は中世以降の所産である。

#### 16号溝（4区）【第229図 PL.29】

**位置** X=36544 Y=-40618~-40621

北西を高位とする緩斜面地に位置する。

**重複** 無し

**走向** N-90°-E

**調査長** 0.24m

**幅** 最大0.4m 最小0.25m

**深さ** 最深部0.11m 最浅部0.05m

**傾斜** 東端56.75m 西端56.8m (比高0.05m)

**形状** 底面は平坦面を有し、法面は直線状である。逆台形状の断面を呈する。

**調査所見** 平面形状はほぼ直線である。北側に隣接して17号溝が位置している。16号溝を西側にそのまま継続していくと、18号溝と重なるため、双方の溝の間に何らかの関係があると想定される。また、近接している16号溝・17号溝・18号溝の3本は、断面の形状、規模、並びに埋土も近似しているため、同様の性格を有する遺構であると考えられる。

埋土は、黒褐色土が主体となっており、白色軽石・ローム粒などが含まれている。

なお、16号溝からは遺物は出土していない。16号溝では、周辺の住居と同様の埋土が確認されることから、古代の所産と想定される。

#### 17号溝（4区）【第229図 PL.29】

**位置** X=36544~36545 Y=-40620~-40630

北西を高位とする緩斜面地に位置する。

**重複** 無し

**走向** N-89°-W

**調査長** 10.0m

**幅** 最大0.36m 最小0.18m

**深さ** 最深部0.11m 最浅部0.02m

**傾斜** 東端56.85m 西端56.93m (比高0.08m)

**形状** 底面は平坦面を有し、法面は直線上である。逆台形状の断面を呈する。

**調査所見** 平面形状はほぼ直線である。東端部は南側に16号溝が、西端部では南側に18号溝がそれぞれ隣接している。平面形状はほぼ直線状であるが、中

尖部やや西寄り、南側に張り出す屈曲部をもつ。幅はほぼ一定だが、屈曲部より東側は不均一である。

埋土は、黒褐色土が主体となっており、白色軽石・ローム粒などが含まれている。

なお、17号溝からは遺物は出土していない。17号溝では、周辺の住居と同様の埋土が確認されることから、古代の所産と想定される。

#### 18号溝（4区）【第229図 PL.29】

位置 X=36544~36545 Y=-40626~-40640

北西を高位とする緩斜面地に位置する。

重複 318号ビット・324号ビットに先行する。

走向 N-86°-W

調査長 14.1m

幅 最大0.42m 最小0.28m

深さ 最深部0.13m 最浅部0.07m

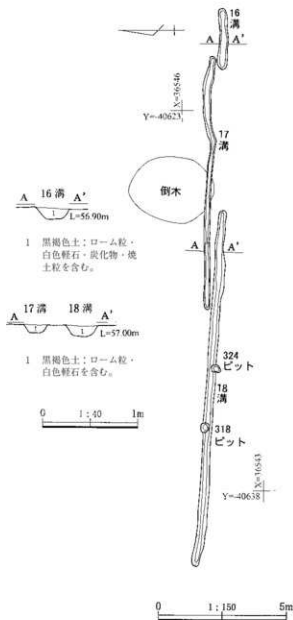
傾斜 東端56.85m 西端56.89m (比高0.04m)

形状 底面は平坦面を有し、法面は直線上である。逆台形状の断面を呈する。

調査所見 平面形状はほぼ直線である。東端部は北側に17号溝が隣接している。平面形状はほぼ直線状で、中央付近で318号ビット・324号ビットと重複している。幅はほぼ一定であるが、東端付近でやや乱れる。

埋土は、黒褐色土が主体となっており、白色軽石・ローム粒などが含まれている。

なお、18号溝からは遺物は出土していない。18号溝では、周辺の住居と同様の埋土が確認されることから、古代の所産と想定される。



第229図 4区16~18号溝平・断面図

#### 19号溝（4区）【第230図 PL.29】

位置 X=36553~36556 Y=-40657~-40658

北西を高位とする緩斜面地に位置する。

重複 20号溝と重複

走向 N-0°

調査長 3.8m

幅 最大0.34m 最小0.3m

深さ 最深部0.1m 最浅部0.05m

傾斜 北端56.88m 南端56.9m (比高0.02m)

形状 底面は丸みをおび、緩やかに立ち上がる。U字状の断面を呈する。

調査所見 平面形状はほぼ直線で幅は一定である。

#### 第4章 二の宮遺跡

北端部で20号溝と接している。両溝は、断面・埋土とも近似していることから、同時期に同じ性格を有する遺構として使用されていたと想定される。

埋土は、暗褐色土が主体となっており、白色軽石・ローム粒などが含まれている。

なお、19号溝からは須恵器片がわずかに出土しており、また、周辺の住居と同様の埋土が確認されることから、古代の所産と想定される。

#### 20号溝（4区）【第230図 PL.29】

位置 X=36556 Y=-40656～-40658

北西を高位とする緩斜面地に位置する。

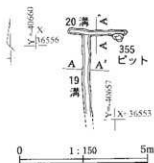
重複 355号ピットに先行。19号溝と重複。

走向 N-89° -W

調査長 2.3m

幅 最大0.22m 最小0.18m

深さ 最深部0.09m 最浅部0.05m



19号溝

1 暗褐色土・ローム粒・白色軽石・炭化物・焼土粒を含む。

20号溝

1 暗褐色土・ローム粒・白色軽石・炭化物・焼土粒を含む。



第230図 4区19・20号溝平・断面図

#### 21号溝（4区）【第231・232図 PL.29】

位置 X=36554～36598 Y=-40685～-40699

北西を高位とする緩斜面地に位置する。

重複 390号ピットに先行

走向 N-18° -W

調査長 45.6m

幅 最大1.3m 最小0.3m

深さ 最深部0.28m 最浅部0.01m

傾斜 北端57.11m 南端56.92m (比高0.19m)

形状 底面は部分的に平坦部を有し、緩やかに立ち上がる。

傾斜 東端56.88m 西端56.88m

形状 底面は丸みをおび、緩やかに立ち上がる。U字状の断面を呈する。

調査所見 平面形状はほぼ直線である。また幅も一定である。中央部やや西よりで、19号溝と接している。また、東端部付近で、355号ピットと重複している。19号溝と性格が近似しているが、19号溝に比較し、やや浅い。また溝の両端部における高低差が認められず、残存している規模も短いため、果たして溝として機能していたか否かについては断定できない。

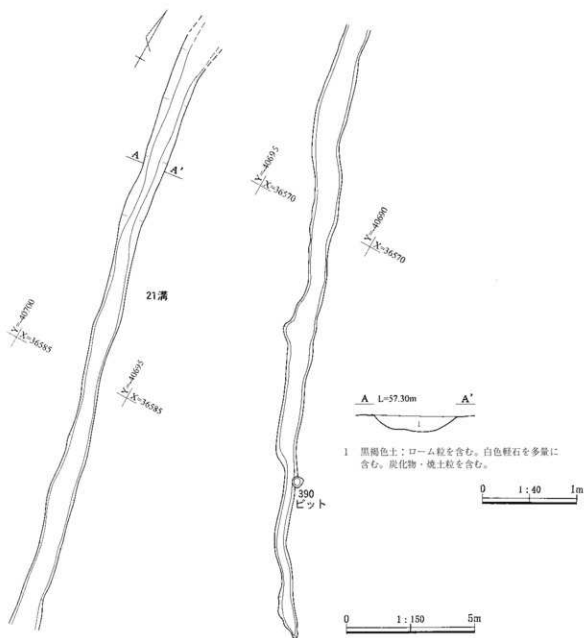
埋土は、暗褐色土が主体となっており、白色軽石・ローム粒などが含まれている。

なお、20号溝から遺物は出土していない。19号溝と同様の遺構であると想定できるので、古代の所産と考えられる。

調査所見 21号溝は4区において最も西側で確認された溝である。調査区西壁にほぼ沿って検出されており、4区で確認された他の溝よりも圧倒的に規模が大きい。平面形状はほぼ直線状であるが、わずかに西に張り出した弓状を呈する。幅は特に南端部で乱れているが、北側はほぼ安定している。

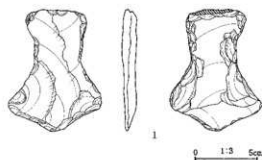
埋土は、黒褐色土が主体となっており、白色軽石・ローム粒などが含まれている。

なお、21号溝からは、石斧(1)・土師器片・陶磁器片が出土しており、また、周辺の住居と同様の埋土が確認されることから、古代の所産と想定される。



- 1 黒褐色土：ローム粒を含む。白色軽石を多量に含む。炭化物・焼土粒を含む。

第231図 4区21号溝平・断面図



第232図 4区21号溝出土遺物

22号溝(4区)【第233図 PL.29】

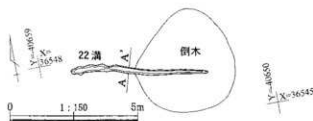
位置 X=36546~36547 Y=-40652~-40657

北西を高位とする緩斜面に位置する。

重複 無し

走向 N-80° -W

調査長 5.4m



1 暗褐色土・ロームブロック・ローム粒・白色軽石・炭化物を含む。

第233図 4区22号溝平・断面図

5 土坑

1面で調査された土坑は、1区で3基、2区で91基、3区で46基、4区で25基、5区で1基、総計166基である。本報告書では遺構の番号については、1区から5区にわたって全調査区を通した通番での記載が基本となっている。しかし、調査時には各調査区単位で通番を付与している。そこで、土坑・ピット以外の遺構に関しては、整理作業の過程で改めて全調査区を通した通番を付与してきたが、土坑・ピットに関してはその数が多いことから、混乱を避けるためにあえて全調査区を通した通番を付与する

幅 最大0.35m 最小0.1m

深さ 最深部0.07m 最浅部0.01m

傾斜 東端56.88m 西端56.85m (比高0.03m)

形状 底面は丸みをおびて緩やかに立ち上がる。U字状の断面を呈する。

調査所見 22号溝は4区のはほぼ中央付近に位置している。4区は北西を高位とする緩斜面に立地しているが、特にその中央付近は斜度も緩やかで、平坦面に近い地形が形成されている。平面形状はわずかに蛇行している。幅は東に向かって狭くなる傾向にあり、特に西側では乱れが生じている。

埋土は、暗褐色土が主体となっており、白色軽石・ローム粒などが含まれている。

なお、22号溝からは、遺物は出土していない。22号溝では、周辺の住居と同様の埋土が確認されることから、古代の所産と想定される。

という作業を行わなかった。よって、調査時のまま、各調査区単位での通番となっている。また、本来は住居内土坑として扱うべき遺構が、調査時に厳密に区別できなかったため、単独の土坑として記録されているケースがあり、そうした土坑に関しては住居に付属する遺構として、住居の項で扱った。欠番が生じているのはそうした理由による。また、第2面における縄文時代の土坑も含まれているため、それらの遺構に関する詳細は第2面の項で報告した。

土坑はいずれも出土遺物が少なく、時期・性格とも不明なものが多い。そのため本項ではその概要を

報告し、第256図～第290図に全体分布を掲載した。出土遺物・埋土の特徴等から時期が推測できる土坑については、平面図・断面図・写真等を個別に掲載したが、それ以外の土坑に関しては計測値のみの報告に止めた。計測値のデータは第3表にあげたとおりである。

#### 1区【第234図 PL.30】

1区中央部付近より、3基の土坑が確認されている。1号土坑・3号土坑は形状、規模共に近似しており、埋土の特徴から同時期のものと推定される。なお、1号土坑からは土師器片・須恵器片が出土している。1号土坑が2号住居に後出していることから、奈良時代以降の所産と考えられる。

#### 2区【第235～242・256～268図 PL.30～33】

2区からは最も多くの土坑が確認されている。この中で特徴的なのは、長方形の土坑である。標高58.10mラインを境に、西側に集中して分布しており、東側では確認されていない。これらの土坑は、ほぼ正方位上に位置しており、74号土坑・75号土坑の長軸が東西方向である他は、すべて南北方向に沿って並んでいる。また等高線に対して直交しているか、もしくは平行して立地していることから、地形を配慮した上で掘削されていることが想定される。性格としては何らかの区画を反映して配置された遺構だと思われる。詳細な時期については確定できないが、74号土坑より陶磁器片が出土していることから、中世以降の所産と想定される。

また、その他の土坑に関しては、以下の基準に該当する遺構を古代の所産と判断した。まず埋土の特徴として、周辺における古代の住居と共通する、暗褐色土（黒褐色土）主体で白色軽石を含む土壌で埋没している土坑を、住居と同時期の遺構であると考え、それらを古代の所産とした。出土遺物から想定される時代については、それぞれ個別に判断した。その結果、2区では古代と想定される土坑が30基、中世と想定される土坑が9基確認された。

#### 3区【第242～246図・第269～277図 PL.33～36】

3区からは46基の土坑が検出されており、そのう

ち出土遺物、埋土の特徴等から33基を古代の所産であると判断した。判断基準は2区と同様である。

3区では土坑・ピットに関しては、調査区北西部微高地に集中して分布している。この付近に集中しているのは、住居軒数も他の場所に比べて多く、各遺構を構築するにあたり、微高地という土地条件を選んだ結果と思われる。

また、西側で確認された1号・2号・6号土坑は規模もほぼ同様で、直線上に配置されていることから、それぞれ関連性が高いと考えられる。ただ6号土坑は50号住居に後出していることから、集落とは同時期ではなく、集落が形成された後に掘削されていることがわかる。

更に22号土坑からは碗形鍛冶滓が出土していることから、排滓坑の可能性が考えられる。

#### 4区【第247・248・278～289図 PL.36・37】

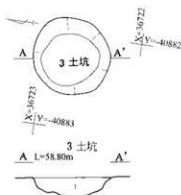
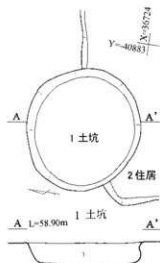
4区からは25基の土坑が検出されており、そのうち出土遺物、埋土の特徴等から9基を古代、3基を中世、1基を近世の所産であると判断した。古代の遺構に関しては2区と同様の判断基準で、また中世、近世の遺構に関しては、それぞれ出土遺物より判断した。

4区では、ピットはほぼ全域において分布しているが、土坑の分布は調査区中央部付近は希薄で、東側と西側に偏って分布している。

なおこの中で特筆すべきは5号・7号土坑で、両土坑とも長方形を呈しており、5号土坑からは須恵器蓋・須恵器埴・須恵器盤が、7号土坑からはほぼ同一規格の土師質土器片が、ほぼ完形の状態で複数出土している。遺物の出土状況・土坑の形態等より、墓地の可能性も否定できない。いずれにしても、他の土坑に比較して多くの遺物が出土しているという特徴を有している。また14号土坑からは近世の陶磁器片が出土している。

#### 5区【第290図】

5区からは1基の土坑が検出された。調査区西側のピット集中部付近で確認されている。出土遺物がないため、時期に関する詳細については不明である。

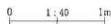


1号土坑

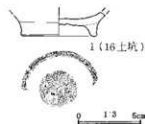
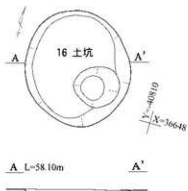
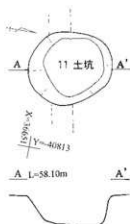
1 黒褐色土：ロームブロック・ローム粒・白色軽石・炭化物・焼土粒を含む。

3号土坑

1 暗褐色土：ロームブロック・ローム粒・炭化物・焼土粒を含む。

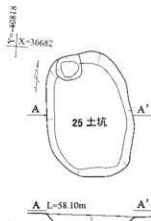
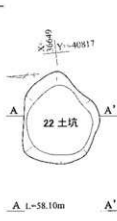
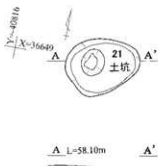
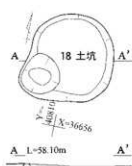


第234図 1区土坑平・断面図



16号土坑

1 暗褐色土：ロームブロック・焼土粒を含む。

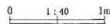


1 暗褐色土：ロームブロック・ローム粒・白色軽石・焼土粒を含む。  
2 暗褐色土：ロームブロック・ローム粒を含む。

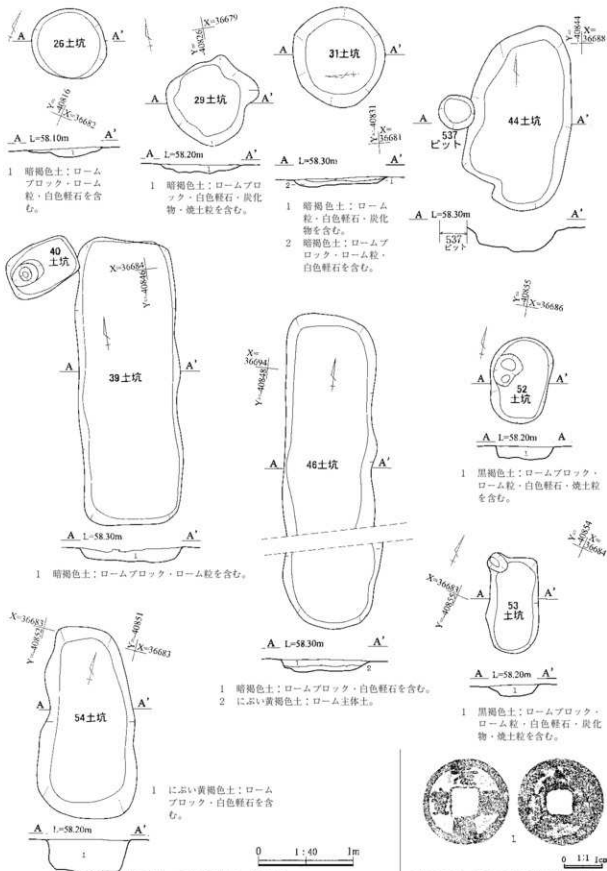
1 黒褐色土：ローム粒・白色軽石を含む。  
2 暗褐色土：暗褐色土主体。

1 暗褐色土：白色軽石・炭化物・焼土粒を含む。

1 暗褐色土：ロームブロック・ローム粒・白色軽石を含む。



第235図 2区土坑平・断面図・出土遺物

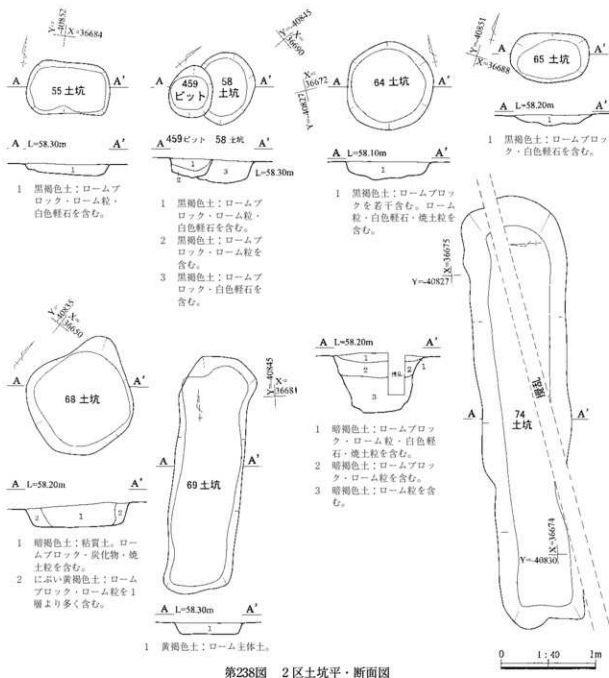


第236図 2区土坑平・断面図

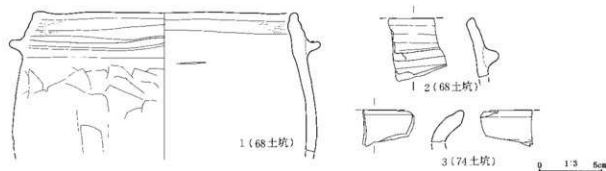
第237図 2区46号土坑出土遺物



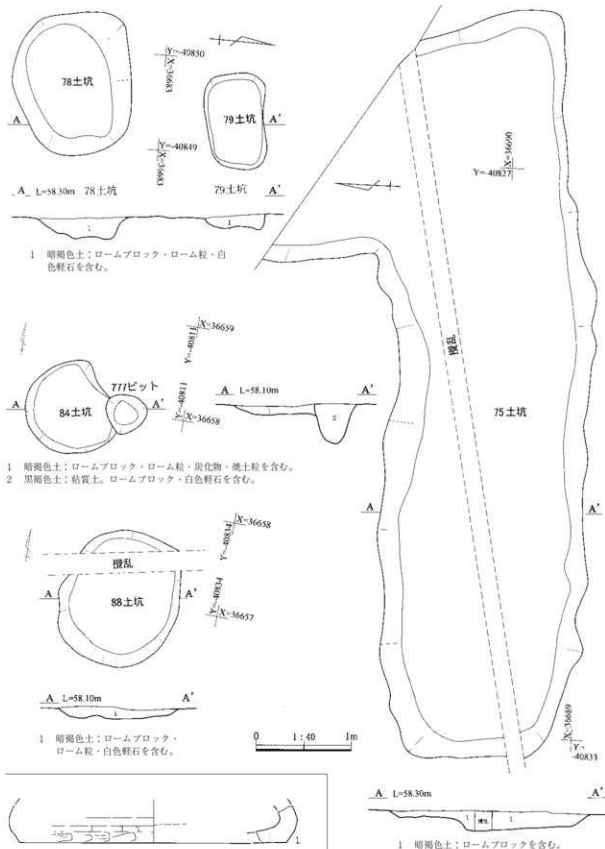
第4章 二の宮遺跡



第238図 2区土坑平・断面図

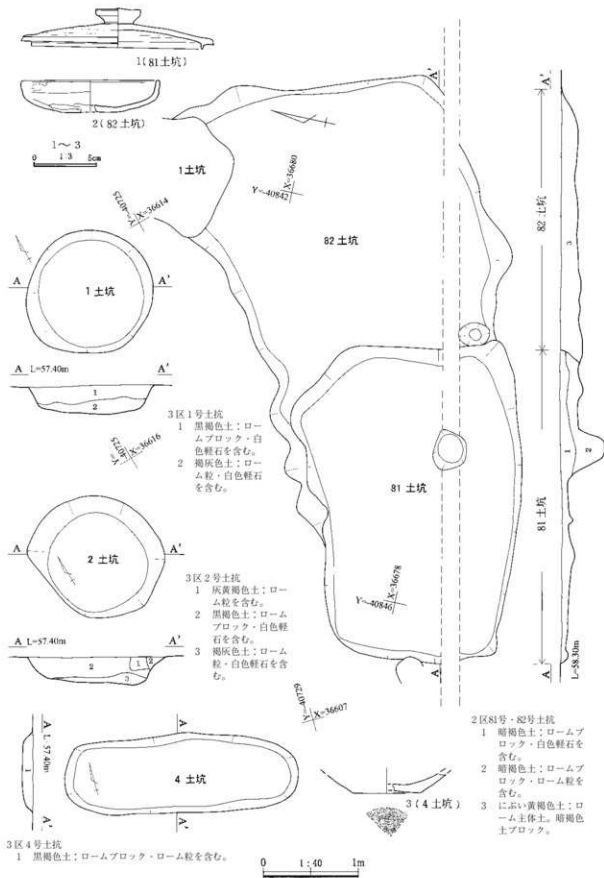


第239図 2区68・74号土坑出土遺物

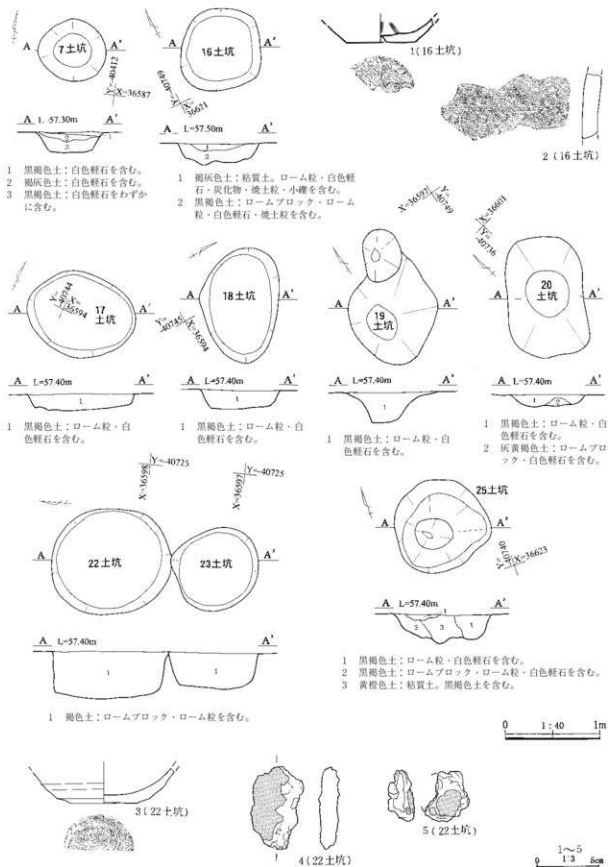


第241図 2区88号土坑出土遺物

第240図 2区土坑平・断面図・出土遺物

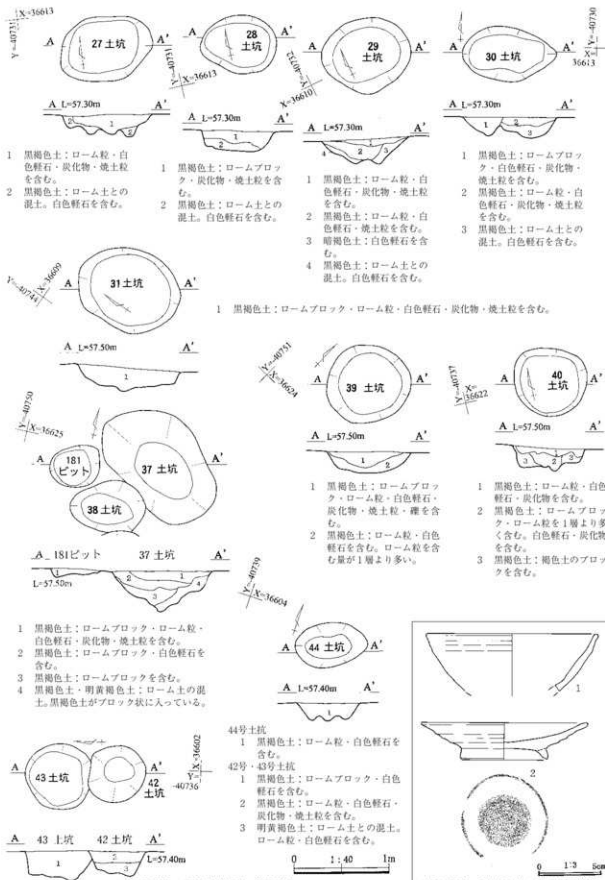


第242図 2・3区土坑平・断面図・出土遺物



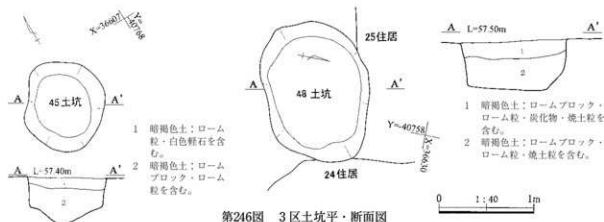
第243図 3区土坑平・断面図・出土遺物

第4章 二の宮遺跡

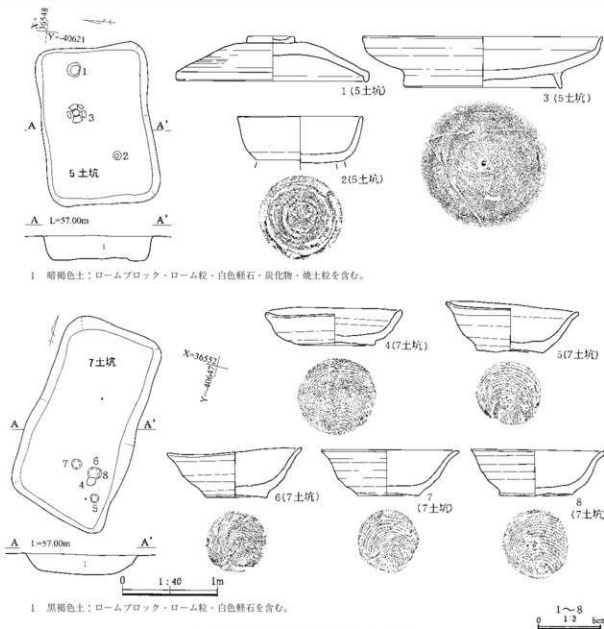


第244図 3区土坑平・断面図

第245図 3区31号土坑出土遺物

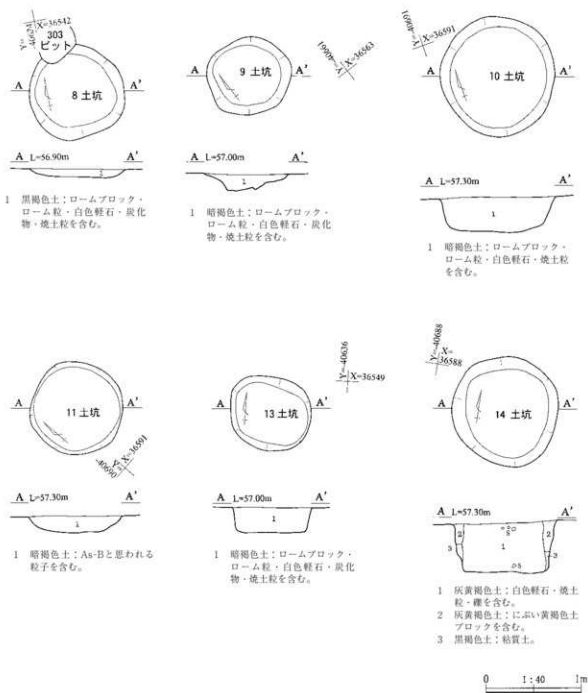


第246図 3区土坑平・断面図



第247図 4区土坑平・断面図・出土遺物

第4章 二の宮遺跡



第248図 4区土坑平・断面図

第3表 二の宮遺跡土坑一覧表

1区	番号	位置		長軸	短軸	深さ	出土遺物	平面形状	概要		
		X	Y								
	11区-1	36723	36725	-40883	-40884	130	124	24	土師・須恵	楕円形	古代
	11区-2	36719	36720	-40882	-40883	108	77	21		長方形	
	11区-3	36722	36723	-40881	-40882	84	80	19		楕円形	古代
2区	番号	位置		長軸	短軸	深さ	出土遺物	平面形状	概要		
		X	Y								
	21区-1	36656	36663	-40842	-40844	770	100	37		長方形	古代
	21区-2	36667	36668	-40848		45	35	40		楕円形	
	21区-3	36675		-40847		96	62	5		楕円形	古代
	21区-4	36668	36669	-40837	-40838	110	110	12		円形	
	21区-5	36653	36654	-40832	-40833	124	110	18		不整形	
	21区-6	36652	36653	-40828	-40829	108	(90)	10		楕円形	
	21区-7	36652	36653	-40829	-40830	98	98	7		円形	
	21区-8	欠番									
	21区-9	欠番									
	21区-10	36662		-40821	-40822	84	76	23		不整形	
	21区-11	36650	36651	-40813	-40814	90	75	28		不整形	古代
	21区-12	36651	36652	-40814	-40815	103	93	12		楕円形	
	21区-13	36655	36656	-40810	-40811	125	92	27		不整形	
	21区-14	36656	36657	-40809		94	88	15		楕円形	
	21区-15	36662	36663	-40811	-40812	105	85	9		楕円形	
	21区-16	36647	36648	-40810	-40811	124	110	50	須恵	楕円形	古代
	21区-17	36649	36650	-40815	-40816	132	120	17		不整形	
	21区-18	36656	36657	-40810	-40811	108	95	58		不整形	古代
	21区-19	36629	36630	-40805	-40806	90	72	36		不整形	
	21区-20	36628	36629	-40807	-40808	102	85	30		不整形	
	21区-21	36648	36649	-40814	-40815	79	55	33		楕円形	古代
	21区-22	36648	36649	-40817	-40818	99	72	15		不整形	古代
	21区-23	36664	36665	-40815	-40816	156	(109)	50		不整形	
	21区-24	36668	36669	-40811	-40812	166	35	10		不整形	古代
	21区-25	36680	36681	-40816	-40817	132	90	16		長方形	古代
	21区-26	36682	36683	-40815	-40816	75	75	13		円形	古代
	21区-27	36677	36678	-40825	-40826	110	95	27		不整形	古代
	21区-28	36678	36679	-40824	-40825	75	75	15		円形	
	21区-29	36677	36678	-40827	-40828	97	77	10		不整形	古代
	21区-30	36682	36683	-40826	-40827	55	55	39		円形	古代
	21区-31	36681	36682	-40830	-40831	100	100	10		円形	古代
	21区-32	36682	36683	-40830	-40831	80	72	13		不整形	
	21区-33	36665	36666	-40820	-40821	110	83	14		楕円形	
	21区-34	欠番									
	21区-35	欠番									
	21区-36	36679	36680	-40833	-40834	134	111	17		楕円形	
	21区-37	36682	36683	-40833	-40834	105	85	9		楕円形	
	21区-38	36684	36685	-40841	-40842	132	110	12		楕円形	
	21区-39	36681	36684	-40845	-40846	304	105	14		長方形	中世
	21区-40	36683	36684	-40846	-40847	77	50	45		長方形	
	21区-41	36684		-40844	-40845	111	84	10		長方形	
	21区-42	36684	36685	-40844	-40845	53	(30)	33		長方形	
	21区-43	36684	36685	-40848	-40849	89	68	12		不整形	
	21区-44	36686	36688	-40844	-40845	194	106	27		不整形	中世
	21区-45	36689	36690	-40850	-40852	142	132	14		不整形	
	21区-46	36691	36694	-40846	-40847	332	90	20	土師・須恵	長方形	中世
	21区-47	36687	36688	-40848	-40849	97	77	12		不整形	
	21区-48	36683	36684	-40830		88	70	8		不整形	
	21区-49	36688	36689	-40847	-40848	74	58	30		不整形	
	21区-50	36686	36688	-40853	-40854	162	134	30		不整形	
	21区-51	36686	36687	-40854	-40855	94	53	15		長方形	
	21区-52	36684	36685	-40854	-40855	92	60	29		楕円形	古代
	21区-53	36682	36683	-40854		109	52	26		長方形	古代
	21区-54	36681	36683	-40850	-40851	204	88	42		長方形	中世
	21区-55	36683		-40851	-40852	89	54	13		長方形	古代
	21区-56	36686	36687	-40850	-40851	180	156	10		不整形	



## 第4章 二の宮遺跡

番号	位置		長軸	短軸	深さ	出土遺物	平面形状	概要	
	X	Y							
2IX-57	36645	36646	-40807	-40808	108	80	32	楕円形	古代
2IX-58	36688	36689	-40844	-40845	76	64	37	楕円形	古代
2IX-59	36687	36688	-40830	-40831	102	80	15	不整形	中世
2IX-60	36685	36689	-40840	-40842	402	138	11	楕円形	
2IX-61	欠番								
2IX-62	36692	36693	-40853	-40854	90	68	19	不整形	
2IX-63	36680	36681	-40841	-40842	140	105	21	不整形	
2IX-64	36671	36672	-40825	-40826	93	93	19	円形	古代
2IX-65	36687	36688	-40849	-40850	83	51	11	楕円形	古代
2IX-66	36686	36687	-40837	-40838	114	95	8	不整形	
2IX-67	36676	36678	-40849	-40850	157	76	14	土師	中世
2IX-68	36648	36650	-40833	-40834	130	103	31	羽釜	
2IX-69	36679	36681	-40845	-40846	252	70	14	長方形	
2IX-70	36669	36670	-40841	-40842	109	80	28	不整形	
2IX-71	36654	36655	-40837	-40839	163	107	25	不整形	
2IX-72	36653	36654	-40834	-40836	166	104	31	不整形	
2IX-73	36687	36688	-40852	-40853	153	108	24	長方形	
2IX-74	36673	36674	-40826	-40830	457	89	63	土師・須恵 陶磁器	中世
2IX-75	36689	36692	-40825	-40833	787	200	24	土師・須恵	?
2IX-76	36691	36692	-40829	-40830	107	90	16	楕円形	中世
2IX-77	欠番								
2IX-78	36681	36682	-40848	-40850	150	120	34	不整形	古代
2IX-79	36683	36684	-40848	-40849	102	60	22	土師	古代
2IX-80	36687	36688	-40838	-40840	170	118	12	不整形	古代
2IX-81	36676	36679	-40843	-40846	333	204	47	土師・須恵	古代
2IX-82	36677	36680	-40840	-40845	326	245	23	土師・須恵	古代
2IX-83	36655	36656	-40811	-40812	119	104	18	不整形	
2IX-84	36657	36658	-40811	-40812	100	86	12	不整形	古代
2IX-85	36658	36659	-40810	-40811	113	91	22	楕円形	
2IX-86	36647		-40816	-40817	100	82	21	楕円形	古代
2IX-87	36678	36680	-40827	-40829	210	176	40	不整形	
2IX-88	36656	36657	-40834	-40835	146	123	13	軟質陶器	中世
2IX-89	36683	36687	-40832	-40834	352	164	23	長方形	
2IX-90	36666	36667	-40813	-40814	95	95	12	円形	古代
2IX-91	36647	36648	-40805	-40806	99	76	37	不整形	
2IX-92	36648	36649	-40804	-	-	-	-	土師	古代
2IX-93	36647	36649	-40826	-40828	173	165	37	不整形	
2IX-94	36676	36677	-40838	-40839	130	130	7	円形	縄文
2IX-95	36658	36659	-40812	-40813	121	70	30	不整形	
2IX-96	欠番								
2IX-97	36650	36651	-40835	-40836	120	120	18	円形	縄文
2IX-98	36633	36634	-40801	-40802	138	85	15	不整形	

## 3区

番号	位置		長軸	短軸	深さ	出土遺物	平面形状	概要	
	X	Y							
3IX-1	36612	36614	-40725	-40726	130	130	30	円形	古代
3IX-2	36614	36615	-40725	-40726	145	127	29	不整形	古代
3IX-3	36614	36615	-40726	-40727	162	96	21	長方形	
3IX-4	36606	36607	-40729	-40731	245	80	18	長方形	古代
3IX-5	36607	36608	-40732	-40733	97	97	11	円形	
3IX-6	36611	36612	-40725	-40726	115	105	27	不整形	古代
3IX-7	36587		-40412		65	65	24	円形	古代
3IX-8	欠番								
3IX-9	欠番								
3IX-10	36579	36581	-40723	-40725	228	58	21	不整形	
3IX-11	36580	36581	-40753		98	86	27	不整形	古代
3IX-12	36581		-40754		91	79	29	不整形	古代
3IX-13	36580	36581	-40752		95	69	27	楕円形	古代
3IX-14	36581	36582	-40754	-40755	65	60	20	不整形	
3IX-15	36581		-40714		68	55	29	楕円形	
3IX-16	36620	36621	-40747	-40748	87	85	26	不整形	古代
3IX-17	36593	36594	-40743	-40744	114	90	17	楕円形	古代
3IX-18	36594	36595	-40744	-40745	121	80	22	楕円形	古代
3IX-19	36595	36596	-40749	-40750	100	89	35	不整形	古代

番号	位置		長軸	短軸	深さ	出土遺物	平面形状	概要		
	X	Y								
3区-20	36599	36600	-40735	-40736	138	80	18	長方形	古代	
3区-21	欠番									
3区-22	36597	36598	-40725	-40726	125	112	50	須恵	楕円形	古代
3区-23	36596	36597	-40725	-40726	93	84	40		不整形	
3区-24	36597		-40728	-40729	76	67	37		楕円形	
3区-25	36623	36624	-40740	-40741	104	99	41		不整形	古代
3区-26	36587	36588	-40741	-40742	152	144	29		不整形	縄文
3区-27	36612		-40729	-40730	100	68	21		楕円形	古代
3区-28	36613		-40729	-40730	82	60	21		楕円形	古代
3区-29	36609	36610	-40730	-40731	94	80	28		楕円形	古代
3区-30	36612	36613	-40730	-40731	100	58	23		楕円形	古代
3区-31	36607	36608	-40742	-40743	110	87	27	須恵	楕円形	古代
3区-32	36617	36618	-40734	-40735	75	65	15		楕円形	古代
3区-33	36614	36616	-40745	-40746	134	(62)	36		長方形	
3区-34	36614	36616	-40741	-40742	147	87	10		長方形	古代
3区-35	36622	36624	-40748	-40749	147	93	25		楕円形	古代
3区-36	36622	36624	-40747	-40748	126	82	45		楕円形	古代
3区-37	36624	36625	-40747	-40749	140	81	43		長方形	古代
3区-38	36624		-40748	-40749	80	53	18		楕円形	古代
3区-39	36624	36625	-40749	-40750	90	81	28		楕円形	古代
3区-40	36621	36622	-40735	-40736	73	73	23		円形	古代
3区-41	36622	36623	-40738	-40739	132	98	36	土師	不整形	古代
3区-42	36602	36603	-40735	-40736	60	60	28	土師	円形	古代
3区-43	36603		-40735	-40736	70	70	32		円形	古代
3区-44	36603	36604	-40737	-40738	77	45	20	土師	楕円形	古代
3区-45	36606	36607	-40768	-40769	98	80	50		楕円形	
3区-46	36596		-40755	-40756	108	76	56		不整形	
3区-47	36636	36627	-40778		125	95	15		長方形	
3区-48	36628	36629	-40757	-40758	150	109	53	土師・須恵	不整形	古代
3区-49	36620	36621	-40739	-40740	94	75	17		不整形	縄文

## 4区

番号	位置		長軸	短軸	深さ	出土遺物	平面形状	概要		
	X	Y								
4区-1	36551	36552	-40628	-40629	100	100	7		円形	中世
4区-2	36552	36553	-40627	-40628	87	78	5		楕円形	中世
4区-3	36551	36552	-40627	-40628	141	97	11		長方形	古代
4区-4	36540	36541	-40659	-40660	126	116	22		不整形	
4区-5	36546	36548	-40621	-40622	166	114	31	須恵	長方形	古代
4区-6	36558	36560	-40644	-40645	139	95	18		長方形	
4区-7	36550	36552	-40647	-40648	215	110	27	土師	長方形	古代
4区-8	36540	36541	-40621	-40622	100	100	12		円形	古代
4区-9	36563		-40661	-40662	87	81	19		不整形	古代
4区-10	36589	36591	-40689	-40690	125	125	36		円形	中世
4区-11	36591	36592	-40689	-40690	100	100	14		円形	中世
4区-12	36538	36539	-40624	-40625	115	100	35		楕円形	
4区-13	36548		-40636	-40637	85	78	28		不整形	古代
4区-14	36587	36588	-40686	-40687	115	115	54	陶器	円形	近世
4区-15	36574	36575	-40663	-40664	95	88	18		不整形	
4区-16	36594	36595	-40687		85	75	21		楕円形	
4区-17	36547	36548	-40621	-40622	(134)	90	21	須恵	不整形	古代
4区-18	欠番									
4区-19	36547	36548	-40637	-40638	105	100	14		不整形	縄文
4区-20	36537	36538	-40619	-40621	159	130	18		不整形	縄文
4区-21	36555	36556	-40636	-40638	156	110	17		楕円形	縄文
4区-22	36554	36555	-40653	-40654	117	108	17		楕円形	古代
4区-23	36556	36557	-40663	-40664	82	78	12		楕円形	縄文
4区-24	36555	36556	-40660	-40661	99	92	14		楕円形	縄文
4区-25	36559	36560	-40657	-40658	78	72	14		楕円形	縄文
4区-26	36553	36554	-40664	-40665	105	105	33		円形	縄文

## 5区

番号	位置		長軸	短軸	深さ	出土遺物	平面形状	概要		
	X	Y								
5区-1	36538	36539	-40607	-40608	106	97	11		楕円形	

## 6 ビット

1面で調査されたビットは、2区で811基、3区で250基、4区で433基、5区で16基、総計1510基である。各ビットに付与した番号であるが、土坑と同様の理由で、各調査区単位での通番となっている。また、掘立柱建物を構成しているビットに関しては、掘立柱建物の項で報告した。欠番が生じているのはそうした理由による。また、第2面の縄文時代のビットも少数検出されており、それらの遺構に関する詳細は第2面の項で報告した。

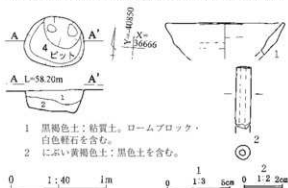
ほとんどのビットは出土遺物が少なく、時期・性格とも不明なものが多い。そのため本項ではその概要を報告し、第256図～第290図に全体分布を掲載した。出土遺物より時期が推測でき、また特筆すべき性格を有するビットについては、平面図・断面図・写真等を掲載したが、それ以外のビットに関しては計測値のみの報告に止めた。計測値のデータは第4表にあげたとおりである。

## 2区【第249～252・256～268図 PL.37・38】

調査区西側は他の遺構と同様、ビットにおいてもその分布は希薄で、Y=40860を境にその東側で急増する傾向がみられる。

多くは長軸0.2m～0.3mのビットであるが、調査区東側17号住居周辺で、比較的規模の大きいビットが集中して確認されている。

また長方形の土坑が集中している24号住居西側付近において、44号土坑の西側に隣接する865号ビットから、複数の古銭が出土している。古銭の出土



第249図 2区4号ビット平・断面図・出土遺物

が確認されたビットは、本遺跡では865号ビットのみである。出土の状態から墓坑の可能性が考えられるが、865号ビットはその規模から墓坑として使用されたとは考えられない。付近で確認されている長方形の土坑を墓坑と考え、865号ビットはそれに付属する構造物と想定するのが自然であろう。

## 3区【第253・269～277図 PL.38・39】

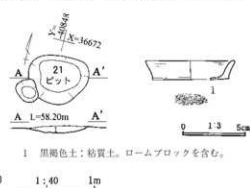
3区におけるビットの分布は、調査区北西部に集中している。この付近は、同様に住居の分布も密で、重複も著しい。ここでは3軒の掘立柱建物が確認され、その柱穴として使用されているビットもあるが、その他の遺構に関しては性格等の詳細については不明である。断面形状より、おそらく樹木根跡なども含まれていると思われる。

## 4区【第254・278～289図 PL.39】

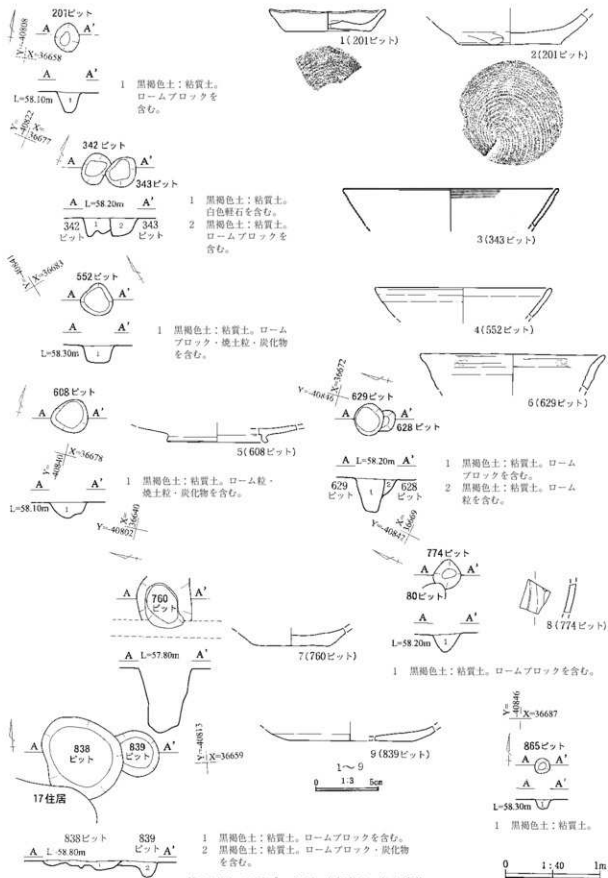
4区ではそのほぼ全域においてビットの分布が確認されている。その中でも特に調査区中央付近(Y=40650～40660)に集中して分布がみられる。倒木痕が多く確認されていることから、ビットにおいても樹木根跡が多数含まれていると思われる。4区からは19号ビットのみ、遺物の出土が確認されている。

## 5区【第255・278・290図 PL.39】

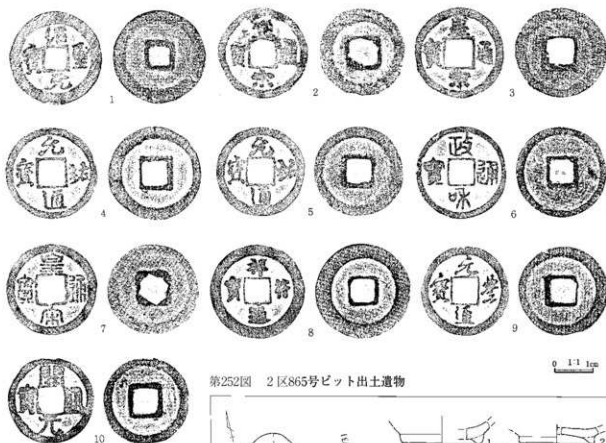
調査区西側に集中している。これは4区からの連続しているビットの一群と想定される。なお5号ビットからは、土師器甕・須恵器壺が出土している。



第250図 2区21号ビット平・断面図・出土遺物



第251図 2区ピット平・断面図・出土遺物



第252図 2区865号ピット出土遺物

0 1 1 cm

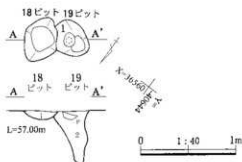


1 暗褐色土：砂質土。ローム粒・ロームブロック・白色軽石・焼土粒を含む。  
2 黒褐色土：粘質土。ローム粒・ロームブロック・白色軽石・焼土粒を含む。

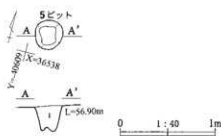
1 黒褐色土：粘質土。ローム粒・ロームブロック・白色軽石・焼土粒・炭化物を含む。  
2 黒褐色土：粘質土。ローム粒・白色軽石・焼土粒を含む。  
3 明黄褐色土：ローム主体土。

1 暗褐色土：粘質土。ローム粒・ロームブロック・白色軽石・焼土粒を含む。  
2 黒褐色土：粘質土。ローム粒・ロームブロック・白色軽石・焼土粒・炭化物を含む。  
3 黒褐色土：粘質土。ローム粒・白色軽石を含む。  
4 暗褐色土：粘質土。ローム粒・ロームブロックを含む。  
5 黒褐色土：粘質土。ローム混土。

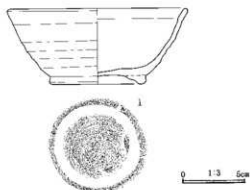
第253図 3区ピット平・断面図・出土遺物



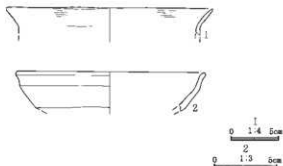
- 1 暗褐色土：ローム粒・ロームブロック・白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土：ローム粒・白色軽石を含む。



- 1 暗褐色土：ローム粒・白色軽石を含む。



第254図 4区19号ピット平・断面図・出土遺物



第255図 5区5号ピット平・断面図・出土遺物

第4表 二の宮遺跡ピット一覧表

2区						3区							
番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築	番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築
	X	Y						X	Y				
254-1	36666	-40856	60	53	28	254-33	36674	-40845	24	20	5		
254-2	36665	-40848	70	59	29	254-34	36668	-40844	31	25	17		
254-3	36665	-40847	77	69	20	254-35	36668	-40844	20	20	14		
254-4	36665	-40850	61	53	26	254-36	36667	-40844	34	32	29		
254-5	36664	-40850	49	47	29	254-37	36667	-40846	39	28	9		
254-6	36667	-40854	53	43	27	254-38	36666	-40846	48	38	19		
254-7	36671	-40854	27	25	23	254-39	36667	-40846	27	22	29		
254-8	36672	-40854	53	43	28	254-40	36665	-40843	32	28	24		
254-9	36671	-40856	38	35	35	254-41	36666	-40843	40	36	21		
254-10	36672	-40858	27	23	22	254-42	36666	-40842	43	32	44		
254-11	36673	-40858	34	27	25	254-43	36666	-40842	28	26	8		
254-12	36673	-40858	32	28	26	254-44	36667	-40841	35	34	17		
254-13	36673	-40857	37	33	12	254-45	36666	-40841	42	42	15		
254-14	36670	-40852	30	28	35	254-46	穴					3号竪立	
254-15	36674	-40854	54	40	23	254-47	36667	-40840	32	27	22		
254-16	36670	-40850	32	26	8	254-48	36667	-40839	30	26	19		
254-17	36672	-40850	48	43	23	254-49	36668	-40838	8	7	3		
254-18	36674	-40850	61	59	19	254-50	36668	-40840	30	30	13		
254-19	36670	-40848	53	53	41	254-51	36668	-40841	26	24	19		
254-20	36672	-40843	57	54	21	254-52	36669	-40839	64	64	4		
254-21	36672	-40847	63	52	9	254-53	36670	-40837	30	30	10		
254-22	36668	-40846	59	40	23	254-54	36666	-40837	38	34	17		
254-23	36668	-40846	26	25	16	254-55	穴					3号竪立	
254-24	36669	-40846	60	38	27	254-56	36672	-40853	36	30	20		
254-25	36674	-40853	27	25	30	254-57	36662	-40840	25	22	16		
254-26	36672	-40845	51	39	21	254-58	36663	-40841	26	20	25		
254-27	36672	-40846	28	18	6	254-59	36663	-40841	28	24	15		
254-28	36673	-40846	28	24	22	254-60	36671	-40835	28	24	23		
254-29	36673	-40846	41	36	29	254-61	36671	-40834	37	31	26		
254-30	36673	-40846	32	37	15	254-62	36670	-40835	32	28	3		
254-31	36673	-40845	35	34	27	254-63	36668	-40834	38	31	14		
254-32	36673	-40845	62	46	20	254-64	36670	-40834	23	21	13		

第4章 二の宮遺跡

番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築	番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築
	X	Y						X	Y				
214-65	36670	-0804	40	39	39		214-143	36661	-0822	28	23	12	
214-66	36666	-0805	34	32	23		214-144	36663	-0821	33	28	31	
214-67	36665	-0804	22	20	16		214-145	36661	-0821	23	23	12	
214-68	次妻					3号竪立	214-146	36660	-0820	43	40	16	
214-69	36662	-0806	38	36	22		214-147	36662	-0823	33	32	3	
214-70	36662	-0805	35	32	15		214-148	36661	-0819	64	54	3	
214-71	36660	-0805	33	32	9		214-149	36663	-0820	37	27	40	
214-72	36661	-0805	20	18	14		214-150	36662	-0817	32	42	27	
214-73	36659	-0805	27	24	10		214-151	36661	-0817	37	35	36	
214-74	36659	-0806	31	25	20		214-152	36663	-0809	42	25	12	
214-75	36660	-0806	38	28	33		214-153	36662	-0828	10	9	10	
214-76	36660	-0806	60	42	30		214-154	36659	-0829	28	27	25	
214-77	36661	-0805	33	32	20		214-155	36659	-0830	28	20	9	
214-78	36661	-0803	22	21	7		214-156	36660	-0831	40	28	29	
214-79	36666	-0842	31	26	31		214-157	36660	-0831	33	22	54	
214-80	36668	-0842	48	31	12		214-158	36660	-0831	42	25	42	
214-81	36669	-0842	44	36	31		214-159	36658	-0832	34	34	17	
214-82	36669	-0841	30	26	7		214-160	36657	-0834	40	28	10	
214-83	36669	-0840	35	32	15		214-161	36657	-0833	35	25	11	
214-84	36673	-0844	36	28	10		214-162	36655	-0833	40	37	7	
214-85	36673	-0844	20	20	6		214-163	36656	-0832	32	30	23	
214-86	36673	-0842	48	34	28		214-164	36656	-0831	29	29	20	
214-87	36669	-0805	30	24	19		214-165	36655	-0831	22	19	14	
214-88	36672	-0806	52	41	49		214-166	36657	-0830	21	17	5	
214-89	36673	-0803	34	32	27		214-167	36658	-0830	41	33	13	
214-90	36673	-0804	40	28	20		214-168	36657	-0829	28	22	10	
214-91	36669	-0832	48	46	41		214-169	36656	-0829	31	29	16	
214-92	36669	-0830	24	24	22		214-170	36656	-0829	22	20	10	
214-93	次妻						214-171	36657	-0828	32	28	11	
214-94	36670	-0830	24	22	5		214-172	36657	-0828	19	18	4	
214-95	36670	-0829	28	28	11		214-173	36658	-0828	29	27	11	
214-96	36670	-0829	16	14	6		214-174	36655	-0828	27	26	18	
214-97	36669	-0829	25	20	5		214-175	36655	-0828	24	22	51	
214-98	36669	-0828	40	38	19		214-176	36654	-0828	24	20	5	
214-99	36668	-0828	52	40	34		214-177	次妻					
214-100	36668	-0827	46	38	19		214-178	36654	-0827	28	18	21	
214-101	36668	-0828	53	49	53		214-179	36654	-0826	22	21	16	
214-102	36668	-0826	66	44	23		214-180	36654	-0826	17	16	17	
214-103	36668	-0825	64	48	18		214-181	36654	-0824	27	27	10	
214-104	36668	-0825	20	18	11		214-182	36659	-0824	36	23	13	
214-105	36668	-0825	28	24	16		214-183	36658	-0824	24	22	10	
214-106	36668	-0804	60	46	34		214-184	36657	-0823	23	22	17	
214-107	36669	-0824	28	26	24		214-185	36659	-0822	29	26	14	
214-108	36669	-0824	30	28	6		214-186	36659	-0821	47	37	27	
214-109	36668	-0823	23	20	13		214-187	36658	-0821	34	30	29	
214-110	36667	-0823	37	34	55		214-188	36657	-0820	36	30	19	
214-111	36667	-0822	30	25	25		214-189	36656	-0822	31	28	9	
214-112	36669	-0822	20	20	19		214-190	36656	-0821	25	24	18	
214-113	36669	-0822	10	9	23		214-191	36655	-0819	24	21	17	
214-114	36669	-0822	12	12	14		214-192	36653	-0819	47	29	8	
214-115	36669	-0822	36	31	14		214-193	36656	-0818	23	22	8	
214-116	36670	-0822	33	30	16		214-194	36654	-0818	28	33	16	
214-117	次妻					2号竪立	214-195	36653	-0817	42	39	9	
214-118	次妻						214-196	36654	-0815	27	22	15	
214-119	次妻					2号竪立	214-197	36652	-0813	27	27	19	
214-120	36669	-0819	34	32	16		214-198	36651	-0811	45	36	29	
214-121	次妻					2号竪立	214-199	36654	-0812	71	57	46	
214-122	36667	-0804	32	29	36		214-200	36649	-0812	28	28	27	
214-123	36666	-0804	42	30	36		214-201	36658	-0807	36	26	21	中世
214-124	36666	-0804	36	30	18		214-202	36646	-0810	37	48	32	
214-125	36666	-0826	41	33	7		214-203	36645	-0811	36	36	11	
214-126	36666	-0825	26	20	11		214-204	36644	-0810	40	36	16	
214-127	36666	-0825	47	43	6		214-205	36643	-0811	41	33	20	
214-128	36665	-0806	60	38	23		214-206	36644	-0813	42	41	32	
214-129	36665	-0826	37	31	31		214-207	36644	-0814	29	27	11	
214-130	次妻						214-208	36644	-0814	24	23	9	
214-131	36664	-0828	36	30	13		214-209	36642	-0814	31	29	21	
214-132	36663	-0828	30	26	10		214-210	36641	-0812	29	25	8	
214-133	36663	-0827	27	19	30		214-211	36640	-0811	42	32	23	
214-134	36663	-0827	24	19	11		214-212	36638	-0808	34	29	16	
214-135	36662	-0827	34	29	11		214-213	36636	-0814	23	20	10	
214-136	36662	-0826	51	48	19		214-214	36631	-0809	47	43	8	
214-137	36661	-0827	25	23	16		214-215	36625	-0801	36	25	28	
214-138	36661	-0827	40	32	22		214-216	36625	-0800	48	40	14	
214-139	36660	-0827	38	35	10		214-217	36619	-0813	36	30	25	
214-140	36659	-0826	41	39	6		214-218	36614	-0814	22	19	8	
214-141	36660	-0823	22	20	22		214-219	36628	-0804	33	27	9	
214-142	36660	-0823	28	27	27		214-220	36623	-0826	27	27	4	

## 第4節 1面の調査

番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築	番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築
	X	Y						X	Y				
214-221	欠番						214-299	36676	-00814	41	37	42	
214-222	36652	-00826	19	17	10	1号掘立	214-300	36676	-00814	35	31	17	
214-223	欠番						214-301	36676	-00813	30	27	29	
214-224	36651	-00828	27	25	29		214-302	36677	-00812	29	27	28	
214-225	36651	-00828	32	30	15		214-303	36678	-00814	39	36	34	
214-226	36651	-00826	21	20	14		214-304	36677	-00815	62	28	26	
214-227	36651	-00826	23	22	20		214-305	36677	-00815	40	38	22	
214-228	欠番						214-306	36675	-00815	28	26	44	
214-229	36651	-00825	26	23	16		214-307	36675	-00816	40	33	11	
214-230	36652	-00824	24	20	6		214-308	36675	-00816	31	27	50	
214-231	36651	-00823	28	20	8		214-309	36677	-00815	25	21	5	
214-232	36656	-00824	27	25	21		214-310	欠番					5号掘立
214-233	36655	-00824	25	25	15		214-311	欠番					6号掘立
214-234	36653	-00823	28	24	7		214-312	36677	-00817	40	36	32	
214-235	36654	-00823	11	10	5		214-313	36678	-00811	40	32	11	
214-236	36654	-00823	26	22	19		214-314	36679	-00813	28	26	31	
214-237	36654	-00823	12	12	13		214-315	36680	-00811	42	32	15	
214-238	36653	-00823	12	12	23		214-316	36679	-00814	37	35	23	
214-239	36653	-00824	24	18	9		214-317	36681	-00814	43	42	25	
214-240	36653	-00824	29	27	25		214-318	36681	-00813	37	30	36	
214-241	36650	-00823	30	24	3		214-319	36681	-00813	20	16	11	
214-242	欠番					1号掘立	214-320	36681	-00813	25	20	32	
214-243	36649	-00827	27	25	17		214-321	36682	-00814	21	19	14	
214-244	36649	-00828	27	24	25		214-322	36681	-00815	65	30	16	
214-245	欠番						214-323	36682	-00815	28	27	14	
214-246	36651	-00830	23	19	26		214-324	欠番					6号掘立
214-247	欠番						214-325	36679	-00815	50	40	16	
214-248	36647	-00830	100	80	30		214-326	欠番					1号掘立
214-249	欠番						214-327	36680	-00816	34	32	29	
214-250	36666	-00827	40	26	25		214-328	36680	-00815	38	36	24	
214-251	欠番						214-329	36679	-00817	52	48	14	
214-252	36667	-00815	34	30	21		214-330	欠番					6号掘立
214-253	36667	-00813	32	30	9		214-331	36680	-00818	36	34	25	
214-254	36668	-00814	29	27	13		214-332	欠番					6号掘立
214-255	欠番						214-333	36682	-00817	40	37	42	
214-256	欠番						214-334	36682	-00817	38	35	17	
214-257	36669	-00816	28	22	20		214-335	36683	-00818	40	23	11	
214-258	36669	-00809	35	28	9		214-336	36684	-00818	49	32	14	
214-259	36669	-00809	43	36	15		214-337	36682	-00820	41	38	26	
214-260	欠番						214-338	36678	-00819	38	33	16	
214-261	36669	-00810	49	32	28		214-339	36678	-00818	40	34	16	
214-262	36670	-00811	48	40	30		214-340	欠番					6号掘立
214-263	36670	-00812	32	27	30		214-341	欠番					1号掘立
214-264	36669	-00813	21	18	14		214-342	36677	-00821	34	22	19	
214-265	36669	-00813	28	24	10		214-343	36677	-00820	36	28	20	中世
214-266	36669	-00813	14	14	5		214-344	36678	-00820	28	23	23	
214-267	36668	-00812	21	18	4		214-345	36678	-00821	28	27	12	
214-268	36670	-00814	28	28	25		214-346	36678	-00821	26	26	19	
214-269	36670	-00814	25	24	15		214-347	36679	-00820	32	30	19	
214-270	36670	-00816	36	36	32		214-348	36680	-00821	40	40	20	
214-271	36671	-00810	17	16	23		214-349	36679	-00821	52	52	31	
214-272	36671	-00810	42	38	7		214-350	36677	-00821	30	30	22	
214-273	36672	-00810	32	31	65		214-351	36677	-00823	31	26	29	
214-274	36673	-00811	28	28	36		214-352	36675	-00822	31	30	26	
214-275	36671	-00812	29	24	14		214-353	36676	-00822	29	23	28	
214-276	36672	-00812	32	23	24		214-354	36677	-00823	10	44	16	
214-277	36671	-00813	43	30	15		214-355	36677	-00823	30	30	10	
214-278	36671	-00813	23	22	23		214-356	36677	-00823	27	26	15	
214-279	36673	-00813	23	20	7		214-357	36678	-00823	35	34	25	
214-280	欠番						214-358	36675	-00823	24	20	8	
214-281	36672	-00816	27	26	17		214-359	36675	-00824	37	31	23	
214-282	36672	-00816	25	23	15		214-360	36676	-00825	44	31	17	
214-283	36673	-00816	21	20	4		214-361	36677	-00824	23	23	11	
214-284	欠番						214-362	36677	-00825	35	32	10	
214-285	36674	-00816	24	23	27		214-363	36675	-00827	35	27	18	
214-286	36673	-00816	22	20	6		214-364	36676	-00827	37	37	16	
214-287	36673	-00815	28	30	19		214-365	36676	-00828	24	24	12	
214-288	36673	-00815	28	26	6		214-366	36677	-00829	40	31	29	
214-289	36674	-00815	28	122	18		214-367	36677	-00827	40	34	23	
214-290	欠番						214-368	36677	-00827	38	36	7	
214-291	36674	-00814	26	25	11		214-369	36678	-00827	28	26	6	
214-292	36674	-00813	36	30	18		214-370	36679	-00827	28	26	15	
214-293	36674	-00812	28	28	16		214-371	36679	-00826	38	126	26	
214-294	36674	-00811	29	22	12		214-372	36679	-00826	40	32	23	
214-295	36674	-00812	17	16	24		214-373	36680	-00826	35	21	20	
214-296	欠番						214-374	36680	-00826	27	26	26	
214-297	36676	-00813	31	27	10		214-375	36682	-00825	42	30	28	
214-298	36676	-00813	34	31	33		214-376	36683	-00824	38	30	18	



## 第4章 二の宮遺跡

番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築	番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築
	X	Y						X	Y				
214-377	36682	-0802	28	27	26		214-455	36648	-0808	50	46	48	
214-378	36682	-0822	25	23	15		214-456	36649	-0806	26	26	19	
214-379	36683	-0822	33	30	14		214-457	36649	-0810	37	23	7	
214-380	36688	-0826	41	30	14		214-458	36647	-0813	23	22	12	
214-381	36688	-0826	40	35	7		214-459	36688	-0845	33	33	20	
214-382	36675	-0831	(46)	44	23		214-460	36647	-0820	36	32	11	
214-383	36674	-0830	46	32	16		214-461	36647	-0821	63	38	7	
214-384	36675	-0831	30	24	43		214-462	36646	-0819	46	29	10	
214-385	36675	-0830	22	20	7		214-463	36646	-0820	38	28	14	
214-386	36675	-0830	38	34	15		214-464	36646	-0828	30	28	45	
214-387	36675	-0830	28	(18)	10		214-465	36644	-0829	32	27	9	
214-388	36677	-0830	42	37	53		214-466	36653	-0809	30	28	48	
214-389	36677	-0830	37	32	29		214-467	36660	-0813	28	26	22	
214-390	36679	-0831	32	30	10		214-468	36661	-0812	62	55	44	
214-391	36679	-0830	29	22	25		214-469	36656	-0820	43	27	26	
214-392	36678	-0831	(25)	23	6		214-470	36655	-0822	38	24	28	
214-393	36678	-0831	24	22	6		214-471	欠番					1号獨立
214-394	36673	-0833	67	44	23		214-472	36660	-0816	52	49	50	
214-395	36674	-0835	30	29	40		214-473	36658	-0817	25	16	4	
214-396	欠番						214-474	36657	-0818	30	25	11	
214-397	欠番						214-475	36658	-0818	38	34	9	
214-398	36686	-0831	29	25	14		214-476	36657	-0819	30	21	3	
214-399	36687	-0830	33	31	17		214-477	36658	-0819	38	36	6	
214-400	36688	-0829	24	17	24		214-478	36658	-0819	18	14	7	
214-401	36688	-0827	29	22	4		214-479	36654	-0821	36	21	23	
214-402	36688	-0824	23	14	27		214-480	36658	-0822	27	25	19	
214-403	36669	-0818	28	27	11		214-481	36684	-0860	36	30	8	
214-404	36671	-0818	32	30	24		214-482	36683	-0860	17	16	30	
214-405	欠番					2号獨立	214-483	欠番					5号獨立
214-406	36673	-0818	34	33	15		214-484	36683	-0859	27	26	17	
214-407	欠番					2号獨立	214-485	36685	-0856	31	29	48	
214-408	36674	-0818	35	31	6		214-486	36688	-0856	35	30	20	
214-409	36675	-0818	19	15	4		214-487	36688	-0854	26	22	12	
214-410	36671	-0820	12	10	10		214-488	36688	-0854	34	30	19	
214-411	36672	-0822	36	27	53		214-489	36683	-0857	21	17	19	
214-412	36672	-0820	31	21	34		214-490	36682	-0857	28	23	20	
214-413	36672	-0820	26	(16)	10		214-491	36680	-0856	23	17	17	
214-414	36674	-0822	22	19	10		214-492	36681	-0856	33	33	4	
214-415	36673	-0820	48	26	34		214-493	欠番					5号獨立
214-416	欠番					2号獨立	214-494	36678	-0858	25	22	20	
214-417	欠番					2号獨立	214-495	36677	-0858	35	30	45	
214-418	36674	-0822	35	29	25		214-496	36676	-0856	21	17	9	
214-419	36673	-0822	25	24	25		214-497	36677	-0856	27	22	73	
214-420	36673	-0823	38	36	25		214-498	36677	-0856	14	13	11	
214-421	36674	-0823	36	(24)	17		214-499	36678	-0856	28	24	8	
214-422	36674	-0823	24	24	22		214-500	36679	-0855	30	28	28	
214-423	36674	-0823	47	27	13		214-501	欠番					5号獨立
214-424	36674	-0823	28	(19)	3		214-502	欠番					5号獨立
214-425	36673	-0824	23	22	12		214-503	36679	-0854	37	30	37	
214-426	36674	-0825	32	30	10		214-504	36679	-0853	20	16	17	
214-427	36672	-0829	32	32	16		214-505	36680	-0854	24	23	17	
214-428	36672	-0830	43	32	45		214-506	36681	-0854	22	20	11	
214-429	36673	-0830	29	26	41		214-507	36681	-0854	22	21	31	
214-430	36673	-0830	41	30	5		214-508	欠番					5号獨立
214-431	36673	-0830	35	31	21		214-509	36683	-0855	21	18	14	
214-432	36673	-0830	44	40	16		214-510	36684	-0854	34	26	13	
214-433	36672	-0831	23	22	8		214-511	36683	-0853	22	21	17	
214-434	36672	-0831	44	28	23		214-512	36683	-0853	26	28	7	
214-435	36673	-0833	39	31	31		214-513	36683	-0853	24	22	20	
214-436	36671	-0836	38	35	41		214-514	36684	-0852	54	45	29	
214-437	36671	-0836	46	32	15		214-515	36684	-0851	33	25	15	
214-438	36669	-0836	30	26	8		214-516	36680	-0851	31	22	14	
214-439	36669	-0836	37	33	13		214-517	36678	-0852	22	19	49	
214-440	欠番						214-518	36678	-0850	35	30	7	
214-441	36668	-0810	50	39	16		214-519	36677	-0848	18	16	8	
214-442	36639	-0810	36	33	14		214-520	36677	-0848	27	20	23	
214-443	36639	-0808	36	26	9		214-521	36677	-0848	20	16	5	
214-444	36640	-0807	36	32	23		214-522	36678	-0847	24	22	9	
214-445	36640	-0807	21	20	7		214-523	36678	-0848	20	20	10	
214-446	36640	-0807	24	22	15		214-524	36679	-0848	28	25	30	
214-447	36641	-0806	22	22	16		214-525	36679	-0849	22	18	17	
214-448	36641	-0809	30	28	22		214-526	36679	-0847	25	20	31	
214-449	36642	-0813	28	22	14		214-527	36679	-0847	16	14	4	
214-450	36641	-0814	39	21	7		214-528	36679	-0847	20	17	6	
214-451	36642	-0814	20	15	9		214-529	36681	-0848	31	30	63	
214-452	36645	-0809	34	34	49		214-530	36681	-0847	30	20	3	
214-453	36646	-0809	34	28	8		214-531	36682	-0847	36	30	53	
214-454	36647	-0809	28	26	21		214-532	36684	-0847	20	20	19	

## 第4節 1面の調査

番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築	番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築
	X	Y						X	Y				
214-533	36685	-00849	40	23	5		214-611	36677	-00841	30	30	14	
214-534	36684	-00856	32	30	25		214-612	36677	-00841	19	17	14	
214-535	36686	-00849	67	50	7		214-613	36677	-00840	33	27	21	
214-536	36687	-00847	68	54	6		214-614	36678	-00840	34	28	21	
214-537	36687	-00845	38	37	20		214-615	36671	-00841	32	30	39	
214-538	36686	-00847	28	26	9		214-616	36673	-00842	27	27	15	
214-539	36686	-00847	40	38	25		214-617	36675	-00842	27	24	15	
214-540	36685	-00846	26	26	9		214-618	36675	-00842	26	23	20	
214-541	36691	-00845	34	34	51		214-619	36675	-00842	30	15	3	
214-542	36690	-00843	24	22	10		214-620	36675	-00841	35	23	26	
214-543	36692	-00843	34	28	3		214-621	36676	-00841	31	24	17	
214-544	36686	-00843	25	22	35		214-622	36676	-00841	22	20	6	
214-545	36682	-00845	40	36	10		214-623	36676	-00842	(30)	18	9	
214-546	36682	-00845	38	22	4		214-624	36676	-00842	23	21	5	
214-547	36688	-00844	14	14	8		214-625	36670	-00845	35	20	18	
214-548	36679	-00844	24	22	20		214-626	36670	-00846	(30)	18	7	
214-549	36680	-00843	25	23	10		214-627	36671	-00846	34	30	19	
214-550	36686	-00840	32	24	21		214-628	36671	-00846	22	(14)	17	
214-551	36682	-00841	28	26	9		214-629	36671	-00846	32	32	35	古代
214-552	36682	-00840	34	34	19	古代	214-630	36672	-00845	20	17	19	
214-553	36680	-00839	27	26	8		214-631	36671	-00848	24	20	9	
214-554	36680	-00839	28	27	18		214-632	36672	-00847	16	12	9	
214-555	36688	-00837	33	28	24		214-633	36673	-00847	25	23	6	
214-556	36687	-00834	22	19	12		214-634	36675	-00846	23	18	9	
214-557	36691	-00833	33	30	29		214-635	36675	-00849	28	26	53	
214-558	36692	-00835	32	28	14		214-636	36675	-00851	56	53	37	
214-559	36684	-00834	58	43	5		214-637	36674	-00856	18	16	12	
214-560	36682	-00833	59	53	5		214-638	36674	-00856	27	24	6	
214-561	36682	-00831	53	41	14		214-639	36676	-00844	23	19	28	
214-562	36681	-00832	58	49	6		214-640	36676	-00844	28	24	6	
214-563	36680	-00830	31	25	14		214-641	36676	-00844	34	27	28	
214-564	36681	-00830	34	26	9		214-642	36676	-00842	23	18	7	
214-565	36681	-00828	46	43	13		214-643	36677	-00840	33	27	15	
214-566	36683	-00827	28	25	11		214-644	36676	-00811	42	40	19	
214-567	36683	-00827	23	20	11		214-645	36675	-00811	36	31	15	
214-568	36680	-00824	50	47	28		214-646	36677	-00816	24	22	12	
214-569	36678	-00821	29	27	13		214-647	欠番					2号独立
214-570	36677	-00840	30	24	13		214-648	36673	-00815	36	30	6	
214-571	36678	-00840	20	18	10		214-649	36676	-00815	35	35	10	
214-572	36677	-00836	33	33	26		214-650	欠番					2号独立
214-573	36677	-00835	58	45	42		214-651	36670	-00820	30	30	25	
214-574	36675	-00836	(28)	27	46		214-652	欠番					2号独立
214-575	36675	-00835	40	25	49		214-653	36671	-00823	27	27	25	
214-576	36675	-00835	26	23	41		214-654	36672	-00823	27	22	25	
214-577	36676	-00836	32	27	21		214-655	36671	-00823	37	35	28	
214-578	36675	-00836	33	29	29		214-656	36671	-00824	22	22	35	
214-579	36673	-00836	79	50	40		214-657	36672	-00823	40	38	17	
214-580	36673	-00836	53	43	29		214-658	欠番					2号独立
214-581	36673	-00836	31	33	30		214-659	36670	-00823	38	31	22	
214-582	36672	-00837	29	28	19		214-660	36669	-00824	39	28	15	
214-583	36673	-00836	40	32	17		214-661	36672	-00825	33	32	32	
214-584	36675	-00837	48	35	26		214-662	36673	-00825	34	32	15	
214-585	36677	-00838	33	29	17		214-663	36672	-00826	36	28	7	
214-586	36677	-00838	35	30	28		214-664	36672	-00827	29	28	23	
214-587	36675	-00838	54	44	17		214-665	36672	-00828	54	35	11	
214-588	36674	-00838	38	27	24		214-666	36665	-00821	40	37	52	
214-589	36673	-00837	37	(34)	27		214-667	36664	-00826	39	24	6	
214-590	36674	-00840	29	27	26		214-668	36672	-00822	22	21	11	
214-591	36674	-00841	32	31	25		214-669	36672	-00822	22	18	13	
214-592	36675	-00841	25	22	15		214-670	36669	-00833	31	25	19	
214-593	36674	-00841	18	13	10		214-671	36668	-00833	42	40	8	
214-594	36675	-00841	32	32	16		214-672	36668	-00836	30	20	4	
214-595	36675	-00840	39	31	30		214-673	36666	-00835	32	30	5	
214-596	36676	-00840	35	30	33		214-674	36666	-00836	18	17	12	
214-597	36675	-00839	35	30	30		214-675	36664	-00835	42	36	23	
214-598	36676	-00840	30	(22)	23		214-676	36666	-00838	21	20	5	
214-599	36676	-00840	26	24	25		214-677	36662	-00839	22	21	8	
214-600	36676	-00840	24	20	9		214-678	36662	-00841	21	20	9	
214-601	36677	-00830	38	30	42		214-679	欠番					3号独立
214-602	36677	-00831	27	25	28		214-680	欠番					3号独立
214-603	36679	-00829	32	32	9		214-681	36662	-00842	45	36	9	
214-604	36676	-00823	(24)	21	7		214-682	36663	-00842	31	25	20	
214-605	36676	-00823	(24)	18	7		214-683	36664	-00842	36	21	9	
214-606	36676	-00823	39	27	6		214-684	36664	-00842	34	15	3	
214-607	36677	-00822	28	28	17		214-685	36664	-00842	35	23	5	
214-608	36678	-00840	32	30	17	中世	214-686	36664	-00843	31	29	20	
214-609	36676	-00840	37	37	22		214-687	36663	-00843	32	30	42	
214-610	36677	-00841	23	22	5		214-688	36663	-00843	30	(20)	15	

## 第4章 二の宮遺跡

番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築	番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築
	X	Y						X	Y				
214-689	36663	-08042	36	29	22	214-767	36678	-08114	77	61	25	縄文	
214-690	36666	-08043	28	25	30	214-768	36658	-08332	20	14	32		
214-691	36661	-08043	29	24	15	214-769	36658	-08332	38	17	33		
214-692	36661	-08046	28	28	20	214-770	36659	-08332	33	16	10		
214-693	36663	-08046	34	23	11	214-771	欠番						
214-694	36663	-08046	22	14	6	214-772	36650	-08011	42	33	17		
214-695	36663	-08046	28	26	10	214-773	36650	-08333	33	33	23		
214-696	36663	-08047	71	62	22	214-774	36668	-08042	27	25	18	中世	
214-697	36664	-08046	38	28	13	214-775	36671	-08042	22	14	5		
214-698	36665	-08046	30	28	19	214-776	36676	-08015	80	31	15		
214-699	36665	-08046	24	20	11	214-777	36657	-08011	43	42	43		
214-700	36665	-08046	18	16	4	214-778	36678	-08026	28	24	24		
214-701	36666	-08046	26	26	3	214-779	36678	-08023	26	24	25		
214-702	36666	-08046	30	34	28	214-780	36678	-08023	25	23	28		
214-703	36666	-08046	27	25	16	214-781	36679	-08025	23	21	21		
214-704	36666	-08046	483	33	23	214-782	36680	-08027	38	27	14		
214-705	36666	-08046	41	39	21	214-783	36680	-08027	33	33	18		
214-706	36666	-08046	27	23	32	214-784	36681	-08026	24	22	18		
214-707	36667	-08046	21	17	9	214-785	36680	-08026	28	25	9		
214-708	36669	-08046	25	24	12	214-786	36676	-08022	19	19	9		
214-709	36667	-08051	36	34	13	214-787	36680	-08022	32	25	7		
214-710	36664	-08047	380	30	35	214-788	36680	-08022	26	20	11		
214-711	36664	-08047	38	34	28	214-789	36680	-08021	31	29	7		
214-712	36664	-08047	40	34	22	214-790	36680	-08029	24	23	19		
214-713	36663	-08048	39	18	8	214-791	36682	-08033	36	263	18		
214-714	36663	-08048	26	22	17	214-792	36677	-08029	30	24	5		
214-715	36661	-08047	49	44	10	214-793	36676	-08028	34	25	32		
214-716	36663	-08048	49	46	17	214-794	36675	-08028	20	18	25		
214-717	36664	-08012	27	26	31	214-795	欠番						
214-718	36663	-08020	36	30	12	214-796	36676	-08022	31	22	22		
214-719	36661	-08020	63	49	16	214-797	36676	-08020	35	33	26		
214-720	36663	-08020	54	47	46	214-798	36677	-08019	31	27	37		
214-721	36661	-08021	28	22	23	214-799	36679	-08019	28	23	33		
214-722	36661	-08024	26	22	34	214-800	欠番						
214-723	36661	-08023	29	20	26	214-801	36679	-08015	30	27	11		
214-724	36661	-08024	26	23	21	214-802	36683	-08015	18	17	10		
214-725	36661	-08024	20	18	12	214-803	36683	-08015	27	21	8		
214-726	36662	-08024	20	20	11	214-804	36681	-08019	27	24	26		
214-727	36661	-08025	24	20	8	214-805	36683	-08020	32	30	13		
214-728	36662	-08026	34	25	10	214-806	36680	-08012	38	35	28		
214-729	36663	-08026	26	22	10	214-807	36673	-08029	30	27	9		
214-730	36659	-08028	62	40	40	214-808	36672	-08033	48	36	55		
214-731	36662	-08031	42	35	15	214-809	36683	-08028	31	30	9		
214-732	36660	-08032	30	28	16	214-810	36675	-08024	30	22	14		
214-733	36661	-08034	25	25	10	214-811	36675	-08023	33	29	18		
214-734	36661	-08035	42	36	8	214-812	36675	-08018	44	32	26		
214-735	36658	-08035	55	45	15	214-813	36675	-08023	31	29	9		
214-736	36658	-08036	56	40	17	214-814	36671	-08023	55	40	22		
214-737	36658	-08037	34	27	17	214-815	36661	-08023	38	32	21		
214-738	36658	-08041	50	37	21	214-816	36670	-08010	28	26	16		
214-739	36660	-08042	31	22	12	214-817	36668	-08009	24	22	15		
214-740	36659	-08045	30	22	27	214-818	36679	-08023	24	24	8		
214-741	36656	-08045	37	33	18	214-819	36668	-08010	25	22	24		
214-742	36658	-08048	67	65	19	214-820	36668	-08010	23	183	24		
214-743	36662	-08034	37	18	35	214-821	36665	-08008	27	22	9		
214-744	36661	-08027	24	24	6	214-822	36664	-08008	33	303	12		
214-745	欠番					214-823	36664	-08010	31	27	27		
214-746	36669	-08054	50	40	12	214-824	36665	-08015	23	223	22		
214-747	36671	-08060	35	27	12	214-825	36662	-08016	27	25	5		
214-748	36661	-08009	44	35	18	214-826	36661	-08011	54	44	13		
214-749	36662	-08018	27	25	20	214-827	36660	-08010	32	31	13		
214-750	36653	-08019	24	24	16	214-828	36658	-08009	64	48	15		
214-751	36655	-08020	40	40	15	214-829	36656	-08010	60	44	15		
214-752	36657	-08018	37	25	11	214-830	36685	-08033	30	25	26		
214-753	36657	-08021	40	30	24	214-831	36686	-08034	27	25	32		
214-754	36656	-08022	21	20	8	214-832	36670	-08028	23	20	10		
214-755	36651	-08020	34	243	31	214-833	36661	-08023	27	27	8		
214-756	36651	-08020	36	28	28	214-834	36661	-08016	40	23	12		
214-757	36654	-08030	42	38	12	214-835	36660	-08014	47	41	23		
214-758	36654	-08037	53	48	43	214-836	36659	-08012	48	48	25		
214-759	36642	-08003	75	49	24	214-837	36660	-08014	42	33	21		
214-760	36639	-08002	58	53	68	214-838	36659	-08014	53	53	30	古代	
214-761	36636	-08002	37	30	26	214-839	36659	-08013	53	47	17	古代	
214-762	36686	-08039	27	19	19	214-840	36659	-08010	71	50	20		
214-763	36686	-08039	30	27	3	214-841	36660	-08009	81	61	25		
214-764	36677	-08046	35	31	20	214-842	36665	-08012	17	14	15		
214-765	36679	-08032	33	32	20	214-843	36662	-08020	30	30	12		
214-766	36675	-08032	23	22	40	214-844	36661	-08019	24	21	30		

## 第4節 1面の調査

番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築	番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築
	X	Y						X	Y				
214-845	36655	-08813	44	43	36		314-52	36621	-0757	30	43	19	
214-846	36655	-08812	74	60	18		314-53	36619	-0759	44	38	20	
214-847	36656	-08817	24	17	19		314-54	36619	-0740	47	37	47	
214-848	36652	-08814	62	48	29		314-55	36618	-0741	24	17	10	
214-849	36653	-08817	26	24	11		314-56	36618	-0743	50	98	63	
214-850	36651	-08817	63	61	12		314-57	36615	-0741	64	47	11	
214-851	36653	-08821	38	33	30		314-58	36621	-0740	47	43	18	
214-852	36653	-08821	47	40	23		314-59	36620	-0742	30	27	11	
214-853	36652	-08822	25	25	19		314-60	36619	-0743	137	27	22	
214-854	36648	-08812	76	67	21	縄文	314-61	36620	-0743	30	20	17	
214-855	36647	-08810	23	19	17		314-62	36617	-0745	40	37	14	
214-856	36643	-08815	26	25	19		314-63	穴倉					7号掘立
214-857	36642	-08818	31	27	34		314-64	36618	-0746	81	52	23	中世
214-858	36640	-08814	25	20	26		314-65	穴倉					7号掘立
214-859	36637	-08815	23	20	21		314-66	36617	-0748	73	70	22	
214-860	36636	-08816	20	20	15		314-67	36618	-0747	23	17	29	
214-861	36636	-08816	25	23	12		314-68	36618	-0747	65	59	25	
214-862	36635	-08813	31	20	11		314-69	36618	-0749	51	47	37	
214-863	36649	-08829	26	24	23		314-70	36618	-0750	33	31	25	
214-864	36676	-08818	28	27	16		314-71	36620	-0748	27	24	33	
214-865	36686	-08845	17	16	12	中世	314-72	36623	-0746	54	46	11	
214-866	36678	-08856	27	26	20		314-73	36624	-0747	67	137	42	
214-867	36675	-08866	21	20	9		314-74	36626	-0747	79	75	25	
							314-75	36622	-0746	34	22	17	
							314-76	36597	-0730	30	26	28	
							314-77	36600	-0733	42	28	27	
							314-78	36600	-0734	50	39	26	
							314-79	36599	-0729	56	51	29	
							314-80	36600	-0728	77	63	37	
							314-81	36602	-0729	53	46	36	
							314-82	穴倉					9号掘立
							314-83	穴倉					8号掘立
							314-84	36617	-0735	49	31	19	
							314-85	36616	-0736	70	70	14	
							314-86	36616	-0739	49	43	18	
							314-87	36617	-0730	30	68	20	
							314-88	36617	-0730	60	49	16	
							314-89	36619	-0740	44	40	33	
							314-90	36619	-0738	54	43	13	
							314-91	36620	-0737	47	47	36	
							314-92	36622	-0737	67	65	24	
							314-93	36622	-0738	45	35	24	
							314-94	36616	-0741	79	50	14	
							314-95	36616	-0742	42	35	21	
							314-96	36616	-0743	46	40	24	
							314-97	36617	-0743	55	40	29	
							314-98	36617	-0742	64	77	11	
							314-99	36618	-0742	37	31	13	
							314-100	36616	-0743	84	73	17	
							314-101	36617	-0745	49	40	23	
							314-102	36618	-0744	67	59	16	
							314-103	36620	-0742	57	45	16	
							314-104	36620	-0742	42	41	16	
							314-105	36621	-0741	85	60	26	
							314-106	36621	-0742	52	(47)	26	
							314-107	36621	-0742	153	41	17	
							314-108	穴倉					7号掘立
							314-109	36622	-0741	47	40	20	
							314-110	36617	-0746	41	30	18	
							314-111	36620	-0745	41	33	11	
							314-112	36620	-0746	49	43	23	
							314-113	36622	-0745	58	52	24	
							314-114	36617	-0748	42	39	40	
							314-115	穴倉					7号掘立
							314-116	36616	-0737	43	42	19	
							314-117	36621	-0742	48	43	43	
							314-118	36625	-0744	81	71	29	
							314-119	36625	-0744	45	122	20	
							314-120	36626	-0745	110	(109)	33	
							314-121	36611	-0852	47	41	19	
							314-122	36612	-0732	72	68	26	
							314-123	36614	-0730	63	62	23	
							314-124	36614	-0728	44	40	19	
							314-125	36615	-0730	67	52	33	
							314-126	36616	-0728	47	40	21	
							314-127	36617	-0728	79	52	22	
							314-128	36617	-0729	40	34	14	
							314-129	36617	-0729	43	32	13	

番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築
	X	Y				
314-1	36579	-0717	64	61	5	
314-2	36586	-0713	53	43	18	
314-3	穴倉					7号掘立
314-4	36621	-0744	61	57	44	
314-5	穴倉					7号掘立
314-6	穴倉					7号掘立
314-7	36601	-0734	20	19	26	
314-8	36598	-0733	60	51	31	
314-9	36597	-0733	59	48	28	
314-10	36598	-0736	47	43	17	
314-11	36601	-0736	47	43	17	
314-12	穴倉					
314-13	36597	-0745	27	20	34	
314-14	36598	-0745	49	40	29	
314-15	36598	-0765	34	30	34	
314-16	36597	-0748	37	37	11	
314-17	36595	-0748	50	47	19	
314-18	36596	-0749	54	40	30	
314-19	36610	-0730	43	39	27	
314-20	36610	-0732	23	22	24	
314-21	36612	-0732	53	40	20	
314-22	36611	-0734	26	22	17	
314-23	36612	-0734	57	53	28	
314-24	36613	-0733	39	39	30	
314-25	穴倉					8号掘立
314-26	36618	-0731	66	62	14	古代
314-27	穴倉					9号掘立
314-28	穴倉					8・9号掘立
314-29	36616	-0729	61	46	22	
314-30	36616	-0726	41	41	40	
314-31	穴倉					9号掘立
314-32	36617	-0733	63	43	18	
314-33	穴倉					8号掘立
314-34	36614	-0736	59	39	10	
314-35	36615	-0737	45	35	23	縄文
314-36	36614	-0738	42	39	12	
314-37	36614	-0738	29	27	10	
314-38	穴倉					9号掘立
314-39	36619	-0734	49	43	30	
314-40	36617	-0736	66	33	23	
314-41	36617	-0737	33	29	9	
314-42	36617	-0735	49	47	15	
314-43	36618	-0735	45	44	19	
314-44	36618	-0736	33	30	17	
314-45	36620	-0736	44	29	10	
314-46	36620	-0736	50	41	20	
314-47	36621	-0736	81	77	24	
314-48	36620	-0734	39	38	21	
314-49	36619	-0738	36	30	20	
314-50	36620	-0739	19	18	19	
314-51	36621	-0737	59	52	25	



## 第4節 1面の調査

番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築	番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築
	X	Y						X	Y				
414-13	36557	-80642	38	34	19		414-91	36561	-80659	26	24	9	
414-14	36557	-80642	34	31	19		414-92	欠番					10号掘立
414-15	36558	-80642	45	28	20		414-93	36564	-80657	47	40	48	
414-16	36560	-80641	56	48	23		414-94	36563	-80657	47	35	13	
414-17	36561	-80642	42	37	16		414-95	36565	-80657	48	40	25	
414-18	36560	-80642	50	34	9		414-96	36565	-80657	41	38	27	
414-19	36560	-80642	43	33	56	古代	414-97	36566	-80657	34	27	24	
414-20	36560	-80646	20	19	14		414-98	欠番					10号掘立
414-21	36561	-80646	50	43	50		414-99	36561	-80661	45	37	18	
414-22	36563	-80644	19	17	16		414-100	36562	-80663	40	36	16	
414-23	36563	-80644	33	20	15		414-101	36563	-80660	45	36	11	10号掘立
414-24	36563	-80644	31	28	18		414-102	欠番					
414-25	36563	-80645	28	27	32		414-103	36563	-80660	75	50	25	
414-26	36564	-80644	29	21	32		414-104	欠番					
414-27	36564	-80645	41	32	17		414-105	36564	-80661	48	41	20	
414-28	36562	-80650	75	62	19		414-106	36565	-80661	22	20	14	
414-29	36565	-80649	33	27	8		414-107	36563	-80659	19	18	27	
414-30	36565	-80649	24	23	6		414-108	36565	-80660	22	18	15	
414-31	36565	-80650	42	36	23		414-109	36565	-80660	30	28	20	
414-32	36566	-80651	72	59	15		414-110	36565	-80659	26	20	14	
414-33	36566	-80651	(50)	38	16		414-111	36565	-80659	32	28	19	
414-34	36566	-80651	48	40	17		414-112	36565	-80659	33	28	19	
414-35	36566	-80651	30	28	7		414-113	36567	-80659	42	29	33	
414-36	36567	-80650	38	33	5		414-114	36568	-80660	34	33	38	
414-37	36567	-80650	34	29	30		414-115	36570	-80659	33	30	20	
414-38	36567	-80650	20	(17)	9		414-116	36565	-80665	32	30	20	
414-39	36567	-80650	18	15	12		414-117	36561	-80666	35	29	15	
414-40	36567	-80650	21	17	15		414-118	36561	-80668	42	26	9	
414-41	36568	-80649	35	29	10		414-119	36563	-80669	22	21	18	
414-42	36566	-80652	56	50	18		414-120	36562	-80672	28	22	19	
414-43	36566	-80652	62	36	20		414-121	36562	-80671	30	26	16	
414-44	36566	-80653	42	34	10		414-122	36562	-80673	37	36	20	
414-45	36566	-80653	32	25	10		414-123	36564	-80671	60	53	6	
414-46	36568	-80655	48	45	9		414-124	36566	-80672	31	25	11	
414-47	36568	-80654	40	35	17		414-125	36566	-80670	32	30	14	
414-48	36569	-80652	48	37	20		414-126	36568	-80670	32	27	8	
414-49	36570	-80657	53	35	20		414-127	36565	-80675	24	21	14	
414-50	36571	-80656	49	40	15		414-128	36565	-80675	34	28	29	
414-51	36571	-80656	43	41	11		414-129	36567	-80674	38	33	11	
414-52	36570	-80657	58	43	22		414-130	36568	-80676	36	28	14	
414-53	36571	-80658	40	37	10		414-131	36568	-80671	50	37	19	
414-54	36571	-80657	50	45	15		414-132	36568	-80671	(40)	33	21	
414-55	36572	-80657	48	36	10		414-133	36566	-80677	31	22	19	
414-56	36571	-80658	78	62	10		414-134	36567	-80680	31	29	21	
414-57	36571	-80659	45	40	22		414-135	36567	-80680	48	45	22	
414-58	36572	-80660	46	41	8		414-136	36568	-80680	34	27	20	
414-59	36573	-80661	34	30	14		414-137	36570	-80679	38	32	13	
414-60	36573	-80660	26	34	5		414-138	36570	-80679	40	34	9	
414-61	36574	-80661	42	36	15		414-139	36535	-80623	25	20	14	
414-62	36545	-80617	35	30	17		414-140	36535	-80624	24	19	19	
414-63	36545	-80617	29	28	15		414-141	36535	-80626	29	21	18	
414-64	36544	-80616	31	23	5		414-142	36535	-80624	49	40	22	
414-65	36544	-80617	30	24	5		414-143	36535	-80630	31	26	7	
414-66	36544	-80616	36	30	8		414-144	36536	-80637	32	(46)	9	
414-67	36543	-80617	32	29	15		414-145	36536	-80640	43	38	14	
414-68	36542	-80620	77	55	9		414-146	36542	-80639	19	17	5	
414-69	36543	-80621	67	62	12		414-147	36543	-80643	38	33	19	
414-70	36540	-80621	35	31	14		414-148	36539	-80645	32	24	15	
414-71	36540	-80622	34	31	19		414-149	36536	-80644	26	(20)	8	
414-72	36539	-80624	27	23	13		414-150	36538	-80647	42	37	13	
414-73	36549	-80620	37	32	21		414-151	36538	-80647	28	27	10	
414-74	36535	-80623	50	45	11		414-152	36539	-80647	27	23	16	
414-75	36535	-80623	27	24	11		414-153	36540	-80649	34	28	18	
414-76	36539	-80628	56	50	14		414-154	36541	-80647	37	23	7	
414-77	36539	-80633	63	59	6		414-155	36541	-80648	27	22	8	
414-78	36539	-80632	25	23	3		414-156	36543	-80648	60	54	19	
414-79	36539	-80633	37	30	6		414-157	36539	-80650	24	22	8	
414-80	36541	-80635	56	44	5		414-158	36540	-80652	34	28	7	
414-81	36542	-80639	45	41	14		414-159	36540	-80651	23	20	10	
414-82	36551	-80642	48	43	15		414-160	36542	-80652	22	27	11	
414-83	36558	-80653	48	43	31		414-161	36545	-80651	28	26	25	
414-84	36561	-80653	56	54	20		414-162	36540	-80653	22	19	13	
414-85	36559	-80656	67	48	22		414-163	36542	-80654	36	32	28	
414-86	36558	-80658	32	30	40		414-164	36543	-80654	28	26	11	
414-87	36558	-80658	33	31	15		414-165	36539	-80655	26	20	10	
414-88	36559	-80660	31	27	12		414-166	36541	-80656	30	24	5	
414-89	36560	-80558	76	67	15		414-167	36542	-80655	29	24	13	
414-90	36561	-80657	46	35	13		414-168	36545	-80657	47	32	23	

## 第4章 二の宮遺跡

番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築	番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築
	X	Y						X	Y				
4/4-169	36540	-00658	23	22	7		4/4-247	欠番					10号掘立
4/4-170	36541	-00658	26	22	13		4/4-248	36562	-00665	29	27	20	
4/4-171	36541	-00660	43	39	17		4/4-249	36568	-00663	30	28	14	
4/4-172	36540	-00661	27	22	18		4/4-250	36571	-00663	34	31	17	
4/4-173	36552	-00663	21	21	12		4/4-251	36587	-00676	36	34	37	
4/4-174	36552	-00665	28	24	15		4/4-252	36586	-00679	37	40	45	
4/4-175	36552	-00665	27	22	11		4/4-253	36587	-00679	37	28	52	
4/4-176	36547	-00670	35	32	12		4/4-254	36587	-00679	40	20	37	古代
4/4-177	36554	-00669	52	41	25		4/4-255	36587	-00682	55	41	55	
4/4-178	36539	-00633	47	42	30		4/4-256	36587	-00683	51	45	32	古代
4/4-179	36542	-00628	35	33	22		4/4-257	36589	-00679	40	38	40	
4/4-180	36545	-00631	48	45	18		4/4-258	36590	-00682	40	33	54	
4/4-181	36543	-00633	36	33	26		4/4-259	36591	-00682	40	37	30	
4/4-182	36544	-00633	34	31	27		4/4-260	36592	-00682	42	36	17	古代
4/4-183	36549	-00635	44	38	30		4/4-261	36592	-00686	41	39	32	
4/4-184	36548	-00642	38	34	27	縄文	4/4-262	36598	-00680	32	29	18	
4/4-185	36554	-00641	26	21	24		4/4-263	36593	-00687	35	31	25	
4/4-186	36554	-00639	42	35	19		4/4-264	36594	-00686	38	36	12	
4/4-187	36557	-00672	40	33	23		4/4-265	36594	-00688	30	30	24	
4/4-188	36558	-00673	39	29	14		4/4-266	36584	-00693	41	26	13	
4/4-189	36557	-00678	25	21	14		4/4-267	36584	-00694	42	33	14	
4/4-190	36557	-00678	56	35	10		4/4-268	36580	-00694	35	33	16	
4/4-191	36555	-00680	26	22	16		4/4-269	36779	-00692	50	41	25	
4/4-192	36551	-00679	36	25	9		4/4-270	36578	-00691	40	38	18	
4/4-193	36554	-00681	31	29	15		4/4-271	36577	-00688	45	37	25	
4/4-194	36554	-00684	20	28	13		4/4-272	36577	-00687	31	30	25	
4/4-195	36561	-00683	34	30	21		4/4-273	36574	-00688	37	34	20	
4/4-196	36560	-00684	31	29	19		4/4-274	36573	-00688	35	33	20	
4/4-197	36560	-00685	29	26	15		4/4-275	36572	-00687	62	54	32	
4/4-198	36560	-00683	35	30	38		4/4-276	36565	-00688	38	31	21	
4/4-199	36560	-00683	27	26	18		4/4-277	36566	-00688	38	33	24	
4/4-200	36561	-00686	34	29	14		4/4-278	36567	-00690	70	57	24	
4/4-201	36562	-00685	40	40	24		4/4-279	36559	-00690	41	37	14	
4/4-202	36562	-00680	27	24	15	縄文	4/4-280	36550	-00686	33	28	3	
4/4-203	36564	-00681	22	19	19		4/4-281	36563	-00659	42	39	15	
4/4-204	36565	-00679	36	28	13		4/4-282	36563	-00663	24	30	18	
4/4-205	36566	-00682	27	23	18		4/4-283	36563	-00663	40	35	18	
4/4-206	36566	-00678	32	31	13		4/4-284	36564	-00663	27	25	11	
4/4-207	36567	-00681	27	23	16		4/4-285	36551	-00661	32	30	15	
4/4-208	36569	-00683	40	37	20		4/4-286	36552	-00661	32	30	20	
4/4-209	36570	-00684	42	38	16		4/4-287	36554	-00661	24	20	13	
4/4-210	36572	-00678	34	27	20		4/4-288	36552	-00663	28	25	16	
4/4-211	36573	-00677	42	39	20		4/4-289	36555	-00665	70	55	17	
4/4-212	36574	-00679	56	45	18		4/4-290	36583	-00675	38	32	26	
4/4-213	36573	-00681	41	40	21		4/4-291	36589	-00679	30	27	15	
4/4-214	36575	-00682	34	32	15		4/4-292	36590	-00682	38	31	40	
4/4-215	36576	-00682	49	42	18		4/4-293	36597	-00690	31	30	12	
4/4-216	36576	-00680	41	37	16		4/4-294	36584	-00693	38	33	25	
4/4-217	36574	-00680	36	34	20		4/4-295	36579	-00684	33	30	13	
4/4-218	36574	-00662	33	31	16		4/4-296	36535	-00622	38	36	6	
4/4-219	36574	-00663	36	28	12		4/4-297	36535	-00618	32	28	37	
4/4-220	36575	-00664	45	35	33		4/4-298	36538	-00615	33	28	13	
4/4-221	36575	-00666	35	32	23		4/4-299	36541	-00624	40	31	18	
4/4-222	36577	-00665	34	31	19		4/4-300	36539	-00619	33	40	19	
4/4-223	36576	-00667	42	38	15		4/4-301	36542	-00518	58	37	22	
4/4-224	36576	-00668	35	31	11		4/4-302	36543	-00518	25	23	6	
4/4-225	36582	-00671	64	57	36		4/4-303	36541	-00621	46	41	38	
4/4-226	36558	-00650	31	29	26		4/4-304	36543	-00621	47	43	23	
4/4-227	36559	-00650	26	23	22		4/4-305	36545	-00622	45	29	15	
4/4-228	36561	-00651	27	15	12		4/4-306	36536	-00630	40	38	28	
4/4-229	36562	-00650	21	20	9		4/4-307	36542	-00629	36	30	30	
4/4-230	36563	-00651	28	25	18		4/4-308	36545	-00629	30	28	16	
4/4-231	36552	-00652	31	27	18		4/4-309	36550	-00627	53	50	12	
4/4-232	36555	-00654	39	36	12		4/4-310	36552	-00625	41	33	14	
4/4-233	36556	-00655	35	25	12		4/4-311	36553	-00630	41	37	12	
4/4-234	36557	-00655	47	37	21		4/4-312	36550	-00633	33	29	23	
4/4-235	36557	-00654	27	24	25		4/4-313	36552	-00632	35	33	17	
4/4-236	36557	-00658	32	30	13		4/4-314	36553	-00633	78	75	14	縄文
4/4-237	36558	-00658	29	25	10		4/4-315	36552	-00634	50	40	13	
4/4-238	36563	-00659	48	37	16		4/4-316	36554	-00636	45	39	11	
4/4-239	36564	-00655	43	35	20		4/4-317	36547	-00634	36	32	14	
4/4-240	36558	-00661	21	20	10		4/4-318	36545	-00635	38	35	28	
4/4-241	36559	-00660	22	19	8		4/4-319	36543	-00638	43	39	10	
4/4-242	36560	-00661	26	20	19		4/4-320	36544	-00637	35	33	12	
4/4-243	36562	-00658	29	25	5		4/4-321	36544	-00640	56	41	17	
4/4-244	36562	-00660	25	23	14		4/4-322	36544	-00641	47	40	11	縄文
4/4-245	欠番					10号掘立	4/4-323	36542	-00638	35	30	28	
4/4-246	36564	-00662	31	29	14		4/4-324	36544	-00633	41	30	24	

## 第4節 1面の調査

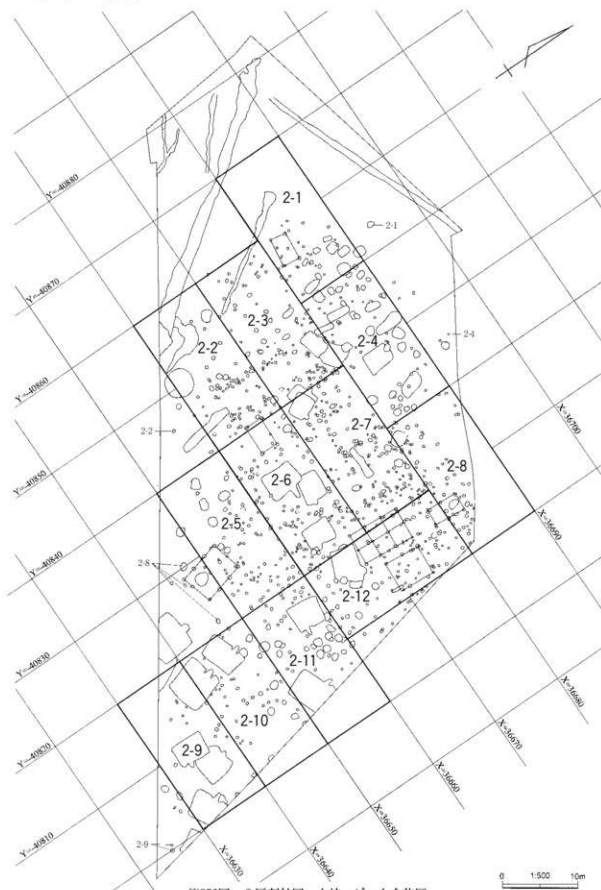
番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築
	X	Y				
4/A-325	36537	-00637	43	42	12	
4/A-326	36536	-00639	33	31	16	
4/A-327	36538	-00644	35	30	18	
4/A-328	36539	-00644	45	41	14	
4/A-329	36548	-00646	27	26	13	
4/A-330	36548	-00643	37	33	15	
4/A-331	36548	-00644	53	38	20	
4/A-332	36549	-00644	49	34	22	
4/A-333	36549	-00646	36	32	15	
4/A-334	欠番					
4/A-335	34554	-00644	52	43	20	
4/A-336	36555	-00643	31	27	12	
4/A-337	36555	-00643	33	30	20	
4/A-338	36553	-00641	38	33	10	
4/A-339	36554	-00640	46	42	27	縄文
4/A-340	36555	-00638	41	35	13	
4/A-341	36556	-00639	55	51	18	
4/A-342	36555	-00640	26	20	17	
4/A-343	36558	-00643	35	28	32	
4/A-344	欠番					
4/A-345	36558	-00646	62	58		
4/A-346	36560	-00644	27	24	14	
4/A-347	36561	-00647	28	26	14	
4/A-348	36543	-00653	42	36	18	
4/A-349	36553	-00656	28	23	21	
4/A-350	36553	-00656	76	64	14	
4/A-351	36554	-00655	40	20	19	
4/A-352	36556	-00652	32	27	9	
4/A-353	36558	-00652	67	58	8	
4/A-354	36558	-00651	43	30	15	
4/A-355	36556	-00656	43	25	16	
4/A-356	36557	-00661	39	30	22	
4/A-357	36558	-00660	50	46	19	
4/A-358	36561	-00654	33	27	26	
4/A-359	36564	-00653	30	22	13	
4/A-360	36563	-00653	42	29	13	
4/A-361	36560	-00652	45	38	12	
4/A-362	36560	-00652	48	38	30	
4/A-363	36564	-00652	27	22	26	
4/A-364	36564	-00651	30	23	20	
4/A-365	36566	-00656	48	38	19	
4/A-366	36566	-00656	64	45	30	
4/A-367	36568	-00658	31	24	17	
4/A-368	36569	-00657	31	28	11	
4/A-369	36569	-00656	35	30	17	
4/A-370	36568	-00656	27	21	20	
4/A-371	36553	-00664	40	31	23	
4/A-372	36553	-00656	35	28	11	
4/A-373	36555	-00667	50	45	15	
4/A-374	36561	-00668	49	40	13	
4/A-375	36560	-00667	33	23	14	
4/A-376	36561	-00666	37	31	18	
4/A-377	36561	-00666	33	25	11	
4/A-378	36562	-00684	68	48	27	
4/A-379	36563	-00670	31	27	9	
4/A-380	36563	-00672	65	58	15	
4/A-381	36557	-00676	66	58	15	
4/A-382	36563	-00677	28	21	20	
4/A-383	36564	-00676	39	27	14	
4/A-384	36565	-00677	36	24	17	
4/A-385	36551	-00678	67	55	8	
4/A-386	36554	-00680	40	34	15	
4/A-387	36549	-00683	32	27	12	
4/A-388	36559	-00681	37	29	16	
4/A-389	36558	-00680	50	46	15	
4/A-390	36560	-00687	47	38	34	
4/A-391	36562	-00680	38	33	11	
4/A-392	36563	-00682	38	33	18	
4/A-393	36564	-00685	38	36	21	

番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築
	X	Y				
4/A-394	36565	-00584	37	31	14	
4/A-395	36565	-00580	52	43	11	
4/A-396	36563	-00680	33	30	13	
4/A-397	36566	-00679	33	29	16	
4/A-398	36571	-00575	38	27	26	
4/A-399	36574	-00677	39	26	22	
4/A-400	36576	-00670	36	21	18	
4/A-401	36580	-00671	40	33	15	
4/A-402	36581	-00669	41	29	16	
4/A-403	36581	-00673	46	40	12	
4/A-404	36582	-00676	36	32	7	
4/A-405	36585	-00674	41	35	10	
4/A-406	36585	-00675	40	31	17	
4/A-407	36583	-00676	48	40	5	
4/A-408	36586	-00676	27	22	14	
4/A-409	36586	-00677	28	26	22	
4/A-410	36587	-00679	38	33	11	
4/A-411	欠番					
4/A-412	36586	-00683	26	26	6	
4/A-413	36588	-00683	57	56	8	
4/A-414	36586	-00682	33	31	11	
4/A-415	36586	-00682	28	27	13	
4/A-416	36584	-00688	46	36	19	
4/A-417	36583	-00693	43	38	14	
4/A-418	36583	-00694	38	37	17	
4/A-419	36584	-00686	48	35	17	
4/A-420	36584	-00686	58	51	18	
4/A-421	36585	-00686	41	39	15	
4/A-422	36586	-00685	40	33	17	
4/A-423	36586	-00685	28	27	16	
4/A-424	36585	-00684	65	50	8	
4/A-425	36588	-00687	45	38	18	
4/A-426	36589	-00688	48	41	11	
4/A-427	36590	-00687	62	50	18	
4/A-428	36590	-00689	58	46	14	
4/A-429	36591	-00688	42	40	17	
4/A-430	36591	-00687	38	35	19	
4/A-431	36593	-00687	35	33	5	
4/A-432	36593	-00687	41	38	14	
4/A-433	36593	-00686	42	39	17	
4/A-434	36591	-00691	64	55	9	
4/A-435	36592	-00690	41	32	9	
4/A-436	36594	-00691	55	49	8	
4/A-437	36595	-00689	28	26	17	
4/A-438	36597	-00690	47	34	8	
4/A-439	36589	-00692	36	29	9	
4/A-440	36592	-00692	48	42	12	
4/A-441	36593	-00692	29	24	9	
4/A-442	36595	-00692	31	23	12	

## 5区

番号	位置		長軸	短軸	深さ	構築
	X	Y				
5/A-1	36537	-00606	30	30	13	
5/A-2	36537	-00607	86	49	21	
5/A-3	36537	-00607	31	(20)	17	
5/A-4	36538	-00608	40	(33)	23	
5/A-5	36538	-00608	30	29	28	古代
5/A-6	36541	-00608	47	47	6	
5/A-7	36541	-00609	53	52	40	
5/A-8	36542	-00609	(23)	22	16	
5/A-9	36542	-00608	73	50	21	
5/A-10	36541	-00606	44	33	18	
5/A-11	36533	-00595	30	33	14	
5/A-12	36533	-00593	32	40	17	
5/A-13	36534	-00594	23	19	28	
5/A-14	36541	-00609	32	28	19	
5/A-15	36542	-00608	54	50	17	
5/A-16	36542	-00609	28	25	10	

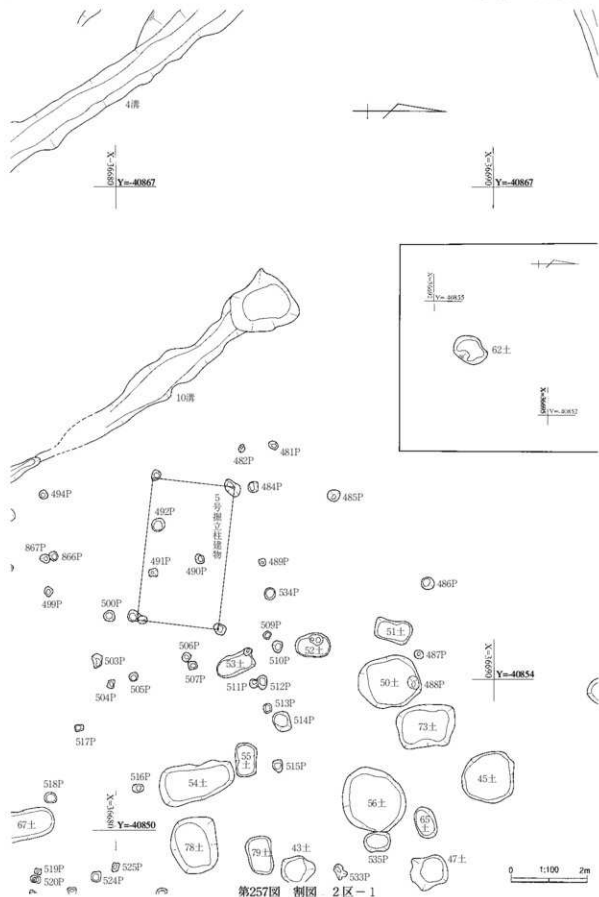


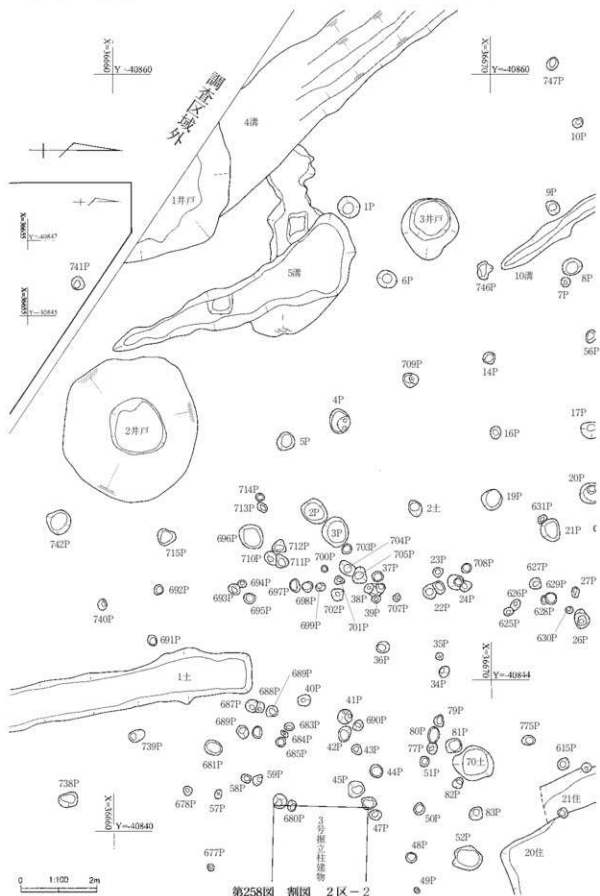


第256図 2区割付図 土坑・ピット全体図

割図2区-1

第4節 1面の調査

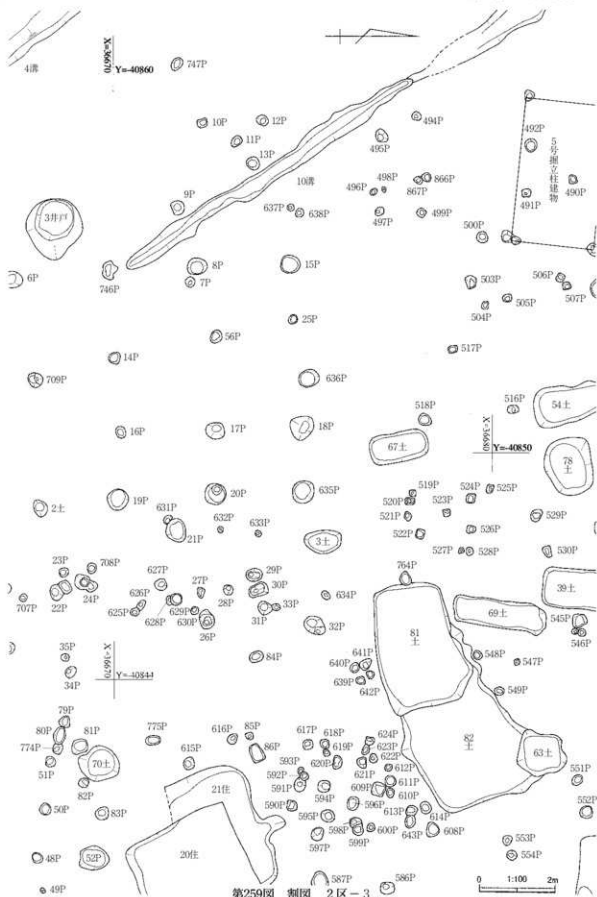




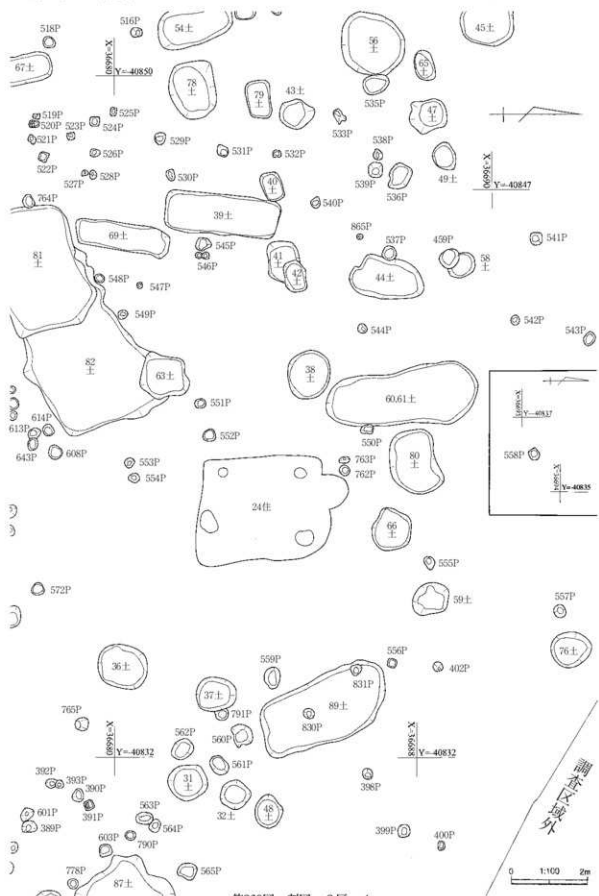
第258図 割図 2区-2

割図 2 区 - 3

第 4 節 1 面の調査



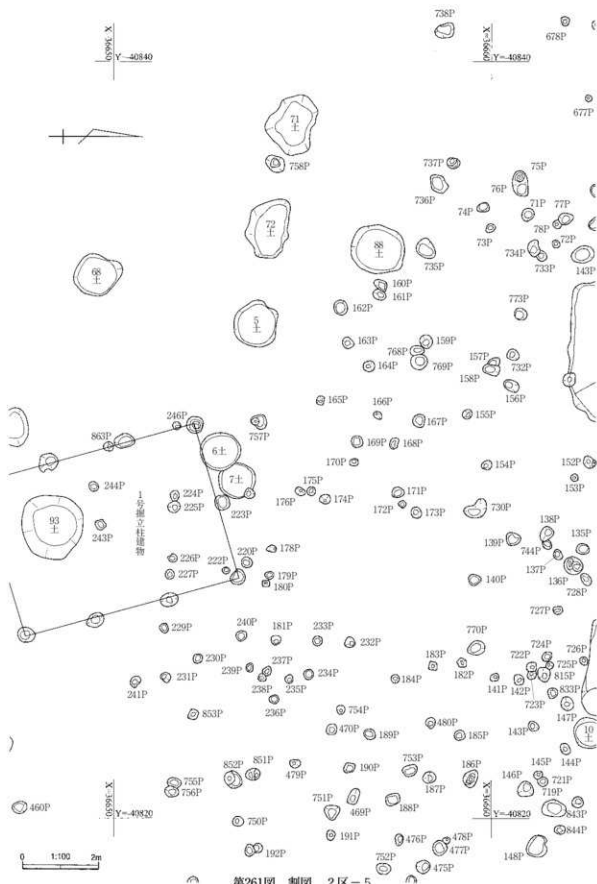
第259図 割図 2 区 - 3



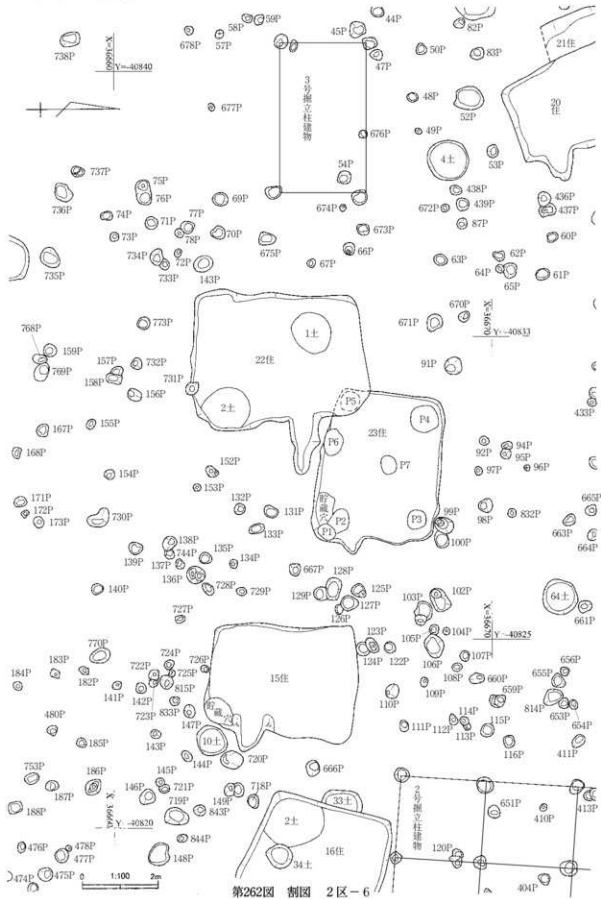
第260図 割図 2区-4

割図 2 区 - 5

第 4 節 1 面の調査

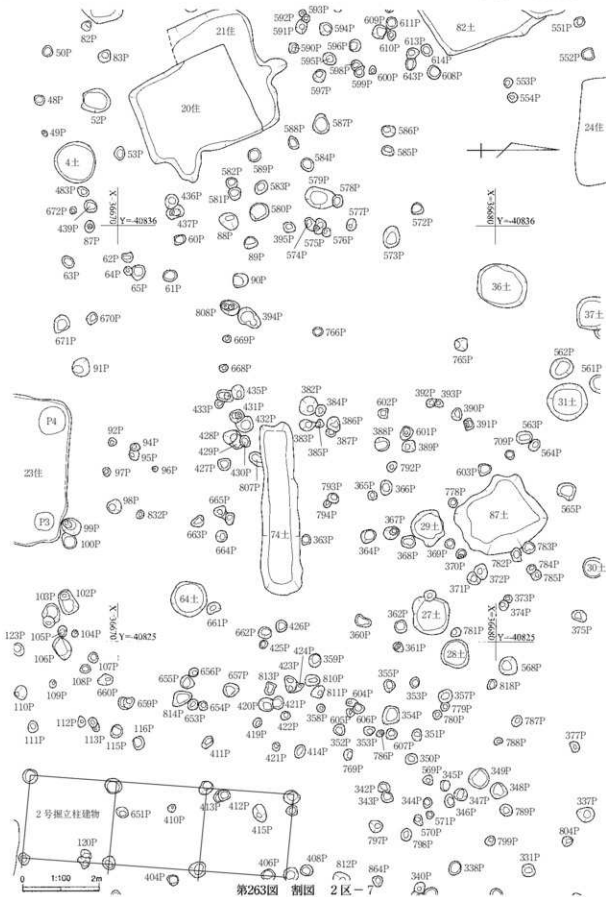


第261図 割図 2 区 - 5

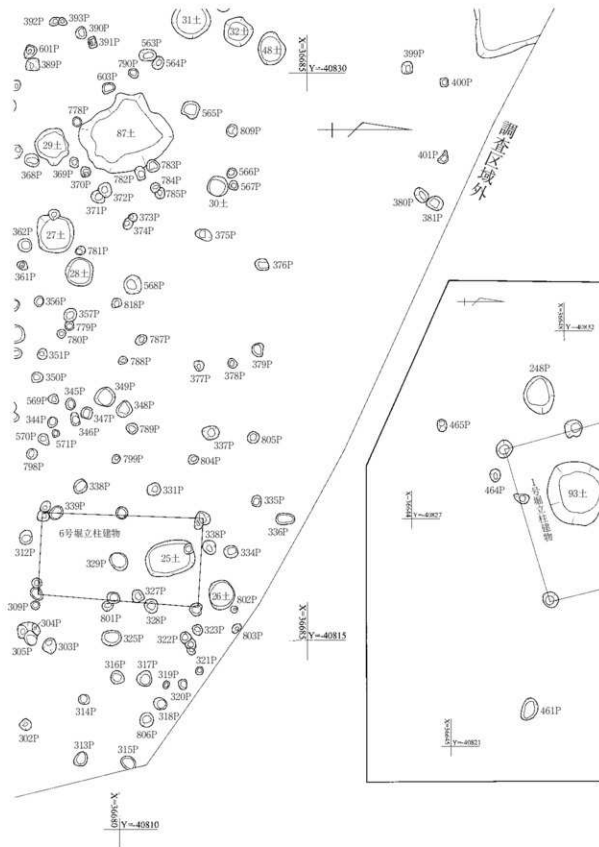


割図 2 区 - 7

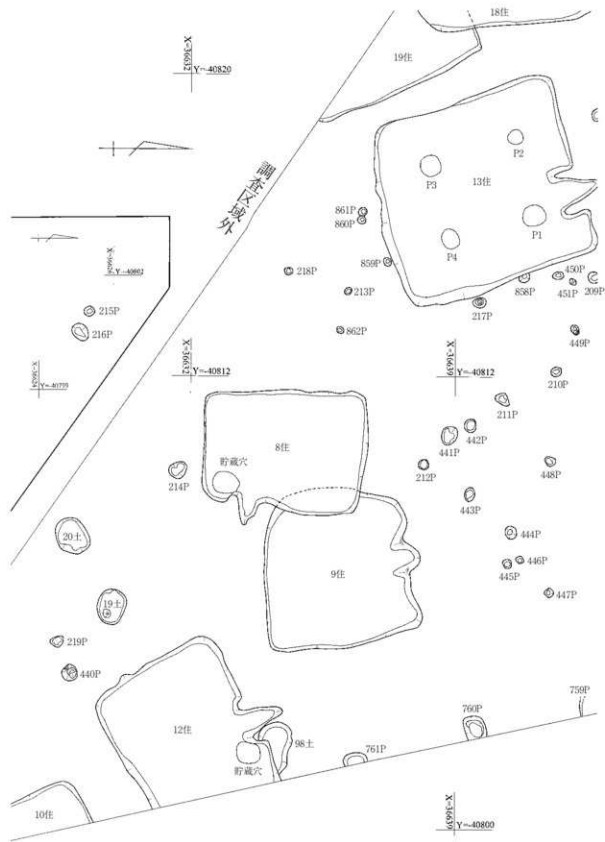
第 4 節 1 面の調査



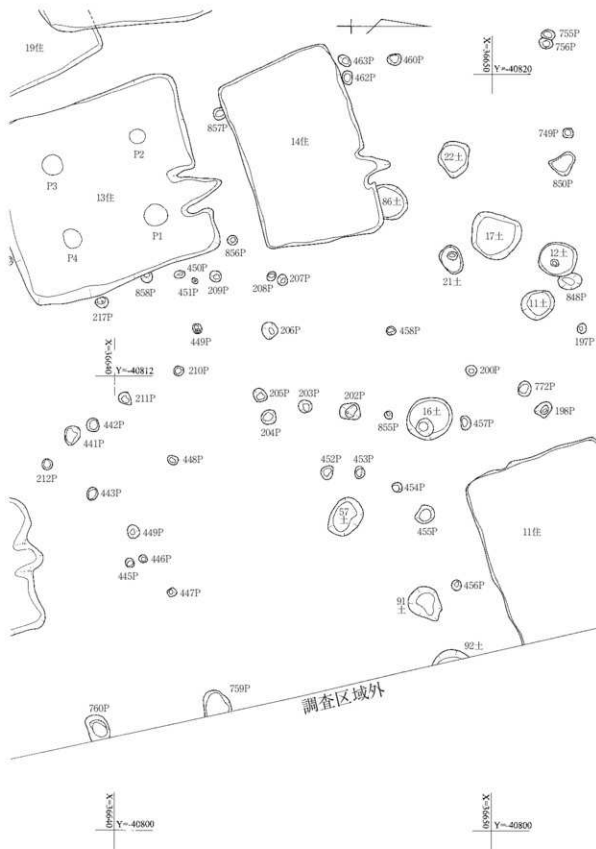




第264図 割図 2区-8



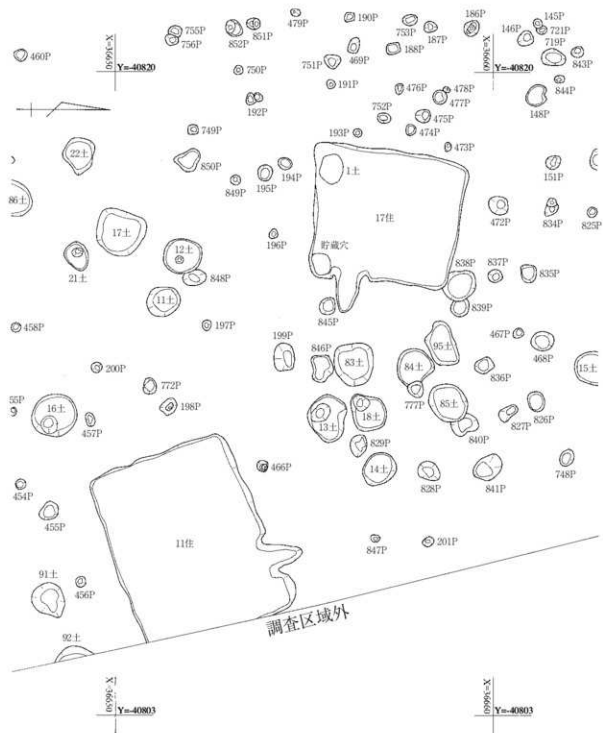
第265図 割図 2区-9



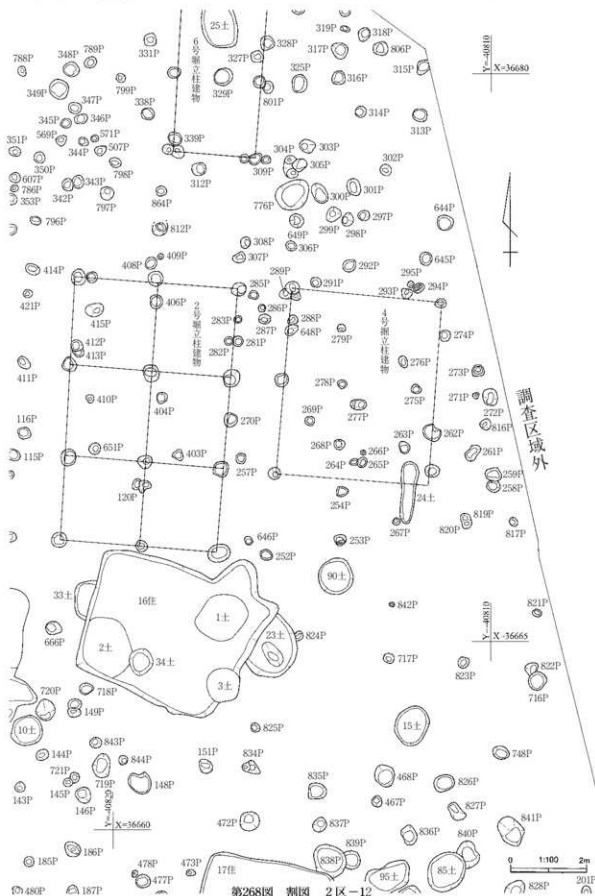
第266図 割図 2区-10

割図 2 区-11

第 4 節 1 面の調査

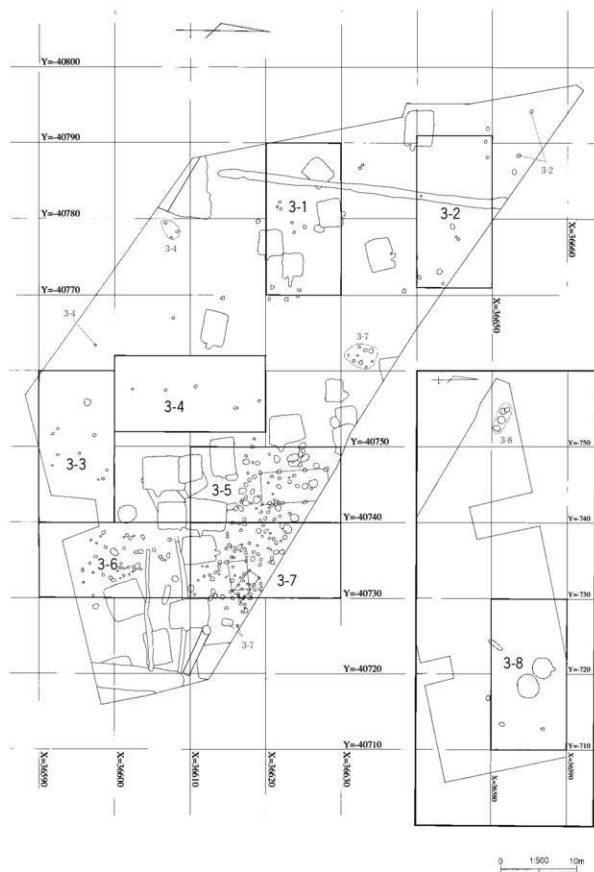


第267図 割図 2 区-11

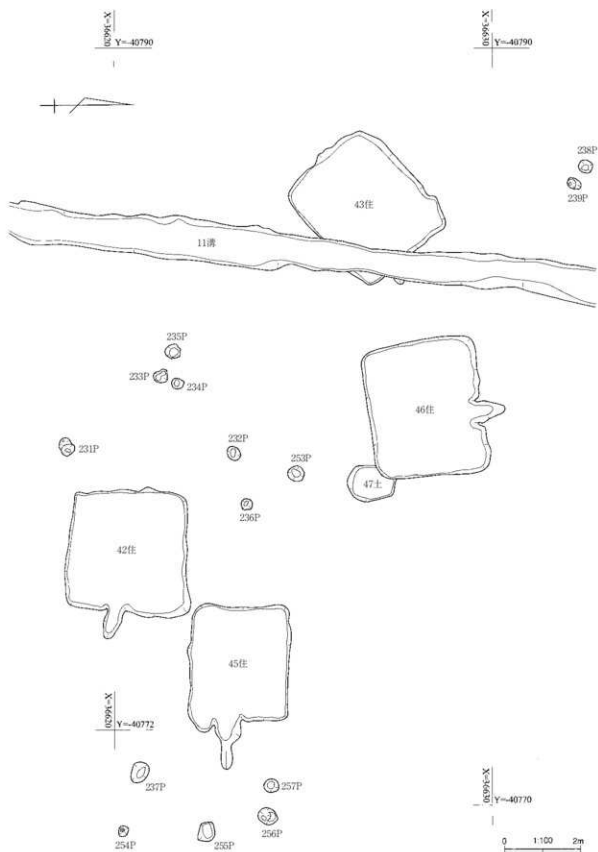


### 3区遺構平面図

第4節 1面の調査



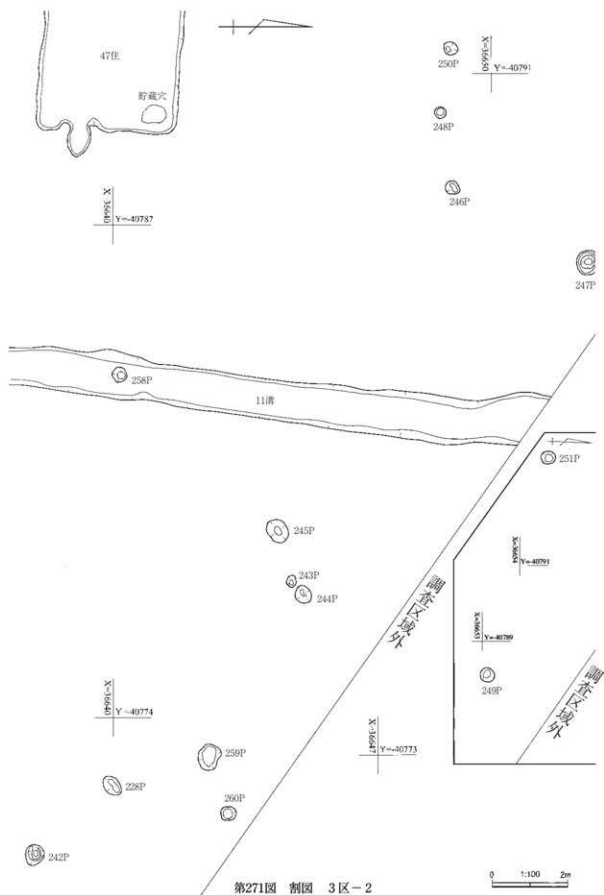
第269図 3区割付図 土坑・ピット全体図



第270図 割図 3区-1

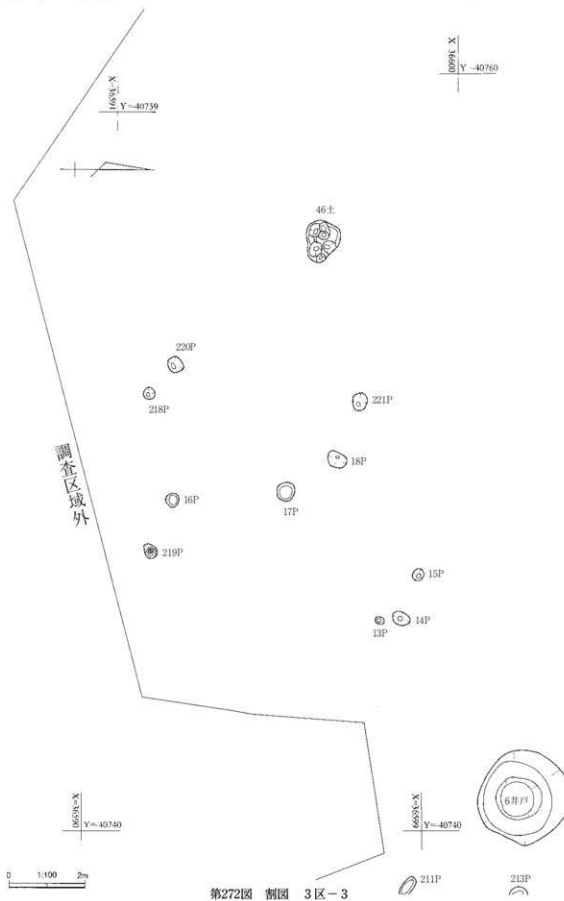
割図3区-2

第4節 1面の調査



第271図 割図 3区-2

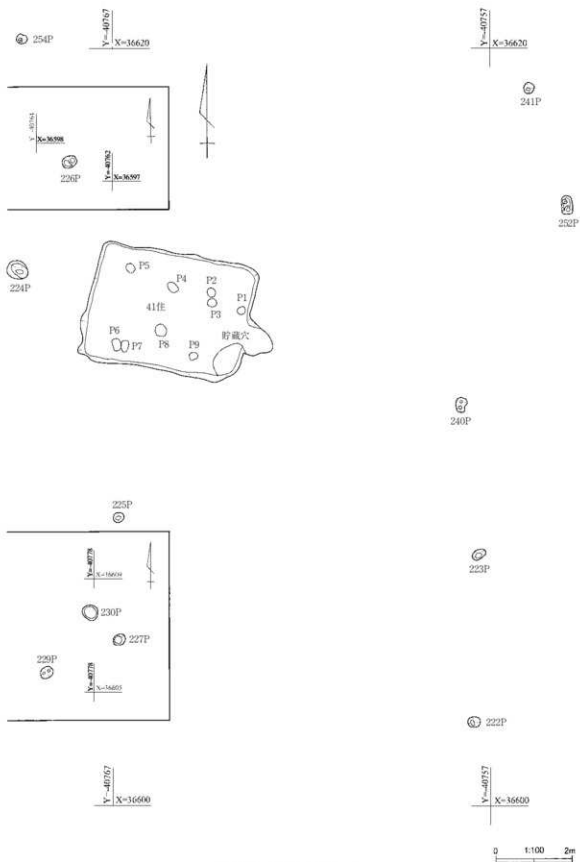




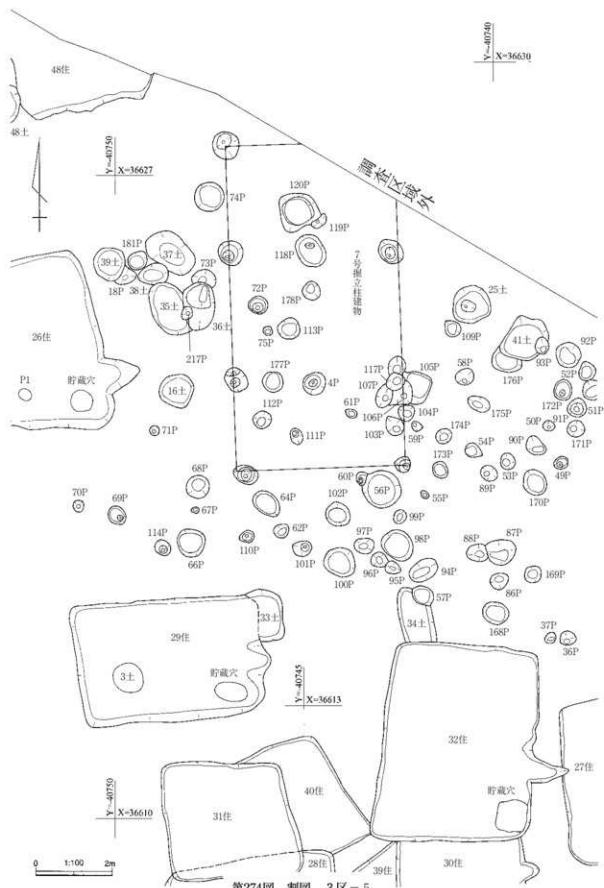
第272図 割図 3区-3

割図 3区-4

第4節 1面の調査



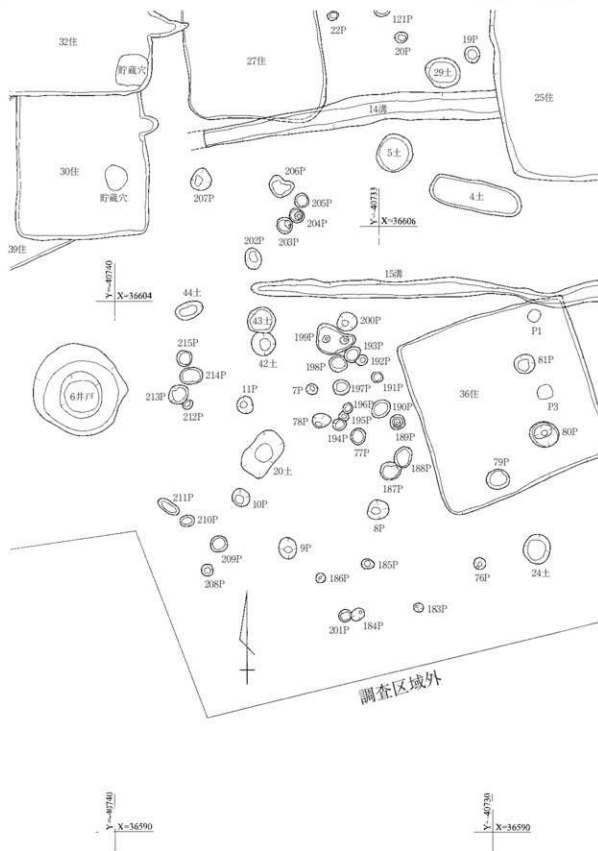
第273図 割図 3区-4



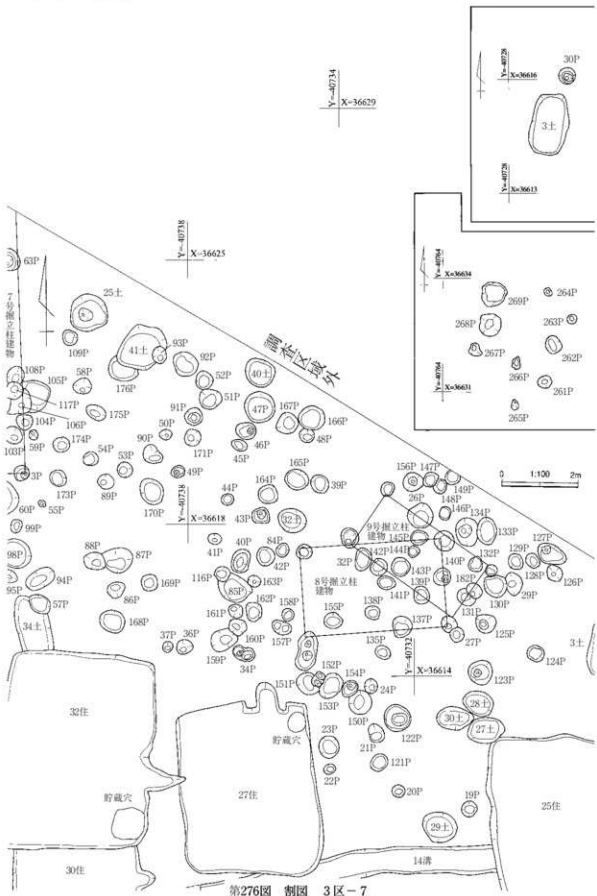
第274図 割図 3区-5

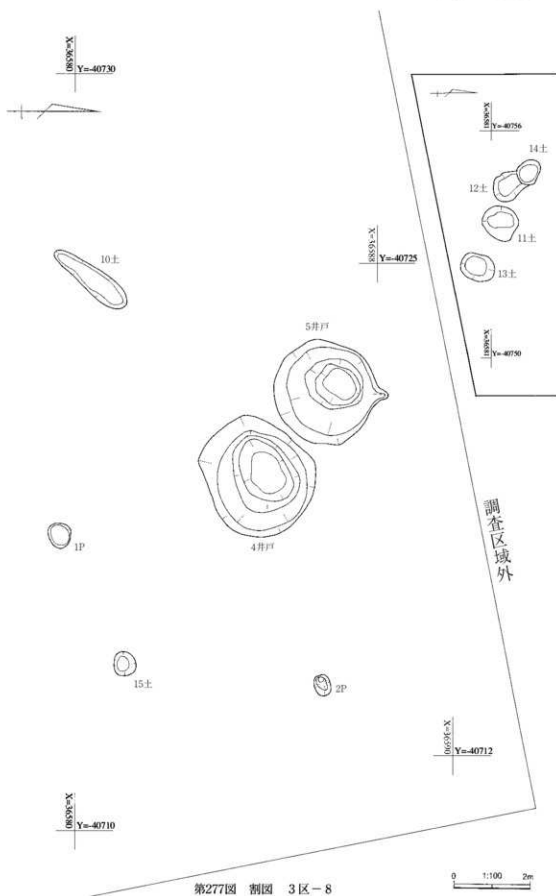
割図3区-6

第4節 1面の調査

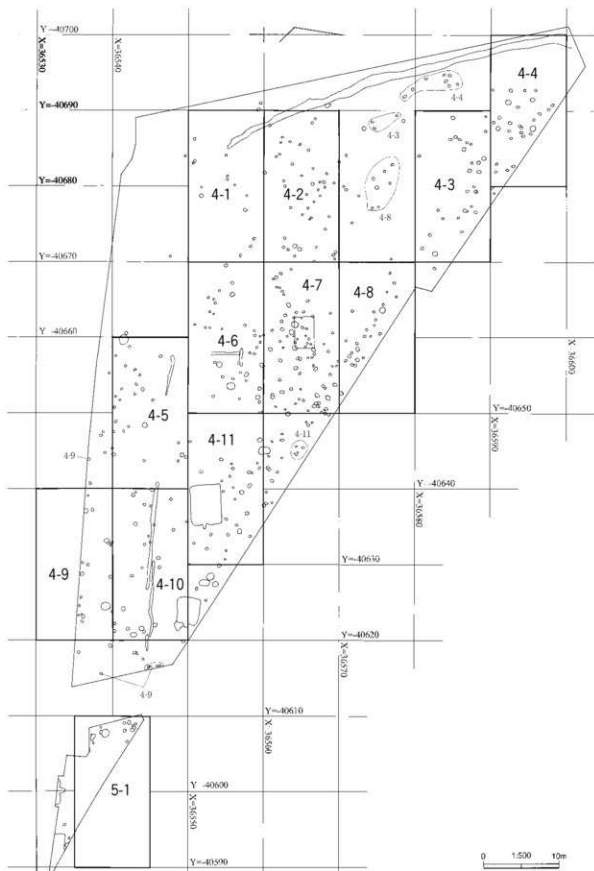


第275図 割図 3区-6





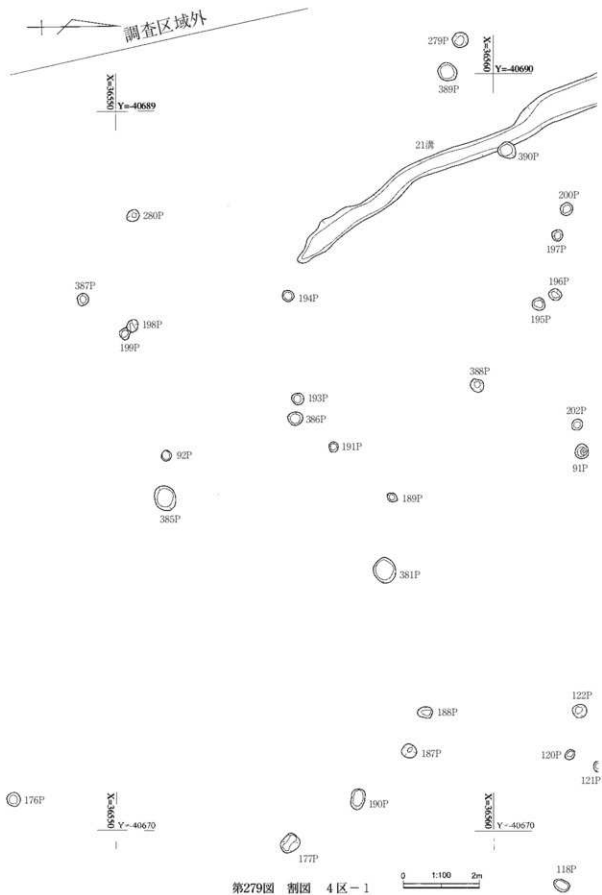
第277図 割図 3区-8



第278図 4・5区割付図 土坑・ピット全体図

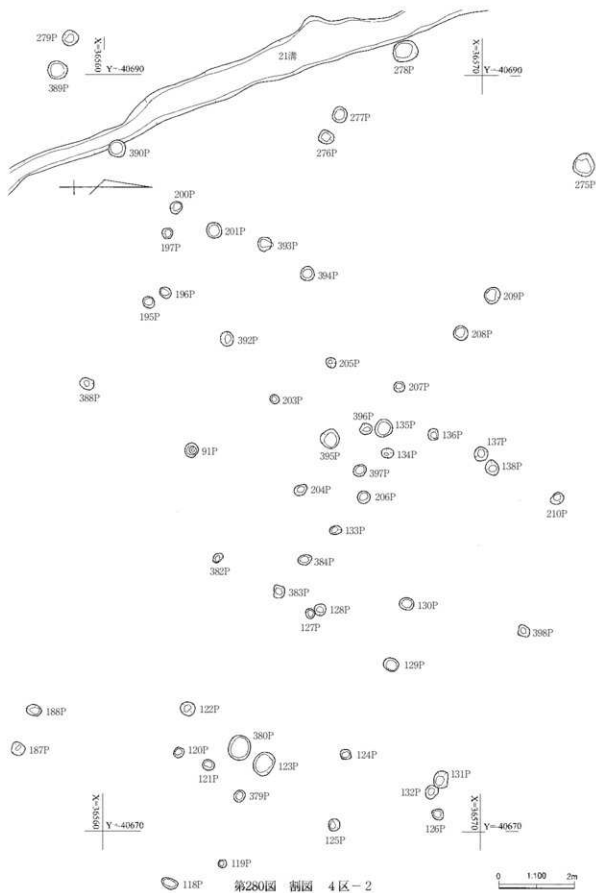
割図4区-1

第4節 1面の調査



第279図 割図 4区-1

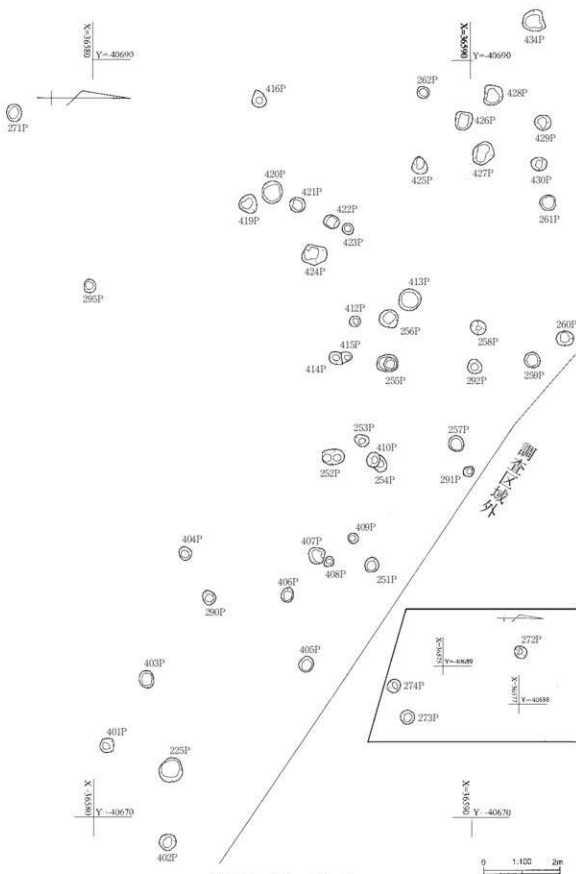




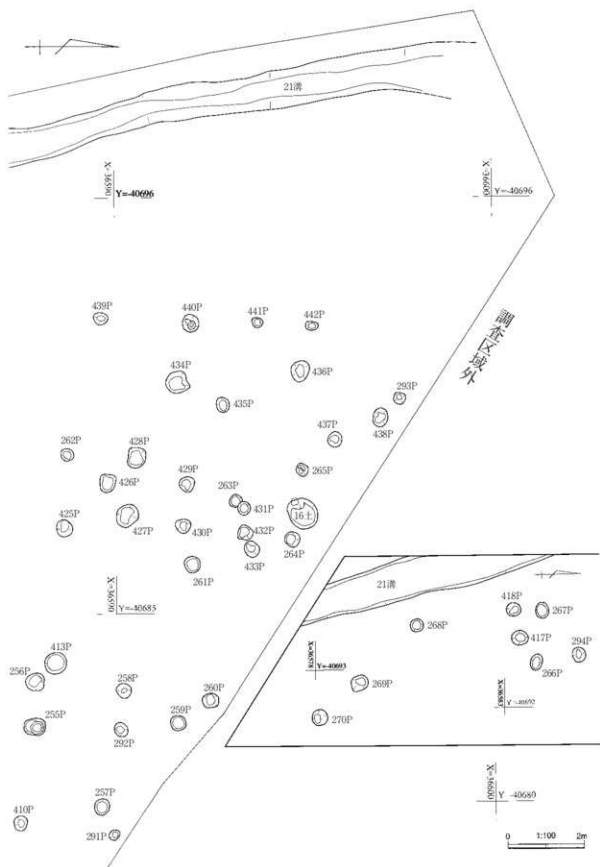
第280図 割図 4区-2

割図 4 区-3

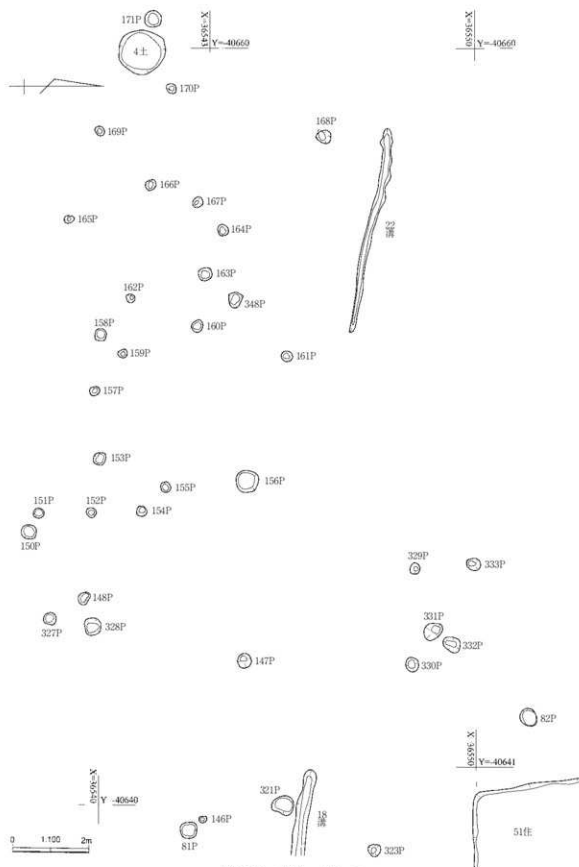
第 4 節 1 面の調査



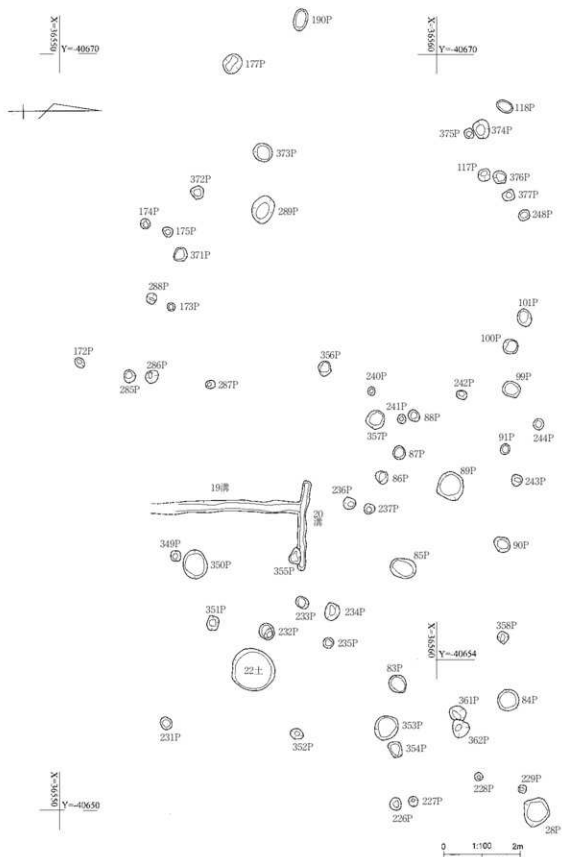
第281図 割図 4 区-3



第282図 割図 4区-4



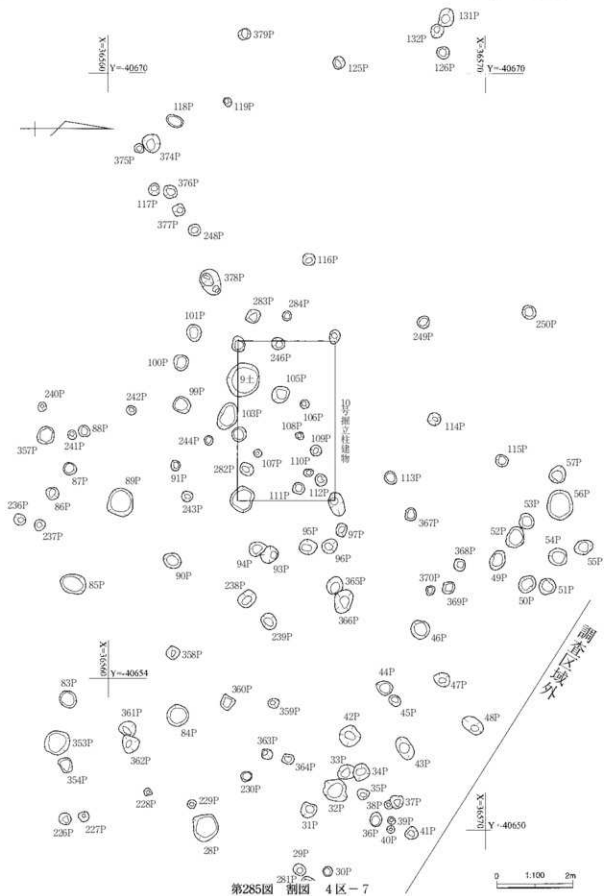
第283图 割图 4区-5



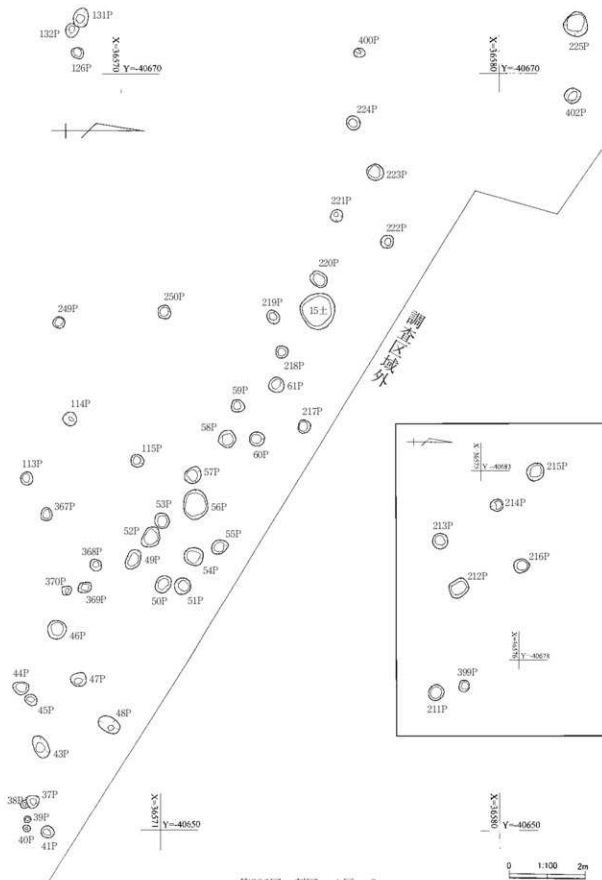
第284図 割図 4区-6

割図4区-7

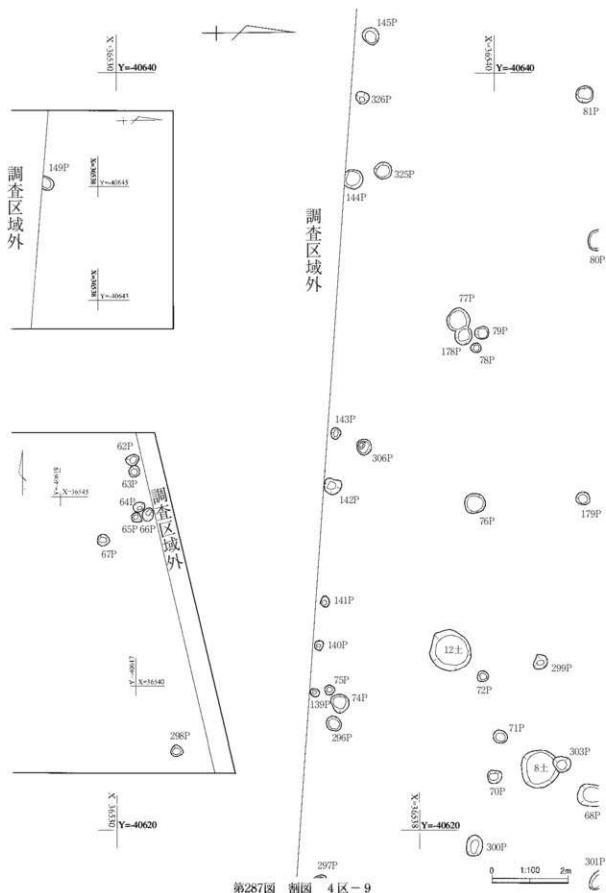
第4節 1面の調査



第285図 割図 4区-7

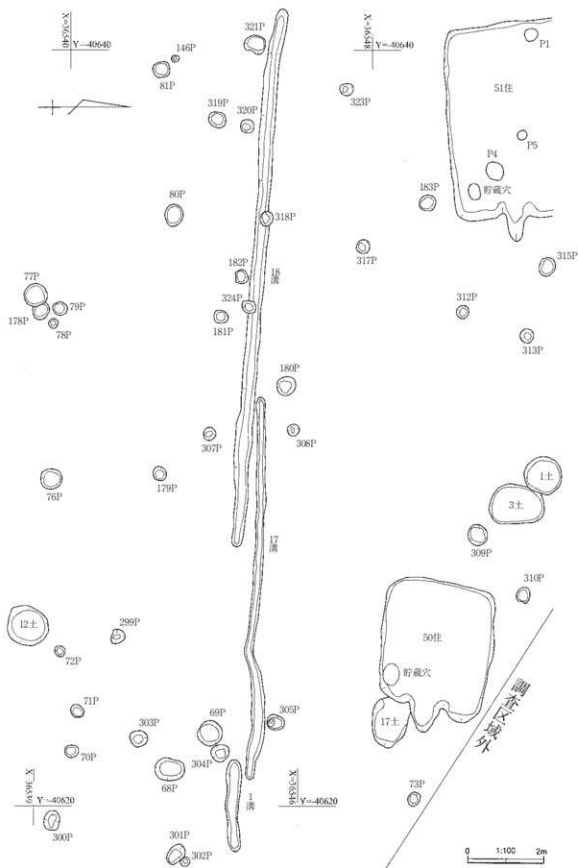


第286図 割図 4区-8



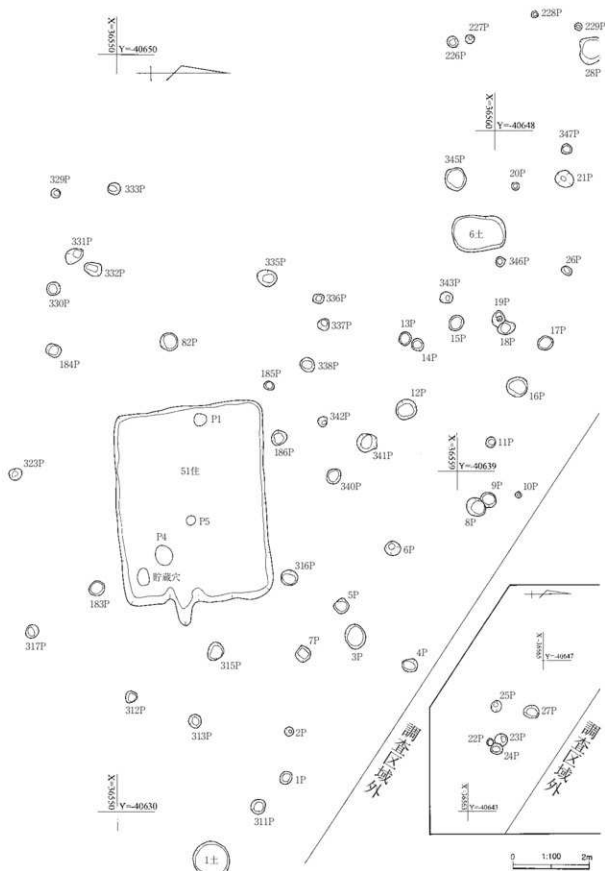
第287図 割図 4区-9





第288図 割図 4区-10

割図 4区-11



第4節 1面の調査



第290図 割図 5区-1

## 7 井戸

## 1号井戸(2区)【第291図 PL.39】

位置 X=36660~36663 Y=-40855~-40858

北西を高位とする緩斜面地に位置する。

重複 4号溝に後出

規模 長軸長 (2.5m) 短軸長 (1.73m)

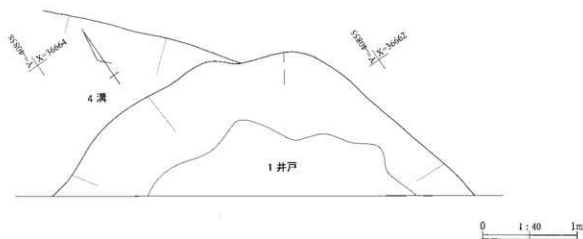
最深部 0.26m

形状 平面形 調査区外へと継続しているため、平面形状の全容は不明。

断面形 記録がないため詳細は不明。

調査所見 1号井戸は、調査区南壁に接して検出さ

れた。およそ遺構全体の半分程の規模が調査されている。4号溝と重複している付近より、礫が集中して出土しているが、出土しているレベルが高いため、どちらの遺構にも伴わないものであると考えられる。井戸を廃棄した後、その埋没過程で生じた窪地状の凹地に、後世において不要となった礫を投棄した痕跡と考えられる。なお、1号井戸からはテラスを形成している平坦面からの立ち上がり付近で、数点、礫が確認されている。その他の遺物は出土していない。1号井戸は、概ね中世以降の所産と考えられる。



第291図 2区1号井戸平面図

## 2号井戸(2区)【第292・293図 PL.39】

位置 X=36658~36662 Y=-40848~-40852

北西を高位とする緩斜面地に位置する。

重複 無し

規模 長軸長 3.78m 短軸長 3.78m

最深部 不明

形状 平面形 部分的に直線部を含んだ、歪みを有する円形。

断面形 上部は逆台形状に徐々に広がり、中位より下部は円筒形状を呈しながら、徐々に狭くなっていく。表面には凹凸がみられ、特に中位以下の円筒状になった壁面は起伏が目立つ。

作業における安全確保のため、底部までの調査に至らなかった。そのため、底面の形状・出土遺物、また中位以下の埋土の堆積状況等に関する詳細は不明である。

調査所見 2号井戸は、1号井戸同様、2区調査区南壁に近接して検出された。開口部より緩やかに傾斜して漏斗状に掘り込まれている。

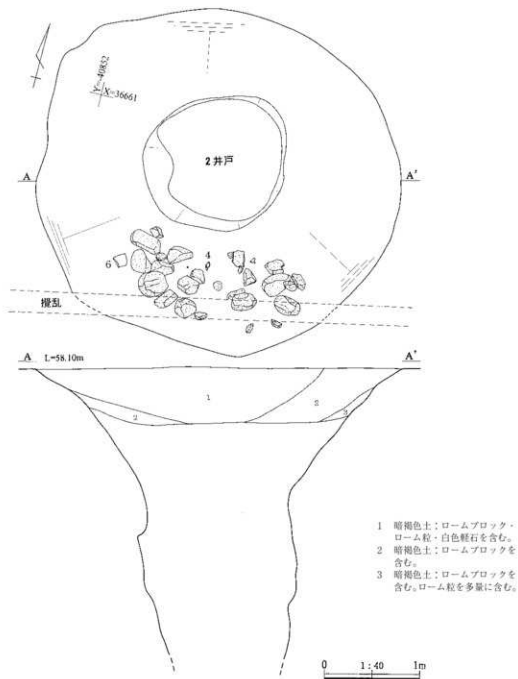
埋土の堆積は漏斗状の口の部分である上層のみにおいて確認されている。埋土は、暗褐色土が主体となっておりほぼ同種の土により堆積したと考えられるが、その混合物に若干の相違がみられ、3層に分層した。ロームブロック・ローム粒・白色軽石等を

第4章 二の宮遺跡

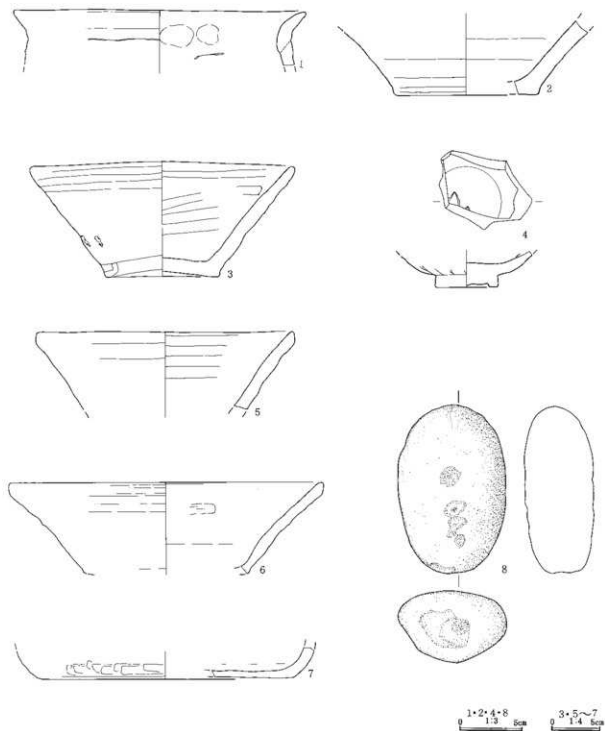
含み、その含有量が若干異なる。また、立ち上がりから円筒状に変化する間の緩斜面上では、多数の礫が出土している。礫の径は約5cm～50cm程で一定していない。特にその出土は南側に集中してみられ、礫に埋もれるように青磁碗の破片と軟質陶器鉢の破片をはじめとした、土器等の遺物が出土している。出土位置が特定の場所に限られていることなどか

ら、礫・出土遺物とも人為的に投げ込まれたと想定される。

2号井戸から出土している遺物は、土釜・軟質陶器鉢・青磁碗・軟質陶器焙烙・凹み石の他、土師器片・須恵器片・軟質陶器片・陶磁器片などである。出土遺物等から、2号井戸は中世以降の所産と想定される。



第292図 2区2号井戸平・断面図



第293図 2区2号井戸出土遺物

3号井戸(2区)【第294図 PL.40】

位置 X=36667~36669 Y=-40855~-40856

北西を高位とする緩斜面地に位置する。

重複 無し

規模 長軸長 1.6m 短軸長 1.49m

最深部 3.42m

形状 平面形 不整形円形

断面形 上部より円筒形状を呈し、底面に達する。中位以下は壁の凹凸が目立つ。上部は東側に若干傾斜がついて、漏斗状を呈する。

調査所見 3号井戸は、2区調査区南壁に近接して検出された。

埋土に関しては、記録が無いため詳細については不明である。調査時、上部で中央付近より礫が出土している。

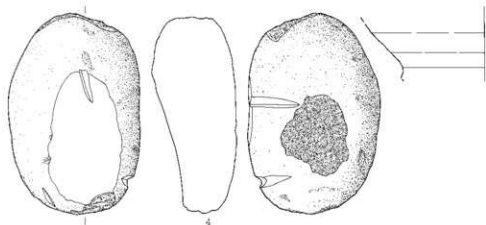
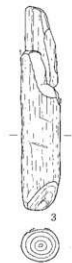
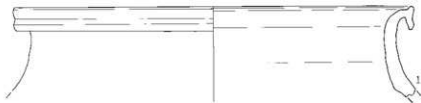
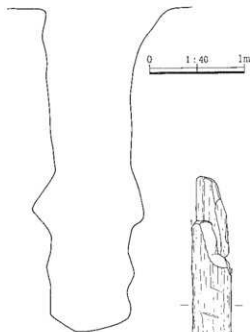
他に3号井戸から出土している遺物は、陶器甕・陶器すり鉢等がみられる。また、土師器片複数、わずかに須恵器片が出土している。

出土遺物より、3号井戸は中世以降の所産と想定される。



A L=58.30m

0 1:40 1m



1:4  
0 1:4 5cm  
2:3  
0 1:3 5cm

第294図 2区3号井戸平面図・エレベーション図・出土遺物

## 4号井戸(3区)【第295図 PL.40】

位置 X=36583~36586 Y=-40717~-40720

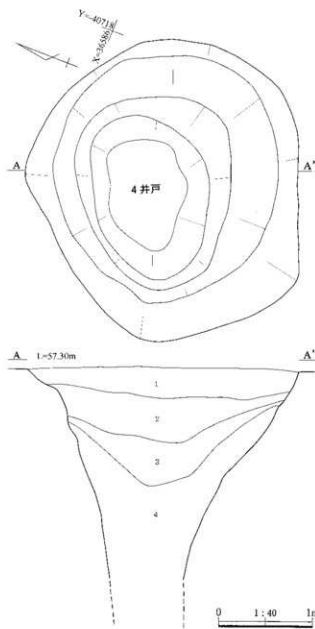
北東を高位とする緩斜面地に位置する。

重複 無し

規模 長軸長3.19m 短軸長2.8m 最深部 不明

形状 平面形 不整円形

断面形 上部は南壁は漏斗状に緩やかに立ち上がり、北壁は南壁よりもきつい傾斜で直線的に立ち上がる。中位以下は円筒形状に掘り下がっていく。



第295図 3区4号井戸平・断面図

調査所見 4号井戸は、3区東側で検出された。南に近接して5号井戸が確認されている。

埋土は、上層は黒褐色土が主体となっており、粘性は弱い。一方下層は、褐灰色土が主体となっており、粘性が強く、主にこの2層により構成されている。

掘削途中、裸層となった地点で湧水が発生しており、完掘せずに調査を終了しているため、底部の形状等について詳細は不明である。

なお、4号井戸から遺物は出土していない。4号井戸が使用された時期に関する詳細については不明である。

## 5号井戸(3区)【第296図 PL.40】

位置 X=36585~36588 Y=-40720~-40722

北東を高位とする緩斜面地に位置する。

重複 無し

規模 長軸長 3.0m 短軸長 2.62m

最深部 1.95m

形状 平面形 不整円形

断面形 上部は漏斗状に緩やかに立ち上がる。中位以下はやや角度をつけて、直線的に掘り下がっていく。

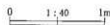
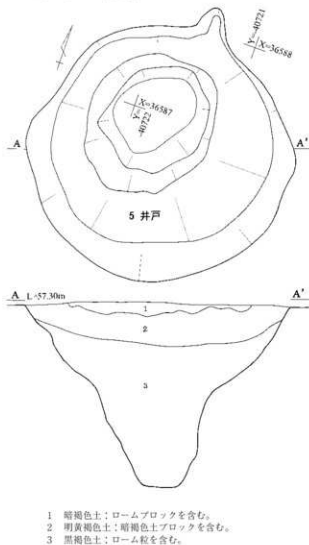
調査所見 5号井戸は、4号井戸に隣接して、3区東側で検出された。

埋土は、上層より暗褐色土・明黄褐色土・黒褐色土となっており、それぞれに混合物が異なっている。2・3層においては、固くしまっており、明黄褐色土は二次的に堆積している様相が見られることから、人為的に投げ込まれた可能性がある。

なお、5号井戸からは、遺物は出土していない。5号井戸が使用された時期に関する詳細については不明である。

- 1 黒褐色土；ロームブロックを含む。
- 2 黒褐色土；ローム粒・炭化物・小石を含む。
- 3 褐灰色土；ローム粒を含む。
- 4 褐灰色土；ロームブロック・ローム粒を含む。





第296図 3区5号井戸平・断面図

6号井戸（3区）【第297図 PL.40】

位置 X=36600～36602 Y=-40739～-40742

北西を高位とする緩斜面に位置する。

重複 無し

規模 長軸長 2.56m 短軸長 2.27m

最深部 不明

形状 平面形 不整形

断面形 複数のテラスを設け、階段状に立ち上がる。

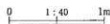
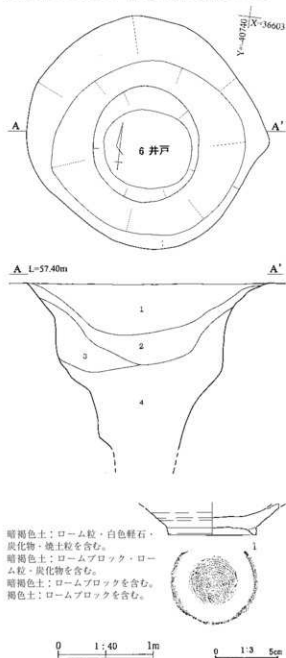
調査所見 6号井戸は住居・土坑・ピットが集中して

いる3区北西部微高地の南側に接して検出された。

埋土は、上層より暗褐色土・褐色土となっており、最上層は周囲の住居の埋土とは同様の土層となっている。

なお、6号井戸からは遺物として、須恵器碗・埴輪片が出土している。

6号井戸が使用された時期については、出土遺物、並びに上層において、周囲の住居とは同様の土層が見られることから、古代の所産と想定される。



第297図 3区6号井戸平・断面図・出土遺物

## 8 その他の遺構

二の宮遺跡第1面では、その他の遺構として3区西側で溜まり状の遺構が確認されており、1号池とした。

## 1号池(3区)【第298・299図 PL.40】

位置 X=36607~36612 Y=-40779~-40787

西を高位とする緩斜面地に位置する。

重複 無し

規模 長軸長 (8.0m) 短軸長 (5.0m)

最深度 (1.88m)

形状 平面形 不整形

断面形 下部より徐々に広がりながら上部に至る。壁は凹凸が激しく、底部まで

調査されていないため、底面の形状に関する詳細は不明である。

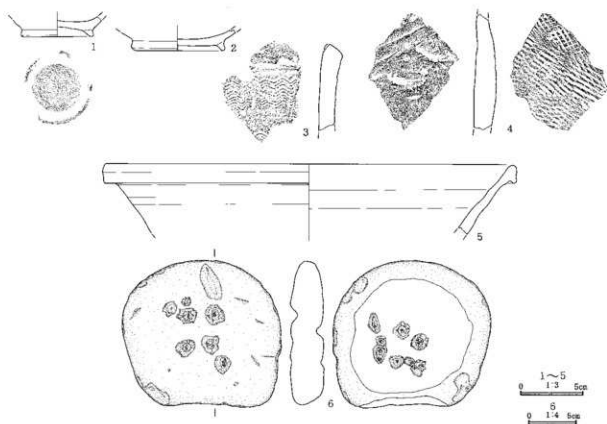
**調査所見** 1号池は3区南側調査区壁に接しており、全体を調査することが出来なかった。また、安全上、底面に至るまで掘削することは出来なかったため、底部に関する詳細は不明である。

埋土は褐灰色土が主体となっており、上層に粘質土、下層に砂質土が多く含まれている。

1号池から出土している遺物は、縄文土器深鉢・須恵器壺・須恵器甕等で、また縄文土器片・土師器片・須恵器片が確認されている。

出土遺物等から、1号池は古代以降の所産と想定される。



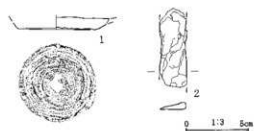


第299図 3区1号池出土遺物

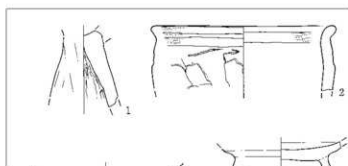
### 9 遺構外出土遺物【第300～305図】

本項に掲載した遺構外出土遺物は、住居などの遺構以外の出土遺物、出土地点不明なもの、表土掘削時に検出されたもの等を一括して取り扱う。出土位

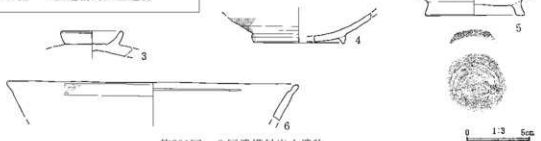
置としてグリッドのみが記録されている遺物も、本項に含めた。ここでは、1区より順次、各区ごとに掲載した。なお、個々の遺物に関する詳細は出土遺物観察表に記してある。

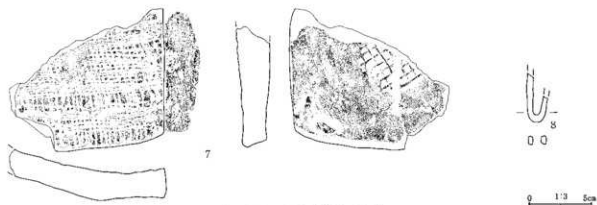


第300図 1区遺構外出土遺物

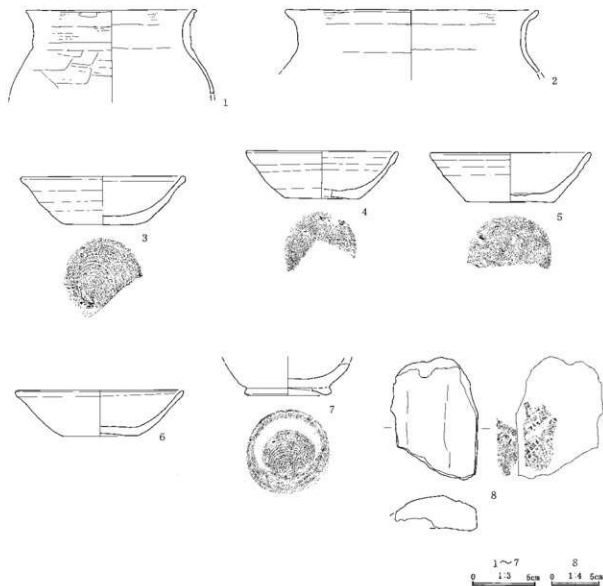


第301図 2区遺構外出土遺物

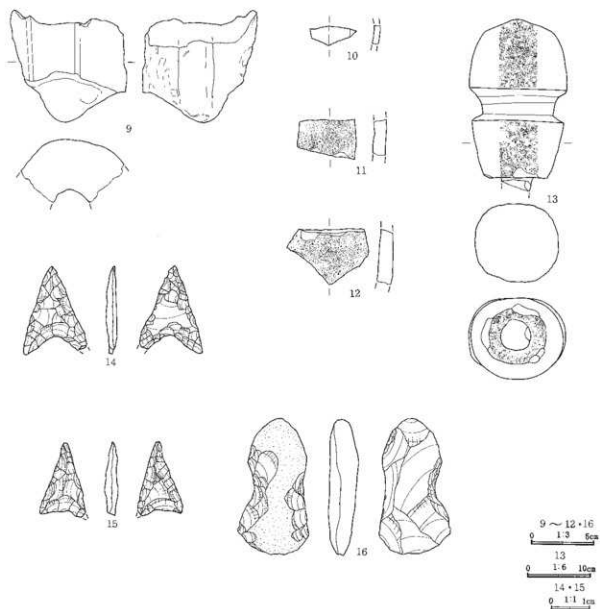




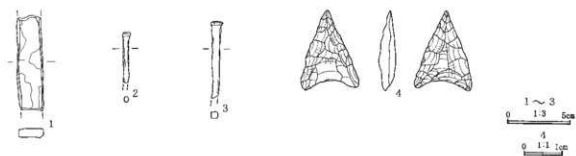
第302図 2区遺構外出土遺物



第303図 3区遺構外出土遺物



第304図 3区遺構外出土遺物



第305図 4区遺構外出土遺物

## 第5節 2面の調査

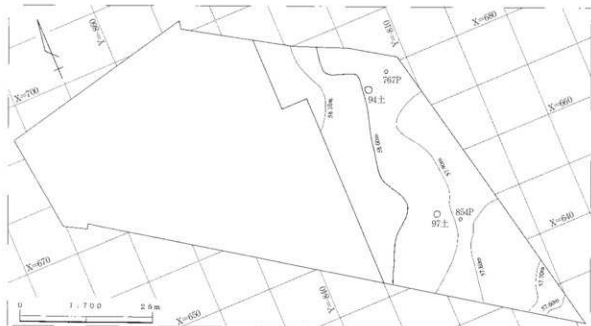
## 1 概要【第306~308図】

2面の調査は1面の調査終了次第、3区→2区→1区→4区→5区の順に実施した。ローム漸移層であるVI層を鍵層とした1面を調査後、作業員の手によりVI層を徐々に掘り下げ、遺物の出土状況と遺構の広がりをとらえていった。2面では、遺物・遺構

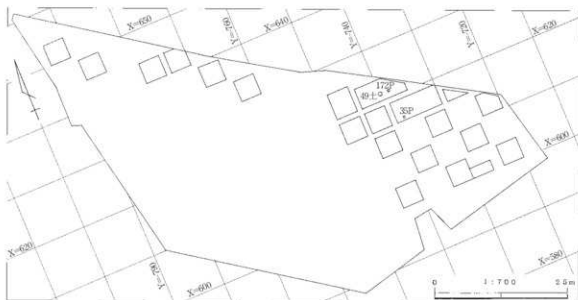
が確認された段階で調査範囲を拡張していく方法をとったため4区では全面調査に及んだが、その他の調査区では一部のみの調査に止まっている。

確認された遺構は、2区で土坑・ピット、3区で土坑・ピット、4区で住居・土坑・ピットである。

4区で確認された54号住居は、本遺跡で確認された唯一の縄文時代の住居で、4区ほぼ中央のわずかに傾斜した平坦面に位置している。



第306図 2面2区遺構全体図



第307図 2面3区遺構全体図



第308図 2面4区遺構全体図

## 2 住居

### 54号住居 (4区)【第309・310図 PL.40】

位置 X=36561~36565 Y=-40656~-40660

54号住居は北西を高位とする緩斜面地に占地している。2面において検出された唯一の住居であり、4区における他の遺構は、54号住居の南側に土坑がわずかに確認されているのみである。

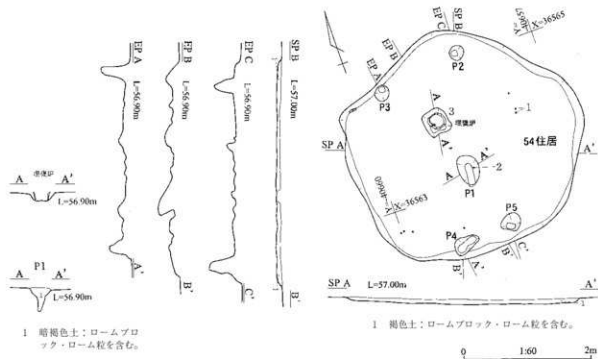
平面形状 不整形円形を呈する。

規模 長軸3.76m 短軸3.56m 壁高0.19m 面積9.4㎡

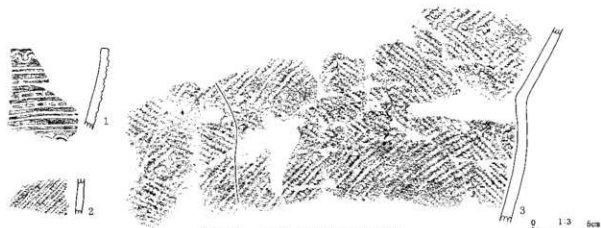
床面 はほぼ平坦である。埋土は褐色土主体土で、ロームブロック・ローム粒を含む単層である。

炉 住居中央北よりに検出された炉は、0.24m×0.28m×0.36mの埋燬炉。深鉢の胴部を利用。

柱穴 形状や大きさから柱穴と思われるP2 (0.23m×0.22m×0.3m)・P3 (0.25m×0.24m×0.38m)・P4 (0.42m×0.22m×0.18m)・P5 (0.34m×0.28m×



第309図 4区2面54号住居掘方平・断面図・エレベーション図



第310図 4区2面54号住居出土遺物

0.36m)を確認した。

**出土遺物** 54号住居からは遺物として、黒浜式の土器片を出土している。

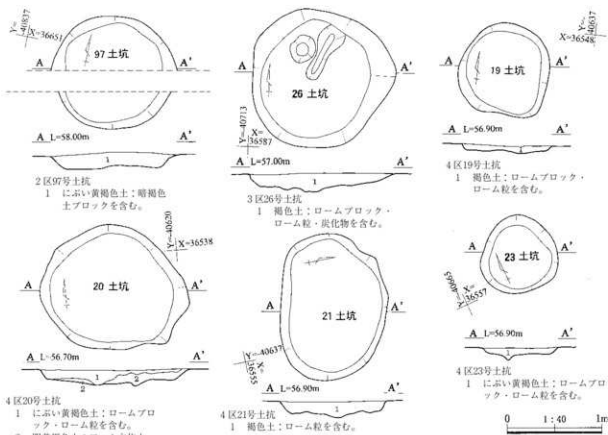
**所見** 出土した遺物から、54号住居の時期は縄文時代前期と思われる。

基、4区で7基、総計10基である。各土坑の番号の付け方は1面の項で説明したとおりである。

1面で検出された古代以降の土坑の平面形状は種々雑多であるのに比べ、2面で検出された縄文時代の土坑に関してはほぼ正円形で統一されている。本項では平面図・断面図・写真等を掲載し、計測値に関しては第3表にまとめて報告した。

### 3 土坑【第311・312図 PL.40・41】

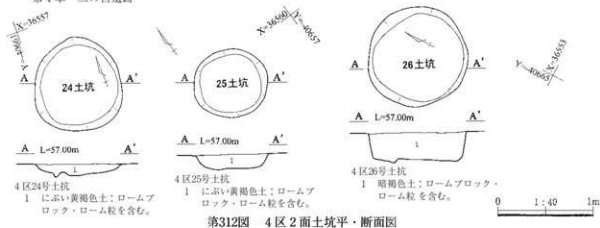
2面で調査された土坑は、2区で2基、3区で1



第311図 2～4区2面土坑平・断面図



第4章 二の宮遺跡



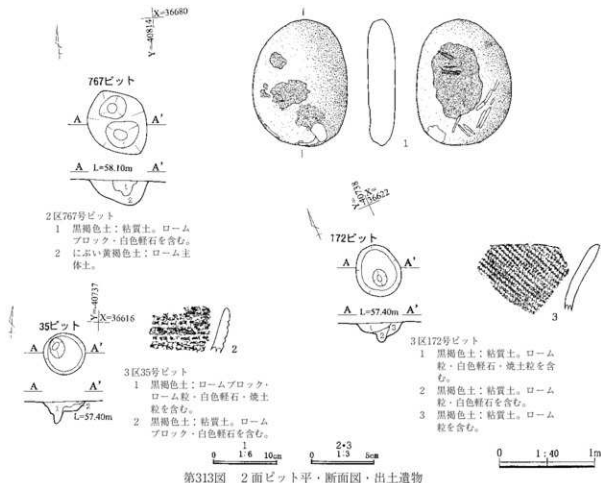
4 ビット【第313図 PL.41・42】

2面で調査されたビットは、2区で2基、3区で2基、4区で5基、総計9基である。各ビットに付与した番号に関しては、1面ビットの項で説明したとおりである。

出土遺物として、2区767号ビットから台石が、3区35号ビット、3区172号ビットからは土器片が出

土している。

その他のビットは出土遺物がなく、時期・性格に関する詳細については不明である。そのため本項では遺物の出土している上記3基のビットについては平面図・断面図・写真を掲載したが、それ以外のビットに関しては計測値のみの報告に止めた。計測値は第4表に記した。

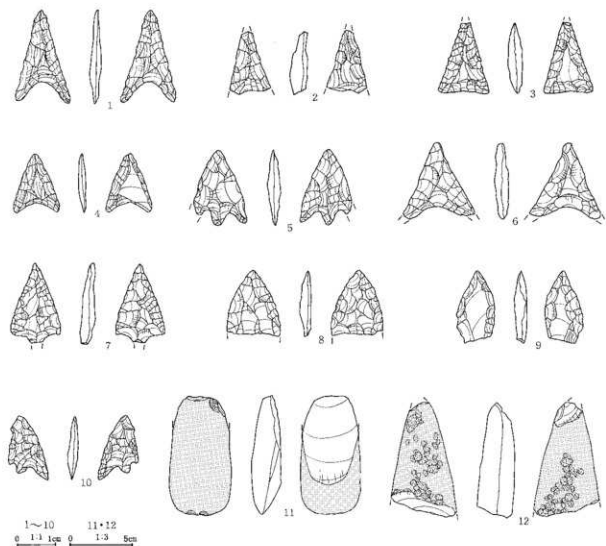
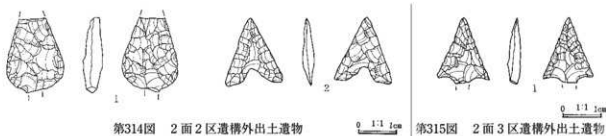


## 5 遺構外出土遺物【第314～316図】

ここに掲載した遺構外出土遺物は、第2面調査時において、住居・土坑・ピット等の遺構以外の包含層より出土した遺物、出土地点不明ものを一括して取り扱う。本項では石鏃を中心とした石器を取り

上げているが、土器に関しては次項でまとめて報告することとした。

ここでは2区より順次、各区ごとに掲載した。なお、個別の遺物に関する詳細は出土遺物観察表(319頁)に記してある。



第316図 2面4区遺構外出土遺物

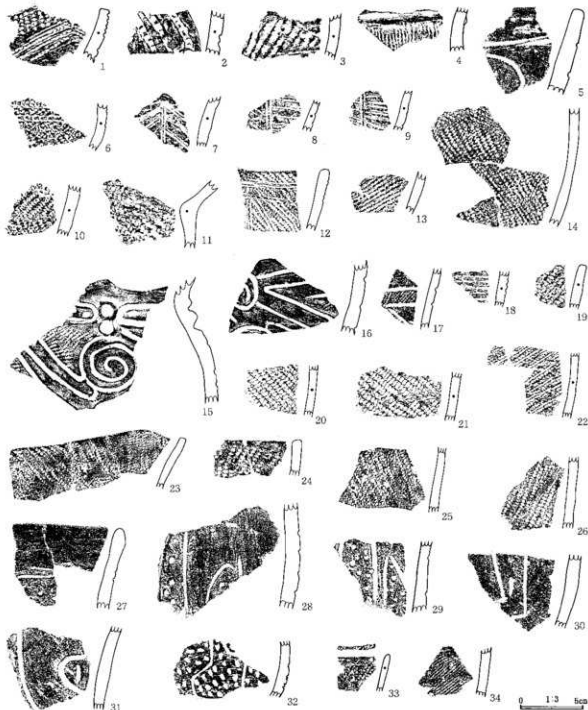
6 縄文時代の遺物【第317図】

本項では、二の宮遺跡全域より出土した縄文時代の土器片を取り扱う。詳細は出土遺物観察表（319頁～321頁）のとおりである。なお利便性を考慮し第1面で出土した遺物に関しても、本項でまとめて取り扱うこととした。

またここで紹介した2面の遺構外より出土した遺

物は、2面で調査された住居・土坑・ピット以外の包含層より出土した遺物、出土地点不明なもの等を一括して取り扱っている。出土位置としてグリッドが記録されている遺物も、本項に含めた。ここでは2区より順に、各区ごとに掲載した。

二の宮遺跡で出土した縄文時代の土器片は、前期前半から後期前半の遺物が中心となっている。



第317図 縄文時代の遺物

## 第6節 自然科学分析

### 1. はじめに

群馬県域に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ(火山砕屑物、いわゆる火山灰)が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、層位や年代が不明な土層や石器が検出された二の宮遺跡においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、テフラ検出分析や屈折率測定を行って指標テフラの層位を把握し、土層の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、3区の605-755グリッド、620-785グリッド、600-740グリッドの3地点である。

### 2. 土層層序

#### (1) 605-755グリッド

605-755グリッドでは、下位より成層した灰褐色砂層(層厚13cm)、黄褐色粘質土(層厚27cm)、灰色砂層(層厚6cm)、黄褐色粘質土(層厚10cm)、灰色砂層(層厚18cm)、白色粒子混じり灰色砂層(層厚25cm)、黄褐色土(層厚14cm)、黄白色軽石に富む黄褐色土(層厚6cm、軽石の最大径2mm)が認められる(図1)。

#### (2) 620-785グリッド

620-785グリッドでは、下位より成層した灰色砂層(層厚10cm以上)、黄色砂質土(層厚6cm)、成層したテフラ層(層厚24.8cm)、黄色土(層厚8cm)、黄灰色粘質土(層厚10cm)、灰色砂層(層厚5cm)、黄灰色砂質土(層厚3cm)、灰色砂層(層厚18cm)が認められる(図2)。これらのうち成層したテフラ層は、下位より灰色細粒軽石層(層厚14cm)、灰色砂質細粒火山灰層(層厚3cm)、桃色粗粒火山灰層(層厚0.4cm)、桃色細粒火山灰層(層厚0.4cm)、黄色粗粒火山灰層(層厚3cm)、桃灰色砂質細粒火山灰層(層厚4cm)からなる。この成層したテフラ層は、その層相から約1.3~1.4万年前\*<sup>1</sup>に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992)に同定される。

#### (3) 600-740グリッド

600-740グリッドで検出された井戸の壁面では、下位より黄灰色シルト層(層厚20cm以上)、灰色シルト層(層厚12cm)、灰色砂層(層厚7cm)、砂混じり灰色シルト層(層厚13cm)、成層した灰褐色砂層(層厚33cm)が認められる(図3)。これらのうち、最上位の成層した灰褐色砂層は、605-755グリッドの最下位の成層した灰褐色砂層に対比される。

### 3. テフラ検出分析

#### (1) 分析試料と分析方法

3区の605-755グリッド、620-785グリッド、600-740グリッドの3地点において、基本的に厚さ5cmごま

たはテフラ層ごとに設定採取された試料のうち、27点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を把握。

## (2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。テフラ検出分析では、軽石やスコリアの粒子は検出されなかった。605-755グリッドでは、試料21より上位の試料で火山ガラスが検出された。ここでは、試料13から試料7にかけて、ほかの層準より多くの火山ガラスが認められたものの、より下位の試料と同じような形態や色調の火山ガラス（無色透明のバブル型や軽石型）が含まれていることから、これらの層準にテフラの降灰層準があると考える。なお土層断面において軽石が肉眼で認められた試料1には、さほど多くの火山ガラスは認められなかった。これは火山ガラスの発泡が良いために風化の程度が進行しており、処理中に消失してしまったものと思われる。

620-785グリッドでは、成層したテフラ層より上位の試料の中に、火山ガラスが多く含まれているものがある。より下位の試料に含まれる火山ガラスは白色や無色透明の軽石型ガラス、上位の試料に含まれるものは、白色や無色透明の軽石型さらに無色透明のバブル型ガラスである。

600-740グリッドでは、試料10より上位から無色透明や白色の軽石型山ガラスを検出できた。試料の中では試料8や試料6に比較的多くの火山ガラスが含まれているものの、テフラの降灰層準を示すほどの顕著な濃集は認められない。

## 4. 屈折率測定

### (1) 測定試料と測定方法

野外において、軽石が多く認められた3区の605-755グリッドの最上位の土層（試料1）について、含まれるテフラ粒子の起源を明らかにするために、温度変化型屈折率測定装置（RIMS2000）により、テフラ粒子とくに斜方輝石の屈折率測定を行った。

### (2) 測定結果

斜方輝石の屈折率（ $\gamma$ ）は、1.705-1.711である。

## 5. 考察

屈折率測定の対象となった605-755グリッドの試料1に含まれる斜方輝石のうち、屈折率が高いものについては、As-YP（ $\gamma$ ：1.707-1.712、町田・新井、1992）に由来すると考えられる。As-YPの斜方輝石の屈折率のレンジより若干低いものについては、その値から、1.9～2.4万年前<sup>\*</sup>に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group、新井、1962、早田、1996、未公表資料）の中・上部や、約1.6～1.7万年前<sup>\*</sup>に浅間火山から噴出した浅間大窪沢第1軽石（As-Ok1、中沢ほか、1984、早田、1996）や浅間大窪沢第2

軽石 (As-Ok2, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996) に由来する可能性が考えられる。

なお、テフラ検出分析により認められた無色透明のバブル型ガラスのほとんどは、その特徴から約2.4～2.5万年前<sup>\*1</sup>に南九州地方の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰 (AT, 町田・新井, 1976, 1992, 松本ほか, 1987, 村山, 1993, 池田ほか, 1995) に由来すると考えられる。

## 6. まとめ

二の宮遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、浅間板鼻黄色軽石 (As-YP, 約1.3～1.4万年前<sup>\*1</sup>) の一次堆積層や、その軽石の濃集層準を検出することができた。

\*1 放射性炭素 (<sup>14</sup>C) 年代。

## 文献

- 新井房夫 (1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
- 池田晃子・奥野 充・中村俊夫・小林哲夫 (1995) 南九州, 始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器<sup>14</sup>C年代。第四紀研究, 34, p.377-379.
- 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義—。科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗 (1987) 始良Tn火山灰 (AT) の<sup>14</sup>C年代。第四紀研究, 26, p.79-83.
- 村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦 (1993) 四国沖ビストンコア試料を用いたAT火山灰噴出年代の再検討—タンタロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の<sup>14</sup>C年代。地質雑, 99, p.787-798.
- 中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦 (1984) 浅間火山, 黒班～前掛期のテフラ層序。日本第四紀学会講演要旨集, no.14, p.69-70.
- 早田 勉 (1996) 関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて—。名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.

(株式会社 古環境研究所)

表1 テフラ検出分析結果

グリッド	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
605-755	1	-	-	-	+	bw>pm	白, 透明
	3	-	-	-	+	bw>pm	透明
	5	-	-	-	+	bw>pm	透明
	7	-	-	-	++	bw>pm	透明
	9	-	-	-	++	bw>pm	透明
	11	-	-	-	++	bw>pm	透明
	13	-	-	-	++	bw>pm	透明
	14	-	-	-	++	bw>pm	透明
	15	-	-	-	+	bw>pm	透明
	16	-	-	-	+	bw>pm	透明
	17	-	-	-	+	bw>pm	透明
	19	-	-	-	+	bw>pm	透明
	21	-	-	-	+	bw, pm	透明
23	-	-	-	-	-	-	
620-785	2	-	-	-	+++	pm>bw	白, 透明
	4	-	-	-	+++	pm>bw	白, 透明
	5	-	-	-	+	pm	透明
	6	-	-	-	++	pm	透明
	8	-	-	-	+++	pm	白, 透明
	10	-	-	-	+++	pm	白, 透明
12	-	-	-	+	pm	白	
600-740	2	-	-	-	+	pm	透明
	4	-	-	-	+	pm	透明
	5	-	-	-	+	pm	透明
	6	-	-	-	++	pm	透明
	8	-	-	-	++	pm	透明
	10	-	-	-	+	pm	白
	12	-	-	-	-	-	-

+++：多い，++：中程度，+：少ない，-：認められない，bw：バブル，pm：軽石型。

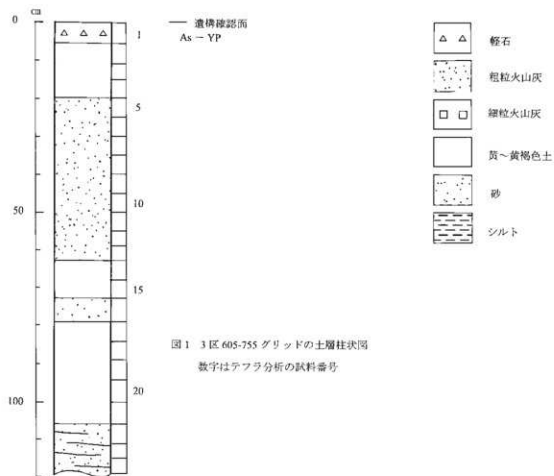


図1 3区605-755グリッドの土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

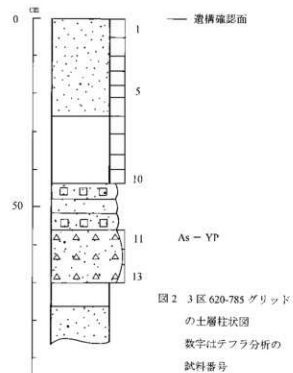


図2 3区620-785グリッドの土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

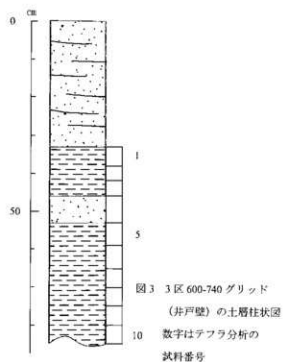


図3 3区600-740グリッド  
(井戸壁)の土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号



## 第5章 まとめ

### 第1節 古水地区の条里研究

群馬県は県西部に屹立する浅間山と、榛名山の過去数度にわたる噴火活動に伴う噴出物によって大地が覆われている。このような自然災害によって埋没した古代の生活跡の一つとして水田や畑があり、そうした遺跡は今日では、被災当時の人々の生活実態を検討する上で重要な資料となっている。中でも特に平安時代の水田について注目すると、天仁元年（1108年）に浅間山から噴出した浅間Bテフラ（As-B）に埋没した水田の発掘調査事例は、昭和48年（1973年）に高崎市下小島地区で初めて調査が実施されて以来増加の傾向をたどり、以後、数多くの報告がなされている。こうして発掘された平安時代の水田遺跡の特徴の一つは、その形状が、当時の耕地区画である条里地割を呈している、と考えられる遺構が確認されていることである。古水条里制水田跡においても、以前より古代における条里地割との関連について研究がなされており、本項ではその概略を以下たどることとする。

本県における条里研究は、1936年、深谷正秋氏によって県内の数カ所に条里制遺構が存在することが指摘されたことを端緒に、続く1960年には三友国五郎氏によって①前橋市・高崎市・伊勢崎市付近、②太田市付近、③吉井町、④藤岡市の県内4地域における調査報告がなされている。この三友氏の調査によって、すでに太田市古水地区は条里地割が存在する地点として注目されている。三友氏の調査方法は、まず文献・地形図より確認できる条里の位置を推定した上で、地形図上にその位置を示し、更に航空写真で検討を重ね条里地割を復元するというものであった。

古水地区における発掘調査は、1986年、太田市教育委員会による、「渡良瀬川流域遺跡群発掘調査」の一貫として実施されたことに始まる。この調査は、土地改良地区内に位置する道路及び水路建設予定地という限られた範囲における発掘調査であったが、

As-B層が広範囲で確認され、その分布域の東限は、現在の地表面に残る条里範囲とほぼ一致することが確認されている。そして発掘調査の結果、水田に伴う遺構としては、耕作土中の人足跡、大畦畔、水路等が検出された。この水田遺構は、畦畔や水路でのAs-Bの堆積状況より、As-B降下直前には確実に水田として機能していたとの所見を得ている。

1991年には『群馬県史』において岡田隆夫氏が、地形図・航空写真等の分析より、現在の古水地区の地割が古代条里地割を継承しているということで、南北4町、東西7町にわたる方格地割が確認できることを指摘している。また、遺跡周辺は交通の要所を控えた地であることに注目し、新田郡から金山と八王子丘陵の鞍部（峯山遺跡付近）を通り、下野国に入る東山道（ここでは東山道を、現在の県道足利・伊勢崎線付近に想定している。なお県道足利・伊勢崎線は本遺跡北側約250mに位置する。）との関連についても言及している。

続く1996年には「太田市史」において梅澤重昭氏が、古水地区と製鉄炉址・須恵器窯址とされる菅ノ沢遺跡との位置関係を分析している。その中で古水地区に見られる条里地割は、「金山北東麓地域の須恵器生産や鉄生産に関係して発達した生産域を背景にして、条里制方形地割の水田が整備されていった」と指摘している。また、「古水」の地名が、地方官衙の中心にあたる郡衙の所在地に由来するものとすれば、古代山田郡衙推定地とされる古水地区において、金山北東麓地域の条里制方形地割が、山田郡の中核地域に施行された条里制土地区画の存在を伝えている可能性が強いとしている。

このように、本県における条里制に関する研究は、その主たる研究方法として、①古地図や地形図・航空写真より条里地割を見出した上で復元、②文献史料による条里施行時の時代背景の把握、③遺跡の発掘調査結果の検討の3点が挙げられる。古水地区における条里研究においても、上記3つの要素を複合的に組み合わせ検証され、研究が進められてきたといえる。

## 第2節 調査の成果

### 1 古水条里制水田跡の土地利用

本遺跡においてはAs-Bの堆積を確認することができた2区・3区・6区のはほぼ全域、ならびに4区の一部で、1面調査時にAs-Bに埋没した遺構を検出することができた。溝・畦畔等、水田に伴う遺構も複数確認され、耕作面と思われる平坦部では耕作痕と思われる落ち込みも見受けられた。このようなAs-Bによって埋没している範囲の土地利用を考えるにあたり示唆的なデータとしては、As-B下土壌のプラント・オパール分析結果がある。本遺跡においては水田耕作に関する検討が主たる目的となるため、主にイネの同定に限定して、プラント・オパール分析を実施した。試料採取地点は2区・3区・6区の3箇所である。その結果、2区・6区からはAs-B下に形成された黒色粘質土層（V層）より高密度のイネが検出された。また残る3区においても、比較的低い数値であるがイネが検出された。3区でイネの密度が低い点に関しては、同層は直上をテフラ層で覆われていることから、上層から後代のものが混入した可能性は考えにくく、よって、同層の時期に調査地点、もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる、との所見を得ている。

以上、プラント・オパール分析の結果、2区・3区・6区の子のすべての採取地点よりイネが検出された。このことから、古水条里制水田跡において水田遺構が確認されたAs-B下層では、稲作が行われていたことが検証された。

高、県西部に位置する藤岡市小野地区水田址遺跡をはじめ他の地域では、As-B下土壌中のイネのプラント・オパール密度が低いという指摘が度々なされているが、本遺跡においてはそうした傾向はみられなかった。しかし、他の地域におけるAs-B下水田で指摘されている、畦畔等の残存状況が良好でない点に関しては本遺跡についても該当する事項であり、このことをどう解釈するのか、今後検討する必要性を感じている。

## 第3節 考察

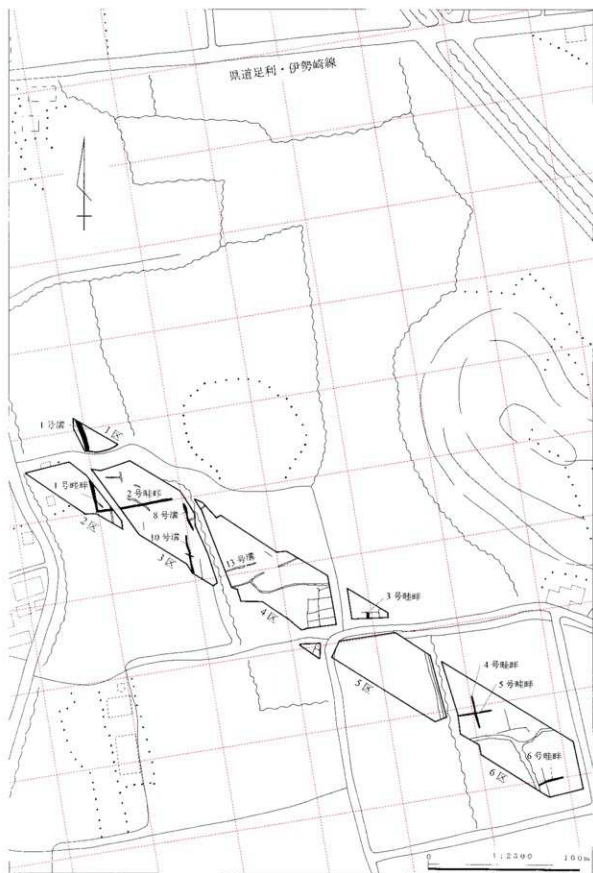
### 1 条里方眼の復元

本遺跡ではAs-Bに埋没した水田より、それに伴う溝・畦畔等の遺構が複数検出されている。そこで検出された遺構の位置を基に、古代条里制との関連を検証するため、条里方眼を復元することとした。その規格は1辺を1町（約109m）の2分の1である半町とした。この条里方眼を遺構全体図に重ねる際に問題となるのが条里方眼の施行基準である。従来は、現地表面に見られる条里地割が、東山道駅路の走向に極めて近く、幹線交通路との関連性を重視して条里地割が計画されたと考えられていたため、条里地割の基準線を東山道駅路と想定していた。ただしこれは、本遺跡の北側約250mに位置している、東西方向に一直線に走る現在の県道足利・伊勢崎線付近を東山道駅路跡と推定していることを前提としている。しかしながら本遺跡の東に位置する八ヶ入遺跡・大道西遺跡・大道東遺跡・鹿島浦遺跡等の発掘調査によって、現時点では東山道駅路は本遺跡の南側を走行し、金山丘陵の北麓付近を通っていたことが妥当であると考えられている。そうしたことから、従来提唱されてきた県道足利・伊勢崎線を古水地区における条里地割の基準線とすることは適当ではないと思われる。

また、大道東遺跡では発掘調査された東山道駅路の側溝と竪穴住居跡との重複関係によって、奈良時代中頃に駅路は廃絶されていたことが確認されている。よって想定される古水条里制水田跡における条里水田の開削時期（平安時代前半。詳細については後述。）と時期差がみられることから、同様に東山道駅路を基準線として条里地割が計画されたとは考えられない。

そこで本遺跡と古代条里制との関連を検討するにあたり、ここでは、検出された遺構の中で最も規模が大きい1号溝・1号畦畔を施行基準とし、条里方眼を設定することとした。（第318図）

この1号溝（1区）と1号畦畔（2区）は、現在



第318図 復元条里方眼との関係

の道路を隔てて位置しているが、それぞれAs-Bによって埋没していることが確認され、またその走向・規模等より、水田耕作に伴う一連の遺構として考えることが可能である。そこで1号溝・1号畦畔を条里地割の南北基準線として設定したところ、その方位は真北から若干、西に傾く結果となった。

なお本項では第318図上で、条里地割との関係を検討する上で必要と思われる畦畔について、北に位置する畦畔から順に、1号畦畔から6号畦畔までの番号を付与した。

## 2 条里地割との関係

前項で復元した条里方眼にAs-B下の水田遺構を重ねたのが、第318図である。第318図より遺構の位置と条里方眼の関係を精査してみると、多少の誤差を考慮に入れたとしても、条里方眼にはほぼ一致する遺構が複数みられることがわかる。

まず2・3区においては、南北方向に位置する1号畦畔とはほぼ直交する形で、2号畦畔が3区へと継続している。検出された2号畦畔の長さはおよそ半町で、その東端付近で周囲の水田面も終息している。2号畦畔東端付近では更に南側に、2号畦畔と直交する形で8号溝・10号溝が確認されている。8号溝・10号溝は東に隣接する微高地に沿っており、この微高地上では水田は確認されていない。こうしたことから2号畦畔との位置関係を勘案すると、この微高地は、幅広の大畦畔と考えることが可能である。8号溝・10号溝はその大畦畔に伴う一連の水田関連遺構としてみるのが自然であろう。

4区においては、13号溝が東西方向に走向しており、条里地割にも近い位置にある。しかし13号溝は、調査時における埋土の状況に関して記録がなく、出土遺物も時期を推定する判断資料として適当ではないため、As-B下水田と同時期の遺構と断定することは適切ではない。一方、4区西側には複数の畦畔が検出されているが、このうち半町を単位とする大区画条里地割に重なるのは、3号畦畔のみである。しかしその他の畦畔も、大区画には重ならなくても、

大区画を更に地割りした小区画に重なる可能性は高いと思われる。

最東端の6区では南北方向の4号畦畔と、それに直交する5号畦畔が半町単位の大区画条里地割とはほぼ一致する様子がうかがえる。さらに南端の6号畦畔も東西方向の大区画条里地割と重なる。更に、6区で検出されたすべての畦畔は、条里方眼の南北・東西方向に平行するものであり、4区同様、大区画を更に地割りした小区画に伴って構築された畦畔であると想定される。

## 3 古水地区における条里水田の施行時期

本遺跡で検出された水田面、及び水田に伴う溝等の遺構は、As-Bによって埋没していることから、As-B降下直前まで、水田として機能していたことが理解できる。一方、水田の開削時期にあたっては、その判断材料として文献による記録や、水田下層において検出された遺構、耕作土中からの出土遺物等より検討しなければならない。

本遺跡ではAs-B層直下の水田耕作土と思われる黒色粘質土（V層）の下層には、Hr-FA混土（VI・VII層）の堆積が確認されている。第1面調査後、順次V層以下を掘り下げていったところ、第2面としてHr-FA混土下において文化層を確認することができた。しかし第2面においては、時代の推定できる遺構は古墳時代の溝が中心となっており、古代条里水田の開削時期に該当すると思われる遺構を確認することはできなかった。

一方、As-B下水田の耕作土中からは、土師器甕・底部回転糸切り痕の見られる須恵器坏・須恵器壺をはじめ、主に平安時代前半の遺物を中心に出土している。また、古水地区の水田経営と関係が深いと思われる、本遺跡に隣接する二の宮遺跡の集落は奈良時代後半からその定着の様相がみられることから、古水条里制水田跡における条里水田の開削時期は、奈良時代後半から平安時代前半と想定できる。こうした仮定が成り立つとすると、古水条里制水田

跡における条里制に伴う水田は、少なくとも平安時代前半からAs-B降下時までのおよそ300年間のいずれかの期間に、耕作が行われていたことが想定できる。

#### 4 現代の地割と条里地割

古水地区の条里研究史を振り返ってみると、条里地割が現代の地形にも反映されていることが、多くの研究者によって論じられている。なかでも岡田隆夫氏は、「金山丘陵の東北の麓大字古水と東の大字矢田堀にかけて、南北四町、東西七町の方格地割りが見られる。矢田堀の小字一丁田が長地的地割りを呈するが、畦畔が直交して長く連なるものではなく、ごく局地的なものである」（『群馬県史』）と報告しているように、太田市古水地区内において現代に残る条里地割の範囲を具体的に指摘している。第319図は、古水地区における土地改良事業が実施される以前の地積図に、「小字一丁田」の範囲を図示し、1町規格の条里方眼を重ねたものである。尚、「小字一丁田」の範囲は、小字名とその区画が記録されている『毛里田村耕地図』を参照にして割り出した。この両者の地図が作成された時期の間では、その区画及び形状にはほとんど差異がみられない。そこで第319図における「小字一丁田」の範囲を確認してみると、南北方向の最大長はほぼ2町半、東西方向の最大長も同様にはほぼ2町半となっており、全体的に1町を基準単位として区画されていることがわかる。そのうち区画東辺に接する中程の約1町四方の区画が、岡田氏の指摘する長地的地割であるとみられる。このように、大区画の形状や小区画の量数に多少の歪みや相違がみられるものの、比較的良好的状態で条里地割が現代の地割に残存していたことが確認できる。

また、古水地区の水田経営に関わっていたと想定される、二の宮遺跡で検出された集落との関係については、今後更に検討していく必要がある。

このことを考えるにあたり、条里地割が集落の遺構に与える影響について、京都府北宮津市に位置

する難波野条里制遺跡における事例が参考になると思われる。難波野条里制遺跡は、本遺跡同様、遺跡周辺における現在の農道や水田畦畔に、およそ1町四方の方形区画が認められており、条里施行に伴う条里制地割の可能性が指摘されてきた。発掘調査は財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターによって平成14年度から6年間実施され、その結果、周辺に古代～中世にかけての集落遺跡が展開していることが判明した。なかでも、トレンチ調査によって検出された掘立柱建物をはじめ、楯列・溝などの遺構が条里制地割の方位に近いものが多く確認されている。古水条里制水田跡に隣接する二の宮遺跡においても同時期と考えられる集落が確認されていることから、条里制地割を水田関連遺構との関係だけでなく、その周辺にまで視点を広げ、集落における遺構の立地等に与えた影響についても、今後検証していく必要があると思われる。

#### 参考文献

- 石塚久則 1996 「考古資料Ⅸ 毛里田地区」『太田市史』資料編 原始古代  
 梅澤重昭 1996 「第四節 条里水田の遺構と集落」、「第四節 三 水田の条里水田址」『太田市史』通史編 原始古代  
 太田市教育委員会 1988 「渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報」  
 岡田隆夫 1991 「特論 上野国の条里制」『群馬県史 通史編2 原始古代2』  
 群馬県教育委員会文化財保護課 1975 「上越新幹線地城埋蔵文化財発掘調査概報1」  
 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 2007 「難波野条里制遺跡・難波野遺跡」  
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 「小野地区水田址遺跡(社宮司B地点)・谷地遺跡F地点」  
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000 「甘楽条里遺跡(大山前地区)・福島橋森遺跡」  
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 「西田遺跡・村中遺跡」  
 三友国五郎 1959 「関東地方の条里」『埼玉大学紀要 社会科学編(歴史学、地理学)』



第319図 現代の地割と条里地割

第5表 二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①11層 ②夷層 ③高さ (cm)	①土粒 ②構成 ③色調	形状・形状等の特徴
9000-1 PL-43	1号住居	土器器 坏	掘方埋土	1/4	① (138) ② - ③ (35)	①砂粒含む ②酸化腐 ③橙5YR6-6	口縁部へう崩り。口縁部やや内湾する。
9000-2 PL-43	1号住居	土器器 坏	掘方埋土	口縁～底部	① (140) ② - ③ (32)	①細葉 ②酸化腐 ③①に比べ粗7.5YR5/4	体部外面へう崩り。口縁部外面積ナシ。
9000-3 PL-43	1号住居	土器器 坏	掘方埋土	1/4	① (137) ② - ③ (31)	①砂粒含む ②酸化腐 ③明赤褐5YR5-6	体部外面へう崩り。口縁部外面積ナシ。口縁わずかに外反する。
9000-4 PL-43	1号住居	土器器 坏	カマド掘方埋土	1/3	① (124) ② - ③ (37)	①小礫含む ②酸化腐 ③橙5YR6-6	丸底。体部外面へう崩り。口縁部積ナシ。
9000-5 PL-43	1号住居	土器器 坏	埋土下層	1/3	① (130) ② - ③ (40)	①砂粒含む ②酸化腐 ③明赤褐5YR5-6	丸底。外面へう崩り。口縁部積ナシ。
9000-6 PL-43	1号住居	土器器 坏	埋土下層	4/5	①138 ② - ③36	①小礫・白色粒含む ②酸化腐 ③橙5YR6-6	丸底。体部外面へう崩り。口縁部外面積ナシ。口縁は直立気味に立つ。
9000-7 PL-43	1号住居	土器器 坏	掘方埋土	口縁部一部 欠損	①121 ② - ③40	①小礫含む ②酸化腐 ③明赤褐7.5YR5/6	丸底。底部内面調整。体部外面へう崩り。口縁部積ナシ。
9000-8 PL-43	1号住居	土器器 坏	カマド埋土	口縁部片	① (121) ② - ③ (26)	①石英・白色粒含む ②酸化腐 ③明赤褐2.5YR5/8	器面磨光。口縁部外面積ナシ。
9000-9 PL-43	1号住居	土器器 器	埋土下層	口縁～胴部	① (254) ② - ③ (87)	①砂粒・白色粒含む ②酸化腐 ③橙5YR6-6	器面磨光。体部外面へう崩り。口縁部積ナシ。
9000-10 PL-43	1号住居	土器器 器	埋土下層	口縁部 1/2	① (250) ② - ③ (130)	①小礫・荒い砂粒含む ②酸化腐 ③橙2.5YR6-6	器面磨光。体部外面積位。ハケ目有り。口縁部積ナシ。
9000-11 PL-43	1号住居	土器器 器	カマド掘方埋土	口縁部片	① (217) ② - ③ (122)	①砂粒・白色粒含む ②酸化腐 ③橙7.5YR6-6	器面磨光。胴部積ナシ。口縁部積ナシ。
9000-12 PL-43	1号住居	土器器 器	埋土下層	口縁部片	① (214) ② - ③ (88)	①砂粒・白色粒含む ②酸化腐 ③橙5YR6-6	器面磨光。体部上位積位へう調整。口縁部積ナシ。
9000-13 PL-43	1号住居	土器器 器	埋土下層	口縁部 1/2	① (260) ② - ③ (70)	①小礫・荒い砂粒含む ②酸化腐 ③明赤褐5YR5/6	器面磨光。胴部外面積位。ハケ目有り。口縁部積ナシ。
9100-14 PL-43	1号住居	土器器 器	カマド掘方埋土	底部片	① - ② (69) ③ (61)	①小礫・荒い砂粒含む ②酸化腐 ③灰黄褐10YR4/2	器面磨光。体部下位積位へう崩り。
9100-15 PL-43	1号住居	土器器 器	掘方埋土	底部片	① - ② (66) ③ (47)	①小礫・荒い砂粒含む ②酸化腐 ③明赤褐2.5YR5/6	器面磨光。底部より直線的に大きく開く。
9100-16 PL-43	1号住居	土器器 器	掘方	胴部～胴部	① - ② - ③ (145)	①砂粒含む ②酸化腐 ③明赤褐5YR5-6	接合部有り。体部外面積位～積位へう崩り。器厚は薄い。
9100-17 PL-43	1号住居	須恵器 坏	埋土中層	1/3	① (142) ② (95) ③44	①小礫・白色粒含む ②還元腐 ③灰N4/0	回転へう切り。底部は厚みをもち、中央部付込が最も厚くなる。
9100-18 PL-43	1号住居	須恵器 坏	掘方埋土	口縁～底部	① (146) ② - ③ (22)	①白色粒含む ②還元腐 ③灰7.5Y5/1	回転へう切り。
9100-19 PL-43	1号住居	土器器 器	埋土	底部片	① - ② - ③ (30)	①小礫・荒い砂粒含む ②酸化腐 ③明赤褐5YR5/6	器面磨光。
9100-20 PL-43	1号住居	須恵器 器	掘方埋土	組み部	① - ②組み部49 ③ (13)	①白色粒含む ②還元腐 ③灰7.5Y4/1	外縁部一部欠損。扁平で内側中央部が凹んだ環状の組み。
9100-21 PL-43	1号住居	須恵器 器	掘方埋土	組み部	① - ②組み部41 ③ (10)	①赤色粒含む ②還元腐 ③暗R2N3/0	扁平で内側中央部が凹んだ環状の組み。
9100-22 PL-43	1号住居	須恵器 器	掘方埋土	口縁部片	① (151) ②組み部- ③ (13)	①砂粒含む ②還元腐 ③灰10Y6/1	天井部から口縁部に至る部分に平坦面を持つ。底部は外側に開く。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①口径 ②底径 ③高さ (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	形状・装形等の特徴
91R-23 PL.43	1号住居	須恵器 甕	カマド裡 土	口縁部片	① (154) ②幅み部 - ③ (118)	①砂粒・黒色粒含む ②還元焰 ③灰白5Y6/1	底部は緩やかにやや外側に開く。底部一部欠損。
91R-24 PL.43	1号住居	須恵器 甕	瓶方裡土	口縁部片	① (175) ②幅み部 - ③ (113)	①砂粒含む ②還元焰 ③灰白5Y8/2	器面準直。底部は緩やかにやや外側に開く。天井部端部はやや外側に張り出す。
91R-25 PL.43	1号住居	須恵器 甕	裡土下層	1/3	① (160) ②幅み部3/4 ③23	①白色粒含む ②還元焰 ③黄灰2.5Y6/1	器面準直。ボタン状の縄状編みを持つ。口縁部は緩やかに外側に開く。
91R-26 PL.43	1号住居	須恵器 甕	裡土	口縁～底部	① (148) ② (78) ③ (16)	①白色粒含む ②還元焰 ③灰7.5Y6/1	底部は外側に広く開く。底部は丸みをおびている。
91R-27 PL.43	1号住居	須恵器 甕小	瓶方裡土	胴部片	① - ② - ③ (9.4)	①白色粒含む ②還元焰 ③灰5Y5/1	明き整形。外面平行円形。内面定て具は青海流文。
94R-1 PL.44	2号住居	土器器 坏	瓶方裡土	1/4	① (163) ② - ③5.3	①小礫・砂粒含む ②酸化焰 ③にふい青釉5Y8/4	丸底。底部外面へう張り。口縁部横ナズ。
94R-2 PL.44	2号住居	土器器 坏	瓶方裡土	2/3	① (128) ② - ③3.4	①砂粒含む ②酸化焰 ③釉5Y8/6	丸底。底部外面へう張り。口縁部横ナズ。
94R-3 PL.44	2号住居	土器器 坏	瓶方裡土	1/4	① (16.4) ② - ③ (4.9)	①砂粒含む ②酸化焰 ③明赤釉2.5Y8.5/6	丸底。底部外面へう張り。内面へう張り。口縁部横ナズ。
94R-4 PL.44	2号住居	土器器 坏	裡土	口縁～底部	① (11.4) ② - ③ (3.5)	①白色粒含む ②酸化焰 ③明赤釉5Y8.5/6	丸底。底部外面へう張り。口縁部横ナズ。
94R-5 PL.44	2号住居	土器器 甕	裡土中層	口縁部片	① (20.7) ② - ③ (5.2)	①砂粒含む ②酸化焰 ③明赤釉5Y8.5/8	器面準直。口縁部横ナズ。胎土は軟密。
94R-6 PL.44	2号住居	土器器 甕	瓶方裡土	口縁部片	① (20.0) ② - ③ (2.1)	①砂粒含む ②酸化焰 ③明赤7.5Y8.5/6	器面準直。口縁部横ナズ。
95R-7 PL.44	2号住居	土器器 甕	裡土	口縁部片	① (29.4) ② - ③ (3.5)	①小礫・白色粒含む ②還元焰 ③にふい黄釉10Y8/4.3	口縁部端部横ナズ。
95R-8 PL.44	2号住居	須恵器 坏	裡土中層	底部～底部	① - ② (4.0) ③ (2.5)	①砂粒を含む ②酸化焰 ③灰5Y5/1	器面準直。胴縁へう張り。
95R-9 PL.44	2号住居	須恵器 甕	裡土	口縁部片	① (15.8) ②幅み部 - ③ (1.9)	①白色粒含む ②還元焰 ③灰10Y6/1	天井部端部はやや外側に張り出す。
95R-10 PL.44	2号住居	須恵器 甕	裡土	破片	① (15.4) ②幅み部 - ③ (1.8)	①黒色粒含む ②還元焰 ③灰白2.5Y7/1	底部はやや外側に開く。
95R-11 PL.44	2号住居	須恵器 甕	裡土	破片	① - ②幅み部 (4.5) ③ (1.9)	①黒色粒含む ②還元焰 ③灰赤2.5Y7/2	内側が凹み編みを持つ。天井部に沈線を施す。
95R-12 PL.44	2号住居	須恵器 甕	裡土	底部片	① - ② (10.0) ③ (4.6)	①小礫含む ②還元焰 ③灰NS-0	器面準直。胎土に粗砂。小礫が目立つ。
95R-13 PL.44	2号住居	須恵器 埴	裡土	底部片	① - ② (9.8) ③ (1.6)	①黒色粒含む ②還元焰 ③灰白5Y7/1	器面準直。胎付け高台。高台端部の欠損が大きい。
95R-14 PL.44	2号住居	筒状土製品	裡土	不明	① - ② - ③ (4.8)	①小礫・砂粒含む ②酸化焰 ③釉10Y8/4	器面準直。外面縦位へう張り。内面未調整。輪積み状残る。
95R-15 PL.44	2号住居	筒状土製品	裡土	不明	① - ② - ③ (6.1)	①小礫・砂粒含む ②酸化焰 ③明赤7.5Y8.5/6	器面準直。外面縦位へう張り。内面未調整。輪積み状残る。
95R-1 PL.44	3号住居	土器器 坏	裡土	1/4	① (13.0) ② - ③ (3.7)	①砂粒含む ②酸化焰 ③橙2.5Y8.6/6	器面準直。丸底。底部外面へう張り。口縁部横ナズ。
95R-2 PL.44	3号住居	土器器 坏	裡土	口縁～底部	① (14.2) ② - ③ (3.5)	①砂粒含む ②酸化焰 ③橙2.5Y8.6/8	器面準直。丸底。底部外面へう張り。口縁部端部横ナズ。



二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①材質 ②形状 ③高さ (cm)	①土粒 ②構成 ③色調	形状・装飾等の特徴
9600-3 PL.44	3号住居	土師器 壺	雑土	口縁部片	① (278) ② - ③ (28)	①小礫含む ②酸化腐 ③黒褐色YR3/1	口縁部横ナデ。
9600-4 PL.44	3号住居	土師器 壺	雑土	胴部片	① - ② - ③ (7.0)	①小礫・砂粒含む ②酸化腐 ③黒褐色10YR3/2	外面縦位へウ張り。内面接合痕有り。
9700-1 PL.44	4号住居	土師器 壺	雑土下層	胴部片	① - ② - ③ (135)	①粗砂粒含む ②酸化腐 ③暗褐色5YR3/3	器面磨滅。底部外面縦位へウ張り。接合痕残る。
9700-2 PL.44	4号住居	鉄滓	瓶方雑土		①長さ3.4 ②幅2.2 ③厚さ1.6	①重量16.5g ②磁者度3 ③メタル成分化	塊形磁治滓。扁平。表面は粗土質粘結物主体。上面はやや流動状。上面から下面にかけて含鉄部あり。
9800-1 PL.44	5号住居	須恵器 杯	瓶方雑土	底部片	① - ② (5.0) ③ (2.4)	①細密・小礫含む ②酸化腐 ③明赤褐色2.5YR5/6	回転糸切り後。回転へウ張り。
9800-2 PL.44	5号住居	須恵器 埴	カマド側 方雑土	口縁部片	① (14.4) ② - ③ (3.7)	①小礫・砂粒含む ②還元腐 ③灰黄褐色10YR6/2	器面磨滅。
9800-3 PL.44	5号住居	須恵器 埴	瓶方雑土	口縁～底部	① (12.0) ② - ③ (3.8)	①黒色粒含む ②還元腐 ③灰黄褐色2.5Y6/2	口縁部わずかに外側に外反する。
9900-4 PL.44	5号住居	須恵器 埴	カマド側 方雑土	口縁部片	① (13.6) ② - ③ (3.2)	①黒色粒含む ②還元腐 ③に赤い黄褐色10YR7/4	口唇部は厚みを増し、外側に傾く。
9900-5 PL.44	5号住居	須恵器 埴	瓶方雑土	底部片	① - ② (6.8) ③ (3.1)	①黒色粒含む ②還元腐 ③に赤い褐色2.5YR7/4	器面磨滅。貼付け高台。高台外面横ナデ。
9900-6 PL.44	5号住居	須恵器 小壺	瓶方雑土	口縁部片	① (10.8) ② - ③ (4.3)	①砂粒含む ②中性腐 ③に赤い褐色2.5YR5/4	ロクロ整形。胴部でわずかに湾曲する。
10100-1 PL.44	6号住居	須恵器 杯	カマド側 方雑土	1/4	① (11.6) ② (6.2) ③ 3.7	①砂粒含む ②酸化腐 ③暗2.5YR4/6	ロクロ整形。回転糸切り。口縁部外側に縦やかに傾く。腰部の張り強い。
10100-2 PL.44	6号住居	土師器 土壺	雑土上層	底部片	① - ② (10.0) ③ (4.1)	①小礫・粗砂粒・赤色粒含む ②酸化腐 ③赤褐色5YR4/6	器面磨滅。底部接合痕有り。吉井産か。整形粗雑。
10100-3 PL.44	6号住居	土師器 土壺	雑土下層	胴部～底部	① - ② (6.2) ③ (14.2)	①小礫・粗砂粒含む ②酸化腐 ③明赤褐色5YR3/3	外面斜位～縦位へウ張り。内面接合痕残る。
10400-1 PL.44	8号住居	土師器 羽茶	雑土上層	口縁～胴部	① (18.5) ② - ③ (5.2)	①細密 ②還元腐 ③灰黄褐色10YR4/2	器面磨滅。口縁部横ナデ。
10400-2 PL.44	8号住居	土師器 羽茶	雑土	口縁～胴部	① (17.9) ② - ③ (6.0)	①小礫含む ②酸化腐 ③浅黄褐色10YR8/4	口縁部横ナデ。口唇部端部に平坦面を持つ。
10400-3 PL.45	8号住居	土師器 羽茶	雑土下層	口縁～胴部	① (20.7) ② - ③ (15.2)	①小礫・白色粒含む ②中性腐 ③暗2.5YR6/6	器面磨滅。底部外面中位縦位へウ張り。口縁部横ナデ。
10400-4 PL.44	8号住居	土師器 羽茶	雑土下層	口縁～胴部	① (23.8) ② - ③ (5.1)	①白色粒含む ②中性腐 ③灰黄褐色2.5Y7/2	器面磨滅。口縁部横ナデ。
10400-5 PL.45	8号住居	須恵器 円面埴	雑土	底部片	①長さ (6.5) ②幅 (3.9) ③厚さ1.0	①砂粒含む ②還元腐 ③灰白5Y7/1	透かし。別棟有り。
10400-6 PL.44	8号住居	須恵器 埴	雑土上層	底部～底部	① - ② (8.3) ③ (3.1)	①小礫含む ②還元腐 ③灰褐色2.5YR4/2	貼付け高台。貼付け後、調整痕残る。
10400-7 PL.45	8号住居	土製品 土埴	雑土下層	定形	①長さ2.8 ②幅0.8 ③厚さ1.0	①白色粒含む ②還元腐 ③暗赤10YR5/1	器面磨滅。端部に平坦面有り。
10400-8 PL.45	8号住居	土製品 土埴	雑土中層	定形	①長さ2.8 ②幅2.2 ③厚さ1.0	①細密 ②還元腐 ③オリーブ黒10Y3/1	器面磨滅。長軸にゆがみ有り。端部に平坦面有り。
10400-9 PL.45	8号住居	灰輪陶器 皿	雑土下層	口縁～底部	① (13.2) ② (6.9) ③ 2.4	①細密 ②還元腐 ③灰白5Y7/1	ロクロ整形。輪軸は内面上位にやや湾曲。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①口径 ②底径 ③高さ (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・装飾等の特徴
104図-10 PL.45	8号住居	鉄器 刀子	掘方	一部欠損	①長さ (54) ②幅12 ③厚さ04	①- ②- ③-	身の先端部欠損。身の内部は空洞。葉の先端部は欠損。重さ33g。
105図-1 PL.45	9号住居	土師器 杯	掘方雑土	1/4	① (154) ②- ③ (34)	①砂粒少量含む ②酸化磁 ③相75YR6-6	丸底。外部外面へう張り。口縁部横ナズ。
105図-2 PL.45	9号住居	土師器 杯	埋土中層	1/3	① (152) ②- ③ (36)	①砂粒少量含む ②酸化磁 ③明赤褐色5YR5-6	丸底。外部外面へう張り。口縁部横ナズ。
105図-3 PL.45	9号住居	土師器 甕	埋土下層	底部片	①- ②43 ③ (35)	①細砂粒多量含む ②酸化磁 ③相75YR6-6	底部へう張り。外部外面へう張り。
105図-4 PL.45	9号住居	土師器 甕	埋土中層	口縁～胴部	① (34.4) ②- ③ (149)	①白色粒含む ②酸化磁 ③明赤褐色5YR5-6	外部外面上位横ナズ。外部外面中位斜めへう張り。口縁部横ナズ。
105図-5 PL.45	9号住居	土師器 甕	埋土中層	口縁～胴部	①- ②- ③ (133)	①白色粒含む ②酸化磁 ③赤褐色2.5YR4-6	外部外面上位横ナズ。外部外面中位斜めへう張り。口縁部横ナズ。
105図-6 PL.45	9号住居	須恵器 甕	埋土上層	破片	①- ②横み部- ③ (21)	①白色粒微量含む ②還元磁 ③灰+リッパ5Y6/2	器面準焼。扁平で内側中央部が凹んだ環状の溝みを持つ。
105図-7 PL.45	9号住居	須恵器 甕	埋土中層	ほぼ完整	①196 ②横み部49 ③37	①黒色粒含む ②還元磁 ③灰2.5Y6/1	扁平で内側中央部が凹んだ環状の溝みを持つ。肩部は外側にわずかに隆く。器形にゆがみがみられる。
105図-8 PL.45	9号住居	須恵器 甕	埋土中層	胴部片	①- ②- ③ (75)	①白色粒含む ②還元磁 ③相R10YR5/1	継作り段、明き整形。外面平行明き。内面宛て具は素文。
107図-1 PL.45	10号住居	土師器 甕	埋土中層	胴部片	①- ②- ③ (82)	①粗砂粒多量含む ②酸化磁 ③相75YR6-6	器面準焼。外部外面へう張り。
107図-2 PL.45	10号住居	須恵器 甕	埋土下層	胴部片	①- ②- ③ (54)	①小礫少量含む ②還元磁 ③灰白2.5Y7/1	胎土は粗重。明き整形。外面は素文。内面宛て具は素文。
109図-1 PL.45	11号住居	土師器 杯	埋土中層	2/3	① (124) ②- ③ (35)	①砂粒含む ②酸化磁 ③相75YR6-6	器面準焼。丸底。外部外面へう張り。口縁部横ナズ。
109図-2 PL.45	11号住居	土師器 杯	埋土下層	1/3	① (162) ②- ③ (53)	①細砂粒含む ②酸化磁 ③明赤褐色5YR5-6	丸底。外部外面へう張り。口縁部横ナズ。
109図-3 PL.45	11号住居	土師器 杯	カマド掘方	口縁部片	① (198) ②- ③ (44)	①細砂粒微量含む ②酸化磁 ③にぶい相2.5YR6/4	器面準焼。外部外面へう張り。口縁部横ナズ。
109図-4 PL.45	11号住居	須恵器 甕	埋土下層	口縁～底部	① (172) ②- ③ (68)	①砂粒微量含む ②還元磁 ③灰黄2.5Y7/2	口縁部わずかに外側に隆く。
110図-5 PL.45	11号住居	須恵器 甕	埋土中層	1/2	① (136) ② (84) ③34	①黒色粒含む ②還元磁 ③灰白2.5Y7/1	器面準焼。四角へう張り。
110図-6 PL.45	11号住居	須恵器 杯	埋土下層	口縁～底部	① (140) ② (84) ③32	①砂粒含む ②還元磁 ③灰NS-0	口縁部わずかに外側に隆く。口唇部鋭る。
110図-7 PL.46	11号住居	土師器 甕	埋土	口縁部片	① (253) ②- ③ (53)	①白色粒含む ②酸化磁 ③明赤褐色5YR5-6	器面準焼。口縁部横ナズ。
110図-8 PL.46	11号住居	須恵器 甕	埋土	破片	①- ②横み部 (44) ③ (27)	①小礫微量含む ②還元磁 ③灰黄2.5Y7/2	扁平で内側中央部が凹んだ環状の溝みを持つ。天井部上位から中位まで隆る。
110図-9 PL.46	11号住居	須恵器 甕	掘方	破片	① (160) ②横み部- ③ (16)	①白色粒微量含む ②還元磁 ③灰5Y6/1	口縁部わずかに外側に隆く。
110図-10 PL.46	11号住居	須恵器 甕	埋土下層	胴部片	①- ②- ③ (114)	①白色粒含む ②還元磁 ③灰NS-1	継作り段、明き整形。外面平行明き。内面宛て具は素文。
110図-11 PL.46	11号住居	鉄器 刀子	埋土下層	一部欠損	①長さ (150) ③幅 刃12 柄20 ④厚み 刃04 柄1.6	①- ②- ③-	葉の先端部は欠損。刃は本材に覆われている。身の残存状況は良好。重さ32g。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①材質 ②形状 ③高さ (cm)	④土質 ⑤構成 ⑥色調	器形・彫形等の特徴
11200-1 PL.46	12号住居	土器器 環	棟土下層	口縁～体部	① (132) ② - ③ (32)	①白色粒微量含む ②酸化陶 ③粗2.5YR6-6	器面磨光。口縁部横ナデ。
11200-2 PL.46	12号住居	土器器 環	貯蔵穴	口縁～体部	① (143) ② - ③ (39)	①白色粒含む ②酸化陶 ③明細7.5YR5-6	体部外面へう張り。口縁部横ナデ。
11200-3 PL.46	12号住居	土器器 環	貯蔵穴	1/4	① (149) ② - ③ (41)	①砂粒含む ②酸化陶 ③明赤銅5YR5-6	器面磨光。丸底。口縁部横ナデ。
11200-4 PL.46	12号住居	土器器 環	棟土	口縁～体部	① (208) ② - ③ (29)	①赤色粒微量含む ②酸化陶 ③明赤銅5YR5-8	口縁部横ナデ。内面へう巻き。
11200-5 PL.46	12号住居	土器器 環	棟土下層	口縁部のみ	① (192) ② - ③ (67)	①小礫・粗砂粒含む ②酸化陶 ③に赤い黄緑10YR5-3	体部外面上位周縁へう張り。口縁部接合残存。口唇部横ナデ。
11200-6 PL.46	12号住居	土器器 環	棟土中層	口縁～胴部	① (230) ② - ③ (16.4)	①細砂粒含む ②酸化陶 ③粗5YR6-6	器面磨光。口縁部接合残存。器厚は薄い。
11300-7 PL.46	12号住居	土器器 鉢小	棟土下層	口縁～胴部	① (253) ② - ③ (97)	①赤色粒含む ②酸化陶 ③粗2.5YR7-6	器面磨光。体部外面横ナデ。口縁部部に平頭面有り。
11300-8 PL.46	12号住居	須恵器 環	棟土	口縁～底部	① (158) ② (112) ③ (42)	①小礫微量含む ②黄泥陶 ③灰NS.0	貼付け高台。
11300-9 PL.46	12号住居	須恵器 環	棟土下層	4/5	①15.4 ② (110) ③40	①小礫・白色粒含む ②黄泥陶 ③灰NS.0	回転切り難し後、へう張り。貼付け高台。
11500-1 PL.46	13号住居	土器器 環	棟土下層	1/4	① (122) ② - ③32	①黒色粒多量含む ②酸化陶 ③に赤い粗2.5YR6/4	体部外面へう張り。口縁部横ナデ。
11500-2 PL.46	13号住居	須恵器 環	棟土下層	3/4	① (142) ②80 ③36	①赤色粒微量含む ②黄泥陶 ③灰紫2.5Y7/2	器面磨光。体部下に柱を挿す。
11500-3 PL.46	13号住居	須恵器 環	棟土下層	胴部片	① - ② - ③ (7.6)	①白色粒多量含む ②黄泥陶 ③オリーブ黒5Y3-1	叩き割形。外面平円形。内面宛て具は素文。内面自然曲付。
11500-4 PL.46	13号住居	石器 石筥	棟土上層	一部欠損	①長さ8.9 ②幅5.2 ③厚み1.4	① - ② - ③ -	ホルンフェルス。重さ85.2g。
11700-1 PL.46	14号住居	土器器 環	カマド棟 土	口縁～胴部	① (240) ② - ③ (22.4)	①細砂粒含む ②酸化陶 ③に赤い赤銅5YR5-4	器面磨光。体部外面斜めへう張り。口縁部横ナデ。接合残存。
11700-2 PL.47	14号住居	土器器 環	棟土中層	口縁～胴部	① (208) ② - ③ (12.4)	①粗砂粒・小礫含む ②酸化陶 ③明赤銅2.5Y3-6	器面磨光。体部外面中斜めへう張り。口縁部横ナデ。
11700-3 PL.46	14号住居	土器器 環	棟土下層	胴部～底部	① - ②7.3 ③ (8.1)	①小礫・粗砂粒含む ②酸化陶 ③明赤銅5YR5-6	底部に磨砂残存。体部外面周縁へう張り。
11700-4 PL.47	14号住居	土器器 環	棟土中層	口縁～底部	① (31.4) ② (10.4) ③ (29.0)	①細砂粒含む ②酸化陶 ③粗2.5Y4-6	器面磨光。口唇部に柱を持ち、底部に平頭面を有する。内面に接合残存。
11900-1 PL.47	15号住居	土器器 環	棟土上層	口縁～体部	① (129) ② - ③ (3.8)	①小礫多量含む ②酸化陶 ③赤銅5YR4-6	口縁部外反する。口縁部横ナデ。口縁部欠損激しい。
11900-2 PL.47	15号住居	土器器 環	棟土上層	底部片	① - ② 9.3 ③ (1.8)	①小礫・赤色粒多量含む ②酸化陶 ③明細7.5YR5-6	内面接合残存。
11900-3 PL.47	15号住居	須恵器 環	棟土上層	高台部片	① - ② - ③ (2.1)	①小礫・赤色粒含む ②酸化陶 ③に赤い黄緑10YR7/4	器面磨光。貼付け高台。高台基部欠損激しい。
12100-1 PL.47	16号住居	土器器 環	棟土上層	口縁～胴部	① (208) ② - ③ (10.7)	①小礫微量含む ②黄泥陶 ③に赤い黄緑10YR7/4	器面磨光。口縁部横ナデ。
12100-2 PL.47	16号住居	須恵器 環	棟土上層	1/4	① (110) ② (5.4) ③41	①砂粒・赤色粒含む ②酸化陶 ③粗2.5YR7-6	回転糸切り。体部は湾曲し緩やかに立ち上がる。
12100-3 PL.47	16号住居	須恵器 環	住居内土 坑棟土	底部片	① (7.4) ② (2.0) ③ (2.0)	①小礫・赤色粒含む ②酸化陶 ③明赤銅2.5YR5-6	貼付け高台。高台基部はわずかに残存。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	類別 部材	出土位置	残存状況	①口幅 ②底幅 ③高さ (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	形状・装形等の特徴
12104-4 PL.47	16号住居	須臾器 埴	カマド前方	口縁部片	① (144) ② - ③ (38)	①赤色粒少量含む ②酸化焰 ③にぶい黄緑10YR6/4	内面は黒色処理、研ぎを施す。
12104-5 PL.47	16号住居	須臾器 埴	棟土下層	1/3	① (140) ② (68) ③ (36)	①赤色粒少量含む ②酸化焰 ③にぶい黄緑7.5YR7/4	足付け高台。内面は黒色処理、研ぎを施す。胎土器。体部外面に「1」。
12404-1 PL.47	17号住居	土師器 土器	棟土中層	口縁～胴部	① (204) ② - ③ (95)	①黒色粒微量含む ②還元焰 ③黄緑10YR8/1	口縁部横ナデ。わずかに波を持つ。
12404-2 PL.47	17号住居	須臾器 埴	棟土下層	体部～底部	① - ② (76) ③ (18)	①小礫・赤色粒含む ②酸化焰 ③黄緑10YR5-6	器面磨滅。足付け高台。高台は扁平で低い。内面は黒色処理、研ぎを施す。
12404-3 PL.47	17号住居	土師器 埴	棟土下層	体部～底部	① - ② (88) ③ (42)	①小礫少量含む ②酸化焰 ③明赤褐5YR5-6	器面磨滅。底部切り離し整形不明。足付け高台。
12404-4 PL.47	17号住居	須臾器 埴	カマド 底部片	① - ② (56) ③ (20)	①赤色粒含む ②酸化焰 ③赤褐5YR4-8	器面磨滅。回転糸切り。	
12404-5 PL.47	17号住居	須臾器 埴	棟土下層	口縁～体部	① (130) ② - ③ (45)	①赤色粒多量含む ②酸化焰 ③明赤褐2.5YR5-6	底部欠損。体部は丸味をおび縦やかに立ち上がる。
12404-6 PL.47	17号住居	須臾器 埴	カマド前方	1/3	① (138) ② - ③ (53)	①砂粒含む ②還元焰 ③にぶい黄緑10YR7/3	器面磨滅。足付け高台。高台欠損。口縁部やや外反する。
12404-7 PL.47	17号住居	須臾器 埴	棟土中層	1/3	① (133) ② (75) ③ (79)	①赤色粒多量含む ②酸化焰 ③にぶい黄緑10YR7/4	足付け高台。高台端部外反する。全体的に整形丁寧。口縁部は直線的に立ち上がる。
12404-8 PL.47	17号住居	須臾器 埴	棟土中層	1/4	① (137) ② (70) ③ (66)	①赤色粒含む ②中性焰 ③明赤褐5YR5-8	器面磨滅。足付け高台。体部で湾曲し、縦やかに立ち上がる。
12404-9 PL.47	17号住居	須臾器 埴	棟土上層	口縁～底部	① (148) ② (80) ③ (68)	①砂粒含む ②還元焰 ③灰白2.5YR8-2	足付け高台。高台端部外反する。口縁部外反する。
12404-10 PL.47	17号住居	須臾器 埴	棟土下層	3/4	① (149) ② (74) ③ (79)	①小礫・赤色粒含む ②酸化焰 ③にぶい黄緑10YR7/4	底部切り離し整形不明。足付け高台。体部丸味をおび縦やかに立ち上がる。内面は黒色処理、研ぎを施す。
12504-11 PL.47	17号住居	須臾器 罍	棟土下層	胴部	① - ② - ③ (103)	①白色粒含む ②還元焰 ③灰白10Y5/1	明き整形。口縁部横ナデ。胴部交帯を有する。外面自然粗付着。
12504-12 PL.48	17号住居	須臾器 罍	棟土上層	胴部片	① - ② - ③ (94)	①白色粒含む ②還元焰 ③灰NS-0	継作り後、明き整形。外面平行明き。内面短て具は青濁文。
12504-13 PL.48	17号住居	須臾器 罍	棟土中層	胴部片	① - ② - ③ (140)	①白色粒含む ②還元焰 ③灰3Y6/1	継作り後、明き整形。外面平行明き。内面短て具は青濁文。
12504-14 PL.48	17号住居	須臾器 罍	棟土上層	胴部片	① - ② - ③ (108)	①白色粒含む ②還元焰 ③灰10Y5/1	継作り後、明き整形。外面平行明き。内面短て具は素文。
12504-15 PL.48	17号住居	須臾器 罍	棟土上層	胴部片	① - ② - ③ (87)	①白色粒含む ②還元焰 ③黄緑10Y4/1	継作り後、明き整形。外面平行明き。内面短て具は青濁文。
12504-16 PL.48	17号住居	須臾器 罍	棟土上層	胴部片	① - ② - ③ (81)	①白色粒含む ②還元焰 ③黄緑10Y3/1	波状文を要する。内面に割線有する。
12504-17 PL.48	17号住居	須臾器 罍	棟土上層	胴部～胴部	① - ② - ③ (53)	①白色粒含む ②還元焰 ③灰3Y4/1	継作り後、明き整形。外面平行明き。内面短て具は素文。胴部交帯を有する。
12504-18 PL.48	17号住居	須臾器 罍	床面直上	胴部片	① - ② - ③ (72)	①白色粒含む ②還元焰 ③灰7.5Y5/1	継作り後、明き整形。外面平行明き。内面短て具は青濁文。
12504-19 PL.48	17号住居	灰陶器 埴	棟土上層	口縁～体部	① (167) ② - ③ (46)	①網罟 ②還元焰 ③灰白7.5Y7/1	ロケロ型右回転。輪軸は波し掛け。
12704-1 PL.48	18号住居	土師器 埴	前方	口縁～体部	① (142) ② - ③ (31)	①黒色粒含む ②酸化焰 ③明赤褐5YR5-8	体部外面へウ割り。口縁部横ナデ。
12704-2 PL.48	18号住居	土師器 埴	棟土下層	1/3	① (150) ② - ③ (36)	①黒色粒含む ②酸化焰 ③にぶい黄緑7.5YR6/4	体部外面へウ割り。口縁部横ナデ。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①材質 ②形状 ③高さ (cm)	④土粒 ⑤構成 ⑥色調	器形・形状等の特徴
127Ⅱ-3 PL-48	18号住居	土器器 壺	飯方	口縁部片	① (21.6) ② - ③ (4.2)	①細砂粒・白色粒含む ②酸化塩 ③赤褐色SYR4-6	口縁部横ナテ。口縁部屈曲し外反する。
127Ⅱ-4 PL-48	18号住居	土器器 壺	瓶土上層	胴部～底部	① - ② 36.8 ③ 6.1	①細砂粒含む ②酸化塩 ③緑SYR6-6	底部は平坦、へう開り。体部外面斜めへう開り。
127Ⅱ-5 PL-48	18号住居	土器器 壺	飯方	口縁～胴部	① (23.2) ② - ③ (9.2)	①細砂粒・白色粒含む ②酸化塩 ③赤褐色SYR4-8	体部外面横位へう開り。口縁部横ナテ。接合 痕残る。
128Ⅱ-1 PL-48	19号住居	土器器 壺	カマド飯 方	口縁～底部	① (12.2) ② - ③ (1.7)	①細砂粒含む ②酸化塩 ③明赤褐色SYR5-6	丸底。体部外面へう開り。口縁部横ナテ。
128Ⅱ-2 PL-48	19号住居	土器器 壺	カマド飯 方	口縁部片	① - ② - ③ (2.7)	①砂粒含む ②酸化塩 ③明赤褐色SYR5-6	器面磨光。口縁部横ナテ。
130Ⅱ-1 PL-48	20号住居	土器器 壺	瓶土	口縁～底部	① (11.0) ② - ③ 3.9	①砂粒含む ②酸化塩 ③緑SYR6-6	体部外面中位に横を持つ。口縁部横ナテ。
130Ⅱ-2 PL-48	20号住居	土器器 壺	瓶土	口縁部片	① (24.4) ② - ③ (3.4)	①細砂粒・白色粒含む ②酸化塩 ③明赤褐色SYR5-6	器面磨光。口縁部横ナテ。
130Ⅱ-3 PL-48	20号住居	土器器 壺	瓶土	口縁部片	① (19.2) ② - ③ (3.4)	①砂粒含む ②酸化塩 ③緑SYR6-6	器面磨光。口縁部横ナテ。
130Ⅱ-4 PL-48	20号住居	土器器 壺	瓶土・カ マド飯方	口縁～胴部	① (23.3) ② - ③ (11.0)	①細砂粒含む ②酸化塩 ③緑SYR6-6	器面磨光。口縁部横ナテ。
130Ⅱ-5 PL-48	20号住居	須恵器 壺	飯方	胴部片	① - ② - ③ (5.8)	①小礫含む ②黄泥 ③灰白2.5YR2	叩き整形。外面平行開り。内面宛て具は素文。
132Ⅱ-1 PL-48	22号住居	土器器 壺	瓶土下層	口縁部片	① - ② - ③ (1.3)	①白色粒風量含む ②中性塩 ③明黄褐色10YR7.6	回転糸切り？胎付付高。高台欠損激しい。 内面は黒色処理。研ぎを施す。
132Ⅱ-2 PL-48	22号住居	須恵器 壺	瓶土下層	体部～底部	① - ② 6.6 ③ (1.8)	①白色粒含む ②黄泥 ③灰NS-0	体部外面下位に横を持つ。底部にへう開り痕 残る。
132Ⅱ-3 PL-48	22号住居	土器器 壺	瓶土中層	底部	① - ② 8.0 ③ (2.5)	①小礫含む ②中性塩 ③に赤い層2.5YR6/4	回転糸切り？胎付付高。高台部分は肥厚 し、丸味をおびる。内面は黒色処理。研ぎを 施す。
132Ⅱ-4 PL-49	22号住居	羽釜	瓶土下層	口縁部片	① (20.2) ② - ③ (5.4)	①小礫・砂粒含む ②中性塩 ③に赤い黄褐色10YR6-3	踵部は鋭る。踵の整形は縁。口縁部横ナテ。
132Ⅱ-5 PL-49	22号住居	羽釜	瓶土上層	口縁～胴部	① (19.8) ② - ③ (18.1)	①赤色粒含む ②酸化塩 ③緑2.5YR6-6	体部外面縦合痕残る。口縁部横ナテ。口唇部 大きくゆがみ有り。
132Ⅱ-6 PL-49	22号住居	須恵器 壺	瓶土中層	破片	① - ② - ③ (10.1)	①黄泥 ②黄泥 ③黄褐色2.5Y6-1	叩き整形。外面平行開り。内面宛て具は青海 波文。
133Ⅱ-1 PL-49	25号住居	土器器 壺	飯方	口縁部片	① (10.2) ② - ③ (2.6)	①砂粒含む ②酸化塩 ③緑2.5YR6-6	器面磨光。口縁部横ナテ。
133Ⅱ-2 PL-49	25号住居	土器器 壺	瓶土上層	口縁～体部	① (11.8) ② - ③ (3.3)	①赤色粒少量含む ②中性塩 ③緑2.5YR7-6	口縁部横ナテ痕残る。器蓋土器。体部外面に 「口」。
133Ⅱ-3 PL-49	25号住居	土器器 壺	瓶土中層	口縁部片	① (12.2) ② - ③ (2.7)	①白色粒風量含む ②酸化塩 ③に赤い黄褐色10YR6/4	口縁部横ナテ。口縁部わずかに外反する。
133Ⅱ-4 PL-49	25号住居	土器器 壺	瓶土上層	口縁部片	① (14.7) ② - ③ (3.4)	①赤色粒含む ②酸化塩 ③明黄褐色10YR7.6	口縁部内面に凹み。口唇部は丸味をおび る。
133Ⅱ-5 PL-49	25号住居	瓦	瓶土上層	破片	①長さ (9.5) ②幅 (6.1) ③厚さ2.5	①礫多量含む ②酸化塩 ③に赤い黄褐色10YR7/3	瓦瓦。表面布目有り。裏面正格子印き。
133Ⅱ-6 PL-49	25号住居	石器 磨り石	瓶土中層	4ヶ宛形	①長さ7.9 ②幅2.8 ③厚さ2.5	① - ② - ③ -	砥石磨石安山岩。重さ450 g。
135Ⅱ-1 PL-49	24号住居	土器器 壺	瓶土	口縁～体部	① (11.6) ② - ③ (2.8)	①砂粒・白色粒含む ②酸化塩 ③に赤い赤褐色2.5YR6/4	口縁部横ナテ。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	類別 部材	出土位置	残存状況	①口径 ②底径 ③高さ (cm)	①胎土 ②底成 ③色調	彫形・彫形等の特徴
13504-2 PL.49	24号住居	土師器 甕	棟土	口縁～胴部	① (196) ② - ③ (104)	①小礫・砂粒含む ②酸化焰 ③紺2.5YR7.6	器面磨滅。体部外面上位調整痕残存。口縁部 横ナデ。
13504-3 PL.49	24号住居	土師器 甕	棟土	口縁～胴部	① (254) ② - ③ (62)	①砂粒多量含む ②酸化焰 ③紺2.5YR6.6	器面磨滅。口縁部横ナデ。
13504-4 PL.49	24号住居	灰釉陶器 甕	棟土	1/4	① (136) ② (74) ③ (44)	①緑青 ②黄元焰 ③灰白5Y7/1	ロケロ整形。貼付け高台。施釉は後し掛け。
13504-5 PL.49	24号住居	須恵器 甕	棟土	1/3	① (115) ② (60) ③ (37)	①黒色粒多量含む ②黄元焰 ③灰青2.5Y6.2	底部回転未切り。彫形が大ききゆがんでい る。
13704-1 PL.49	25号住居	土師器 台付甕	棟土中層	胴部～台部	① - ② (110) ③ (90)	①砂粒多量含む ②酸化焰 ③に赤い赤銅5YR5.4	台部横ナデ。体部外面斜めへう崩り。器厚は 薄い。
13704-2 PL.49	25号住居	土師器 台付甕	棟土上層	胴部～台部	① - ② - ③ (114)	①白色粒多量含む ②酸化焰 ③赤銅10R5.4	台部横ナデ。体部外面斜位～縦位へう崩り。 器厚は薄い。
13704-3 PL.49	25号住居	須恵器 甕	棟土中層	変形	① (126) ② (52) ③ (41)	①白色粒含む ②黄元焰 ③灰青6.1	底部左回転未切り。体部下位わずかに張る。
13704-4 PL.49	25号住居	須恵器 甕	棟土下層	口縁部一部 欠損	① (126) ② (65) ③ (38)	①小礫・白色粒微量含む ②酸化焰 ③に赤い黄銅2.5Y6.3	底部左回転未切り。口縁部わずかに外反す る。
13704-5 PL.49	25号住居	須恵器 甕	棟土上層	体部～底部	① - ② (70) ③ (27)	①砂粒少量含む ②黄元焰 ③灰青5.1	底部回転未切り。貼付け高台。体部彫形粗雑。
13704-6 PL.49	25号住居	須恵器 甕	棟土	口縁部片	① - ② - ③ (32)	①砂粒含む ②黄元焰 ③灰青2.5Y6.2	黒青土器。体部内面に「木」。口縁部わずかに 外反する。
13804-7 PL.50	25号住居	須恵器 甕	棟土上層	2/3	① (137) ② (57) ③ (49)	①黒色粒・白色粒含む ②黄元焰 ③灰青2.5Y7.3	底部左回転未切り。口縁部丸味をおびや外反 する。黒青土器。外面斜位に「木」。
13804-8 PL.49	25号住居	須恵器 甕	棟土下層	2/3	① (130) ② (62) ③ (37)	①小礫多量含む ②中性焰 ③紺2.5YR6.6	底部右回転未切り。底部内面中央部凹む。口 縁部は外反する。
13804-9 PL.49	25号住居	須恵器 甕	棟土下層	口縁～底部	① (149) ② (63) ③ (34)	①小礫多量含む ②黄元焰 ③紺10B3.0	器面外反する。底部右回転未切り。 口縁部大きく外反する。
13804-10 PL.50	25号住居	須恵器 甕	棟土下層	口縁部一部 欠損	① (146) ② (60) ③ (55)	①白色粒含む ②中性焰 ③灰青2.5YR6.2	底部回転未切り。貼付け高台。口縁部わずかに 外反する。黒青土器。体部外面正位に「木」。
13804-11 PL.49	25号住居	須恵器 甕	カマド棟 土	2/3	① (134) ② (38) ③ (26)	①小礫・白色粒多量含む ②中性焰 ③に赤い黄銅2.5YR6.4	壺状の横みを持つ。口縁部わずかに外反す る。
13804-12 PL.49	25号住居	須恵器 甕	棟土下層	体部～底部	① - ② (70) ③ (35)	①白色粒少量含む ②酸化焰 ③紺2.5YR6.6	器面磨滅。底部回転未切り。貼付け高台。
13804-13 PL.50	25号住居	須恵器 甕	棟土上層	2/3	①長 (88) 短 (70) ② (54) ③ (30)	①小礫・白色粒多量含む ②黄元焰 ③灰青6.0	底部回転未切り。両端を器内面に押し曲げて いるが、一方は欠損。
13804-14 PL.50	25号住居	須恵器 甕	棟土下層	胴部片	① - ② - ③ (32)	①小礫・白色粒含む ②黄元焰 ③紺10YR5.1	器面磨滅。明き彫形。外面は素文明き。内面 縦て片は素文。
14004-1 PL.50	26号住居	土師器 甕	棟土下層	口縁～胴部	① (130) ② - ③ (48)	①小礫含む ②酸化焰 ③に赤い黄銅10YR5.3	口縁部横ナデ。
14004-2 PL.50	26号住居	須恵器 甕	カマド棟 土	体部～底部	① - ② (72) ③ (21)	①白色粒含む ②黄元焰 ③灰2.5Y6.1	底部回転未切り。
14004-3 PL.50	26号住居	須恵器 甕	棟土中層	底部片	① - ② (70) ③ (20)	①白色粒微量含む ②黄元焰 ③灰5.1	底部右回転未切り。
14004-4 PL.50	26号住居	須恵器 甕	棟土中層	底部片	① - ② (60) ③ (21)	①小礫含む ②酸化焰 ③紺2.5Y4.4	器面磨滅。底部回転未切り。貼付け高台。
14004-5 PL.50	26号住居	須恵器 甕	棟土下層	1/3	① (142) ② (68) ③ (31)	①黒色粒少量含む ②黄元焰 ③に赤い黄銅5YR7.4	器面磨滅。貼付け高台。口唇部黒色丸味をお びる。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①材質 ②形状 ③高さ (cm)	①土質 ②焼成 ③色調	器形・整形等の特徴
14004-6 PL.50	26号住居	須恵器 埴	棟土下層	2/3	① (140) ② - ③ (5.1)	①小礫含む ②酸化腐 ③に赤い黄緑10YR7/3	貼付け高台。縁き破り痕有り。高台高調。墨書土器。外部外面正位に「上」。内面に黒色地紋。刻線を施す。
14004-7 PL.50	26号住居	須恵器 埴	棟土下層	胴部～底部	① - ② (242) ③ (5.9)	①砂粒含む ②還元腐 ③灰NS-0	叩き整形。外面平打叩き。内面凹て具は素文。
14004-8 PL.50	26号住居	鉄器 不明	棟土	破片	①長さ (28) ②幅0.8 ③厚さ0.8	① - ② - ③ -	先端部のみの破片。断面は長方形を呈し、内部は空洞。錆化が顕著。重さ3.4g。
14004-9 PL.50	26号住居	鉄器 刀子	棟土中層	一部欠損	①長さ (120) ②幅2.1 ③厚さ0.5	① - ② - ③ -	茎の先端部欠損。穂区は残存状態良好。重さ20.8g。
14204-1 PL.50	27号住居	須恵器 埴	棟土下層	1/2	① (150) ② (9.3) ③ 3.80	①砂粒多量含む ②酸化腐 ③黄緑10YR7/6	底部回転糸切り。貼付け高台。高台高く、胴部は外反する。口縁部はわずかに外反する。
14204-2 PL.50	27号住居	須恵器 埴	棟土中層	口縁～底部	① (144) ② - ③ (5.2)	①小礫含む ②還元腐 ③灰黄緑10YR6/2	貼付け高台。高台高調。底部下に横を伴つ。口縁部外反する。
14204-3 PL.50	27号住居	石器 石鏝	棟土	ほぼ完形	①長さ1.8 ②幅1.1 ③厚さ0.6	① - ② - ③ -	チャート。重さ0.60g。
14404-1 PL.51	28号住居	土師器 壺	棟土下層	口縁部片	① (190) ② - ③ (8.8)	①小礫・砂粒含む ②酸化腐 ③に赤い赤褐5YR5/3	外部外面傾位へう崩り。口縁部積ナズ。
14404-2 PL.51	28号住居	土師器 台付壺	棟土下層	胴部～台部	① - ② (110) ③ (8.5)	①小礫・砂粒多量含む ②酸化腐 ③明赤褐2.5YR5/6	器面準風。台部内面積ナズ。外部外面傾位へう崩り。厚さは薄い。
14404-3 PL.51	28号住居	須恵器 埴	棟土上層	2/3	① (136) ② (6.2) ③ (4.9)	①小礫・黒色粒礫量含む ②還元腐 ③灰黄2.5Y6/2	底部左回転糸切り。口縁部わずかに外反する。
14404-4 PL.51	28号住居	須恵器 埴	棟土	2/3	①132 ②5.5 ③4.9	①砂粒含む ②酸化腐 ③灰黄2.5Y6/2	底部左回転糸切り。口縁部わずかに外反する。
14404-5 PL.51	28号住居	須恵器 埴	棟土下層	2/3	①128 ②4.8 ③4.3	①小礫・白色粒含む ②還元腐 ③灰NS-0	底部左回転糸切り。口縁部外反する。
14404-6 PL.51	28号住居	須恵器 埴	棟土下層	完形	①131 ②5.6 ③4.1	①小礫・白色粒少量含む ②還元腐 ③灰白5Y7/1	底部左回転糸切り。口縁部わずかに外反する。墨書土器。外部内面正位に「木」。
14404-7 PL.51	28号住居	須恵器 埴	棟土上層	1/3	① (130) ② (5.6) ③ 3.4	①白色粒含む ②還元腐 ③灰2.5Y6/1	器面準風。底部右回転糸切り。口縁部わずかに外反する。
14404-8 PL.51	28号住居	須恵器 埴	棟土中層	1/4	① (154) ② (7.2) ③ (4.3)	①白色粒含む ②中性腐 ③に赤い紅2.5YR6/4	底部回転糸切り。口縁部わずかに外反する。墨書土器。外部内面に「口」。
14404-9 PL.51	28号住居	須恵器 埴	棟土上層	2/3	① (137) ② (5.5) ③ 3.45	①砂粒微量含む ②還元腐 ③灰5Y4/1	底部回転糸切り。口縁部わずかに外反する。
14404-10 PL.51	28号住居	須恵器 埴	棟土上層	1/3	① (136) ② (5.0) ③ 3.48	①顕著 ②中性腐 ③に赤い黄緑10YR6/4	底部左回転糸切り。口縁部わずかに外反する。
14404-11 PL.51	28号住居	須恵器 埴	棟土上層	2/3	①130 ②5.7 ③ 3.41	①顕著 ②中性腐 ③に赤い黄緑10YR6/4	底部左回転糸切り。口縁部外反する。
14404-12 PL.51	28号住居	須恵器 埴	棟土中層	口縁部一部 欠損	①128 ②5.5 ③ 3.47	①砂粒多量含む ②中性腐 ③に赤い黄緑10YR6/4	底部左回転糸切り。口縁部外反する。
14504-13 PL.51	28号住居	須恵器 埴	棟土上層	2/3	①130 ②5.5 ③ 3.42	①白色粒含む ②還元腐 ③灰黄2.5Y4/1	底部右回転糸切り。口縁部外反する。
14504-14 PL.51	28号住居	須恵器 埴	棟土中層	1/3	① (158) ② 7.1 ③ 7.2	①小礫・砂粒含む ②還元腐 ③黄灰2.5Y6/1	器面準風。貼付け高台。口縁部わずかに肥厚する。
14504-15 PL.51	28号住居	須恵器 埴	棟土上層	口縁～体部	① (132) ② - ③ 3.45	①小礫微量含む ②還元腐 ③に赤い黄2.5Y6/4	底部欠損。口縁部わずかに外反する。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①口径 ②底径 ③高さ (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	形状・装飾等の特徴
1450-16 PL.51	28号住居	須恵器 埴	埴土上層	2/3	① (137) ② 60 ③ 65	①小礫少量含む ②還元焰 ③灰青25Y6-2	器面磨光。底部右回転糸切り。貼付け高台。口縁部外反する。
1450-17 PL.51	28号住居	須恵器 埴	埴土上層	1/3	① (150) ② - ③ (52)	①白色粒少量含む ②還元焰 ③明赤黄2.5Y6-0	底部回転糸切り。貼付け高台。高台は溝掘。口縁部外反する。
1450-18 PL.51	28号住居	須恵器 埴	埴土中層	2/3	① (158) ② 69 ③ 58	①小礫・赤色粒含む ②還元焰 ③明赤黄5YR5-8	器面磨光。底部右回転糸切り。貼付け高台。口縁部外反する。
1450-19 PL.51	28号住居	須恵器 埴	埴土下層	1/2	① (151) ② (70) ③ (56)	①小礫・白色粒含む ②還元焰 ③にふい粉2.5YR6-4	貼付け高台。底部下位肥厚する。口縁部外反する。
1450-20 PL.52	28号住居	須恵器 埴	埴土下層	2/3	① (146) ② 60 ③ 57	①赤色粒微量含む ②中性焰 ③にふい粉2.5YR6-3	底部回転糸切り。貼付け高台。器蓋土器。内部内面に正位に「木」。
1450-21 PL.51	28号住居	須恵器 埴	埴土下層	口縁～底部	① (168) ② - ③ (55)	①小礫含む ②中性焰 ③明赤黄10YR6-6	底部欠損。口縁部外反する。
1450-22 PL.51	28号住居	須恵器 埴	埴土上層	2/3	① (146) ② 58 ③ 54	①白色粒含む ②還元焰 ③黒黄2.5Y3-1	底部回転糸切り。貼付け高台。口縁部わずかに外反する。
1450-23 PL.51	28号住居	須恵器 埴	埴土上層	口縁部一部 欠損	①146 ②66 ③34	①砂粒含む ②還元焰 ③にふい粉10YR6-3	器面磨光。貼付け高台。口縁部わずかに外反する。高台粗掘。
1450-24 PL.51	28号住居	須恵器 埴	埴土下層	2/3	①137 ②55 ③33	①織文 ②還元焰 ③灰青2.5Y7-2	貼付け高台。口縁部外反する。
1450-25 PL.51	28号住居	須恵器 埴	埴土上層	4/5	① (140) ② - ③ (29)	①白色粒含む ②中性焰 ③にふい粉10YR6-4	底部回転糸切り。貼付け高台。高台溝掘。口縁部外反する。
1450-26 PL.51	28号住居	須恵器 埴	埴土上層	破片	① - ② - ③ (158)	①小礫・白色粒含む ②還元焰 ③オリーブ黒7.5Y3-1	明々整形。外面文書明々。内面明々具は素文。
1470-1 PL.52	29号住居	土師器 甕	埴土中層	口縁部片	① (213) ② - ③ (83)	①小礫・砂粒含む ②還元焰 ③明赤黄2.5YR5-6	外部外面横位へう割り。口縁部十字状で、横ナデを施す。
1470-2 PL.52	29号住居	土師器 甕	カマド埴 土・埴土	口縁部片	① (178) ② - ③ (87)	①黒色粒含む ② - ③明赤黄2.5YR5-8	外部外面横位へう割り。口縁部十字状で、横ナデを施す。
1470-3 PL.52	29号住居	土師器 甕	カマド埴 土・埴土	口縁部片	① (194) ② - ③ (60)	①砂粒微量含む ②還元焰 ③橙2.5YR6-6	外部外面横位へう割り。口縁部横ナデ。
1470-4 PL.52	29号住居	土師器 甕	野藏穴	口縁部片	① (180) ② - ③ (43)	①黒色粒・赤色粒含む ②還元焰 ③明赤黄2.5YR5-8	口縁部十字状で、横ナデを施す。口縁部平凹面を有する。
1470-5 PL.52	29号住居	土師器 台付甕	埴土下層	2/3	① (140) ② - ③ (169)	①砂粒・黒色粒含む ②還元焰 ③明赤黄2.5YR5-6	台部欠損。外部外面中位横位へう割り。外部外面土位斜位へ横位へう割り。口縁部横ナデ。器厚は薄い。
1470-6 PL.52	29号住居	須恵器 埴	埴土下層	1/3	① (132) ② 69 ③ 37	①小礫・砂粒含む ②還元焰 ③にふい粉5YR4-4	器面磨光。底部回転糸切り。
1470-7 PL.52	29号住居	須恵器 埴	埴土中層	口縁部一部 欠損	①125 ②60 ③40	①砂粒・白色粒含む ②還元焰 ③灰青5.5Y6-1	底部左回転糸切り。口縁部わずかに肥厚する。
1470-8 PL.52	29号住居	須恵器 埴	埴土下層	1/3	①122 ②61 ③39	①白色粒含む ②還元焰 ③灰青2.5Y6-2	底部右回転糸切り。口縁部わずかに肥厚する。
1470-9 PL.52	29号住居	須恵器 埴	埴土下層	2/3	① (128) ② 60 ③ 41	①砂粒・白色粒含む ②還元焰 ③灰青2.5Y6-2	器面磨光。底部右回転糸切り。
1470-10 PL.52	29号住居	土師器 甕	埴土下層	底部	① - ② - ③ (25)	①黒色粒含む ②還元焰 ③にふい粉2.5YR5-3	外部外面横位へう割り。
1470-11 PL.52	29号住居	土師器 台付甕	埴土	台部	① - ② (86) ③ (25)	①白色粒含む ②還元焰 ③明赤黄2.5YR5-6	台部端部外反する。横ナデを施す。



二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①材質 ②形状 ③高さ (cm)	④土粒 ⑤構成 ⑥色調	器形・形状等の特徴
14804-12 PL.52	29号住居	須恵器 坏	棟土上層	2/3	① (134) ② 369 ③ 339	①赤色粒含む ②還元焰 ③灰10Y6/6	底部右回転糸切り。体部上段やや肥厚する。
14804-13 PL.52	29号住居	須恵器 坏	棟土下層	口縁部一部 欠損	①131 ② 369 ③ 339	①小礫・白色粒含む ②中性焰 ③にぶい黄緑10Y6/3	底部右回転糸切り。口縁部わずかに外反する。
14804-14 PL.52	29号住居	須恵器 坏	棟土中層	1/3	① (142) ② 710 ③ 357	①小礫・白色粒含む ②還元焰 ③灰10Y6/6	器面磨滅。底部右回転糸切り。口縁部わずかに肥厚する。
14804-15 PL.52	29号住居	須恵器 皿	棟土上層	1/3	① (134) ② 354 ③ 324	①白色粒含む ②還元焰 ③灰5Y5-1	底部右回転糸切り。切り磨しが強い。
14804-16 PL.52	29号住居	須恵器 碗	棟土下層	1/3	① (148) ② 801 ③ 861	①白色粒多量含む ②還元焰 ③灰7.5Y6/1	底部回転糸切り。貼付け高台。
14804-17 PL.52	29号住居	灰釉陶器 灰胎器	棟土中層	口縁一部	① 833 ② - ③ 781	①白色粒含む ②還元焰 ③灰7.5Y6/1	口縁修整。継ぎ。内外面の一部に自然釉付着。
14804-18 PL.52	29号住居	須恵器 碗	棟土上層	ほぼ完整	①149 ② 278 ③ 358	①小礫・白色粒含む ②還元焰 ③灰N4.0	貼付け高台。高台内面横ナデ。
14804-19 PL.52	29号住居	須恵器 碗	棟土	1/3	① (176) ② 395 ③ 379	①白色粒微量含む ②還元焰 ③にぶい黄緑10Y6/3	底部回転糸切り。貼付け高台。
14804-20 PL.53	29号住居	石器 台石	棟土下層	一部欠損	①長さ20.1 ②幅14.5 ③厚5.4	① - ② - ③ -	板状礫石安山岩。重さ1850g。
15004-1 PL.53	30号住居	土師器 壺	棟土中層	口縁一部	① (143) ② - ③ 711	①砂粒・白色粒含む ②還元焰 ③明赤銅2.5YR5-6	体部外面へう崩り。口縁部コの字状で、横ナデを施す。
15004-2 PL.53	30号住居	土師器 台付壺	棟土中層	胴部一帯	① - ② (110) ③ 671	①細骨 ②還元焰 ③粗5Y76-6	台部外面横ナデ。体部外面へう崩り。器厚は薄い。
15004-3 PL.53	30号住居	須恵器 坏	棟土上層	2/3	① (128) ② 581 ③ 348	①細骨 ②還元焰 ③灰黄2.5Y7/2	器面磨滅。底部回転糸切り。口縁部わずかに肥厚する。
15004-4 PL.53	30号住居	須恵器 坏	棟土下層	1/3	① (145) ② 663 ③ 362	①砂粒含む ②還元焰 ③粗7.5Y76-6	器面磨滅。底部回転糸切り。底部内側に凹む。
15004-5 PL.53	30号住居	須恵器 坏	棟土上層	2/3	① (126) ② 561 ③ 344	①白色粒含む ②還元焰 ③灰黄2.5Y6-2	器面磨滅。底部回転糸切り。口縁部きつく外反する。器首土器。体部外面に「□」。
15004-6 PL.53	30号住居	須恵器 坏	棟土上層	2/3	① (130) ② 254 ③ 351	①砂粒多量含む ②還元焰 ③灰5Y6-1	底部右回転糸切り。口縁部きつく外反する。
15004-7 PL.53	30号住居	須恵器 坏	棟土中層	1/3	① (130) ② 561 ③ 347	①白色粒微量含む ②還元焰 ③無釉2.5Y3-1	底部回転糸切り。口縁部外反する。口縁部にゆがみ有り。
15004-8 PL.53	30号住居	須恵器 坏	棟土下層	1/3	① (142) ② 661 ③ 348	①小礫・白色粒含む ②中性焰 ③にぶい黄緑10Y6/4	底部右回転糸切り。口縁部きつく外反する。
15004-9 PL.53	30号住居	須恵器 坏	棟土上層	2/3	① (126) ② 446 ③ 341	①赤色粒多量含む ②還元焰 ③粗5Y76-6	器面磨滅。底部回転糸切り。体部中位に明確な線を伴う。口縁部外反する。
15004-10 PL.53	30号住居	須恵器 坏	棟土	2/3	① (130) ② 250 ③ 345	①赤色粒含む ②還元焰 ③灰黄2.5Y7/3	底部右回転糸切り。口縁部外反する。
15004-11 PL.53	30号住居	須恵器 坏	棟土下層	1/3	① 699 ② 350 ③ (41)	①赤色粒少量含む ②中性焰 ③粗5Y76-6	底部右回転糸切り。口縁部外反する。
15004-12 PL.53	30号住居	須恵器 皿	棟土中層	2/3	① (135) ② (40) ③ (22)	①砂粒多量含む ②還元焰 ③粗7.5Y76-6	底部へう崩り。口縁部内面横ナデ。器形にゆがみ有り。整形粗雑。
15004-13 PL.53	30号住居	須恵器 碗	棟土下層	4/5	①148 ② 360 ③ 361	①砂粒含む ②中性焰 ③にぶい黄緑10Y7/3	器面磨滅。貼付け高台。口縁部外反する。
15004-14 PL.53	30号住居	須恵器 碗	棟土上層	2/3	① (184) ② 716 ③ 371	①小礫・砂粒含む ②還元焰 ③粗5Y76-6	底部右回転糸切り。貼付け高台。口縁部わずかに外反する。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①1層 ②成層 ③高さ (m)	①胎土 ②成成 ③色調	形状・形状等の特徴
1500-15 PL.53	30号住居	須臾器 埴	棟土上層	1/4	① (15.0) ② 6.2) ③ 5.9)	①小礫微量含む 赤褐色胎土 ③に赤い黄緑10YR6/4	底部回転未切り。貼付け高台。口縁部外反する。
1500-16 PL.53	30号住居	須臾器 埴	棟土上層	口縁～底部	① (16.5) ② - ③ 6.4)	①赤色粒微量含む 赤褐色胎土 ③に赤い黄緑10YR6/4	底部欠損。口縁部外反する。黒色土器。内部内面正位に「木」。
1500-17 PL.53	30号住居	須臾器 埴	棟土上層	2/3	① (14.0) ② 6.0) ③ 6.0)	①白色粒多量含む 赤褐色胎土 ③灰青2.5Y6/2	器面焼成。貼付け高台。口縁部外反する。
1510-18 PL.53	30号住居	須臾器 埴	棟土下層	4/5	①16.0 ②6.2 ③6.3)	①小礫含む 赤褐色胎土 ③灰青2.5Y6/2	底部回転未切り。貼付け高台。口縁部わずかに外反する。
1510-19 PL.53	30号住居	須臾器 埴	棟土上層	1/4	① (14.6) ② 6.0) ③ 5.6)	①小礫含む 赤褐色胎土 ③灰青2.5Y6/2	貼付け高台。口縁部わずかに外反する。
1510-20 PL.54	30号住居	須臾器 埴	棟土上層	4/5	①16.3 ② - ③ 6.8)	①網罟・砂粒微量含む 赤中性胎土 ③に赤い黄緑10YR7/3	底部回転未切り。高台脱落。内面底部整形痕有り。
1510-21 PL.54	30号住居	須臾器 埴	棟土中層	4/5	①16.3 ② 2.9 ③ 6.8)	①赤色粒微量含む 赤中性胎土 ③に赤い黄緑10YR6/4	器面焼成。貼付け高台。口縁部外反する。
1510-22 PL.54	30号住居	須臾器 埴	棟土中層	4/5	①15.9 ②6.8 ③ 6.8)	①小礫含む 赤褐色胎土 ③粒2.5YR6.6	底部回転未切り。貼付け高台。口縁部外反する。
1510-23 PL.54	30号住居	須臾器 埴	棟土下層	4/5	① (14.0) ② 7.0) ③ 6.3)	①小礫・白色粒含む 赤褐色胎土 ③に赤い黄2.5Y6/3	貼付け高台。口縁部わずかに外反する。黒色土器。内部内面正位に「木」。
1510-24 PL.54	30号住居	須臾器 埴	棟土下層	4/5	①14.6 ②6.1 ③ 5.7)	①白色粒含む 赤褐色胎土 ③灰青2.5Y6/2	器面焼成。貼付け高台。口縁部外反する。
1510-25 PL.54	30号住居	須臾器 埴	棟土上層	4/5	① (17.4) ② - ③ 7.0)	①砂粒少量含む 赤中性胎土 ③に赤い黄5YR6/4	底部回転未切り。高台脱落。口縁部きつく外反する。
1510-26 PL.54	30号住居	須臾器 埴	棟土上層	底部～底部	① - ② (5.4) ③ (5.5)	①白色粒微量含む 赤褐色胎土 ③灰青2.5Y7/2	器面焼成。底部回転未切り。貼付け高台。
1510-27 PL.54	30号住居	須臾器 埴	貯蔵穴	口縁～底部	① (14.0) ② - ③ 4.9)	①白色粒少量含む 赤褐色胎土 ③灰青10Y5Y/1	底部欠損。口縁部外反する。黒色土器。内部内面に「木」。
1510-28 PL.54	30号住居	灰釉陶器 長頸壺	棟土下層	口縁部欠損	① - ② 7.8 ③ (18.1)	①網罟・砂粒微量含む 赤褐色胎土 ③灰青10Y5Y/1	ロクロ整形。頸部わずかに張り出す。肩部より上部に自然粘付着。
1510-29 PL.54	30号住居	須臾器 埴	棟土下層	2/3	① (14.4) ② 5.0) ③ (5.5)	①黒色粒・赤色粒少量含む 赤褐色胎土 ③粒5YR6/6	貼付け高台。底部欠損。口縁部外反する。
1510-30 PL.54	30号住居	須臾器 長頸壺	棟土下層	胴部～胴部	① - ② - ③ (8.3)	①白色粒含む 赤褐色胎土 ③灰青7.5Y5/1	ロクロ整形。内外面に自然粘付着。
1510-1 PL.54	31号住居	須臾器 埴	棟土	底部片	① - ② 6.0) ③ (2.2)	①白色粒含む 赤褐色胎土 ③黄緑2.5Y6/1	底部回転未切り。
1510-2 PL.54	31号住居	須臾器 埴	棟土	口縁部片	① - ② - ③ (3.4)	①網罟 赤褐色胎土 ③に赤い黄緑10YR6/4	ロクロ整形。口縁部わずかに肥厚する。
1510-3 PL.54	31号住居	須臾器 埴	棟土	口縁部片	① - ② - ③ (4.2)	①砂粒含む 赤褐色胎土 ③灰青2.5Y6/2	口縁部わずかに外反する。
1510-4 PL.54	31号住居	軟質陶器 蓋	棟土	口縁部片	① - ② 横断面 - ③ (7.1)	①小礫含む 赤褐色胎土 ③黄緑10YR4/1	口縁部横ナテ。
1510-5 PL.54	31号住居	武器 防弾車	棟土下層	ほぼ完形	①長さ36.0 ②幅 - ③厚さ0.5)	① - ② - ③ -	輪部の断面はほぼ方形。輪部は大きく肉出ししている。重さ40.2g。
1510-1 PL.55	32号住居	土師器 埴	棟土上層	口縁～胴部	① (15.1) ② - ③ (14.6)	①赤色粒・白色粒含む 赤褐色胎土 ③粒2.5YR6.6	外部外面焼成。斜めへう張り。口縁部横ナテ。
1510-2 PL.55	32号住居	土師器 埴	棟土下層	口縁～胴部	① (16.2) ② - ③ (16.0)	①白色粒微量含む 赤褐色胎土 ③灰青緑10YR5/2	外部外面焼成。斜めへう張り。口縁部横ナテ。口縁部凹み有り。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 探検番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①11層 ②夷層 ③高さ (cm)	①土質 ②構成 ③色調	形状・形状等の特徴
1550R-3 PL55	2号住居	土師器 台付甕	貯蔵穴裡 土・灰方	口縁一部破	① (130) ② - ③ (14.3)	①砂粒・白色粒を含む ②酸化腐 ③にJIS-A種2.5YR5/4	台部横ナテ。底部外面縦位。横位へう張り。口縁部横ナテ。
1550R-4 PL55	2号住居	須恵器 坏	埋土下層	変形	①121 ②252 ③338	①白色粒多量含む ②黄元陶 ③灰N4.0	底部右回転糸切り。口縁部外反する。黒書土器。内部内面位に「木」。
1550R-5 PL55	2号住居	須恵器 坏	埋土下層	2/3	① (138) ②260 ③340	①細葉・小礫微量含む ②中性陶 ③にJIS-A種2.5YR6/4	底部右回転糸切り。口縁部外反する。黒書土器。内部内面。外面横位に「木」。
1550R-6 PL55	2号住居	須恵器 坏	埋土下層	2/3	① (125) ② 500 ③342	①白色粒含む ②黄元陶 ③灰SY6-1	底部回転糸切り。口縁部わずかに外反する。
1550R-7 PL55	2号住居	須恵器 坏	埋土上層	1/3	① (142) ② 600 ③340	①白色粒含む ②中性陶 ③にJIS-A種2.5YR6/4	器面磨光。底部回転糸切り。口縁部外反する。
1550R-8 PL55	2号住居	須恵器 坏	埋土	底部一部破	① - ② 500 ③ (28)	①白色粒含む ②黄元陶 ③黄R2.5Y5-1	器面磨光。底部左回転糸切り。
1550R-9 PL55	2号住居	須恵器 坏	埋土下層	2/3	①129 ②54 ③41	①小礫少量含む ②酸化腐 ③にJIS-A種2.5YR6/4	底部右回転糸切り。口縁部わずかに外反する。
1550R-10 PL55	2号住居	須恵器 坏	埋土中層	1/4	① (134) ② 600 ③340	①砂粒微量含む ②黄元陶 ③灰黄2.5Y7/2	器面磨光。底部回転糸切り。
1550R-11 PL55	2号住居	須恵器 坏	埋土下層	1/3	① (140) ② 600 ③46	①小礫少量含む ②酸化腐 ③にJIS-A黄緑10YR6-3	底部右回転糸切り。口縁部外反する。黒書土器。内部内面に「木」。
1560R-12 PL55	2号住居	須恵器 坏	埋土下層	口縁部一部 欠損	①133 ②58 ③43	①赤色粒・白色粒含む ②黄元陶 ③灰N5.0	底部右回転糸切り。口縁部外反する。
1560R-13 PL55	2号住居	須恵器 坏	埋土下層	変形	①129 ②134 ③39	①小礫・白色粒含む ②黄元陶 ③灰N4.0	底部右回転糸切り。口縁部わずかに外反する。
1560R-14 PL55	2号住居	須恵器 坏	埋土下層	1/2	①138 ② - ③46	①赤色粒多量含む ②酸化腐 ③黄2.5YR6-6	底部切り差し履。へう張り。外部外面筋のへう張り。口縁部横ナテ。
1560R-15 PL56	2号住居	土師器 皿	埋土中層	1/3	① (134) ②40 ③28	①砂粒多量含む ②酸化腐 ③にJIS-A黄緑10YR5/4	底部へう張り。口縁部横ナテ。
1560R-16 PL56	2号住居	灰輪陶器 皿	埋土上層	1/3	① (146) ② 64 ③ 30	①細葉 ②黄元陶 ③灰白SY7-1	ロクロ整形。貼付け高台。施輪は内面にやや厚め。
1560R-17 PL56	2号住居	須恵器 埴	埋土中層	2/3	①145 ②63 ③55	①白色粒微量含む ②黄元陶 ③にJIS-A種2.5YR6/4	底部回転糸切り。貼付け高台。口縁部外反する。黒書土器。外部外面に「口」。
1560R-18 PL56	2号住居	須恵器 耳皿	埋土下層	変形	①長9.2 短5.8 ②38 ③30	①砂粒微量含む ②黄元陶 ③黄R3.0	底部右回転糸切り。両端を器内面に押し曲げる。
1560R-19 PL56	2号住居	須恵器 埴	埋土中層	4/5	① (146) ② - ③ 50	①砂粒微量含む ②黄元陶 ③灰黄2.5Y6-2	器面磨光。底部回転糸切り。高台消滅。口縁部角位を付けてきつく外反する。
1560R-20 PL56	2号住居	須恵器 埴	埋土下層	4/5	①137 ②64 ③51	①砂粒・白色粒多量含む ②黄元陶 ③灰白SY7-1	底部右回転糸切り。貼付け高台。口縁部外反する。
1560R-21 PL56	2号住居	須恵器 埴	埋土中層	2/3	① 68 ②68 ③65	①小礫少量含む ②黄元陶 ③オリーブ黒SY3-1	底部右回転糸切り。貼付け高台。口縁部外反する。
1560R-22 PL56	2号住居	須恵器 埴	埋土下層	1/3	① (151) ②63 ③ 53	①細葉 ②黄元陶 ③灰黄2.5Y6-2	底部回転糸切り。貼付け高台。口縁部外反する。
1560R-23 PL56	2号住居	須恵器 埴	埋土中層	底部一部破	① - ② 62 ③ 30	①砂粒・白色粒含む ②中性陶 ③にJIS-A黄緑10YR6/4	底部回転糸切り。貼付け高台。高台の作りは概算。
1560R-24 PL56	2号住居	須恵器 埴	埋土下層	底部一部破	① - ② 70 ③ 34	①砂粒微量含む ②黄元陶 ③オリーブ黒SY3-1	底部回転糸切り。貼付け高台。
1560R-25 PL56	2号住居	須恵器 埴	埋土・灰 方	1/3	① (150) ② 72 ③60	①小礫少量含む ②中性陶 ③にJIS-A黄緑10YR5-3	底部回転糸切り。貼付け高台。口縁部わずかに外反する。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①口径 ②底径 ③高さ (cm)	①胎土 ②装成 ③色調	器形・装形等の特徴
1600-26 PL.56	32号住居	灰器 灰皿	雑土	1/2	①長さ14.7 ②幅2.3 ③厚さ0.8	①- ②- ③-	底の断面は方形を呈す。底の先端が2つに分かれる階段状。重さ109g。
1600-27 PL.56	32号住居	石器 凹石	雑土	一部欠損	①長さ9.4 ②幅9.8 ③厚さ5.9	①- ②- ③-	粗粒輝石安山岩。重さ770g。
1600-1 PL.56	33号住居	土師質土器 坏	雑土下層	2/3	①10.2 ②7.0 ③3.2	①砂粒含む ②酸化焙 ③に赤い帯7.5YR6/4	器面焼成。底部回転糸切り。器形大きくゆがむ。
1600-2 PL.56	33号住居	須恵器 碗	雑土下層	底部	①- ②(5.4) ③(2.1)	①砂粒含む ②酸化焙 ③に赤い帯7.5YR5/4	器面焼成。貼付け高台。
1600-3 PL.56	33号住居	羽釜	雑土下層	口縁～胴部	①(23.6) ②- ③(18.6)	①小礫・砂粒多量含む ②中性焙 ③粗7.5YR6/6	器面焼成。体外外面縁位へう閉り。口縁部横ナデ。
1600-4 PL.56	33号住居	羽釜	雑土下層	口縁部片	①(22.6) ②- ③(10.2)	①小礫多量含む ②黄元焙 ③に赤い黄帯10YR5/3	体外外面縁位へう閉り。口縁部横ナデ。
1600-5 PL.56	33号住居	羽釜	雑土下層	口縁部片	①(27.4) ②- ③(12.3)	①小礫・砂粒多量含む ②酸化焙 ③に赤い黄帯10YR7/4	器面焼成。体外外面縁位へう閉り。筒の整形粗雑。口縁部横ナデ。
1600-6 PL.56	33号住居	羽釜	雑土下層	口縁部片	①(30.0) ②- ③(7.0)	①砂粒多量含む ②黄元焙 ③粗7.5YR6/6	体外外面縁位へう閉り。口縁部横ナデ。
1600-7 PL.56	33号住居	須恵器 瓶	雑土	底部片	①- ②(19.4) ③(3.4)	①小礫・砂粒含む ②酸化焙 ③灰帯2.5Y7.2	器面焼成。横ナデを施す。
1600-8 PL.56	33号住居	須恵器 瓶	雑土中層	底部片	①- ②(25.0) ③(6.1)	①小礫・砂粒含む ②酸化焙 ③に赤い黄帯10YR6/4	器面焼成。横ナデを施す。
1600-9 PL.56	33号住居	羽釜小	雑土下層	胴部片	①- ②- ③(15.6)	①砂粒多量含む ②中性焙 ③粗7.5YR6/6	器面焼成。体外外面縁位へう閉り。
1600-10 PL.57	33号住居	灰器 釘	雑土中層	破片	①長さ16.0 ②幅7.7 ③厚さ0.6	①- ②- ③-	両端部欠損。筒化が顕著。重さ57g。
1600-11 PL.57	33号住居	灰洋	雑土下層	上面一部残存	①長さ3.9 ②幅2.8 ③厚さ3.4	①重量100.6g ②磁者夜3 ③メタル皮硝化	碗形煎治洋。厚手。洋質は密。側面に小形の木炭痕あり。
1600-1 PL.57	34号住居	土師器 土師器	雑土上層	胴部～胴部	①- ②- ③(12.2)	①小礫微量含む ②酸化焙 ③に赤い赤帯5YR4/4	器厚は薄い。体外外面縁位～縁位へう閉り。口縁部横ナデ。
1600-2 PL.57	34号住居	土師器 土師器	雑土	底部	①- ②(4.8) ③(1.8)	①砂粒含む ②酸化焙 ③赤帯2.5Y4/1	底部へう閉り。体外外面斜めへう閉り。
1600-3 PL.57	34号住居	土師器 土師器	雑土中層	口縁～胴部	①(19.0) ②- ③(9.6)	①小礫微量含む ②酸化焙 ③赤帯2.5Y4/6	器厚は薄い。体外外面縁位へう閉り。口縁部コの字状で横ナデを施す。
1600-4 PL.57	34号住居	須恵器 坏	雑土下層	1/2	①(13.8) ②(7.2) ③4.0	①白色粒少量含む ②黄元焙 ③灰帯2.5Y7.2	器面焼成。底部回転糸切り。
1600-5 PL.57	34号住居	須恵器 坏	雑土下層	1/2	①(13.8) ②(9.6) ③5.7	①白色粒含む ②黄元焙 ③灰帯6/1	器面焼成。貼付け高台。
1600-1 PL.57	35号住居	土師器 土師器	雑土	口縁部片	①- ②- ③(4.0)	①赤色粒少量含む ②黄元焙 ③明赤帯2.5YR5/6	体外外面へう閉り。口縁部横ナデ。口縁部にへうの痕跡有り。
1600-1 PL.57	36号住居	須恵器 碗	雑土	底部片	①- ②(7.0) ③(1.5)	①白色粒含む ②黄元焙 ③灰帯6/1	貼付け高台。高台端部丸味をおびる。
1600-2 PL.57	36号住居	須恵器 碗	雑土	口縁部片	①(17.5) ②- ③(4.5)	①白色粒含む ②黄元焙 ③に赤い黄帯10YR5/3	ロケロ整形。
1600-1 PL.57	37号住居	須恵器 坏	雑土	底部片	①- ②(7.0) ③(2.4)	①砂粒微量含む ②酸化焙 ③に赤い帯7.5YR6/4	器面焼成。底部回転糸切り。胎土は緻密。
1600-1 PL.57	38号住居	須恵器 碗	雑土	底部片	①- ②(6.0) ③(2.3)	①白色粒少量含む ②酸化焙 ③に赤い帯7.5YR5/4	貼付け高台。高台の整形粗雑。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図番番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①材質 ②形状 ③高さ (cm)	④土質 ⑤構成 ⑥色調	器形・形状等の特徴
1700-1 PL57	29号住居	須恵器 甕	棟土上層	胴部片	①- ②- ③ (124)	①白色粒を含む ②黄泥質 ③灰5Y7/4	経作り後、明き整形。外面へく日調整後、平行明き。内面宛て具は青漆塗文。
1710-1 PL57	40号住居	須恵器 埴小	棟土中層	口縁部片	① (120) ②- ③ (31)	①白色粒微量含む ②黄泥質 ③灰5Y7/4	器厚は薄い。口縁部外反する。
1710-2 PL57	40号住居	須恵器 埴	棟土中層	底部-底部	①- ② (66) ③ (34)	①小礫少量含む ②黄泥質 ③に赤い黄緑10YR5-3	器面磨光。貼付け高台。高台端部に凹凸目立つ。
1740-1 PL57	41号住居	土師器 甕	棟土下層	口縁部片	① (220) ②- ③ (63)	①砂粒・白色粒微量含む ②黄化泥 ③明赤褐色5YR5-6	器面外面横位へう割り。口縁部横ナデ。
1740-2 PL57	41号住居	土師器 台付甕	棟土下層	台部のみ	①- ② 388 ③ (40)	①赤色粒多量含む ②黄化泥 ③粗2.5YR6-6	台部横ナデ。底部底部整形痕有り。
1740-3 PL57	41号住居	土師器 台付甕	棟土上層	胴部-台部	①- ② (66) ③ (109)	①赤色粒含む ②黄化泥 ③赤褐色10R5-4	台部横ナデ。器面外面横位-横位へう割り。
1740-4 PL57	41号住居	須恵器 埴	棟土上層	はげ定形	①130 ②66 ③40	①赤色粒含む ②黄化泥 ③に赤い黄緑10YR6-3	底部切り離した後、へう割り。器面外面斜めへう割り。口縁部横ナデ。
1740-5 PL57	41号住居	須恵器 埴小	腹方	口縁部片	① (138) ②- ③ (32)	①白色粒微量含む ②黄泥質 ③に赤い黄緑10YR6-3	口縁部外反する。
1740-6 PL57	41号住居	須恵器 埴小	棟土上層	口縁部片	① (146) ②- ③ (35)	①白色粒微量含む ②黄泥質 ③灰5Y6-1	口縁部わずかに外反する。
1740-7 PL57	41号住居	須恵器 埴	棟土下層	2/3	① (136) ②- ③ (53)	①小礫・砂粒含む ②黄泥質 ③灰5YR6-1	器面磨光。貼付け高台。底部回転糸切り。
1740-8 PL57	41号住居	須恵器 埴	棟土	口縁-底部	① (120) ②- ③ (50)	①砂粒微量含む ②黄泥質 ③に赤い黄緑2.5YR6/4	高台欠損。口縁部わずかに外反する。
1740-9 PL57	41号住居	鉄器 釘	棟土上層	破片	①長さ (44) ②幅0.5 ③厚さ0.4	①- ②- ③-	両端部欠損。断面は長方形を呈す。重さ12g。
1760-1 PL57	42号住居	土師器 土甕	棟土上層	口縁-胴部	① (216) ②- ③ (216)	①砂粒・赤色粒含む ②中性泥 ③粗2.5YR6-6	器面磨光。器面外面横位へう割り。口縁部横ナデ。
1760-2 PL57	42号住居	須恵器	棟土下層	口縁-胴部	① (180) ②- ③ (155)	①砂粒少量含む ②黄泥質 ③灰白2.5YR8-2	器面磨光。口縁部横ナデ。42号住居-3と同一器体小。
1770-3 PL57	42号住居	須恵器	カマド側 方	胴部-底部	①- ② (66) ③ (101)	①砂粒少量含む ②黄泥質 ③灰白2.5YR8-2	器面磨光。口縁部横ナデ。42号住居-2と同一器体小。
1770-4 PL57	42号住居	須恵器 埴	棟土上層	はげ定形	①105 ②55 ③31	①白色粒少量含む ②中性泥 ③粗灰黄2.5Y5-2	器面磨光。底部回転糸切り。
1770-5 PL58	42号住居	鉄器 刀子	棟土下層	一部欠損	①長さ130 ②幅2.7 ③厚さ10	①- ②- ③-	茎に木村が残存。茎の根元は完全に木村に覆われている。重さ18.8g。
1770-6 PL58	42号住居	鉄器 鉄片	棟土下層	はげ定形	①長さ77 ②幅0.9 ③厚さ1.4	①重量81.1g ②組織硬3 ③メタル度なし	破形鍛冶片。表面は粗。焼化した含鉄部が散在するが、粘土質溶融物が主体。
1790-1 PL58	43号住居	須恵器 埴	棟土上層	1/3	① (152) ② (106) ③42	①小礫含む ②黄泥質 ③黄緑2.5Y6-1	底部右回転糸切り。貼付け高台。
1790-2 PL58	43号住居	須恵器 埴	棟土上層	底部片	①- ② (98) ③ (10)	①小礫含む ②黄泥質 ③灰白2.5Y7/1	底部右回転へう割り。貼付け高台。
1790-3 PL58	43号住居	須恵器	棟土中層	底部片	①- ② (50) ③ (54)	①小礫含む ②黄化泥 ③明赤褐色5YR5-6	外面下位は横ナデ。器厚は上位ほど厚くなる。
1790-4 PL58	43号住居	石器 石斧	棟土中層	一部欠損	①長さ114 ②幅7.9 ③厚さ2.1	①- ②- ③-	ホルンフェルス。重さ188.0g。
1810-1 PL58	44号住居	土師器 甕	棟土下層	口縁-胴部	① (226) ②- ③ (160)	①砂粒少量含む ②黄化泥 ③粗2.5YR6-6	器面磨光。口縁部横ナデ。器厚は薄い。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺物名	類別 器種	出土位置	残存状況	①口径 ②底径 ③高さ (cm)	①胎土 ②装成 ③色調	形状・装形等の特徴
18100-2 PL.58	44号住居	須恵器 坏	棟土下層	2/3	①154 ②73 ③42	①黒色粒多量含む 赤褐色 ③灰青2.5Y8.3	器面装成。底部了位内側に張る。
18100-3 PL.58	44号住居	須恵器 蓋	棟土下層	完形	①166 ②横み部41 ③32	①白色粒多量含む 赤褐色 ③に赤い黄2.5Y6.3	扁平で内側中央部がわずかに突出した環状の組みを持つ。
18100-4 PL.58	44号住居	須恵器 蓋	棟土下層	3/4	①161 ②横み部49 ③29	①白色粒多量含む 赤褐色 ③に赤い黄2.5Y6.3	扁平で内側中央部がわずかに突出した環状の組みを持つ。
18100-5 PL.58	44号住居	須恵器 蓋	棟土下層	完形	①162 ②横み部45 ③30	①白色粒多量含む 赤褐色 ③灰青2.5Y4.1	扁平で内側中央部がわずかに突出した環状の組みを持つ。
18100-6 PL.58	44号住居	石製模造品	棟土	一部欠損	①長さ5.2 ②幅2.2 ③厚さ0.3	①- ②- ③-	柱貫薄片。長さ2.93g。
18100-1 PL.58	45号住居	土師器 土	棟土中層	底部片	①- ② 5.0 ③ 3.2	①小礫多量含む 赤褐色 ③明赤褐色2.5YR5.6	器面装成。底部へう張り。
18100-2 PL.58	45号住居	須恵器 埴	棟土上層	口縁部片	① 132 ②- ③ 4.0	①赤色粒含む 赤褐色 ③灰青2.5Y6.6	底部欠損。口縁部には丸味をおびる。
18100-3 PL.58	45号住居	須恵器 蓋	棟土下層	2/3	① 140 ② 74 ③ 4.8	①砂粒多量含む 赤褐色 ③に赤い黄橙10YR6.4	底部へう張り。貼付け高台。高台部欠損多い。
18100-4 PL.58	45号住居	磁石	棟土下層	底部片	①- ② 29.8 ③ 4.8	①小礫多量含む 赤褐色 ③に赤い赤褐色5YR5.4	底部積ナゲ。外部外面傾位へう張り。
18100-5 PL.58	45号住居	須恵器 埴	棟土下層	底部	①- ② 2.90 ③ 3.80	①小礫多量含む 赤褐色 ③灰青2.5Y8.3	器面装成。貼付け高台。
18100-1 PL.58	46号住居	土師器 埴	棟土上層	2/3	① 132 ② 74 ③ 7.3	①砂粒多量含む 赤褐色 ③赤褐色5.6	底部へう張り。底部中央部に「×」状の刻線有り。外部外面傾位へう張り。口縁部積ナゲ。
18100-2 PL.58	46号住居	土師器 埴	棟土下層	胴部片	①- ②- ③ 23.9	①白色粒含む 赤褐色 ③赤褐色5YR4.6	器厚は薄い。外部外面傾位へう張り。
18100-3 PL.58	46号住居	土師器 埴	棟土下層	底部片	①- ② 6.8 ③ 3.4	①白色粒含む 赤褐色 ③暗褐色10YR3.3	底部へう張り。外部外面へう張り。
18100-4 PL.58	46号住居	須恵器 蓋	棟土上層	横み部	①- ②横み部 5.4 ③ 11.0	①砂粒多量含む 赤褐色 ③灰青2.5Y7.2	口縁部欠損。扁平で内側中央部が凹んだ環状の組みを持つ。
18100-5 PL.58	46号住居	須恵器 蓋	棟土上層	1/2	① 160 ②横み部46 ③27	①小礫・黒色粒含む 赤褐色 ③灰青2.5Y7.2	扁平で内側中央部がわずかに突出した環状の組みを持つ。
18100-6 PL.58	46号住居	須恵器 蓋	棟土中層	ほぼ完形	①70 ②横み部45 ③32	①黒色粒多量含む 赤褐色 ③灰青2.5Y7.2	扁平で内側中央部がわずかに突出した環状の組みを持つ。
18100-7 PL.58	46号住居	須恵器 蓋	棟土下層	口縁部一部 欠損	①70 ②横み部51 ③34	①小礫含む 赤褐色 ③に赤い黄褐色10YR7.4	扁平で内側中央部がわずかに突出した環状の組みを持つ。
18100-8 PL.58	46号住居	須恵器 蓋	棟土下層	口縁部片	① 186 ②横み部- ③ 2.0	①黒色粒多量含む 赤褐色 ③灰青2.5Y7.2	横み部欠損。口縁部両側をつけて底部に至る。
18100-1 PL.59	47号住居	土師器 埴	棟土下層	胴部～底部	①- ② 5.0 ③ 9.3	①砂粒多量含む 赤褐色 ③に赤い赤褐色5YR5.3	器面装成。底部へう張り。外部外面傾位へう張り。器厚は薄い。
18100-2 PL.59	47号住居	須恵器 蓋	棟土下層	口縁部片	① 170 ②横み部- ③ 1.7	①砂粒多量含む 赤褐色 ③灰青2.5Y4.1	底部下に沈積層を。
18100-3 PL.59	47号住居	須恵器 埴小	棟土下層	口縁部片	① 18.5 ②- ③ 4.0	①白色粒含む 赤褐色 ③灰青3.0	底部上位に沈積層を。口唇部には丸味をおびる。
18100-4 PL.59	47号住居	須恵器 埴	棟土下層	口縁部片	① 260 ②- ③ 5.2	①黒色粒含む 赤褐色 ③灰白5Y8.1	口縁部積ナゲ。底部折り返す。
18100-5 PL.59	47号住居	須恵器 円面鏡	棟土中層	鏡片	① 120 ② 9.8 ③ 2.1	①黒色粒少量含む 赤褐色 ③灰白5Y7.1	残存部わずかなため、全容の詳細は不明。底部中央部わずかに厚みを増す。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 採取番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①材質 ②形状 ③高さ (cm)	④土粒 ⑤構成 ⑥色調	形状・整形等の特徴
189I-1 PL.59	48号住居	須恵器 環	瓦土	口縁～底部	① (138) ② 6(0) ③ (37)	①白色粒少量含む ②還元 ③灰5Y6/6	底部回転糸切り。口縁部は丸味をおびる。
189I-2 PL.59	48号住居	須恵器 環	瓦土	底部	① - ② 6(0) ③ (27)	①砂粒陶質含む ②還元 ③灰5Y6/2	器面磨滅。底部回転糸切り。
189I-3 PL.59	48号住居	須恵器 環	瓦土上層	底部	① - ② 5(6) ③ (13)	①砂粒含む ②還元 ③明赤銅10YR7/6	器面磨滅。底部右回転糸切り。
189I-4 PL.59	48号住居	須恵器 環	瓦土下層	底部	① - ② 6(2) ③ (11)	①砂粒含む ②還元 ③にぶい青銅10YR7/3	器面磨滅。底部中央部に凸状突起残る。
190I-1 PL.59	49号住居	須恵器 環	瓦土上層	1/3	① (130) ② 3(0) ③ (40)	①小礫含む ②還元 ③灰7.5Y6/1	底部右回転糸切り。
190I-2 PL.59	49号住居	須恵器 環	瓦土上層	2/3	① (136) ② 6(4) ③ 3(41)	①砂粒・白色粒含む ②還元 ③灰5Y6/1	器面磨滅。底部右回転糸切り。
190I-3 PL.59	49号住居	須恵器 環	瓦土中層	ほぼ完形	①134 ②55 ③28	①小礫含む ②中性 ③明赤銅10YR6/6	底部右回転糸切り。口縁わずかに外反する。
190I-4 PL.59	49号住居	須恵器 環	瓦土	底部片	① - ② (49) ③ (23)	①白色粒含む ②中性 ③にぶい青銅10YR5/4	器面磨滅。底部回転糸切り。
190I-5 PL.59	49号住居	須恵器 環	瓦土	底部片	① - ② 6(2) ③ (27)	①小礫・白色粒含む ②還元 ③灰5Y4/1	器面磨滅。底部回転糸切り。貼付け高台。
190I-6 PL.59	49号住居	須恵器 環	瓦土下層	口縁部一部 欠損	①153 ②67 ③62	①黄赤・赤色粒含む ②還元 ③にぶい青銅10YR6/4	底部回転糸切り。貼付け高台。口縁部外反する。
190I-7 PL.59	49号住居	須恵器 環	瓦土下層	胴部片	① - ② - ③ (28.3)	①白色粒多量含む ②還元 ③粗灰NS-0	縁作り後、明赤整形。外面平行明赤。内面短て具は書文。
190I-8 PL.59	49号住居	鉄器 鉄線素	瓦土	一部欠損	①長さ45 ②幅51 ③厚さ0.5	① - ② - ③ -	輪部はすべて欠損。輪との接合部にわずかな跡Aがみられる。重さ170g。
192I-1 PL.59	50号住居	土師器 壺	瓦土中層	口縁部片	① (182) ② - ③ 6(3)	①小礫多量含む ②還元 ③明赤銅5YR5/6	口縁部コの字状で横ナメを施す。
192I-2 PL.59	50号住居	土師器 付付壺	瓦土	1/2	① (146) ② (110) ③ (207)	①小礫含む ②還元 ③明赤銅2.5YR5/6	器面磨滅。体部外面中位斜めへら削り。体部外面上位横筋へら削り。口縁部の字状で横ナメを施す。
192I-3 PL.59	50号住居	須恵器 環	瓦土中層	完形	①125 ②62 ③40	①白色粒多量含む ②還元 ③灰10Y5/1	底部右回転糸切り。
192I-4 PL.59	50号住居	須恵器 環	瓦土中層	完形	①130 ②79 ③39	①小礫・白色粒含む ②還元 ③灰10Y5/1	底部回転糸切り。体部外面上位わずかな稜を有する。
193I-5 PL.59	50号住居	須恵器 環	瓦土下層	完形	①126 ②60 ③40	①小礫・白色粒多量含む ②還元 ③灰NS-0	底部回転糸切り。体部外面上位わずかに外反する。
193I-6 PL.59	50号住居	須恵器 環	瓦土下層	完形	①123 ②58 ③38	①白色粒陶質含む ②還元 ③灰5Y6/1	底部右回転糸切り。
193I-7 PL.59	50号住居	須恵器 環	瓦土下層	ほぼ完形	①128 ②63 ③40	①白色粒少量含む ②還元 ③灰黄2.5Y7/2	器面磨滅。
193I-8 PL.59	50号住居	須恵器 環	瓦土下層	1/2	① (136) ② 6(0) ③ 3(0)	①小礫・白色粒含む ②還元 ③灰10.5Y7/1	器面磨滅。底部右回転糸切り。
193I-9 PL.59	50号住居	須恵器 環	瓦土下層	4/5	①128 ②65 ③41	①小礫・白色粒含む ②還元 ③灰7.5Y6/1	底部回転糸切り。
193I-10 PL.59	50号住居	須恵器 環	瓦土下層	ほぼ完形	①138 ②78 ③55	①小礫・白色粒含む ②還元 ③灰10.5Y7/1	底部回転糸切り。貼付け高台。
193I-11 PL.60	50号住居	須恵器 環	瓦土中層	2/3	① (154) ② 8(4) ③ 6(0)	①小礫少量含む ②還元 ③灰10.5Y7/1	器面磨滅。貼付け高台。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①材料 ②成層 ③高さ (m)	①土質 ②構成 ③色調	形状・断面の特徴
19304-12 PL.59	50号住居	須臾器 埴	雑土	口縁~底部	① (140) ② 70 ③56	①小礫含む ②黄土色 ③灰白2.5Y6-2	貼付け高台。外部外面土位わずかに隆を有する。
19304-13 PL.60	50号住居	須臾器 埴	雑土下層	高台部欠損	①164 ②- ③ (5.1)	①小礫・白色粒含む ②黄土色 ③灰5Y6-1	器面焼成。高台剥落。口縁部大きくゆがむ。
19304-14 PL.60	50号住居	須臾器 埴	雑土下層	口縁部一部 欠損	①194 ②102 ③91	①小礫・白色粒含む ②黄土色 ③灰5Y5-1	底部回転未切り。貼付け高台。
19304-15 PL.60	50号住居	須臾器 埴	雑土中層	2/3	① (147) ②72 ③59	①白色粒微量含む ②黄土色 ③にぶい黄緑2.5Y6-3	器面焼成。底部回転未切り。貼付け高台。
19304-16 PL.60	50号住居	鉄器 不明	雑土上層	一部欠損	①長さ (5.1) ②幅1.3 ③厚さ0.4	①- ②- ③-	身と茎のそれぞれ両端部欠損。稜区のみ残存。重さ37g。
19304-17 PL.60	50号住居	鉄器 不明	雑土上層	一部欠損	①長さ (5.7) ②幅0.9 ③厚さ0.3	①- ②- ③-	両端部欠損。断面は三角形を呈する。重さ23g。
19304-18 PL.60	50号住居	石器 石鏃	雑土	一部欠損	①長さ1.80 ②幅1.60 ③厚さ0.40	①- ②- ③-	チャート。重さ100g。
19304-1 PL.60	51号住居	須臾器 埴	雑土下層	4/5	①126 ②82 ③33	①白色粒少量含む ②黄土色 ③灰NS-0	底部回転未切り後、へう削り。口縁部わずかに外反する。
19304-2 PL.60	51号住居	土師器 壺	雑土下層	口縁~胴部	① (207) ②- ③ (17.8)	①小礫含む ②黄化色 ③粗5Y3M-6	器面焼成。器厚は薄い。外部外面傾斜~横立へう削り。口縁部積みナシ。
19304-3 PL.60	51号住居	須臾器 埴	雑土下層	胴部片	①- ②- ③ (14.5)	①小礫・白色粒含む ②黄土色 ③黄R2.5Y6-1	器面焼成。明き整形。外面平行明き。内面短て具は直さ。
19304-4 PL.60	51号住居	須臾器 蓋	雑土下層	口縁部一部 欠損	①180 ②幅部32 ③40	①白色粒多く含む ②黄土色 ③灰NS-0	中央部突出したゲタン状の縁を持つ。口縁部にゆがみがみられる。
19304-5 PL.60	51号住居	須臾器 蓋	雑土下層	4/5	①151 ②幅部33.8 ③3.4	①砂粒含む ②黄土色 ③灰青2.5Y7-2	扁平で内側中央部が凹んだ。竜状の縁を持つ。黒褐色土器。縁部に「改」。
19304-6 PL.60	51号住居	須臾器 壺	雑土下層	口縁部一部 欠損	①162 ②114 ③50	①白色粒少量含む ②黄土色 ③灰青2.5Y6-2	器面焼成。貼付け高台。底部回転未切り。
19304-7 PL.60	51号住居	鉄器 刀子	雑土下層	一部欠損	①長さ (8.2) ②幅1.2 ③厚さ0.3	①- ②- ③-	茎は欠損。刃先は鋭く。残存状態は比較的良好。重さ60g。
19304-1 PL.60	52号住居	須臾器 壺	雑土	胴部か	①- ②- ③ (6.4)	①白色粒含む ②黄土色 ③灰白5Y7/1	外面自然輪付着。
19304-1 PL.60	53号住居	土師器 土付小壺	雑土中層	口縁~胴部	① (101) ②- ③ (9.1)	①赤色粒少量含む ②黄化色 ③粗5Y3M-6	台部欠損。外部外面傾斜~斜立へう削り。口縁部積みナシ。
19304-2 PL.60	53号住居	土師器 小壺	カマド雑土	口縁~胴部	① (126) ②- ③ (7.9)	①赤色粒少量含む ②黄化色 ③にぶい相7.5Y3M-4	外部外面傾斜へう削り。口縁部積みナシ。器厚は薄い。
19304-3 PL.60	53号住居	土師器 小壺	雑土	口縁部片	① (110) ②- ③ (4.1)	①赤色粒多量含む ②黄化色 ③にぶい相7.5Y7/4	器面焼成。口縁部積みナシ。
19304-4 PL.60	53号住居	土師器 小壺	カマド雑土	口縁部片	① (128) ②- ③ (4.6)	①赤色粒少量含む ②黄化色 ③にぶい相7.5Y3M-4	外部外面傾斜へう削り。口縁部積みナシ。
19304-5 PL.60	53号住居	須臾器 壺	雑土・カマド雑土	口縁~底部	① (156) ②幅部- ③ (2.4)	①小礫・白色粒微量含む ②黄化色 ③にぶい黄緑10Y7/3	胴部欠損。口縁部平面部を有し、胴部は直角に屈曲する。
19304-6 PL.60	53号住居	須臾器 埴	雑土	口縁~底部	① (118) ② 60 ③32	①小礫・赤色粒含む ②黄土色 ③にぶい黄緑10Y5-4	底部回転未切り。口縁部わずかに外反する。
19304-7 PL.60	53号住居	須臾器 埴	雑土・表	口縁~底部	① (117) ② (5.7) ③3.6	①小礫少量含む ②黄土色 ③灰7.5Y6-1	器面焼成。底部回転未切り。
20704-1 PL.61	7号副土 柱建物	須臾器 埴	雑土	1/3	① (130) ②5.5 ③4.1	①砂粒含む ②黄化色 ③明赤相5Y3S-6	底部回転未切り。黒褐色土器。外部外面正立に「梁」。



二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 探検番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①材質 ②形状 ③高さ (cm)	④土色 ⑤構成 ⑥色調	器形・形状等の特徴
207回-2 PL.61	7号孤立 柱建物	須恵器 埴	埋土	1/3	① (144) ② - ③ (45)	①砂粒微量含む ②黄元陶 ③にふい-層2SY6-3	器面磨光。高台潤滑。口縁部反りする。
209回-1 PL.60	8号孤立 柱建物	須恵器 埴	埋土	体部-底部	① - ② (55) ③ (40)	①白色粒微量含む ②黄元陶 ③灰7SY6-1	器面磨光。貼付け高台。
213回-1 PL.61	4号溝	土師器 高弁	埋土	脚部片	① - ② - ③ (34)	①砂粒含む ②黄化陶 ③にふい-層2SYR7-4	器面磨光。
213回-2 PL.61	4号溝	土師器 埴	埋土	口縁部片	① (112) ② - ③ (32)	①赤色粒少量含む ②黄化陶 ③明黄緑10YR6-6	器面磨光。S字状口縁か?
213回-3 PL.61	4号溝	土師器 埴	埋土	底部片	① - ② (59) ③ (18)	①赤色粒・白色粒含む ②黄化陶 ③明緑7SYR5-6	器面磨光。貼付け高台。
213回-4 PL.61	4号溝	土師器 埴	埋土	口縁部片	① (139) ② - ③ (28)	①赤色粒少量含む ②黄化陶 ③にふい-層10YR7-4	器面磨光。体部外面に段状のへう面有り。
213回-5 PL.61	4号溝	土師器 台付埴	埋土	台部片	① - ② - ③ (33)	①白色粒含む ②黄化陶 ③にふい-層2SYR6-4	器面磨光。
213回-6 PL.61	4号溝	須恵器 埴	埋土	底部片	① - ② (61) ③ (16)	①白色粒少量含む ②黄元陶 ③灰N4-0	底部回転未切り。
213回-7 PL.61	4号溝	須恵器 埴	埋土	底部片	① - ② (82) ③ (10)	①黒色粒・白色粒含む ②黄元陶 ③灰N6-0	底部回転未切り。
213回-8 PL.61	4号溝	須恵器 高弁	埋土	底部片	① - ② - ③ (36)	①小礫・黒色粒含む ②黄元陶 ③灰白5YR-1	底部に交差を認らせる。
213回-9 PL.61	4号溝	須恵器 埴	埋土	底部片	① - ② (76) ③ (17)	①白色粒含む ②黄元陶 ③灰7SY5-1	器面磨光。
213回-10 PL.61	4号溝	須恵器 埴	埋土	底部片	① - ② (74) ③ (11)	①白色粒含む ②黄元陶 ③灰白7SY7-1	器面磨光。
213回-11 PL.61	4号溝	須恵器 埴	埋土	底部片	① - ② (66) ③ (26)	①細礫 ②黄元陶 ③灰黄2SY7-2	器面磨光。貼付け高台。高台の残存悪い。
213回-12 PL.61	4号溝	須恵器 埴	埋土	底部片	① - ② (82) ③ (18)	①白色粒含む ②黄元陶 ③灰N6-0	貼付け高台。高台は部有。
213回-13 PL.61	4号溝	須恵器 蓋	埋土	編み部片	① - ②編み部40 ③ (13)	①小礫・黒色粒含む ②黄元陶 ③灰白5Y7-1	扁平で内側中央部が凹んだ環状の編みを持つ。
213回-14 PL.61	4号溝	須恵器 蓋	埋土	1/4	① (160) ②編み部 (42) ③ (29)	①白色粒含む ②黄元陶 ③灰白5Y6-0	内側中央部が凹んだ環状の編みを持つ。天井部中位縁を有する。
213回-15 PL.61	4号溝	須恵器 埴	埋土	口縁部片	① - ② - ③ (52)	①白色粒含む ②黄元陶 ③灰N4-0	器面磨光。
213回-16 PL.61	4号溝	灰胎小古 壺/F 敷	埋土	底部片	① - ② (66) ③ (32)	① - ② - ③灰白7SYR-2	外面灰胎。
213回-17 PL.61	4号溝	青磁 碗	埋土	口縁部片	① - ② - ③ (26)	① - ② - ③ナリ-ズ灰10Y6-2	龍泉窯系。編著介文陶。13c中-後。
213回-18 PL.61	4号溝	須恵器 碗	埋土	破片	① - ② - ③ (27)	①白色粒多量含む ②黄元陶 ③灰N5-0	透し有り。外面横ナテを施す。
214回-19 PL.61	4号溝	須恵器 埴	埋土	口縁部片	① (240) ② - ③ (53)	①小礫・白色粒含む ②黄元陶 ③緑2SYR6-6	器面磨光。口縁部横ナテ。
214回-20 PL.61	4号溝	須恵器 埴	埋土	口縁部片	① (358) ② - ③ (70)	①白色粒含む ②黄元陶 ③灰N5-0	器面磨光。口縁部に波状文を施す。
214回-21 PL.61	4号溝	須恵器 埴	埋土	胴部-底部	① - ② (172) ③ (72)	①小礫・赤色粒含む ②中性陶 ③灰5Y6-1	器面磨光。体部下位縁旋削あり。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺物名	類別 器種	出土位置	残存状況	①口径 ②底径 ③高さ (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	形状・装飾等の特徴
21410-22 PL.61	4号溝	炊飯陶器 鉢	雑土	口縁～底部	① ②26 ②- ③ ③98	①黒色粒を含む ②還元焼 ③灰NS-0	体部内面下位使用痕あり。口縁部横ナデ。
21410-23 PL.61	4号溝	瓦	雑土	破片	①長さ(91) ②幅(110) ③厚さ37	①小礫多量含む ②酸化焼 ③にふい黄緑10YR7/3	女瓦。表面に布目。表面整形不詳。
21410-24 PL.61	4号溝	鉄器 釘	雑土	一部欠損	①長さ(47) ②幅17 ③厚さ0.5	①- ②- ③-	断面は方形を呈す。錆化が顕著。重さ25g。
21410-25 PL.61	4号溝	石器 石筴	雑土	ほぼ完形	①長さ112 ②幅10.5 ③厚さ26	①- ②- ③-	ホルンフェルス。重さ317.4g。
21410-26 PL.61	4号溝	石器 石筴	雑土	ほぼ完形	①長さ120 ②幅8.8 ③厚さ22	①- ②- ③-	ホルンフェルス。重さ167.3g。
21610-1 PL.61	5号溝	須恵器 杯	雑土	体部～底部	①- ②(46) ③24	①白色粒含む ②還元焼 ③灰NZ-0	器面準焼。底部回転糸切り。
21610-2 PL.61	5号溝	青磁	雑土	底部片	①- ②- ③(14)	①- ②- ③オリーブ灰10Y6/2	龍泉窯系。大平野分類I～4類c。12c中～13c中。内面から高台内施釉。
21610-3 PL.61	5号溝	土製品 土埴	雑土	完形	①長さ54 ②幅1.8 ③厚さ1.6	①継ぎ ②酸化焼 ③相2.5YR4/3	器形にゆがみ。両端わずかに欠損。
21610-4 PL.61	5号溝	青磁	雑土	破片	①- ②- ③(29)	①- ②- ③オリーブ灰2.5GY6/1	龍泉窯系。大平野分類I～4類c。分類線とその間の文様一部残存。12c中～13c中。
21610-5 PL.61	5号溝	羽釜	雑土	口縁部片	①(200) ②- ③(42)	①白色粒含む ②還元焼 ③灰白5Y7/1	口縁部横ナデ。口唇部端部に平坦面有する。
21710-6 PL.61	5号溝	炊飯陶器 鉢	雑土	口縁～胴部	① ③34 ②- ③(124)	①白色粒・小礫含む ②還元焼 ③灰白5Y7/1	内面に使用痕あり。
21710-7 PL.61	5号溝	炊飯陶器 鉢	雑土	口縁～胴部	① ③88 ②- ③(80)	①小礫多量含む ②還元焼 ③にふい黄2.5Y6/3	体部整形痕跡。口縁部横ナデ。
21710-8 PL.61	5号溝	陶器 壺	雑土	胴部～底部	①- ②(190) ③(95)	①- ②- ③にふい相7.5YR5/3	壺の底部と考えられ、胎土・焼成の特徴から3号井戸-1と同一製体の可能性がある。
21710-9 PL.61	5号溝	鉄器 不明	雑土	一部欠損	①長さ(45) ②幅1.2 ③厚さ0.3	①- ②- ③オリーブ灰2.5GY6/1	断面は長方形を呈し、内部は空筒。長軸方向わずかに湾曲する。重さ27g。
22110-1 PL.62	10号溝	須恵器 壺	雑土	底部片	①- ②(69) ③(17)	①白色粒含む ②還元焼 ③灰白2.5Y7/1	底部回転糸切り。貼付高台。
22110-2 PL.62	10号溝	須恵器 盤状高杯	雑土	胴部	①- ②- ③(53)	①白色粒・砂粒含む ②還元焼 ③灰7.5Y5/1	器面準焼。外面口縁部横ナデ。
22110-3 PL.62	10号溝	陶器 天目碗	雑土	口縁部片	①- ②- ③(38)	①- ②- ③黒10YR2/1	製作地不詳。
22110-4 PL.62	10号溝	須恵器 壺	雑土	胴部～底部	①- ②(125) ③(46)	①白色粒含む ②還元焼 ③灰7.5Y5/1	器面準焼。叩き整形。外面平行叩き。内面短て具は素式。
22110-5 PL.62	10号溝	内耳型土器	雑土	口縁部片	① ③50 ②- ③(60)	①白色粒含む ②にふい焼成 ③黒NS-0	口縁端部上面に平坦面有り。
22210-6 PL.62	10号溝	貨幣	雑土中層	破片	直径①208 ②247 内幅③69 ④60 厚さ⑤0.11～0.12	①- ②- ③-	寛永通宝。錆化が進んでいる。重さ19g。
22210-7 PL.62	10号溝	内耳型土器	雑土	口縁部片	① ③58 ②- ③(49)	①赤色粒・白色粒含む ②にふい焼成 ③灰黄緑10YR5/2	口縁部横ナデ。肩部上面に平坦面有り。
22210-8 PL.62	10号溝	石器 石筴	雑土	ほぼ完形	①長さ107 ②幅5 ③厚さ27	①- ②- ③-	ホルンフェルス。重さ342.2g。
22210-9 PL.62	10号溝	石器 磨製石筴	雑土	ほぼ完形	①長さ120 ②幅2 ③厚さ3.2	①- ②- ③-	安土武石。重さ279.7g。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 探検番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①材質 ②形状 ③高さ (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・形状等の特徴
2221R-10 PL.62	10号溝	石部 石筴	埋土	一部欠損	①長さ12.8 ②幅5.0 ③厚さ1.8	①- ②- ③-	ホルンフェルス。重さ150.6g。
2221R-11 PL.62	10号溝	五輪塔 木輪	埋土	ほぼ完形	①長さ20.5 ②幅21.6 ③厚さ21.9	①- ②- ③-	板状石灰岩山石。重さ7200g。
2231R-1 PL.62	11号溝	須恵器 坏	埋土	1/2	①- ② (7.0) ③ (2.3)	①小礫少量含む ②黄土陶 ③灰白S576/1	器面磨光。底部右回転糸切り。
2231R-2 PL.62	11号溝	須恵器 埴	埋土下層	底部片	①- ② (16.0) ③ (1.5)	①小礫含む ②黄土陶 ③灰白S578/2	器面磨光。足付け高台。
2231R-3 PL.62	11号溝	陶磁器 白磁	埋土	口縁部片	①- ②- ③ (1.4)	①- ②- ③灰黄2.5V7/2	大宰府分門V類が標準であろう。
2251R-1 PL.62	12号溝	石部 石筴	埋土	ほぼ完形	①長さ10.7 ②幅7.7 ③厚さ2.0	①- ②- ③-	ホルンフェルス。重さ21.3g。
2261R-1 PL.62	13号溝	羽釜	埋土	口縁部片	①- ②- ③ (11.0)	①砂粒・赤色粒微量含む ②黄土陶 ③灰S574/1	体部外面縦位へう閉り。口縁部横ナデ。
2271R-2 PL.62	13号溝	炊飯陶器 埴	埋土	口縁-底部	① (25.2) ② (24.6) ③ (3.3)	①黒色粒微量含む ②黄土陶 ③黒黒10Y7C/1	体部外面横ナデ。底部に磨れ跡が残る。
2271R-3 PL.62	13号溝	鉄滓	埋土	ほぼ完形	①長さ4.5 ②幅3.3 ③厚さ1.9	①重量49.2g ②磁石反応 ③メタル反応なし	磁石顕治療。粘土質赤褐色主体。全体的に錆化しており鉄分を含んでいる。下面には酸化土砂付着。
2321R-1 PL.62	21号溝	石部 石筴	埋土	ほぼ完形	①長さ9.6 ②幅7.4 ③厚さ1.1	①- ②- ③-	ホルンフェルス。重さ83.0g。
2331R-1 PL.62	2161号 土坑	須恵器 埴	埋土	底部片	①- ② (6.0) ③ (1.9)	①小礫・赤色粒微量含む ②黄土陶 ③黒灰10Y7R6/1	器面磨光。足付け高台。底部回転糸切り。
2371R-1 PL.62	2164号 土坑	貨幣	埋土	ほぼ完形	直径①23.6 ②24.0 内輪③0.68 ④0.69 厚さ⑤0.13-0.14	①- ②- ③-	両面とも錆化著しく判読不能。重さ2.6g。
2391R-1 PL.62	2168号 土坑	羽釜	埋土	口縁部片	①- ②- ③ (4.7)	①小礫含む ②黄土陶 ③に赤い黒粒10Y7R/4	口縁部横ナデ。
2391R-2 PL.62	2168号 土坑	羽釜	埋土	口縁-胴部	① (20.9) ②- ③ (11.0)	①小礫少量含む ②中性陶 ③黒S77R6/6	体部外面縦位へう閉り。口縁部横ナデ。
2391R-3 PL.62	2167号 土坑	常滑 嬰小	埋土	口縁部片	①- ②- ③ (2.5)	①- ②- ③キーツ黄7.5Y6.3	灰輪かかる。12c-13c 類。
2411R-1 PL.62	2168号 土坑	炊飯陶器 火鉢小	埋土	底部片	①- ② (21.0) ③ (2.9)	①白色粒含む ②いぼし焼成 ③黒R3C/0	器表黒色。壺作り。外面磨き。
2421R-1 PL.62	21681号 土坑	須恵器 甗	埋土	1/4	① (13.2) ②輪幅部 (3.6) ③ (3.1)	①赤色粒・白色粒含む ②黄土陶 ③灰S576/1	内面かえりが明瞭に付く。ボタン状編み。
2421R-2 PL.62	21682号 土坑	土師器 坏	埋土	口縁-底部	① (11.0) ②- ③2.5	①赤色粒含む ②黄土陶 ③明礫7.5Y75/6	丸底。体部外面へう閉り。口縁部横ナデ。
2421R-3 PL.62	314 号 土坑	須恵器 坏	埋土	底部片	①- ② (5.2) ③ (1.5)	①小礫・白色粒含む ②黄土陶 ③灰白S577/2	器面磨光。底部回転糸切り。
2431R-1 PL.62	31416号 土坑	須恵器 坏	埋土	底部片	①- ② (5.4) ③ (1.9)	①砂粒微量含む ②黄土陶 ③灰白2.5V7/1	底部回転糸切り。
2431R-2 PL.62	31416号 土坑	須恵器 嬰	埋土	胴部片	①- ②- ③ (5.1)	①砂粒少量含む ②黄土陶 ③灰黄2.5V6/2	体部外面に波状文を施す。
2431R-3 PL.62	31422号 土坑	須恵器 坏	埋土	底部	①- ② (5.4) ③ (2.8)	①新礫 ②黄土陶 ③灰黄2.5V7/3	底部右回転糸切り。
2431R-4 PL.62	31422号 土坑	鉄滓	埋土	ほぼ完形	①長さ9.5 ②幅3.9 ③厚さ1.5	①重量68.3g ②磁石反応4 ③メタル反応なし	磁石顕治療。薄手。下面に小黒木炭灰あり。浮灰やや多い。錆化しており、鉄分はやや多い。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①11径 ②底径 ③高さ (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	形状・装形等の特徴
243H-5 PL.62	31622号 土坑	灰層	埋土		①長さ39 ②幅21 ③厚さ19	①重量254g ②磁石反応 ③マトリクスなし	碗形煎治所。小型。胎土質泥質物主体。上面に炭化土砂付着。下面は底動状。
245H-1 PL.62	31631号 土坑	須恵器 環	埋土	口縁部欠	① 134 ② - ③ 45	①小礫含む ②還元焼 ③灰黄2.5Y7/2	器面焼成。底部回転未切り。胎付け高台。
245H-2 PL.62	31631号 土坑	須恵器 皿	埋土	2/3	① 130 ② 68 ③ 29	①小礫・白色粒含む ②還元焼 ③灰黄2.5Y6/2	器面焼成。口縁部には丸味をおびる。
247H-1 PL.63	4165号 土坑	須恵器 蓋	埋土下層	4/5	①151 ②37 ③35	①小礫・白色粒含む ②還元焼 ③灰黄2.5Y6/2	扁平で内側が凹み、中央部がわずかに突出する現状の編みを持つ。
247H-2 PL.63	4165号 土坑	須恵器 碗	埋土下層	4/5	①100 ② - ③ 37	①小礫含む ②還元焼 ③にぶい黄2.5Y6/3	器面焼成。高台付着。底部に「十」字の刻線有り。
247H-3 PL.63	4165号 土坑	須恵器 蓋	埋土下層	4/5	① 190 ② 125 ③ 34	①白色粒少量含む ②還元焼 ③にぶい黄2.5Y6/3	器面焼成。胎付け高台。
247H-4 PL.63	4167号 土坑	土師瓦上部 環	埋土下層	変形	①108 ②64 ③29	①小礫・赤粒多量含む ②酸化焼 ③橙5.5R6/6	器面焼成。底部右回転未切り。
247H-5 PL.63	4167号 土坑	土師瓦上部 環	埋土中層	変形	①105 ②63 ③40	①少礫・赤色粒多量含む ②酸化焼 ③明赤焼5YR5/8	底部右回転未切り。口縁部外反する。
247H-6 PL.63	4167号 土坑	土師瓦上部 環	埋土下層	変形	①106 ②49 ③39	①少礫・赤色粒多量含む ②酸化焼 ③橙2.5YR6/6	底部右回転未切り。口縁部外反する。
247H-7 PL.63	4167号 土坑	土師瓦上部 環	埋土中層	変形	①106 ②58 ③37	①少礫・赤色粒多量含む ②酸化焼 ③橙2.5YR6/6	底部右回転未切り。口縁部外反する。
247H-8 PL.63	4167号 土坑	土師瓦上部 環	埋土下層	変形	①108 ②50 ③35	①少礫・赤色粒多量含む ②酸化焼 ③橙5.5R6/6	底部右回転未切り。口縁部外反する。
249H-1 PL.63	2164号 ビット	土師器 鉢	埋土	破片	① 94 ② - ③ 25	①砂粒多量含む ②酸化焼 ③明赤焼5YR5/6	器面焼成。
249H-2 PL.63	2164号 ビット	管玉	埋土	一部欠損	①長さ 33 ②幅0.8 ③厚さ0.7	①磁器 ②還元焼 ③灰黄2.5Y6/2	片割の端部のみ一部欠損。
250H-1 PL.63	21621号 ビット	カワラケ	埋土	破片	① 70 ② 60 ③ 15	①砂粒微量含む ②中性焼 ③にぶい黄橙10YR7/3	底部回転未切り。
251H-1 PL.63	21620号 ビット	カワラケ	埋土	1/4	① 92 ② 66 ③ 17	①砂粒微量含む ②酸化焼 ③橙2.5YR6/6	器面焼成。底部回転未切り。
251H-2 PL.63	21620号 ビット	須恵器 鉢	埋土	底底	① - ② 80 ③ 23	①赤色粒・白色粒含む ②酸化焼 ③明赤7.5YR5/6	器面焼成。底部右回転未切り。
251H-3 PL.63	21634号 ビット	青磁 碗	埋土	口縁部欠	① 170 ② - ③ 30	① - ② - ③ オリーブ黒5Y6/2	龍泉窯系。口縁部内面に洗滌。12c中～13c前か。
251H-4 PL.63	21652号 ビット	須恵器 鉢	埋土	口縁部欠	① 140 ② - ③ 23	①赤色粒微量含む ②酸化焼 ③橙2.5YR6/6	口縁部横ナ。内面に黒色処理、研ぎを施す。
251H-5 PL.63	21668号 ビット	緑釉陶器 皿	埋土	底底片	① - ② 80 ③ 18	①磁器 ②還元焼 ③オリーブ黒10Y4/2	古代。
251H-6 PL.63	216629号 ビット	土師器 小壺	埋土	口縁部欠	① 146 ② - ③ 27	①砂粒多量含む ②還元焼 ③明赤焼5YR5/6	器面焼成。
251H-7 PL.63	216700号 ビット	土師器 壺小	埋土	底底片	① - ② 60 ③ 14	①砂粒・白色粒含む ②酸化焼 ③橙2.5YR6/6	器面焼成。
251H-8 PL.63	216774号 ビット	青磁 碗	埋土	破片	① - ② - ③ 22	① - ② - ③ 灰オリーブ5Y5/3	龍泉窯系。筒壺弁文焼。13c中～後。
251H-9 PL.63	216839号 ビット	須恵器 環	埋土	底底片	① 100 ② 10 ③ 12	①黒色粒微量含む ②還元焼 ③灰5Y6/1	器面焼成。底部回転未切り。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺物名	種類 部材	出土位置	残存状況	①材質 ②形状 寸法高さ (cm)	①土色 ②焼成 ③色調	器形・彫形等の特徴
252R-1 PL.63	21486号 ビット	貨幣	埋土	ほぼ完形	直径①256 ②250 内幅③049 ④0.53 厚さ⑤011～012	①－ ②－ ③－	鋳造元玉。背面は磨化がすすんでいるが、比較的残存良好。重さ3.3g。
252R-2 PL.63	21486号 ビット	貨幣	埋土	ほぼ完形	直径①253 ②247 内幅③065 ④0.69 厚さ⑤013～014	①－ ②－ ③－	泉布造元玉か?両面とも磨化が著しい。重さ27g。
252R-3 PL.63	21486号 ビット	貨幣	埋土	ほぼ完形	直径①244 ②244 内幅③067 ④0.70 厚さ⑤012～013	①－ ②－ ③－	泉布造元玉。両面とも磨化著しい。重さ28g。
252R-4 PL.63	21486号 ビット	貨幣	埋土	ほぼ完形	直径①248 ②249 内幅③064 ④0.69 厚さ⑤012～013	①－ ②－ ③－	元布造元玉。磨化少なく、残存良好である。重さ29g。
252R-5 PL.63	21486号 ビット	貨幣	埋土	ほぼ完形	直径①240 ②240 内幅③063 ④0.64 厚さ⑤013～014	①－ ②－ ③－	元布造元玉。磨化少なく、残存良好である。重さ37g。
252R-6 PL.63	21486号 ビット	貨幣	埋土	ほぼ完形	直径①247 ②243 内幅③063 ④0.63 厚さ⑤012～013	①－ ②－ ③－	枚布造元玉。磨化少なく、残存は比較的良好である。重さ31g。
252R-7 PL.63	21486号 ビット	貨幣	埋土	一部欠損	直径①249 ②251 内幅③069 ④0.73 厚さ⑤013～014	①－ ②－ ③－	泉布造元玉。磨化がすすみ、特に背面は著しい。重さ40g。
252R-8 PL.63	21486号 ビット	貨幣	埋土	ほぼ完形	直径①257 ②256 内幅③065 ④0.62 厚さ⑤012～013	①－ ②－ ③－	梓布造元玉。磨化がわずかにみられる。重さ36g。
252R-9 PL.63	21486号 ビット	貨幣	埋土	ほぼ完形	直径①240 ②239 内幅③063 ④0.62 厚さ⑤012～013	①－ ②－ ③－	元布造元玉。磨化少なく、残存良好である。重さ27g。
252R-10 PL.63	21486号 ビット	貨幣	埋土	一部欠損	直径①228 ②234 内幅③066 ④0.63 厚さ⑤009～010	①－ ②－ ③－	関元造元玉。磨化がやや進んでいる。重さ23g。
253R-1 PL.63	31426号 ビット	須恵器 埴	埋土	底部	①－ ② 6(0) ③ 1(8)	①白色粒陶質を含む ②素元陶 ③灰吹SV6-1	器面磨光。貼付け高台。
253R-2 PL.63	31426号 ビット	須恵器 埴	埋土	底部	①－ ② 5(8) ③ 1(8)	①小礫・砂粒を含む ②素元陶 ③灰吹SV6-1	器面磨光。貼付け高台。
253R-3 PL.63	31464号 ビット	須恵器 埴か	埋土	口縁部計	① 15(6) ②－ ③ 2(7)	①白色粒少量を含む ②素元陶 ③灰吹SV7-1	口縁部外反する。
253R-4 PL.63	31464号 ビット	灰釉陶器 埴	埋土	底部片	①－ ② 13(0) ③ 4(6)	①黒色粒陶質を含む ②素元陶 ③灰吹SV8-1	貼付け高台。高台底部の一部に自然粘付着。
253R-5 PL.63	31434 号ビット	須恵器 坏	埋土	体部～底部	①－ ② 5(0) ③ 2(4)	①白色粒陶質を含む ②素元陶 ③灰吹2SV6-2	底部回転糸切り。
254R-1 PL.64	41419号 ビット	須恵器 埴	埋土上層	定形	①140 ② 3(9) ③ 3(6)	①小礫・白色粒含む ②素元陶 ③に灰吹調2SV6-3	器面磨光。底部回転糸切り。貼付け高台。
255R-1 PL.64	51455号 ビット	土師器 甕	埋土	口縁部計	① 21(8) ②－ ③ 2(8)	①小礫・赤色粒含む ②酸化陶 ③に灰吹調10YR6/4	胎土は緻密。横ナテを施す。器厚は薄い。
255R-2 PL.64	51455号 ビット	須恵器 埴か	埋土	口縁部計	① 15(0) ②－ ③ 3(0)	①小礫陶質を含む ②素元陶 ③オリーブ黒7Y3-1	口縁部わずかに外反する。
260R-1 PL.64	2号井戸	土師器 土釜	埋土	口縁部計	① 23(1) ②－ ③ 4(2)	①砂粒・赤色粒含む ②酸化陶 ③に灰吹調10YR7/4	内外面縦線あり。口縁部横ナテ。
260R-2 PL.64	2号井戸	灰質陶器 鉢	埋土	胴部～底部	①－ ② 10(9) ③ 5(8)	①小礫・黒色粒含む ②素元陶 ③灰吹SV6-1	外面彫形は粗雑。
260R-3 PL.64	2号井戸	灰質陶器 鉢	埋土	1/3	① 28(0) ② 12(0) ③122	①小礫・黒色粒含む ②素元陶 ③灰吹SV6-1	底部内面に使用痕あり。口縁部横ナテ。
260R-4 PL.64	2号井戸	青磁	埋土上層	底部片	①－ ② 11(0) ③ 2(8)	①－ ②－ ③オリーブ黒5GY6-1	龍泉窯系。扇葉弁文様。底部内面文様あるが不鮮明。13c中～後。
260R-5 PL.64	2号井戸	灰質陶器 鉢	埋土	口縁～胴部	① 27(0) ②－ ③ 8(2)	①小礫・白色粒含む ②素元陶 ③に灰吹調2SV6-4	口縁部横ナテ。体部彫形粗雑。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①11材 ②底層 ③高さ (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	形状・装飾等の特徴
25010-6 PL.64	2号井戸	炊飯陶器 鉢	埋土上層	口縁～胴部	① (230) ② - ③ (9.5)	①小礫含む ②黄元陶 ③に赤い黄緑10YR5/3	口縁部横ナズ。内面に使用痕あり。
25010-7 PL.64	2号井戸	炊飯陶器 鉢	埋土	底部片	① - ② (26.0) ③ (3.2)	①小礫・赤色粒含む ②中性焼 ③相対残2.5Y3-2	底部中央部部厚は薄い。底部に板目が残る。外面横ナズ。
25010-8 PL.64	2号井戸	石部 円み石	埋土	完形	①長さ13.3 ②幅6.6 ③厚さ5.5	① - ② - ③ -	粗粒輝石安山岩。重さ900g。
25410-1 PL.64	3号井戸	常滑 葉	埋土	口縁部片	① (420) ② - ③ (9.7)	① - ② - ③本朝10R4/3	口縁部縁帯外面凹線状に凹む。12c中～14c程。
25410-2 PL.64	3号井戸	常滑 片口	埋土	胴部～底部	① - ② (13.3) ③ (5.2)	① - ② - ③灰白5Y7/1	体部外面下位凹輪へう開り。内面使用により磨成。すり鉢としても使用。12c～13c。
25410-3 PL.64	3号井戸	木器	埋土		①長さ16.1 ②幅10 ③厚さ2.5	① - ② - ③ -	上下端部に加工痕有り。断面はほぼ正円形。中央部より下端にかけて焼け焦げがみられる。
25410-4 PL.64	3号井戸	石部 台石	埋土	完形	①長さ21.4 ②幅14.1 ③厚さ8.9	① - ② - ③ -	粗粒輝石安山岩。重さ3180g。
25710-1 PL.64	6号井戸	須恵器 葉	埋土	底部	① - ② (6.8) ③ (2.5)	①砂粒微量含む ②黄元陶 ③に赤い黄緑10YR6/4	底部右側糸切り。貼付け高台。
25910-1 PL.64	1号池	須恵器 埴	埋土	底部	① - ② (3.6) ③ (1.5)	①白色粒含む ②黄元陶 ③灰白0	底部右側糸切り。貼付け高台。
25910-2 PL.64	1号池	灰釉陶器 皿	埋土	底部	① - ② (7.0) ③ (1.7)	①緑釉 ②黄元陶 ③灰白2.5YR8-2	ロクロ整形右回転。貼付け高台。
25910-3 PL.64	1号池	須恵器 葉	埋土	口縁部片	① - ② - ③ (6.7)	①白色粒含む ②黄元陶 ③灰白0	器面磨成。波状文を施せる。
25910-4 PL.64	1号池	須恵器 葉	埋土	胴部片	① - ② - ③ (9.1)	①白色粒含む ②黄元陶 ③灰白0	継作り痕。叩き整形。外面平打ち。内面短て具は直文。
25910-5 PL.64	1号池	須恵器 葉	埋土	口縁部片	① (32.0) ② - ③ (5.5)	①白色粒・黒色粒含む ②黄元陶 ③灰白4/1	器面磨成。自然釉付着。
25910-6 PL.64	1号池	石部 円み石	埋土	ほぼ完形	①長さ15.0 ②幅16.3 ③厚さ3.5	① - ② - ③ -	粗粒輝石安山岩。重さ1120g。
30010-1 PL.64	1区遺構 外	須恵器 埴	表土	底部片	① - ② (6.0) ③ (0.8)	①白色粒含む ②酸化焙 ③明赤焼5YR5-6	高台酒流。様々破り散れる。
30010-2 PL.64	1区遺構 外	瓦器 不明	表土	破片	①長さ (6.2) ②幅2.1 ③厚さ0.6	① - ② - ③ -	板状の破片。用途不明。重さ168g。
30110-1 PL.64	2区遺構 外	土器部 高杯	表土	胴部片	① - ② - ③ (6.0)	①砂粒含む ②酸化焙 ③明赤焼2.5YR5-6	器面磨成。外面整形痕有り。
30110-2 PL.64	2区遺構 外	土器部 小笠葉	表土	口縁部片	① (14.6) ② - ③ (5.1)	①砂粒・白色粒少量含む ②酸化焙 ③明赤焼5YR5-6	体部外面整形痕。口縁部横ナズ。
30110-3 PL.64	2区遺構 外	須恵器 蓋	表土	縁のみ	① - ②二編み部 (4.8) ③ (2.1)	①白色粒含む ②黄元陶 ③灰白7.5Y6/1	縁状の縁のみを有する。外縁部は欠損。
30110-4 PL.64	2区遺構 外	灰釉陶器 皿	表土	底部片	① - ② (7.0) ③ (2.4)	①緑釉 ②黄元陶 ③灰白10YR7/1	ロクロ整形。貼付け高台。縁輪は後し掛け。
30110-5 PL.64	2区遺構 外	須恵器 埴	表土	底部のみ	① - ② (7.8) ③ (2.3)	①小礫・白色粒含む ②黄元陶 ③灰白0Y5/1	底部右側糸切り。貼付け高台。
30110-6 PL.64	2区遺構 外	土器部 葉	表土	口縁部片	① (23.0) ② - ③ (2.9)	①白色粒多量含む ②酸化焙 ③明赤焼5YR5-6	器面磨成。口縁部横ナズ。
30210-7 PL.64	2区遺構 外	瓦	表土	破片	①長さ (11.2) ②幅 (12.6) ③厚さ2.1	①小礫多量含む ②酸化焙 ③に赤い黄緑10YR7/3	女瓦。表面に布目有り。裏面平打ち叩き。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 探検番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①材質 ②形状 ③高さ (cm)	①土質 ②構成 ③色調	器形・形状等の特徴
302R-8 PL64	2区遺構 外	鉄器 不明	真土	一部欠損	①長さ(38) ②幅13 ③厚さ0.6	①- ②- ③-	断面は長方形を呈し、内部は空洞。 U字型を呈し、両端部欠損。重さ26g。
303R-1 PL65	3区遺構 外	土器器 葉	真土	口縁一部破	①(134) ②(6) ③(66)	①白色粒微量含む ②酸化塩 ③明赤褐色SYR5-6	底部外面傾位へう開り。口縁部積ナデ。
303R-2 PL65	3区遺構 外	土器器 葉	真土	口縁部片	①(200) ②- ③(49)	①砂粒微量含む ②酸化塩 ③灰黄2.5YR6-6	口縁部コ字状で、横ナデを施す。
303R-3 PL65	3区遺構 外	須恵器 環	真土	1/3	①(130) ②(56) ③39	①白色粒含む ②還元塩 ③灰黄2.5Y6-2	底部右回転糸切り。口縁部は薄くなり、肩部は丸味をおびて肥厚する。
303R-4 PL65	3区遺構 外	須恵器 環	真土	1/4	①(120) ②(60) ③38	①小礫含む ②還元塩 ③黄褐2.5Y6-1	底部回転糸切り。口縁部やや肥厚する。
303R-5 PL65	3区遺構 外	須恵器 環	真土	1/3	①(128) ②(66) ③40	①小礫・砂粒含む ②還元塩 ③灰黄2.5Y6-2	器面磨光。底部右回転糸切り。
303R-6 PL65	3区遺構 外	須恵器 環	真土	2/3	①(132) ②60 ③36	①小礫・白色粒含む ②還元塩 ③灰黄2.5Y6-1	器面磨光。口縁部やや肥厚する。
303R-7 PL65	3区遺構 外	須恵器 環	真土	底部	①- ②68 ③(2.5)	①砂粒微量含む ②中性塩 ③にじみ層2.5YR6-4	底部回転糸切り。胎付け高台。高台の状況は概算。
303R-8 PL65	3区遺構 外	瓦	真土	破片	①長さ(129) ②幅(98) ③厚さ(37)	①小礫多量含む ②中性塩 ③にじみ層10YR7/3	男瓦。表面に布目有り。整形不詳。
304R-9 PL65	3区遺構 外	羽口	真土	破片	①外径(82) ②内径(28) ③長さ(88)	①- ②- ③黄2.5YR6-6	外面傾位沈降有り。厚さはほぼ一定。
304R-10 PL65	3区遺構 外	青磁	真土	破片	①- ②- ③(15)	①- ②- ③明オリブR6GY7/1	龍泉窯系。扇葉片文。
304R-11 PL65	3区遺構 外	常滑 葉	真土	破片	①- ②- ③(32)	①- ②- ③灰白5Y7/1	中世。
304R-12 PL65	3区遺構 外	常滑 葉	真土	破片	①- ②- ③(43)	①- ②- ③灰黄褐10YR4/2	中世。
304R-13 PL65	3区遺構 外	五輪塔 空風輪	真土	一部欠損	①長さ239 ②幅155 ③厚さ124	①- ②- ③-	瓶状碑石安山岩。重さ960g。
304R-14 PL65	3区遺構 外	石部 石眼	真土	一部欠損	①長さ230 ②幅120 ③厚さ30	①- ②- ③-	柱状凝灰岩。重さ82g。
304R-15 PL65	3区遺構 外	石部 石眼	真土	一部欠損	①長さ190 ②幅110 ③厚さ40	①- ②- ③-	チャート。重さ965g。
304R-16 PL65	3区遺構 外	石部 石筴	真土	ほぼ完形	①長さ107 ②幅11 ③厚さ23	①- ②- ③-	ホルンフェルス。重さ1528g。
305R-1 PL65	4区遺構 外	鉄器 不明	真土	一部欠損	①長さ(76) ②幅21 ③厚さ0.8	①- ②- ③-	板状の鉄片。用途不明。重さ4872g。
305R-2 PL65	4区遺構 外	鉄器 釘	真土	一部欠損	①長さ(40) ②幅14 ③厚さ0.5	①- ②- ③-	先端部欠損。錆化が顕著。重さ21g。
305R-3 PL65	4区遺構 外	鉄器 釘	真土	一部欠損	①長さ(60) ②幅19 ③厚さ0.6	①- ②- ③-	先端部欠損。断面は方形を呈す。重さ65g。
305R-4 PL65	4区遺構 外	石部 石眼	真土	ほぼ完形	①長さ210 ②幅120 ③厚さ40	①- ②- ③-	チャート。重さ995g。
309R-1 PL65	2副54号 住居	縄文土器 深鉢	輝土	口縁部片	①- ②- ③-	①横線、縦線 ②ふつう ③橙(7.5Y6/6)	手載竹管による平行沈線、C字状6羽紋、コンバス紋を横位多段に施す。黒式。
309R-2 PL65	2副54号 住居	縄文土器 深鉢	輝土	胴部片	①- ②- ③-	①横線、縦線 ②ふつう ③黒線(2.5Y3/1)	付加糸織紋を横位多段に施す。黒式。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	種類 部材	出土位置	残存状況	①口径 ②底径 ③高さ (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	形状・装飾等の特徴
31300-3 PL.65	2面54号 住居	縄紋土器 深鉢	埋没印体	1/3	①- ②- ③-	①織織、細織 ②ふつう ③黒釉 (25Y3/1)	くの字状に屈曲する形状を呈す。卑部RL、 RLの羽状縁紋により装彩を構成する。黒渋 式。
31300-1 PL.65	2面216 767号ピツ ト	石器 白石	表土	ほぼ完形	①長さ26.8 ②幅20.0 ③厚さ6.0	①- ②- ③-	煎灰輝石安山岩。重さ430g。
31300-2 PL.65	2面31区 35号ピツ ト	縄紋土器 深鉢	表土	口縁部欠	①- ②- ③-	①織織、細織 ②ふつう ③橙 (7.5YR6/6)	尖頭状の口縁部形状を呈す口縁部破片、C 字状爪形紋を口縁に沿って2条施し、以下、 卑部RL縁紋を横位施放する。黒渋式。
31300-3 PL.65	2面31区 172号ピツ ト	縄紋土器 深鉢	表土	口縁部欠	①- ②- ③-	①細織 ②良好 ③橙 (7.5YR6/6)	細く外反する口縁部破片、卑部RL縁紋を横 位施放する。内面磨研。黒渋式。
31400-1 PL.65	2面21区 遺構外	石器 石鏝	表土	一部欠損	①長さ1.95 ②幅1.50 ③厚さ0.50	①- ②- ③-	チャート。重さ162g。
31400-2	2面21区 遺構外	石器 石鏝	表土	一部欠損	①長さ1.70 ②幅1.50 ③厚さ0.30	①- ②- ③-	チャート。重さ060g。
31500-1 PL.65	2面31区 遺構外	石器 石鏝	表土	一部欠損	①長さ1.75 ②幅1.40 ③厚さ0.35	①- ②- ③-	チャート。重さ059g。
31600-1 PL.65	2面41区 遺構外	石器 石鏝	表土	ほぼ完形	①長さ2.40 ②幅1.40 ③厚さ0.30	①- ②- ③-	チャート。重さ055g。
31600-2 PL.65	2面41区 遺構外	石器 石鏝	表土	一部欠損	①長さ1.60 ②幅1.00 ③厚さ0.50	①- ②- ③-	珪化凝灰岩。重さ065g。
31600-3 PL.65	2面41区 遺構外	石器 石鏝	表土	一部欠損	①長さ1.90 ②幅1.35 ③厚さ0.40	①- ②- ③-	チャート。重さ080g。
31600-4 PL.65	2面41区 遺構外	石器 石鏝	表土	ほぼ完形	①長さ1.50 ②幅1.20 ③厚さ0.20	①- ②- ③-	チャート。重さ036g。
31600-5 PL.65	2面41区 遺構外	石器 石鏝	表土	一部欠損	①長さ2.00 ②幅1.40 ③厚さ0.40	①- ②- ③-	チャート。重さ072g。
31600-6 PL.66	2面41区 遺構外	石器 石鏝	表土	一部欠損	①長さ2.00 ②幅1.90 ③厚さ0.30	①- ②- ③-	チャート。重さ094g。
31600-7 PL.66	2面41区 遺構外	石器 石鏝	表土	ほぼ完形	①長さ2.10 ②幅2.00 ③厚さ0.40	①- ②- ③-	チャート。重さ092g。
31600-8 PL.66	2面41区 遺構外	石器 石鏝	表土	一部欠損	①長さ1.80 ②幅1.40 ③厚さ0.30	①- ②- ③-	煎灰石。重さ068g。
31600-9 PL.66	2面41区 遺構外	石器 石鏝	表土	ほぼ完形	①長さ1.90 ②幅1.00 ③厚さ0.30	①- ②- ③-	珪質頁岩。重さ075g。
31600-10 PL.66	2面41区 遺構外	石器 石鏝	表土	一部欠損	①長さ1.70 ②幅1.30 ③厚さ0.30	①- ②- ③-	チャート。重さ037g。
31600-11 PL.66	2面41区 遺構外	石器 石斧	表土	ほぼ完形	①長さ9.3 ②幅4.8 ③厚さ2.4	①- ②- ③-	変形緑岩。重さ179.2g。
31600-12 PL.66	2面41区 遺構外	石器 磨製石斧	表土	一部欠損	①長さ9.0 ②幅5.2 ③厚さ2.9	①- ②- ③-	変形緑岩。重さ180.7g。
31700-1 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	2区表土	口縁部欠	①- ②- ③-	①織織、白色釉 ②ふつう ③にぶい黄緑 (10YR5/4)	波状口縁、輪帯状突起により装彩モチーフを 描く。有尾式。
31700-2 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	2区	胴部欠	①- ②- ③-	①織織、細織 ②ふつう ③橙 (7.5YR6/6)	差行するC字状爪形紋を弧状に施す。有尾 式。
31700-3 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	2区	胴部欠	①- ②- ③-	①織織、細織 ②ふつう ③明黄緑 (10YR6/6)	無部L縁紋を横位施放する。黒渋式。



二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図取番号	遺構名	種別 部材	出土位置	残存状況	①11径 ②高さ ③高さ (cm)	①土土 ②焼成 ③色調	器形・整形等の特徴
31710-4 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	2区	胴部片	①- ②- ③-	①細織 ②良好 ③明赤褐色 (5YR5/6)	隆帯を横位にめぐらせ、隆帯下に燃赤紋を 縦位施紋する。加竹科E式。
31710-5 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	20号住居	口縁部片	①- ②- ③-	①細織 ②ふつう ③橙 (5YR6/6)	沈帯を横位、弧状に施す。形名寺E式。
31710-6 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	3区	胴部片	①- ②- ③-	①織織、白色紋 ②ふつう ③暗赤褐色 (5YR3/3)	早期LR織紋を施紋とし、C字状爪形紋を2 条横位にめぐらす。黒沢式。
31710-7 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	11号溝	胴部片	①- ②- ③-	①織織、白色紋 ②ふつう ③橙 (7.5YR6/6)	半載竹管による肋管紋を施す。黒沢式。
31710-8 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	3区表土	胴部片	①- ②- ③-	①織織、細織 ②ふつう ③に赤い縞 (7.5YR5/3)	半載竹管による肋管紋を施す。黒沢式。
31710-9 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	3区	胴部片	①- ②- ③-	①織織、細織 ②ふつう ③に赤い縞 (7.5YR5/3)	遺構外8と同一個体。
31710-10 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	3区	胴部片	①- ②- ③-	①織織、細織 ②ふつう ③赤褐色 (5YR4/6)	早期LR、RL織紋の引状構成。黒沢式。
31710-11 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	29号住居	胴部片	①- ②- ③-	①織織、細織 ②ふつう ③明赤褐色 (2.5YR5/6)	くの字状に屈曲する器形。早期LR、RL織紋 の引状構成。黒沢式。
31710-12 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	3区表土	口縁部片	①- ②- ③-	①細織 ②良好 ③明赤褐色 (2.5YR5/6)	早期RL織紋を施紋とし、半載竹管による木 字紋を施す。内面研磨。踏襲a式。
31710-13 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	3区表土	胴部片	①- ②- ③-	①細織 ②良好 ③明赤褐色 (5YR5/6)	無筋LR織紋を横位施紋する。踏襲a式。
31710-14 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	41号土坑	胴部片	①- ②- ③-	①細織 ②良好 ③明赤褐色 (5YR5/6)	縁の内湾する胴部破片。早期RL織紋を横位 施紋する。踏襲a式。
31710-15 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	1号池	胴部片	①- ②- ③-	①細織 ②ふつう ③橙 (5YR6/8)	屈曲部下の部位。沈帯により燃赤紋など幾何 学モチーフを施す。黒之内1式。
31710-16 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	1号池	胴部片	①- ②- ③-	①細織 ②ふつう ③橙 (5YR6/6)	沈帯により幾何学モチーフを施す。黒之内1 式。
31710-17 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	25号住居	胴部片	①- ②- ③-	①細織多 ②良好 ③に赤い縞 (7.5YR6/4)	沈帯により帯状区画し。早期LR織紋を充填 施紋する。黒之内2式。
31710-18 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	4区	胴部片	①- ②- ③-	①織織、細織 ②ふつう ③橙 (7.5YR6/6)	C字状爪形紋を横位多段に施す。黒沢式。
31710-19 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	4区	口縁部片	①- ②- ③-	①織織、細織 ②ふつう ③黒褐色 (10YR3/1)	早期LR織紋を横位施紋する。黒沢式。
31710-20 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	4区	胴部片	①- ②- ③-	①織織、細織、白色紋 ②ふつう ③に赤い縞 (7.5YR5/4)	早期RL織紋を横位施紋する。黒沢式。
31710-21 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	4区	胴部片	①- ②- ③-	①織織、細織、白色紋 ②ふつう ③黒褐色 (2.5Y3/1)	早期RL織紋を横位施紋する。黒沢式。
31710-22 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	4区	胴部片	①- ②- ③-	①織織、細織 ②ふつう ③に赤い縞 (7.5YR5/4)	付加条織紋を横位施紋する。黒沢式。
31710-23 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	4区表土	口縁部片	①- ②- ③-	①細織 ②良好 ③赤褐色 (2.5YR4/6)	波状口縁で縁く外反する器形を呈す。早期 RL織紋を横位施紋する。内面研磨。踏襲a式。
31710-24 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	4区	口縁部片	①- ②- ③-	①細織 ②良好 ③赤褐色 (5YR4/6)	早期LR織紋を横位施紋する。内面研磨。踏 襲a式。
31710-25 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	4区	胴部片	①- ②- ③-	①細織 ②良好 ③暗赤褐色 (5YR3/4)	早期RL織紋を横位施紋する。内面研磨。踏 襲a式。

二の宮遺跡遺物観察表

発掘番号 図版番号	遺構名	類別 器種	出土位置	残存状況	①口径 ②口径 ③高さ (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	形状・整形等の特徴
31710-26 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	4区表土	胴部片	①- ②- ③-	①細織 ②真好 ③赤褐色 (5YR4/6)	早期LR縄紋を横位施設する。内面研削。踏 破り式。
31710-27 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	4区	口縁部片	①- ②- ③-	①細織、白色紋 ②ふつう ③にふい青藍	口縁部に無紋帯を残し、沈降と竹管状工具に よる列点を施す。称名寺Ⅱ式。
31710-28 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	4区	胴部片	①- ②- ③-	①細織、白色紋 ②ふつう ③にふい青藍	遺構外-27と同一個体。細く内湾する胴部破 片。沈降による帯状区画内に竹管状工具に よる列点を施す。称名寺Ⅱ式。
31710-29 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	4区	胴部片	①- ②- ③-	①細織、白色紋 ②ふつう ③にふい青藍	遺構外-27・28と同一個体。
31710-30 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	4区	胴部片	①- ②- ③-	①細織 ②ふつう ③にふい青藍 (10YR6/4)	沈降による帯状区画。列点を施す。称名寺Ⅱ 式。
31710-31 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	4区	胴部片	①- ②- ③-	①細織 ②ふつう ③にふい青藍 (10YR6/4)	遺構外-30と同一個体。
31710-32 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	4区	胴部片	①- ②- ③-	①細織多 ②ふつう ③靑 (5YR6/6)	沈降によるJ字紋を施し、内外に円形竹管に よる列点を充填施設する。称名寺Ⅱ式。
31710-33 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	5区表土	口縁部片	①- ②- ③-	①織羅、細織 ②ふつう ③黒褐色 (5YR3/1)	早期LR縄紋を横位施設する。口縁部にも施 紋。前期中葉。
31710-34 PL.66	遺構外	縄紋土器 深鉢	5区表土	胴部片	①- ②- ③-	①細織多 ②真好 ③靑 (7.5YR6/6)	早期LR縄紋を横位施設する。前期後半。

# 報告書抄録

書名ふりがな	ふるごおりじょうりせいすいでんあと・にのみやいせき
書名	古水条里制水田跡・二の宮道跡
副書名	北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	459
編著者名	山田精一
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	2009/3/11
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2
道跡名ふりがな	ふるごおりじょうりせいすいでんあと
道跡名	古水条里制水田跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたししみどりちょう
道跡所在地	群馬県太田市緑町
市町村コード	10205
道跡番号	T0169
北緯（日本測地系）	362017
東経（日本測地系）	1392210
北緯（世界測地系）	362006
東経（世界測地系）	1392222
調査期間	20031101-20040331/20050101-20050331/20060701-20060831
調査面積	20060
調査原因	道路建設工事
種別	水田
主な時代	平安/古墳
道跡概要	水田-平安-溝+畦畔/古墳-溝+土坑+ピット
特記事項	古代条里制水田
要約	本道跡は群馬県太田市金山丘陵の北東麓に立地している。水田に伴って検出された溝・畦畔は、平安時代末の浅間B軽石に覆われており、古代にこの地域に施行されていたと考えられている条里制の区画に関連するものと思われる。

書名ふりがな	ふるごおりじょうりせいすいでんあと・にのみやいせき
書名	古水条里制水田跡・二の宮道跡
副書名	北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	459
編著者名	山田精一
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	2009/3/11
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2
道跡名ふりがな	にのみやいせき
道跡名	二の宮道跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたししみどりちょう
道跡所在地	群馬県太田市緑町
市町村コード	10205
道跡番号	T0305
北緯（日本測地系）	362007
東経（日本測地系）	1392220
北緯（世界測地系）	361956
東経（世界測地系）	1392232
調査期間	20031201-20050331
調査面積	11137
調査原因	道路建設工事
種別	集落/包蔵地
主な時代	平安/縄文
道跡概要	集落-平安-竪穴住居53+掘立柱建物10+溝+土坑+井戸+ピット/包蔵地-縄文
特記事項	古代集落
要約	本道跡は群馬県太田市古水条里制水田跡の東に隣接して立地している。検出された集落は、古水条里制水田跡で確認された生産域を支える居住域であると想定される。

# 写 真 图 版



1. 6区より遺跡全体を望む（南東から）



2. 3区より遺跡全体を望む（北西から）



1. 2・3区より西小丸山・小丸山・丸山方面（南から）



2. 2・3区より太田金山方面（北から）



1. 2・3区全景



2. 4区1面全景



3. 5区1面全景



4. 6区1面全景



5. 1区1号満全景 (南から)



6. 2区2号満全景 (西から)



7. 2区3号満全景 (南から)



8. 3区4号満全景 (南から)



1. 3区5号溝土層断面(南から)



2. 3区6号溝全景(東から)



3. 3区7号溝全景(西から)



4. 3区8号溝全景(南から)



5. 3区9号溝全景(東から)



6. 3区10号溝全景(南から)



7. 4区12号溝全景(西から)



8. 4区13号溝全景(東から)





1. 4区14号溝全景（西から）



2. 4区15号溝全景（東から）



3. 5区16号溝全景（北から）



4. 6区1号土坑全景（西から）



5. 6区2号土坑全景（東から）



6. 6区3号土坑全景（北から）



7. 4区1号ピット全景（東から）



8. 2区1号井戸全景（東から）



1. 6区2号井戸全景（東から）



2. 2区水田南北方向畦（南から）



3. 3区水田東西方向畦（西から）



4. 4区水田東側



5. 6区水田中央部



6. 6区水田南側



7. 6区西側水田畦（東から）



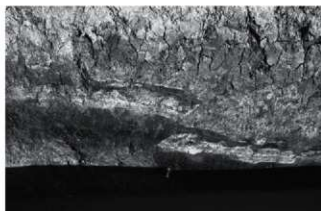
8. 6区中央部北側微高地遺物出土状況



1. 2区1号落ち込み全景(東から)



2. 2区断層平面全景 [白線部]



3. 2区断層土層断面(南から)



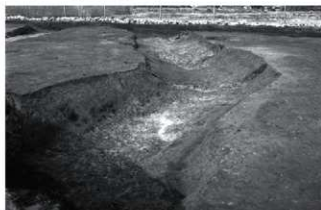
4. 4区20号溝全景(西から)



5. 4区21号溝全景(北から)



6. 4区22号溝西側全景(北から)



7. 4区22号溝東側全景(南から)



8. 4区22号溝北側屈曲部全景(南から)



1. 4区22号溝遺物出土状況(東から)



2. 4区22号溝遺物出土状況



3. 4区23号溝全景(南から)



4. 4区24号溝全景(南から)



5. 4区25号溝全景(南から)



6. 4区26号溝全景(北西から)



7. 5区27号溝全景(北から)



8. 5区27号溝全景(南から)



1. 5区27号溝遺物出土状況（北から）



2. 5区27号溝遺物出土状況



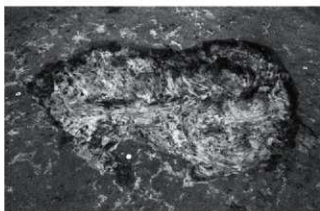
3. 5区27号溝遺物出土状況（北から）



4. 5区28号溝全景（北から）



5. 4区4号土坑全景（南から）



6. 4区5号土坑全景（西から）



7. 4区6号土坑全景（南から）



8. 4区7号土坑全景（南西から）





1. 4区10号土坑全景 (南から)



2. 4区11号土坑全景 (南から)



3. 4区12号土坑全景 (南から)



4. 4区13号土坑全景 (南から)



5. 4区14号土坑全景 (南から)



6. 4区15号土坑全景 (南から)



7. 4区16号土坑全景 (東から)



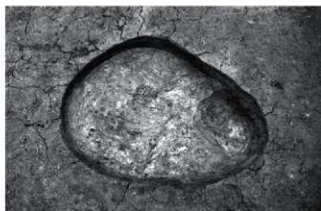
8. 4区17号土坑全景 (南から)



1. 4区18号土坑全景（北から）



2. 4区19号土坑全景（南から）



3. 4区20号土坑全景（南から）



4. 4区21号土坑全景（南から）



5. 4区22号土坑全景（南から）



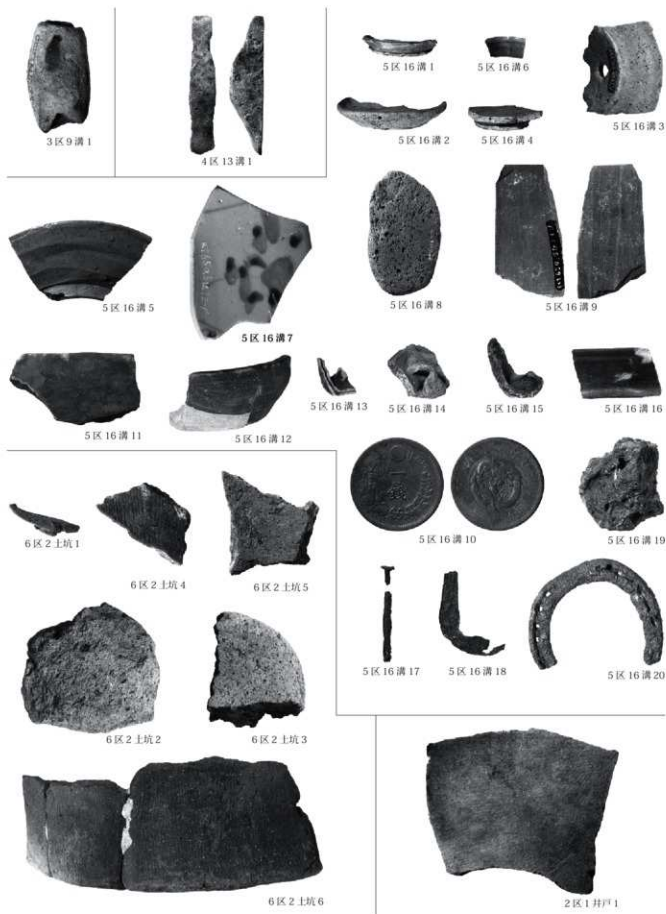
6. 5区23号土坑全景（南から）



7. 5区4号ピット全景（西から）



8. 5区5号ピット全景（西から）



3区9号溝,4区13号溝,5区16号溝,6区2号土坑,2区1号井戸





6区2井戸4



6区2井戸1



6区2井戸2



6区2井戸3



2・3区水田1



2・3区水田3



2・3区水田5



2・3区水田7



2・3区水田2



2・3区水田4



2・3区水田8



2・3区水田14



2・3区水田6



2・3区水田10



2・3区水田12



2・3区水田9



2・3区水田11



2・3区水田13



2・3区水田15



6区水田1



6区水田3



6区水田4



6区水田2



2区1落ち込み1



2区1落ち込み2



2区1落ち込み3



2区1落ち込み4



2区1落ち込み5



2区1落ち込み6



4区22溝1



4区22溝2



4区22溝6



4区22溝7



4区22溝8



4区22溝3



4区22溝9



4区22溝10



4区22溝11



4区22溝4



4区22溝5



4区22溝17



4区22溝12



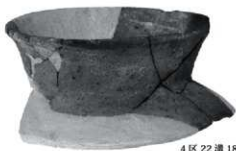
4区22溝13



4区22溝14



4区22溝15



4区22溝18



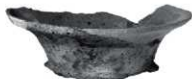
4区22溝20



4区22溝16



4区22溝19



4区22溝22



4区22溝23



4区22溝21



4区22溝24



4区22溝25



4区22溝26



4区22溝28



4区22溝29



4区22溝27



4区22溝31



4区22溝34



4区22溝32



4区22溝30



4区22溝35



4区22溝36



4区22溝37



4区22溝39



4区22溝38



4区22溝40



4区22溝41

4区22号溝



4区22号溝 33



4区23号溝 1



4区23号溝 2



4区23号溝 3



4区23号溝 4



4区23号溝 5



4区23号溝 6



5区27号溝 1



5区27号溝 2



5区27号溝 4



5区27号溝 5



5区27号溝 6



5区27号溝 3



5区27号溝 7



5区28号溝 1



1区道横外 1



1区道横外 2



1区道横外 4



1区道横外 6



1区道横外 3



1区道横外 5



1区道横外 10



1区道横外 7



1区道横外 8



1区道横外 9



1区道横外 12



1区道横外 11

4区22号溝・23号溝, 5区27号溝・28号溝, 1区道横外



1区道構外 13



1区道構外 15



1区道構外 16



1区道構外 20



1区道構外 14



1区道構外 18



1区道構外 19



1区道構外 17



1区道構外 21



1区道構外 22



1区道構外 23



1区道構外 24



1区道構外 25



1区道構外 26



1区道構外 27



1区道構外 28



1区道構外 29



1区道構外 30



2・3区道構外 1



2・3区道構外 2



2・3区道構外 3



2・3区道構外 4



1区道構外 31



2・3区道構外 5



2・3区道構外 6



2・3区道構外 7



2・3区道構外 8



2・3区道構外 9



2・3区道構外 10



2・3区道構外 11



2・3区道構外 12



2・3区道構外 13



2・3区道構外 14

1区道構外, 2・3区道構外



2・3区道構外 18



2・3区道構外 15



2・3区道構外 16



2・3区道構外 20



2・3区道構外 21



2・3区道構外 17



2・3区道構外 22



2・3区道構外 19



4区道構外 1



4区道構外 3



4区道構外 2



4区道構外 4



4区道構外 10



4区道構外 9



4区道構外 5



4区道構外 6



4区道構外 7



4区道構外 8



4区道構外 11



4区道構外 12



4区道構外 13



4区道構外 14



4区道構外 15



4区道構外 16



4区道構外 17



4区道構外 18



4区道構外 19

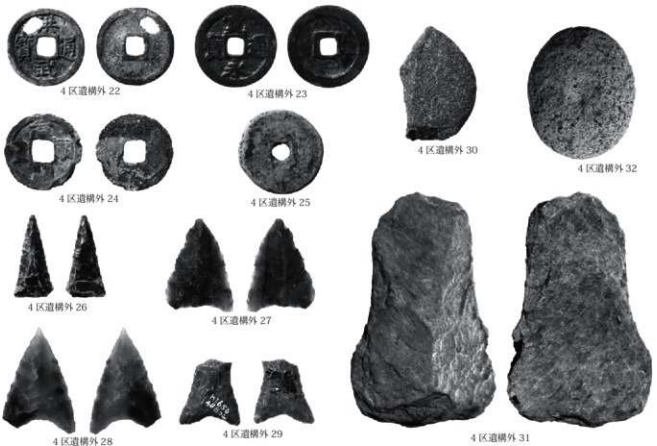


4区道構外 20



4区道構外 21

2・3区道構外,4区道構外



4区遺構外, 5区遺構外



6区道構外 1



6区道構外 2



6区道構外 3



6区道構外 5



6区道構外 7



6区道構外 4



6区道構外 6



6区道構外 8



6区道構外 9



6区道構外 10



6区道構外 11



6区道構外 12



6区道構外 13



6区道構外 14



6区道構外 15



6区道構外 16



6区道構外 17



6区道構外 18



6区道構外 19



6区道構外 20



6区道構外 21



6区道構外 22



6区道構外 23



6区道構外 24



6区道構外 25



6区道構外 26



6区道構外 27



6区道構外 28



道構外 1



道構外 2





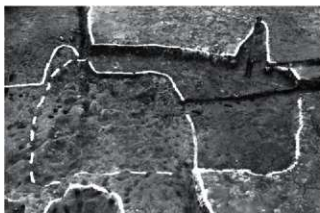
1. 1区1号住居全景(南から)



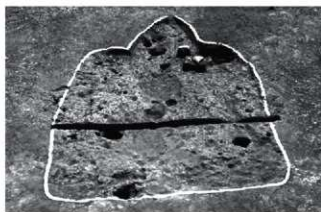
2. 1区2号住居全景(西から)



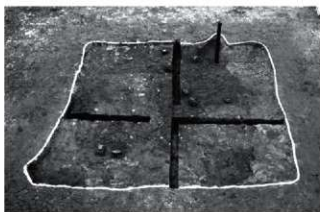
3. 1区3号住居全景(西から)



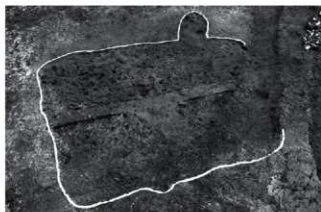
4. 1区4号住居全景(西から)



5. 1区5号住居全景(西から)



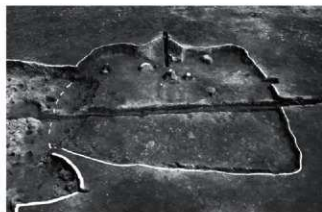
6. 1区6号住居全景(西から)



7. 1区7号住居全景(西から)



8. 2区8号住居全景(西から)



1. 2区9号住居全景（南から）



2. 2区9号住居遺物出土状況（南から）



3. 2区10号住居全景（西から）



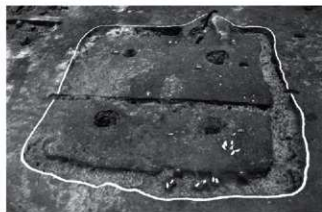
4. 2区11号住居全景（南から）



5. 2区12号住居全景（南から）



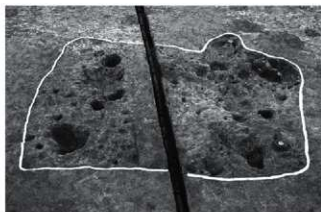
6. 2区12号住居遺物出土状況（南東から）



7. 2区13号住居全景（南から）



8. 2区14号住居全景（南から）



1. 2区15号住居全景（西から）



2. 2区16号住居全景（南から）



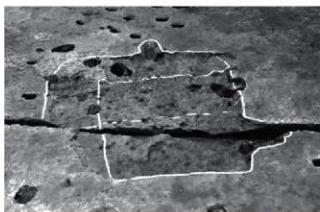
3. 2区17号住居全景（西から）



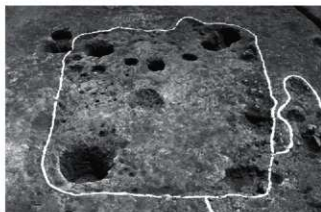
4. 2区18号住居全景（東から）



5. 2区19号住居全景（東から）



6. 2区20号住居・21号住居全景（南から）



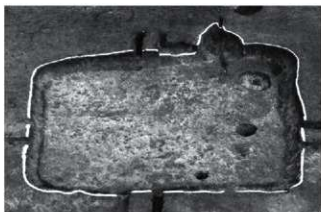
7. 2区23号住居全景（西から）



8. 2区24号住居全景（南から）



1. 3区25号住居全景(西から)



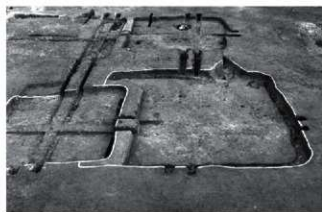
2. 3区26号住居全景(西から)



3. 3区27号住居全景(南から)



4. 3区27号住居竪全景(南から)



5. 3区28号住居全景(西から)



6. 3区29号住居全景(西から)



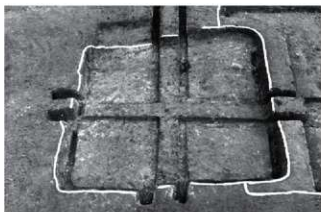
7. 3区29号住居貯蔵穴遺物出土状況(西から)



8. 3区30号住居全景(西から)



1. 3区30号住居貯蔵穴遺物出土状況(北西から)



2. 3区31号住居全景(西から)



3. 3区32号住居全景(西から)



4. 3区32号住居遺物出土状況(北から)



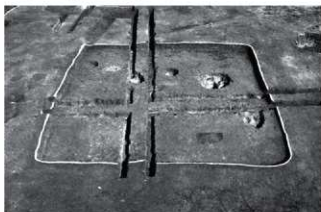
5. 3区33号住居全景(西から)



6. 3区34号住居全景(南から)



7. 3区35号住居全景(南から)



8. 3区36号住居全景(西から)

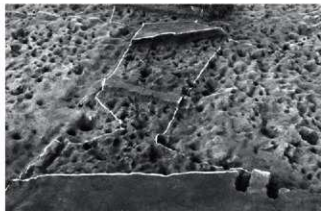




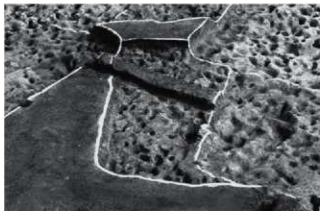
1. 3区37号住居全景（西から）



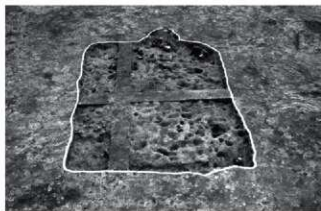
2. 3区38号住居全景（西から）



3. 3区39号住居全景（南東から）



4. 3区40号住居全景（北西から）



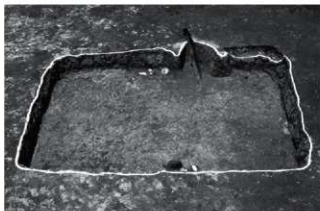
5. 3区41号住居全景（西から）



6. 3区42号住居全景（西から）



7. 3区43号住居全景（南から）



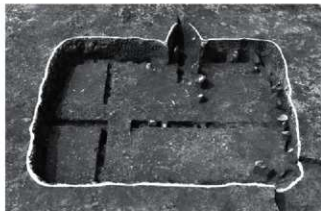
8. 3区44号住居全景（南から）



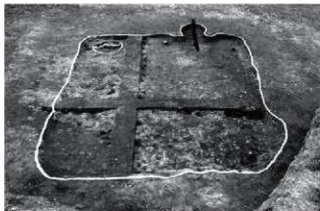
1. 3区44号住居遺物出土状況（西から）



2. 3区45号住居全景（西から）



3. 3区46号住居全景（南から）



4. 3区47号住居全景（西から）



5. 3区48号住居・49号住居全景（西から）



6. 4区50号住居全景（西から）



7. 4区51号住居全景（西から）



8. 5区52号住居全景（西から）



1. 5区53号住居全景（北から）



2. 2区1号掘立柱建物全景（南から）



3. 2区2号掘立柱建物全景（西から）



4. 3区7号掘立柱建物全景（南から）



5. 1区1号・2号・3号溝全景（南から）



6. 3区11号溝全景（南から）



7. 3区12号溝全景（南から）



8. 3区13号溝全景（南から）





1. 3区14号溝全景(東から)



2. 3区15号溝全景(西から)



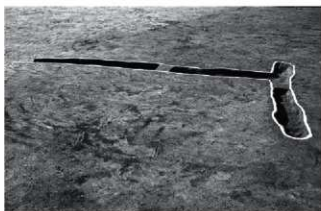
3. 4区16号溝全景(西から)



4. 4区17号溝全景(西から)



5. 4区18号溝全景(西から)



6. 4区19号・20号溝全景(東から)



7. 4区21号溝全景(北から)



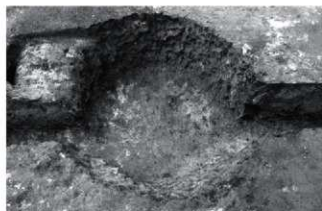
8. 4区22号溝全景(西から)



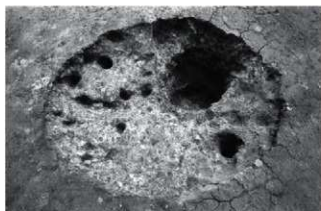
1. 1区2号土坑全景(南から)



2. 1区3号土坑全景(南から)



3. 2区11号土坑全景(南から)



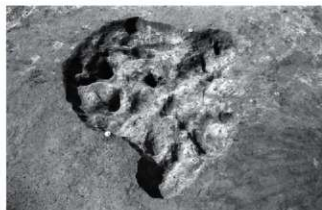
4. 2区16号土坑全景(西から)



5. 2区18号土坑全景(北から)



6. 2区21号土坑全景(南から)



7. 2区22号土坑全景(南から)



8. 2区25号土坑全景(南から)



1. 2区26号土坑全景(南から)



2. 2区29号土坑全景(南から)



3. 2区44号土坑全景(南から)



4. 2区46号土坑全景(南から)



5. 2区52号土坑全景(南から)



6. 2区53号土坑全景(南から)



7. 2区55号土坑全景(西から)



8. 2区58号土坑・459号ピット全景(南から)



1. 2区64号土坑全景(南から)



2. 2区65号土坑全景(南から)



3. 2区67号土坑全景(南から)



4. 2区68号土坑全景(南から)



5. 2区74号土坑全景(東から)



6. 2区75号土坑全景(西から)



7. 2区78号土坑全景(東から)



8. 2区79号土坑全景(東から)





1. 2区81号・82号土坑全景（北から）



2. 2区84号土坑全景（南から）



3. 2区88号土坑全景（南から）



4. 3区1号土坑全景（南から）



5. 3区2号土坑全景（南東から）



6. 3区4号土坑全景（西から）



7. 3区7号土坑全景（南から）



8. 3区16号土坑全景（南から）



1. 3区17号土坑全景(南から)



2. 3区18号土坑全景(東から)



3. 3区19号土坑全景(南西から)



4. 3区20号土坑全景(北東から)



5. 3区22号土坑全景(西から)



6. 3区25号土坑全景(南から)



7. 3区27号土坑全景(南から)



8. 3区28号土坑全景(南から)



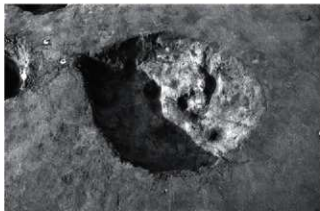
1. 3区29号土坑全景(南から)



2. 3区30号土坑全景(南から)



3. 3区31号土坑全景(南東から)



4. 3区32号土坑全景(南から)



5. 3区37号土坑全景(東から)



6. 3区39号土坑全景(北から)



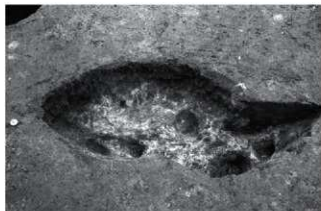
7. 3区40号土坑全景(南から)



8. 3区42号土坑全景(西から)



1. 3区42号・43号土坑全景（西から）



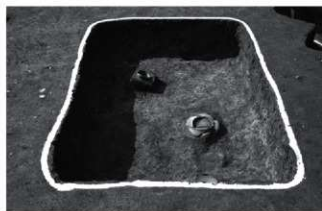
2. 3区44号土坑全景（南から）



3. 3区45号土坑全景（西から）



4. 3区48号土坑全景（東から）



5. 4区5号土坑全景（東から）



6. 4区7号土坑全景（北から）



7. 4区8号土坑全景（南から）



8. 4区9号土坑全景（南から）





1. 4区10号土坑全景(南から)



2. 4区11号土坑全景(南から)



3. 4区13号土坑全景(南から)



4. 4区14号土坑全景(南から)



5. 2区4号ピット全景(南から)



6. 2区21号ピット全景(南から)



7. 2区201号ピット全景(北から)



8. 2区342号・343号ピット全景(南から)



1. 2区552号ピット全景(南から)



2. 2区608号ピット全景(南から)



3. 2区628号・629号ピット全景(西から)



4. 2区760号ピット全景(西から)



5. 2区774号ピット全景(南から)



6. 2区865号ピット全景(南から)



7. 3区26号ピット全景(南から)



8. 3区64号ピット全景(南東から)



1. 3区133号・134号ピット全景（北から）



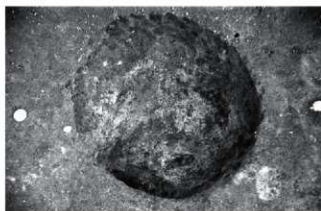
2. 4区18号ピット・19号ピット全景（西から）



3. 4区254号ピット全景（南から）



4. 4区256号ピット全景（南から）



5. 4区260号ピット全景（南から）



6. 5区5号ピット全景（南から）



7. 2区1号井戸全景（南西から）



8. 2区2号井戸全景（北から）



1. 2区3号井戸全景（北から）



2. 3区4号井戸全景（東から）



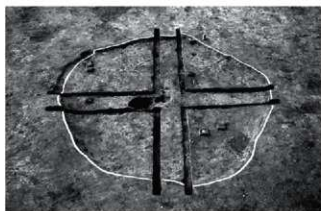
3. 3区5号井戸全景（南から）



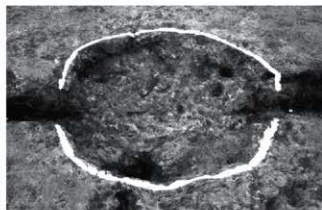
4. 3区6号井戸全景（南から）



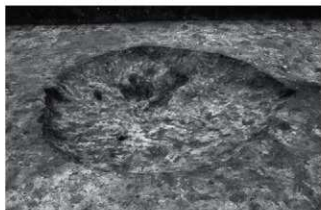
5. 3区1号池全景（南から）



6. 4区54号住居全景（東から）



7. 2区97号土坑全景（南から）



8. 3区26号土坑全景（南から）



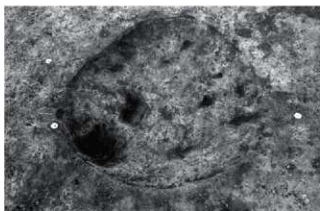
1. 4区19号土坑全景(南西から)



2. 4区20号土坑全景(南から)



3. 4区21号土坑全景(東から)



4. 4区23号土坑全景(南から)



5. 4区24号土坑全景(南から)



6. 4区25号土坑全景(南から)



7. 2区767号ピット全景(南から)

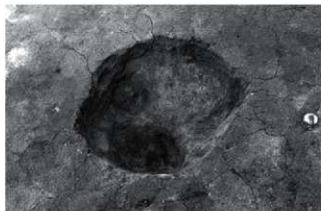


8. 2区854号ピット全景(南から)

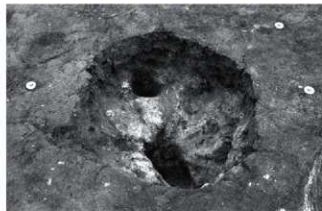




1. 3区35号ピット全景(南から)



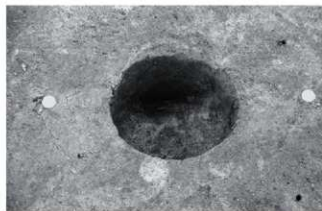
2. 3区49号ピット全景(南から)



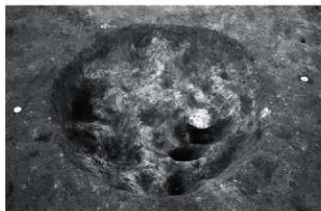
3. 3区172号ピット全景(南から)



4. 4区184号ピット全景(南から)



5. 4区202号ピット全景(南から)



6. 4区314号ピット全景(南から)



7. 4区322号ピット全景(南から)



8. 4区339号ピット全景(南から)



1住1



1住2



1住3



1住4



1住5



1住6



1住7



1住8



1住9



1住10



1住11



1住12



1住13



1住14



1住15



1住16



1住17



1住19



1住20



1住18



1住21



1住22



1住23



1住24



1住25



1住26



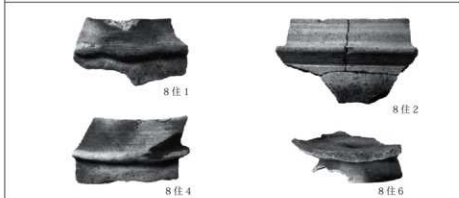
1住27



2住14



2住15



6住1



6住2



6住3



二の宮遺跡

PL.45



8住3



8住5

8住10



8住9



8住7



8住8



9住1



9住2



9住3



9住4



9住5



9住6



9住7



9住8



10住1



10住2



11住1



11住2



11住3



11住4

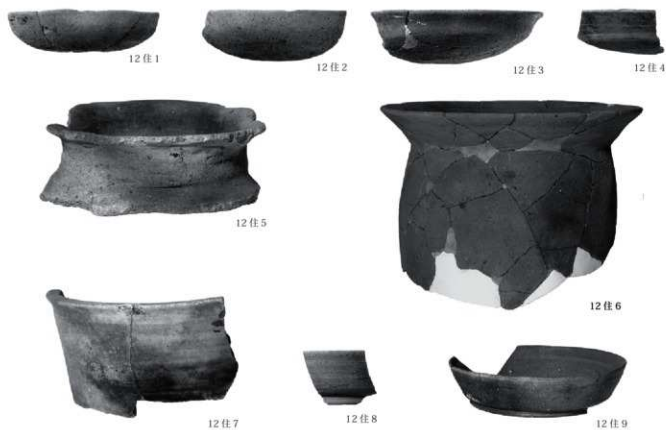


11住5

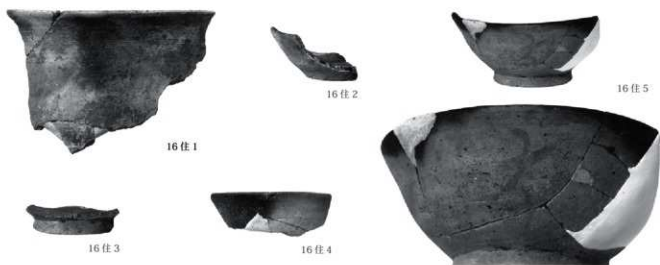


11住6

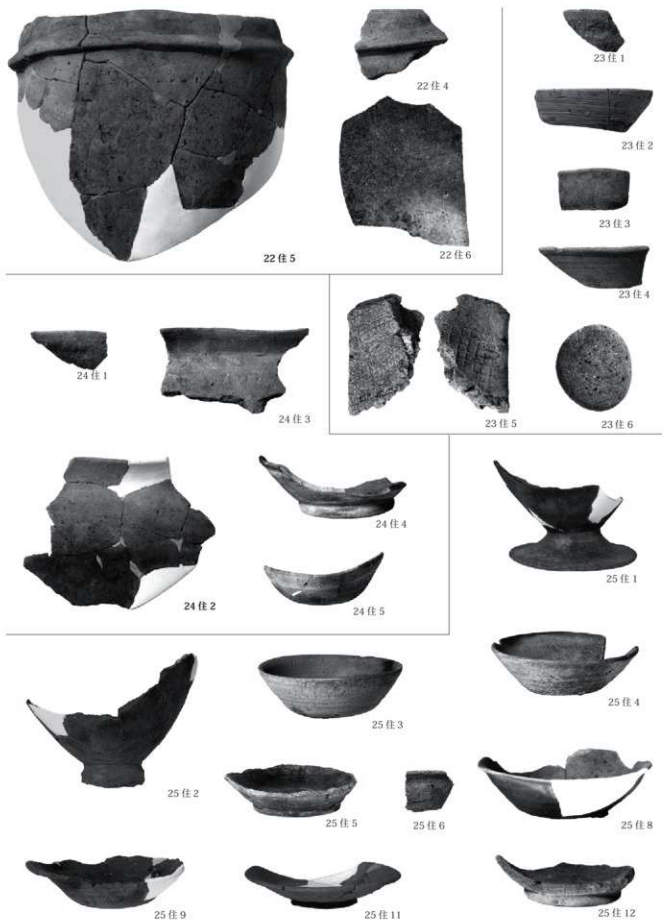
2区8号~11号住居出土遺物



2区11号～14号住居出土遺物







2区22号・23号・24号・3区25号住居出土遺物



25住7



25住10



25住13

25住14



26住1

26住2

26住3

26住4

26住5

26住7

26住9

26住8



26住6



27住1

27住2

27住3



28住1



28住2



28住3



28住4



28住5



28住6



28住7



28住8



28住9



28住10



28住11



28住12



28住13



28住14



28住15



28住16



28住17



28住18



28住19



28住21



28住22



28住23



28住24



28住25



28住26



28 住 20



29 住 1



29 住 2



29 住 3



29 住 4



29 住 5



29 住 6



29 住 7



29 住 8



29 住 9



29 住 10



29 住 11



29 住 12



29 住 13



29 住 14



29 住 15



29 住 16



29 住 17



29 住 18



29 住 19





29住20



30住1



30住2



30住3



30住4



30住5



30住6



30住7



30住8



30住9



30住10



30住11



30住12



30住13



30住14



30住15



30住17



30住16



30住18



30住19





30 住 20



30 住 21



30 住 22



30 住 24



30 住 25



30 住 29



30 住 23



30 住 27



30 住 30



30 住 26



30 住 28



31 住 1



31 住 2



31 住 3



31 住 5



31 住 4



32住1



32住2



32住3



32住4



32住5



32住6



32住7



32住8



32住9



32住11



32住10



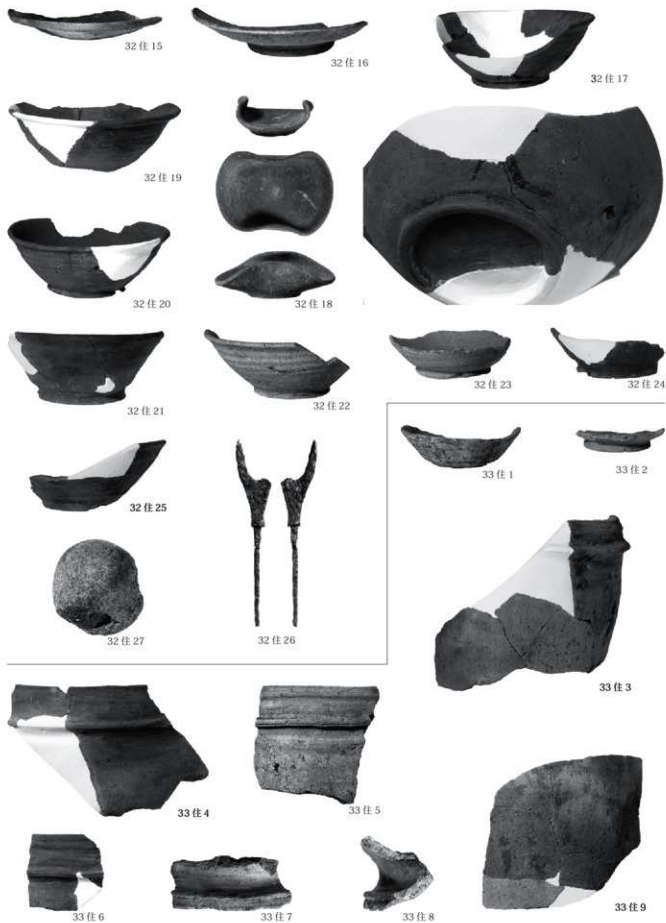
32住12



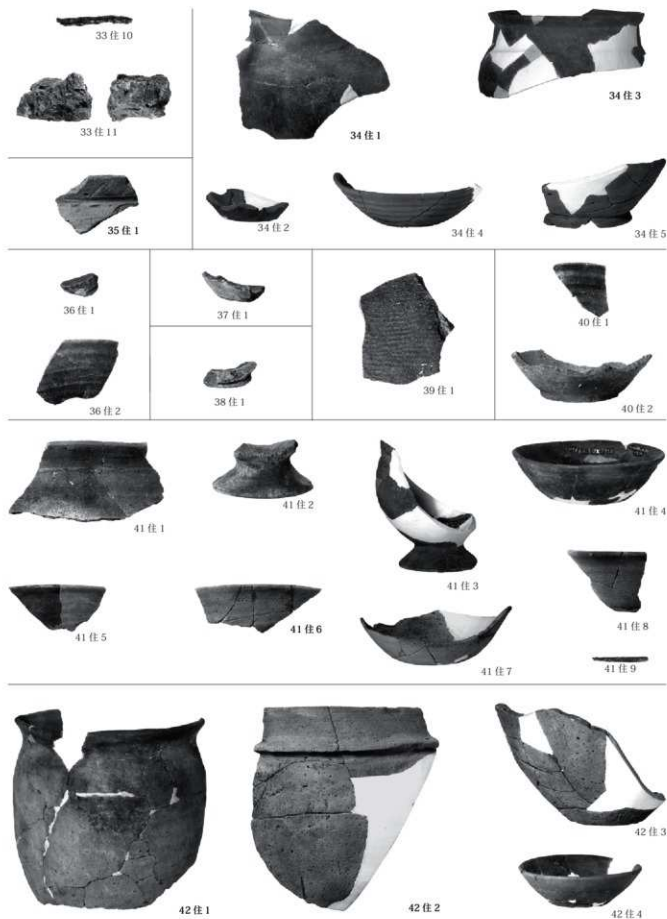
32住13



32住14



3区32号・33号住居出土遺物



3区33号～42号住居出土遺物



3区42号～46号住居出土遺物





50 住 11



50 住 13



50 住 16



50 住 17



50 住 14



50 住 15



50 住 18



51 住 1



51 住 3



51 住 2



51 住 4



51 住 5



51 住 6



51 住 7



52 住 1



8 掘立 1



53 住 1



53 住 2



53 住 3



53 住 4



53 住 5

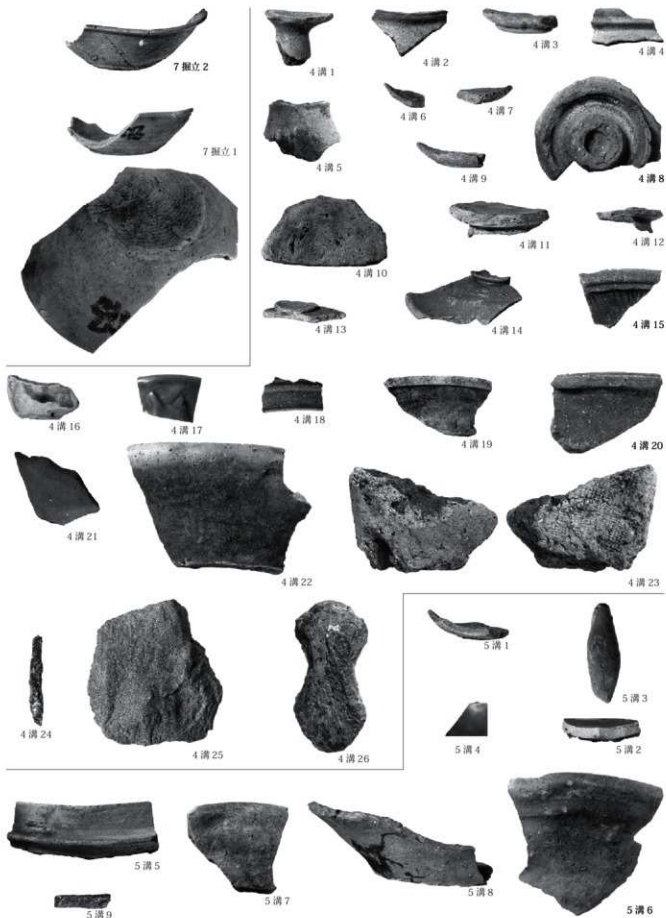


53 住 6



53 住 7





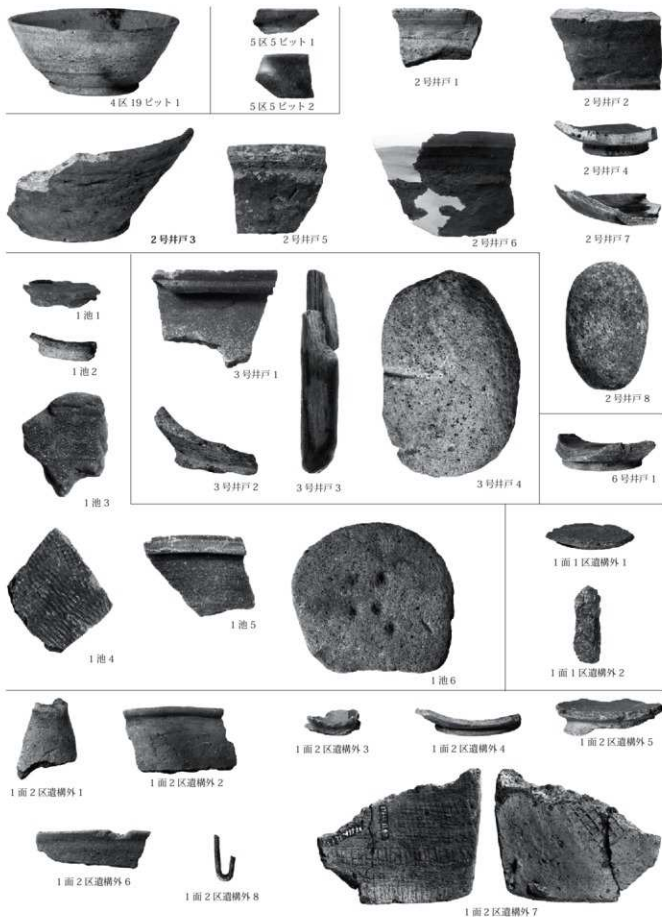
3区7号掘立柱建物,2区4号・5号溝出土遺物



2・3区10号～13号溝,4区21号溝,2区16号・46号・68号・74号・81号・82号・88号土坑,3区4号・16号・22号・31号土坑出土遺物



4区5号・7号土坑, 2区4号・21号・201号・343号・552号・608号・629号・774号・760号・865号ピット, 3区26号・64号・134号ピット出土遺物



4区19号ピット,5区5号ピット,2区2号・3号井戸,3区6号井戸,3区1号池,1面1・2区遺構外出土遺物



1面3区遺構外1



1面3区遺構外2



1面3区遺構外3



1面3区遺構外4



1面3区遺構外5



1面3区遺構外6



1面3区遺構外7



1面3区遺構外10



1面3区遺構外11



1面3区遺構外12



1面3区遺構外9



1面3区遺構外8



1面3区遺構外13



1面3区遺構外14



1面3区遺構外15



1面3区遺構外16



1面4区遺構外1



1面4区遺構外2



1面4区遺構外3



1面4区遺構外4



2面2区767ピット1



2面54住1



2面54住3



2面54住2



2面3区35ピット2



2面3区172ピット3



2面2区遺構外1



2面3区遺構外1



2面4区遺構外1



2面4区遺構外2



2面4区遺構外3

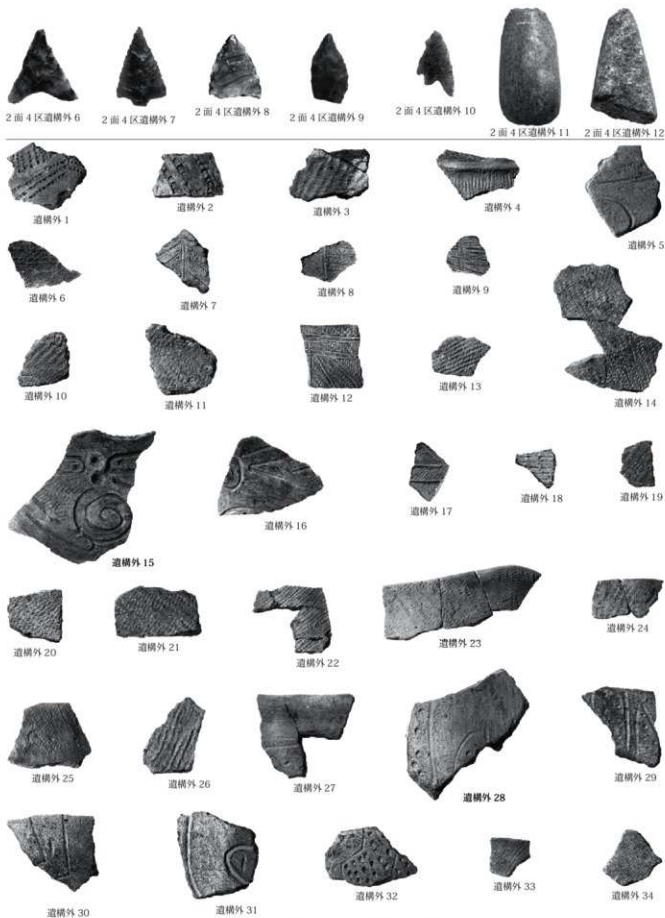


2面4区遺構外4



2面4区遺構外5

1面3・4区遺構外,2面54号住居,2面2区767号ピット,3区35号・172号ピット,2面2区~4区遺構外出土遺物



2面4区道構外出土遺物，縄文時代の遺物

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第459集

## 古氷条里制水田跡・二の宮遺跡

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域埋蔵文化財発掘調査報告書

---

平成21年（2009）2月27日 印刷

平成21年（2009）3月11日 発行

編集・発行／財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地の2

電話 0279-52-2511（代表）

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／上毛新聞社事業局出版部

---



# 二の宮遺跡 1面 全体図

